

# ウルトラマン戦記

ブレード

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

ウルトラマンを中心にした物語を書きます。舞台はコスミックイラの世界。ガンダムSEEDやゾイドやヴァルヴレイヴなど言った作品とのクロスオーバーをします。アイカツから1名登場します。

### 参戦作品

ウルトラマンゼロ  
ウルトラマンジード  
ウルトラマンオーブ  
ウルトラマンダイナ  
ウルトラマンガイア  
ウルトラマンコスモス  
ウルトラマンメビウス  
ウルトラマンギンガS  
ウルトラファイトビクトリー  
ウルトラマンX  
ウルトラセブン  
ウルトラマンレオ  
大怪獣ラッシュ  
ガンダムSEED  
ガンダムOO  
ガオガイガー  
コードギアス R2

ゾイド

ゾイドバトルストーリー

ヴァルヴレイヴ

クロスアンジュ

目次

プロローグ

1

設定1

5

第1話 サイレントラン

11

第2話 消えゆく光

37

第3話 分かれた道

64

第4話 惨劇

80

第5話 暗黒の大決戦

98

第6話 遥かなる凱旋

117

設定2

147

第7話 報われぬ魂

149

第8話 雷と犬

163

設定3

185

第9話 宇宙に降る星

189

第10話 燃える砂塵

217

第11話 紅に染まる海

239

第12話 ペイバック

253

第13話 宿敵の牙

270

第14話 砂塵の果てに

288

第15話 ジード

319

第16話 中国へ

335

第17話 少年兵ゼロ

358

設定4

370

第18話 朱禁城の花嫁

376

第19話 想いの力 前編

397

第20話	想いの力 中編	409
第21話	想いの力 後編	425
第22話	もう1つの世界	454
第23話	さだめの楔	468
第24話	閃光の刻	485
第25話	リトルスター	502
第26話	キングの奇跡、舞い降りる剣	518
第27話	再会	556
設定5		570
第28話	鉄竜騎兵团	576
第29話	立ちはだかる存在	585
第30話	開く扉	609
第31話	終末の光	641
第32話	終わらない明日へ	664
第33話	侵略	689
設定6		696
最終話	選ばれた未来	704

## プロローグ

舞台はコズミックイラ、ナチュラルとコーデイネイター、マナ、宇宙人の存在する世界。この世界種族による激しい対立による戦争が起こり、地球圏は大規模な戦火となった。数年前、中東のクルジスでは、戦場に出る幼い少年らがMS部隊を相手に必死に抵抗し挑んだ。

中東

クルジス

指導者の声「この戦いは、神の御前にささげられる聖戦である。」

少年兵1「うっ。」

少年兵2「くっ。」

少年兵3「このっ!!」

銃でアンフに向かって撃つが、MSを前に全く歯が立たず、アンフの機関銃により次々と少年兵は一掃されていった。

幼い刹那「はあはあはあ。」

必死になって命がけになって戦う一人の少年、刹那。

幼い刹那「この世界に神なんていない!!」

この戦いに既に神はいないと悟り、だがそれでも必死になって銃を撃ちながらアンフに応戦する少年。

幼い刹那「はあはあはあ。」

銃で撃ち続けるのを足を転んで倒れてしまい、アンフ部隊にトドメを刺されようとした。

幼い刹那「うつ、あああつ。」

絶体絶命の窮地に陥った少年は、既に自分一人だけが生き残り、他の少年兵は既に戦死し、自分も死んでしまうのかとそう思った。だがその時、上空から二つの刃型が投げられてアンフ部隊を次々と手足など切断し、戦闘不能にした。

幼い刹那「?!」

突如、アンフ部隊が戦闘不能されたの見た少年は空を見上げて、上空から一人の巨人が現れた。

ウルトラマンゼロ「……………」

その巨人はウルトラマンゼロ。

幼い刹那「ああつ。」

少年は自分の命を救ったウルトラマンゼロを見て、人智を超えた存在を見つけた。そして数年後、CE71年1月、カルパチア山脈では、ガイロス帝国の基地でウルトラマンゼロの介入により戦闘が起きた。

カルパチア山脈

ガイロス帝国基地

ガイロス帝国兵1「この!!」

基地にいるガイロス帝国のMSやゾイドやナイトメアフレームは突如現れたウルトラマンゼロにより破壊されており、ガイロス帝国兵の操縦するイナクトは、ウルトラマンゼロを相手に挑み、リニアライフルで射撃したが、ウルトラマンゼロには人類の兵器は全く効いていなかった。

ウルトラマンゼロ「こんな程度か。」

ガイロス帝国兵1「あああっ!!」

ウルトラマンゼロ「……。」

ウルトラマンゼロは無言で右腕を素早く出してイナクトを振り払った。

ガイロス帝国兵1「うわあああっ!!」

ウルトラマンゼロに振り払われて損傷したイナクト。だがコクピットの中にいるガイロス帝国兵は無傷し、命は無事であった。

ウルトラマンゼロ「悪いが、お前達の命は奪わない。」

またウルトラマンゼロによって撃退された機体はパイロットの命は、無事でウルトラマンゼロは相手の命を奪うことはしなかった。

コーラサワー「おい、そこのお前。」

ウルトラマンゼロに立ち塞がり現れたのはガイロス帝国のエースパイロットのコーラサワーの操縦するイナクトだった。

ウルトラマンゼロ「?」

コーラサワー「どこのどいつかしらねえが人様の領土に踏み込んだただで済む訳ねえよな?!」

コーラサワーの操縦するイナクトがソニックブレードを出してウルトラマンゼロに襲いかかった。

コーラサワー「模擬戦でも負け知らずのスペシャル様なんだよ!!知らねえとは言わせねえぞ!!」



ウルトラマンゼロ「そうやって無意味に突っ込むバカは身の程を弁えろってんだよ!!」

襲いかかって来たコーラサワールのイナクトにウルトラマンゼロは頭部にある2本ねゼロスラッガーを出して両手に構えながら武器のように振りながらコーラサワールのイナクトの手足を切断した。

コーラサワー「てめえ、わかってねえだろ!!俺はスペシャルで2000回で模擬戦なんだよお!!」

ウルトラマンゼロにあつという間に倒されてしまったコーラサワールのイナクト。ウルトラマンゼロは基地の地面に向かってエメリウムスラッシュを発射して爆発させた。

ウルトラマンゼロ「……………」

ウルトラマンゼロはそのまま空を飛んで立ち去って、遠く離れた人影のない場所に辿り着いて人間の姿へと変えた。

刹那「……………」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「俺達はこの世界に潜む奴を見つけ出すために戦う。」

???

エンブリヲ「ウルトラマン、君達の存在は厄介なのだよ。」

1話へ

## 設定1

光の勢力

ウルトラ戦士

ウルトラマンゼロ、ウルトラマンオーブオリジン、ウルトラマンギンガ、ウルトラマンビクトリー、ウルトラマンエックス、ウルトラの父、ウルトラセブン、ウルトラマンレオ、ウルトラマンダイナ、ウルトラマンガイアV2、ウルトラマンアグルV2、ウルトラマンコスモス、ウルトラマンメビウス、ウルトラマンひかり、レイモン、ゴモラ、リトラ、アギラ、ミクラス、ウインダム

母艦

スペースペンドラゴン

ラッシュハンターズ

ハンター

バルタンバトラー・バレル、ガッツガンナー・ガラム、マグママスター・マグナ、メフィラス星人ジェント

その他のハンター

ハンター

ノダチザムシャー、ババルウ星人フガク、ナツクル星人ブランケ、ガッツ星人シーズ、バルキー星人ラーズ、グローザ星人グランザー、デスレ星雲人デスレード、グローザ星人グローラン、グローザ星人グロール、デスレ星雲人デフレイム

G G G

機体

ガオガイガー、炎竜、氷竜、ボルフオッグ、ガンドーベル、ガンイーグル、ゴルディマーズ、マイクサウンダー13世テユナメス、キュリオス、ヴァーチェ、ナドレ、ブレードライガー、アーバイン専用コマンドウルフ

母艦

イザナギ、カナヤゴ、スサノオ、アマテラス

ヘリック共和国

機体

ストライク、フリーダム、メビウスゼロ、メビウス、スカイグラスパー、コマンドウルフ、ゴルドス、ゴジュラス、ゴジュラスジオーガ、プテラス、ゴドス、ガイサック、バリゲーター、ストームソーダー、ガンスナイパー、カノントータス、スナイプマスター、スピノサバー、ガンブラスター、カノンフォート、シールドライガー、サラマンダー、デイバイソン、ライトニングサイクス、ハンマーヘッド、ライガーゼロ、シャドーフォックス、コマンドウルフAC、風龍、雷龍、ヴァルヴレイヴ1、ヴァルヴレイヴ3、ヴァルヴレイヴ4、ヴァルヴレイヴ5、ヴァルヴレイヴ6、ヴィルキス

母艦

アークエンジェル、ウルトラザウルス、タートルシップ、ネオタートルシップ、ホバーカーゴ

地球連合軍

ガイロス帝国

機体

イナクト、アリー専用イナクト、ヘリオン、モルガ、レッドホーン、ダークホーン、ヘルデイガンナー、ヘルデイガンナーDT、レドラー、ブラックレドラー、アイアンコングSS、セイバータイガーSS、セイバータイガー、ヘルキャット、サイカーチス、ジェノザウラー、レブラプター、ブラキオス、ダークネシオス、サザラランド、グロースター、ポートマンII、ランスロット、ランスロットアルビオン、ヴェインセント、ヴェインセント・ウオード、ガレス、ギヤラハッド、トリスタン、モルドレッド、パーシヴァル、ジークフリート、パンツァーフンメル

母艦

ホエールシップ、G1ベース、アヴァロン、ログレス級、カールレオン級

A R U S

機体

フラッグ、グラハム専用フラッグカスタム、オーバーフラッグ、リアルド、リアルドホバータンク、シエルフラッグ

母艦

アガムムノン級、ドレイク級、ネルソン級、バージニア級、ドミニオン

人類革新連盟

機体

ティエレン地上型、ティエレン宇宙型、ティエレンタオツト、ティエレン高機動B型、神虎、ガンルウ

母艦

ラオホウ、竜胆、大竜胆

ガイロス帝国、A R U S、人類革新連盟共同使用

機体、怪獣

ストライクダガー、105ダガー、カラミティ、フォビドウン、レイダー、フォビドウンブルー、デイトプフォビドウン、レイダー制式仕様、ジnkクス、ジエノザウラー、レブラプター、アイアンコングP K、ブラックレドラー、ダークロプス、レギオノイドα、レギオノイドβ、メカゴモラ、ガルベロス、バグバズンブルード、バグバズングローラー、ペドレオン

黒の騎士団

機体

蜃気楼、紅蓮可翔式、斬月、暁、暁直参仕様

母艦

斑鳩

スローネ

機体

ガンダムスローネアイン、ガンダムスローネツヴァイ、ガンダムスローネドライ

宇宙勢力

ザフト軍

機体

イージス、デュエル、バスター、ブリッツ、ジャステイス、プロヴィデンス、ジン、ジンオーカー、シグー、シグーディープアームズ、ディン、グリーン、ゾノ、ゲイツ、バクウ、ラゴウ、ザウード、バツフェ、イデアール、イデアールブルーメ、キルシユバオム、ダーインスレイブ、レイザー、グレイブ、グレイブヒルダカスタム、グレイブロザリーカスタム、アーキバス、アーキバスサリアカスタム、ハウザー、ハウザーエルシヤカスタム、クリスカスタム、クレオパトラ、レイジア、テオドローラ、ヴィクトリア、エイレーネ

母艦

エターナル、ナスカ級、ローラシア級、バールキート級、レセツプス級、ピートリー級、ボズゴロフ級、アウローラ

オーブ首長国連合

機体

M1アストレイ、ストライクルージュ

母艦

クサナギ

アウラの民

機体、ドラゴン

焰龍號、蒼龍號、碧龍號、フリゲート級、ブリツグ級、ガレオン級、スクーナー級

宇宙人同盟

宇宙人

テンペラー星人、ガッツ星人、スーパーヒツポリト星人、ナツクル

星人、チブル星人、ボーグ星人、ファイヤー星人、ザラフ星人、バド星人、フツク星人、テロリスト星人、ヒツポルト星人ヒルガ、ババルウ星人ハマー、ヒツポルト星人ケイプ、ナツクル星人ジェイラ、デスレ星雲人ダイロ、デスレ星雲人デスラル、バルキー星人グーガー

#### 怪獣

バードン、ベロクロン、ドラゴリー、サボテンダー、ファイヤーモンス、アイスロン、バキシマム、ゾアムルチ、ベムスター、マグマレットキング、プラズマルチタイラント、アクアペスター、プラズマメタルキングジョー、キングゲスラ、アントラー、恐竜戦車、ガンダー、レイキュバス、インペライザー、キングジョー、シルバーブルーム、サラマンドラ、ギマイラ、キングジョーブラック

#### ゾンダー、原種

#### 機体

ZX106、ZX107、ZX116、ZX119、ZX126、E1102、E1105、E1115、E1120

#### 101人評議会

#### 機体、宇宙人

ヒステリカ、レイブラッド星人、ウルトラマンベリアル、ジャタール、グロツケン、デスローグ、スライ、ヴィラニアス、マザラス星人、スペクター、ジェノザウラー、アイアンキングPK、キルシュバオム、ジンクス、ダークロプス、レギオノイド $\alpha$ 、レギオノイド $\beta$

#### 母艦

#### ファントム

#### その他

#### ジャグラー魔人態

#### 用語

#### ギアス

CCまたVVと契約する事で能力を得る。ギアスは普通の人間には有効。本作では逆にGストーンを持つ者、ウルトラマン、不老不死などと言った特殊な者には一切効かない。

ゾイド

ヘリック共和国、ガイロス帝国が使う機械生命体。動物、昆虫、恐竜などタイプが存在する。本作で宇宙での活動が出来るのはブレイドライガーAB、ジェノザウラー、ストームソーダー、ガンズナイパー、プテラス、ゴジュラス・ジ・オーガ、アイアンキングPK、ブラックレドラーのみ。またブースター、マグネツサーシステムなどあれば宇宙での活動は可能。

ヘリック共和国

日本、東アジアなどの国家で構成されており、政治体制は民主共和制。差別を禁止し、どの種族との共存を大事にし、生活面は安定している。軍事力は旧式兵器が多く、旧式兵器の性能面を強化で補い、特機の開発に力を入れている。また地球連合軍やザフトなどから侵略を受けている。

地球連合軍

ガイロス帝国、ARUS、人類革新連盟の三つの国家で構成されており、反コーデイネイター、反宇宙人、反マナを掲げており、体制はガイロス帝国は貴族制、ARUSは軍事、資本制、人類革新連盟は官僚制による全体主義で成り立っている。所属していない国などを侵略して植民地になっている。

プラント

コーデイネイター、マナで構成された国家。政権は反ナチユラル一派によるクーデターで成り立ち、反ナチユラルを掲げており、ナチユラルに対する差別意識を持ち、またマナを持たないノーマを差別して無理やり軍務に使わせ、また穏健派政権だった者達の子を軍務に使わせている。宇宙人同盟とは軍事同盟を結んでいる。

## 第1話 サイレントラン

CE71年、ナチュラルとコーディネイター、マナ、宇宙人の激しい戦いは地球圏全体を戦火に増し、CE全体を揺るがした。ここオーブ首長国連邦のコロニー、ヘリオポリスでヘリック共和国が極秘兵器開発の報を知ったザフト軍、宇宙人同盟が襲撃をし、ヘリオポリス内にあつたヘリック共和国とGGGが開発した機体、デュエル、バスター、ブリッツ、イーゼスがザフト軍、宇宙人同盟に奪取され、唯一奪われず済んだのはストライクとヴァルヴレイヴ1。ザフト軍、宇宙人同盟の襲撃に立ち向かったパイロットはヘリック共和国の軍人でなくヘリオポリスの学生のキラとハルトで、キラはストライク、ハルトはヴァルヴレイヴ1にそれぞれ操縦して、ザフト軍、宇宙人同盟に勝利をしたが、その被害によりヘリオポリスは崩壊した。また軍の最重要機密を勝手に触れた事で、ヘリック共和国の軍人らにキラとハルト、彼らの通う学校の生徒らを拘束され、現在はアークエンジェルは避難民を回収してオービットへ向かった。

宇宙

アークエンジェル

個室

キラ「僕達は軍人ではありません。」

ハーマン「君は二度もその機体に乗る、ザフト軍と宇宙人同盟と戦った。」

ハルト「あの時は仕方なくみんなを守るために戦ったんです。」

ムウ「だが、君達二人はもうその機体に操縦した事は既に君達二人のものになった。」

キラ「でもしかし、まだそうと決まったわけでは。」

サキ「そうよ。ハルトとキラはまだ決まったわけじゃないわ。」

キユーマ「ハルトとキラは仕方なく乗ったんだ。」

アイナ「そうよ。あの時、もし乗っていなかったら私達は……。」  
ハーマン「悪いが、既にその機体を使いこなした事で決まったんだ。」



特にヴァルヴレイヴ1号機に乗った君は既に人じゃなくなった。」

ハルト「えっ?!」

サキ「じゃあハルトはあの画面を押して既に。」

ハーマン「そういう事だ。」

ハルト「あつ、そんな。」

サキ「ハルト。」

キラとハルトはザフト軍、宇宙人同盟の襲撃でみんなを守るためにヘリック共和国の開発したストライク、ヴァルヴレイヴ1にそれぞれ乗り込んで撃退したが、それぞれの機体を使いこなして圧倒した事で既に機体は自分達のものとなり、キラはコーディネーターである事で、普通の人間とは桁外れの能力を持ち、MSの操縦を訓練せず一瞬で使いこなし、またヴァルヴレイヴ1に操縦したハルトは起動する際にディスプレイにガイドプログラムのピノが『アナタハニンゲンヤメマスカ』と言う表示が出てみんなを守るためにYESを押して何かを注入されて人でなくなってしまう事に啞然とした。

ハルト「うっ、あつ、身体が!!」

突如、ハルトの身体に異変が起きて苦しみ出した。

サキ「ハルト。」

キラ「ハルト?」

キューマ「ハルト?」

アイナ「ハルトさん?」

ムウ「近づくな!!」

一同「!!」

身体に異変が起きたハルトの心配して近づこうとしたら突如ハルトがいきなり襲いかかり出した。

ハルト「うおおおー!!」

サキ「ハルト?!」

ハーマン「彼はヴァルヴレイヴの起動の際に何かを注入されてこうなった!!迂闊に近づくな!!」

ハルト「うおおおー!!」

凶暴化したハルトがキラ達に襲いかかり始めるが、そこで一人の人物が前に立って現れた。

???「やれやれ、厄介事が増えたな。」

凶暴化したハルトを前に立って現れた人物はジャケットを着たぶつきらぼうな男性で、襲いかかってきたハルトに対し、そのまま間に駆け込んで腹を殴った。

ハルト「あっ!!」

一同「ハルト!!」

???「大丈夫だ、彼は気を失って元に戻っただけだ。」

キラ「あなたは?」

ガイ「俺の名はクレナイガイ。GGGの隊員だ。」

ジャケットを着たぶつきらぼうな男性の名前はクレナイガイ。彼はGGGの隊員として活動している。

ガイ「いきなり驚かせてすまなかったな。」

アイナ「ハルトさんが無事でよかったですー。」

キューマ「ホッとした。」

キラ「すごい・・・。」

ガイ「今はこのままにした方がいい。彼の事が俺が見る。もしかかあつたら。」

ハーマン「わかった、本来は軍の我々がするはずだったが、君に任

せる。」

ハルトがまた凶暴化する事でガイがハルトの事をしつかり引き受けて、ハーマンとムウは部屋を出た。

ハルト「うつ。」

ガイ「目を覚ましたか。」

サキ「ハルト。」

キラ「本当にハルトだよね？」

ハルト「僕はさつき？」

ガイ「おまえはあの機体を起動させた事でマギウスになった。」

ハルト「マギウス？」

ガイ「起動する際に注入されてなったんだ。おまえがさつき凶暴化して襲いかかろうとした原因もマギウスになった事の副作用だ。」

ハルト「じゃあ僕は人じゃなくなった事なんですか？」

ガイ「そうだ。マギウスになったおまえは身体再生能力、相手の身体に乗り移る事が出来るジャックを得た。もう普通ではなくなったんだ。」

ハルト「そんな……。」

ガイ「おまえ自身、これからどうしていくかだ。マギウスとして守りたいものを戦い抜くか。」

ハルト「……。」

キラ「ハルト。」

ガイ「おまえも軍の機体を勝手に乗ってザフト軍、宇宙人同盟と戦った以上、後戻りは出来ない。おまえ達自身やらなきやならない。」

キラ、ハルト「……。」

ガイの口から後戻りは出来ない以上自分達自身出来ないこれからどうしていくか、どうやっていくか。彼らの会話を偶然廊下で聞いた人物がいた。

エルエルフ「……。」

彼の名はエルエルフ。ザフト軍のエージエントで、彼は同じエージエントらと共にヘリオポリスに潜入してヘリック共和国、GGGの新型機を奪取するために本隊に知らせ、一気に襲撃を仕掛けてデュエル、バスター、ブリッツ、イージスを強奪する事に成功したが、その際に負傷してしまい、1回目の襲撃を終えた後彼はヘリック共和国の軍人らに拘束されたが、悪運により偶然パイプ椅子のネジが外れて脱出をし、アークエンジェルに潜伏した。

ブリッツ

マリユー「進路に異常は？」

ノイマン「今のところ問題はありません。」

マリユー「でもガンダムとヴァルヴレイヴが学生が乗ってザフト軍を撃退したなんて驚いちやうわ。」

ナタル「おかげで守り切れたが、残りのガンダム4機はザフト軍の手に渡り、そのガンダムとヴァルヴレイヴがその学生が乗りこなしてしまったとは。」

マリユー「普通の学生がその機体に乗って二度もザフト軍を撃退した。普通では考えられないわ。一人はコーディネイター。」

ナタル「ラミアス艦長。」

マリユー「彼は同じコーディネイター同士どう戦っていくかしら？もう一人は霊長兵器ヴァルヴレイヴ乗った事により人じやなくなつた。もう一人もこれからどうしていくか。」

食堂

カズイ「俺達はこれからどうしていくんだ？」

ライゾウ「俺に知るか、なんで俺らが捕まらなきゃならねえんだよ！！」

タカヒ「当分は一緒みたいのようですわ。」

トール「マジなのかよ？」

カズイ「軍に一生捕まったままは耐えれなくなるよ。」

シヨール「まあ落ち着いてみんな。何とかなると思うよ。今は辛抱していくしかないよ。」

ライゾウ「冗談じゃねえぞ!!軍に捕まったまま過ごすなんて、俺は納得しねえぞ!!それに俺はザフトの野郎と宇宙人同盟の野郎にダチの仇を取らなきゃならねえんだ!!」

シヨール「山田君。」

ライゾウ「こんなところでいつまでも過ごしているわけねえだろ!!」

ザフト軍、宇宙人同盟の襲撃により友を亡くし、じつとしたまま過ごせずに友の仇を取ろうと必死になるライゾウ。

サトミ「戦闘中で偶然捕まったザフトの人間がいる。」

アンジュ「・・・。」

シヨール「この子は？」

サトミ「どこか見覚えがある顔だ。この少女は確か・・・。」

アンジュ「・・・。」

テイエリア「アンジュリーゼII斑鳩IIミスルギ。」

一同「ええええー!!」

サトミ「やっぱりあのプラントのミスルギのアンジュリーゼII斑鳩IIミスルギだったんだ。」

彼女の名はアンジュリーゼII斑鳩IIミスルギ。プラントのミスルギ市の長の娘で、彼女は不自由なことがなく振る舞い、家族共に幸せな日々を過ごしたが、洗礼の儀の際に突如兄のジュリオとザフト軍のクルーゼとカインらによって自身がノーマだと暴かれてしまい、よって彼女はザフト軍の一兵として墮ち、ヘリオポリス襲撃作戦でグレイブに乗り込んだが、戦いであまりに怖がり過ぎて喪失してヘリック共和国の攻撃で被弾し、捕虜になり、現在はアークエンジェルに同行し

ている。

アンジュ「私をどうするつもりですか。」

ライゾウ「なんならこいつを人質に出そうぜ。そうすればザフトの奴らも大人しくなるはずだ。」

トール「こいつを人質にすればきつと黙らなくなるはずだ。」

イオリ「そうよ、ザフトの人間を人質にすればこっちも有利になるはずよ。」

ティエリア「悪いが、人質にしても彼女は殺される。」

ライゾウ「なんで言い切れるんだ？」

ティエリア「彼女は既に我々の捕虜となって、プラントはノーマを嫌っている。ノーマを嫌っているプラントは彼女を用済みとしている。」

アンジュ「私は用済み……。」

ティエリア「君が洗礼の儀の日にノーマだった事がわかって、君はプラントの敵の対象だ。」

アンジュ「そんな……。」

自分が既に故郷から用済みとされて、自分がノーマだった事により、故郷の敵の対象とされて愕然とするアンジュ。

ティエリア「ん？」

そんな中、艦内に警報が鳴った。

ティエリア「ザフトか。」

ライゾウ「何だと?！」

サトミ「ここがいることに気付いたんだ。」

ミリアリア「これからどうなるの?」

ティエリア「君達はここにいるんだ。」

ライゾウ「俺を連れてけ!!俺はどうしても大事なダチの仇を取り

てえんだ!!」

ティエリア「ダメだ、一般人の君達を巻き添えさせるわけにはいかない。ちゃんとここにいるんだ。」

ライゾウ「くっ。」

ザフト軍と宇宙人同盟がアークエンジェルを追って残りの機体を奪取するために接近して来たことで出撃準備にかかりティエリア。

格納庫

キラ、ハルト「……………」

ザフト軍と宇宙人同盟が近づいている事でそれぞれの機体の前に立って再び戦いに出る事でキラとハルトは。

キラ「また戦うんだね。」

ハルト「僕達はこの機体に乗ってしまった以上戦うしかないんだ。」

キラ「……………」

ハルト「どうしたの?」

キラ「僕はアスランと戦うかもしれないんだ。」

キラはかつての幼馴染のアスランと再会した事で、アスランがザフト軍にいた事に驚き、彼とまた戦場で会ったら戦う事で悩んでいた。

ハルト「さっきのあのザフトの兵士はキラの友達何だ。」

キラ「……………」

サキ「あたしも戦うわ。」

ハルト「流木野さん。」

サキ「あたしもみんなを守るためにはあたしも出るわ。」

キラ「出るって。」

サキ「あたしもあの機体に乗るわ。」

サキも自らみんなを守るため戦いに出る事を決意し、アークエンジェルの格納庫にあるヴァルヴレイヴ1とは異なる緑の機体があったのを見つけた。機体はヴァルヴレイヴ4。

ハルト「あれは、まさか？」

サキ「ハルトが乗ったんならあたしだって同じようになるわ。」

ハルト「ちよつと流木野さん!!」

サキ「じゃあ乗るわよ。」

ハルトの制止を聞かずにそのままヴァルヴレイヴ4に乗り込んだ。

サキ「さて、あたしも。」

ヴァルヴレイヴ1と同様にディスプレイに『アナタハニンゲンヤマスカ』と言う表示が出てそのままYESを押してハルトと同様に何かを注入されてマギウスとなった。

ハルト「流木野さん!!」

サキ「じゃあ早速行くよ!!」

早速ハルトと同様にマギウスになったサキはヴァルヴレイヴ4を操縦してアークエンジェルから発進した。

キラ「僕らも出撃するよ。」

ハルト「うん。」

早速キラとハルトもそれぞれの機体に乗り込み、キラのストライクには換装機能があり、ザフト軍、宇宙人同盟の二度目のヘリオポリス襲撃の際には、白兵戦用のソードストライカー、砲撃戦用のランチャーストライカーにそれぞれ装着して出撃し、今回宇宙での活動は機動用のエールストライカーを装着し、出撃し、ハルトもヴァルヴレ



イヴーで早速出撃した。

トノムラ「敵はザフト軍、宇宙人同盟。その中にヘリオポリスで奪われたガンダム4機もいます。」

敵はザフト軍、宇宙人同盟。アークエンジェルを追ってやって来て、クルーゼ隊、カイン隊の率いる部隊が迫り、ヘリオポリスで奪われたガンダム4機もその中に確認された。

ムウ「奪ったガンダム4機を全て投入して来たのか。」

マリユール「相手の数も多いわ。気を付けて。」

ノイマン「了解。」

マリユール「フラガ大尉。あなただけに任務を遂行して欲しいことがあるの。」

ムウ「？」

アークエンジェルを追ってやって来たザフト軍のクルーゼ隊、カイン隊、宇宙人同盟のボーグ星人と配下怪獣のベムスターが現れた。

マリユール「怪獣や星人もいるわ。きついわ。」

ナタル「オービットベースに援軍の要請は出しました。それまでに持ちこたえていくしかありません。」

マリユール「戦闘開始よ。」

ザフト軍、宇宙人同盟との戦闘を開始する。アークエンジェル。またザフト軍、宇宙人同盟は、ザフト軍はヘリオポリスで奪ったデュエル、バスター、ブリッツ、イージス、3機のイデアール、ジン、バツフェ、グレイブ、グレイブヒルダカスタム、グレイブロザリーカスタム、アーキバスサリアカスタム、ハウザー、ハウザーエルシャカスタム、クリスカスタム、艦はヴェリウス、ランメルスベルグ、ガモフ、ローラシア級3隻。4機のガンダムに乗っているのはイザークはデュエ

ル、ディアツカはバスター、ニコルはブリッツ、アスランはイージス。宇宙人同盟からはボーグ星人、ベムスター。

クルーゼ「さてお手並み拝見といこうではないか。」

カイン「彼らの戦いを見ようとするか。」

部下達を出撃させて、それぞれの戦いを拝見するクルーゼとカイン。

ディアツカ「イザーク、アードライ、ハーノイン、イクス、クーフィア、ヒルダ、ロザリー、クリス、一気に決めるぞ!!」

イザーク「ヴェサリウスからアスラン、サリア達が出てる。後れを取るな!!」

ヒルダ「ザラのお坊っちゃんか。」

ロザリー「クリス、あたしらの力見せてやろうぜ。」

クリス「うん。」

ハーノイン「一気に仕留めてやるぜ。」

アードライ「敵はいくら少なくとも油断は禁物だ。」

イクスアイン「その中に例の巨人がいるかもしれない。」

クーフィア「んなの楽勝だよ。」

イザーク「行くぞ!!」

攻撃の開始をするイザーク達。

アスラン「……。」

エルシャ「アスラン?」

ニコル「どうしたんですか?」

アスラン「いやなんでもない。」

サリア「私達も行くわよ。」

エルシャ「おー。」

キラのかつての幼馴染のアスランは、ヘリオポリス襲撃の際にキラと偶然再会した事で、また彼と戦う事で苦悩した。早速アークエンジェル側から攻撃が行われ、ティエリアの乗るヴァーチェのGNバズーカからビームが放たれた。

一同「!!」

すぐにヴァーチェの放ったビームを回避したアスラン達。だが、回避しきれなかった量産機のジン、バッフエ、グレイブはそのままビームに飲み込まれて消滅した。

ティエリア「お前達の好きにはさせない。」

クーフイア「へえー、やるじゃん。なら僕からもやるよお!!」

クーフイアの乗るイデアールが巨大なクローアームでティエリアのヴァーチェに襲いかかってきた。

ティエリア「!!」

重装甲を誇るティエリアのヴァーチェはクーフイアのイデアールのクローアームをパイロットによる高い反射神経で回避し、その直後によるGNキャノンで砲撃した。

クーフイア「うわあああつ!!」

ティエリアの攻撃により撃退されたクーフイア。

アードライ「クーフイア!!」

クーフイア「大丈夫だよ。それにこいつ強そうじゃん。」

ヒルダ「このデカ物がどこまで保つかあたらしらで潰してやろうじゃないか!!」

ロザリー「こいつの首を討ち取ってやる!!」

クリス「仕留めてみせる。」

アードライ「ハーノイン、イクス、イザーク、ディアツカ、先に行け。ここは私たちに任せろ。」

ディアツカ「任せたぞ。」

イザーク「俺とディアツカとハーノインとイクスアインはアスラン達のところへ向かう。」

ハーノイン「そっちは任せたぞ。」

ヴァーチエの相手をアードライ、クーファイア、ヒルダ、ロザリー、クリスが引き受けて、イザーク、ディアツカ、ハーノイン、イクスアインらはアスラン達のところへと合流しに向かった。

ティエリア「行かせるか!!」

狙いがアークエンジェルだと知り、すぐにイザークらを追おうとするティエリア。

ロザリー「お前の相手はあたしらだ!!」

グレイブロザリーカスタムがヴァーチエに背部2連装砲で砲撃した。

ティエリア「うっ。」

グレイブロザリーカスタムの砲撃を喰らい、その直後にヒルダのグレイブカスタムの可変斬突槍。パトロクロスがヴァーチエの急所に狙いを向けて刺突しかかった。

ティエリア「くっ!!」

グレイブヒルダカスタムのパトロクロスの刺突に対し、ティエリア

はGNビームサーベルを出して切り払った。

ティエリア「はああああー!!」

GNビームサーベルを振りながらヒルダのグレイブカスタムに斬撃した。

ヒルダ「ああああー!!」

ティエリアのヴァーチェの斬撃を受けて損傷したグレイブヒルダカスタム。

ロザリー「ヒルダ!!」

アードライ「大丈夫か?!

ヒルダ「こいつ、強い。」

クリス「かなり手強い相手みたいね。」

クーフイア「そんなに強いならやっつてやろうじゃないか!!」

クーフイアが勢いでティエリアのヴァーチェに強襲してきた。一方、アークエンジェルから出撃したハルトとキラは、サキがヴァルヴレイヴ4に乗って先に出て探していた。

ハルト「流木野さん。」

キラ「ハルト、あれを。」

二人はヴァルヴレイヴ4に操縦するサキがザフト軍のジン、バツフェ、グレイブの部隊を相手にした。

サキ「さあ、かかってくるなさい。」

彼女の操縦するヴァルヴレイヴ4には腰背部に装備された多脚状

特能装備マルチレッグ・スパインをブースターとして使い、高い機動力で駆け回り、両肩に装備されているスピンドル・ナックルを両腕に装備して、ヨーヨーのように回しながら、周りにいるジンやバッフェを次々と撃退し、次はナツクルにしてグレイブにお見舞いした。

サキ「わあお、こんなにすごいなんて驚いちゃうわ。」

ヴァルヴレイヴ4の性能に驚愕したサキは、機体を操縦しながら軽々と使いこなし、敵を圧倒した。

サリア「あれはヴァルヴレイヴ？」

エルシャ「もう一機いたのね。」

ヴァルヴレイヴがもう一機いた事でヘリオポリス襲撃にヴァルヴレイヴ1だけいた事に対し、こちらは今現れた事に驚くサリアとエルシャ。

カイン「ヴァルヴレイヴが二人？」

クリムヒルト「？」

カインの口からヴァルヴレイヴが機数でなく人数で言った事に驚く副官のクリムヒルト。

ボーク星人「覚悟するがいい。」

巨体を姿して現れたボーク星人と怪獣ベムスターがストライクとヴァルヴレイヴ1とヴァルヴレイヴ4に迫った。

キラ「怪獣と星人。」

MSでは怪獣と星人を相手に勝つ事は不可能。このままではやら

れてしまう。

ガイ「……………」

アークエンジェルにいたガイはリングのようなものを出して前にかざし、周囲が宇宙空間のように変化して衣装も黒いスーツに変化し、一枚のカードをリングにリードした。

オーブリング「覚醒せよ、オーブオリジン。」

ガイ「オーブカリバー!!」

カードをリードしたら剣のようなものが現れてガイは手にし、剣にあるリングを回しながらトリガーを引いて、メロディを鳴らして巨人へと変身して、キラ達の前に現れた。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン(ガイ)「銀河の光が我を呼ぶ!!」

キラ、ハルト「あつ、あれは?!」

マリユー「ウルトラマンオーブ。」

ガイが変身した巨人はウルトラマンオーブ オーブオリジン。オーブの基本形態で本来の姿でもあり、手に握る剣はオーブカリバー、中央リングあるカリバーホイールを回転して、オーブカリバーに宿る火、水、風、土4つの属性の技を使用することが出来る。

エルエルフ「あの男性がウルトラマンか。」

また偶然ガイがウルトラマンオーブに変身したのを目の当たりにしたエルエルフは彼がウルトラマンオーブだと知った。

ボグ星人「来たな、ウルトラマンオーブ。」

ウルトラマンオーブ オーブオリジン(ガイ)「お前の相手は俺だ。」

ボグ星人「ならばここが貴様の墓場にしてやる。やれ、ベムスター!!」

ベムスター「キシヤーン!!」

配下のベムスターに命じてウルトラマンオーブ オーブオリジンに襲わせて、ベムスターの角からベムスタービームを発射した。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン(ガイ)「!!」

ベムスターの発射したベムスタービームを素手で振り払い、そのまま左手で顔面にパンチした。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン(ガイ)「今の俺はお前を倒せる!!」

彼がまだ初めてウルトラマンオーブになった頃はベムスターに全く歯が立たずに苦戦を強いられていたが、今の彼は様々な戦いを積んで強くなりたくましくなっていた。

ボグ星人「小癩な、ベムスター!!」

ベムスター「キユイ!!」

ウルトラマンオーブ オーブオリジンの周りを飛び回りながら強襲するが、

ウルトラマンオーブ オーブオリジン(ガイ)「見え見えだ!!」

飛び回るベムスターの動きをすぐに見切ったウルトラマンオーブ オーブオリジンがキックでベムスターの背中に打ち込み、そのまま



オーブカリバーでベムスターを一刀両断して撃退した。

ボーク星人「あつ、あああつ、ベムスターが!!おのれ、ウルトラマンオーブ!!」

ベムスターがウルトラマンオーブ オーブオリジンに倒されてしまい、ボーク星人がウルトラマンオーブオリジンに向かって攻撃にかかって頭部からヘッドビームを放った。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン「!!」

ウルトラマンオーブ オーブオリジンはオーブカリバーでボーク星人の放ったヘッドビームを切り払い、ボーク星人に向かって進みながら斬撃した。一方、キラとハルトとサキは、アスラン、サリア、エルシャ、途中で合流したイザーク、ディアツカ、ハーノイン、イクスアインらと交戦した。

キラ「アスラン!!」

アスラン「キラ、やめろ!!剣を引け!!俺達は敵じゃない、そうだろ!!何故俺達が戦わなくちゃならない!!」

キラ「アスラン……」

アスラン「同じコーデイネイターのお前が何故俺達と戦わなきゃならないんだ。」

キラ「……」

ハルト「キラ!!」

アードライ「お前の相手は俺達だ!!」

ハルトのヴァルヴレイヴ1の前にアードライとイクスアインのイデールが現れて行く手を阻まれた。

トノムラ「敵機がストライクとヴァルヴレイヴ1に近づいて来てま

す。」

マリユー「彼らを救うのよ!!」

ナタル「ヘルダート、スレッヅジハンマー、てえ!!」

キラとハルトの救うべくアークエンジェルからミサイルを一斉発射してアスラン達の機体に命中した。

ハーノイン「うっ!!」

イクスアイン「アークエンジェルも厄介だ。」

イザーク「ならばディアツカ、ニコル、お前達二人は艦を。俺はアスランの方へ向かう。」

ディアツカ「ええええ?!」

イザーク「文句はなしディアツカだ。でかい獲物だろ?」

ディアツカ「ちいっ!!」

イザークはアスランの方へ加勢し、ディアツカとニコルはアークエンジェルの方へと向かった。

ナタル「バリアント、てえ!!」

バスターとブリッツの接近にすぐにバリアントを発射して迎撃した。

ディアツカ「くっ!!」

ニコル「うっ!!」

サキ「しぶといわね!!」

サキはサリアとエルシャとグレイブを相手に交戦し、スピンドル・ナツクルを投擲して攻撃した。

サリア「調子に乗るなあ!!」

アーキバスサリアカスタムがドラゴンスレイヤーでヴァルヴレイヴの4に斬りかかった。

サキ「悪いけど簡単にやられるわけにはいかないよ。」

マルチレツグ・スパインの6本の脚を展開しながら元の脚を合わせて8本の脚になって、スパイン先端から足場となる硬質残光を発生して踏み台にしながらか動き回ってアーキバスサリアカスタムの攻撃をかわした。

エルシャ「早い。」

サキのヴァルヴレイヴ4の駆け回る動きに翻弄されたエルシャ。

キラ「アークエンジェルが。」

アスラン「やめろ、キラ!!何故お前が共和国軍にいるんだ、何故ナチュラルの味方をするんだ!!」

キラ「僕は共和国軍じゃない!!あの艦には仲間が、友だちがいるんだ!!」

アスラン「ヘリオポリスは共和国に手を貸してMSを開発したからだ!!」

キラ「ヘリオポリスは中立だ。僕だってなのに……!!」

イザーク「アスラン!!」

アスラン「イザークか!!」

キラ「あれはデュエル!!」

デュエルも既にザフト軍の手に落ちていたことに驚くキラ。またアークエンジェルの方で、

ディアツカ「この野郎!!」

マリユール「回避行動を取りつつ、最大加速!!」  
ナタル「アンチビーム爆雷、発射！　イーゲルシュテルン、敵を艦に近づけるな!!ヘルダートは自動発射にセットしろ!!」

敵機の接近に対し、回避行動しつつアンチビーム爆雷、イーゲルシュテルン、ヘルダートを発射した。

シヨールコ、キューマ、アイナ、ライゾウ、サトミ、タカヒ、サイ、カズイ、トール、ミリアリア「わあああああつ!!」

フレイ、避難民「きゃああああつ!!」

アークエンジェルの回避行動で艦内にいるシヨールコ達やヘリオポリスの避難者達を揺るがした。

フレイ「何よこれ、何よこれ!!」

ディアツカ「この野郎!!」

バスターの右腰に接続されている350mmガンランチャーと左腰に接続されている94mm高エネルギー収束火線ランチャーを同時に放ってアークエンジェルに攻撃した。

キラ「アークエンジェルが!!」

ハルト「シヨールコ達が危ない!!」

サキ「みんなをあたし達が守らなきゃ!!」

ウルトラマンオーブオリジン（ガイ）「艦が!!」

ティエリア「このままではまずい!!」

アークエンジェルが攻撃されている事で、その艦の中には大事な仲間や友達がいる事に必死で向かおうとするが、

アスラン「キラ、共和国の元から離れる。お前は利用されているん

だ。」

キラ「違う。僕は利用されていない。」

イザーク「ちよこまかと!!」

イザークのデュエルがキラのエアーストライクに攻撃しかかった。キラ「!!」ビームライフルで射撃し、イザークのデュエルに攻撃した。

イザーク「貴様あつ!!」

キラのエアーストライクの攻撃を受けて、こちらもビームライフルで反撃したデュエル。

アスラン「やめろ、イザーク!!」

イザーク「奪えないなら破壊しかない!!」

ハルト「くっ!!」

2機のイデアールを相手に苦戦し、ボルグ・アームで攻撃するヴァルヴレイヴ1。

ハーノイン「うっ、やってくれたな!!」

ハーノインのイデアールがクローアームで掴みかかった。

ハルト「うわあつ!!」

ハーノインのイデアールのクローアームに捕まってしまったハルトのヴァルヴレイヴ1。

サキ「ハルト!!」

ティエリア「このままではまずい!!」

ハルトのヴァルヴレイヴーが敵に捕まってしまい、窮地に陥ってしまった。

イクスアイン「これは好機会だ。」

ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「今助けてやる!!」

捕まったハルトを助けに向かおうとするウルトラマンオーブ  
オーブオリジン。

ボグ星人「貴様の相手は私だ!!」

交戦中のボグ星人に阻まれてしまい、このままでは助けることも出来ない。窮地に陥ってしまったアークエンジェル勢。このまま為すすべはないのか。

アデス「このまま我々の勝利を収めるようです。」

クルーゼ「いくら彼らでも保つことは難しい。」

窮地に追い詰められていくアークエンジェル勢。だがその時、遠くからビームが発射されてティエリアと交戦しているクーフイアのイデアールに命中した。

クーフイア「うわあっ!!」

アードライ「クーフイア!!」

ロックオン「なんとか間に合ったぜ。」

オレンジハロ「マニアッタ、マニアッタ。」

遠くから狙撃したのGGG所属のロックオンのガンダムデユナメスだ。他に援軍として駆けつけたガンダムキュリオス、ブレードライガーAB、スターガオガイガー、超竜神、撃龍神、ゴルデューマーグもいた。

ティエリア「ロックオン!!」  
ロックオン「待たせたな、ティエリア。」  
ハレルヤ「僕もいるよ。」  
バン「間に合ったみたいだ。」  
ゴルディーマーグ「とっとと終わらせてやろうぜ!!」  
クルーゼ「援軍か!!」  
アデス「GGGの特機です!!」

駆けつけに来たGGGの援軍により一気に形勢は逆転をし始めた。

ノイマン「艦長。GGGの援軍が来ました。」  
マリュー「これなら勝てるわ。後はフラガ大尉が任務を遂行すれ  
ば。」

イザーク「このっ!!」

キラのエールストライクを追い詰めるイザークのデュエル。その  
ままトドメを刺そうとする。

凱「ドリルニー!!」

その時、凱のスターガオガイガーが飛び込んで膝からドリルニーで  
デュエルに打ち込んだ。

イザーク「うわああああー!!」

スターガオガイガーの介入により阻まれたデュエル。

イザーク「おのれ、ナチュラル!!こんなのも用意していたか?!」  
アスラン「イザーク、ここは引け。」

イザーク「ちいつ。」

スターガオガイガーが現れて振りに陥り、撤退するアスランとイザーク。

キラ「アスラン。」

超竜神「ダブルガン!!」

超竜神がディアツカのバスターに両腕の武器を発射しながら攻撃した。

撃龍神「ヴァンレイ!!」

撃龍神の右腕に装備されているデンジャンホーからヴァンレイを放ってニコルのブリッツに攻撃した。

ニコル「ここは引くしかありません。」

ディアツカ「強力な相手じゃ勝ち目がねえな。」

ニコルもディアツカも撤退をし、他のザフトの部隊も次々と撤退を始めた。

ボーグ星人「ウルトラマンオーブ、勝負はお預けだ。」

ボーグ星人もまた撤退をし始めた。

ウルトラマンオーブオリジン（ガイ）「……………」

ヴェサリウスオペレーター1「我が軍の部隊、次々と撤退します。クルーゼ「GGGの特機か。この状況じゃ勝ち目はないようだ。」



味方機が次々と撤退する最中、その時ヴェサリウスとランメルスベルグに何者かが攻撃をした。

ヴェサリウスオペレーター「我が艦とランメルスベルグが攻撃されています。」

クルーゼ「!!まさか。あの男か?!」

ヴェサリウスとランメルスベルグを攻撃したのはマリューに与えられた任務で出撃したムウのメビウスゼロだ。

ムウ「もらった!!」

メビウスゼロのガンバレルによるオールレンジでヴェサリウスとランメルスベルグを攻撃していった。

カイン「流石だよ、ムウ!!ラ!!フラガ。」

クリムヒルト「カイン隊長!!」

カイン「我が軍の機体が撤退している今、ここは撤退する。」  
クリムヒルト「はい。」

ムウの奇襲攻撃により味方機と共に撤退したヴェサリウス、ランメルスベルグ。

ノイマン「ザフト軍、宇宙人同盟、撤退します。」

マリュー「何とか助かったようね。」

無事、戦闘を終えたアークエンジェル。宇宙での戦いはまだまだ続く。

次回 2話へ続く

## 第2話 消えゆく光

ロックオン達GGGの援軍で窮地をくくり抜いたアークエンジェ  
ル。

宇宙

移動中

アークエンジェル

ブリッジ

ハーマン「助けに来てくれた事感謝する。」

ロックオン「そっちもご苦労さん。無事で生き延びれたな。」

バン「ハーマン中佐も無事でよかった。」

ハーマン「バン、よく来てくれたな。」

バン「フィーネやジークもいるぜ。」

フィーネ「うふ。」

ジーク「グオ。」

キラ「この人達は？」

ロックオン「まず俺から紹介する。俺の名はロックオンⅡストラト

ス、GGGの隊員だ。よろしく。」

アレルヤ「僕の名はアレルヤⅡパプティズム。」

凱「俺のは獅子王凱だ。よろしくな。」

バン「俺の名はバン。そっちは相棒のジークだ。」

ジーク「グオ。」

フィーネ「私はフィーネ。」

ハルト「あつ。」

バン「ジークはロボットに似てるような感じだ。つまり同じゾイド  
だ。」

ジーク「グオ。」

ハルト「僕は時縞ハルト。よろしくお願いします。」

バン「よろしくな。」

キラ「あつ、あの。」

凱「？」

キラ「さつきは助けてくれてありがとうございます。」

凱「君がストライクのパイロットか？」

キラ「はい。僕はキラⅡヤマト。」

凱「君の名前はキラⅡヤマトって言うんだ。」

キラ「はい。」

援軍に来たGGGの面々と対面するアークエンジェルクルーら。

格納庫

ユウスケ「こっ、これって喋るロボット何ですか?！」

雷龍「あああ、もちろんこの通りだ。俺達は人間と同じロボットだからな。」

氷竜「私達ビークルロボは人々を救助する事を目的に作られたんだ。」

ユウスケ「なんかすごいじゃん。」

シヨーコ「霊屋君、ロボット好きだね。」

ユウスケ「俺、こう言うロボットは好きなんだよ。」

ゴルデーマーグ「気に入ってくれありがたいぜ。」

炎竜「こう言うのも案外悪くないな。」

風龍「いいですね。」

マードック「GGGの喋るロボットをお目にかかるのは光栄だ。」

雷龍「俺達に興味を示すなんて嬉しいぜ。」

自分達に見て興味を示して持つ者に嬉しく実感するビークルロボ達。

風龍「ちなみに僕と雷龍はヘリック共和国で作られた戦闘用ビークルロボです。炎竜と氷竜から人々の命の大切さを教わり、人命救助をするようになったんです。」

ユウスケ「なんだか感動しちゃうな。」

廊下

ガイ「……………」

ボーグ星人、ベムスターとの戦いを終えたガイは身体を休めるためにシャワールームへ向かおうとするが、

エルエルフ「おい、クレナイガイ。」

ガイ「おまえは?」

ガイの名を呼ぶ者がいた、その者はエルエルフだった。

エルエルフ「おまえがウルトラマンだったのか?」

ガイ「なんの事だ?」

エルエルフ「とボケても無駄だ。俺は偶然あの場でおまえが変身したのをこの目で見ていたぞ。」

ガイ「…………よく見抜いたな。俺がウルトラマンオーブだ。俺にどうするつもりだ?」

エルエルフ「おまえのその力とさつきヴァルヴレイヴのパイロットの力でプラントを革命する。」

ガイ「プラントを革命だど?!」

ブリッジ

ノイマン「艦長、もうすぐデブリベルト付近に到着します。」

マリユー「地球軍の核攻撃で犠牲となったプラントのコロニーね。一同……………」

凱「あの24万人以上の住民が死んで犠牲になって、戦争は始まった。」

ティエリア「人は何故争わなければならないのか。」

地球連合軍によるユニウスセブンへの核攻撃により24万人以上

の住民全員が死亡し、それに対してプラントは地球圏に宣戦布告をし、ニュートロンジャマーを大量に投入されて地球圏にも深刻にダメージを与えられて、ザフト軍を地球に降下し、一気に侵攻した。

ショーコ「このまま黙って通るわけにはいかないよ。」

ハルト「ショーコ。」

ショーコ「だから私達何か出来ることをしたい。」

タカヒ「私達に出来る事？」

ショーコ「死んだ人達への安らかにしてあげたい。」

アイナ「私も死んでいったプラントの人達を追悼してあげたい。」

キューマ「ザフト軍は嫌いだけど戦争で犠牲になったユニウスの人達のためにも。」

マリエ「賛成する。」

リオン「教師の私も賛同します。」

アークエンジェルがユニウスセブンの残骸を通る際、ショーコは死んだ人々を何かしていきたいという提案に賛同するが、

ライゾウ「悪いが俺は反対する。」

ショーコ「山田君。」

ライゾウ「お前ら、ザフトが何をしたかわかってんのか？ザフトが宇宙人と一緒にヘリオポリスを襲撃して大事な日常が奪われたんだぞ。俺はそんなザフトと宇宙人が許せねえんだ。」

ハルト「でも亡くなつたユニウスの人達は関係ないよ。」

ライゾウ「俺にとって大事なダチをザフトの奴らに殺されたんだ。だから俺はザフトの連中だけは絶対しねえつつてんだろ!!」

ショーコ「でも死んだ人達は何も関係ないわ。」

サトミ「悪いが、山田の言い分に賛同する。私達の生活を脅かした者の住民を追悼には出来ない。ザフトがヘリオポリスを襲撃してどれだけの人達が反感を持っているかわからないか？」

ショーコ「ザフトと亡くなつたユニウスセブンの人達は……。」

イオリ「ザフトの人間を追悼するのは断じてごめんよ。」

ショーコ「そんな。」

ティエリア「やめないか。」

ショーコのユニウスセブンの住民への追悼に対して反対するライゾウ、サトミ、イオリらと衝突に対してティエリアが仲裁した。

ハルト「ティエリアさん。」

ティエリア「喧嘩はやめることだ。ここで喧嘩して何になる。」

ショーコ、ライゾウ、サトミ、イオリ「……。」

ティエリア「君達のやっている事は地球軍とザフト軍と同じではないか。」

ショーコ、ライゾウ、サトミ、イオリ「……。」

ティエリア「喧嘩をするのであれば私が提案をする。ユニウスセブンの住民への追悼へ行く者、行かない者はここで待機する事だ。」

仲裁したティエリアによって出された提案は行く者と行かない者に分けていき、喧嘩は収まった。ユニウスセブンの残骸へ行っている、ショーコらは亡くなったユニウスセブンの人々に折り紙で折った大量の折り鶴を持っていった。またキラとハルトと凱とティエリアは万が一に備えてそれぞれの機体に乗り込んで出た。

宇宙

ユニウスセブン

ショーコ「……。」

ミリアリア「悲しいね。」

ティエリア「戦争でどれだけの人がたくさん死に、亡くなってきたか。」

凱「地球軍は酷い事をしたな。ここに住んだ人達の命を奪った。」

マリエ「悲しいよね。」

アイナ「戦争が起きていなかったらユニウスセブンに住んでた人達ももし生きていたかも。」

キユーマ「アイナ。」

アイナ「すごく悲しいわ。」

マリエ「天国で幸せになってもらいたい。」

キラ「……。」

ハルト「アスランって子の事をまだ気にしてるんだ。」

キラ「僕はまたアスランと戦わなきゃならないのか。」

一年前の2月14日、ユニウスセブンは地球連合軍の核攻撃によって24万人以上の住民が全員死亡し、この日は『血のバレンタイン』と呼ばれ、戦争が始まった。ショーコ達は亡くなったユニウスセブンの住民に折り鶴を送って安らかに祈った。

アークエンジェル

ブリッジ

タカヒ「なんだか切ないですね。」

サトミ「そうかな？」

タカヒ「そんな気分ですわ。」

ライゾウ「……。」

マリユー「悲しい気分ね。」

ムウ「あああ。」

ハーマン「戦争はどれだけたくさんの方が死んでいったか。」

ガイ「人は何故争わなければならないんだ。」

ユニウスセブンの残骸を見て暗く感じて切ない気分になり、戦争でどれだけたくさんの方が死んでいったのを感じるガイ達。そんな中、アークエンジェルの元に小さな物体が近づいてきている事に反応をキャッチした。

トノムラ「周辺に反応があります。」

マリユー「すぐに確認を。」

すぐその反応を確認して映し出されたのは宇宙に漂う一つのポッドだった。

ナタル「ポッド?」

チャンドラ二世「どうしてポッドが?」

マリユー「ハーマン中佐。」

ハーマン「一旦拾おう。ポッドが何か調べる必要があるようだ。」

宇宙に漂うポッドを回収させて、格納庫に置いて万一備えて警戒態勢を取った。

格納庫

ロツクオン「気をつけろ。何かあるかわからねえからな。」

アレルヤ「だといんだけど。」

マードツク「開きますぜ?」

ポッドの中が開き始めて、中からピンクの小さな物と女性三人が出てきた。

ピンクハロ「ハロ、ハロ、ハロ、ハロ、ラクス、リーゼロツテ。」

ロツクオン「ハロ?」

モモカ「はあー、一時は助かりましたよ。」

ラクス「ありがとうございます、ご苦労様です。」

リーゼロツテ「助けてくださってありがとうございます。」

一同「あああ?!」

中から現れた人物に驚くアークエンジェル一同。一方、プラントに一時帰国したアスランは、

プラント

アプリリウス



プラント最高評議会

アスラン「ラクストリーゼロッテ殿が行方不明だと?!」

シーゲル「地球連合軍に襲撃されて行方がわからなくなっている。」

アスラン「今どちらに?」

シーゲル「既に彼女らの行方を捜索する部隊を向かわせた。」

婚約者のラクストリーゼロッテとモモカの行方を探すべくアスランはヴェサリウスへと向かい、すぐに出た。

ヴェサリウス

ブリッジ

アスラン「まさかクルーゼ隊長とカイン隊長がご一緒に。」

クルーゼ「おいおい、冷たい男だな君は。無論我々は彼女の捜索に向かうのさ。」

アスラン「彼女達の救出に同行していただけるなんて。」

クルーゼ「特にお前とクライン嬢は定められた者同士という事は、プラント中知られている。」

エマ「早くラクス様とリーゼロッテ様をすぐに救出を。特にラクス様はアイドル。プラント中を悲しんだら……。」

クルーゼ「落ち着きたまえ。焦り過ぎると彼女を見つけられなくなってしまう。」

エマ「申し訳ありません。」

クルーゼ「今回は大きな予感するようだ。」

ラクスら捜索に向かったアスラン達ら。同じ頃宇宙では、地球連合軍の部隊がいた。戦いに敗れて苛立ちするARUSのフィガロ、ガイロス帝国のカリーヌ、人革連の高亥がストレス解消のためにラクスやリーゼロッテら乗っていた船をグラハム達に命じて撃墜させていた。

宇宙

ホエールキング

廊下

ダリル「隊長、スミルノフ中佐、何故プラントの民間船を攻撃したんですか?!」

グラハム「ファイガロ議員やカーリーヌ殿や高亥殿の撃墜命令だ。ご機嫌を取りたくて私達に押し付けた。」

セルゲイ「我々が負け続けている事で無理やり押し付けた。」

ハワード「相手は民間船です。」

ソーマ「その民間船を私達はやってしまった。」

ジノ「こんな非道な事を無理やり押し付けて俺達にやらさせたんだ。」

星刻「自分達の機嫌を取るために平然とやれるものだな。」

ファイガロ「あらあら、そこで何してるだね?」

廊下で民間船を無理やり撃墜させた命令に不満を持つハワードらの前にファイガロとカーリーヌと高亥が現れた。

グラハム「ファイガロ議員。」

ジノ「カーリーヌ様。」

セルゲイ「高亥様。」

ファイガロ「君達のおかげでこちらは満足したよ。コーディネイターの無様な姿をせいせいしたよ。」

カーリーヌ「連敗してるあんた達のためにお機嫌取らせてあげたのよ。」

ソーマ「何だと?!」

高亥「うふふ、あなた達も気分良くなったでしょ。」

星刻「どういう事だ?!」

ファイガロ「君達も民間船を撃墜してご機嫌取れたでしょ?」

ダリル「俺達はあるたらの命令でやらされたんだろ!!」

グラハム「ダリル、やめないか。」

ダリル「隊長、こいつらは自分達のやった事を忘れてるんだ。」

グラハム「手を出したら私達は無事でいられなくなる。」

ファイガロ「これだからうちの兵士はバカだよ。いつまでも成果の出ないフラッグなんかで勝てるの？」

ハワード「おい、おまえ。」

ファイガロ「？」

自分達の大事な愛機であるフラッグを侮辱された事に怒り出したハワードがファイガロの首を掴んだ。

ファイガロ「うわあああつ!!」

ハワード「フラッグをバカにするな!!」

ファイガロ「離せ!!」

グラハム「やめろ、ハワード!!」

ハワード「貴様あ!!」

シュナイゼル「そこまでだ。」

ファイガロの首を掴んだハワードの前にシュナイゼルが現れた。

カリーヌ「シュナイゼルお兄様!!」

セルゲイ「シュナイゼル殿!!」

シュナイゼル「喧嘩はやめたまえ。」

ハワード「あつ、はい。」

シュナイゼルの制止によりハワードはファイガロの首を離れた。

ファイガロ「シュナイゼル殿、こいつら私の首を掴んできたんですよ!!」

シュナイゼル「ファイガロ議員、私の妹と高亥殿と一緒にストレス解消させるため部下達に命じて民間船を撃墜させたそうではないか？」

ファイガロ、カリーヌ、高亥「はっ、はい……」

シュナイゼル「気をつける事だ。」

ユニウスセブン追悼式典へ向かうラクスら船をフィガロらが勝手に攻撃させた事を叱咤したシユナイゼル。

シユナイゼル「共和国の船が見つかったそうだ。」

ハワード「忌々しいガンダムめが。」

シユナイゼル「おや、ガンダムを倒すへの執念か。」

グラハム「ハワード。」

ハワード「ガンダムを倒してフラッグの力を見せつけてやる。」

ソーマ「共和国と同行するGGGも必ずこの手で仕留めてみせる。」

アークエンジェルの存在にキャッチした一同は直ちに出撃し、忌々しいガンダムをこの手で倒す執念を燃やした。一方、フレイはコーデイネイターが嫌いである事でラクスらの食事を持っていくのが嫌でサキとショーコと一緒に持っていく事になった。

移動中

アークエンジェル

部屋

フレイ「なんでザフトの子がいるのよ。あっち行って!!」

ラクス「私とリーゼロッテとモモカはザフトではありません。」

フレイ「一緒でしょ。コーデイネイターなんだから。」

リーゼロッテ「私とラクスとモモカは軍人ではありません。あなたも軍人ではないはずです。」

ショーコ「そうよ、彼女達はザフトの軍人じゃないわ。」

サキ「3人はザフトじゃないわ。だからってコーデイネイターを嫌うのはどうかと思うわ。」

モモカ「せっかくですから私達と……。」

フレイ「馴れ馴れしくしないでよ!!」

ラクスとリーゼロッテとモモカと仲良くするのが嫌なフレイ。

キラ「どうしたの？」

フレイがラクスとリーゼロッテとモモカを激しく嫌っているところキラとハルトとアンジュが来た。

シヨーコ「ハルト、キラ。」

サキ「ちようどよかった。フレイがこの子達を嫌々嫌ってるのよ。ザフトじゃないからって。」

モモカ「あつ。」

リーゼロッテ「どうなされましたか？」

モモカ「アンジュリーゼ様!!」

突如モモカはアンジュに元に抱き始めた。

アンジュ「ちよつと!!」

モモカ「心配しました。ずっと探していましたー。」

アンジュ「気安く触らないで。」

モモカ「えっ。」

心配して抱きしめたモモカを突き放したアンジュ。

ラクス「モモカ。」

モモカ「・・・。」

アンジュ「私が最初からノーマだと知っていたんですか？」

モモカ「そつ、それは。」

キラ「アンジュもどうしたの？」

アンジュ「いつから私がノーマだと知っていたんですか!!」

モモカ「そつ、それは、その・・・。」

アンジュ「言いから答えなさい!!」

洗礼の儀の日にアンジュはノーマだとプラント全体に知らされて

ザフト軍に無理やり兵とされていき、彼女が最初からノーマだと知っていた事で問い詰めた。

ラクス「アンジユ、おやめください。」

アンジユ「ラクス、リーゼロッテ。」

リーゼロッテ「彼女はあなたの事を今までずっと支えて来たのです。」

ラクス「モモカはあなたの事をずっと尽くして来たのです。」

アンジユ「……。」

キラ「アンジユ。」

その時、艦内から警報が鳴った。

マリユー「総員につぐ、共和国第8艦隊のジョージ・アルスター外務官の先遣隊がザフト軍と宇宙人同盟の襲撃を受けている。」

フレイ「パパがザフト軍に?!」

フレイは父がザフト軍の襲撃を受けている事を知り動揺した。

ハルト「キラ、流木野さん、行こう。」

サキ「行きましょう。」

キラ「うん。」

フレイ「大丈夫だよな?」

キラ「?」

フレイ「パパの船、やられたりしないわよね?ね?!」

キラ「大丈夫だよ、フレイ。僕達も行くから。」

フレイに必ず父を無事を助ける約束をしたキラはすぐにハルト達と共に出撃をした。またアークエンジェル内の別の場所では、

ガイ「……………」

オーブリングを出して前にかざし、周囲が宇宙空間のように変化して衣装も黒いスーツに変化し、2枚のカードをリングにリードした。

ガイ「ジャックさん、ゼロさん、キレの良いやつ、頼みます。」

オーブリング「フュージョンアップ、ウルトラマンオーブハリケーンスラッシュ。」

2枚のカードをリードしたガイはウルトラマンオーブハリケーンスラッシュへ変身し、ザフト軍と宇宙人同盟を相手に挑んだ。同じ頃、ザフト軍のクルーゼ隊、カイン隊、宇宙人同盟のテロリスト星人、インペライザーから襲撃を受けているジョージⅡアルスターのヘリック共和国第8艦隊の先遣隊。既に発進したメビウス、プテラスでジンやバツフェエやグレイブに挑んだが、相手の性能差で次々と撃墜されていった。

共和国オペレーター1「タートルシップ2隻撃沈。」

共和国オペレーター2「イージス、タートルシップ撃沈。」

コープマン「うっ、くっ。」

ジョージ「奪われた味方機に撃沈されるなどあってたまるものか!!」

先遣隊の艦や機体は次々と撃沈されていき、窮地に陥っていた。その時、アークエンジェルとその部隊たちが駆けつけに現れた。

ジョージ「アークエンジェルが来てくれたのか。」

無事に援軍来て安心をしたが、

クルーゼ「本命の後登場か。」

カイン「彼らの相手を引き受けようではないか。」

チャンドラ二世「敵はジン、バツフェ、グレイブ、アーキバス、ハウザー、シグー、イデアール、宇宙人、怪獣3匹、その中に奪われたイージスもいます。」

マリユー「わかっているわ、総員、ただちに攻撃よ。」

ナタル「バリアント、てえー!!」

艦尾両舷からバリアントを発射してジンとグレイブを撃墜した。

キラ、アスラン「!!」キラのエールストライクはアスランのイージスと交戦し、再び戦場で対峙した。

アスラン「ちい!!」

ビームライフルでキラのエールストライクに射撃したアスランのイージス。

キラ「うっ。」

シールドでイージスのビームを防ぐエールストライクはビームサーベルを出して接近戦で挑んだ。

ハルト「流木野さん。」

サキ「わかっているわ。」

ハルトのヴァルヴレイヴ1とサキのヴァルヴレイヴ4はサリアのアーキバスカスタム、エルシャのハウザーカスタムを相手に交戦していた。

ハルト「そこをどくんだ!!」



サリア「あんた達の相手は私達よ!!」

サキ「あんた達と戦っている暇はないわ!!」

エルシャ「通させない!!」

サリアのアーキバスカスタムがドラゴンスレイヤーでハルトのヴァルヴレイヴ1に斬撃した。ハルトもヴァルヴレイヴ1のジー・エッジを出してサリアのアーキバスカスタムに斬り込んだ。サキのヴァルヴレイヴ4はマルチレッグ・スパインを点火して機動力を推進してエルシャのハウザーカスタムの肩部リボルバー式大口徑砲をかわして、スピンドル・ナツクルを投擲した。

ウルトラマンオーブハリケーンズラッシュユ（ガイ）「オーブスラッシュ ガーランス!!」

テロリスト星人と2体のインペライザーを相手にウルトラマンオーブハリケーンズラッシュユのオーブスラッシュガンランスの素早いスピードによる攻撃で斬撃し、インペライザーをオーブスラッシュガンランスで持ち上げながらも1体のインペライザーにぶつけて破壊し、そのままテロリスト星人に攻撃するが、

テロリスト星人「ふん!!」

ウルトラマンオーブハリケーンズラッシュユのオーブスラッシュガンランスをテロリストソードで防ぎ、左手からテロリストファイヤーを放った。

ウルトラマンオーブハリケーンズラッシュユ「くっ!!そこをどけ!!」  
テロリスト星人「俺を倒してからだな。」

一刻も早くテロリスト星人を倒さないとフレイの父ジョージIIア  
ルスターのターゲットシップが撃沈されてしまう。

ティエリア「その機体の動きはカインか?!」

カイン「その通りだよ、ティエリア!!アーデ。」

ムウ「この感覚はクルーゼか?!」

クルーゼ「そうだ、君とはまた何かの縁のようだな。」

ティエリアとカイン、ムウとクルーゼ、それぞれの因縁がぶつかり合い、激突した。

ティエリア「カイン、おまえとクルーゼは何が目的だ!!」

カイン「君が知る必要はない。」

ティエリア「答えろ!!エンブリヲはどこにいる?!」

カイン「君が知って何を得るんだ?」

ティエリア「黙れ!!答えろと言っているんだ!!」

ティエリアのヴァーチエがGNバズーカでカインのシグーにビームを発射した。カインのシグーはヴァーチエのビームを回避し、重斬刀でヴァーチエに切りつけにかかった。

ティエリア「!!」GNバリアを展開して防ぐが、カインのシグーの重斬刀には対ビームコーティングがされており、GNバリアをあつという間に貫いてダメージを喰らった。

ムウ「クルーゼ、そこどけ?!」

ムウの乗るメビウスゼロから展開されるガンバレルでクルーゼのシグーに攻撃した。

クルーゼ「本命は君達と戦う事が目的だよ。」

ムウ「何?!」

クルーゼ「存分に戦いたまえ!!」

アークエンジェル隊とクルーゼ隊、カイン隊のそれぞれの機体による激しい戦いが繰り広げられ、激闘を繰り広げられていた。

超竜神、撃龍神、ゴルデイーマーグ「うっ!!」

インペライザーを相手に3人がかりで交戦する超竜神と撃龍神とゴルデイーマーグ。

バン「相手が巨大ならスピードで勝負だ。」

バンのブレードライガーABが駆けつけてブースターの出力を上げながらインペライザーの周り回りながらスピード戦で持ち込んでいき、バンのブレードライガーABのスピードに追いつけず混乱したインペライザー。

ハーマン「これでは間に合えないぞ。」

マリユール「このままじゃ外務官の船が撃沈されてしまうわ。」

ナタル「ゴッドフリート、撃てえー!!」

何としてもジョージオールスターのタートルシップの撃沈をさせないためにも必死で奮闘するアークエンジェル。

チャンドラ二世「3時の方向より何か接近中。これは地球軍です!!」

ハーマン「何?!」

3時の方向から接近しているもの、それはシュナイゼルの率いる地球軍の部隊だった。

カノン「シュナイゼル様、共和国とGGGの部隊はザフトと交戦しているようです。」

シユナイゼル「今回はとても大きな戦いになるようだ。」

カノン「？」

シユナイゼル「まあよく見るがいい。」

シユナイゼルのホエールキングから発進されたグラハムのフラッグカスタム、ハワードの、ダリルのオーバーフラッグ、ソーマのティエレンタオツ、星刻のティエレン宇宙指揮官型、ジノのトリスタンが現れた。

キラ「あれは地球軍!!」

ハワード「ガンダム覚悟しろ!!」

キラとアスランが交戦中にハワードのオーバーフラッグが乱入して攻撃してきた。

ハワード「おまえ達の存在のせいで俺達はめちやくちやだ!!」

キラ「なんの事だ？」

ハワード「ガンダム、ここで終わらせてやる!!」

ガンダムの存在によって自分達の立場が窮地に落ち、ガンダムなどの出現で圧倒的な性能によりフラッグなどの量産機は追いやられていき、次第にうまく戦果は出せずにおり、ガンダムをこの手で仕留めていき、フラッグの実力を見せていくハワード。

ハワード「フラッグの力を見せてやる!!」

トライデントストライカーでキラのエアーストライクに射撃し、次にプラズマソードを出して切りかかった。

キラ「!!」

ハワードのオーバーフラッグのプラズマソードをビームサーベルで受け止めて防ぐキラのエールストライク。

ハワード「新型か、何だろうと俺の敵だ!!」

力一杯出して振り切りながら操縦技量を見せながらキラのエールストライクを圧倒するハワードのオーバーフラッグ。

凱「キラ!!」

キラを助けに行こうとしたら、星刻のティエレン宇宙指揮官型が現れた。

星刻「おまえの相手は私だ!!」

凱「この声は星刻か。」

星刻の存在に気づき、スターガオガイガーは彼の乗るティエレン宇宙指揮官型と交戦する。

凱「こんな時に。」

星刻のティエレン宇宙指揮官型に格闘によるパンチするスターガオガイガー。

星刻「くっ。」

スターガオガイガーのパンチを喰らった星刻のティエレン宇宙指揮官型は200mm×25口径長滑腔砲にある刃を近接戦に使用してスターガオガイガーに切りつけた。

凱「うっ、はああああー!!」

星刻のティエレン宇宙指揮官型に斬撃されてスターガオガイガーはすぐに反撃に出て左腕からプラズマホールドを放出してティエレン宇宙指揮官型に喰らわせた。

アレルヤ「うっ、この感覚はソーマIIピーリスか?!」

アレルヤの脳量子波から反応したのはソーマのティエレンタオツツが近づいて来た事だ。

ソーマ「被験体Eー57!!」

ソーマのティエレンタオツツが突撃しながら200mm×25口径長滑腔砲でアレルヤのキュリオスに射撃を行なった。

アレルヤ「!!」

すぐに出力を上げて回避し、こちらも反撃に出てGNビームマシンガンで応戦した。

ロックオン「くっ、接近戦はあいにく嫌だんだよな。」

ロックオンのデュナメスはジノのトリスタンを相手に交戦中で、ロックオンは接近戦で来るトリスタンを相手にGNビームサーベルを出して攻撃した。

ジノ「オラオラオラー!!」

ロックオン「やられるかよ!!」

トリスタンの振り回すMVソードハーケンタイプがデュナメスのGNビームサーベルとぶつかり合いながら激突した。

ハーマン「地球軍まで来てしまうとさらに最悪だ。」  
マリユール「これじゃ助けることもむりだわ。」

シユナイゼルの率いる地球連合軍の部隊でさらに戦局は悪化し、ますます厳しい状況となった。

フレイ「パパ!!」

その時、ブリッジにフレイとサイが入り込んで来た。

サイ「フレイ、行っちゃだめだ。」

フレイ「パパの船は何処なの？」

マリユール「今は戦闘中よ、非戦闘員はブリッジから出て。」

チャンドラ二世「イデアール1機、ターゲットルシップに向かっていきます。」

フレイ「!!」

クーファイアのイデアールがジョージのターゲットルシップに向かって接近している事を知ったフレイ。

キラ「くうう!!」

ハワード「覚悟しろ、ガンダム!!」

プラズマソードでエールストライクを追い詰めていくハワードのオーバーフラッグ。

キラ「そこを退いてくれ!!」

ハワード「貴様を倒すまではどかん!!」

一歩も引かずにガンダム打倒の執念を燃やすハワードは、この手で

倒そうとする。

ラクス「あら。」

その時、ブリッジにラクスとリーゼロッテも入って来た。

フレイ「!!」

フレイは銃を出してラクスとリーゼロッテに突きつけた。

フレイ「ふん!!」

ハーマン「何をするつもりだ!!」

フレイ「パパの船を撃つたら、この子を殺すって！あいつらに言うて!!」

マリユー、ハーマン「……。」

父の船を撃墜したらラクスとリーゼロッテは殺すように必死で訴えるフレイ。

ハワード「もらった!!」

ハワードがプラズマソードでキラのエアーストライクに突き刺しかかるが、

キラ「!!」

ハワードの攻撃を見切りながら回避し、ビームサーベルで攻撃をするが、

ハワード「!!」

その攻撃によりハワードのオーバーフラッグの胴体に突き刺さっ



てしまった。

キラ「あつ、あああつ!!」

グラハム、ダリル「ハワード!!」

ハワード「隊長、フラッグは……!!」

その攻撃によりビームサーベルに突き刺さった胴体が爆発してハワードは最期を迎えて、グラハムらの目の前に散った。

クーファイア「もーらい!!」

ジョージ「!!」

ジョージのタートルシップに現れたクーファイアのイデアールがビームキャノンで一気に仕留めてタートルシップは撃沈され、ジョージは死亡した。

フレイ「嫌ああああああああー!!」

父の最期を目の当たりにしたフレイは、再会を果たせず絶望した。

キラ「あつ、あああつ。」

フレイとの約束を果たせず、フレイの父を助けられなかったキラ。

ウルトラマンオーブハリケーンスラッシュ（ガイ）「なんて事だ。」

テロリスト星人との交戦でフレイの父を助ける事が出来なかったウルトラマンオーブハリケーンスラッシュ。

クーファイア「やったよ、これでゲームクリアだ。アードライ達も聞いたら喜ぶよ。」

カイン「よくやった、クーファイア。」  
クーファイア「僕なら余裕だよ。」

クーファイアは戦いをゲーム感覚で楽しみながらフレイの父ジョージを殺した事を何とも思わずわにただ撃墜して喜んだ。

グラハム「ハワード……!!」

ジノ「ハワード……。」

ソーマ「メイスン准尉。」

ハワードの最期はグラハムや他国のパイロット達も目の当たりにし、驚きを隠さなかった。

シュナイゼル「これではもう戦えない。総員に撤退を出す。」

カノン「はっ。」

各員にシュナイゼルから撤退命令が出され、すぐに撤退をするグラハム達。

ダリル「隊長、ハワードが。」

グラハム「わかっている、この屈辱は忘れない。」

撤退をしながらハワードを殺したキラのエアーストライクを覚えて必ず仇を取る事を誓うグラハム。

フィガロ「シュナイゼル殿は何をしているんだ、せつかく倒せるチャンスを。」

シュナイゼルらが撤退する中で自ら撤退せずにいるフィガロとカリーヌと高亥らのアガムノン。

クーファイア「ねえねえ、カイン隊長、クルーゼ隊長。」  
クルーゼ「好きにするがいい。」

撤退しなかったファイガロとカリーンと高亥らのアガムノンに目をつけたクーファイアがそのまま向かって奇襲をして来た。

アガムノン女性オペレーター「わあああああつ!!」

ファイガロ、カリーン、高亥「!!」

クーファイア「いただき。」

奇襲に現れたクーファイアのアイデアールがファイガロとカリーンと高亥のアガムノンにビームキャノンで一気に仕留めて撃墜し、艦に乗っていた3人は死亡した。

シュナイゼル「愚かだ、戦場に出て気分そらしとは。逆に自分達が最期を迎えるとは哀れだ。」

3人の最期を見て哀れと自業自得を思ったシュナイゼル。

ハーマン「バジール少尉。」

ナタル「ザフト軍に告ぐ!こちらはヘリック共和国軍所属艦、アークエンジェル!!」

アデス「アークエンジェルから全周波放送です。」

ナタル「当艦は現在、プラント最高評議会議長、シーゲル・クラインの令嬢、ラクス・クラインとリーゼロッテⅡWⅡドルシアを保護している。」

アスラン「何?!」

キラ「えっ?!」

クリムヒルト「ラクス殿、リーゼロッテ殿。」

ナタル「偶発的に救命ポッドを発見し、人道的立場から保護したものであるが、以降、当艦へ攻撃が加えられた場合、それは貴官のラクス

ス・クライン嬢とリーゼロッテに対する責任放棄と判断し、当方は自由意志でこの件を処理するつもりであることを、お伝えする!!」

エマ「おのれ、下等なナチュラルが!!」

アスラン「これが共和国のやり方か。地球軍と同じじゃないか!!」

ラクスとリーゼロッテを人質に出してザフト軍をけん制した。

カイン「このままで手も足も出せない。」

エマ「ラクス様とリーゼロッテ様を!!」

クルーゼ「エマ、撤退だ。このまま手を出すと彼女らが危ない。」

エマ「はっ、はい。」

ラクスとリーゼロッテを人質にされている以上、手も足も出せずに撤退をするクルーゼ隊、カイン隊。

ハーマン「ここでやれるわけにはいかなかった。」

マリユール「はい、ハーマン中佐。」

次回 3話へ続く

### 第3話 分かれた道

ザフト軍と地球連合軍の混戦によりフレイの父を助ける事が出来なかったアークエンジェル。

宇宙

移動中

アークエンジェル

格納庫

フレイ「なんでパパの船を守ってくれなかったの?!

キラ「……………」

フレイ「なんであいつらをやっつけてくれなかったのよおっつ!!」

キラ「……………」

ミリアリア「フレイ、キラだって必死に……………」

フレイ「あんた……自分もコーデイネイターだからって、本気で戦ってないんでしょう!!」

キラ「はっ!!」

サイ「フレイ。」

フレイ「わあああああー、パパ、パパ!!」

サイ「フレイ!!」

キラ「うううっ!!」

ミリアリア「キラ!!」

フレイに父を助ける約束を守れず酷く責められてしまい、キラは格納庫を出て泣き出した。

廊下

キラ「う、わあああああああー、あああああーん。」

フレイの父を助ける事が出来ずに泣き出したキラ。

ラクス「どうなさいましたの？」  
ピンクハロ「テヤンデイ。」

泣いているキラを見てラクスとリーゼロツテとピンクハロが近くにやってきた。

キラ「あつ、ラクスさん、リーゼロツテさん。」

リーゼロツテ「あなた、泣いていたみたいですね。」

キラ「はい。」

泣いているキラを見たラクスとリーゼロツテは彼から話を聞いた。

リーゼロツテ「そんな事があつたんですか。」

キラ「はい。僕は友人の父親を助ける事が出来ずに責められて。」

ラクス「あの時、あの子が私とリーゼロツテに銃を向けたのも。」

キラ「はい。」

ラクス「とても悲しい思いをされたんですね。」

キラ「僕は……僕は、本当は戦いたくなんてないんです。僕だって……コーデイネイターなんだし……アスランは……とても仲の良かった友達なんだ。」

ラクス、リーゼロツテ「アスラン?!」

キラ「彼を知っているんですか？」

ラクス「はい、アスランは私の婚約者です。」

リーゼロツテ「アスランは私やラクスやアンジュには優しく、無口な方です。」

ピンクハロ「ハロ。」

ラクス「でも、このハロをくださいましたの。」

キラ「……。」

ラクス「私がとても気に入りましたと申し上げましたら、その次もまたハロを。」

リーゼロツテ「私はアスランからPCのやり方教えてもらってうま

く出来るようにもなりました。」

キラ「そつかあ、相変わらななんだな、アスラン。僕のトリイも彼が作ってくれたものなんです。」

ラクス「まあ！そうのですの？」

ピンクハロ「テヤンデイ。」

キラはラクスがアスランと婚約者だと知り、またラクスもキラがアスランが親友だと知り、お互いにアスランからそれぞれトリイ、ピンクハロを貰ったことを話した。

ハルト「キラ。」

キラ「ハルト、サキ、シヨーコ、それにアンジユやモモカさんまで。」

アンジユ「仲良く話してそうで何よりですわね。」

ラクス「アンジユ。」

モモカ「アンジユリーゼ様、ラクス様やリーゼロッテ様は……。」

アンジユ「私はノーマ、ノーマは自由にする事も許されない。」

ラクス「そんな事はありません。あなたはあなたです。」

アンジユ「そんな綺麗事言わないでください!!家を追い出されてノーマと言う立場の私には私ではないです。私がノーマだと言う事が世間に知らされて私はみんなから嫌われているのです。」

ラクス、リーゼロッテ「……。」

サキ「……。」

ハルト「それからどうする?ここにいと君達二人はまた利用されてしまうよ。」

サキ「またやるとザフトも黙っていないわ。」

シヨーコ「また共和国が人質を使ったらもつと怒ってくるよ。」

キラ「これ以上2人を利用されるわけにはいかない。だから2人を返してあげたい。」

ラクスとリーゼロッテがまた利用される事で、これ以上利用されないためにもちゃんと返していききたいと言うキラ。

凱「何しているんだ？」

キラ「凱さん。」

凱「彼女達をプラントに返すのか？」

ハルト「聞いていたんですか。」

凱「俺は卑怯なやり方が嫌いだ。またあ言うやり方をこれ以上やるとかえって逆効果になるだけだ。俺も彼女達をちゃんとプラントに返してあげたほうがいい。」

キラ「凱さん。」

凱「俺もやれる事はやる。出来る事は最後まで協力する。」

ハルト「ありがとうございます。」

凱「早いうちに済ませよう。」

キラ達はラクスとリーゼロッテが再び利用される事に恐れを感じてハーマン達へリック共和国の軍人に黙って密かにプラントの元へ返そうとする。

凱「君はいかなくていいのか？」

アンジュ「私はプラントには帰りません。私を捨てた国には二度と帰りません。」

モモカ「アンジュリーゼ様が帰らないのであれば私はアンジュリーゼ様のお側を共にします。」

アンジュ「モモカ。」

モモカ「私はどんな事があってもアンジュリーゼ様の側からは離れません。」

アンジュ「あなたが私の元を離れないならモモカ、最後までいて。モモカ「はい。」

アンジュは故郷には帰らずアークエンジェルに残り、また彼女の元侍女のモモカも一緒に残る事となった。早速ラクスとリーゼロッテをプラント側へ返すため、早速行動が起こし始めた。



エルエルフ「……。」

ガイ「何見ているんだ？」

エルエルフ「何でもない。」

ガイ「おまえ、あのピンクのツインテールの髪型をしている子に目を向けていただろ。」

エルエルフ「……。」

ガイ「どうした？」

エルエルフ「おまえには関係のない事だ。」

ガイ「……。」

エルエルフはリーゼロッテの方を見て気にかけていた。そんな彼をガイは彼女とは何かがあると思った。

格納庫

キラ「これ着て。その上からで。」

ラクスとリーゼロッテに宇宙服を上から着替えさせるように教えるキラ。

リーゼロッテ「あつ。」

ラクス「あつ。」

上から宇宙服を着替えたラクスとリーゼロッテ。

ショーコ「似合ってるわ。」

ラクス「そうかしら？」

リーゼロッテ「宇宙服も似合ってるみたいね。」

サキ「さあ早く。」

ハルト「すぐにコクピットに。」

キラ「わかっているよ。」

キラはラクスとリーゼロッテをすぐにストライクのコクピットの中に乗せて席に座り、機体を起動した。

マードック「?!」

キラが突如エールストライクを起動させた事で大きな騒ぎを起こし出した。

アークエンジェル整備員1「軍曹、ストライクが!!」

アークエンジェル整備員2「今度ヴァルヴレイヴ1、4、それにスターガオガイガーまでもが。」

続いて今度はヴァルヴレイヴ1、ヴァルヴレイヴ4、スターガオガイガーまでもが起動し、さらに騒ぎを起こした。

キラ「ハッチを開きます。退避して下さい!!」

シヨーコ「無事で帰って来てね。」

アークエンジェルのハッチを開かせてすぐに出たエールストライク、ヴァルヴレイヴ1、ヴァルヴレイヴ4、スターガオガイガー。

ブリッジ

マリユール「どうしたの?」

ナタル「ストライク、ヴァルヴレイヴ1、ヴァルヴレイヴ4、スターガオガイガーが!!」

ロツクオン「何勝手な事をしたんだ!!」

ハーマン「すぐに止めさせろ!!」

ムウ「ボウズ達が嬢ちゃん達を連れ出したんだよ!!駄目だ!!もうエアロック開けられちゃった。」

既にアークエンジェルのハッチを開けられていてラクスとリーゼロッテを連れ出しており、もう止める事は出来なかった。キラ達4人の反応をキャッチしたヴェサリウス、ランメルスベルグ。

ヴェサリウスオペレーター「アークエンジェルから4機の反応確認。」

アデス「これは？」

エマ「どういう事？」

クリムヒルト「一体どういうつもりだ？」

突如エールストライク、ヴァルヴレイヴ1、ヴァルヴレイヴ4、スターガオガイガーの姿に現れた事で困惑するヴェサリウスのクルー、ランメルスベルグのクルーら。

キラ「こちらへリック共和国軍、アークエンジェル所属のモビルスーツ、ストライク!!ラクスⅡクライン、リーゼロッテⅡWⅡドルシアを同行、引き渡す!!」

アデス「?!」

キラ「ただし、ナスカ級、バートルキート級は艦を停止!!イージスのパイロットが、単独で来ることが条件だ。この条件が破られた場合、彼女の命は……保証しない……。」

エールストライクのパイロットからラクスとリーゼロッテを同行し、引き渡す際の条件としてイージスのパイロットが単独出た来る事の声が出たのに対して。

エマ「どう言うつもりなのナチュラルは？」

クリムヒルト「カイン隊長。」

カイン「私もわからないよ。」

アスラン「クルーゼ隊長、行かせてください。」

アデス「敵の真意がまだ分からん！本当にラクス様やリーゼロッテ様に乗っているかどうかも……。」

エマ「罠の可能性が高いです。ここは……。」

アスラン「クルーゼ隊長!!」

クルーゼ「わかった、許可する。」

アスラン「ありがとうございます。」

アデス「よろしいのですか?」

クルーゼ「チャンスであることも確かさ。ふふ……向こうのパイロットもまだ幼いようだな。」

アデス「……。」

クルーゼ「艦を止め、私のシグーを用意しろ!!アデス。」

キラ達がラクスとリーゼロッテを返した後に隙を狙うクルーゼ。

カイン「クリムヒルト、私のシグーを用意してくれ。サリア達にも出撃準備を。」

クリムヒルト「破る気ですか?」

カイン「そのチャンスを狙えるからだ。」

カインもクルーゼと同じ考えで、キラ達がラクスとリーゼロッテを返した後に部下達と共に奇襲を企てた。ヴェサリウスからアスランのイージスが発進して、キラ達の元へと向かった。

キラ、アスラン「……。」

凱「あれがキラの友達か。」

ハルト「キラ。」

サキ「無事だといいいけど。嫌な予感がするわ。」

サキはキラが無事でラクスとリーゼロッテを返すことに何やら不吉な予感を感じていた。

キラ「コックピットを開け!!話して。」

ラクス「えっ?」

リーゼロッテ「?」

キラ「あなた達が本物だって分からせないと。」

リーゼロッテ「そう言うことでしたか。」

ラクス「わかりました。アスラン、お久しぶりですわ。」

ピンクハロ「テヤンデイ!!」

アスラン「確認した。」

キラ「さあ、2人を連れて行ってくれ。」

キラはコックピットから宇宙服を着たラクスとリーゼロッテをアスランのイージスのコックピットの元へと返した。

ラクス「いろいろありがとう。キラ。アスラン、貴方も。」

リーゼロッテ「短い間でしたが、ありがとうございます。」

キラ「……。」

アスラン「キラ、お前も一緒に来い!!」

キラ「!!」

アスラン「お前が共和国軍に居る理由がどこにある?!!」

キラ「僕だって……君となんて戦いたくない……でも……」

あの船には守りたい人達が……友達が居るんだ。」

アスラン「くっ、ならば仕方ない……次に戦うときは……」

俺がお前を討つ!!」

キラ「僕もだ。」

アスランはキラにヘリック共和国軍から抜けて一緒に自分達の元へ誘ったが、キラはアークエンジェルにヘリオポリスにいる友人達を守るためにヘリック共和国軍に残る事を選び、それを拒否された事でアスランは次キラと会う時は討つと宣言し、キラも同じく会う時は討つと選んだ。

凱「(本当にそれでいいのか、キラ。)」  
ハルト「……。」

無事ラクスとリーゼロットを返したキラ達はそのままアークエンジェルへ戻ろうとしたが、その時、ヴェサリウス、ランメルスベルグ、ローラシア級から敵機が発進されて、キラ達に襲撃を行い始めようとする。

ハルト「こっ、これは?!」

凱「俺達が最初から退くの狙っていたのか。」  
サキ「やっぱり最初からそのつもりね。」

既に敵艦から発信された機体に囲まれてしまったキラ達。その時、キラ達のピンチに駆けつけたウルトラマンオーブ オーブオリジンが現れた。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン(ガイ)「お嬢さん達を返した後に襲撃か。セコい手を使ってくるもんだな。」

サキ「ウルトラマンオーブ。」  
ウルトラマンオーブ オーブオリジン(ガイ)「俺が相手になってやる。」

駆けつけたウルトラマンオーブ オーブオリジンが来たことで戦闘に入ろうとするが、

ラクス「ラウールクウゼ隊長!!」

リーゼロット「カインドレッツセル隊長!!」

クルーゼ、カイン「?!」

ラクス「止めて下さい。追悼慰霊団代表の私の居る場所を、戦場に  
するおつもりですか?」

クルーゼ「(チィッ!こんな時になにを!!)」

カイン「(邪魔をしてくれたな。)」

リーゼロット「そんなことは許しません！すぐに戦闘行動を中止して下さい!!」

サリア、エルシャ「あつ。」

エマ、クリムヒルト、アデス「あああつ。」

クーフイア「ちいっ。」

リーゼロット「聞こえませんか?!」

クルーゼ「チツ！困ったお嬢様だ!!」

カイン「全員撤退する!!」

ラクスとリーゼロットの戦闘停止の号令にザフト軍の部隊は全て戦闘を辞め、直ちに撤退をした。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン(ガイ)「とんでもないお嬢さん達だったな。」

ラクスとリーゼロットの号令によってザフト軍は撤退し、またキラ達もアークエンジェルへ帰投した。

ヴェサリウス

廊下

クルーゼ「せっかくのチャンスをあんな女ごときに!!」

カイン「なんとと言う恥をかかなければならないんだ!!」

ラクスとリーゼロットに戦闘を止められて苛立ちするクルーゼとカインの両隊長。

エンブリヲ「おや、そこで発散かい？」

クルーゼ、カイン「?!」

2人の前に謎の男、エンブリヲが現れた。一方、オービットベースに辿り着いたアークエンジェル。だが、キラ、ハルト、サキ、凱、シヨールコが無断でラクストリーゼロッテを返したことで罪を問われた。

オービットベース

会議室

キラ、ハルト、サキ、凱、シヨールコ「……………」

ナタル「5名の被告は、自分達の行動が艦の安全をどれほど脅かしたか、全く理解していません。」

ムウ「今の発言は、類推に過ぎません。議事録からの、削除を求めます。」

ハーマン「削除を許可する。」

ムウ「えーと……そもそも、民間人を人質に取るというのは、コルシカ条約4条に抵触すると思いますが……………」

マリュー「今回の行動は、同条特例項目C、戦時下における措置に相当します。」

ムウ「え？特例項目C？知らねえよそんなの……あーしかし、人質を解放したからこそ、ナスカ級は撤退し、我々は窮地を脱したという事で……………」

ロツクオン「そんな甘い事が許されると思ってたか。」

ハーマン「ロツクオン。」

ロツクオン「お前達の行動に罪の意識はあったのか。」

キラ、ハルト、サキ、凱「……………」

シヨールコ「こんな卑怯な事が平然と出来るんですか?!」

ハルト「シヨールコ。」

シヨールコ「国の指導者の娘を盾にして有利にするなんて私は納得しません!!こんな酷いことが平気で出来るんですか。」

ロツクオン「自分の行動に非はないのか?!」

ラクストリーゼロッテを使った人質に反論したシヨールコにロツクオンが彼女の顔を殴った。



シヨーコ「きやあああつ!!」

ハルト「シヨーコ!!」

サキ「シヨーコさん!!」

マリユー「ロツクオン!!」

ハーマン「何をするんだ?!」

凱「女の子を殴るなんてどう言うつもりだ。」

ガイ「暴力はやめろ。」

ロツクオン「反省のない奴は俺が殴って分からせてやる。違うか？」

ハーマン「だからと言って殴るのは民間人に手を出す事は……。」

ロツクオン「甘ったれた事を言っつてんじゃねえよ!!そんな甘ったれた事が通じていいのかよ!!」

キラ、ハルト、サキ、凱、シヨーコ「……。」

ロツクオン「俺は自分の行為に非を認めない奴は許せねえんだよ!!」

ハーマン「もうやめないか。今回の不問とする。」

ロツクオンがシヨーコに暴行して法廷は乱れてしまい、今回の件は不問となったが、

ロツクオン「都合悪い時はなかったことにするのかよ?」

ハーマン、マリユー、ムウ、ナタル「……。」

ロツクオン「軍人も何も言えないのか?はつきりしろよ!!」

ガイ「おまえ、何かあったのか?」

ロツクオン「あああ、俺の家族はテロに殺された。そんなテロが許せないんだ!!わかるか!!俺の家族を殺ろしたテロが誰なのかはつきりわかっていない。そんな事が許されいいいのか?!」

ハーマン「落ち着くんだ。」

ロツクオン「落ち着けるかよ?そんな事があつてたまるかよ!!」

キラ達の取った行動を不問にして怒りを爆発させたロックオンは、過去に家族がテロに殺されてそんな事が許されないと強く怒った。

## 地球

その頃地球では、ウルトラマンゼロの討伐命令が出た地球連合所属のガイロス帝国陸軍1個師団がウルトラマンゼロを相手に交戦していた。

ガイロス帝国兵1「はああああー!!」

ウルトラマンゼロを討伐すべく必死に総攻撃にかかり、アイアンキングの右肩にあるロケット弾ランチャーを発射してウルトラマンゼロに攻撃した。

ウルトラマンゼロ「こんな豆鉄砲みてえのは痛くも痒くもないぞ。」  
ガイロス帝国兵1「このデカ物が!!」

アイアンキングがウルトラマンゼロに近づいてアイアンハンマーナックルで殴りかかっていたが、

ウルトラマンゼロ「そんな無意味な攻撃じゃ2万年早いぜ!!」

接近しかかって来るアイアンキングにウルトラマンゼロが右手からストレートして吹き飛ばした。

ウルトラマンゼロ「今楽にしてやる。」

頭にあるゼロスラッガーを出してガイロス帝国陸軍の1個師団のゾイドの関節部を次々と斬り込んでバラバラにした。

ガイロス帝国兵2 「ひいひいひいっ!!」

ウルトラマンゼロの圧倒的な強さに驚愕して怯えるガイロス帝国兵達。

ウルトラマンゼロ 「俺を倒すなど2万年早いぜ。」

ガイロス帝国陸軍の1個師団を一瞬で葬ったウルトラマンゼロはそのまま立ち去った。

移動中

ウルトラマンゼロ(刹那)「連中は俺とウルトラマンゼロの動きに警戒している。」

ウルトラマンゼロ「エンブリヲと101人評議会が俺らを討つために動きに来たか。」

ウルトラマンゼロ(刹那)「世界全体を裏から操るエンブリヲと101人評議会。」

???

男マガウス1 「ウルトラマンゼロめ、またしても邪魔をしたか。」

男マガウス2 「こいつのせいで台無しではないか。」

女マガウス1 「我々の宿敵ウルトラマン、このままでは時間の問題だ。」

老人マガウス1 「奴らの仲間が来るのも時間の問題だ。」

男マガウス1 「エンブリヲ様は、何をしておられるのだ?」

エンブリヲ 「私を呼んだのか?」

マガウス一同 「エンブリヲ様。」

エンブリヲ「話は聞かせてもらった。ウルトラマンゼロの討伐に失敗したみたいだと。」

世界を裏から操るエンブリヲと101人評議会、彼らの素性は一

体。

次回  
4話へ続く

## 第4話 惨劇

オービットベースに到着したアークエンジェル。今回、キラとハルトとサキと凱とシヨークが勝手にラクスとリーゼロッテを返した事で法廷が開かれたが、ロツクオンが暴行したため不問となった。

宇宙

オービットベース

セカンドオーダールーム

大河「よく無事で来たGGG隊員の諸君、共和国の軍人の方々も。」  
バン「宇宙での戦いは本当大変だったよ。」

大河「バン君、凱君達と一緒に頑張ったな。」

バン「いやあ、それほどでも。」

護「凱兄ちゃん。」

凱「護も留守番どうだった？」

護「やっぱ凱兄ちゃんと一緒がいいなって。」

凱「次はちゃんと連れてってあげる。」

テイエリア「大河長官、ヘリオポリスで開発した新型機は既にガンダム4機はザフト軍の手に落ちました。」

大河「むう、敵はこちらの事を既に気付かれていたかもしれない。」  
テイエリア「となると既にスパイを送り込んで情報を入手して、ヘリオポリスを襲撃した。」

火麻「今回の件で俺達や共和国が中立国に手を出した事で ザフト軍や地球軍の連中が目を付けるようになって来やがった。」

麗雄「中立国に手を出してしまった以上ワシらもタダでは済まされん。」

大河「うむ。」

今回、新型機の開発を中立国のコロニーのヘリオポリスで開発した事がきっかけで自分達GGGとヘリック共和国の行為が今後ザフト軍と地球連合軍に目を付けられることになった。

大河「先ほど彼が暴行した事には申し訳ない。」

シヨーコ「私は殴れた事は気にしてません。」

キラ「彼はテロで家族を殺されたって？」

大河「ロックオンⅡストラトスは少年時代にガイロス帝国のアイランドで起きたテロで家族を失い、家族を失った事でテロに対して激しい憎しみを抱えており、家族の命を奪ったテロを許せずにいた。」

ガイ「ロックオンはガイロス帝国のアイランド出身か。」

キラ「彼にそんな事が・・・？」

大河「彼は今でも家族を殺したテロが誰なのか探っている。」

ロックオンの過去をGGGの長官である大河の口から彼は少年時代にガイロス帝国のアイランドで起きたテロで家族を失い、テロに対する激しい憎しみを抱えており、今でも家族を殺したテロを探っている。

ガイ「大河長官。」

大河「どうやら彼は過去の事を思い出させてしまったようだ。」

またオービットベースへ到着した一同はスワンに案内されてもらいながら中を見回った。

霊屋「これがGGGのオービットベースの中なんだ。なんか広すぎるよ。」

タカヒ「なんだか凄いところに来てしまったようですわね。」

リオン「普通のコロニーとは違うみたいね。」

カズイ「俺達はなんだか凄いところに来ちゃったな。」

トール「そうだな。」

ライゾウ「建物の外が金ピカみてえだ。」

スワン「オービットベースの中はいかがなさいましたデスカ？」

霊屋「いろいろもつと見てみたい。」

スワン「じゃあ私がいろいろな場所をあなた達に案内してあげま

す。」

スワンがオービットベース内の様々な場所を案内してもらい、霊屋達は楽しそうにした。

エルエルフ「……………」

そんな中、エルエルフがある事に企みを企てていた。一方、アークエンジェルに残ったサトミはとある事に用があつた。

### 3 番格納庫

アークエンジェル  
部屋

サトミ「おい、アキラ、いるか？」

サトミは妹のアキラを探しに部屋に入り込んだ。

アキラ「……………」

サトミ「オービットベースに着いたんだけど、良かったら……………」

アキラ「私は行きたくない。出てつて。」

サトミ「そんな事言わずに行こう。」

アキラ「出て行ってよ!!」

アキラを誘おうとしたら無理やり追い出されたサトミ。オービットベースではエルエルフの企みで既に狙われている事に気付かず、またもう一つの魔の手が迫ろうとしていた。

オービットベース

廊下

アードライ「……………」

既にオービットベースに潜入したザフト軍のアードライがあり、彼はCCから与えられた命で密かにオービットベース内の情報を探りに行動していた。また同じ頃、

宇宙

移動中

ニコル「こちら、ニコル。ただいまオービットベースへ向かっています。」

ゼロ(ルルーシュ)「オービットベースの中を襲撃させる作戦は任せろ。」

ニコル「ブリッツンレーゲン!!」

黒の騎士団のゼロから命令を受けてオービットベースへ向かうニコルのブリッツ。ブリッツは敵に見つからないように機体にあるミラージュコロイドを展開して機体の姿を消して光学迷彩のように透明化した。

斑鳩

ブリッツ

扇「ゼロ、ザフトと組んで良かったのか？」

ゼロ(ルルーシュ)「ザフトは最初から利用しているだけに過ぎない。向こうも最初から我々の事を利用している。」

玉城「流石じゃねえか、ゼロ。」

カレン「今は作戦専念した方がいいみたいね。」

ゼロ(ルルーシュ)「そうだな、ブリッツがオービットベース内を襲撃させれば一気に制圧にかかる。」

CC「お手並み拝見だ。その前にアードライを先に向かわせた。」

ゼロ(ルルーシュ)「彼をか？」

CC「彼にオービットベース内の情報を探らせて、今後の手掛かりに。」

ゼロ(ルルーシュ)「なるほど。」



ヒルガ「おい、ゼロ。」

ゼロ（ルルーシュ）「ヒツポリト星人ヒルガか。」

ヒルガ「派手にぶつ放そうぜ。終わったら豪快に盛り上げてやろうじゃねえか。」

ゼロ（ルルーシュ）「いいだろう。」

ヒルガ「それと俺も行かせてくれよ、いいよな?」

ゼロ（ルルーシュ）「ニコルが行動起こしてからだ。」

ヒルガ「んじゃ、外で巨大化して待機するぜ。」

ニコルのブリッツとがミラージユコロイドを展開してオービットベース内を襲撃して一気に制圧する作戦を出すゼロの率いる黒の騎士団とザフト軍のガモフと宇宙人同盟のヒツポリト星人ヒルガ。

オービットベース

セカンドオーダールーム

大河「ヘリオポリスから回収した避難者は?」

マリユール「既にオービットベース内に待機させています。」

大河「ご苦労。」

ハーマン「大河長官。」

大河「ハーマン中佐。」

ハーマン「ストライクとヴァルヴレイヴ1、4の件ですが、」

大河「パイロットはヘリオポリスの学生だと。」

ハーマン「はい、軍の機密兵器を勝手に乗り込んでその高い操縦技術でザフト軍の機体を圧倒しました。」

大河「そうか。」

ハーマン「既に軍の機密兵器を知った彼らとその学生達は今後共和国の一員としてやらねばならなくなるでしょう。」

大河「彼らには今後厳しい運命が待ち受けていくかもしれない。」

ハーマン「ええ。」

医務室

モレノ「身体を調べた結果、マギウスになった君達2人は普通ではなくなった。」

ハルト「やっぱりもう……。」

モレノ「もう二度と普通の人間には戻れない。」

ヴァルヴレイヴの起動の際にディスプレイに『アナタハニンゲンヤメマスカ』と言う表示が出てYESを押しして何か注入されてマギウスになったハルトとサキはGGGの医師のモレノから身体を調べた結果、マギウスになった2人はもう二度と普通の人間には戻れなくなつたと告げられた。

サキ「あたしはマギウスになつて気に入つたわ。」

ハルト「流木野さん、本気で言ってるんですか？」

サキ「あたしはこの身体は気に入ってるわ。だって普通じゃないからこんな素晴らしいのなつたんでしょ。」

ハルト「それは危険過ぎる、いつまた僕が凶暴化した時は起きてしまふか？」

サキ「殴つて気絶させばいいだけのことよ。」

ハルト「うっ。」

アンジュ「私もどうしたらいいのでしょうか。」

モモカ「私がアンジュリーゼ様のために一度、ここの建物の管理人に話をしてきます。」

アンジュ「お願い。」

モモカはアンジュの事で話をしに部屋を出て向かった。

アイナ「えっと、あなたは確かアンジュリーゼさんですね。」

アンジュ「私に何か？」

アイナ「随分辛かったでしたね。」

アンジュ「私は普通に平穏な日々を送っていました。洗礼の儀の日に私は兄に嵌められてノーマだと知らされて私は全て失つたので

す。」

アイナ「周りがあなたを嫌っても私はあなたを嫌いにはなりません。」

アンジュ「えっ?」

アイナ「あなたも私やみんなと同じよ。ナチュラルやコーデイネーターやマナや宇宙人だってきつと仲良くなれると思うの。」

アンジュ「私の事を嫌っているプラントの人間は仲良くなれると思えません。」

アイナ「私はあなたの事を仲良くしたい。」

アンジュ「?」

アイナ「だから私、みんなと仲良く出来たらいいなって。」

アンジュの事を気にかけるアイナはどの種族共みんな仲良く出来たらいいとその思いを願った。

アイナ「ハルトさん、流木野さん、マジウスと言うのになつちやつたけど。私マジウスよりカミツキと言う呼び方がいいかしら?」

ハルト、サキ「カミツキ?」

アイナ「神が憑いているの。そのマジウスって言うのは神が憑いているんじゃないかと思ってるの。」

ハルト「いい名前だね。」

サキ「あたしはマジウスよりカミツキの方がいいわ。」

アイナ「じゃあカミツキで決まり。」

アイナはハルトとサキの持つ能力をマジウスでなくカミツキと言う名称にし、神が憑いているとそう思ったから。だが、その時オービットベース全体が突如シャッターで閉められて中全体の通路が閉まってしまった。

ハルト、サキ、アイナ「?!」

セカンドオーダールーム

凱、護、ガイ、キラ、大河、火麻、ハーマン、マリユー、ムウ、ナル「?!」

廊下

スワン、霊屋、タカヒ、リオン、カズイ、トール、ミリアリア「?!」

突如、通路にシャッターが締め出されて、中にいる者達は混乱し出した。

宇宙

オービットベース外

ニコル「?!」

ミラージュコロイドを展開したニコルのブリッツがオービットベースの入り口を入ろうとしたら突如シャッターが締め出されて侵入不可能となった。

ニコル「これは?!」

突如入り口がシャッターで閉められてしまい、もう少しで入れたのを突然の出来事に入れなくなってしまい、作戦が台無しになってしまった。

斑鳩

ブリッツ

ゼロ（ルルーシユ）「何、シャッターが閉められて入れなくなっただと?!」

ニコルのブリッツからの通信でその報を聞いたゼロは、すぐに作戦を変更してそのまま斑鳩、ガモフと共に発進して機体を出撃させて総

攻撃を仕掛けていく。

オービットベース

医務室

ハルト「これは一体?!」

エルエルフ（音声）「このオービットベースは制圧した。」

ハルト「この声はエルエルフ?!」

セカンドオーダールーム

ガイ「エルエルフの仕業か?!」

エルエルフ（音声）「時綺ハルト、キラ||ヤマト、クレナイガイ、獅子王凱、アンジュリーゼ||斑鳩||ミスルギ、解放したければ2番格納庫まで来い。」

凱「何で俺の名前まで。」

キラ「あのザフトの白髪、僕達に用があるのか。」

ガイ「行くしかない。」

医務室

アンジュ「どうして私の名前までが?」

ハルト「わからない、君はここにいるんだ?」

アンジュ「いいえ、行きます。理由がどうして私を呼んだのか知る必要があります。」

ハルト「わかった、一緒に行こう。」

オービットベースを解放する条件としてハルト、キラ、アンジュ、凱、ガイの5人が2番格納庫に行くことで、5人は解放するために4番格納庫へ向かった。

4番格納庫

ガイ「来たぞ、エルエルフ!!」

エルエルフ「ようやく来たか。」

凱「なぜ俺達を呼んだ、目的は何だ?!

アンジュ「私をなぜ呼んだのですか?」

エルエルフ「お前達の持つ力だ。」

ハルト「僕達の力?」

エルエルフ「そうだ、時縞ハルト、お前はマジウスと言う力を持っているようだな。」

ハルト「なぜ知っているんだ?!

エルエルフ「船に潜伏している間、聞き取らせてもらった。」

ハルト「何てことだ、お前が潜伏していたなんて。」

エルエルフ「クレナイガイいやウルトラマンオーブ。」

キラ「えっ、彼がウルトラマンオーブ?!

ガイ「……。」

ハルト「クレナイさんがウルトラマンオーブ……?!」

エルエルフ「そうだ、お前達を助けるたびに彼はウルトラマンオーブに変身して星人と怪獣と戦った。」

ガイ「……。」

エルエルフの口からガイがウルトラマンオーブの正体だと知り、驚くキラとハルト。

アイナ「あつ。」

また偶然、ハルト達に着いて来たアイナは格納庫の物陰に隠れていた。

エルエルフ「お前の力いや時縞ハルト達の持つ力があればプラントを革命する事が出来る。」

ハルト「革命?!

エルエルフ「そうだ、この力があればプラント、いや世界全体は変わる。クレナイガイ、答えは出たか?」

ガイ「断る。その力はお前みたいな奴のためには貸さない。」

エルエルフ「断るか。そう来たか。」

ガイ「何かを企んでいる者とは力を貸さない。」

エルエルフ「お前らしいな。」

アンジュ「なぜ私を呼んだのですか？答えなさい!!」

エルエルフ「アンジュリーゼⅡ斑鳩Ⅱミスルギ、お前の持っている指輪だ。」

アンジュ「指輪？」

エルエルフ「そうだ、その指輪があればここに眠られている物が目覚める。」

アンジュ「私の指輪で眠られている物？」

エルエルフ「その指輪があれば眠られている物は目覚める。」

アンジュ「それは何なんですか？」

エルエルフ「いいだろう。」

プラントを革命する事が目的で彼らの持つ力に目を付けたエルエルフは、革命を成功させるために彼らの持つ力で手にかけて、アンジュがなぜ自分の持つ指輪が必要なのか応えようとするが、

アードライ「エルエルフ!!」

その時、彼らの前にゼロの命令で先に潜伏したザフト軍のアードライが現れた。

エルエルフ「アードライか。」

ハルト「知っているの？」

キラ「ザフトの仲間か？」

エルエルフ「昔の仲間だ。」

アードライ「お前が何故ここにいる？それに何故アンジュリーゼまでいるんだ？」

エルエルフ「俺を迎えに来たか？」

アードライ「エルエルフ？」

エルエルフ「俺にはこいつらが必要となる存在だ。」

凱「何だと?!俺達はお前の配下になった覚えはない!!」

エルエルフ「いずれはなる。」

アードライ「どうしたんだ、エルエルフ?何があつたんだ?」

エルエルフ「俺はこいつらの持つ力、その力に目を付けただ。」

アードライ「エルエルフ、私と一緒に革命を起こすはずじゃなかったのか?」

エルエルフ「俺にはこいつらさえ入ればいい。」

アードライ「エルエルフ、お前!!」

その時、第4格納庫のシャッターが爆発してその破片が散つてきた。

一同「!!」

すぐに爆発した破片をかわすハルト達。

アンジュ「何が起きたのですか?」

ヒルガ「最初こうりや良かったんだよ。」

第4格納庫のシャッターを破つて現れたのはヒルガだ。

アードライ「ヒルガ!!」

ヒルガ「お前は先に戻つてな。」

アードライ「エルエルフがいるんだぞ!!」

ヒルガ「派手にぶつ放そうじゃねえか!!」

ヒルガは両腕に装着されてるヒッポリトミサイルユニットを前に向けてミサイルを一斉発射した。

エルエルフ「!!」



凱「すぐに逃げろ!!」

ヒルガのヒツポリトミサイルユニットからミサイルを一斉発射されて中全体にぶち込まれて第4格納庫が爆発した。

キラ「!!」

凱「危ない!!」

ミサイルの爆発で破片が落下して来るのを凱が並外れたジャンプをして素手で破片を振り払った。

キラ、ハルト、アンジユ「あつ。」

凱が並外れた能力を見て驚いたキラとハルトとアンジユ。

エルエルフ「これがお前の力か、獅子王凱、いやサイボーグ凱。」

キラ「サイボーグ?」

凱「くつ。俺の事も調べていたのか?」

エルエルフ「今は話してる場合じゃない。」

ヒルガ「もういっちょ行くか!!」

アイナ「!!」

ヒルガが再び両腕のヒツポリトミサイルユニットからミサイルを乱射されて、凱はキラとハルトを抱えながらすぐに回避したが、その乱射したミサイルが物陰に隠れていたアイナに直撃して爆発により死亡した。

ヒルガ「これは盛り上がるぜ!!」

アードライ「やめろ、エルエルフがいるんだ!!今すぐにやめろ!!」

ヒルガ「悪い、悪い。それとそろそろ出たほうがいいぜ。仲間

達が出迎えた。」

オービットベース付近にゼロ(ルルーシュ)の率いる黒の騎士団、ガモフが現れて、オービットベースを総攻撃するために機体を発進させた。

アードライ「予定より早いではないか?！」

ヒルガ「言い忘れてた。この基地にシャッターが閉まってブリッツが入る事に失敗しやがったんだ。」

エルエルフ「ネズミの潜入などお見通しだ。」

ヒルガ「何だと?！」

ガイ「(あいつ、そんなに早くから気付いてたか。)」

ヒルガ「一旦出るぞ。」

アードライ「ああ。」

アードライは自身のバッフエに乗りながらヒルガと共にオービットベースを出て仲間達と合流した。

セカンドオーダールーム

命「敵機出現です!!」

大河「こんな時に。」

火麻「どこのどいつだ?！」

命「ザフト軍と黒の騎士団と宇宙人同盟です。」

火麻「ザフト軍と宇宙人同盟、さらに今度は黒の騎士団までもかよ!!」

宇宙で幾たびに戦ったザフト軍と宇宙人同盟が再び現れ、さらに今度は黒の騎士団まで現れて窮地に陥った。敵の出現で既に出撃したサキのヴァルヴレイヴ4とロックオンのデユナメスが交戦していた。

サキ「いきなり現れてくるなんて!!」

ロックオン「とつとと終わらせるぞ!!」

すぐにザフト軍と宇宙人同盟と黒の騎士団を撃退して終わらせにかかるサキとロックオン。

イクスアイン「来たか。ハーノイン、あれをお見舞いしてやれ。」

ハーノイン「お見舞いしてやるぜ。」

イクスアインはハーノインにあるものをヴァルヴレイヴ4とデユナミスにお見舞いするためにハーノインのイデアールから多数のブーメランのようなのが射出して2機の全身に取り付かせた。

ロックオン「ん、なんだ？」

オレンジハロ「機動力低下、機動力低下!!」

ロックオン「何?!」

サキ「どうなってるの?!」

ハーノインのイデアールから射出された多数のブーメランによって貼り付けられて機動力が低下してしまったヴァルヴレイヴ4とデユナミス。

イクスアイン「この電磁吸着ブーメランはあらゆる機体の機動力を奪う事が可能だ。」

玉城「今のうちに仕留めてやるぜ。」

電磁吸着ブーメランによって機動力を奪われたヴァルヴレイヴ4とデユナミスにその隙を突いて攻撃にかかってきた。

ロックオン「まずいぞ。」

サキ「このままじゃ埒が明かないわ。」

電磁吸着ブーメランによって身動きが出来ず、ピンチに陥ったサキとロツクオン。

ゼロ(ルルーシユ)「このまま一気に仕留めるぞ。そしてオービットベースを制圧だ。」

身動き出来ない2機を仕留めてオービットベースを制圧にかかるゼロ(ルルーシユ)。その時、彼らの前に立ち塞がりかかったハルトのヴァルヴレイヴーが現れた。

サキ「ハルト。」

ハルト「狙うのは電磁吸着ブーメランをコントロールしているハーノインのイデアール。」

ハルトはエルエルフが出された指示に従い、エルエルフの書いた紙を読みながら行動し、狙うのはハーノインのイデアールの破壊でなく電磁吸着ブーメランをコントロールしている射出装置を狙う事だ。

ハルト「ハーノインは接近してくる相手に接近戦に熱くなり、その間に隙が出来る。」

ハルトはエルエルフの書いた紙の指示に従っていながら相手の特徴も読み、ハーノインは接近戦に熱くなって隙が出来き、ハルトはヴァルヴレイヴーをハーノインのイデアールに接近させていく。

ハーノイン「接近戦か、おもしれえ、やってやろうじゃねえか!!」

接近してくるヴァルヴレイヴーに対してハーノインは自分の得意な接近戦にかかり、早速接近戦に熱くなって挑みにかかった。

ハルト「来たか、そこか!!」

接近して来たハーノインのイデアールの間合いを取りながら左に回ってボルグ・アームで射出装置を破壊した。

ハーノイン「うわあつ。」

接近戦に取られて射出装置を破壊されてしまい、破壊された事でヴァルヴレイヴ4とデュナメスにくっ付いた電磁吸着ブーメランは剥がれて機動力は元に戻った。

イクスアイン「敵は何故そんな事が。」

アードライ「エルエルフだ、こんなことを出来るのはエルエルフだ!!」

ゼロ（ルルーシュ）「流石だ、お前の戦いを見せてもらった。」

CC「どうする?」

ゼロ（ルルーシュ）「ここは引く。総員、撤退する!!」

ただちに撤退命令を出して撤退したゼロ（ルルーシュ）達。

#### 第4格納庫

キューマ「おーい、無事か?」

キラ「犬塚先輩。」

キューマ「無事だったんだ。」

キラ「はい。」

凱「あのザフトの人間のおかげで。」

エルエルフ「・・・。」

キューマ「ザフト人間。ん?」

キューマは宙に浮いているの見た。

キューマ「!!嘘だろ……。」  
ガイ「どうした?……!!」

キューマが宙に浮いているのを見て愕然としたのは、それはヒルガの攻撃によって死亡したアイナだった。

キューマ「アイナ、アイナ、アイナあぁっ、わあああああー!!」

駆けつけたキューマはアイナの死を見て泣き叫んだ。戦いに勝ったのもまた犠牲者が出ってしまった。

次回 5話へ続く

## 第5話 暗黒の大決戦

戦いが終わったハルト達は偶然アイナが死んだ事を知った。

オービットベース

廊下

キューマ「なんでだ、なんでだ、なんでアイナは死ななきやならなかつたんだ!!なあ、お前達はアイナがあの場合にいて気付いていただろ!!」

ハルト「アイナちゃんが死んだ・・・?!」

サキ「犬塚先輩、落ち着いて。」

キューマ「落ち着けるわけないだろ!!側にいた女と付き人がザフトと内通しているに違いないだろ!!」

アンジュ「私とモモカは内通何てしていません、私とモモカは本当に何もしてません。」

キューマ「ふざけるな!!アイナが死んだのはお前らのせいだ!!お前らのせいでアイナは・・・!!」

ガイ「やめろ、2人は何も関係ない。2人はザフトとは内通していない。」

ハルト「ガイさん。」

ガイ「おそらく敵がオービットベースの情報を探りに潜入した可能性があり得る。オービットベースを制圧するために。」

キューマ「うつ、くうつ、ううううつ。」

キラ、ハルト「・・・。」

凱「あの時早く気付いていれば。」

あの時早くアイナの存在に気付いていれば彼女を助ける事が出来ていた。全く気付けなかった自分に悔しさを感じるしかなかった。一方、自分の存在を知られて共和国とGGGの面々に連行されたエルエルフは、

会議室

エルエルフ「……。」

大河「君を捕虜とする。」

エルエルフ「この俺をか。」

火麻「こいつをどうしていくんだ？」

ハーマン「彼にはいろいろ聞きたい事もある。」

エルエルフ「俺はもうザフトには戻らない。」

火麻「ザフトに戻らねえ？ どういう事だ？」

エルエルフ「この方が俺にはいい。」

火麻「敵国の人間が何で俺達のところがいいんだ？」

エルエルフ「お前達の保持している力だ。」

ハーマン「保持している力？」

エルエルフ「ガンダムやガオガイガーなどだ。ここには大きな力が秘められている。俺はここに潜入して全員の事を調べつくしていた。」

ハーマン「何?!」

エルエルフ「無論お前達の事も調べた。」

エルエルフはオービットベースに潜入した際に全員の事を全て調べつくしており、彼はオービットベースには大きな力を秘めていると言った。

#### 第4格納庫

リオン「うっ、うううっ。 櫻井さん、ごめんなさい、私としたことが。」

教師であるリオンは自分が目を逸らしてしまったせいで生徒のアイナが死んでしまった事で泣きながら血が染まった床を雑巾で拭いた。泣いている彼女の前に同じ教師でありヘリオポリス崩壊に一緒に脱出した貴生川が近くにやって来た。



貴生川「七海ちゃん、無理はしなくてもいいんだよ。」

リオン「私は教師なんです、生徒の安全を考えるのも教師の役目なんです。だから、私は。」

貴生川「……。」

食堂

キラ「凱さん。」

凱「何だ？」

ハルト「話があります。」

凱「俺がサイボーグだった事か。」

キラ、ハルト「はい。」

凱「俺は3年前に起きた事件でこんな姿になったんだ。」

キラ「3年前？」

凱「俺は宇宙開発公団所属のパイロットとして新型シャトルのテスト飛行中に謎のE1101との衝突に遭い、瀕死の重傷を負った。瀕死の重傷を負った俺を救ってくれたのは宇宙から飛来したギヤレオンに運ばれて、俺は父さんにサイボーグ手術を受けられて今の姿になったんだ。俺はこのGストーンで俺の命を繋いでいるんだ。」

キラ「そんな大変な事があったんですか。」

ハルト「E1101とギヤレオン？」

凱「ギヤレオンはライオン型ロボット、俺とフュージョンしてガオガイガーとして戦った。E1101、ゾンダーの親玉。俺達はゾンダー、それに地球連合軍とザフト軍と黒の騎士団と宇宙人同盟、そして世界を裏で操っている黒幕を倒すために俺は戦い続けて来た。ゾンダーとの東京大決戦でゾンダーを倒したが、新たな敵、機界原種が現れてさらに戦いは増していった。」

キラ「そんな事があったんですか。」

凱「だが、俺は原種の出現で戦っている間に俺や命の母校でもあり、護の学校であるアッシュフォード学園が襲われたんだ。」

キラ、ハルト「えっ？」

凱「スローネと言う3機のガンダムによって俺と命の母校の学園は

破壊されて生徒はたくさん死んでいった。」

ハルト「ひどい。」

凱「俺はニーナとシャーリーを救えず、そのせいでルイスは左手を失ってしまった。俺が弱かったから3人いやみんなを助けられなかった。」

キラ「……。」

凱はサイボーグになる前は宇宙開発公団所属で、3年前に新型シャトルの飛行中に宇宙から飛来したE-101との衝突に合つて瀕死の重傷を負い、そんな彼を救ったのは宇宙から飛来ライオン型ロボットのギャレオンに救われて運ばれ、彼を救うため父の麗雄によりサイボーグ手術を受けてサイボーグとなり、サイボーグとなった彼は命を繋ぐGストーンによつて今を生きて来て、彼はゾンダー、地球連合軍とザフト軍と黒の騎士団と宇宙人同盟、そして世界を裏で操っている黒幕を倒すために日々戦い続け、東京大決戦でゾンダーを倒して勝利をしたが、突如新たな敵機界原種の出現で戦いはさらに増していき、原種の出現で交戦している間に自分や命の母校でもあり、護の学校でもあるアツシュフォード学園がスローネと名乗る3機のガンダムによつて破壊され、大勢の生徒が死亡し、その中でニーナやシャーリーも死亡し、そのせいでルイスは左手を失ってしまい、助けに行けなかった自分の弱さに悔しさを感じた。

キラ「悲しい事があつたんですね」

凱「俺は二度とニーナやシャーリーやルイスのような事を繰り返させたくない。この先ずっと。」

ハルト「凱さん、世界を裏で操っている黒幕って。」

凱の過去の事をキラとハルト。ハルトは世界を裏で操っている黒幕を聞こうとしたらそこにもう1人のガイ如くウルトラマンオーブが近くにやって来た。

ガイ「……。」

キラ「クレナイガイさん……。」

ガイ「俺がウルトラマンオーブだった事か。」

ハルト「はい。」

ガイ「ああ。」

キラ「どうしてあなたがウルトラマンオーブだったんですか？」

ガイ「俺はその光に選ばれてウルトラマンオーブになったんだ。」

キラ「光？」

ガイ「その光は俺を選んだ。光に選ばれた俺はウルトラマンオーブとなって宇宙を守るために戦い続けて来た。俺は戦いの中どんなにいくつか辛い事に遭い、その辛い事を過ごして今の俺、ウルトラマンオーブがあつたからだ。」

ハルト「あなたも辛い事があつたんですね。」

ガイ「あああつ。俺がウルトラマンオーブだって知っているのは一部の人間しか知らない。」

ハルト「あなたがウルトラマンオーブだって知っているのは大河長官やハーマン中佐だけなんですか？」

ガイ「ああ。」

凱「彼がウルトラマンオーブだって俺も知っている。」

ハルト「あなたもですか？名前が一緒ですね。」

ガイ「俺と同じ名前の人間ががこの世界人間いるなんて奇遇だな。」

凱「そうだな。」

キラ「クレナイガイさんは何をしにここへ？」

ガイ「この世界を裏で操っている黒幕を探しに来た。」

ハルト「黒幕？」

ガイ「その黒幕はこの世界全体を操り、政治や経済などあらゆる分野を意のままに牛耳り、自分の思い通りのままに操り、そしてこの戦争も奴らによって踊らされている。」

キラ「……。」

ガイ「詳しいことはまだ言えない。」

ハルト「世界全体を操る黒幕。」

ガイはこの世界へ来た理由、この世界全体を操る黒幕を探し出すため、政治や経済などを意のままに操り、そして戦争も自分の思いのままに操り、世界全体を牛耳り支配し続けた。

護「凱兄ちゃん。」

凱「護。」

ハルト「この子？」

護「僕は天海護。2人が共和国の機体乗って戦ったパイロットなんだね。」

キラ「うん。」

ハルト「そうだよ。」

キラ「僕は大事な友達を守るためにガンダムに乗って戦ったんだ。」

護「大変だったね。」

ハルト「君はどうしてここに？」

護「ゾンダーにされた人を浄化して元に戻すためにだよ。今は原種が出てきて原種の核を浄化する事が出来ないんだ。」

キラ「君は戦いは怖くない？」

護「怖いよ。でもやらなきゃいけないんだ、みんなを、友達を守りたいんだ。」

ハルト「君も同じなんだ。」

護「うん、さつき大河長官からペンダントを渡してくれたんだ。」

凱「これは？」

護「少し変わったGストーンだよ。ギャレオンに会って試そうかと思ってるんだ。」

凱「早速行こう。」

早速ビッグオーダールームへと向かった凱達は、護が大河から貰ったGストーンが入ったペンダントでギャレオンに試し見ようとする。

ビッグオーダールーム

雷龍「なんて事だ、第4格納庫に1人死んでしまうとは。」

風龍「人を救えないままじゃ僕達は失格だ。」

炎竜「2人とも落ち着くんだ。」

雷龍「炎竜。」

炎竜「今回起きた事は残念だったが、その次を繰り返さないために僕達はその反省を生かして二度と起こさないようにする事だ。」

氷竜「私と炎竜はこれまで今まで数々の人命救助を幾たびに人の命を大勢救って来た。」

炎竜「お前達2人はまだ人命救助と言うのはまだ初めてだ。僕達がいろいろ教えてやる。」

雷龍「よろしく頼む。」

風龍「こちらこそよろしくお願いします。」

人命救助がまだ初めての雷龍と風龍に自分達が兄である炎竜と氷竜がまた誕生したばかりの2人の事をいろいろな事を教えていく。

護「……………」

護はGストーンが入ったペンダントを持ったまま浄化モードになつて、ギャレオンに触れた。

ギャレオン「……………」

マリユー「この子は?!」

火麻「何か変わった事はなかったか？」

護「……………」

突如、Gストーンが入ったペンダント輝きだした。

一同「?!」

輝き出したGストーンが入ったペンダントから人らしき姿が映し出された。

護「何?!」

??? 「時は来たれ。」

護 「あつ。」

??? 「我が名はカイン。」

護 「カイン、あなたは今どこに？」

??? 「時は来たれ。」

ペンダントから映し出された人物は消えた。

護 「僕は、僕は。」

だがその時護の持つGストーンが突如何かに反応した。

護 「原種・・・?!」

一同「!!」

護が原種の反応をした事で、原種がすぐに接近おり、ただに出撃をしたGGGの面々とアークエンジェル。

宇宙

アークエンジェル

ブリッジ

命 「護君、本当に原種の反応を感じたのね。」

護 「うん。僕もわからないけど本当なんだ。」

命 「マリユー艦長。」

マリユー 「もう既にいるわけね。」

護が原種の反応を感じて、地球の軌道上に現れたZX-06と量産されたゾンダーロボ軍団。

チャンドラ二世「原種現れました。」  
マリユー「各機発進!!」

ただにアークエンジェルは艦内にいる各機を発進させて、原種とゾンダーロボの迎撃にかかった。まだガイは原種とゾンダーロボの迎撃をするため、ウルトラマンオーブに変身するため、オーブリングを出して前にかざし、周囲が宇宙空間のように変化して衣装も黒いスーツに変化し、2枚のカードをリングにリードした。

廊下

ガイ「ウルトラマンさん、ティガさん、光の力、頼みます。」  
オーブリング「フュージョンアップ、ウルトラマンオーブスペシウムゼペリオン。」

2枚のカードをやりードしたガイはウルトラマンオーブスペシウムゼペリオンに変身して原種とゾンダーロボ軍団に挑んだ。

宇宙

サキ「ハルト、アイナさんのような出来事は絶対に繰り返させないようにするわ。」  
ハルト「わかっているよ。」  
キラ「あんな事絶対にさせない。」

アイナの死の出来事を繰り返させないために敵を絶対に倒すつもりでいくキラ達。

マイク13世「僕も頑張るよ。」  
ビッグボルフオッグ「敵は原種、量産されたゾンダーロボ。原種は何をしてくるかはまだわかりません。」  
マイク13世「わかったよ。」

炎竜と氷竜と雷龍と風龍とゴルデューマーグと同じ勇者ロボのマイクとビッグボルフオッグも出撃し、原種とゾンダーロボを相手に挑んだ。マイク13世は兄弟機の1号機から12号機と共に原種の破壊に出た。

マイク13世、マイク1と12号機「システムチェンジ!!マイク  
||サウンダース13世!!」

マイク13世とその兄である1号機から12号機までが一斉にブームロボに変形し、ディスクXを挿入した。

マイク13世「ディスクX、セット!!カモン、ロックンロール!!」

ディスクXを挿入したマイクサウンダース13世とその1号機から12号機までが円陣を組んでZX-06にソリタリーウェブを一斉に放った。

ZX-06「.....」

マイク部隊のソリタリーウェブ攻撃にたいし、ZX-06は周囲にある小惑星を念動力で操作しながら攻撃した。

マイク13世、マイク1と12号機「うわああああー!!」

ZX-06の念動力による小惑星攻撃でマイク部隊をなぎ払った。

凱「マイク!!」

ビッグボルフオッグ「来ます!!」

凱「!!」

ZX-06「.....」



ZX-06が命令で動くE-02とE-05の大群迫って来た。

ウルトラマンオーブスペシウムゼペリオン(ガイ)「雑魚は俺が倒してやる!!」

凱「ガイ。」

ウルトラマンオーブスペシウムゼペリオン「お前達は原種を任せただぞ。」

原種を凱達にならせてウルトラマンオーブスペシウムゼペリオンは量産型ゾンダーロボ軍団を1人で相手に挑んだ。数体のE-02の右手から荷電粒子砲を発射した。

ウルトラマンオーブスペシウムゼペリオン「!!」

素手で荷電粒子砲を振り払い、そのままパンチで次々とE-02を破壊していった。また高い機動力でウルトラマンオーブスペシウムゼペリオンの周り駆ける数体のE-05が突撃しかかった。

ウルトラマンオーブスペシウムゼペリオン「くっ!!」

高い機動力でウルトラマンオーブスペシウムゼペリオンに突撃したE-05。

ウルトラマンオーブスペシウムゼペリオン「このっ!!」

高い機動力で駆けてくるE-05に対してパンチで反撃するウルトラマンオーブスペシウムゼペリオン。ウルトラマンオーブスペシウムゼペリオンのパンチを素早く回避し、各機ごとに散乱して両肩のノズルから前方に荷電粒子砲を放った。

ウルトラマンオーブスペシウムゼペリオン「うっ!!」

数体のE1105による高機動を駆使した戦いに圧倒されるウルトラマンオーブスペシウムゼペリオン。

撃龍神「シヤントウロン!!」

超竜神「ダブルライフル!!」

ZX106を同時攻撃で追い詰めていく超竜神と撃龍神。

ロックオン「一気に決めてやる!!」

遠くからGNスナイパーライフルで目標を照準しながら狙撃するロックオンのデユナメス。

ZX106「……」。

ZX106は再び小惑星を操作しながらデユナメス、超竜神、撃龍神を攻撃した。

ロックオン、超竜神、撃龍神「うわああああー!!」

デユナメスと超竜神と撃龍神を蹴散らしたZX106は次はスターガオガイガーとエールストライクとヴァルヴレイヴ1とヴァルヴレイヴ4とブレードライガーABに迫った。

凱「気をつけろ、また何をしてくるかわからない。」

キラ「また隕石を使ってくるんですか?」

バン「早いところ済まさないと。」

サキ「ええ。」

ハルト「何とか終わらせないと。」

すぐでもZX-06を倒していきたいと言う思いで、相手は次は何して打ってくるのか警戒したが、その時アークエンジェルから緊急通信が入った。

チャンドラ二世「ラミアス艦長、オービットベースから緊急通信です!!」

マリユー「すぐに通信を。」

大河(映像)「ラミアス艦長、オービットベースは原種に総攻撃されている。」

マリユー「何ですって?!」

オービットベースの大河から緊急通信でオービットベースが原種に総攻撃されている事を知った。

ムウ「あそこにいるのは罔か?!」

ティエリア「本命はオービットベースだったのか。」

アレルヤ「急いで倒して戻らないと!!」

敵の狙いがオービットベースだった事で、地球の軌道上に現れた原種は最初から罔として引き付けるための時間稼ぎだった。その事を知って急いでZX-06を倒してオービットベースへ戻らなければならない。

ZX-06「……。」

その事を知った凱達を当然ZX-06もここで倒さなければならぬと金縛りを使って動きを封じた。

一同「わあああああー!!」

キラ「かつ、身体が、うつ、動かない!!」

サキ「機体も動けないわ!!」

ロックオン「手も足も出せれない!!」

ZX-06の金縛りに身動きを封じられた凱達。

ウルトラマンオーブスペシウムゼペリオン(ガイ)「こっちも金縛りで動けない!!」

EI-05と交戦しているウルトラマンオーブスペシウムゼペリオンまでも金縛りに身動きが封じられてしまい、このままZX-06の金縛りにより身動きが出来ないままになる凱達はそのまま為すべないのか?

バン「こうなったら奥の手を使いしかない、ジーク!!」

ジーク「グオ。」

ブレードライガーABに操縦しているバンはZX-06の金縛りを打破するために相棒のジークを呼び、バンに呼ばれたジークはブースターを展開しながらバンのブレードライガーABと合体して機体を正常化させて、合体したジークが機体を動かしながらZX-06の金縛りを打ち破った。

バン「ジーク、このまま一気に体当たりだ!!」

そのままZX-06に向かって突撃にかかりながらEシールドを展開して思いっきり体当たりした。

ZX-06「?!」

バンのブレードライガーと合体したジークの快心の一撃によりZX-06は動きを崩してしまい、凱達全員の金縛りが解かれた。

キラ「身体が動ける。」

ハルト「よし、これなら。」

ウルトラマンオーブスペシウムゼペリオン（ガイ）「やれるぞ。」

凱「一気に終わらせてやる。」

バンのブレードライガーABの体当たりでZXR06の金縛りが解かれて動けるようになって反撃開始する凱達。

ウルトラマンオーブスペシウムゼペリオン（ガイ）「一気に仕留めてやる!!」

高機動で奇襲する数体のEIR05に対し、ガイはオーブリングと2枚を出してリードした。

ウルトラマンオーブスペシウムゼペリオン（ガイ）「タロウさん、メビウスさん、熱いやつ頼みます!!」

オーブリング「ウルトラマンオーブバーンマイト!!」

2枚のカードをリードしてウルトラマンオーブスペシウムゼペリオンが変化し、ウルトラマンバーンマイトへと変わった。

ウルトラマンオーブバーンマイト「ストビュームダイナマイト!!」

ウルトラマンオーブバーンマイトは全身を7色に発光しながら炎を纏って大爆発して、数体のEIR05を蹴散らして破壊した。

凱「ガトリングドライバー!!」

スターガオガイガーの右腕にガトリングドライバーを装着しながら

らZXR-06に攻撃した。

サキ「ハルト、一緒に決めるわよ。」

ハルト「流木野さん、一緒に行こう。」

サキのヴァルヴレイヴ4とハルトのヴァルヴレイヴ1が一緒に合  
わせながらZXR-06に向かって遠距離から攻撃で、ヴァルヴレイヴ  
1はボルグ・アームによる射撃、ヴァルヴレイヴ4はスピンドルナツ  
クルに投擲で同時攻撃した。

ZXR-06「……。」

バン「キラ、俺の上に乗れ。」

キラ「わかったよ。」

バンのブレードライガーの上に騎乗したキラのエアーストライク  
がZXR-06に向かって突撃しながらブレードライガーのEシール  
ド、エアーストライクのビームサーベル2本で一気に猛撃した。

凱「よし、これで決めてやる!!」

ゴルディーマーグ「任せろ!!」

ZXR-06にトドメを刺すべくゴルディーマーグはスターガオガ  
イガーの右腕に合体すべく変形し、マーグハンドを装着し、手を握り  
ながらゴルディオンハンマーを掴み取った。

凱「ハンマーコネクト!!ゴルディオンハンマああああー!!」

ゴルディーマーグと合体したスターガオガイガーがゴルディオン  
ハンマーでZXR-06に向かってトドメを刺しにかかった。

凱「ふん、ハンマーヘルっ!!ハンマーヘブン!!うおおおおおー、  
原種よ、光になれ!!」

マーグハンドのタイヤから光の釘を出しながらZX106にゴル  
ディオンハンマーで打ち付けなら叩き、そして原種核を引き抜き、光  
となって消滅した。

ノイマン「原種撃破しました。」

マリユール「護君、任せたわよ。」

護「はい。」

ZX106の核を浄化すべく護が出てスターガオガイガーの元へ  
向かった。

凱「護。」

護「クラーテイオー!!テネリタース セクテイオー スルース  
コクトウーラ!!」

護は原種核を浄化を試し、結果無事浄化する事に成功した。

護「やった、やったよ、僕にも出来たよ。」

初めて原種核を浄化する事に成功した護。だがしかし、思わぬ事が  
起きた。

チャンドラ二世「大変です、突如巨大な空間が開きます。中から巨  
大な隕石が出てきます。」

マリユール「えっ?!」

ZX106が倒される直前にESウインドウを開いて中から巨大  
な隕石が現れようとしてきた。

撃龍神「とんでもないのが残ってやがった!!」

超竜神「・・・でかい・・・。」

ビッグボルフオッグ「直径10キロはあります。このままでは地球全体が滅んでしまいます。」

ESウインドウから現れようとした直結10キロの巨大な隕石が地球に落下しようとし、落下したら地球全体が滅んでしまう。

撃龍神「ならば、あれしかないな。」

超竜神「考える事は一緒か。」

クライマー1を使って隕石を押し返す事だ。

撃龍神「俺とあなたは言ってみれば兄弟だからな。」

超竜神「撃龍神。」

撃龍神「短い間だったが世話になったな、超竜神。」

超竜神「まさか、お前。」

撃龍神「あなたはGGGになくても成らない存在、この任務は新参者の俺にこそ相応しい。」

超竜神「待つんだ撃龍神!!」

撃龍神「言い争っている時間はねえ!!」

クライマー1に向かおうとする撃龍神。だが、超竜神が撃龍神を思いつき吹き飛ばしてクライマー1から突き放して、超竜神がクライマー1を装着した。

撃龍神「うおっ!!何しやがる超竜神!!待ちやがれ!!」

超竜神「これは私の仕事だ。」

超竜神はそう言いながらクライマー1で、巨大な隕石に向かった。



命「超竜神、巨大隕石に向かってます!!」

マリユー「えっ?!」

超竜神「うおおおおおー!!」

クライマー1を最大速度で巨大な隕石に突撃する超竜神は激突し、そのまま押し返した。

トノムラ「超竜神、隕石を押し返しました!!」

皆が超竜神が巨大な隕石をESウインドウに押し返すのをじっと見守った。

命「巨大隕石、99.9%後退!!」

ノイマン「ESウインドウ、消滅します。」

凱「超竜神!!」

撃龍神「俺は、俺はあんたに教えてもらいたい事が山ほど有ったのに……超竜神……バカヤロー!!」

凱「聞こえるか超竜神。」

超竜神「はい、聞こえます……。」

凱「いつの日にか、必ず、必ずお前を迎えに行くからな!!」

護「僕も一緒に行くから!!絶対!!」

超竜神「了解……しました……その時まで、弟を、撃龍神を頼みます……待っています、いつまでも……信じています、必ず、必ず再会できる日を……いつか星の海で……。」

これが超竜神の最後の通信だった、ESウインドウは消滅し、巨大な隕石も超竜神も消えた。超竜神の自己犠牲により、急いで原種に攻撃されているオービットベースへと向かった。

次回 6話へ続く

## 第6話 遙かなる凱旋

オービットベースが原種の攻撃を受けている事ですぐに急行するアークエンジェル。原種の総攻撃に対し、ヘリック共和国軍とジェイアークが交戦していたが、既に突破口を突き破り、オービットベースへ潜入した。

宇宙

バリアツチヨ「機界最強7原種・・・共同作戦・・・成功の確率99.97%・・・。不確定要素ゼロ。」

7体の原種が既にオービットベースへ潜入し、状況を把握するバリアツチヨ。

戒道「J・・・奴らはオービットベースに侵入した。」

ゾルダートJ「私とアルマは奴らを追う。ここは任せるぞ!!」  
トモロ「了解。」

ジェイアークをトモロにまかせて、ゾルダートJと戒道は原種を追い、オービットベースへ向かった。オービットベース内では、既に7体の原種の襲撃が始まった。

ノイマン「もうすぐオービットベースに到着します!!」

マリユール「総員にオービットベースに到着したらすぐに戦闘態勢よ。」

オービットベース内にいる原種を討つべくすぐに戦闘態勢の準備を各員に命じるマリユール。

オービットベース

???

腕原種「7体か。」

耳原種「十分だ、支障ない。」

爪原種「だが、共和国軍と奴に手間取ったおかげでカインの遺産共の帰還を許した。」

腕原種「案ずることはない。充分すぎる程の余裕がこちらにはあるそれに奴らが揃ったならこちらにとつても手間がはぶける。万が一のことがエンブリヲと101人評議会がなんとかしてくれる。」

瞳原種「では、目的の再確認を……。」

爪原種「第一、GGGと呼ばれる組織の宇宙基地の占拠。」

肋骨原種「第二、カインの遺産、アベルの遺せし災いの完全抹消。」

肝臓原種「第三、ウルトラマンオーブとその仲間達の抹殺。」

腕原種「よし。」

爪原種「さあ、いよいよショーの始まりよ!!」

7体の原種がたった今から迫ろうとした。

1番格納庫

火麻「総員総攻撃だ!!」

GGG隊員1「了解。」

オービットベース内に現れた原種に総攻撃の指揮を執る火麻。

肝臓原種「無駄な真似をしてくれる。」

牛山「来ました、原種です!!」

火麻「ここからは一步も進ませねえ!!撃てー!!」

現れた肝臓原種に一気に一斉射撃をする火麻とGGG隊員ら。

肝臓原種「愚かな。」

肝臓原種に向けた火麻達の射撃した弾を全て消滅させた。

火麻「弾が消えやがっただと?!」  
肋骨原種「私の能力は原子分解。あらゆる物質を微細なチリに変える。」

牛山「そうか、その能力で自らを原子分解してオービットベースに侵入したのか!!」

火麻「馬鹿言うな、チリになった身体をどうやって元の状態に戻すんだよ!!」

肋骨原種「邪魔だ。」

肋骨原種の原子分解で火麻達の射撃した弾を消し、火麻達を消滅させようとする。

火麻「くそっ!!チリにされてたまるかよ!!」

原子分解を持つ肋骨原種に全身全弾した火麻達。

火麻「見たか、全弾命中だ!!元ID5のシルバーピューマは伊達じゃねえんだ!!」

牛山「その身体のサイズじゃこれだけの直撃は耐えられないはずだ!」

肝臓原種「それはどうかな?」

火麻達が全弾させた肋骨原種の身体が突如再生していく。

牛山「傷ついた原種の身体が元に戻っていく!!」

肝臓原種「私の能力は再生復元。たとえ原子レベルに分解された物質であろうと再生出来る。」

牛山「ということとは?!」

火麻「不死身ってことかよ!!」

肝臓原種「遊びは終わりだ。」

肋骨原種「消えてもらう!!」

火麻「後退だ!!」

肝臓原種の再生能力がある限り何度でも立ち上がり、このままなす術はなく、すぐに後退に出た火麻。

2番格納庫

G G G 隊員 2 「撃て、撃て、撃て!!」

現れた原種に総攻撃するG G G 隊員達。だが通常の前では全く歯が立たずに原種には効いていなかった。

腕原種「それが攻撃のつもりか!!」

腕原種が超指向性重力波を放出して、G G G 隊員を蹴散らした。

腕原種「もろいものだな、人間というのは!!」

凱「そうはさせない!!」

早速オービットベース内に到着した凱は原種と対峙する。

腕原種「来たか、サイボーグ凱。」

凱「貴様が原種か!？」

腕原種「その通りだ。この基地に侵入しやすいサイズになっているがな。」

凱「俺達のいない隙に狙うとは汚い真似をしてくれる!!だが、ここから先は一步も進ませやしないぜ!!」

腕原種「出来るかな、お前に。」

腕から超指向性重力波を起こして凱に喰らわせた。

凱「うわあっ!!」

腕原種「我が超指向性重力波の味はどうかね、サイボーグ凱。」

凱「まだまだ!!」

腕原種「時間の無駄だ、消えてもらう!!」

ゾルダートJ「隙あり!!」

その時、凱の前にゾルダートJが現れて再び超指向性重力波を放とうとする腕原種に隙を突いて攻撃した。

腕原種「何?!」

凱「おまえはゾルダートJ!!」

腕原種「やはり現れたか、ゾルダート。」

ゾルダートJ「あの時と同じだ。三重連太陽系の最後の攻防戦……我々空の戦士がお前達原種に白兵戦を仕掛けたあの時!!」

腕原種「まさか、こんな銀河の果ての星で再会することになろうとはな。」

ゾルダートJ「私にとっては幸いだ。戦士としてのけじめ……今ここでつけさせてもらう!!」

ゾルダートJは背部にある翼を広げて高速移動で腕原種に向かって攻撃をするが、

腕原種「遅いわ。」

高速移動するゾルダートJの動きを一瞬で回避する腕原種。

ゾルダートJ「かわした?!こちらの攻撃が見切られているのか!!」  
瞳原種「私の能力は遠距離探知と未来予測。いかに素早い動きでも先を読んでいればかわせる。」

凱「だがその読みを上回る攻撃ならば……!!」

ゾルダートJ「手助けなどいらん、そこで寝ている!!」

凱「馬鹿を言え!、誰がお前の手助けなど……ハイパあああああー

モードおおおおー!!」

凱はサイボーグにあるハイパーモードの機能を使用して腕原種に挑んだ。

通路

護「急がなくちゃ!!早くメインオーダールームへ行かなくちゃ!!」

腸原種「そうはしません。」

突如、みんなの元へ向かおうとする護の前に腸原種が現れた。

護「原種!!」

腸原種「見つけたぞ、緑の星の指導者カインの造りし破壊マシンよ。」

護「そんな……こんな近くに来るまで感じられなかったなんて。」

腸原種「私はマイクロブラックホールを自在に制御することが出来る。重力の井戸の底に潜んでいればお前のセンサーにかからんというわけだ。」

護「……………」

腸原種「このままお前を吸収し、深い闇に閉ざせば、緑の星の指導者カインの造りし破壊マシンとてその力を発揮することは出来ない。」

護「たとえば僕が破壊マシンだとしても……………」

戒道「違う、君は破壊マシンじゃない。」

その、護と腸原種の前に現れたのは戒道だ。

護「えっ?」

戒道「君は緑の星で生まれたカインとCCの子。そして、破壊マシンとして赤の星のアベルに造られたもの、それが僕だ。」

護「戒道。」

腸原種「三重連太陽系の二つの惑星、GとJ、緑の星と赤の星、機界昇華を終えてもまだ我らへ抵抗を続ける気か。」

護「二つの惑星。」

腸原種「忘れたとは言わさん。あらゆる生物、あらゆる機械が溶け合い緑の星は昇華された、だが、カインとCCの子として生まれたラティオは持って生まれた能力によりゾンダーにならなかった。その母CCとVVはコードと言う不老不死の能力によりゾンダー化は間逃れ、2人ははギアスを生み出し、ギアス能力者を生み出すために契約者を育成した。」

戒道「そう、そしてラティオの能力を元にして造られたのが対機界昇華反物質サーキット、Gストーンだ。」

腸原種「赤の星のアベル……Gストーンを研究し、Jジュエルを造った。そして、ラティオをコピー、サイコネシス能力を強化した生体兵器アルマを造った。さらにサイボーグ戦士ソルダート師団を作り……宇宙戦艦ジエイアークと共に我らに対する最終兵器としたのだ。しかし、機界昇華を止めることは出来なかった。アベルの造りしアルマ……カインとCCの子ラティオ。最後に残ったお前達二人を消去すれば我ら機界31原種を脅かすエネルギーは絶える。」

護「ギアス、CC……あっ!!」

腸原種の口から全ての出来事を語れて、その中からギアスとCCの事を思い出した護は、ギアスは黒の騎士団のゼロの正体でもあるルーシユが持っていた事いつも彼と同行している女性の事に思い出した。

腸原種「思い出したか。」

戒道「護君!!」

護「あっ、あっ。」

腸原種「ようやくラティオとして自覚を持ったか。」

護「僕は地球人じゃなかった、ルーシユさんと一緒に側にいたC



Cは僕の本当のお母さん……。」

自分の出生の真実を知って動揺した護は、自分が地球人でなかった事、黒の騎士団と対峙して来たルルーシュと側にいたCCが実の母と知って驚きを隠せなかった。

腸原種「消えろ、ラティオ。」

真実を知って動揺した護に攻撃する腸原種。その攻撃を戒道が阻止した。

戒道「…………。」

護「…………。」

戒道「ここは僕が食い止める。君は先に進め!!」

護「でも、何か僕にも出来ることが…………。」

戒道「大丈夫だ、早く行け。これは僕の戦いだ。」

護「戒道、わかった。でも、つらくなったらいつでも僕を呼んで、地球人の友達として。」

戒道「わかった、ありがとう。」

護「頑張つてね、戒道!!」

一緒の学校に通う戒道を友達として、そして護を先へ行かせる為腸原種と対決する戒道。

ロビー

ヘリオポリス避難者一同「わあー!!」

原種の1人がロビーにいるヘリオポリスの避難者達に襲いかかり、ハーマンがヘリオポリス避難者達を守るため1人で奮闘していた。

ハーマン「やらさせん!!」

マシンガンを構えながら爪原種に全弾していくが、

爪原種「あら、人間のおもちやはこんなのかしら!!」

爪でハーマンの撃ったマシンガンの弾を全て爪で切り払い、そのままハーマンに爪で斬撃した。

ハーマン「うわあああああー!!」

爪原種の強力な爪による斬撃によってハーマンが身体に大きな切傷が出来て流血し、重傷した。

シヨーコ「ハーマン中佐!!」

爪原種「さて、こいつをじっくり痛めつけた後にあなた達もしてあげるわ。」

ライゾウ「この野郎。」

サトミ「やめろ、やったら私達がやられるだけだ!!」

ライゾウ「何もしないままどうしろって言うんだ?!

爪原種「おやおや仲間割れかしら? 私が楽にしてあげるわ。」

ライゾウとサトミに目を向けて狙おうとする爪原種。

爪原種「それか、この美人にしようかしら。」

アンジュ「!!」

爪原種はその中にいたアンジュに目を付けて爪で狙おうとして来た。

アンジュ「いや、いや、来ないでください!!」  
モモカ「アンジュリーゼ様!!」

アンジュを狙おうとする爪原種にモモカが彼女を守るために立ち塞がった。

アンジュ「モモカ!!」

モモカ「アンジュリーゼ様に近付くな!!」

爪原種「あなたもやるのもいいかしら?」

モモカ「アンジュリーゼ様を手を出すなら私が許しません!! マナよ、私に力を!!」

モモカはマナを使って魔法陣を形成して、魔法陣から光状の蔓で爪原種を拘束した。

爪原種「!!」

モモカのマナによって拘束された爪原種。だが軽々と光状の蔓を破った。

爪原種「そんなの効いてないわよ!!」

モモカ「きやあ!!」

エルエルフ「おまえの相手は俺だ。」

その時、爪原種がモモカに爪で切り裂こうとしたらエルエルフが現れ、彼が投げた5本のナイフに爪原種の両腕、両脚、胴体に突き刺さった。

爪原種「うっ!!」

シヨーコ「ハムエルフ!!」

エルエルフ「エルエルフだ。」

ハーマン「おまえが何故ここにいる。」  
エルエルフ「その傷では立ち上がれない。誰かこいつを連れてここから出る。」

ハーマン「おまえ一人で出来るのか・・・?」  
エルエルフ「いいから下がれ。」

エルエルフは重傷したハーマンをショーコ達、ヘリオポリス避難者達に連れて行かせて、爪原種を一人で相手に挑んだ。

爪原種「1人になったところで死ぬつもりなのかしら?」

エルエルフ「死ぬのはおまえの方だ。」

爪原種「口だけで言う子はお仕置きよ!!」

1人になったエルエルフを爪原種が爪で斬りかかろうとした。

エルエルフ「!!」

爪原種の爪攻撃をかわして、間合いから踏み込んで爪原種の全身にナイフをたくさん突き刺し、さらに拳銃で全身を撃ち、刺されたナイフに爆弾が仕込まれて爆発した。

爪原種「ぐぎやああああー!!」

エルエルフの奇策により大ダメージを負った爪原種。

爪原種「貴様、一体?!」

エルエルフ「おまえの行動は把握済みだ。」

爪原種「一旦退くしないわ!!」

人間であるエルエルフに行動を読み取られて、一旦退く爪原種。

セカンドオーダーーム

耳原種「さあ、覚悟するがいい。」

セカンドオーダーームに既に耳原種、瞳原種が来ており、中にいた大河達は窮地に迫ろうとした。

大河「くつ、ここまでか。」

その時、遠くから弾丸で耳原種の頭を撃ち抜いた。

一同「!!」

ロックオン「間に合ったみたいだ。」

大河「ロックオン!!」

ガイ「後は任せてください!!」

ようやくガイ達が駆けつけに現れて、ここから彼らの反撃が開始された。

耳原種「ウルトラマンオーブ、来たか。」

ガイ「おまえらの好きにはさせない。」

ガイが素手を強いながら耳原種遠くからやり合い、彼はパンチとキックを連打して耳原種を圧倒した。

耳原種「ぐわあっ!!」

ガイに圧倒される耳原種にロックオンがスナイパーライフルで耳原種の耳を狙撃した。

ロックオン「俺の狙撃を舐めるなよ。」

耳原種「おのれ!!」

護「もう許さない!!勝負だ、機械31原種!!」

ようやくセカンドオーダールームに辿り着いた護。

瞳原種「ラテイオ!!」

護「僕が誰であろうと僕はこの地球を大好きな人達が住む地球をみんなと一緒に守るんだ!!」

浄化モードになって自身の持つGパワーを発動したながら原種を倒しにかかった。

瞳原種「何、このパワーは?!!」

耳原種「奴は我々のパワーと対消滅する気か?!!」

護「うおおおー!!」

護のGパワーで消滅に追い込まれる瞳原種と耳原種。

耳原種「く、ここは撤退だ!」

すぐに撤退する瞳原種と耳原種。

ロックオン「よくやったな、護。」

麗雄「さすがはGGG特別隊員!!見事な勇気だ!!」

護「喜ぶのは、まだ早いよ!!まだ原種達はオービットベースの中にいるんだから!!」

ガイ「行くぞ、護。おまえの力で原種を浄化するぞ。」  
護「うん!!」

オービットベース内にいる原種を護の力を浄化にかかった。

通路

肝臓原種「どうした？もう後がないぞ!!」

肝臓原種の再生能力と肋骨原種の原始分解能力で追い詰められた  
火麻と牛山。

火麻「牛山、ここは俺が引き受ける!!お前は逃げる!!」

牛山「何を言うんです、参謀!!最後まで僕も戦います!!」

肋骨原種「ふんらこれが人間の持つ同族意識、信頼とかいう奴か。  
ならば、仲良く同時に葬ってやるわ!!」

火麻「くっ、早く来い!!」

その時、肝臓原種と肋骨原種に巨大な拳現れて2体まとめて殴りこ  
んだ。

肝臓原種「ぐわあ、何だと?!!」

ゴルディマーズ「救援に来たぜ、参謀殿!!」

火麻「間に合ってくれたか、ゴルディマーズ!」

ゴルディマーズ「あんたの考える事は俺にはだいたいわかるんで  
な。きつとここに奴らを誘い込んでくれると思ったぜ。」

肝臓原種「GGGのロボットか?!!」

肋骨原種「ぬかった!!奴らのサイズでも、この空間なら活動出来る  
か?!!」

ボルフオッグ「そう。」

肝臓原種と肋骨原種の元にボルフオッグのシルバームーンが投げ  
られです命中した。

肋骨原種「ぐわあっ!!」

牛山「シルバームーン!!」

火麻「つてことは、あいつも来てくれたのか!!」

ボルフォッグ「参謀、牛山隊員。後は私達にお任せを。」

火麻「頼んだぞ、ボルフォッグ、ゴルディマーズ!!」

ボルフォッグとゴルディマーズに後を任せて退く火麻と牛山。

肝臓原種「くっ、だが我が能力ある限り貴様達に勝ち目はない。」

ゴルディマーズ「そいつはどうかかな?」

ボルフォッグ「お前達がここに足を踏み入れた時に勝負は既についていた。」

肋骨原種「何っ!」

肋骨原種と肝臓原種の踏み入れた時点で、周囲から銃撃が行われて、肋骨原種と肝臓原種は全弾喰らった。

肋骨原種「周囲からの一斉射撃だ!!いつの間!!」

肝臓原種「まずい、このままでは再生が追いつかん!!」

肋骨原種「くそっ!!ここは退くぞ!!」

周囲からの一斉射撃により全弾喰らい再生能力の時間が追いつけず、穴を空けて逃走する肋骨原種と肝臓原種。

テイエリア「原種は下へ逃げた、すぐに向かうぞ。」

また下に逃げた原種を追って急いで向かうテイエリア達。また凱とゾルダートJと交戦していた腕原種や戒道と交戦していた腸原種も既にいた。

動力部



腕原種「ストレスが生み出す物質をエネルギーにして成長するゾンダー。」

耳原種「……。」

腕原種「その体内に蓄積された無敵のゾンダー胞子が完成した時、それは放出され、同タイプの細胞で構成された生物全てに取り付く。」

助骨原種「……。」

瞳原種「地球生物は幼生体を含めて全てゾンダーになる。」

腕原種「では始めよう。青の星、地球を機械昇華するために。」

凱「そんなことは。」

護「僕達がいる限り、絶対にさせない!!」

原種のいる動力部へ辿り着いた凱達。

腕原種「来たか、Gエネルギーの持ち主達……!!」

戒道「彼らだけじゃない!!」

ゾルダートJ「お前達を消去するのは我々の使命だ!!」

護「無事だったんだね、戒道。」

戒道「ああ。」

腸原種「だが、もう遅い。既にこの空間のゾンダー胞子は完成しようとしている。」

護「マイク!!」

マイク13世「OK!!マイク、やっと出番が来たもんね!!」

肝臓原種「あのロボット、エネルギーソリトンを使う気か?!!」

瞳原種「いけません!!」

マイク13世「システムチェンジツ!!サウンドスタンバイ!!ディスクX、リミックスバージョン!!セットオン!!」

この空間にあるゾンダー胞子を破壊すべくマイク13世が変形してブームロボ形態に変形し、対原種用にアレンジされたディスクXをセットし、破壊に取りかかり、響かせた。

腕原種「こ、これは・・・?!」

雷牙「どうだ!!対原種用の特製アレンジを施したディスクXの威力は!!」

凱「観念しろ! これでお前達が用意したゾンダー胞子は終わりだ!」

マイクサウンダース13世の対原種用にアレンジされたディスクXによりこの空間に用意されたゾンダー胞子を破壊した。

腕原種「くっ、ここは一時退却だ!!この基地より離脱する!!」

火麻「今だーっ!!攻撃開始!!標的はあいつだ!!」

一気に形勢が逆転し、空間にあったゾンダー胞子を破壊し、退却する原種の隙を突いて、その中で再生能力を持つ肝臓原種に狙いを向けて一斉射撃した。

肝臓原種「!」

火麻「あいつさえ倒せば原種は再生出来ない!!撃ちまくれー!!」

アレルヤ「うおおおおおー!!」

バン「喰らえ!!」

一斉射撃により全弾喰らった肝臓原種。護が肝臓原種を浄化する。

護「クローラティオー!!テネリタース セクティオー サルース コクトウーラ!!」

護に浄化された肝臓原種はゾンダークリスタルとなった。

麗雄「やったぞ、原種がゾンダークリスタルとなった!!」

肋骨原種「やられただと・・・?!」

腕原種「おのれ、こうなったら奥の手を使うぞ!!」

肝臓原種がやられた事で撤退する6体の原種。

火麻「まず一安心か。」

ガイ「いや、そうでもない。奴は既に次の打ってくる。」

火麻「何?!」

その時、建物全体に揺れが起きた。

一同「!!」

大河「まさかこのオービットベースごと潰す気か?!」

戒道「J!!」

ゾルダートJ「わかっている。」

すぐに外へ出てジェイアークに搭乗したゾルダートJと戒道。

凱「俺達も行くぞ。」

大河「これより反撃に出る!!決戦はオービットベース外だ!!」

オービットベース外に逃走中の残った原種を追うため、直ちに追撃に向かう凱達。オービットベース外では、残った6体の原種が一つとなって合体原種となり、既にジェイアークが交戦していた。

ゾルダートJ「トモロ、反中間子砲だ。」

トモロ「了解、反中間子砲発射。」

ジェイアークの主砲にある4基の反中間子砲で合体原種に攻撃した。

合体原種「ふん。」

合体原種の耳から光の針をミサイルのように発射してジェイアークの反中間子砲を撃ち払った。

戒道「J、気を付けて。合体した原種はさらに強くなっている。」  
ゾルダートJ「ああつ、ここはキングジェイダーに変形していくしかない。」

合体した6体の原種は合体原種となって圧倒的な強さを持ち、ここは人型のキングジェイダーに変形していく行動に出た。

ゾルダートJ「メガフュージョン!!」

ジェイアークはジェイダーとジェイキャリアーと分離して、人型に合体してキングジェイダーとなった。

ゾルダートJ「キングジェイダーああああああー!!」

巨大な戦艦が巨大な人型へなり、まさに超弩級サイズを誇る巨大なロボットだ。

ゾルダートJ「はああああー!!」

ゾルダートJが操縦するキングジェイダーが合体原種に巨大なパンチでお見舞いした。

合体原種「ぬう!!」

キングジェイダーのパンチを合体原種の右腕で防御した。

合体原種「ふん。」

ゾルダートJ「攻撃を止めただと?!」

合体原種「おまえの攻撃などお見通しだ。」

凱「そうはさせない!!」

オービットベースから発進したスターガオガイガー、撃龍神、ビツグボルフォッグ、ゴルデイマーズ、マイクⅡサウンダース13世、デユナメス、キュリオス、ヴァーチェ、ランチャーストライク、メビウスゼロ、ブレードライガーAB、ヴァルヴレイヴ1、ヴァルヴレイヴ4、ウルトラマンオーブ オーブオリジン、アークエンジェルが現れた。

合体原種「来たか、カインの遺産共よ。」

ロックオン「なんてでかさだ、東京に現れたゾンダーの親玉と同じぐらいだ。」

大河「いや、奴はそれ以上の怪物だ!!」

ムウ「これだけでかければ狙いやすいはずだ。」

凱「J、共同戦線だ!!」

ゾルダートJ「何度言えばわかる!!これは私の戦いだ!!手出しは無用!!」

凱「冗談じゃない!!これは地球の戦いでもあるんだ!!お前だけに任せておけるか!!」

ゾルダートJ「好きにするがいい。私は自分の任務を遂行するだけだ!!」

合体原種「愚かな、まだ自らの無力さがわからぬか。」

合体原種が早速現れた凱達に腕から超重力波を放った。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「そうはさせせん!!」

合体原種の放った超重力波をウルトラマンオーブ オーブオリジンがバリアを張って仲間達を守った。

ロックオン「貰った!!」

合体原種の攻撃がし終えた後にロックオンのデユナメスがGNスナイパーライフルで合体原種の眼に狙撃した。

合体原種「させん。」

デユナメスのGNスナイパーライフルのビームを助骨原種の持つ原子分解能力でビームを消滅させた。

ロックオン「ビームを消滅しただ?!」

ティエリア「合体した原種は伊達ではないな。」

合体原種「ふふふはははは、貴様ごときやられる我ではないわ。」  
撃龍神「こうなったらこれでも喰らえ!!シャントウロン!!」

撃龍神の必殺技であるシャントウロンは風と雷のエネルギー状の二頭の龍を放ち、合体原種に喰らわせた。

合体原種「効かんわ!!」

撃龍神のシャントウロンもまったくビクともせず効いておらず、合体原種の腕から超重力波が放たれて、一同に喰らわせた。

一同「うわああああー!!」

合体原種の超重力波に一瞬で葬られた凱達。

命「各機、損傷!!」

大河「合体した原種では太刀打ちが出来ないのか?」

エルエルフ「いや、まだある。」

大河「おまえは?!」

火麻「ザフトの野郎がなぜここにいやがるんだ!!」

エルエルフ「あのでかいのを倒すには一つだけ方法はある。」

大河「？」

エルエルフ「今から俺がある者を連れ出す。」

合体原種の圧倒的な強さに対し、エルエルフが一つだけ方法はあるといい、今からその者を探しにいった。

廊下

エルエルフ「いたか。」

エルエルフが探したその者はアンジユの事だった。

アンジユ「なんのつもりですか？」

エルエルフ「ついて来い、来なければおまえをここで撃つ。」

モモカ「アンジユリーゼ様に何をするつもりですか?!」

エルエルフ「おまえは関係ない。俺はアンジユリーゼに用がある。」

アンジユ「私に用がある？」

エルエルフ「時間がない、すぐに俺について来い。」

合体原種を倒すべくすぐにアンジユを連れて向かい、着いたのはア  
イナが死んだ4番格納庫だった。

アンジユ「ここは、さっきあの子が死んだ場所。」

エルエルフ「そうだ。おまえの持つ指輪でここに眠っているのを目  
覚めさせろ。」

4番格納庫に放置された謎の飛行物体だ。

アンジユ「これは?!」

エルエルフ「遥か昔に使われたパラメイルだ。こいつはおまえに

ちようどぴったりだと思って。」

アンジュ「私に乗れと言うのですか？」

エルエルフ「そうだ。おまえは櫻井アイナのような出来事を繰り返したいのか。ノーマであるおまえは既に故郷から見放された事も。」

アンジュ「……。」

エルエルフ「今のおまえに何かがある？」

アンジュ「……。」

エルエルフ「死を望んでいるだろ。」

アンジュ「……。」

エルエルフ「まあいい、乗るがいい。おまえの望みどおりに。」

何も望みのないはアンジュは、パイロットスーツを着てただ飛行物体に乗ってオービットベース内から出た。

合体原種「死ね!!」

超重力波を放ち、次々と蹴散らす合体原種。

凱「うわあああー!!」

ゾルダートJ「うわあああー!!」

合体原種「これまでだったな、カインの遺産共よ。」

合体原種の前に為す術はなく、このまま遣られてしまうのか？

合体原種「?!」

オービットベースから突如アンジュの乗る飛行物体が現れてやってきた。

キラ「あれは？」

凱「4番格納庫にあった古い機体が何故ここに?!」



ロックオン「誰が動かしているんだ?!」

格納庫に放置してあった機体が現れたことに周囲は困惑した。

アンジユ「……」。

機体を動かしてまるで彷徨うように回るアンジユ。

アンジユ「私はここで死ぬの? 何もないまま死ぬの?」

自分はここで死ぬのか思い、何もないまま死んでしまうのではないか思い詰めるアンジユ。

合体原種「死にきたのか。」

近く付いて来るアンジユの機体を合体原種が耳から光の針を発射した。

アンジユ「きゃあっ!!」

合体原種の放った光の針をフラフラしながらかわしたアンジユ。

アンジユ「死にたくない。」

合体原種が攻撃した事で死に対する恐怖を感じたアンジユは、震えだした。

アンジユ「私は死にたくない。」

死に恐怖に怯えながら機体を動き回るアンジユ。

合体原種「死ぬがいい。」

再び、光の針を放ち、アンジユの機体に向けたが、

アンジユ「おまえが死ねえええええー!!」

その時、左腕かすり傷を負って血が流れてアンジユの指輪が輝くと同時に機体が目覚め、機体は飛行物体から人型へ変形した。

エルエルフ「ヴィルキスが目覚めたか。」

その機体の名はヴィルキス。ヴィルキスに操縦するアンジユは合体原種に挑んだ。

ロックオン「変形した?！」

凱「一体何が起きているんだ?」

ヴィルキスが人型へ変形して周囲は驚愕した。

合体原種「死にきたか。」

合体原種が再び耳から光の針を放出したが、

アンジユ「はあああああー!!」

大剣型のラツィーエルを出して光の針を切り払い、そのまま突撃してアサルトライフルで連射とグレネードランチャーの乱射を合体原種の瞳にぶち込んだ。

合体原種「小癩な!!」

腕でアンジユのヴィルキスを振り払おうとするが、アンジユはすぐに回避した。

「アンジユ「私は生きる!!」」

アンジユは生きるという強い思いを表しながら奮闘し、その反応によりヴィルキスの機体の色が白から赤へ変わり、攻撃特化のミカエルモードとなってラツィーエルに巨大なエネルギーブレードを纏わせながら合体原種に大きく振りながら斬撃した。

合体原種「ぐわあああつ!!」

アンジユのヴィルキスマカエルモードの斬撃に圧倒された合体原種。

合体原種「調子に乗るな!!」

アンジユのヴィルキスマカエルモードに圧倒された合体原種が超重力波で放とうとするが、

ゾルダートJ「そうはさせん!!」

その隙を突いてキングジエイダーが攻撃しようとする合体原種にパンチをした。

合体原種「ぐわあああつ!!」

キングジエイダーの攻撃で動きを崩してしまった合体原種。

凱「よし、一気に総攻撃だ!!」

キングジェイダーの攻撃で動きを崩した合体原種に一気に総攻撃開始する凱達。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン(ガイ)「オーブフレイムカリバー!!」

オーブカリバーのリングを回して火属性の紋章の部分で止めてトリガーを引きながら、円を書いて巨大な炎の輪を形成して、回転しながら、炎の玉として合体原種を拘束して斬撃した。

キラ「喰らえ!!」

ランチャーストライクの武器であるアグニから強力なビームを発射して合体原種の右腕に直撃し、破壊した。

ハルト「ハラキリブレード、充填する。」

機体の熱量が666へ行ったことで、ハルトはヴァルヴレイヴの原動機関レイヴにジー・エツジを押し当てて、そのエネルギーを刃に纏わせてハラキリブレードを発動して、強力で巨大な光で合体原種にぶち込んだ。

合体原種「ぐわああああー!!」

各機の総攻撃により一気に叩き込まれた合体原種。

ゾルダートJ「とどめは私がする!!」

各機の総攻撃で弱った合体原種にとどめを刺すべくキングジェイダーが右腕にある錨型武器をチャージして発動する。

ゾルダートJ「ジエイクオース!!」

錨型武器から火の鳥を放ち、合体原種に直撃し、見事撃退した。撃退した合体原種から4体の原種の核が現れた。

凱「頼むぞ、護。」

護「うん。」

5つの原種核を浄化しに向かった護は浄化モードになって、早速やり始めた。

護「クーラテイオー!!テネリタース セクテイオー、サルース コクトウーラ!!」

残り4つの原種核を浄化し、ゾンダークリスタルにした護。

バリアツチヨ「機界最強7原種敗退。」

エンブリヲ「やれやれ、やられてしまうとは。」

凱達との戦いで機界最強7原種が敗北したの見たバリアツチヨとエンブリヲ。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「?」

キラ「どうしたんですか?」

ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「何でもない。」

ゴルディマーズ「よおーし、俺達の勝利だ!!」

ロックオン「ああ、これで原種共もしばらくの間大人しくなるだろうぜな!!」

ティエリア「それはどうかな?」

ムウ「残り2体の原種も逃走中だ。」

ロックオン「往生際の悪い奴らだ。」

戒道「J。」

ゾルダートJ「ゾンダークリスタルは一時お前達に預ける、また会おう!!」

ゾンダークリスタルを凱達にならせてこの場を去ったゾルダートJと戒道。

アレルヤ「去ったね。」

サキ「何よ、愛想のない人ね。」

ティエリア「彼には彼の使命があるだろう。」

マリユール「状況の確認終了後、オービットベースへ帰還する。各機の収容を急げ。」

凱「見ていてくれたか、超竜神。俺達は合体原種に勝ったぞ。お前が救ってくれた生命で。そして、俺達はあの青い地球を必ず守り抜いてみせる!!」

合体原種との戦いに勝利を収めた凱達。オービットベースでは、

オービットベース

セカンドオーダーーム

大河「原種との戦いで負傷したハーマン中佐の代わりの者を紹介する。」

大河は原種との戦いで負傷したハーマンの代わりの人物を紹介する。

一同「?」

大河「入りましたまえ。」

現れた人物は、何とエルエルフだった。

エルエルフ「・・・。」

ハルト「エルエルフ!!」

キラ「どうして君が?!

凱「何故おまえが?!」

エルエルフ「今日から俺がおまえ達の指揮を執る。俺のやり方で。」

代わりの人物がエルエルフだった事に驚愕した凱達。

大河「彼はザフトの軍人だが、彼は君達に手を課す事を決めた。」

エルエルフ「これよりおまえ達を俺が勝利に導く。」

次回 7話へ続く

## 設定2

オリジナル星人

グローザ星系人グロツクル

グローザ星系人で、宇宙人同盟所属のハンター。グローザ星系人の中で巨漢でありながらズバ抜けたパワーを持ち、両腕にナツクル型の武器「フローズンブレイカー」を装備し、絶対零度の拳で相手を一瞬で倒す。

武器

フローズンブレイカー

グロツクル専用の武器。ナツクル型で、絶対零度の氷で出来ておりながら高い打撃力を持つ。ナツクルからあらゆる絶対零度の氷を形成したりする事が可能。

必殺技

フローズンナツクル

両腕に装備されてるナツクルに氷を纏いながら相手を連打する。

ブリザードクラッシュヤー

両腕に装備されてるナツクルに絶対零度の氷を纏いながら思いつきり殴り、その威力はとてつもない破壊力を持つ。

テンペラー星人ヴェルダン

テンペラー星人で、宇宙人同盟所属のハンター。攻守速共に優れており、プラズマ怪獣を圧倒する力を持つ。両腕にハサミ型武器のテンペラーシザースであらゆるものを切り裂いていく。

武器

テンペラーシザース

ヴェルダン専用の武器で、ハサミ型で、あらゆるものを切り裂いていき、ハサミの刃はテンペラー合金で出来ていて、どんなに硬いものをあつという間に真っ二つにする事も可能。

必殺技

テンペラーシザースクロー



ヴェルダンの両腕のテンペラーシザースに巨大な光状を纏いながらハサミのように相手を切断する。

レギュラン星人レザルド

レギュラン星人のハンターで、宇宙人同盟に所属し、あらゆる作戦を立てて駆使していき、宇宙人同盟の中では参謀的な存在でもある。専用武器はビームライフル型のレギュランブラスター。

武器

レギュランブラスター

レザルド専用の武器で、ビームライフル型。通常のビームライフルの性能を超えて、ビーム光線の威力は高く、1発でバリアすら貫通する事も可能。

必殺技

ブラスターシユート

レギュランブラスターをチャージして一気に強力な光線を放つ。

ブラスターテンペスト

レギュランブラスターをチャージして一気にビームを拡散して敵全体に与える。

改造ゾイド

ガイサツク偵察仕様

ヘリック共和国軍のガイサツクを情報に特化した改良機。機体背面に円板状のレドームを有し、砂漠の中から偵察、警戒、監視を行い、味方への報告を行う。武装はレーザークロウ、ミサイルポッド、尻尾の対空機銃のみ。

パンツアーコマンドウルフ

ヘリック共和国軍のコマンドウルフを砲撃戦に改造した機体。コマンドウルフにアーマーを纏わせて、両肩にミサイルランチャーを装着し、機体背面に大型ビームキャノンを有し、味方の支援攻撃を行う。

## 第7話 報われぬ魂

ここ、地球の北米のカリフォルニアではロゴスが開催するイベントが行われた。

地球

北米大陸

カリフォルニア

施設

イベント開催者「本日開催されるロゴスのスペシャルイベントへようこそ!!」

ロゴスの開催するスペシャルイベントに集まった大勢の客がこのスペシャルイベントを楽しそうに参加して、ゲームやアトラクションやなどで遊んだりした。

刹那「……。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「どうもこのイベントは怪しいようだな。」

刹那「あああ、週に1回開催されてその中から参加者が帰って来なくなつた声も聞いた。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「毎週開催されてるこのイベントはどっかどう見ても怪しいようだな。」

刹那「調べる必要があるようだな。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「ああ。調べた方がいいな。」

ロゴスが毎週開催するスペシャルイベントに参加者が帰って来なくなるとの声を聞いて、そのイベントに不審に感じた刹那とウルトラマンゼロはこのイベントを調べていく事にした。

???

男マギウス1「ウルトラマンゼロめ、また邪魔しに来たのか。」  
女マギウス1「おかげで人間共のルーンが得られなくなっちゃった。」

老人マギウス1「今、ヒューストーンにあるロゴスのルーン收容施設が狙われている。何としてでも死守せねばならん!!」

女マギウス2「これ以上、狙われたら我々も生きる術が無くなってしまう。絶対に食い止めねばならん。」

人間を捕まえてルーンと言う情報素粒子を得て生きており、それをウルトラマンゼロが現れたことによりいくつか阻まれており、ルーンを得られずに生きる術がなくなっちゃい、人間を捕まえていく施設を破壊されており、今回ウルトラマンゼロはカリフォルニアにあるロゴスの施設へ目を向けていた事だ。一方、刹那はウルトラマンゼロと共にロゴスの施設を調べるべく警備員に変装して中を探りに始めた。

地球

北米大陸

カリフォルニア

施設

刹那「……………」

警備員に変装した刹那は怪しまれないように早速施設内を歩き回り始めた。施設でジェットコースターで絶叫して楽しんだり、ウォーターマシンの探検したり、アトラクションのマスケットと触れ合ったりする人々、アトラクション内を巡回しながら怪しいところがないか探し回る刹那。

警備員1「お疲れ様。」

刹那「……………」

施設の警備員と遭遇して敬礼をする刹那。

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「おっ、しっかりしてるな。バレないように心掛けてるな。」

警備員に変装した刹那が施設の警備員に遭遇してきちんと敬礼して、バレないように心掛けて行動しているのをウルトラマンゼロは刹那の行動に喜んだ。そのまま刹那はアトラクション内に調査を続けた。

??? 「あー、飲み物を落としちゃったわ。」

刹那「？」

刹那が巡回している中、道端で女性と子供2人が飲み物を落としたのに反応して近付いた。

刹那「どうした？」

??? 「飲み物をこぼしちゃったの。」

??? 「ママが歩いてたら手を滑らせちゃてこぼしたの。」

??? 「あーあー、せつかく買ったのに。」

??? 「すいません、わざわざ気にかけてくださって。」

刹那「俺が代わりに買っていいかうか？」

??? 「いえいえ、大丈夫よ。」

刹那「そうか。名前は？」

美月「私の名前は美月。この2人は私のこの子よ、女の子がみな、男の子がこうよ。」

みな「私の名前はみな。」

こう「僕はこう。」

3人の親子連れは母親の名前は美月、女の子はみな、男の子はこう。

刹那「そうか、俺はそろそろ行く。」

美月「私もじゃあ先に行くわ。」

みな、こう「バイバイ。」

刹那「あああ。」

親子連れと別れた刹那は、再びロゴスの施設を調べる巡回した。巡回する刹那は偶然、何か不気味そうなところを見つけた。

刹那「？」

刹那が見つけたのは大きなミラーハウスだった。

刹那「ゼロ。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「ああ、ここから何か怪しい気配を感じる。この中に入ってみるしかないな。」

刹那「俺も感じる、この建物から怪しい気配をすごく感じる。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「この建物に入ってみるぞ。」

刹那、ウルトラマンゼロはミラーハウスから漂う怪しい気配を感じてミラーハウスを調べるべく入り込んだ。刹那がミラーハウスに入り込んだのをある人物が跡をつけてきた。

美月「……………」

美月も子供と一緒にミラーハウスへ向かった。ミラーハウスに入った刹那は施設内にある不気味な雰囲気や漂う鏡だらけの部屋を歩き回る。

刹那「……………」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「鏡か、あいつを思い出してしまうな。」

刹那「あいつ？」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「一緒に戦った仲間の事さ。」

刹那「仲間がいたのか？」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「ああ。この鏡何か怪し過ぎるんだよな。どうも人が帰ってくる気配を全く感じない。」

刹那「人の気配が全くしない。ここで人が行方不明になったと。」

ミラーハウスに入った人達が帰ってくる気配を感じれず、ここに入った人達が帰っておらずに行方不明となり、このミラーハウスに怪しい気配を感じながら中を調べまわった。

刹那「……。」

中を歩いていく刹那は周囲にある鏡を見て触れたりしたが、何も起きなかった。

刹那「この鏡からは何も感じられない。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「この何処かにあるはずだ。」

刹那「一体何処にあるんだ？」

刹那がミラーハウス内を歩きながら怪しい気配の発端が見つからず、この中の何処にあると探し回る。刹那がある回中、鏡の中から何か人らしき影が現れた。

刹那「?!」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「この気配、間違いない。」

刹那「ようやくその気配を感じた。」

ようやく気配を感じて、相手の存在に気付いた刹那とウルトラマンゼロ。周囲にある鏡を移動する人らしき影の存在に気付き、刹那は鏡から来る影に警戒をした。

マザラス星人「よく気付いたな、流石に褒めてやろう。」

鏡の中から現れたマザラス星人。

刹那「おまえが人をさらった犯人か？」

マザラス星人「その通りだ、この私の気配を感じるとは流石だ、ウルトラマンゼロ。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「おまえ、エンブリヲと101人評議会の手先だな。」

マザラス星人「その通り、私はここに来た人間共をさらって、人間共のルーンをマグウス101人評議会の食糧を集めてるのだ。」

ウルトラマンゼロ「誘拐か。人をさらって奴らの餌は俺らがさせるかよ。」

刹那「あああつ、こいつからさらわれた人達の居場所を聞き出すぞ。」

マザラス星人「ならば貴様らの首を土産にしてやる!!」

薙刀を持って刹那に斬りかかって来たマザラス星人。刹那はマザラス星人の薙刀を下にしやがんでかわしながら、地面に着いたまま左足を回しながらマザラス星人の両脚にぶつけて転ばした。

マザラス星人「ぎゃああああつ!!」

刹那に両脚をぶつけられて転んでしまったマザラス星人はすぐに立ち上がって薙刀を振り回して来た。

刹那「!!」

マザラス星人の振り回して来る薙刀をかわしていく刹那。マザラス星人が薙刀を前出しながら刹那に突きかかった。

刹那「!!」

前から来るマザラス星人の薙刀を横にかわしていき、隙を突いてマザラス星人の懐にパンチをお見舞いし、さらに顔面に強くパンチした。

マザラス星人「ぐええええー!!」

刹那「さあ、さらわれた人達の居場所を教えるんだ!!」

マザラス星人「そんなに知りたきゃ貴様らも我が鏡に入るがいい!!」

マザラス星人が刹那を押しながら鏡の中へと入り込んだ。

刹那「うわああああー!!」

マザラス星人に無理やり押さえられて鏡の中へと入り込まれた刹那とウルトラマンゼロ。

秘密地下

刹那「うっ、ううう。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「しっかりしろ、刹那。」

刹那「ここは?」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「おそらくさらわれた人達の居場所だろうな。」

マザラス星人によってさらわれた場所で、ロゴスの施設の地下でもあった。

刹那「そうならすぐに阻止しないと。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「あああ、とにかく急ぐぞ。」



刹那とウルトラマンゼロは早速行動にかかって、ここがさらわれた人達の居場所だと突き止めてすぐにでもマグウス101人評議会の食糧にされる前に何としても助けださなければならぬと必死で駆け込んだ。

刹那「!!」

すぐに辿り着いた刹那とウルトラマンゼロが見たのは、マグウス101人評議会が人間をさらうために使う潜水艦型のファントムでさらった人間のルーンを保存された光景だった。

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「また間に合えなかったか……。」

刹那「……。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「刹那。」

さらわれた人達のルーンを吸収するファントムに対し、刹那が怒りを表しながらウルトラゼロアイをガンモードに変形して、人間からルーンを吸収する人間の頭から接続されているコードをエメリウムエネルギー弾で次々と連射して破壊した。

刹那「……。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「ルーンで吸われた人間が救えなかった事か。俺も同じだ。ルーンを食糧とするマグウス101評議会から無理やりさらわれた事や世界全体を裏で牛耳るエンブリヲを絶対に許すねえ!!」

刹那「俺が絶対にこの手で奴らを倒す!!」

人々を無理やりさらってルーンを摂取するために人々を犠牲にす

るマギウス101人評議会と世界全体を裏から操り、戦争やあらゆる分野で暗躍するエンブリヲを絶対倒す事を強い意志を表す刹那とウルトラマンゼロ。

マザラス星人「貴様らあ、よくも大事な食糧をめちやめちやにしてくれたな!!」

刹那の前に再び現れたマザラス星人は、ファントムを使ってマギウス101評議会に運ぶ人間から摂取したルーンがコードごと撃ち抜かれて、全て失った事で彼に襲いかかった。

刹那「人の命を犠牲するお前達を俺は許すわけにいかない!!」

マギウス101人評議会のやり方に怒りを表した刹那が襲って来たマザラス星人にパンチを繰り出して全身に打ち込みながら圧倒した。

マザラス星人「ぐぎやあああー!!」

刹那の怒りが込められたパンチで圧倒されたマザラス星人は、最後の手段を使った。

マザラス星人「こうなれば最後の手段。出でよ、異次元獣スペクターよ!!」

マザラス星人は異次元獣スペクターを出現させてロゴス施設の地上に現れて、人々に襲いかかり、またマザラス星人自身も巨大化して共に襲いかかった。

刹那「地上には大勢の人がいる!!」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「このまま好きにさせるわけ

にいかねえな。刹那、変身だ!!」

刹那「ああ。」

地上でマザラス星人とスペクターが暴れているのを阻止するため、刹那はウルトラゼロアイを顔に装着してウルトラマンゼロに変身する。

刹那「デユワ!!」

ウルトラゼロアイを顔に装着した刹那はウルトラマンゼロに変身して、地上で暴れているマザラス星人とスペクターの2体を相手に挑んだ。

施設

マザラス星人「来たな、ウルトラマンゼロ!!」

ウルトラマンゼロ「待たせたな、お前をここで終わらせてやるよ!!」

マザラス星人「ここで仕留めてやる、スペクター!!」

スペクター「キシヤアー!!」

マザラス星人はスペクターにウルトラマンゼロを攻撃させるように命じ、スペクターは両腕からミサイルを発射してウルトラマンゼロに攻撃する。

ウルトラマンゼロ「!!」

スペクターの両腕から発射したミサイルをウルトラマンゼロはパンチで破壊し、そのまま直接パンチをした。

ウルトラマンゼロ「ちよつとは硬いが、俺のパンチも効いてるはずだろ。」

スペクターにパンチしたウルトラマンゼロはスペクターの全身は硬い鏡で覆われており、その硬い鏡があつて防御力も高いが、今のウルトラマンゼロもいくつかの強敵と戦い、相手の特徴には驚かず、自身のパンチで喰らつたスペクターは効いていた。

マザラス星人「貴様あ!!」

巨大化した姿で薙刀を大きく振り回して、スペクターと一緒にウルトラマンゼロに同時攻撃する。

ウルトラマンゼロ「2体同時か、甘ぬるいぜ!!」

ウルトラマンゼロは頭部にある2本のゼロスラッガーを出して両手に持って駆けながらマザラス星人とスペクターに斬りつけて、さらにキックで強く打ち込んだ。

マザラス星人「ぐわああああー!!」

ウルトラマンゼロに圧倒されるマザラス星人とスペクターは、2体でかかっても彼を倒す事が出来ず、逆に圧倒されつづいた。そんなウルトラマンゼロの前に思わぬ出来事が来た。それはARRUSの率いるMS部隊が接近して来た。

ウルトラマンゼロ「!!」

ARRUS兵1「こちら、ウルトラマンを確認!!これより攻撃開始する!!」

上空から現れたARRUSのフラッグ隊がウルトラマンゼロに攻撃をかかり、リニアライフルで射撃した。

ウルトラマンゼロ「うっ!!」

フラッグ隊のリニアライフルの一齐攻撃を喰らったウルトラマンゼロ。さらに地上からはリアルドホバータンク隊のリニアキャノンを発射して攻撃した。

ウルトラマンゼロ「うわあっ!!」

ARUSのMS部隊による上空、地上から攻撃を喰らったウルトラマンゼロ。

ウルトラマンゼロ(刹那)「まずい、このままじゃ俺とゼロがやられてしまう。」

ウルトラマンゼロ「こんな時にか!!」

マザラス星人とスペクターと追い詰めたところでARUSのMS部隊が現れて攻撃を喰らい、厳しい状況になったウルトラマンゼロ。

ARUS兵「ウルトラマンは我々を攻撃する事が出来ない、このまま攻撃し続ける!!」

空中からフラッグ隊、地上からリアルドホバータンク隊の総攻撃でいきなり現れた人間を相手に、マザラス星人とスペクターとの交戦中のウルトラマンゼロは出す事が出来なかった。

マザラス星人「今だ!!」

ARUSのMS部隊がウルトラマンゼロを攻撃している事でマザラス星人が薙刀でウルトラマンゼロに斬撃した。

ウルトラマンゼロ、(刹那)「うわああああー!!」

マザラス星人の薙刀を喰らってしまったウルトラマンゼロは今度は自分が窮地に陥ってしまった。

スペクター「キシヤアー!!」

スペクターがウルトラマンゼロに体当たりしながら地面に押し倒して叩き込んだ。

ウルトラマンゼロ「うわあああつ!!」

スペクターに地面に押し倒されて蹴られるウルトラマンゼロ。ウルトラマンゼロのカラータイマーが赤く点滅し、時間がもうなくなってしまう。

ウルトラマンゼロ「こんな時にかよ!!」

カラータイマーが点滅し、ウルトラマンゼロはこのまま負けてしまうのか?!その時、ウルトラマンゼロを攻撃しているARUSのMS部隊が突如謎の斬撃を受けて破壊された。

ウルトラマンゼロ「?!」

突如、ARUSのMS部隊が破壊された事に驚くウルトラマンゼロ。

ウルトラマンゼロ「一体どこからだ?!」

ウルトラマンゼロ（刹那）「わからない。でもチャンスだ。」

ウルトラマンゼロ「ああ、一気に終わらせてやる!!」

何者かに救われて急転し、一気に終わらせるべくすぐに立ち上がってマザラス星人とスペクターにパンチで連打し、続いてゼロスラッ

ガーを投げて切り裂き、最後に腕を組んで必殺技のワイドゼロショットでマザラス星人とスペクターにトドメを刺す。

ウルトラマンゼロ「ワイドゼロショット!!」

両腕を組んでワイドゼロショットでマザラス星人とスペクターに向けて光線を発射して撃破した。

ウルトラマンゼロ「まず、ここも終わったか。」

ウルトラマンゼロ(刹那)「エンブリヲと1001人評議会。」

ウルトラマンゼロ「俺達の手で必ず倒そう。」

ウルトラマンゼロ(刹那)「ああ。」

ウルトラマンゼロ「次へ行くぞ。次はアフリカの砂漠だ、砂漠で地球連合軍とザフト軍の壮絶な戦いが繰り広げられている。俺らはこの戦い終わらせに行く。」

無事、1001人評議会に関する施設にあったルーンを破壊した刹那とウルトラマンゼロ。次へ向かう場所はアフリカの砂漠だ。また2人助けたのは、

美月「……………」

謎の機体に操縦する美月と彼女の2人の子供。

???

男マガウス1「ウルトラマンゼロめ、またしても我々のルーンを!!」

エンブリヲ「しばらくは我慢するしかあるまい。」

女マガウス1「奴は次は砂漠へ行つたようだ。」

エンブリヲ「あそこで彼らが集まるのか。」

次回 8話へ続く

## 第8話 雷と犬

原種との戦いで重傷したハーマンの代わりとしてエルエルフが就いた事により、今後の戦いに備えた事やまたアイナの死を出さないためにも彼の指導の下で厳しい軍事訓練が行われた。キラとハルト達へリオポリスの学生らも生き残る為に正式にヘリック共和国軍へ入隊し、それぞれ階級を与えられた。

オービットベース

訓練室

キラ、アンジュ、ハルト、サキ「……………」

キラとアンジュとハルトとサキは白兵戦を想定したプログラムで、機体に操縦しない時の戦闘に備えて拳銃による射撃訓練で、まずは遠くにある的を当てる事からで、4人は拳銃を構えて目でしっかり捉えながら前に向けて射撃した。

キラ「これで1週間だ。」

ハルト「白兵戦の訓練も大事だね。」

サキ「それにアンジュ、ヴィルキスに乗って髪切ってなんか性格が変わったわ。」

アンジュ「……………」

ヴィルキスに乗ったアンジュは、突如性格が変わり、髪を切り、性格は傲岸不遜で排他的になり、彼女の態度に周囲に迷惑をかけたり、彼女は周囲の事を考えず全く気にせずに行った。

アンジュ「……………」

何も考えずに無言でただ拳銃を連射して的に全弾当てたアンジュは、そのまま訓練室から出ていった。



キラ「あつ、待って、アンジュ!!」

訓練室から1人で出ていったアンジュを追いかけるキラ。

通路

キラ「まだ訓練室は終わってないよ。戻ろう。」

アンジュ「私の勝手でしょ。いちいち着いてこないで。」

キラ「ダメだよ、それにまだ訓練だつて山程あるから。」

アンジュ「やるやらないは私の勝手よ。」

キラ「サボっちゃダメだよ。」

アンジュ「私は決める事よ。あっち行って!!」

訓練を放棄して訓練室から出たアンジュを連れに戻そうとするキラ。だが、彼女はそれを拒否してそのまま立ち去った。

キラ「アンジュ。」

セカンドオーダールーム

大河「エルエルフと言う人物、彼は我々の常識を超えている。」

火麻「あああつ、あいつの行動力は俺達の予想を遥かに上回っているやがる。」

麗雄「エルエルフはガイロス帝国のスザクと同じ生身の人間で高い格闘能力、技量、黒の騎士団のゼロであるルルーシュと同じ高い頭脳、知略の両方を持つ。オービットベースへ潜入した原種の1人をハーマン中佐1人でも勝てなかったのをたった1人で勝ったようだよ。」

ムウ「ザフトの人間であんなすごいやつが何で俺達のところに来たんだ。」

大河「彼はスパイではないようだが、目的は我々の持つ力に目を付けてるようだ。」

ガイ「あいつの目的はプラント、世界に革命をもたらす事だ。」

大河「プラントと世界に革命?!」

麗雄「それは本当か?!」

ガイ「ああ、あいつはプラントと世界に革命を起こす事で俺達の持つ力に目を付けたんだ。」

大河「我々GGGと共和国は地球軍やザフト軍に数は劣るが、我々にはとてつもない強大な力を持っている。ガオガイガー、勇者ロボ、ガンダム、ヴァルヴレイヴ、オーガノイド、ヴィルキス……。」

ガイ「そしてこの俺、ウルトラマンオーブ。」

大河「クレナイガイ、君がウルトラマンオーブである事は私とハーマン中佐と一部の人間しか知られていない。」

ガイ「ああ、別次元を通じて俺はこの世界を裏から牛耳る黒幕を倒しにやって来て、あなた方と一緒に協力した。」

大河「我々GGGとヘリック共和国はこの世界を裏で操る黒幕を倒すために立ち上がった。黒幕によって操られている地球連合軍、ザフト軍の双方に黒幕が送り込まれた刺客によって戦争を引き起こされ、大勢の犠牲が出て来た。宇宙人同盟や原種も黒幕と手を結んで我々を倒すため幾たびに現れてきた。」

ガイ「大河長官。俺はこの戦いを必ず終わらせてみます。」

大河「異界から通じて君には感謝するよ。」

これからの戦いに向けて地球連合軍、ザフト軍、宇宙人同盟、原種との戦い、そしてこの世界を裏から牛耳る黒幕との戦いに行くGGGとヘリック共和国。だが、その時警報が鳴り始めた。

大河「何だ?!」

命「3番格納庫から侵入者です!!」

大河「各員にすぐ3番格納庫へ向かわせる!!」

命「了解!!」

3番格納庫に侵入者が現れてすぐに急行した凱達。

### 3番格納庫

凱「さあ覚悟しろ、侵入者!!」

キューマ「ん？」

凱「どうした？」

キューマ「あいつは？」

3番格納庫に到着した凱達。一緒に同行したキューマは侵入者を見てある人物を思い出した。

ライゾウ「くっ、こいつを俺にませろ!!」

イアン「ダメだ、こいつを素人にはませれないって言ってるだろ!!」

キューマ「山田!!」

ライゾウ「サンダーだ!!」

その人物はキラやハルト達と一緒にヘリオポリスの学生であるライゾウだった。

凱「知り合いか？」

キューマ「ああ。」

ライゾウ「俺はこいつに乗ってノブの仇を取りたいんだ!!」

イアン「ダメだと言っているだろ!!これはお前さんが思っていたとは全く違うんだ!!」

ライゾウ「いいからませろ!!」

ザフト軍と戦うために死んだ親友のノブの仇を取るために3番格納庫にあったヴァルヴレイヴ3を乗せるように要求するライゾウ。

凱「ダメだ、それは君にはませれない。これがどんなに危険性があるのかわかっているのか？」

ライゾウ「そんな事、知った事かよ!!俺はこいつに乗ってザフトの野郎をぶっ潰してやるんだ!!」

イアン「あー、誰かこいつを独房に連れてくれ。これじゃ仕事の邪魔になる。」

凱「さあ、大人しく反省をするんだ。」

ヴァルヴレイヴ3に勝手に乗り込もうとするライゾウを無理やり連れていく凱。

イアン「全く何故わからないんだ。」

キューマ「・・・。」

イアン「どうした？」

キューマ「いや、何でもないです。」

キューマはアイナの死が今でも悔やみ、戦っているハルト達を見て自分になにが出来る事が苦悩していた。

通路

バン「ふうー、今日の訓練は山程だったな。」

フィーネ「ザフトの人間だった人が大怪我を負われたハーマン中佐の代わりに務めてから毎日訓練の日々ね。」

バン「確かエルエルフだったよな。」

エルエルフ「その通りだ、バンⅡフライハイト。」

バン「うわあっ!!」

ジーク「グウ。」

エルエルフ「俺に何か用か？」

バン「いや何も無いけど。」

エルエルフ「そうか。それとお前はまだまだパイロットとしては未熟だ。」

バン「何?!」

エルエルフ「お前の事も調べさせた。ブレードライガーに乗る前にお前はシールドライガーに乗っていた頃、ジェノザウラーのパイロットに負けたようだな。」

バン「……。」

エルエルフ「俺はお前とジェノザウラーの戦いを見て、ジェノザウラーのパイロットはかなりの高い操縦技量を持っている。」

バン「レイヴンか。」

エルエルフ「知っているのか。」

バン「ああ。だが、次は絶対必ず勝つ。」

バンはエルエルフにシールドライガーに乗っていた頃、レイヴンのジェノザウラーによってズタズタに敗北され、パイロットとしての技量がまだまだ足りないと言われ、レイヴンの方がパイロットとしての技量が高い事で、次対決する時は必ず勝つ事を胸に刻んだ。

その時、再び警報が鳴った。

バン「？」

エルエルフ「どうやら敵のお出ましのようだな。」

オービットベース周辺に敵が現れた事で、すぐに出撃にかかる凱達。敵はザフト軍のマニングァーとデリウスの率いる艦隊、ガモフと宇宙人同盟のテロリスト星人、ボーグ星人、3体のインペライザーだった。

宇宙

ノヴゴルド

マニングァー「あれがカインとクルーゼを手こずらせた相手か。」

フェルクリンゲン

デリウス「そのようだ。特機だけの部隊と聞いた。」

ノヴゴルド

マニングァー「カインとクルーゼはたった少ない相手にやられたのか？」

フェルクリンゲン

デリウス「そのようだな。今回は宇宙人同盟の面々、クルーゼの配下と共に共闘作戦を行う。」

ノヴゴルド

マニングー「ワシらの力を思い知らせてやる。」

マニングーとフェルクリンゲンの艦隊、ガモフ、宇宙人同盟による共闘作戦が行われて、オービットベースに迫ってきた。既に出撃をしたアークエンジェルと勇者ロボ軍団、エールストライク、メビウスゼロ、ヴァルヴレイヴ1、ヴァルヴレイヴ4、ブレードライガーAB、ウルトラマンオーブオリジン、ヴィルキス、デユナメス、キュリオス、ヴァーチエ。

マリユー「敵は大勢で来ているわ。気を付けて。」

ロツクオン「とっとと終わらせてやろうぜ。」

撃龍神「ああ、大勢で来ようが俺達の敵じゃなねえ。」

大勢の敵を相手に余裕で済ませる感覚でいくGGG、共和国軍。だが、この共闘作戦には待ち受けない罠があった。

イザーク「来たぞ、全員かかれ!!」

ガモフからデュエル、バスター、ブリッツ、アードライのイデアール、ハーノインのイデアール、イクスアインのイクスアイン、グレイブルダカスタム、グレイブザリーカスタム、ハウザークリスカスタムが現れて、またボーグ星人、3体のインペライザー、ジン、バツフェ、グレイブも現れて迫って来た。

キラ「あれは、デュエル、バスター、ブリッツ!!」

デュエル「覚悟しろ、ストライク!!」

イザークのデュエルが先手を打ってビームサーベルを出しながら

キラのエアールストライクに斬りかかる。

キラ「!!」

イザークのデュエルのビームサーベルの斬撃をシールドで防ぎ、ビームライフルで反撃して撃つキラ。

イザーク「今日は逃さん!!」

キラ「ここでやられてたまるか!!」

イザークのデュエルと激しい戦いを繰り広げるキラのエアールストライク。

アンジュ「!!」

アンジュはヴィルキスを人型形態でヒルダ、ロザリー、クリスを相手に交戦し、アサルトライフルを出して3人の機体に攻撃した。

ロザリー「うわあっ!!」

クリス「ロザリー!!」

ヒルダ「新型機か?!どこまでそんなのが持っていやがるんだ!!」

ヴィルキスにアンジュが乗っていることに気付かず、パトロクロスで刺突にかかるヒルダ。

アンジュ「ん?!」

正面からくるヒルダのグレイブの攻撃をすぐに回避してラツィーエルで斬りつけにかかった。

クリス「貰うよ。」

だが、クリスのハウザーカスタムの砲撃がアンジユのヴィルキスに命中し、攻撃を阻んだ。

アンジユ「くっ!!」

ミリアリア「ヴィルキス、ストライク、敵機と交戦中!!」

タカヒロ「敵機が大勢接近しています!!」

ナタル「イーゲルシュテルン、ヘルダート、同時発射!!」

大勢の敵機にアークエンジェルからイーゲルシュテルン、ヘルダートを同時に一斉発射を行い、接近してくる多数の敵機、ストライクと交戦中のデュエル、ヴィルキスと交戦中のグレイブヒルダカスタム、グレイブロザリーカスタム、ハウザークリスカスタムに命中した。

イザーク、ヒルダ、ロザリー、クリス「うわあっ!!」

アークエンジェルから発射されたバルカン、ミサイルなどの一斉攻撃で次々ジン、バッフェ、グレイブを撃墜し、また攻撃を受けて被弾したデュエル、グレイブヒルダカスタム、グレイブロザリーカスタム、ハウザークリスカスタム。

ヒルダ「野郎、邪魔すんなあ!!」

アサルトライフルの下部にあるグレネードランチャーを発射してアークエンジェルに向けた。

サイ「グレネード弾来ます!!」

マリユー「回避!!」

グレイブヒルダカスタムのグレネードランチャーをすぐに回避行動し、攻撃を避けた。



ムウ「こいつ!!」

ムウのメビウスゼロはディアツカのバスターと交戦し、4基のガンバレルを展開しながらバスターに攻撃し、バスターも右腰アームに接続されている350mmガンランチャーを前に出して左腰アームに接続されている94mm高エネルギー収束火線ランチャー後に連結して対装甲散弾砲にして、飛び回るメビウスゼロに無数の弾を撃ち出す。

ディアツカ「とつとと落ちろ!!」

対装甲散弾砲から無数の弾を発射してメビウスゼロの周囲に撃ち出した。

ムウ「!!」

メビウスゼロを推進しながら機体の回転して自由自在に回りながらバスターの対装甲散弾砲から発射された無数の弾をかわしていた。

ハルト「はあああああー!!」

ハルトとサキはアードライとハーノインを相手に交戦し、激闘を繰り広げていた。

アードライ「落ちろ!!」

アードライのイデアールから拡散レーザーを放出しながらハルトのヴァルヴレイヴ1に攻撃するが、ハルトは相手の攻撃を見て回避してボルグ・アームで反撃した。

ハルト「あれがアードライのイデアール。」

アードライのイデアールを見たハルトは相手に直接会話をした。来た。

アードライ「?!」

ハルト「あなたがアードライか？」

アードライ「何故私の名前を知っている?!」

ハルト「エルエルフから聞きました、あなたへの伝言です。俺はお前達とは決別して、GGGと共和国に着くと。」

アードライ「!!」

ハルトはアードライにエルエルフからの伝言を伝えて、ザフトと決別してGGGと共和国に着く事を告げた。

アードライ「エルエルフ、貴様あ!!」

一緒に同じ仲間だったエルエルフが自分達を裏切ってGGGと共和国に着いた事に驚きを隠せずに友の名を叫ぶエルエルフ。

アードライ「貴様がそうさせたのか?!」

伝言を伝えたハルトをエルエルフが裏切った原因と決めつけて直接攻撃を行って来た。

ハルト「うっ!!」

エルエルフの伝言を聞いたアードライの猛攻を喰らうハルト。

サキ「はあああああー!!」

接近戦を強いてくるハーノインのイデアールと真っ向から交戦し、スピンドル・ナツクルをヨーヨーのように振り回して、ハーノインのイデアールのクローアームに直撃し、破壊した。

ハーノイン「やってくれたな!!」

クローアームが破壊されても姿勢を変えずにそのまま移動しながらマイクロミサイルを発射して反撃に打った。

バン「!!」

バンのブレードライガーABはイクスアインのイデアールからコントロールされている多数の無人タイプのバッフェをストライククローで次々と撃破していった。

イクスアイン「貫った!!」

無人タイプのバッフェを撃墜しているブレードライガーABにクローアームで掴んだ。

バン「うわああああー!!」

イクスアインに隙を突かれて機体を掴まれて身動き不能になったバンのブレードライガー。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン「うおおおー!!」

ウルトラマンオーブ オーブオリジンはテロリスト星人を相手に戦い、オーブカリバーを構えながら剣撃した。

テロリスト星人「今度はこの姿か?!

ウルトラマンオーブ オーブオリジン 「剣には剣だ。」

テロリスト星人のテロリストソードとオーブカリバーで剣同士の戦いをするウルトラマンオーブオリジンは右横に振りながら斬り、上から下ろして斬り、正面から先端の刃で突いた。

テロリスト星人「貴様あ!!」

テロリスト星人も猛威を振るいながらテロリストソードから繰り出す斬撃でウルトラマンオーブオリジンに喰らわせる。スターガオガイガーはボグ星人を相手に奮闘し、サイズが大きい星人を相手に戦った。

凱「ガトリングドライバー!!」

右腕にガトリングドライバーを装着しながらボグ星人の胴体に近付けてダメージを与え、さらに宇宙空間を飛び回りながらドリルニーで思いつき打ち込んだ。

撃龍神「シャントウロン!!」

マイクサウンダース13世「ディスクX、セット!!」

3体のインペライザーをマイクサウンダース13世と一緒に連携してマイクサウンダース13世のディスクXによる攻撃、撃龍神のシャントウロンで3体のインペライザーに直撃して、3体とも撃破した。だが、戦っている間に、一同はこれは罠だと気付かず、本隊はすでにオービットベースへと狙って向かった。

ロックオン「まさかこいつらは最初から罠か?!

ティエリア「我々喰わされていたのか?!

アレルヤ「まずい、このままじゃオービットベースが陥落してしまう!!」

既に敵の作戦に気付いたが、既に遅かった。マニングーとデリウスの艦隊が既にオービットベースへ接近しつつ、辿り着こうとしていた。

マニングー「これで奴らもおしまいだ。」

デリウス「では二手に分かれて行こうかではないか。」

マニングーとデリウスの艦隊が左右に分かれてオービットベースへ侵攻してきた。

命「敵艦隊二手に分かれて左右から攻めて来ます!!」

大河「このままではやれてしまう!!」

エルエルフ「まずは防御兵装のプロテクトシールドを展開する事だ。」

大河「(先の事を読んだのか!!)」

エルエルフ「味方機が戻るまで防御展開だ。」

オービットベースの防御兵器のプロテクトシールドを展開して敵の攻撃を防ぐため、味方機が戻るまで持ちこたえる事になった。

マニングー「なっ、何だ?!」

デリウス「奴らはバリアを張って来たと言うのか?!」

マニングー「こうなれば超伝導流体加速砲を使って総攻撃だ!!」

オービットベース全体にプロテクトシールドを展開したのに対し、バールキート級にある超伝導流体加速砲を使ってオービットベースへの総攻撃を行い始め、発射した。

一同「!!」

バートルキート級の超伝導流体加速砲をプロテクトシールドで攻撃を防ぎ、味方機が戻るまでの時間稼ぎをした。

スワン「プロテクトシールド展開中デス!!」

大河「何とか持ちこたえる事は出来た。」

エルエルフ「それはどうかな。」

大河「何?!」

火麻「てめえ、何を言いやがるんだ?!」

エルエルフ「いくら頑丈であってもエネルギーが激しく消耗し、やがて尽きたところを総攻撃を受けて陥落する。」

火麻「うっ。」

大河「凱君達はまだ戻らないのか?!」

命「今敵機と交戦中です!!」

大河「うっ!!」

防御兵器で持ちこたてもエルエルフからいずれはエネルギーを激しく消耗し、陥落すると告げられた。このままオービットベースは敵の手に落ちてしまうのか？

ライゾウ「出せ、ここから出せ!!」

独房で閉じ込められたままのライゾウ。だがその時、敵の攻撃で揺れて、独房の扉が開いた。

ライゾウ「チャンス。」

独房の扉が開いた事で、現在みんなが戦っている隙を突いてヴァルヴレイヴに乗るチャンスを狙った。また3番格納庫では、

キューマ「……。」

未だに乗る事に悩むキューマがいた。アイナの死、みんなを守るにはどうしたらいいのか考えていた。彼の前にあるヴァルヴレイヴ5、彼は乗るとハルトとサキと同様に人間でなくなってしまう恐怖を感じた。

キューマ「これがあれがみんなを。」

ライゾウ「ここで何しているんだ?!」

キューマ「サンダー?!」

ライゾウ「俺はこいつに乗って、ノブの仇を取るんだ。」

キューマ「止めるサンダー!!それはお前が思っている物と違うんだ!!」

ライゾウ「すっこんでな!亡命野郎の言いなり野郎はよお!!」

キューマ「駄目だ!こいつは……!!」

ヴァルヴレイヴに乗ろうとするライゾウに対し、キューマはヴァルヴレイヴに乗ったらハルトとサキ同様に人間でなくなる事やまた人に襲いかかろうとする危険性がある事を言おうとするが、ライゾウは彼を殴った。

ライゾウ「仇を伐つんだって言ってんだろおがぁ!!」

キューマ「その気持ちはよくわかる!!でもそれはエゴなんだ、皆で生き残るためには才能がある奴が乗るべきなんだ!!」

ライゾウ「てめえらはネットで可哀想ゴツコやってろよ、だが、俺は断る。俺があ、俺の手でノブの仇を取らねえと気がすまねえんだ。」

キューマ「もうこれ以上犠牲を出さないためだ、みんなで幸せになるためなんだ!!」

ライゾウ「みんなって、誰の事だ?その皆とやらの中にテメエは入ってんのかよお!?!自分が入ってねえみんななんて、糞だろうが!!」  
キューマ「!!」

キューマのみんなに対してライゾウが反論し、みんなの入っていない自分を否定したが、キューマはライゾウを殴った。

キューマ「みんなのためじゃない!!俺は、俺のために戦いたいんだ!!」

キューマも自分のためにもあると決意を見せ、ヴァルヴレイヴ5に乗り込み、彼もハルトやサキと同様にディスプレイに『アナタハニンゲンヤメマスカ』と言う表示が出てそのままYESを押して何かを注入されてマギウスとなり、オービットベースから発進した。複数のバールキート級の超伝導流体加速砲を連続で発射するマニングアとデリウスの艦隊。

マニングア「しづとい奴め!!」

デリウス「だが、奴らのバリアもそろそろ限界だ。」

オービットベースのプロテクトシールドが解除されて、プロテクトシールドが消えたのを隙を狙って超伝導流体加速砲を再び発射した。

命「敵艦の攻撃、来ます!!」

大河「!!」

バールキート級から発射された超伝導流体加速砲が迫り、プロテクトシールドの展開が消えたオービットベースに狙いを向けた発射された。その時、謎の1機が前に現れて超伝導流体加速砲を防いだ。

一同「?!」

突如、超伝導流体加速砲を防いだ機体に驚愕する大河達。



エルエルフ「……………」

エルエルフは既に次のヴァルヴレイヴが誕生する事やそのヴァルヴレイヴに乗るパイロットの方の方にも気付いていた。

キューマ「俺には神が付いている。」

ヴァルヴレイヴ5に乗ったキューマが敵の超伝導流体加速砲を防げ、今、みんなを守りたい想いと自分のための戦いがここにあった。ヴァルヴレイヴ5の両腕に装備されているボルト・フアランクスを収束から発射された矢状の硬質残光がバールキート級を撃破した。

マニング「何だ、あれは?!」

デリウス「新型機だ?!」

マニング「こうなればジン、グレイブ、バッフェを発進させて、迎撃させる!!」

ヴァルヴレイヴ5の遠距離攻撃で阻まれて、すぐにジン、グレイブ、バッフェを発進させて撃墜にかかってヴァルヴレイヴ5に迫った。その時、後方から強力なビームが放たれてジン、グレイブ、バッフェを撃破した。

キューマ「?!」

現れたのはヴァルヴレイヴ3に乗ったライゾウだ。

キューマ「山田、もしかしておまえも?」

ライゾウ「人間やめる何とかの事か?」

キューマ「……………そうかおまえもやめたんだな、一緒に戦おう。」

新たに目覚めたヴァルヴレイヴ3と5が登場し、亡くなった人のた

めに立ち上がって戦うキューマとライゾウ。ライゾウのヴァルヴレイヴ3の両肩に装備されているアームストロングガン・カノンによる格闘戦を用いりながら連続パンチでジンやグレイブやバツフェを次々と撃退し、二つのカノンを8本のアームユニットに分割展開し、肩部に装備された中距離支援火器「チエーン・ソーサー」、背部コンテナに格納した展開アーム用携行武器「ダイ・アームズ（切断用の「ダイ・アルファ」、刺突用の「ダイ・ガンマ」、射撃用の「ダイ・ベータ」、防御・投擲用の「ダイ・デルタ」の4種を8本のアームユニットにそれぞれ持ちながら敵機を次から次へと撃退していった。キューマのヴァルヴレイヴ5のボルト・フアランクスを拡散から放たれた無数の矢状の硬質残光で一気に多数に敵機を撃退した。

マニングァー「なつ、バカな?!こんな事が・・・?!」

たった2機の強力な力によって圧倒されたマニングァーとデリウスら。

キューマ「これで終わりだ!!」

キューマのヴァルヴレイヴ5がボルト・フアランクスを収束で矢状の硬質残光を発射してマニングァーのノヴゴルドに直撃して見事撃沈した。その時、彼の前で死んだアイナの幻影が一瞬だけ現れた。

キューマ「アイナ!!」

彼女の幻影を見たキューマは、彼にこう言った。

デリウス「くっ、マニングァーがやられてもまだ私が!!」

その時、後方から1機がデリウスのフェルクリンゲンに迫った。

フェルクリンゲンオペレーター1「敵機接近!!」

デリウス「!!」

ビッグボルフオッグ「貰います、走れ、ムラサメソード!!」

宇宙空間を駆けながらムラサメソードでフェルクリンゲンに斬撃し、斬撃の一撃により撃沈した。その頃、イザーク達と交戦するキラ達は、

イザーク「貰った!!」

ヒルダ「終わりだ!!」

キラのエールストライクに向かってビームサーベルで斬りかかるイザークのデュエル。グレイブヒルダカスタムのパトロクロスがアンジユのヴィルキスに突き刺しかかった。

キラ「やらせるかあ!!」

アンジユ「おまえが死ねええええー!!」

その時、キラに何か覚醒して目が変わり、接近してきたイザークのデュエルにビームサーベルでお見舞いして斬撃した。アンジユのヴィルキスはグレイブヒルダカスタムにラツィーエルで斬撃した。

イザーク、ヒルダ「うわああああー!!」

それぞれの機体の斬撃によって返り討ちにあつたイザークとヒルダ。

アードライ「貴様ああああー!!」

ハルトのヴァルグレイヴーに猛攻にかかるからアードライのイデアールはクローアームで迫りにかかった、

ハルト「そこかあ!!」

相手の動きを見てすぐにジー・エツジで突いて機体に突き刺して被爆させた。

アードライ「うわあああああー!!」

ヴァルヴレイヴのジー・エツジに機体を刺突かれて被爆してしまったアードライ。

イザーク「痛い、痛い、痛い!!」

キラとの戦いで顔に傷を負ったイザーク。

ヒルダ「わあああああー、ママ、ママ、ママあああー!!」

アンジュとの戦いで彼女もイザークと同様に顔に傷を負った。

アードライ「うわあ、わあああああー!!」

アードライは機体の被爆で左目の上下に走る傷痕、さらに左目を失明してしまった。

ディアツカ「イザーク、しっかりしろ!!」

ハーノイン「アードライ、大丈夫か?!」

ロザリー「ヒルダ!!」

すぐに負傷した3人を連れて撤退するハーノイン達。

ムウ「ようやく引き上げたか。」

敵の作戦は失敗し、撤退するザフト軍、宇宙人同盟。

フレイ「そうよ、みんなやつつけてもらわなくっちゃ、でないと……戦争は終わらないもの……。」

次回 9話へつづく

## 設定3

### 改造機体

ヒルダ専用キルシュバオム

全高：31.4m?

頭頂高：27.9m?

総重量：82.3t

### 武装

#### 格闘

ミサイルポッド

内蔵ビームソード×2

アイゼン・ガイスト×2

内蔵ブースター×2

背部スラスター

### 機体説明

ザフト軍の開発した新型機をゼロの根回しによって渡り、ノーマであるヒルダに与えられた。こちらのキルシュバオムは全身が赤一色で、両手にあるビームキャノン、バリアを廃止して内蔵ビームソードが採用されている。また胴体にあるレーゲン・グリッツェンや飛行形態の変形機能が廃止されて常に人型形態のまま、背部にはスラスターが装着されて、両肩にはブースターと一体化したアイゼン・ガイストが採用されてバッフェの盾の形状とは異なりこちらの盾はひし形をしており、盾にブースターが内蔵されている。こちらのキルシュバウムは格闘、防御、機動力を中心に強力な武器を廃止した機体。後にこの機体を参考にした改造ゾイドが現れる。

リアルドホバータンクミサイルランチャー

全高：20.2

頭頂高：16.6

重量：92.5

### 武装

大型16連ミサイルランチャー

60mm機関砲

ミサイルランチャー

機体説明

A R U S軍の地上用M S。リアルドホバータンクのリニアライフを外して16連ミサイルランチャーに換装し、複数の敵機を迎撃する。アフリカでの砂漠の戦いで多数配置されてザフト軍、宇宙人同盟に挑んだ。

リアルドホバータンクアンチエア

全高：19.2

頭頂高：16.6

重量：82.5

武装

4連装高速機関砲

60mm機関砲

ミサイルランチャー

機体説明

A R U S軍の地上用M S。リアルドホバータンクのリニアライフを外して4連装高速機関砲を搭載し、照準率は高く、空中の敵を迎撃するための対空攻撃を中心とする。空中以外にも地上で高速タイプの機体にも有効。アフリカでの砂漠の戦いで多数配置されてザフト軍、宇宙人同盟に挑んだ。

オリジナル星人ハンター

キリエロイド キリツシヤ

キリエロイドのハンターで、傭兵である。戦い事を好んでプラズマソウルを稼ぎ、また戦争に参加して敵の命を奪う事も楽しそうにする。武器は一般用ハンマーのブレイクハンマー、一般用槍のゲイボルグ。

必殺技

キリエルフレイムハンマー

ブレイクハンマーに自身の炎を纏わせながら相手に打撃を与えて  
とてつもない火傷を負わせる。

キリエルフアイヤランス

ゲイボルグに自身の炎を纏わせながら相手に刺突して炎で燃やし  
尽くす。

オリジナル機体

ソルシエウイサリス

全高：18・91

重量：62・59t

武装

ソルシエカッター×2

ソルナイフ×2

ソーサリロッド

ウイザービット×8

特殊機能

自己回復機能

エネルギー回復機能

分身

必殺技

ダブルムーンスラッシュ

ソルシエウイサリスの両腕のソルシエカッターで相手に二つの月  
を描いて切り込む。

ムーンシユート

ソーサリロッドに集中して月形の光線を発射する。威力はウルト  
ラマンの光線並で、怪獣を簡単に倒してしまう事も可能。

ダブルムーンジュエル

ソルシエウイサリスが両手を広げながらターンを決めて、二つの月  
を出現して周り全体に光状の球を拡散する。

ムーンフルバースト



ソーサリロッドとウィザービットを同時攻撃による必殺技。ソーサリロッドとウィザービットを同時に集中して、8基のウィザービットを円形にしてソーサリロッドを前に出して同時に強力な光線を放ち、ウルトラマンの光線以上の威力を誇る。

#### 機体説明

神崎美月の操縦する機体。魔女のような姿をした機体で、ガンダムやヴァルグレイヴと同様の人型兵器。機体の開発元はコズミックイラに全く詳細不明であり、謎につつまれた機体である。機体の性能面はウルトラマンや怪獣と渡り合いながら倒すことも可能。武装は両腕から出刃するソルシエカッターはビームでない光状の刃を出して相手に切り込み、ソルナイフは短剣型で切れ味は鋭く、PS装甲にキズを着けることが可能で、刃に対ビーム、光線用のコーティングがされており、杖型武器のソーサリロッドは、杖の先端のクリスタルから特殊な光線を放ち、光状の刃を出現したりし、下部に搭載されている8基のウィザービットを放出して、複数の敵機をオールレンジによる攻撃で葬る。

#### キャラ紹介

神崎美月

性別：女性

年齢：26歳

アイカツ！から出てくるキャラクター。子連れの母親。娘のみなと息子のこうの3人暮らしで、夫は他界し、3人で旅を回っている。子供の事をいつも大事に思っている。家事全般は得意で、彼女は歌を歌うことが好きで、いつも歌ったりしている。彼女は別世界出身であり、なぜこのコズミックイラにいるのか理由は不明。彼女の身体は不老不死の魔女で、自身の子供2人も不老不死の魔女であり、マジウスとは違う一種である。

## 第9話 宇宙に降る星

ザフト軍と宇宙人同盟との戦いに勝利をし、次の戦いに向けて準備をしていた。

宇宙

オービットベース

セカンドオーダールーム

大河「現在地球圏は今も戦いの火種の状態だ。その中で北アフリカでは地球連合軍とザフト軍、宇宙人同盟が激しい戦いを繰り広げられている。共和国軍も既にこの戦いに参加、交戦中だ。」

現在、北アフリカでは地球連合軍とザフト軍、宇宙人同盟との戦いが繰り広げられており、全軍は地上部隊を出して戦い、北アフリカでの戦いを終わらせるべくヘリック共和国軍も出撃して交戦中である。

エルエルフ「ザフト軍と宇宙人同盟は地球に有利なのを送っている。」

大河「ザフト軍の持つ機体の圧倒的な質と宇宙人同盟のハンターやその怪獣を使って地球連合軍を追い詰めている。地球連合軍もそれに対して星人ハンターを雇って対抗に出ている。」

エルエルフ「北アフリカは戦火だらげか。」

大河「北アフリカ、いやアフリカ全体の戦いを終わらせて犠牲者を出させないため我々も出る事にする。これよりGGGと共和国の特機部隊を北アフリカへ向かわせる。」

北アフリカの戦いを一刻も早く終わらせるべく大河はGGGと共和国の特機部隊を向かわせる事に決定した。人員不足により、GGGから数名アークエンジェルに加わり、地球圏の降下の際に伴い、ヘリオポリス避難者のシャトルの護衛もする事になった。

ビックオーダールーム

キラ「勇者ロボの皆さんは人々を守るために戦っているんですか。」  
雷龍「ああ、俺達は平和で暮らす人達を守るためにこの戦争を終わらせるために戦っているんだ。」

風龍「兄から教わった事を学び、命あるものを守る為事の大切さを知りました。」

キラ「兄って?」

ハルト「それって?」

雷龍「超竜神の事だ。俺と風龍は超竜神に色々な事を学んだ。人を救う事、人、生物の命の大切さを。」

キラ「・・・。」

アンジュ「人を救う?」

雷龍「だが、超竜神は地球を救うために自らを犠牲にしていなくなっちゃった。」

サキ「ZXR-06との戦いね。」

風龍「だから兄の代わりに僕と雷龍で人々を守らなきゃならないのです。」

キラ「あなた達も守りたいものはあるんですね。」

雷龍「俺達ロボットだって守りたいものはあるんだ。だからこそ戦争で犠牲を出させないために俺達はこの命を守る為に戦っているんだ。」

アンジュ「守りたいもの?」

キラとアンジュとハルトとサキは雷龍と風龍と会話し、2人は兄である超竜神から命の大切を学び、その命ある者を守る為に自分達が戦いながら守り抜き、戦争で犠牲者を出させないために今も救助を続けてきた。

フレイ「キラ、ハルト、サキ。」

キラ「フレイ。」

サキ「何しに来たの?」

フレイ「もう探したのよ！ 整備が終わったら、こっちも手伝って。避難民の人達の世話で大忙しなんだから。」

キラ「わかったよ。」

ハルト「僕達も……。」

フレイが現れて、ヘリオポリス避難者の人々をシャトルに乗せる手続きで忙しく、3人に手伝うように求めて来た。1人の女の子が入り込んでキラ達に近づいてきた。

エル「お兄ちゃん達……。」

キラ「君は？」

エル「お兄ちゃん達はこの船の人なんだよね？」

ハルト「うん。」

エル「私、エル。今まで守ってくれてありがとう。」

フレイ「キラ、この子ね、ヘリオポリスに住んでいたのよ。」

雷龍「ヘリオポリス避難者が助けてくれたことで会いに来たのか。」

エル「わあ、もしかしてGGGのロボットだよね？」

風龍「はい。」

雷龍「俺と風龍はGGGのロボットだ。」

エル「こんなところで見れるなんて嬉しいわ!!」

エルの母親「エル!!」

エル「ママ。」

エルの母親「探していたわよ。娘がご迷惑かけてすいません。」

キラ「いえ。」

エル「これお兄ちゃん達とロボットさんをあげるわ。」

エルは今まで自分達の事を守ってくれたお礼にキラやアンジュやハルトやサキや勇者ロボの風龍と雷龍に自分が折り紙で折った折鶴を渡した。

サキ「これ折鶴ね？」

エル「これ、エルが折ったの。」

風龍「これは上手に出来ていますね。」

雷龍「こんな可愛いの見るのは初めてだ。」

エル「とつても可愛いでしょう。」

ハルト「一生懸命出来てるね。」

キラ「ありがとう。」

アンジユ「これは？」

エル「折り紙って言うの。折り紙はいろんなに折って作ったりして出来るの。」

アンジユ「いろんなにも折れるの？」

エル「お花や兜やお星様に折れたりするの。」

アンジユ「いつか見てみたいわ。」

折り紙を知らないアンジユは、エルから初めて聞かされて折り紙には他のものにも折る事が出来る。

フレイ「あの子、これから先に何が待っているか知らないから笑っていられるのね、地球に降り立って戦いから逃げられるわけじゃないのに……。」

キラ「……。」

この後、キラ達や風龍や雷龍に起きる出来事が大きく狂わす。一方、アフリカでの戦いで加勢すべく地球圏への降下の準備にかかるシユナイゼルのホエールキング。

宇宙

ホエールキング

ブリッジ

グラハム「ハワード・ネイスン……。」

ダリル「奴は、隊長の事をとても尊敬していました。次期主力MS選定にフラッグが選ばれたのは、テストパイロットをしていた隊長のお陰だ。」

グラハム「私は、フラッグの性能が一番高いと確信したからテストパイロットを引き受けたに過ぎんよ。しかも、性能実験中の模擬戦で……。」

ダリル「あれは不幸な事故です、隊長!!隊長、奴はこうも言っていました。隊長のお陰で自分もフラッグファイターになる事が出来た。これで隊長と共に空を飛べると。」

グラハム「そうか……。彼は私以上にフラッグを愛していたようだな。ならば、ハワード||メイスンに宣誓しよう。私、グラハム・エーカーはフラッグを駆ってガンダムを倒す事を。」

ジノ「お前が言うなら俺も一緒に付き合うぜ、グラハム。」

戦死したハワードのため、フラッグを愛してきた彼のためにガンダムを倒す事を宣誓するグラハム。その時、彼の前からナイフが投げられてきた。

ダリル「隊長、危ない!!」

グラハム「!!」

すぐに下にしゃがんでナイフを避けたグラハム。彼にナイフを投げた人物が現れた。

ルキアーノ「これこれは失礼。」

ジノ「ブラッドリー卿!!」

その人物はジノと同じガイロス帝国軍のルキアーノだ。

ルキアーノ「挨拶代わりですよ、あなたならかわせると思っています。」

ダリル「貴様、隊長にナイフを投げるとはまとんだ無礼だ!!」

ルキアーノ「私とやり合うつもりですか?」

グラハムにナイフを投げた事に反論したダリルに対し、ナイフを出して突きつける。

グラハム「ブラッドリー卿いや少佐。」

ルキアーノ「？」

グラハム「やり合うのであれば共和国とG G Gの特機をどちらが倒すか勝負する事だ。」

ルキアーノ「面白そうではありませんか。どちらが倒すかいい対決になりませんか。」

グラハム「ガンダムをこの手で倒してみせる。」

ルキアーノ「ガンダム？もしかしてあなたはガンダムに負けたのですか？」

グラハム「私は部下の仇を取るためにガンダムを必ず討つ。」

ルキアーノ「面白そう。私は誰であろうと楽しませてもらいますよ。」

ヘリック共和国とG G Gの特機をどちらが倒すか勝負に出るグラハムとルキアーノ。また同じ頃、ゼロ（ルルーシュ）達の率いる黒の騎士団も地球圏への降下の準備にかかっていた。

宇宙

斑鳩

ブリッジ

ゼロ（ルルーシュ）「傷の具合は大丈夫か？」

ヒルダ「平気だ。」

イザーク「俺は大丈夫だ。」

アードライ「私達を何故貴殿の部隊に属する事になったんだ？」

ゼロ（ルルーシュ）「君達の事をしばらく私の下で働かせる事になった。」

ヒルダ「あたし達が？」

ゼロ（ルルーシュ）「そうだ。クルーゼ隊長とカイン隊長が来れない

今、私が代わりに君達の面倒を見るのだ。」

イザーク「俺達をか。」

ゼロ（ルルーシュ）「君達の仲間のニコルは一度本国へ戻った。」

ディアツカ「あいつすぐいなくなりやがったか。」

ゼロ（ルルーシュ）「それと君達は前の戦闘でやられた事で私が特別に新しい力を授けてあげよう。」

アードライ「新しい力だ?!」

ゼロ（ルルーシュ）「まずはイザーク、君の機体に強化装甲を纏わせ  
た。」

イザーク「俺の機体に？」

ゼロ（ルルーシュ）「ああ、君はストライクにやられたと聞いて私が  
君の機体にあサルトシユラウドを付けさせた。」

イザーク「機体の強化に感謝する。」

ゼロ（ルルーシュ）「次はアードライ、ハーノイン、イクスアイン、  
ヒルダ、君達4人には特別な機体を用意してあげた。」

アードライ「私とハーノインとイクスアインにか。」

ヒルダ「ノーマのあたしにもか？」

ゼロ（ルルーシュ）「君達のようなパイロットには本国が開発した新  
型機のキルシユバオムを用意した。キルシユバオムは共和国とGG  
の特機に匹敵する力を秘めている。」

ハーノイン「そんなにすごいのか？」

ゼロ（ルルーシュ）「共和国のヴァルヴレイヴを参考にして開発され  
た。」

イクスアイン「ヴァルヴレイヴだと?!」

ゼロ（ルルーシュ）「ヴァルヴレイヴを元にして開発されたそうだ。  
キルシユバオムはヴァルヴレイヴ、いや特機と渡り合える力を持って  
いる。いずれ量産化すれば勝利は確実だ。」

ハーノイン「おお。」

ゼロ（ルルーシュ）「君達には期待している。それとヒルダ、君のキ  
ルシユバオムは少し違う性能を持っている。」

ヒルダ「どういう事だ？」



ゼロ（ルルーシユ）「君のキルシュバオムは格闘、防御、機動力を中心にした機体だ。」

ヒルダ「あたしにピッタリだ。」

ヒルガ「人間共はこんなすごいのを手にしたのか。羨ましいな。」

ゼロ（ルルーシユ）「ハンターのおまえには巨大化能力がある。十分強い。まずテストしないとな。地球圏降下の際に共和国の第8艦隊とシユナイゼルの率いる艦隊が近くにいる。既に交戦中だ。」

ハーノイン「これは丁度いい、早速試してやろうぜ。」

イザーク「これならストライクを必ず倒せる。」

ヒルダ「ああ。」

アードライ「見ている、エルエルフ。」

ゼロ（ルルーシユ）から与えられた新たな力を手にするアードライ達は、復讐するために再び立ち上がる。地球圏降下の際にハルバートンの共和国第8艦隊とシユナイゼルの艦隊が激突した。シユナイゼルの艦隊から発進されたMS、ナイトメアフレームの部隊、それに対しハルバートンの第8艦隊からはプテラス、メビウスを発進した。

シユナイゼル「共和国の知将ハルバートン、いくら君でも時代遅れの兵器ではこの人型機動兵器には勝てまい。」

時代遅れのプテラスとメビウスでMS、ナイトメアフレームに挑むも次々と撃墜されていった。ミサイルを発射したプテラスの攻撃をフラッグがデイフェンスロッドを回転して防ぎ、リニアライフルで反撃して撃ち落とした。

共和国兵1「このおっ!!」

MSとナイトメアフレームに必死で抵抗すべくメビウスがリニアガンで応戦するが、サザーランド・エアがアサルトライフルに撃ち落

とされた。

ハルバートン「向こうはMSとナイトメアフレームで出してきたか。」

ホフマン「閣下、敵MSとナイトメアフレーム部隊が我が艦を次々と撃沈させました!!」

ハルバートン「ぐうう。」

共和国オペレーター1「ターゲットルシップ3隻、撃沈です!!」

ハルバートン「何だと?！」

かつて知将と言われたハルバートンは、MSとナイトメアフレームの前には全く歯が立たず、今となって単にただやられるだけの存在となった。ガイロス帝国のルキアーノが駆けるパーシヴァルが頭部のスラッシュハーケンを放出してターゲットルシップに突き刺して引きずきながら他のターゲットルシップ3隻にぶつけて撃沈させた。

ルキアーノ「ん。」

偶然近くにいたプテラスの前に立って、左手で掴みながら、コクピットに向けて4連クロードで近付けた。

共和国兵2「うわあつ、あああつ!!」

ルキアーノ「お前の欲しいのは何だ?」

共和国兵2「死にたくない、俺はまだ死にたくない、命だけは……!!」

ルキアーノ「なら死ねえつ!!」

死に怯えるプテラスのパイロットをそのままコクピットごと4連クロードで潰して平然とやるルキアーノ。

ダリル「隊長。」

グラハム「私の目的はあの白いガンダムだ。ハワードの仇を必ずこの手で取る!!」

ハワードを討ったキラのストライクを待ち続けるグラハム。必ずこの手で仇を取る事とストライク打倒に燃やしていた。ゼロ（ルルーシユ）の斑鳩が現れて、キルシユバウムの実験テストを行うためにハルバートンの第8艦隊とシユナイゼルの艦隊に4機のキルシユバウム、イザークのデュエルアサルトシユラウド、護衛機のジン、グレイブ、バツフエ宇宙人同盟の星人ハンターのヒルガを発進させて戦闘に介入した。

ホフマン「閣下、大変です。今度は黒の騎士団までもが現れました!!」

ハルバートン「最悪の事態になってしまった、このままやられてしまうのか?!」

黒の騎士団の出現により、さらに窮地に陥ってしまったハルバートンの第8艦隊。そしてその時、そんな彼らの前に現れたのはアークエンジンジェルだった。

マリユー「あれはハルバートン提督の艦隊!!」

ナタル「地球連合軍の艦隊と黒の騎士団と戦っているのか?」

スメラギ「このままだと第8艦隊が全滅するわ。」

マリユー「えっ?!」

ナタル「地球降下する前に助けることは出来ないのか?!」

マリユー「……。」

ナタル「艦長。」

マリユー「地球降下する前にハルバートン提督を助けなさいと。」

地球へ降下する前に直ちにハルバートンの第8艦隊を救出すべくシユナイゼルの艦隊と黒の騎士団に挑んだアークエンジン。

ハーノイン「こいつは使える!!」

早速ハーノインの乗る新型機のキルシュバオムの実戦をし、宙を動き回りながらパンチを出してヘリオンに直撃した。

イクスアイン「何と言う性能だ!!」

イクスアインはキルシュバオムを操縦しながら圧倒的性能に驚き、両手をチョキにしてビームを発射してネルソン級を撃沈させた。

ムウ「こんなに混戦しているとは流石にまずいな。」

ロックオン「すぐに終わらせていくぞ。」

ティエリア「ああ。」

バン「黒の騎士団はなんか見たことのない機体出している。」

ロックオン「新型機か?!こいつはさらに厄介だ。」

撃龍神「すぐ片付けてやるぞ!!」

地球降下する前にハルバートンの第8艦隊を救出すべく戦いに挑んだ。

フレイ「キラ。」

キラ「あ、だから、フレイの想いの分もさ……もう、逃げない。決めたんだ。しょうがないよ。この戦争を終わらせなきゃ：僕達だつてさ!!」

フレイ「なら私の想いは、貴方を守るわ。」

戦いから逃げないを決め、フレイの分やみんなの分まで戦うキラはエールストライクに乗って出撃した。早速アークエンジェルから発進したキラ達は、シュナイゼルの艦隊と黒の騎士団を相手に戦う事になった。

イザーク「来たか、ストライクう!!」

キラ「デュエル、装備が?!」

発進の際にデュエルの接近に対し、デュエルの全身が変わった装備をしている事に気付いた。

グラハム「待っていたぞ、ガンダムう!!」

だが、同じくエールストライクとデュエルの前にグラハムのフラッグカスタムが現れて襲いかかって来た。

キラ「今度はフラッグまで?!」

グラハム「ハワードの仇、ここで取らせてもらおうぞ!!」

ハワードを討ったキラのエールストライクにプラズマソードを出して切りかかった。

キラ「!!」

ビームサーベルを出してグラハムのフラッグカスタムのプラズマソードを受け止めたキラ。プラズマソードを振りながらエールストライクに攻撃していった。

キラ「うわあっ!!」

執念を燃やすグラハムの技量に押されてしまったキラ。

イザーク「邪魔をするな!!」

ストライクとの再戦に介入して来たグラハムのフラッグカスタムに邪魔をされて、アサルトシユクラウド右肩部装甲にあるレールガンの

シヴァを発射した。

グラハム「!!」

デュエルアサルトシユクラウドのシヴァから発射された攻撃を右腕のデイフェンスロッドを回転しながら防御した。

グラハム「この私の邪魔をした事を後悔させてあげようではないか!!」

自分に攻撃して来たデュエルアサルトシユクラウドにも攻撃の対象にして、エールストライク共々相手にした。

撃龍神「この野郎!!」

撃龍神はルキアーノのパーシヴァルを相手に交戦し、パーシヴァルの両肩から放出されたスラッシュユハーケンをかわしていき、左腕にあるデンジャンホーからヴァンレイをパーシヴァルに放つが、パーシヴァルが宙を回って攻撃をかわした。

ルキアーノ「それえっ!!」

4連クローを回転させる事でルミナスコーンを発生して撃龍神に突きかかった。

撃龍神「何て小柄だ、ならこいつはどうだ!!」

小柄であるナイトメアフレームのパーシヴァルの回避運動に対し、得意な格闘でもちかけて中国拳法の太極拳で素早い力強い動きを駆使して突撃してくるパーシヴァルの周りを回ってキックを打ち込んだ。

パーシヴァル「これはどうでしょう!!」

両肩のスラッシュハーケンを放出して撃龍神の両腕を捉えて振り回して突き放ち、そのまま両足から内蔵されてるハドロン砲から弾丸状のビームを発射した。

撃龍神「ぐう!!」

パーシヴァルの両足のハドロン砲から発射された弾丸状のビームを喰らった撃龍神。

ハルト「はああああー!!」

次々と来るフラッグ、リアルドの群れをジー・エッジで斬り落としていくハルトのヴァルヴレイヴ1。

ライゾウ「オラオラオラー!!」

両肩のアームストロング・カノンを強いた格闘で巨大な腕でティエレン宇宙型をパンチで胴体を貫いて破壊し、次にアームストロング・カノンから巨大なビームを発射してサザーランド・エア、グロースター・エアの部隊を葬った。交戦中の途端、ハルト達の前に新しい機体に取り込んだアードライ達が来襲して来た。

アードライ「見つけたぞ!!」

ハルト達のヴァルヴレイヴを見つけたアードライ達は新しい愛機であるキルシュバウムでヒルダ機以外の3機が飛行形態から人型形態に変形して襲いかかった。

ライゾウ「何だあれは?!」

サキ「ザフトの新型?!」  
キューマ「しかも4機か?!」

ザフト軍の送り込んだ新型機キルシユバオムの出現に驚くハルト達。人型形態に変形した3機のキルシユバオムが早速襲いかかって来た。

ハーノイン「うおりゃー!!」

ハーノインのキルシユバウムが先手を打って両手のマニユピレーターをグーに変形してライゾウのヴァルヴレイヴ3を殴った。

ライゾウ「くっ、やりやがったなこの野郎!!」

直接攻撃をして来たハーノインのキルシユバオムに対して反撃に出てアームストンガー・カノンによるパンチでお見舞いした。

イクスアイン「!!」

キルシユバオムを操縦するイクスアインはヴァルヴレイヴ5とブレードライガーABにマニユピレーターをチョコキに変形してビームを発射して攻撃し、今まで体感したことのないものに触れた。

バン「新型機、これじゃレイヴンに勝つどころかここで負けてしま  
う!!」

敵の新型機の性能に圧倒され、このままではレイヴンに勝つどころか負けてしまう事でバンはブレードライガーABのブースターを推進しながら宇宙空間を飛び回って、イクスアインのキルシユバオムに間合いを飛び込んでストライクレーザークローで引き裂いた。



アードライ「覚悟しろ!!」

前の戦いでハルトに左目を失明させられて復讐に果たすべく彼に攻撃するアードライ。

ハルト「何だ、この新型機、何で僕ばかり攻撃してくるんだ。」

アードライ「左目の借りをここで返させてもらおうぞ!!」

ハルトのヴァルヴレイヴ1を倒すべくアードライはキルシュバオムを駆けながらパンチをしていき、さらにグーからチョキに変形してビームを発射した。

ハルト「やられるわけにはいかないんだ!!」

アードライのキルシュバオムの攻撃に対し、ハルトはヴァルヴレイヴ1の脇からフォルド・シツクルを出してアードライのキルシュバオムに切りつけた。

アードライ「うっ!!」

ハルトのヴァルヴレイヴの攻撃を受けたアードライは、

アードライ「いい気になるな!!」

機体の胸部にある荷電粒子砲のレーベン・グリッツエンを発射してヴァルヴレイヴ1に向けた。

ハルト「!!」

すぐにレーゲベン・グリッツエンを回避したハルト。発射した直後にアードライのキルシュバオムのエネルギーが9割も消耗して動け

なくなった。

ゼロ(ルルーシュ)「これがキルシュバオムか。強力な武装を持つ割にはエネルギーを激しく消耗か。これは大変なものを作ってくれたものだな。いい実験にもなったな。」

キルシュバオムの性能をテストした結果、レーゲン・グリッツェンによる使用でエネルギーの9割を消耗した事が分かった。

ヒルダ「この前の借りを返させてやる!!」

ヒルダのキルシュバオムがアンジュのヴィルキスと交戦し、両腕に内蔵されているビームソードを出現して切りかかり、アンジュは敵の攻撃に対し、アサルトライフルを出して弾丸をビーム弾にセットして射撃した。

ヒルダ「ん!!」

ヴィルキスのアサルトライフルから放ったビーム弾を両肩のアイゼン・ガイストで防御してそのまま体当たりした。

アンジュ「うっ!!」

ヒルダのキルシュバオムの体当たりにつつかり、姿勢を崩したヴィルキス。

アンジュ「やってくれたわね。」

ラツィーエルに持ち替えて、両手持ちで大きく斬り込むが、ヒルダのキルシュバオムのアイゼン・ガイストにまた防御されてしまい、効いていなかった。

ヒルダ「貰った!!」

そのままパンチでヴィルキスにお見舞いした。

ゼロ(ルルーシュ)「これがヒルダのキルシュバウムか。他の3機とは違い、長時間活動、格闘、防御、機動力を中心か。その分強力な武装は排除か。」

アードライ、イクスアイン、ハーノインのキルシュバウムとヒルダのキルシュバウムを比べて、3人のキルシュバウムは同じで強力な武装を持つ分にエネルギーの消費が激しく、ヒルダのキルシュバウムは強力な武装を排除して長時間活動、格闘、防御、機動力を中心とし、テスト実験の成果を出した。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン(ガイ)「うおおおおおおー!!」

巨大化したヒルガを相手に戦い、ヒルガの両腕のヒツポリトミサイルユニットから発射されたミサイルをオーブカリバーで切り払い、ヒルガに斬撃を加えた。

ヒルガ「ウルトラマンオーブ、お前と戦えて光栄だよ。」

ウルトラマンオーブ オーブオリジン(ガイ)「俺もまた会えて光栄だ。それとお前に話がある。」

ヒルガ「何だ?」

ウルトラマンオーブ オーブオリジン(ガイ)「お前がオービットベースに侵入して攻撃した事を覚えてるか?」

ヒルガ「ああ、あの時か。俺が派手にやったことか。」

ウルトラマンオーブ オーブオリジン(ガイ)「お前の攻撃で1人犠牲者が出た!!」

ヒルガ「俺に言っただけでどうするんだ？知った事かよ!!」  
ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「お前をここで倒すのみだ!!」

前にオービットベースでヒルガの乱射によってアイナが命を落とし、ヒルガにとつて彼女の死を何とも思わない事でウルトラマンオーブ オーブオリジンがここで倒す事を決めてオーブカリバーでヒルガに斬撃した。

ヒルガ「やってくれてんじゃねえか!!これでも喰らえ!!」

ウルトラマンオーブ オーブオリジンに対し、両腕のヒツポリトミサイルユニットから必殺技のヒツポリトバックショットで武器から撃ち出す散弾攻撃でウルトラマンオーブ オーブオリジンに喰らわせた。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「ぐわあっ!!」

ヒルガの必殺技を食らってしまったウルトラマンオーブ オーブオリジン。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「こうなったらこれはいくしかない。エースさん、セブンさん、2つの刃、お借りします!!」  
オーブリング「フュージョンアップ、ウルトラマンオーブスラッガーエース。」

ヒルガの攻撃を対処すべく、ここはフュージョンアップしてガイは2枚のカードをオーブリングにリードしてウルトラマンオーブ オーブオリジンからウルトラマンオーブスラッガーエースへと変身し、専用武器のバーチカルスラッガーを手に持った。

ヒルガ「変身したところで同じだろ!!」

再び両腕のヒッポリトミサイルユニットからミサイルを一斉発射してウルトラマンオーブスラッガーエースに向けた。

ウルトラマンオーブスラッガーエース（ガイ）「!!」

ヒルガの発射した多数のミサイルをバーチカルスラッガーに大きく切り払って、全て破壊した。

ヒルガ「なっ、何だと?!」

ウルトラマンオーブスラッガーエース（ガイ）「今度はこっちが行く番だ!!」

今度はこちらから攻撃に出てバーチカルスラッガーを大きく回しながらヒルガに斬り込んだ。

ヒルガ「ヒッポオオオオ!!」

ウルトラマンオーブスラッガーエースのバーチカルスラッガーの斬撃を大きく喰らったヒルガ。

ヒルガ「いい気になるな!!」

ヒルガは必殺技のヒッポリトツインミサイルで両腕の武器から発射する複数のミサイルでウルトラマンオーブスラッガーエースに向けたが、すぐにバーチカルスラッガーを持ったまま身体を回転して全弾切り払った。

ヒルガ「何?!」

自身の放った必殺技が全て切り払われた事に驚愕したヒルガ。

ウルトラマンオーブスラッガーエース(ガイ)「これで終わりだ。スラッガーエーススライサー!!」

ケリを着けるべく必殺技のスラッガーエーススライサーを発動して上に飛んでバーチカルスラッガーを持ったまま身体を回転してヒルガに斬り込んだ。

ヒルガ「ぐおおおおおー」

ウルトラマンオーブスラッガーエースの必殺技によって最期を遂げたヒルガ。

ウルトラマンオーブスラッガーエース(ガイ)「これで解決はした。彼女の仇を討ちたかった彼には申し訳ない。」

無事に解決したが、死んだアイナの仇を取りたかったキューマが憎しみにとらわれないうえにこの事を隠した。キラのエアラストライクとイザークのデュエルアサルトシユラウドとグラハムのフラッグカスタムの三つ巴を交え、フラッグカスタムがトライデントストライカーでデュエルアサルトシユラウドに射撃した。

イザーク「雑魚ごときが!!」

アサルトシユラウド左肩部装甲内にあるミサイルポッドでフラッグカスタムに全弾発射した。

グラハム「!!」

デュエルアサルトシユラウドから発射されたミサイルをプラズマソードで切り払った。

キラ「こんなところで!!」

ビームライフルで2機に連射したキラ。イザークのデュエルアサルトシユラウドには命中はしたが、グラハムのフラッグカスタムに攻撃をかわされた。

イザーク「いい気になるな!!」

接近戦に持ち込んでビームサーベルを出して攻撃するが、

グラハム「今日の私は、阿修羅すら凌駕する存在だあ!!」

プラズマソードでデュエルアサルトシユラウドのビームサーベルを交えて強く押し込んでいき、そのままプラズマソードでビームサーベルを弾き返して、デュエルアサルトシユラウドがビームサーベルを取り落としたのを奪って使用して斬撃した。

イザーク「ぐわああああっ!!」

フラッグカスタムにビームサーベルを奪われて自身の機体の武器を受けてしまったデュエルアサルトシユラウド。

イザーク「くっ、くそ、この借りは必ず!!」

グラハムの操縦技量に猛攻で強化したばかりの機体が損傷し、撤退するイザーク。

グラハム「うつ、ぐはあっ!!」

だが、グラハムのフラッグカスタムはリミッターを解除した事により身体に大きな負担がかかってしまい、その影響で口から吐血した。

グラハム「ここは引くしかあるまい。」

これ以上の戦闘は不能と判断し、撤退するグラハム。

イクスアイン「これで仕留めてやる!!」

キルシュバウムの圧倒的な性能で追い詰められたバンとキューマ。

バン「こんなところでやられるわけにはいかないんだ!!」

イクスアイン「よし、ならいます楽にしてやる!!」

トドメを刺すべく、イクスアインのキルシュバオムはレーゲン・グリッツエンの発射態勢を取り、バンのブレードライガー、キューマのヴァルヴレイヴ5に向けようとする。

バン「!!」

バンはキルシュバオムのレーゲン・グリッツエンの発射態勢を見てレイヴンのジェノザウラーの荷電粒子砲の発射態勢に似ている事に気付いて、ブレードライガーABのブースターを機動して突き進んだ。

イクスアイン「無駄死にをしに来たのか!!」

前に近づいて来るブレードライガーABにレーゲン・グリッツエンを発射したイクスアイン。だが、前に突き進んでくるバンのブレードライガーは、発射された攻撃をすぐに目で捉えて上にジャンプして回



避した。

イクスアイン「何、かわしただと?!」

レーゲン・グリッツエンを発射して前に突き進んできたブレードライガーが上に高くジャンプして回避された事に驚くイクスアイン。そして真上からバンがブレードライガーのレーザーブレードを展開してイクスアインのキルシュバオムの胴体に大きく斬り込んだ。

イクスアイン「うわああああー!!」

バンのブレードライガーのレーザーブレードの一撃によって胴体に大きな損傷をしたイクスアインのキルシュバオム。

イクスアイン「ここは撤退だ。」

イクスアインもこれ以上の戦闘は不能と判断し撤退した。

バン「やった、やった!!あれならレイヴンに勝つことができる。」

無事、勝利し、敵が発射する態勢に隙間が出来る事と正面から攻撃でかわす事を学んだバンは、レイヴンとの再戦するときはこの戦法を使って挑む事にする。戦いは激しくする最中、ますます激化した。

ゼロ（ルルーシユ）「全機、これより直ちに地球圏へ降下する。」

ゼロ（ルルーシユ）の号令で斑鳩に帰投し、地球に降下する。アーケンジェルと特機部隊、第8艦隊は、シユナイゼルの艦隊と交戦中だった。

ハルバートン「このままでは!!」

必死で奮闘するハルバートン。彼の前にジノのトリスタンが現れた。

ジノ「貰った!!」

ホフマン「閣下!!」

ハルバートン「なっ!!」

トリスタンの両腕のメギドハーケンを発射して2基を合体化して高い威力のビームのハドロンスピアーとなってハルバートンのネオターゲットシップを撃沈した。

マリユール「ハルバートン提督!!」

ノイマン「ホフマン艦長!!」

上官の最期目の当たりにするマリユールとノイマンら。

ナタル「このままではアークエンジェルも沈んでしまう。先に避難者のシャトルを。」

この戦いの状況ではアークエンジェルが沈んでしまう事で、先に避難者のシャトルを発進させたナタル。

エルエルフ「おい、何勝手にシャトルを発進させた、今すぐに戻せ!! 撃墜されるぞ!!」

ナタル「あのシャトルからは民間の救難信号を出させています!! 地球連合軍は手出し出来ません!!」

スメラギ「話の通じる相手じゃないのよ、早く戻すのよ!!」

ナタルがシャトルを発進させた事で、そのシャトルが一気に敵狙われてしまい、すぐに戻すように求めた。

キラ、ハルト「あっ!!」  
撃龍神「はっ!!」

エルが乗ったシャトルが発進した事を知ったキラ、ハルト、撃龍神は、すぐに向かった。それを見たルキアーノはある行動に出た。

サキ「ハルト、キラ。」

凱「撃龍神。」

アンジユ「あっ。」

キラ「やめろおおおおー!!」

ハルト「それに乗っているのは民間人だ!!」

撃龍神「落とさないでくれえ!!」

ルキアーノ「せっかくですからこうすればいいんですお!!」

地球へ降下しようとするシャトルをルキアーノのパーシヴアルが頭部のスラツシユハーケンを発射してシャトルを撃沈した。

キラ、ハルト、撃龍神「!!」

エルの乗ったシャトルがルキアーノのパーシヴアルに撃墜されたのを目の当たりにしたキラ、ハルト、撃龍神。

キラ、ハルト、撃龍神「うわあああああああー!!」

エルのシャトルを救う事に間に合えず、最後を目の当たりにしたキラ、ハルト、撃龍神。

マリユー、ナタル、スメラギ、エルエルフ「!!」

ウルトラマンオーブスラツガーエース（ガイ）「なんて事を……!!」

サキ「そんな……!!」  
アンジュ「あああ……。」

またシャトルの撃墜はマリユール達も愕然とした表情だった。

ルキアーノ「はははは、素晴らしい、素晴らしいじゃないですか。」

撃龍神「許せねえ、許せねえ、人を殺して楽しそうにするおまえを絶対許せねえ!!」

エルのシャトルを撃墜して平然と楽しそうにしたルキアーノに対して撃龍神が怒りを爆発させて襲いかかった。

ルキアーノ「?!」

撃龍神「うおおおおおおおー!!」

怒りとなった撃龍神がルキアーノのパーシヴァルに直接殴り込んだ。  
だ。

ルキアーノ「うわあああああー!!」

撃龍神の怒りが込められた拳で殴り飛ばされたルキアーノ。

撃龍神「シャントウ口おおおおーん!!」

怒りにとらわれた撃龍神がシャントウロンを放って、向けた先はM S部隊とナイトメアフレーム部隊で、放った風と雷のエネルギー状の二頭の龍によってあつという間に壊滅させた。

撃龍神「うおおおおおおおー!!」

撃龍神の怒りは収まらず、その敵を次々と破壊していった。

一同「あああつ。」

怒りにとらわれた撃龍神が次々と敵を破壊し、1人の少女の死が撃龍神を怒りへと変えて、敵を1人足らず破壊していった。

凱「やめろ、撃龍神!!もうこれ以上破壊するな!!」

撃龍神「邪魔をするな!!」

凱「これ以上戦ってどうするんだ!!」

撃龍神「俺はこいつらを皆殺しにしなきゃ気が済まないんだ!!」

凱「思い出せ、超竜神の事を!!」

撃龍神「!!」

凱に止められて超竜神の事を思い出させて、戦いをやめた。

撃龍神「あつ、あつ、うわあああああー!!」

怒りが収まって戦いをやめた撃龍神。だが、1人の少女を救う事が出来ず、彼に大きな心の傷を残す事になった。

次回 10話へ続く

## 第10話 燃える砂塵

地球軌道上の戦いを終えて地球へ降下したアークエンジェルは、北アフリカのリビア砂漠に到着した。

地球

北アフリカ

リビア砂漠

アークエンジェル

ブリッジ

マリユー「ようやく北アフリカに到着したわね。」

スメラギ「今この地で地球連合軍とザフト軍、宇宙人同盟が戦っているみたいね。」

エルエルフ「地球連合は宇宙人同盟の星人と怪獣に対抗するために星人ハンターを雇ったようだ。」

ムウ「地球至上主義者の連中が星人ハンターを雇うとはな。」

マリユー「それよりキラ君とハルト君と風龍と雷龍は？」

ノイマン「先の戦闘で落ち込んでいます。」

リヒテンダール「何でうちのところにコーディネイターがいるんですか？コーディネイターはザフトだろ？」

凱「おい、リヒティ。今の言葉、キラの事か?!」

リヒテンダール「何でって、コーディネイターは普通の人間と違って能力は高い。コーディネイターは人間に害を及ぼすからだよ。」

凱「それだけの理由でコーディネイターを滅べと言うのか？」

リヒテンダール「コーディネイターとマナと宇宙人がいるから戦争は起きたんだよ。こつちとしてはコーディネイターとマナと宇宙人がいるのは迷惑だよ。それにしても何でうちのところにザフトの人間が指揮を執っているんだ。それに一部の機体だって。」

エルエルフ「……。」

凱「お前が今言ったことはわかっているのか?!お前が言った発言は差別している事だぞ!!」

リヒテンダール「……」

スメラギ「そうよ、コーディネイターやマナや宇宙人全体が悪とは限らないわ。もう少しよく考えて。」

リヒテンダール「あつ、はい。」

キラがコーディネイターである事で嫌悪し、味方内に指揮をするザフトのエルエルフやヴィルキスに乗るアンジユの事も陰悪するリヒティに厳しく反論する凱。個室でエルを救えずに酷く落ち込んだキラとハルトは泣いていた。

### 個室

キラ「うつ、うううつ。」

ハルト「僕はその子を守れなかった。」

地球圏降下の際にエルのシャトルがルキアーノに撃墜されて泣きながら悔むキラとハルト。

シヨーコ「ハルト。」

フレイ「キラ。」

部屋に入ってキラとハルトの事を気にかけてやってきたシヨーコとマリエとフレイ。

キラ「フレイ。」

ハルト「シヨーコ。」

フレイ「さっきの戦いで落ち込んでいると聞いて来たの。」

シヨーコ「大丈夫?」

ハルト「大丈夫だよ。」

フレイ「無理はしてない?」

キラ「平気だよ。」

マリエ「これ。」

マリエはキラとハルトに食事を持ってきてようしてくれた。

ハルト「ありがとうマリエ。」

マリエ「ちゃんと食べてね。」

アンジユ「本当は無理して隠しているんですよ。」

キラとハルトがエルの死で無理して隠していることに気付いて現れたアンジユとサキ。

キラ「アンジユ。」

ハルト「流木野さん。」

サキ「無理して隠す事はないでしょ。シャトルの撃墜された事を。」

キラ、ハルト「……。」

フレイ「ちよつと、ザフトの女が何勝手に割り込んでくるの?」

アンジユ「……。」

「嫌悪するフレイを強くにらむアンジユ。」

フレイ「何、あんた?!」

アンジユ「自分の都合のいいようにするんじゃないのよ。」

フレイ「ザフトの女が何でいつまでもいるの、さっさと出て行って

よ!!」

アンジユ「!!」

キラ「フレイ。」

ショーコ「フレイ、やめて。」

サキ「ショーコさん、マリエ、出来たらフレイと一緒に出ていって  
もらえないかしら? ハルトとキラはあたしとアンジユで見るわ。」

ショーコ「えっ。」

サキ「2人じゃハルトとキラを任せられないわ。部屋を出てい  
て。」



シヨール「……」。

シヨールはマリエとフレイと一緒に黙って部屋を退室した。

アンジュ「もうあまり無理に隠さないほうがいいわ。辛かったんでしょ。」

キラ「僕は……」。

アンジュ「私はあの子からこれを貰ってちよつと喜んだの。」

キラ「あの時貰った折紙。」

アンジュ「私はあの子から折紙を大切にしてるの。綺麗によく出来るわね。」

キラ「そうだね。あの子が僕達が頑張ってくれてるから一生懸命折ってくれたんだ。」

アンジュ「私は折紙がなんなのかよくわからなかった、折紙は何かを折って作ったり出来てるって。」

キラ「君はあの子から貰った折紙を大事にしてるんだ。」

アンジュ「私も救えなかったことに悔しかった。」

キラ「アンジュ。」

アンジュ「私があなただけを慰めてあげるわ。」

ハルト「流木野さん。」

サキ「あたしの事はサキと呼んで。」

ハルト「えっ?」

サキ「あたしとあなた2人だけの関係をつくらない?」

ハルト「2人だけ?」

サキ「あたしはあなたの事が好きになったの。」

ハルト「僕の事を?」

サキ「あたしとあなたは似ているところがあるの。」

ハルト「似てる?」

サキ「ふふふ、秘密。これからはあなたの事をあたしが側にいてあげるわ。」

傷付いたキラとハルトを慰めるためアンジユとサキがそれぞれ2人に側に寄って2人を慰めるため、アンジユはキラ、サキはハルトに側にいる。

格納庫

雷龍「うおおおおおー、何故俺らはあの子を救えなかったんだ!!」

風龍「何故だ、何故だ、何故何だ!!」

雷龍、風龍も地球圏降下の際にエルのシャトルが撃墜された事で心が傷付き、感情的になっていた。

護「雷龍、風龍、落ち着いて。」

雷龍「俺は俺は俺は……!!」

風龍「僕はあるの子を助けたかった、僕らが弱かったせいで救えなかった。」

護「……。」

雷龍、風龍「うおおおおおー!!」

マイク13世「辛そうだね。」

ボルフォッグ「えええつ。」

ゴルデーマーグ「……。」

仲間が深く傷付き悲しんでいる事にただ見ているだけしか出来ないボルフォッグ、マイク13世、ゴルデーマーグ。

ブリッジ

エルエルフ「今状況はどうなっている?」

ノイマン「レーダーで確認します。」

レーダーで状況を確認し、レーダーで多数の存在の反応をキャッチした。

ノイマン「敵機の反応を確認!!ザフトの地上部隊と宇宙人同盟、地球軍の地上部隊、巨人の交戦中と思われまます！」

ガイ「巨人?!おい、今すぐに映像を流せ!!」

ノイマン「えっ?」

ガイ「いいから早く流せ!!」

ノイマン「!!」

すぐに映像を流して映し出され、ザフト軍と宇宙人同盟、地球連合軍を相手に1人で交戦するウルトラマンゼロの姿だった。

ガイ「!!」

ムウ「おい、どうしたんだ?」

ガイ「今から行ってくる!!」

ムウ「おい!!」

ガイ「悪い、先に行く。」

すぐに交戦中のウルトラマンゼロを助けるべく、ガイはオーブリングを前にかざして、1枚のカードをオーブリングにリードした。

オーブリング「覚醒せよ、オーブオリジン。」

ガイ「オーブカリバー!!」

カードをリードしたらオーブカリバーが現れてガイは手にし、オーブカリバーにあるリングを回しながらトリガーを引いて、メロディを鳴らしてウルトラマンオーブ オーブオリジンへとなってウルトラマンゼロの元へ駆けつけに向かう。一方、1人で地球連合軍、ザフト軍と宇宙人同盟を相手に戦うウルトラマンゼロ。

ウルトラマンゼロ「てやあああああー!!」

パンチで空中にいるリアルドの頭部にお見舞いして墜落させ、手刀で数機のリアルドの上半身を破壊して行動不能にし、ヘリオン、レドラーの翼に蹴りで破壊して墜落させたりした。

ザフト兵1「ウルトラマンめ!!」

砂漠を走行して移動するバクウ部隊がウルトラマンゼロに向かって突撃してかかった。

ウルトラマンゼロ「!!」

突撃してかかって飛んでくるバクウにウルトラマンゼロはバクウのコクピットを狙わずに4足と背中中の武器を狙って素手で次々と破壊していった。突進して来るセイバータイガーを片手で掴んで振り払い、砲撃してくるキャノニーモルガ、ダークホーン隊に蹴り回して振りながら機体を蹴散らして破壊せずに転倒した。

バルトフェルド「あれがウルトラマンか。」

ダコスタ「地球各地で出没されている巨人ですね。」

バルトフェルド「ああ、ウルトラマンがこの砂漠に来たのも。」

ウルトラマンゼロの戦いを観察するザフト軍のアフリカ方面軍の指揮官のバルトフェルドと部下のダコスタ。

ウルトラマンゼロ「刹那、一気に行くぞ!!」

ウルトラマンゼロ（刹那）「了解。」

敵機を次々と破壊して奮闘していくウルトラマンゼロ。

カティ「ザフト軍の前にウルトラマンか!!」  
スザク「マネキン大佐。」

カティ「何だ？」

スザク「ここは雇われた星人ハンターを出させていただけじゃないでしょうか。」

カティ「星人ハンターでか？」

スザク「星人ハンターはウルトラマンと渡り合う力を持っています。」

カティ「ウルトラマンを倒すには彼らを出すしかあるまい。彼らに任せるぞ。」

スザク「はい。」

ウルトラマンゼロに対抗すべく、自ら雇った星人ハンターを出すべく、ウルトラマンゼロを倒しにかかった。

バルトフェルド「向こうはウルトラマンを倒すために切り札を出して来たか。」

ダコスタ「星人ハンターですか？」

バルトフェルド「その通りだ、ウルトラマンを倒すために向こうが雇ったようだ。」

ダコスタ「こちらも同盟側の方も出すのですか？」

バルトフェルド「ウルトラマンがどこまで強いのかこの場で見ておきたいのだよ。彼らにも出るように伝えてくれ。」

ダコスタ「了解。」

バルトフェルドは地球連合軍がウルトラマンゼロに対抗するために雇った星人ハンターを出撃にかかるとに気づき、こちらも同盟側の宇宙人同盟の星人ハンターを出撃にかかった。

ウルトラマンゼロ「これでどうだ!!」

両軍の部隊をあっという間に壊滅に追い込んだウルトラマンゼロ。だがその時、ウルトラマンゼロの前に3つの影が迫り、接近して来た。

ウルトラマンゼロ（刹那）「ゼロ、何か来る。」  
ウルトラマンゼロ「!!」

刹那がすぐにその気配を感じ、ウルトラマンゼロも気付き始めた。

グランザー「フリーザーランサー!!」  
デスレード「ブレイズインパルス!!」  
ラーズ「ハウリングランス!!」

3つの影がウルトラマンゼロに迫り、3つの槍が突き刺しかかって来た。

ウルトラマンゼロ「!!」

すぐにジャンプして回避したウルトラマンゼロは、3つの影は地球連合軍が雇った星人ハンターのグローザ星系人グランザー、デスレ星人デスレード、バルキー星人ランスだ。

ウルトラマンゼロ「お前らはプラズマギヤラクシーのハンターがなぜここに……!!」

グランザー「お前を倒す事とザフトを倒すために雇われた。」

デスレード「お前の命を頂たく。」

ラーズ「俺達はお前と真剣にやり合う。」

ウルトラマンゼロ（刹那）「知っているのか？」

ウルトラマンゼロ「ああ、プラズマギヤラクシーでプラズマ怪獣をハンティングするために戦っているハンターだ。しかも俺と同じ巨大化してやり合うつもりだ。」

???「こいつらだけじゃないぞ!!」

ウルトラマンゼロとグランザー、デスレード、ラーズの前に現れたのは宇宙人同盟所属の星人ハンターのグランザーと同じグローザ星人のグロツクル、テンペラー星人ヴェルダン、レギュラン星人レザルドだ。

ウルトラマンゼロ「宇宙人同盟のハンターも来たのか。」

グロツクル「グランザーか。」

グランザー「ここで会うとは何かの縁だな。」

レザルド「それよりウルトラマンゼロをハンティングいや駆除する事に先決だ。」

ヴェルダン「我々の障害でもあるウルトラマンをここで倒すのみだ!!」

地球連合軍からグランザー、デスレード、ラーズ、宇宙人同盟からグロツクル、ヴェルダン、レザルドの星人ハンターに囲まれて危機に陥るウルトラマンゼロ。

ウルトラマンオーブオリジン（ガイ）「ちよつと待った!!」

その時、空からウルトラマンオーブ オーブオリジンが参上し、ウルトラマンゼロを助けに現れた。

ウルトラマンゼロ「オーブなのか?」

ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「ああ、ここで再会するのも光栄です。」

グランザー「ウルトラマンオーブか。」

レザルド「宇宙で我が同盟ザフトとやり合ったと。」

ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「俺の事をよく聞いたみたいだな。」

デスレード「俺らハンターはお前らウルトラマンの首をハンティングする。」

ウルトラマンゼロ「なら勝負してやる。」

ウルトラマンオーブ オーブオリジン(ガイ)「さっさと済ませていこう。」

両軍の星人ハンターを相手に、ウルトラマンゼロはグロツクル、ヴェルダン、レザルドを相手に、ウルトラマンオーブ オーブオリジンはグランザー、デスレード、ラースを相手に戦う。

ウルトラマンゼロ「はあああああー!!」

ウルトラマンゼロがグロツクルにゼロナツクルでお見舞いするが、グロツクルは両腕に装備されているフローズンブレイカーから繰り出すパンチを出してウルトラマンゼロのパンチとぶつかり合った。

グロツクル「うおおおおー!!」

ウルトラマンゼロのパンチとぶつかり合いながらグロツクルは自身の高いパワーを引き出してウルトラマンゼロを押し去った。

ウルトラマンゼロ「うっ。」

グロツクルの高いパワーで押されてしまい、ウルトラマンゼロは次の手を打って、額のビームランプからエメリウムスラッシュを発射した。

グロツクル「ぐう!!」

ウルトラマンゼロの放った光線を喰らったグロツクル。

ヴェルダン「もらった!!」



ヴェルダンが両腕のテンペラーシザースでウルトラマンゼロに向かって切り裂きにかかった。

ウルトラマンゼロ「これはどうだ!!」

頭部にある2本のゼロスラッガーを両手に持ちながらヴェルダンのテンペラーシザースに挑み、ウルトラマンゼロの2本のゼロスラッガーとヴェルダンの両腕のテンペラーシザースの刃が激しく衝突し、刃と刃がぶつかり合う。

ウルトラマンゼロ「ハサミか、バルタン星人か!!」

ヴェルダン「テンペラー星人だ、貴様をこの手でチョッキンだ!!」

両腕に装備されているテンペラーシザースでウルトラマンゼロを切り裂こうと前に出していくヴェルダン。

ウルトラマンゼロ「あらよつと!!」

前から来るテンペラーシザースにゼロスラッガーで振りながら斬り込み、そのままヴェルダンにゼロスラッガーの斬撃を与えた。

ヴェルダン「ぐわあっ!!」

ウルトラマンゼロの攻撃を喰らい、姿勢を崩したヴェルダン。その隙にウルトラマンゼロがパンチで殴りかかるが、

レザルド「貫った!!」

その時、レザルドがグロツクルとヴェルダンと交戦中のウルトラマンゼロの隙を狙って、背後にレギュランブラスターで射撃した。

ウルトラマンゼロ「うわああああー!!」

グロツクルとヴェルダンと戦っている間にレザルドに隙をつけられて背後を撃たれてしまったウルトラマンゼロ。

レザルド「今だ!!」

自身の撃った攻撃を受けて姿勢を崩したウルトラマンゼロにグロツクルとヴェルダンと共に襲撃にかかった。

グロツクル「うりやあー!!」

ヴェルダン「それ!!」

グロツクルのナツクル、ヴェルダンの斬撃喰らったウルトラマンゼロ。またウルトラマンオーブ オーブオリジンは、グランザー、デスリード、ラーズを相手に戦い、槍で攻撃する3人の星人ハンターとぶつかり合った。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「うおおおー!!」

グランザーのブリューナクをオーブカリバーと交えて戦い、斬撃を繰り返した。

グランザー「!!」

ウルトラマンオーブ オーブオリジンのオーブカリバーから繰り返す斬撃を左腕にあるブリザードシールドで防御し、攻撃した隙を見てブリューナクで突いた。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン「うわあああー!!」

グランザーのブリューナクに突かれて攻撃を喰らい、続いてデス

レードのトリシューラが上から下ろして斬りかかった。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「!!」

デスレードのトリシューラの攻撃をすぐにかわし、オーブカリバーで斬撃する。

ラーズ「貫った!!」

ラーズのミストルティンがウルトラマンオーブ オーブオリジンに刺突してきた。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「!!」

すぐに攻撃を回避したウルトラマンオーブ オーブオリジン。3人槍使いの星人ハンターを相手に苦戦をした。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「向こうが槍ならこっちも槍でいくしかない!!」

グランザー、デスレード、ラーズの槍使いに対抗すべく、ウルトラマンオーブ オーブオリジンはすぐにハリケーンズラッシュに変身してオーブスラッガーランスを手にして、槍同士の対決に挑んだ。

ウルトラマンオーブハリケーンズラッシュ（ガイ）「オーブスラッガーランス!!」

オーブスラッガーランスから繰り出す斬撃、刺突でグランザー、デスレード、ランスとぶつかり合い、槍と槍による戦いを繰り広げ、ウルトラマンオーブハリケーンズラッシュはオーブスラッガーランスでデスレードに振り回しながら斬り込み、刺突してくるグランザーの

ブリューナクを受け止めてキックで打ち込み、ラーズのミストルティンとぶつかり合った。

カティ「今のうちにウルトラマンと宇宙人同盟の星人を攻撃しろ!!」

隙を突いた今、ウルトラマンが戦っている間にカティがMS、ゾイド、ナイトメアフレーム部隊に攻撃命令を出すのが、

キラ「させるか!!」

その時、カティの率いる地球連合軍の部隊の前にアークエンジェルが現れ、キラのランチャーストライク、アンジュのヴィルキス、ハルトのヴァルヴレイヴ1、サキのヴァルヴレイヴ4、キューマのヴァルヴレイヴ5、スターガオガイガー、撃龍神が出撃した。キラが先手を打ってアグニでレブラプター、レッドホーン隊に砲撃して破壊した。

ダコスタ「出てきました!あれが共和国の新型、XGAT-105ストライクです!!」

バルトフェルド「出てきた瞬間にゾイド部隊を瞬殺か。待機中のバクウを出せ。反応を見たい。」

ストライクの戦闘を試すべく、待機中のバクウを出撃させたバルトフェルド。

アンジュ「キラ、来るわよ!!」

出撃してきたバクウがキラのランチャーストライクに襲いかから始めた。

ハルト「君の機体のOSはまだ地上用にしてないはずだ!!」

サキ「このままじゃ狙い撃ちされるわ!!」

キラ「接地圧が逃げるんなら、合わせりゃいいんだろ!!逃げる圧力を想定し、摩擦係数は砂の粒状性をマイナス20に設定!!」

ストライクの地上用のOSの設定を地上用に合わせて調整し、接近してきたバクウに対し、宇宙の時に起きた現象で再び覚醒して目が変わり、アグニを振り回してバクウにぶつけて抑えながら至近距離から攻撃した。

バルトフェルド「この短時間で、運動プログラムを砂地に対応させた。あれが本当にナチュラルか？」

短時間で地上用のOSを変えた事に対し、ストライクのパイロットがナチュラルではないのか疑問に感じるバルトフェルド。

キラ「アークエンジェルは、アークエンジェルはやらせないぞ!!」

アークエンジェルを守るために必死で奮闘し、右肩に装備されている35mmガンランチャーでバクウに攻撃し、さらに上空にいるイナクト、レドラー部隊にアグニで攻撃して全て撃墜した。だが、アグニを使い過ぎてエネルギーを激しく消費してしまい、ダウンしたランチャーストライク。その時、地上にいるセイバータイガー部隊が一斉にかかってくる。

撃龍神「させるかよお!!」

その時、撃龍神が前に立って砂地に右腕のジャオダンジイを着けて竜巻を放ち、砂地で覆われた竜巻でセイバータイガー部隊に喰らわせて動きを奪い、そのまま動きながら直接格闘して撃退していった。

凱「砂地を使って竜巻に纏わせて敵の動きを奪うと……。」

撃龍神が砂地を使つて竜巻を放つて纏わせながら敵の動きを奪う事に驚く凱。

撃龍神「もう誰もやらせねえ、俺はこの先もずっと繰り返させねえ!!」

エルの死を繰り返さないために撃龍神はこの先二度と起こさないためにも必死で戦う。北アフリカの砂漠の戦いは激戦を繰り広げていた。

ウルトラマンゼロ「うわああああー!!」

グロツクル、ヴェルダン、レザルドの3人の星人ハンターに圧倒されて追い詰められてしまったウルトラマンゼロ。

ウルトラマンオーブハリケーンズラツガー(ガイ)「同格の相手だとキツイ。」

グランザー、デスレード、ラーズを相手に戦い、3人が同格の強さを持つことで流石のウルトラマンオーブでもかなり苦戦を強いられていた。その時上空から6つの光が現れて、彼らの前に突如現れた。

ウルトラマンゼロ、ウルトラマンオーブハリケーンズラツガー(ガイ)「!!」

6つの光を見た2人は自分達がよく知る人物で、その人物で、ウルトラマンコスモスルナモード、ウルトラマンガイアV2、ウルトラマンアグルV2、ウルトラマンギンガ、ウルトラマンビクトリー、ウルトラマンXだった。

ミリアリア「艦長、ウルトラマンが他にも現れました。」  
マリユール「これは一体?!」

ウルトラマンオーブ以外にも他のウルトラマンが現れた事に驚くマリユール達。

ウルトラマンオーブハリケーンスラッガー(ガイ)「あつ、あなた達は……!!」

ウルトラマンコスモスルナモード(ムサシ)「待たせたな。」

ウルトラマンガイアV2(我夢)「何とか間に合ったな。」

ウルトラマンアグルV2(藤宮)「相変わらず無茶をするな。」

ウルトラマンギンガ(ヒカル)「よお、久しぶりだったな。」

ウルトラマンビクトリー(ショウ)「後は任せろ。」

ウルトラマンX「2人はゆっくり休んでくれ。」

ウルトラマンX(大地)「ここは俺達が相手をする。」

ウルトラマンゼロ「悪い、後は任せろぞ。」

現れた6人のウルトラマンの参戦により、それぞれの星人ハンターを相手に挑んだ。

グランザー「ウルトラマンが他にも現れたのか、ならばまとめてくれる!!」

他のウルトラマンの出現した事でグランザーらが一気にかかって襲いかかるが、

ウルトラマンガイアV2「デヤアっ!!」

ガイアV2が右手からガイアスラッシュを発射してグランザーの胴体に命中して牽制した。

ウルトラマンアグルV2「デユワー!!」

右手から発生するアグルセイバーでデスレードに斬撃した。

ウルトラマンギンガ（ヒカル）「ギンガスパークランス!!」

ギンガスパークランスを出してラーズに振り回して突いて払った。

ウルトラマンビクトリー（ショウ）「EXレッドキングナックル!!」

ショウはビクトリーランサーとEXレッドキングのスパークドールを出して、ビクトリーランサーにリードして、ウルトラマンビクトリーの右腕にEXレッドキングの右腕を身に付けてグロツクルに直接殴り込んだ。

ウルトラマンX「Xスラッシュユ!!」

光エネルギーを矢じり型にして放ちながらヴェルダンに切り裂いた。

ウルトラマンコスモスルナモード「デヤア!!」

ルナ・パンチでレザルドの顔に直接殴った。

グランザー、デスレード、ラーズ、グロツクル、ヴェルダン、レザルド「うわああああー!!」

6人のウルトラマンが出した一撃によりあっという間にやられてしまったグランザー、デスレード、ラーズ、グロツクル、ヴェルダン、レザルド。



ウルトラマンビクトリー（シヨウ）「俺達ウルトラマンを舐めるなよ。」

グロツクル「くっ、うっ!!」

レザルド「ここは撤退だ。」

ヴェルダン「そうするしかあるまい。」

他のウルトラマンの出現により、撤退をするグロツクル、ヴェルダン、レザルド。

ダコスタ「グロツクルらが撤退します。」

バルトフェルド「こちらも撤退する。目的は達成した。」

ダコスタ「はい。」

全部隊に撤退命令を出し、早速撤退するバルトフェルド。

グランザー「ウルトラマンごときが!!」

デスレード「ここは勝てる状況ではない。ここは撤退した方がいい。」

ラーズ「ウルトラマンが6人いると勝ち目はない。」

グランザー「そうだな。」

まだグランザー、デスレード、ラーズもウルトラマンが6人相手だと勝つ事が厳しく撤退した。

カティ「撤退か。まだ動けるMS、ゾイド、ナイトメアフレーム部隊で応戦させる!!」

まだ待機中のMS、ゾイド、ナイトメアフレーム部隊で応戦させていこうと命じるカティ。だがその時、移動中のレッドホーン、ティエレン地上型部隊が突如爆発した。

カティ「何?!」

???「よし。」

マリユール「敵部隊が爆発した?!」

タカヒ「艦長、通信です。」

すぐに通信を傍受し、確認するマリユール。

クルーガー（映像）「こちらは共和国軍クルーガーだ。」

マリユール「クルーガー大佐!!」

クルーガー（映像）「救援に来た、ただに合流する。」

クルーガーの率いる共和国の部隊が駆けつけに向かい、アークエンジェルと合流にかかる。

ガイロス帝国兵1「大佐、前方より共和国軍の部隊が来ます!!」

カティ「撤退だ!!」

前方からクルーガーの率いる共和国の部隊が現れ、これ以上の戦いは無理と判断し、部隊を撤退するカティ。アークエンジェルと合流したらクルーガーは、

北アフリカ

リビア砂漠

マリユール「クルーガー大佐、危ない所を助けていただき、ありがとうございます。うございました。」

クルーガー「我々は任務を果たしたただけだ。礼なら『明けの砂漠』のメンバーに言ってくれ。」

カガリ「……………」

マリユール「？」

カガリ「私が明けの砂漠だ。」

マリユー「あなたは？」  
カガリ「私はカガリユラだ。そっちはリーダーのサイーブだ。」  
サイーブ「よろしくな。」

次回 11話へ続く

## 第11話 紅に染まる海

北アフリカの戦いにいるヘリック共和国軍の部隊と合流したアーケエンジェル。また同じ頃、本国の大統領であるルイーズの命で派遣される事になったヘリック共和国軍の大統領護衛師団を向かわせた。

移動中

インド洋

ネオタートルシップ

格納庫

ヘリック共和国兵1「大統領は何故本国の守りの要の大統領護衛師団をわざわざ戦場へ向かわせるんだ。正規軍に任せればいい事なのに。」

ヘリック共和国兵2「北アフリカの戦いを終わらせるためにわざわざ俺達大統領護衛師団を向かわせた。ただ自分を守るためだけでなく戦場にいる友軍を助けるために。」

ヘリック共和国兵3「それにたった1機しかないウルトラザウルスも出す何て。」

ヘリック共和国兵4「本気のようなな。」

自分達大統領護衛師団が戦場へ派遣される事で愚痴を言い、北アフリカでの戦いを終わらせるために自分達が戦場で戦う事に不満を感じたりした。

ヘリック共和国兵5「それにこの中に星人ハンターや傭兵も入ってるそうだ。」

ヘリック共和国兵3「一体何しに来たんだか。」

アーバイン「大統領を守る師団がそんなに偉そうとは。」

ヘリック共和国兵1「傭兵が何言いやがる。」

アーバイン「ただ本国で守っている暇があるなら戦場へ行つて戦えって事だ。」

ヘリック共和国兵2「わかったから。」

また同じ中で一緒にいる星人ハンターは、

マグナ「この世界に来てからかなり経つんだけど。」

ガルム「俺らはプラズマギヤラクシーから違う世界に来たって訳さ。」

バレル「違う世界か。」

マグナ「違う世界って事はプラズマ怪獣はいるか？」

リバイ「プラズマギヤラクシーからプラズマ怪獣が何匹か連れさらわれて戦争で使われているようだ。」

グロウズ「それに宇宙人同盟とか言う組織が地球侵略のためにプラントと手を組んでプラズマギヤラクシーのハンターを所属させたり、プラズマ怪獣を使っているようだ。」

マグナ「戦争か。俺は戦争なんて生憎嫌いだな。」

リバイ「戦争で人を殺してその利益を儲かる連中がいる。」

ガルム「誰なんだそいつは？」

リバイ「そこまではわからない。だが、この世界は戦争によって牛耳られている事だ。」

ガルム「戦争か。俺らは人間達のいる国と一緒に訳か。」

バレル「少なくともここはまだいい方だ。」

マグナ「まだいい方？」

デルトルト「グオツグオ。」

グロウズ「何々共和国はルイーズ大統領の存在で誰もが差別なく暮らせる生活を送っていると。」

バレル「けど戦争開始時には地球連合軍から幾たびに侵攻されていたそうだ。」

マグナ「どうしてだ。」

バレル「地球連合軍のガイロス帝国元帥で摂政であるプロイツェンとブルーコスモスと軍需産業がプラントのユニウスセブンに核攻撃した事がきっかけで開戦されたようだ。」

マグナ「何て野郎だ。」

リバイ「俺がこの世界に来たのはある男の頼みでこの世界を裏で操る黒幕を見つけ出すためにやって来たんだ。」

ラツシユハンターズとトライデントがある人物の頼みでこのコズミックイラの世界を牛耳る黒幕を見つけ出す事が目的でやって来た。ヘリック共和国軍が派遣した大統領護衛師団が向かっている報を察知したプロイツェンは、

ガイロス帝国

ロンドン

帝国議会

プロイツェン「共和国軍の部隊が北アフリカへ向かっているだと、こちらもすぐに手配した。すでに出撃したバーガン准将の艦隊を待ち伏せさせて奇襲を仕掛ける。」

移動中のヘリック共和国軍の大統領護衛師団に対し、ガイロス帝国海軍のディン准将の率いる艦隊をすでに出撃させて大統領護衛師団に対して待ち伏せによる奇襲を行わせる。北アフリカへと突き進むネオタートルシップの輸送する大統領護衛師団。その時、海上からビームが放たれて移動中のネオタートルシップを阻害した。

インド洋

移動中

ネオタートルシップ

格納庫

ヘリック共和国兵1「何だ?!」

アーバイン「敵襲だ!!敵は海から攻撃して来やがった!!」

敵の襲撃に早速気付き、直ちにウルトラザウルスからレイノス、スピアヘッドを発進させて海に潜む敵を見つけ出すため迎撃にかかっ

た。

ヘリック共和国兵6 「敵は海からだ、魚雷を発射だ!!」

早速レイノスから発射された魚雷で海中にいる敵機を攻撃した。攻撃によって撃墜された敵機はガイロス帝国のベルデイガンナーだった。

アーバイン 「帝国軍か、近くにいて事か!!」

その時、前方からテインの率いるガイロス帝国海軍艦隊が現れて、上空からはレドラーBC、イナクト、ヘリオン、海中からはヘルデイガンナー、ダークネシオス、海上からはブラキオス、バーガンの乗るタワラ級、デモイン級、アーカンソー級が現れた。

バーガン 「これより共和国の部隊を迎撃する!!」

北アフリカへ向かうヘリック共和国の大統領護衛師団を全滅させるべく各機に迎撃命令を出すガイロス帝国海軍准将のバーガン。

ヘリック共和国兵4 「来るぞ。」

ヘリック共和国兵1 「俺達の手、見せつけてやろう。」

ヘリック共和国兵2 「大統領に顔向け出来ないぜ。」

アーバイン 「俺も加勢する、気を抜くなよ!!」

敵襲に対し、直ちに出撃にかかる大統領護衛師団の面々と傭兵アーバインは、自らの機体に取り込み、ネオタートルシップの甲板から開き、中から現れたのはゴジュラスガナー、パンツァーウルフ、デイバイン、ライトニングサイクス、ガンズナイパー、シールドライガードCS、アーバイン専用コマンドウルフが空と海から来る敵機の迎撃にかかった。

共和国兵1 「行けえー!!」

共和国の誇るゴジュラスガンナーが背中に装備しているロングレツジバスターキャノンで空から来るレドラーBCに発射して撃ち落としました。デイバイソンの105mm17連突撃砲が炸裂して、上空から接近して来るレドラーBC、ヘリオンを一気に撃墜した。

ガイロス帝国兵1 「時代遅れの機体ごときに!!」

時代遅れの機体ごときにMSのイナクトがプラズマソードを出してネオタートルシップに向かって切りかかった。

アーバイン 「おっと、させるかよ!!」

アーバインのコマンドウルフが空から接近して来るイナクトに対し、ロングレツジライフルで攻撃してイナクトに直撃した。

アーバイン 「機体が新型機だからってあんまりいい気なるなよ。操縦技量が足りねえんだよ。」

最新鋭機で性能面が強いから調子に乗る相手が機体の操縦技量が足りてない事を指摘するアーバイン。

ガイロス帝国兵2 「喰らえ!!」

海上からは背部にキャノニーユニット、ミサイルユニットなどしたブラキオス部隊が一斉にウルトラザウルスとネオタートルシップに攻撃する。

ヘリック共和国兵7 「この野郎!!」



海上から攻撃して来るブラキオス部隊にウルトラザウルスの護衛機のバリゲーターがブラキオス部隊に向かってビーム砲で応戦した。海は戦場と化し、激しい戦いを繰り広げるのだった。両軍の戦いを海中から視察するザフト軍がいた。

モラシム「奴らを潰せるチャンスだ、ここで一気に叩くぞ!!」

両軍の戦いに一気に奇襲攻撃にかかるモラシムの率いるザフト軍水中部隊が迫ろうとした。バーガンの海軍艦隊と激戦するヘリック共和国軍大統領護衛師団。ウルトラザウルスから発進したレイノス部隊が海にいるブラキオス、ダークネシオス、ヘルデイガンナー部隊に魚雷を発射して攻撃する。

ヘリック共和国兵8「この!!」

海から攻撃して来るブラキオス、ダークネシオス、ヘルデイガンナーに魚雷を投下して撃墜し、一気に撃墜したが、

ガイロス帝国兵3「旧式の間際が!!」

数機のイナクトが現れて、レイノス部隊にリニアライフルで射撃して次々と撃ち落としていった。

ヘリック共和国兵8「MSに負けてたまるか!!」

MSのイナクトを相手に必死になって挑み、空を飛び回りながらミサイルを一斉発射してイナクトに全弾命中して破壊したが、もう1機のイナクトが現れてプラズマソードでレイノスを次々と斬り込んで行った。海戦の激闘を繰り広げるヘリック共和国軍とガイロス帝国軍。両軍の戦いにザフト軍が乱入してきた。

アーバイン「あれはザフトのMS!!」  
ヘリック共和国兵1「こんな時に!!」

ガイロス帝国軍と交戦中にザフト軍が現れた事でさらに戦いを増す事となり、継続戦となった。

モラシム「宇宙人同盟から授かった怪獣を使うぞ。」

モラシムは宇宙人同盟から授かった怪獣までも投入して早速両軍を潰しにかかった。モラシムが投入した怪獣はキングゲスラ、アクアペスター、ベロクロンの3匹、アクアペスターが早速ウルトラザウルスに向かって襲いかかって来る。

バレル「サイクロンソーサー!!」

その時、ウルトラザウルスに直進するアクアペスターの前に巨大な手裏剣が放たれて、アクアペスターの全身にあるプラズマソウルを次々と破壊していった。

ヘリック共和国兵4「あれは星人ハンター!!」

バレル「怪獣はお前達が勝てる相手ではない。ここは俺達ハンターに任せろ。」

ガラム「そんなもんで怪獣に勝てるわけがねえ。」

マグナ「ここはハンターの俺達が引き受ける。」

デルトルト「グオツグオ。」

グロウズ「ハンターの実力見せてやろうぜ。」

リバイ「ハンティング開始だ!!」

現れたキングゲスラ、アクアペスター、ベロクロンをハンティングするラッシュハンターズとトライデント。バレルが上空を飛行しな

がらアクアペスターに右腕に装備されてる雷鳴刀から赤色冷凍斬でアクアペスターの動きを封じ、ガルムがプラズマクロスガンでアクアペスター右背上のプラズマソウルに照準して狙撃したが、プラズマソウルは鋭利な刃のように尖っていて攻撃を弾き返した。

アクアペスター「キシャオー!!」

ラッシュハンターズに対して口からペスターファイアーを吐いてきた。

バレル、ガルム、マグナ「うっ!!」

アクアペスターの口から吐いた火炎攻撃を喰らったラッシュハンターズ。

マグナ「こんなの、屁でもないぜ!!」

アクアペスターの火炎攻撃を喰らって屈しず、マグナが直ぐに終わらせるべく七星剣の1つである妖刀ナナマスを持ちながらアクアペスターに斬りかかった。

マグナ「こいつで終わりだ!!」必殺技のナナマスコンセントレイションで火炎を纏わせながら巨大化したナナマスでアクアペスターを一刀両断した。マグナの必殺技の一撃により絶命したアクアペスター。

リバイ「はああああー!!」

キングゲスラを相手に戦うトライデント。リバイが大破したブラキオスの残骸の上に飛んで進みながらキングゲスラにムルチナッターで斬撃した。キングゲスラを助けるべくベロクロンが両手から

放たれたデブリスラツシュでトライデントに浴びせた。

リバイ、グロウズ「うわあっ!!」

デルトルト「グホー!!」

ベロクロンのデブリスラツシュを受けてしまったトライデント。

リバイ「怪獣が2匹ならもう1匹はあいつに任せる、キングムルチ!!」

2匹のうちの1匹を対処すべく、リバイはバトルナイザーからキングムルチを呼び出してベロクロンの戦いを任せた。

キングムルチ「ギャオオオオー!!」

リバイのバトルナイザーから現れたキングムルチはベロクロンを相手に挑んだ。キングムルチは強力な怪力でベロクロンに力で押しつけて海中へと共に潜った。

ベロクロン「グオオオオー!!」

海中へ沈んだベロクロンは水中戦でキングムルチに挑みながら動き回って体当たりをした。

キングムルチ「ギャオオオオオー!!」

体当たりをしたベロクロンに水流を起こして周りを水の流れてベロクロンの動きを封じて尻尾を振りながらぶつけた。

リバイ「はああああー!!」

キングゲスラの口から放った毒液の雨のヘビーベノムレインをか

わしていき、ムルチナッターで毒液の雨を切り払いながら進み、キングゲスラに斬り込んだ。

キングゲスラ「グオオオオー!!」

自身の身体に斬り込んだリバイに尻尾を振ってぶつけようとするが、

グロウズ「させるかよ!!」

キングゲスラの真上からグロウズがフローズハンマーで頭を思いつき叩いた。

デルトルト「グオツグオ!!」

デルトルトが魔銃ヘルフレイムを構えて必殺技を発動してボルケイノショットで正確に標的を撃ち抜き、ゲスラの全身を燃やし尽くす。

キングゲスラ「グオオオオー!!」

デルトルトの放った必殺技で全身に炎を浴び、直ぐに海の中へと潜り込んで火を消した。

グロウズ「怪獣も直ぐに対処したって事かよ。」  
リバイ「なら背鰭を狙えば!!」

早期にカタを着けるべくリバイがキングゲスラの後ろに飛び込んでムルチナッターで背鰭を切断し、キングゲスラの姿勢は崩れ始めた。

キングゲスラ「グオオオオー!!」

背鰭を切断されて一気に弱体化するキングゲスラをその隙を突いてトライデントが総攻撃にかかった。

リバイ「ファストゾアスラッシュ!!」

グロウズ「ブリザードプレッシャー!!」

デルトルト「グオツグオ!!」

トライデントの3人ハンターの必殺技が炸裂し、デルトルトのボルケイノショットで再びゲスラの全身を燃やし尽くし、グロウズがブリザードプレッシャーで吹雪を纏ったハンマーで叩き、最後にリバイがファストゾアスラッシュで斬撃を放ち、キングゲスラを撃破した。

キングムルチ「ギヤオオオオー!!」

またキングムルチとベロクロンの戦いはキングムルチが圧倒し、ベロクロンを追い詰めており、キングムルチが口から破壊光線を放ってベロクロンを貫き、撃退した。海戦の激闘は最初はヘリック共和国軍とガイロス帝国軍の両軍の戦い、途中からザフト軍が加わり、混戦となったが、状況はヘリック共和国軍が猛威を振るいながらガイロス帝国軍、ザフト軍を撃破していき、圧倒した。

バーガン「これ以上の戦いはもう無理だ、全機撤退する。」

これ以上の戦闘は不能と判断し、全機に撤退命令を出すバーガン。

モラシム「怪獣3匹やられた以上、こちらも撤退だ。」

またモラシムも怪獣3匹損失した事で戦闘は不能と判断し、撤退を下した。

アーバイン「何とか勝てたな。」

無事、海戦の激闘に勝利を収めたヘリック共和国軍の大統領護衛師団はようやく北アフリカのリビア砂漠へ到着し、アークエンジェルとクルーガーの部隊と合流した。

北アフリカ

リビア砂漠

バン「アーバイン!!」

アーバイン「久しぶりだったな、バン、フィーネ、ジーク。」

バン「こんなところでまた会えるなんて嬉しいよ。」

アーバイン「お前達を助ける達ために共和国の大統領護衛師団と一緒に来たんだ。途中で帝国軍とザフト軍に遭遇して大変な目にあった。」

フィーネ「大変だったね。」

バン「向かう途中で戦ったんだもんな。」

アーバイン「怪獣も出て来てさらに大変だった。」

バンとフィーネとジークと再会し、途中でガイロス帝国とザフトと遭遇してと戦った事を語った。

ガイ「ラッシュハンターズやトライデントの方々も。」

マグナ「ここで会う何て意外だな。」

ガラム「相変わらず元気か。」

ガイ「ああ。」

リバイ「そっちは?」

ガイ「俺の先輩方達です。」

ムサシ「僕は春野ムサシ。」

我夢「俺の名前は高山我夢。」

藤宮「俺は藤宮博也。」

ヒカル「俺の名前は礼堂ヒカル。」

シヨウ「俺はシヨウ。」

大地「俺は大空大地。」

ウルトラマンX（エクステバイザー）「私がウルトラマンXだ。」

ガラム「中に入っているのか。」

ウルトラマンX（エクステバイザー）「まあ、その通りだ。」

リバイ「どうしてこの世界へ来たんだ？」

ムサシ「僕達はアスカに呼ばれてこの世界へ来たんだ。」

グロウズ「俺達の場合はジエントに頼まれてこの世界へやって来たんだ。」

ガイ「ムサシさん達はアスカさんに呼ばれて来たんですか。」

我夢「アスカが今どこにいるのかわからない。」

ヒカル「俺達はこの世界は何が起きてるかさっぱりわからない。」

ガイ「この世界は誰が裏から牛耳り、支配されているんです。」

我夢「今起きている事全て仕組みられているのか？」

ガイ「はい。ゼロさんは6年前から行動しています。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「ああ、俺はこの世界を暴くためにやって来たんだ。」

シヨウ「お前が人間と一緒にとはな。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「まあな。」

刹那「……。」

ヒカル「彼が今のゼロの変身者か。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「そう言うことだ。色々と訳があつて。」

藤宮「……。」

我夢「どうした、藤宮？」

藤宮「いや、なんでもない？」

刹那の目を見た藤宮は、彼が修羅場生き抜いた目だと気付いた。一方、海戦で敗れた報を知ったプロイツェンは、



ガイロス帝国

ロンドン

帝国議会

プロイツェン「敗れただと、相手は大統領護衛師団だったか。北アフリカには既に我がPK師団を向かわせた。現地にいるマネキン大佐とシュバルツ中佐と合流だ。」

シャルル「相変わらずお前は何とも思わないのか。」

プロイツェン「最初から手の内さ。」

シャルル「そろそろエンブリヲとアレハンドロの元へ行こうか。」

プロイツェン「ああ。」

アークエンジェル

格納庫

ヴァルグレイヴ1

コクピット

ピノ「ふあー、何だか退屈。」

次回 12話へ続く

## 第12話 ペイバック

北アフリカへ援軍として来た大統領護衛師団と合流をしたアークエンジェルとクルーガーの部隊。現地で地球連合軍とザフト軍、宇宙人同盟に抵抗するために立ち上がり、ヘリック共和国軍と協力するカガリの率いる夜明けの砂漠。

北アフリカ

移動中

マリュー「あなた達はこの地で活動されてクルーガー大佐と一緒に戦っているのですか。」

カガリ「あああ、私達は戦争を終わらすために同志達と一緒に立ち上がり、地球連合軍とザフト軍、宇宙人同盟に抵抗するために共和国軍と協力している。」

クルーガー「彼女はゲリラ活動で地球連合軍とザフト軍、宇宙人同盟と戦い、我々を支援して戦っている。」

カガリ「砂漠での戦いは私達の方が慣れてるからな。それにそこのお前。」

キラ、ハルト、サキ「あっ!!」

アンジュ「どうしたの？」

キラ「この子はヘリオポリスにいた……。」

カガリ「こんなところで会うとはな。」

夜明けの砂漠のカガリを見たキラとハルトとサキは、彼女がヘリオポリスにいた時と同じで、偶然再会した。

キラ「どうして君がここに。」

ハルト「何で無茶な事を。」

カガリ「私は地球連合軍とザフト、宇宙人同盟の不毛な争いを終わらせるためにこの北アフリカにやって来たんだ。」

サキ「相手はMSやゾイドや怪獣よ。ゲリラで勝とうなんて無理が

あるわ。」

カガリ「砂漠の地形を生かしてきながら私達は勝ってきたんだ。」

ハルト「いずれは勝てなくなる。敵も何度も同じ手を通じるわけじゃない。」

カガリ「私達の想いをこんなところではやられたりはしない。」

地球連合軍とザフト軍、宇宙人同盟の不毛な戦いを終わらせるためにカガリはこの北アフリカで抵抗する者達と一緒に立ち上がり、ヘリック共和国軍に協力して砂漠の地形を利用した戦いを駆使して来たが、向こうもいずれ同じ手は通じない事をキラ達が告げたが、自分達の想いはやられないと言った。一方、プロイツェンの私兵であるPK師団が北アフリカに到着し、カティとシュバルツの部隊と合流をした。

トリポリ

トリポリ基地

カティ「来てくれた事に感謝する。」

ハンナ「正規軍がここまで追い詰められるとはとんだものだな。」

シュバルツ「最初はザフト、宇宙人同盟と共和国と戦っていたのを途中からウルトラマンが現れて大変だった。」

カティ「ウルトラマンを倒すために帝国いや地球連合は毛嫌いしている星人ハンターを雇う事にした。」

グランザー「俺ら3人はウルトラマンを倒すために雇われた。」

ハンナ「お前らが星人ハンターか、お目にかかるの初めてだ。ウルトラマンには確か弱点があるようだ。」

シュバルツ「弱点？」

ハンナ「地球での戦闘データを見て何やら時間が経過すると胴体にある丸の部分が赤く光るそうだ。」

カティ「時間戦で持ちこたえさせると言うのか。」

ハンナ「その通りだ、奴らは時間戦で長く持ちこたえさせれば一気に時間も経過してもたなくなる。」

シュバルツ「そのためには星人ハンターを先に出してウルトラマンと戦わせて、時間が経てば弱ったところで我々が攻撃をするという訳か。」

デスレード「俺達がウルトラマンを引き付けるといふ訳か。」  
ラーズ「卑劣な手を打って出る訳か。」

ハンナ「そういう事だ、邪魔なウルトラマンを倒すには好都合という事さ。」

シュバルツ「ザフト軍と宇宙人同盟が入り込まれなきやいいんだが、」

スザク「それにウルトラマン以外にも共和国やGGGの特機、夜明けの砂漠もです。」

カティ「そうだな。」

ハンナ「ならば先に反逆者のいるタツシルに総攻撃だ。」

シュバルツ「町ごとか?!」

ハンナ「町ごと攻めれば反逆者共大人しくするはずだ。」

カティ「待て、町には一般人もいるはずだ。」

ラーズ「町ごと攻め滅ぼす事は俺達の理念に反する事だ!!」

ハンナ「プロイツエン閣下の命令に背く気か?背くと言う事は逆らうと言う事だ。」

カティ、シュバルツ「くっ。」

ハンナ「それにプロイツエン閣下がまたとある傭兵と星人ハンターを雇った、来い、キリエロイド キリツシャー。」

キリツシャー「へへへへっ。」

アリー「お邪魔するぜ。」

ハンナ「それに閣下がおまけに特別なのも用意した。」

ウルトラマンを倒すためにハンナがまずは星人ハンターを使って時間戦に持ち込ませて、胴体のカラータイマーが赤く光って陥ったら一気に総攻撃を仕掛けるが、ヘリック共和国、GGGやザフト軍、宇宙人同盟や夜明けの砂漠が入り込まれると失敗する事を指摘した

シユバルツ。それに対してハンナは先に夜明けの砂漠がいるタツシルに総攻撃をする事を先決し、住民ごとを攻め込むことを言うカティとシユバルツ、ラーズらにハンナはプロイツェンの命令に背く事は許されないと反論し、ハンナはこの作戦に傭兵のアリーと星人ハンターのキリエロイドのキリツシャヤを雇い、さらにあるものまで用意された。一方、アークエンジェルは夜明けの砂漠の拠点であるタツシルへと向かって進んでいた。

移動中

アークエンジェル

ブリッジ

エルエルフ「もうすぐタツシルとやらの町は見えってくるのか？」

サイーブ「もうじき着く頃だ。」

カガリ「ああ。」

もうじきタツシルに着くと思われたが、突如遠くから煙のようなが出ていた。

サイーブ「!!」

カガリ「まさかあの方角は!!」

キサカ「タツシルが狙われてるに違いない。」

カガリ「急ぐぞ!!」

その方角はタツシルである事に、既に敵から攻撃を受けている事を知り、急いで向かった。

エルエルフ「タツシルが狙われている可能性がある。直ぐに出せるやつを出撃させろ。」

タツシルへ向かえる者をすぐにすぐに出させたエルエルフ。出撃したのはキラのエールストライク、アンジュのヴィルキス、ハルトの

ヴァルヴレイヴ1、サキのヴァルヴレイヴ4、アレルヤのキュリオス。

キラ「タツシルがどうして狙われるなんて。」

ハルト「わからない。」

アンジュ「とにかく急いで向かうわ。」

サキ「ええ。」

アレルヤ「犠牲が出ないうちに。」

キラ達も急いでタツシルへ向かい、突き進んだ。タツシルでは、ハ  
ンナの送り込んだキリツシャー、アリーのイナクトカスタム、スパー  
スビーストの群れが町の住民に襲いかかった。

タツシル住民1「うわぁー!!」

スパースビーストのペドレオンクラインの群れが一気に住民に襲  
いかかり、両手の触手を伸ばして住民を捕らえて口を開いて捕食し  
た。

タツシル住民2「助けてくれ!!」

ペドレオンクラインの群れから必死で逃げ回るタツシルの住民。

キリツシャー「そらあ、お前らの相手はこの俺だよー!!」

逃げ回るタツシルの住民の前にキリツシャーが現れて、手にゲイボ  
ルグを出して前に突き出しながら住民を一気に惨殺した。

アリー「オラオラオラ、逃がすかよ!!」

アリーのイナクトカスタムが上空からパニックになって逃げ回る  
タツシルの住民をブレイドライフルで射撃して殺害した。

ハンナ「反逆者共を1人足らず逃がすな!!」

夜明けの砂漠の殲滅の指揮を執るハンナが町であるタツシルを徹底的に滅ぼしにかかり、PK師団所属のブラックレドラーが翼下のミサイルポッド、腹部の対地ミサイルで町を空爆していった。

シュバルツ「こんな非人道的が許されるのか……。」

カティ「関係のない人間を虐殺するつもりか……。」

ラース「くっ!!」

上空で待機するホエールキングにいるカティ達はハンナのやり方に町の住民ごと虐殺する事に非人道的が許されるのかとすごく不満を感じた。

キラ「あっ!!」

早速タツシルに到着したキラ達は、タツシルの町が敵に襲撃されて火の海と化し、必死で逃げ回る住民らの姿を見た。

タツシル住民3「うわぁー、助けてくれ!!」

アンジュ「あああつ。」

サキ「ひどい。」

ハルト「くっ。」

アレルヤ「……。」

タツシルの町が火の海と化して必死で逃げ回る住民が虐殺される光景を目の当たりにしたキラ達。

カガリ「あああつ!!」

カガリ達夜明けの砂漠もタツシルに到着し、タツシルの町が住民ごと虐殺されていく姿に黙っていられずにそのまま直ぐに行動に出なかった。

キラ「カガリ!!」

カガリ「お前らあ!!」

カガリら夜明けの砂漠の面々がジープに乗って移動しながらタツシルに攻撃するPK師団に抵抗する。

ハンナ「来たか。夜明けの砂漠を抹殺しろ!!」

自分達に抵抗しにかかってくる夜明けの砂漠に攻撃命令を出し、ハンナの命で動くダークホーン隊が夜明けの砂漠のジープにハイブリッドバルカンで攻撃した。

カガリ「うわあっ!!」

ダークホーンの攻撃を受けて吹き飛ばされたカガリ達。

キラ「カガリ!!」

カガリを助けに向かうキラはすぐにダークホーン隊にビームライフルで射撃して、そのまま接近してビームサーベルで斬り込んだ。

ハンナ「共和国とGGGか、お前らにはこいつの相手をしてな!!」

キラ達が現れた事で砂中からバグバズンブルード3匹が現れて、襲いかかった。



ハルト「怪獣!!こんな時に!!」

サキ「しかも3匹よ!!」

アンジュ「くっ。」

アレルヤ「味方が来るまで僕達でやるしかない!!」

現れた3匹のバグバズンブルードを相手に自分達で戦い抜くしかないと判断し、挑むハルト達。バグバズンブルードが手足の爪でヴァルヴィイヴーを引き裂いた。

ハルト「うっ!!」

キラ、サキ「ハルト!!」

ハルト「怪獣相手だとキツ過ぎる。」

アレルヤ「これじゃ町が救えない!!」

バグバズンブルード3匹を相手にこれでは町を救う事すら出来ずにおり、何としてでも怪獣を倒して町を救いだそうと必死で奮闘して戦う。

アリー「面白そうなのが来たじゃねえか!!」

バグバズンブルードと交戦するキラ達に目を向けたアリーはすぐに接近してブレイドライフルを構えながらキラ達に襲いかかった。

キラ「MS!!」

アリー「俺と戦えやあ!!」

アリーのイナクトカスタムがキラ達にブレイドライフルで射撃し、各機に斬撃した。

サキ「何なのよ!!」

アレルヤ「僕達を町へ行かせないためか!!」

アンジュ「そこをどけえ!!」  
アリー「どくかよ、俺と戦ってからにしな!!」

キラ達5人を相手にタツシルの町へ行くのを阻んで交戦するア  
リー。蹴りを強いてヴィルキス、ヴァルヴレイヴ4にお見舞いしてプ  
ラズマブレイドで斬撃し、脚部からミサイルを発射してヴァルヴレイ  
ヴ1、キュリオスに命中し、プラズマブレイドでエールストライクに  
攻撃した。ようやくタツシルに到着したアークエンジェル。

マリユー「あああつ、タツシルの町が……。」  
エルエルフ「間に合えなかったか。」

タツシルが既に壊滅的な被害が出た事で間に合えなかった。

ムサシ「あれはスペースビースト!!」

大地「何でこの世界にいるんだ!!」

刹那、ガイ、ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「…………。」

我夢「?!」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「こんな事が出来るのはエン  
ブリヲと101人評議会の仕業か。」

ムサシ「エンブリヲ?」

ガイ「この世界を思いのままに操り、牛耳っている。この世界の元  
凶だ。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「そしてあのベリアルも絡ん  
でいる。」

ヒカル「何だと?!」

ガイ「今はそれよりスペースビーストを倒す事が先だ!!」

ガイとウルトラマンゼロの口からこの世界を裏から牛耳り支配す  
るエンブリヲと101人評議会、そしてあのベリアルが絡んでいた事  
に驚愕し、またタツシルの町にいるスペースビーストの先に倒す事を

先決し、直ちにウルトラマンに変身して早速現れて、ウルトラマンゼロ、ウルトラマンオーブ、オーブオリジン、ウルトラマンコスモスルナモード、ウルトラマンエックスはタツシルの町にいるキリツシヤー、ペドレオンクライン、PK師団、ウルトラマンギンガ、ウルトラマンビクトリー、ウルトラマンガイアV2、ウルトラマンアグルV2はキラ達を苦しめる3匹のバグバズンブルード倒しにかかった。

ウルトラマンゼロ、ウルトラマンオーブ、オーブオリジン「はあああああー!!」

町や住民に襲いかかるペドレオンクラインにウルトラマンゼロがゼロスラッガーを投げて次々と切り落としていき、ウルトラマンオーブ、オーブオリジンがオーブカリバーでキリツシヤーに斬り込んでいった。

ウルトラマンコスモスルナモード（ムサシ）「さあ、逃げるんだ。」

パニックに陥るタツシルの住民を安全なところまで避難の誘導するウルトラマンコスモスルナモード。

ウルトラマンエックス（大地）「エックス!!」

ウルトラマンエックス「ああ。」

1人でPK師団を相手に挑み、ウルトラマンエックスは集団で襲いかかってくるレブラプターをキックで一瞬で葬り、上空から接近して攻撃にかかるブラックレドラーをパンチで次々と落としていった。

ウルトラマンガイアV2「デヤアツ!!」

ウルトラマンアグルV2「デユワー!!」

ウルトラマンギンガ（ヒカル）、ウルトラマンビクトリー（シヨウ）

「はああああー!!」

3匹のバグバズンを相手に4人でかかり、ウルトラマンガイアV2とウルトラマンアグルV2が同時にパンチを出してバグバズンブルードの胴体にお見舞いし、ウルトラマンギンガとウルトラマンビクトリーが2匹のバグバズンブルードを相手に、ウルトラマンギンガが前に出てパンチを繰り出してバグバズンブルードに直接お見舞いし、ウルトラマンビクトリーが足を回しながらビクトリウムスラッシュを放ってバグバズンブルードに喰らわせた。

キラ「ウルトラマン。」

ウルトラマンの出現で辛うじて助かったと思われたが、

ハンナ「行け、グランザー、デスレード

ラーズ!!」

ウルトラマンの出現を狙ったハンナはすぐに待機中のグランザー、デスレード、ラーズら呼び出してウルトラマンに一斉に襲いかかった。

ウルトラマン一同「!!」

グランザー、デスレード、ラーズ「ウルトラマン、覚悟!!」

グランザーがウルトラマンゼロにブリューナクで突き、デスレードがトリシューラでウルトラマンガイアV2とウルトラマンアグルV2に斬り込み、ラーズがウルトラマンギンガ、ウルトラマンビクトリーに大きく振り回して斬った。

ウルトラマンゼロ「お前らの相手をしてる暇じゃねえ!!」

グランザー「貴様はここで死ぬがいい。」

ブリューナクでウルトラマンゼロに思いっきり突いて攻撃し、ウルトラマンゼロは蹴りをまわしながらグランザーの越しにぶつけた。

グランザー「アイスフィールド!!」

グランザーが自身の冷凍能力でブリューナクを地面に突き刺しながら周りに氷のフィールドを形成して地面に着いているウルトラマンの足下を凍らせて身動きを封じた。

ウルトラマンゼロ「あつ、足が!!」

ウルトラマンオーブ オーブオリジン「くっ!!」

ウルトラマンエックス「動かない!!」

ウルトラマンコスモスルナモード（ムサシ）「こんな時に!!」

グランザーの冷凍能力によって足下を凍らされてしまい身動きが出来なくなつたウルトラマンゼロ、ウルトラマンオーブオリジン、ウルトラマンコスモスルナモード、ウルトラマンエックス。

グランザー「死ね!!」

足下を凍らさせて身動き出来ないウルトラマン4人にブリューナクで次々と攻撃するグランザー。

デスレード「燃え尽きろ!!」

デスレードがトリシューラの先端から炎を放出してウルトラマンガイアV2、ウルトラマンアグルV2に炎上した。

ウルトラマンガイアV2（我夢）、ウルトラマンアグルV2（藤宮）  
「うわあああー!!」

デスレード「貰った!!」

炎で炎上するウルトラマンガイアV2とウルトラマンアグルV2にトリシューラで連続突きをした。

ラーズ「はあ、たああああー!!」

ウルトラマンギンガとウルトラマンビクトリーを2人まとめて戦いながらミストルティンを持ちながら思いつきり突いて攻撃した。待ち伏せしていた星人ハンターの乱入で、ますます混戦となった。

カガリ「こんなところで・・・!!」

ジープを失ってでバズーカを持って挑むが、バグバズンブルードが口から胴体の穴の部分から触手を出してカガリ以外の夜明けの砂漠の団員らを捕まえて捕食しにかかった。

カーグット、アメフド、ジャアフル、アヒド「うわああああああー!!」

バグバズンブルードに触手に捕まって捕食されてしまった夜明けの砂漠のカーグット、アメフド、ジャアフル、アヒドら。

カガリ「カーグット、アメフド、ジャアフル、アヒド!!」

カーグットらがバグバズンブルードに捕食されて最期を目の当たりにしたカガリ。

キラ、アンジュ、ハルト「やめろおおおおおー!!」

その時、キラとアンジユとハルトの叫びで、タツシルの町を虐殺するハンナのPK師団にキラは再び何かに覚醒し、アンジユの反応によりヴィルキスは赤色のミカエルモードとなり、ハルトの反応でヴァルヴレイヴ1の熱量が666となり、3匹のバグバズンブルードに攻撃にかかった。

キラ「はあああああー!!」

エールストライクのストライカーパックのビームサーベルを2本出しながらバグバズンブルードの右腕を大きく切り込みながら切断し、そのままビームサーベル2本で連続切りをしながらバグバズンブルードに直接ダメージを与え、思いつきりビームサーベルで切り込んでバグバズンブルードをバラバラに切り裂いた。

アンジユ「この虫があ!!」

ラツイーエルに巨大なエネルギーブレードを纏いながら大きく切り込んでバグバズンブルードを一瞬で葬った。

ハルト「うおおおおおー!!」

熱量が666となったヴァルヴレイヴ1がフル出力を出しながらバグバズンブルードに向かって両腕からフォルドシックルを出力刃としてバグバズンブルードの胴体に斬りつけながら拳で思いつきり貫通して、そのまま両手でバグバズンブルードの右腕を引きちぎりながらジー・エッジで切り刻んだ。

ウルトラマン一同「あああつ!!」

キラ、アンジユ、ハルトがスペースビーストを一緒に葬った力に驚愕し、普通では機体が怪獣を倒す事など不可能のはず、それが3人の

秘められた力により、怪獣を意図も簡単に倒した。

ハンナ「バグバズンブルードを倒しただと?!」

ハンナもスペースビーストのバグバズンブルード3匹がそれぞれの機体に操縦するパイロットの秘められた力によって圧倒されて倒された事に驚いた。

ハンナ「すぐに破壊しろ!!」

すぐに他の部隊に命じて向かわず、ダークレドラー、レブラプター部隊が一斉に3機にかかって総攻撃するが、

キラ、アンジユ、ハルト「はあああああー!!」

すぐにかかりながらエールストライクがビームサーベル、ヴィルキスがラツイーエル、ヴァルヴレイヴ1がジー・エッジで次々とダークレドラー、レブラプターを破壊し、たったの数秒で1機足らず全て撃破した。

ウルトラマンゼロ「何て底力だ、普通なら怪獣を倒す事などあり得ない。」

キラ、アンジユ、ハルトの底力でMSでは倒す事が不可能のスペースビーストのバグバズンブルードを一瞬で葬った事はウルトラマンゼロでも驚いた。

アリー「そんな力があんならもつと出せやあ!!」

キラ達の底力に目を付けてアリーのイナクトカスタムがブレイドライフルで切りかかってきたが、



キラ「消えろおっ!!」

キラの気迫がこもったビームサーベルがアリーのイナクトカスタムの右腕を斬り込んで破壊した。

アリー「こいつ。」

エールストライクがビームサーベルで一瞬で自分の機体の右腕を破壊した事にアリーは、この場を立ち去った。

ハンナ「ちい、これ以上閣下の兵を失うわけにはいかない、撤退だ!!」

プロイツェンのPK師団の戦力を失うわけにはいかないと判断し、撤退命令を出し、この場から立ち去った。

キリツシャー「じゃあな、次が楽しみだ。」

部隊と共に撤退するキリツシャーはウルトラマンオーブオリジンに次の再戦を望んだ。

バルトフェルド「バーサーカーか。」

また両軍の戦いを遠くから見て観察したバルトフェルドはエールストライク、ヴィルキス、ヴァルヴレイヴーの戦いを見てバーサーカーと呼んだ。そして戦いは終わったが、タツシルは大規模な被害を受けて大勢の住民がスペースビーストの捕食などで死亡した。

カガリ「あつ、あああつ。」

自分達で勝つことが出来ず、ただ啞然とするカガリ。そんな彼女の前にキラが現れた。

キラ「死にたいのか?！」

カガリ「何だと!? 貴様、タツシルの街が焼かれたのが見えないのか!! みんな、必死で戦った・・・戦ってきた!! 大事な人や大事なものを守るために必死でな!!」

キラ「!!」

カガリが必死で戦った事に反論し、キラは無謀な戦いで犠牲を出した彼女を叱責して顔を拳で殴った。

カガリ「うっ!!」

キラ「気持ちだけで、一体何が守れるっていうんだ!!」

タツシルの町は焼き討ちされて大勢の住民が死亡し、無惨な光景となった。

リク「・・・。」

美月「あなたもようやく立つ時ね、ジード。」

次回 13話へ続く

## 第13話 宿敵の牙

タツシルの町が焼かれて大勢の住民が死亡し、夜明けの砂漠は壊滅した。カガリはアークエンジェルと同行する事になった。

北アフリカ

移動中

アークエンジェル

ブリッジ

エルエルフ「お前も一緒に来るとはな。」

カガリ「情勢の事なら私が詳しく知っている。」

エルエルフ「ほお、お前は何やら色々詳しい事を知ってるそうだな。」

マリユール「いいのですか?」

エルエルフ「彼女なら地球の情勢の事を詳しく知っている。それにまだ話したい事もある。」

マリユール「話したい事?」

エルエルフ「まずはザフトの町であるバナデューヤでザフトの情報を探る事だ。」

ムウ「敵さんの情報を探る訳か。」

エルエルフ「敵の動きを探りに向かわせるそれぞれ向かわせるしかない。」

ナタル「行くのは誰に?」

エルエルフ「それは俺が今から決めて向かわせる。」

ザフトの支配下の町であるバナデューヤに潜入して情報を探るためにエルエルフは今から向かわせる者を選んで決めて向かわせた。

バナデューヤ

キラ「行くことになったのは僕とアンジュとハルトとサキ、凱さん、護君、命さん、バン、フィーネ、ジーク、刹那、クレナイさん、マグ

ナ、リバイ、カガリで。」

アンジュ「町に行くつて、私とキラとハルトとカガリ、凱と護と命、バンとフィーネとジークともう1人のガイ、刹那とマグナとリバイにそれぞれ別行動で分けたようね。」

サキ「ザフトが支配してる町でも何だか平和そうね。」

カガリ「平和そうに見えたつて、そんなものは見せかけだ。」

ハルト「流石にそこまでの事は。」

カガリ「逆らう者は容赦なく殺される。ここはザフトの、砂漠の虎のものなんだ。」

サキ「本気で言ってるの？」

カガリ「何だと?!」

キラ「そのくらいにしよう。」

凱と護と命の方は、

護「凱兄ちゃんと命姉ちゃんと一緒だなんて嬉しいよ。」

凱「俺達は遊びに来たわけじゃない、バナディーヤで敵の情報を探るために潜入しに来たんだ。」

命「3人で街の中を歩くのも久しぶりだわ。」

凱「そのようだな。」

護「3人で一緒なんだから歩き回ろう。」

命「ねえ、凱。」

凱「しょうがないな、じゃあ楽しみながら歩いていくか。」

町を歩き回りながら楽しんで様子を探って行く凱と護と命。町の遠くから3人の同行を見る人物がいた。

CC「……。」

ルルーシュ「天海護の事か。」

CC「お前には関係のない事だ。」

ルルーシュ「彼がお前の実子だと言うことを。」

CC「……。」

ルルーシュ「どうした？」

CC「ラティオの事を口にするな。これは私の問題だ。」

ルルーシュ「お前の問題か。天海護とそれに獅子王凱にも会おうと思つてな。ギアスの力を受けないGストーンを持つ者。これは俺にとつてでも問題だ。今まで俺のギアスを使った作戦はあの2人に台無しにされて来た。」

自身のギアスを全く受けけないGストーンを持つ凱と護。今までギアスを使った作戦でその2人によつて邪魔をされた事で、自分にとつて天敵でもあると思うルルーシュ。バンとフィーネとガイの方は、

フィーネ「何だかいい町だわ。」

バン「俺達がGGGだとバレないよな。」

ガイ「大丈夫はずだ、俺たちの事は気が付かれていないようだ。ここで何か情報見つけていけないとな。」

フィーネ「何かないかな。」

ジーク「グオー。」

バン「ジークもどこか寄りたみたいだな。」

町中を歩きながら自分達がGGGの一員である事に気付かれず、ここで何か情報を掴んでいこうとするバンとフィーネとジークとガイ。

刹那「……。」

マグナ「なんか色々ありそうだな。せつかくだしどっか寄ろうぜ。」

リバイ「俺達は遊びに来たんじゃない。情報を探るために来たんだ。」

マグナ「いいじゃねえか、息抜きくらいは。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「まあそのくらいの事はいいんじゃないか。歩きながら見つけるのも。」

刹那「……。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「刹那、お前も少しは息抜きして満喫したらどうだ？」

刹那「俺は大丈夫だ。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「大丈夫な訳ないだろ。お前は特に無茶する事がある。せめてこの辺で何か食っておいた方がいい。」

刹那「わかった。」

マグナ「ちょうどこの近くに美味しいもんがあるぞ。」

リバイ「しょうがない奴らだ。」

戦いで息抜きするために近くにある店によって3人は、食事を取ることにした。一方、キラ達は、町中を歩き回っていたら空腹し、食事を取ることにした。

サキ「ケバブ、美味しそうね。」

ハルト「流木野さんと一緒に食事か。」

サキ「あらシヨーコさんと一緒の方が良かったかしら？」

ハルト「そんなつもりじゃ。」

サキ「あたしと2人で一緒に食べて嬉しいでしょ。」

ハルト「うっ。」

アンジュ「地球にこんな食べ物があったのね。」

カガリ「お前、ケバブを知らないのか？」

アンジュ「知らないわよ。私はずっとプラントにいたのよ。」

カガリ「お前、プラントの人間だったのか?！」

キラ「カガリ、待って、彼女には……。」

バルドフェルド「アンジュリーゼⅡ斑鳩Ⅱミスルギ。」

カガリはアンジュがプラントの人間だと知った途端に、キラ達の前に砂漠の虎如くバルドフェルドが現れた。

アンジュ「アンドリユー!!バルドフェルド……。」

カガリ「何?!お前があのだと……!!」

バルドフェルド「この俺が砂漠の虎だ。」

キラ「(あの人だ砂漠の虎。)」

その人物が砂漠の虎のバルドフェルドだと知るキラ達。一方、凱と護と命は、

凱「なかなか見つからないみたいだな。」

命「色々歩き回ってもなかなか見つからないわ。」

護「でも町中を色々見回って楽しめたよ。」

なかなか情報を見つけ出す事が出来ずにいる3人。このバナデーヤで情報の手がかりをどうしたら見つけたらいいの考えた。

護「!!」

凱「どうした護?」

命「護君?」

護「あの人がある……。」

凱、命「?!」

護が自分達の元にある人物が近付いてきている事に反応し、3人の元に現れたのはルルーシュとCCだった。

凱「お前はルルーシュ、CC!!」

ルルーシュ「獅子王凱、久しぶりだったな。」

同じ頃、バンとフィーネとジークとガイは、

バン「色々買ったな。」

フィーネ「うん、何だか楽しい買い物になったわ。」  
ジーク「グオー。」

ガイ「結局買い物しただけで何も手がかりは見つからなかったか。」

何も情報を掴めずに買い物だけしたバン達。そんな中、町中で爆発音がした。

バン、フィーネ、ジーク、ガイ「?!」

町中で爆発音を響いたバン達。また店内で食事をしていた刹那達も外からの爆発音に響いた。

刹那「?!」

マグナ「何だ?」

リバイ「外へ行くぞ。」

すぐに店内から出て爆発音の元へ向かった一同。現場にたどり着き、そこにはある武装集団が襲撃をしていた。

バナデーヤ住民1「きゃああああー!!」

武装集団がマシンガンなどの銃器を使って町に武力を行っていた。

ブルーコスモス構成員1「青き清浄なる世界のために!!」

ブルーコスモス構成員2「汚れたコーデイネイター、マナ、宇宙人は地球から出て行け!!」

刹那、ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「!!」

マグナ「おい、どうした?!」

リバイ「急にどうした?!」

刹那「・・・。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「ブルーコスモス。あらゆる



人種を迫害する団体だ。」

刹那「俺はあいつの存在を許す訳にはいかない。」

武装集団がブルーコスモスだとわかり、彼らはあらゆる人種を迫害する事を主に活動し、彼らの存在は地球連合全体に大きく動かしながらコーデイネイター、マナ、宇宙人の排除主義を唱えて、さらに自分の意見に賛同しないものを迫害などもする。そんな彼らの暴挙を見逃さないと刹那が立ち上がった。

ブルーコスモス構成員1「何だ貴様は？」

刹那「……。」

ブルーコスモス構成員2「我らの邪魔をする気か?!」

刹那「お前達をここで排除する。」

ブルーコスモス構成員3「排除だ?!我らに逆らった事を後悔させてやるぞ!!」

刹那「俺はお前達のようなものを放って置く訳にはいかない。」

ブルーコスモス構成員4「なら死ねえ!!」

刹那に向かって拳銃を向けて発砲しかかるが、刹那がすぐに駆け込みながらパンチで腹を殴り、そのまま顎を思いつきり殴った。

ブルーコスモス構成員2「貴様あ!!」

刹那の先制攻撃にブルーコスモス構成員が一斉に銃器を出して彼に射撃してきた。

刹那「!!」

彼の反射神経の反応で銃器から撃ってくる弾丸に反応してジャンプで回避して、身体を反転しながら蹴りでブルーコスモス構成員の頭に打ち込んで、他のブルーコスモス構成員にパンチで殴り込んだ。

ブルーコスモス構成員1「ぐっ、うわああー!!」

刹那の素手による戦闘で全員やられたブルーコスモス構成員。

ブルーコスモス構成員1「くっ、貴様ご如きに我らの大義を……!!」

刹那「!!」

ブルーコスモス構成員1「うっ、うわあっ!!」

やられても屈服せず、自分の大義を果さんと立ち上がろうとするブルーコスモス構成員の首を刹那が右手で掴んだ。

マグナ「おい、刹那!!」

リバイ「……」。

刹那がブルーコスモス構成員の首を右手で掴んで締めようとするのを目の当たりにするマグナとリバイ。

ブルーコスモス構成員1「あっ、うわあああー!!」

刹那「……」。

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「刹那、これ以上の事はするな!!」

刹那「……」。

ブルーコスモス構成員1「助けてくれ……!!」

刹那がブルーコスモス構成員の首を掴んで締めようとするのをウルトラマンゼロがやめるように求めるが、

刹那「うおおおおー!!」

ブルーコスモス構成員1「うわあああああー、くっ、苦しい、助

けてくれ……!!」

だが、刹那は感情的になってウルトラマンゼロの耳を聞かず、相手を殺すつもりで首を掴んで締めたまま殺そうとした。

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「刹那、やめろ!!」

感情的になった刹那が本気で相手を殺そうとしている事で、ウルトラゼロアイの姿の自分では彼を止める事が出来ず、ただ声で呼びかけるしかなかった。その時、刹那の右手に遠くから光弾のようのが打たれてブルーコスモス構成員の首を放した。

刹那「うっ!!」

ブルーコスモス構成員1「ひいいいっ!!」

すぐにこの場を引いて逃走するブルーコスモス構成員ら。

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「今のは一体。」

どこからか刹那が相手の首を掴んで殺すとしたのを阻止したのを気にかけるウルトラマンゼロ。

美月「……。」

街角の遠くから射撃して刹那の行動を阻止したのは美月だった。

バン「おーい、無事かー!!」

ようやくバン達が駆けつけに現れて合流をした。

ガイ「何があった?」

マグナ「なんか青き清浄何たらなんとかを……。」

ガイ「ブルーコスモスか。ここに現れていたとは。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「刹那のやつがマジで殺そうとした。」

ガイ「何?!」

刹那「……………」

現場に過激派組織のブルーコスモスが現れた事とウルトラマンゼロから刹那は本気で相手を殺そうとした事を聞かされたガイ達。一方、キラ達はバルドフェルドに連れてこられて屋敷へと入り、お茶をする事になった。

バルドフェルドの屋敷

キラ「町にこんな屋敷があつたなんて。」

ハルト「凄い。」

カガリ「くっ。」

サキ「あたし達が敵のお屋敷に誘われるなんて意外かしら。」

アンジュ「どうして私達を誘った?」

バルドフェルド「君達とは一度話してみようと思ったからさ。」

アンジュ「私をバカにしているのか?!私がノーマだと知って恥晒しにするつもりか?!」

バルドフェルド「まあ落ち着きたまえ、君は感情になり過ぎだ。」

アイシャ「アンデイ、紅茶が入ったわよ。」

バルドフェルド「ちょうどよかった、紅茶を飲みたまえ。」

サキ「その人は?」

アイシャ「私、アイシャって言うの。私はアンデイとは恋人よ。そのあなた達も恋人なの?」

キラ、アンジュ、ハルト、サキ「」

アイシャが入れた紅茶を早速飲み始めたキラ達。

サキ「ハーブテイだわ。」

ハルト「いい香りがする。」

バルドフェルド「どうだ、アフリカで採れた味は？」

カガリ「確かに美味しい。」

キラ「飲むとすつきりする。」

アンジュ「・・・。」

バルドフェルド「エヴィデンスゼロワン。実物を見たことは？」

キラ「いえ。」

バルドフェルド「宇宙に人類以外の生命がいるのが確認されたのは、ウルトラマンの存在とクライシスインプクトが・・・そのおかげで人類には大きな影響が出てきちゃったわけだ。」

キラ「クライシスインプクト、6年前に起きた出来事。」

バルドフェルド「その影響によつてこの世界と滅びかけた別の世界が1つの世界とになって人類は宇宙に対する脅威を感じて、排外主義を唱えるようになった。」

外

凱「何故ここにいる!!」

ルルーシュ「暇つぶしをしに来ただけだ。」

凱「また俺達を陥れるつもりか?！」

ルルーシュ「お前はすぐに俺を疑うようだな。」

凱「当たり前だ、俺はお前を最初から信用していない。」

ルルーシュ「そうか。」

護「ねえ、CCさん。」

CC「・・・。」

護「僕は宇宙で腸原種から聞かされた、あなたが僕の実の母親だつて。」

CC「!!」

ルルーシュ「CC!!」

CC「知ってしまったのか、ラティオ。お前の出生、そして私が本当の母だと言う事を。」

護「そうだよ、何で今まで黙っていた。何であの時ずっと言わなかったの？」

CC「……。」

V V「彼女は君に本当の事を言うのが怖いからだよ。それと久しぶりだったね、CC、それにラティオ、獅子王凱。」

CC「V V。」

凱「シャルルの側にいるお前が何故ここにいる?!」

V V「僕は君達に久々に会おうと思ってる。」

凱、護、命「……。」

ルルーシュ「お前も来るとはな。」

V V「相変わらずだね。」

ルルーシュ「ちようどいい事を教えてやろう。」

凱「？」

ルルーシュ「明日、黒の騎士団は砂漠の虎と宇宙人同盟と共同して地球連合のトリポリ基地に総攻撃し、基地にある新型ゾイドを奪取る。」

凱「新型ゾイドだと?!」

ルルーシュ「どうだ、お前も欲しくはないか？」

凱「何故敵である俺達に教える？何を企んでいるんだ？」

ルルーシュ「お前達がいらないと意味はないからな。」

凱「貴様あ!!」

V V「君は人を挑発させる事が好きだな。」

ルルーシュ「そうだ。」

凱「お前には言わなければならぬ事がある。」

ルルーシュ「何だ？」

凱「シャーリーとニーナが死んだ。」

ルルーシュ「!!なっ、何だと……?!」

凱「ナナリーが連れさらわれた。」

ルルーシュ「なっ、ナナリーが……?!誰がナナリーをさらった!!」

凱「スローネだ……。」

ルルーシユ「何?!」

凱「あいつらは俺達やお前の学園を破壊して大勢の生徒を殺害するのを楽しんでやった。」

ルルーシユ「……。」

凱「俺も救う事はできなかった。」

ルルーシユ「……。」

凱からアツシユフォード学園がスローネの襲撃によって破壊されて大勢の生徒が殺害された中でシャーリーとニーナまでもが死亡し、さらに妹のナナリーが連れさらわれた事を知ったルルーシユ。

ルルーシユ「CC、行くぞ。」

CC「ルルーシユ。」

凱達の元を立ち去ったルルーシユとCC。

護「……。」

CC「(ラティオ。)」

母と子の再会、だが真実を知った護にはまだ彼女を受け入れる事が出来ず、本当の事を今まで言わなかったCCも息子と再会した事に苦悩した。

バルドフェルドの屋敷

バルドフェルド「止めた方が賢明だなあ。いくら君がバーサーカーでも、暴れて無事にここから脱出できるもんか。」

キラ「バーサーカー?」

バルドフェルド「君達の戦闘を二回見た。砂漠の接地圧、熱対流のパラメーター、怪獣を1人で倒した。かなり優秀な方らしいな。」

アンジュ、ハルト「……。」

バルドフェルド「あの機体のパイロットである以上、私と君達は、敵

同士だと言うことだな？」

キラ「ううう。」

バルドフェルド「ふふ。やっぱり、どちらかが滅びなくてはならんのかねえ。」

アンジュ「ううう。」

バルドフェルド「今日の君は客人で、ここは戦場ではない。帰りました。話せて楽しかったよ。良かったかどうかはわからんがね。」

客人として迎えられ、戦場では敵として、バルドフェルドとのお茶会を過ごしたキラ達。そして一同はバナデーヤの町の潜入を終えてアークエンジェルへと戻った。

アークエンジェル

ブリッジ

エルエルフ「地球軍の基地に新型ゾイドか。」

凱「あああ、黒の騎士団はザフトと宇宙人同盟と共同してトリポリ基地に総攻撃して、新型ゾイドを奪取する。」

エルエルフ「これは面白い。奴らが新型ゾイドを奪取で目当てならこちらもその新型ゾイドとやらを手にかかけようではないか。」

クルーガー「作戦はどう立てていく。」

エルエルフ「まずはレイノス隊による空襲、ウルトラザウルスによる砲撃でトリポリ基地に総攻撃、そうしたらクルーガーの部隊、大統領護衛師団の地上部隊、バンIIファイライハイトのブレードライガー、傭兵のコマンドウルフで奇襲、またザフト軍や黒の騎士団や宇宙人同盟などの対策はアークエンジェルの特機部隊で行わせる。」

一同「おおお。」

エルエルフ「その数機で基地内に突入して新型ゾイドを奪取し、基地を制圧して北アフリカの戦いを終わらせる。以上だ。」

エルエルフの立案した作戦はまずは空からレイノス隊による空爆と地上からウルトラザウルスによる砲撃でトリポリ基地に攻撃し、そ



うしたらクルーガーの部隊、大統領護衛師団、バンのブレードライガー、アーバインのコマンドウルフで奇襲を仕掛け、またザフト軍、黒の騎士団、宇宙人同盟にはアークエンジェルの特機部隊に任せて行わせる。そうしたら基地内に突入したら新型ゾイドを奪取、基地内を制圧して北アフリカでの戦いに終止符を打つ。

#### 食堂

サイ「ちよつと待てよフレイ！そんなんじや分かんないよ!!」

フレイ「五月蠅いわね!!もういい加減にしてちょうだい!!あなたと  
はもう婚約関係じゃなくなったのよ!!そのパパがもういなくなつた  
から私が決めたのよ!!」

サイ「おい、なんだよそれは！、ちよつと待てよ!!」

サイとフレイ、2人は家柄の関係で決められた婚約者。フレイの父  
が死んだ事で、彼女はサイとの婚約関係を破棄し、それに対してサイ  
はフレイが婚約破棄した事に反論し、強く求めてきた。

ライゾウ「何の騒ぎだ？」

ミリアリア「簡単には説明できないわよ……」

カズイ「要するに婚約者だったフレイがキラにべつたりだから、サ  
イが……」

サトミ「ただの痴話ゲンカか。バカバカしい。」

食堂の扉を開けて入ってやって来たキラ。

キラ「……」

フレイ「キラ!!」

キラ「どうしたのフレイ？」

サイ「キラ。フレイに用があるんだ!!」

フレイ「悪いけど、私はキラを選ぶ事にしたの。」

サイ「何だと?!!」

キラ「どうみ見ても、君が嫌がるフレイを追っかけてるようにはか見えないよ。」

サイ「何だと?!」

キラ「この間の戦闘で疲れてるんだ。もうやめてくれない?」

サイ「くうっ、キラあ!!」

キラに殴りかかろうとするサイ。逆にキラがサイの身体を掴んで壁に押さえつけた。

キラ「止めてよね。本気で喧嘩したら、サイが僕に敵うはずないだろ?」

凱「おい、そこで何をしてるんだ!!」

キラとサイの喧嘩で駆けつけにやって来た凱。

キラ「凱さん。」

凱「サイを放すんだ!!お前が何をやっているか、わかっているのか?!」

キラ「凱さん、どうしてここに。」

護「キラ兄ちゃん、やめてよ。」

キラ「護、君が呼んだのか・・・。」

護「・・・。」

凱「キラ、すぐに放せ!!」

キラ「そうやってコーデイネイターの僕を悪者扱いですか。」

凱「?!」

キラ「サイボーグのあなたはコーデイネイターと違って批判はされない、常に自分が正しいと思っている。そうなんだから!!」

凱「!!」

回想

ミレイ(回想)「この裏切り者!!あんななんかヒーローじゃない!!」

リヴァル(回想)「お前のせいでニーナは死んだ!!」

沙慈(回想)「ルイスの左手をどうしてくれたんだよ!!」

現在

アークエンジェル

食堂

凱はキラを止めようとしたら、逆にキラに反論されて自分がサイボーグである事で批判されない事、自分が正しいと思っているとわかってしまい、凱はスローネの襲撃によってアツシユフオード学園を破壊されてしまい、ミレイ、リヴアル、沙慈に自分達やニーナ達を救ってくれなかった事を責められた事を思い出した。

凱「違う、俺は、違う。俺が正しいとは思ってなんかいない!!」

キラ「それがあなたの本性なんですね。」

凱「あああ、あああ、俺は俺は俺は……。」

アンジユ「もうこんな下らない事を止めることね。」

キラ「アンジユ。」

アンジユ「フレイ、あなたが火種を起こした原因ね。」

凱を口で責めたキラの前にアンジユが現れて喧嘩の火種の原因がフレイとわかって彼女にビンタした。

フレイ「うっ、何するのプラントの分際か!!」

アンジユ「人を利用するなんてあなたは最低ね。行くよ、キラ。」

キラ「……。」

フレイ「ノーマの分際が!!」

キラを連れて食堂を出たアンジユ。アンジユにビンタされて彼女を憎悪し始めた。地球連合軍トリポリ基地の地下工場では、ルルーシユの言った新型ゾイドが2体並んでいた。

トリポリ基地

地下工場

ヴォルフ「この機体は失われし祖国復活のために。」

次回 14話へ続く

## 第14話 砂塵の果てに

地球連合軍のトリポリ基地へと総攻撃を行うため、エルエルフが全体の指揮を執りながらヘリック共和国軍を動かした。まずは最初に上空からウルトラザウルスから発進したレイノス隊、護衛役のストームソーダーを発進させて一気にトリポリ基地に空爆を行った。

トリポリ基地

カティ「敵襲だ、総員直ちに迎え討て!!」

ヘリック共和国軍の空襲に直ぐに出撃命令を出すカティ。

ヘリック共和国兵1「貰った!!」

機体に納めている格納庫に狙いを標的するレイノス数機が胴体にある3連ビーム砲で攻撃して破壊した。次に燃料など補給施設にも狙いを標的し、ミサイルなどを発射して命中して爆破させた。

ARUS兵1「させるかよ!!」

地上にいるリアルドホバータンクアンチエアが4連装高速機関砲で上空から空爆するレイノスを攻撃して次々と撃墜していった。

ガイロス帝国兵1「旧式のレイノス如きにこのイナクトの性能を見せてやる!!」

上空を飛行するイナクトがリアライフルで基地を空爆するレイノスに向かって射撃するが、

マミ「させないわ!!」

イナクトの前に現れたヘリック共和国軍の最新鋭の飛行ゾイド、ストームソーダーが現れて、ストームソーダーの左右両翼からウイングブレードを出してイナクトに向かって機体ごと上下真つ二つにした。

ガイロス帝国兵2 「共和国軍の新型機か?!ゾイドなんか!!」

ヘリック共和国軍の新型機のストームソーダーに対し、こちらは人型機動兵器であるMSのイナクトは、旧式ゾイドのレドラーに代わる航空戦力でもあり、性能はレドラーを上回り、イナクトがプラズマソードを出して切りにかかった。

マミ「悪いけどストームソーダーは、制空権の確保のために作られたのよ!!」

ストームソーダーは、ヘリック共和国軍が制空権の確保のために開発された機体で、空戦特化に力を入れて高い戦闘能力を持ち、レドラーやヘリオーン、そしてイナクトやフラッグを上回る性能を持つ。頭部のトップソードを出刃してイナクトの胴体に直撃して破壊した。

カティ「新型機か?!直ぐに対空部隊に攻撃を!!」

空のイナクト部隊がストームソーダーによって次々と撃墜されていき、地上にいるリアルドホバータンクアンチエア部隊に対空攻撃を命じるが、遠くから砲撃が発射して基地に命中した。

シュバルツ「遠くから砲撃?!」

遠くから敵の砲撃に気付いたシュバルツ。遠くで待機しているウルトラザウルスが360mmリアキャノンで応戦してトリポリ基地に砲撃をした。

エルエルフ「今直ぐに主力部隊と大統領護衛師団とバンⅡフライハウトと傭兵を向かわせる。」

トリポリ基地に空爆と砲撃をし終えたら直ちにバンとアーバインと主力部隊と大統領護衛師団と出撃に向かわせたエルエルフ。

バン「一気に終わらせてやる!!」

アーバイン「ああ!!」

共和国軍の主力部隊と大統領護衛師団と共にトリポリ基地に向かっていくバンとアーバイン。基地から早速現れた地球連合軍のMS、ゾイド、ナイトメアフレーム、スペースビーストが大多数となって大軍団となって立ち塞がる。

スザク「邪魔はさせん!!」

スザクの操縦するランスロット・コンクエスターがMVソード2本を出して両手に構えながらゴドス大隊、デイバイン大隊を自身の操縦技量を用いながら次々と斬撃してあつという間に壊滅させた。

アーバイン「ランスロットか!! 厄介なやつまで現れたか。」

凱「こいつの相手は俺がする。お前達は先に行け!!」

凱のスターガオガイガーが現れて、バン達を先に向かわせるため、スザクのランスロット・コンクエスターの相手を引き受けた。

スザク「獅子王凱!!」

凱「勝負だ、スザク!!」

1対1の対決で、両者共に交戦する凱とスザク。ドリルニーを前に出しながらランスロット・コンクエスターに向けたが、MVソードで

ドリルニーを受け止め、パンチでランスロット・コンクエスターの頭部を殴った。スペースビーストのペドレオンクラインの大軍が勢いよく迫って、ヘリック共和国軍のガンズナイパー部隊に向かっていた。

ヘリック共和国兵2「この怪物が!!」

ガンズナイパーの両腕に装備されているビームマシンガン、両肩に装備されている8連ミサイルポッドを同時に発射してペドレオンクラインを撃退した。

人革連兵1「落ちろ!!」砂上をホバーで走行するティエレン高機動B型が200mm×25口径長滑腔砲を発射してコマンドウルフに命中し、破壊した。だが、後から現れたヘリック共和国軍の新型機のライトニングサイクスが高速移動しながらパルスレーザーライフルからレーザーを発射してティエレン高機動B型を撃ち抜いた。ライトニングサイクスの高いスピードで地上にいる敵機を次々と撃退していった。また同じ頃、トリポリ基地へと向かうゼロ(ルルーシュ)の率いる黒の騎士団とバルドフェルドの部隊と宇宙人同盟。

ゼロ(ルルーシュ)「これよりトリポリ基地に総攻撃を開始する。」

ゼロ達もトリポリ基地へと進み、そして基地にある新型ゾイドの奪取も目指していた。ゼロ達の進行を既にエルエルフが手配したガイサク偵察仕様を砂中に潜ませて、ゼロ達黒の騎士団の動きを察知し、エルエルフの元へ伝達した。

エルエルフ「動いて来たか。こっちも出撃する。後の指揮はクルーガーに任せる。」

トリポリ基地攻撃の指揮をクルーガーに任せて、アークエンジェル



と共に自ら戦場へと出撃するエルエルフ。

バルドフェルド「早速おいでなされたか。」

早速、彼らの前にアークエンジェルと特機部隊が現れ、トリポリ基地を行かせないと攻撃を開始した。

ロックオン「お前達の相手は俺だ!!」

GNスナイパーライフルでバクウに狙撃して撃墜するデユナメス。

ザフト兵1「邪魔するな!!」

後方からザフト軍のイデアールブルームによる砲撃が発射してアークエンジェルに向けたが、キューマのヴァレヴレイヴ5が前に出て、両肩のIMPで防ぎ、その直後にヴァレヴレイヴ3の背後からライゾウのヴァレヴレイヴ3が現れて、両肩のアームストロング・カノンからビームを発射してイデアールブルームを撃墜した。

キューマ「山田、ナイスだ!!」

ライゾウ「ああ。ってサンダーと呼べよ!!」

攻撃と防御、それぞれ2つの特性を持つ2機のヴァレヴレイヴによる連携で後方にいる敵機を倒し、そのまま続行した。

ヒルダ「あたし達を忘れちゃ困るなあ!!」

上空からザフト軍のヒルダ、アードライ、ハーノイン、イクスアインらのキルシュバウム4機、ロザリーのグレイブカスタム、クリスのハウザーカスタム、黒の騎士団から紅蓮可翔式、暁可翔式、四聖剣の暁直参可翔、四聖剣のリーダーの藤堂の斬月可翔が現れた。また地上

からはピートリー級の上に乗ったデュエルアサルトシユクラウド、バスターも現れた。

ティエリア「あれは黒の騎士団、宇宙で現れた新型機、デュエルにバスターまでも!!」

玉城「ここで終わらせてやるぜ。」

朝比奈「邪魔させないよ。」

黒の騎士団の特機がアークエンジェルに攻撃をしにかかった。

マリユー「敵機が接近してくるわ。対空態勢よ!!」

ナタル「イーゲルシユテルン、ヘルダート、撃てえっ!!」

接近してくる敵機にイーゲルシユテルン、ヘルダートを同時に発射して総攻撃するアークエンジェル。アークエンジェルの攻撃を3機のキルシユバウムが掌からバリアを展開して攻撃を防ぎ、指先からビームで攻撃した。

ティエリア「このおっ!!」

ヴァーチエがGNキャノンからビームを発射してキルシユバウムに攻撃した。

ハーノイン「こいつやってくれたな!!新型機の性能を見せてやるぜ!!」

ハーノインがキルシユバオムの性能を見せるべく、ティエリアのヴァーチエに接近して両手による格闘で攻撃をする。ティエリアも相手の攻撃に対し、GNビームサーベルを出して斬りつけた。

ハーノイン「くっ!!野郎、やりやがったな。」

ティエリア「私とガンダムを甘くみては困るのだよ。」  
ハーノイン「こいつ!!」

自身の機体に斬りつけたヴァーチェに指先からビームを発射して攻撃した。

藤堂「覚悟!!」

部下の朝比奈、千葉と数機の暁可翔と共にヴァルヴレイヴ1とヴァルヴレイヴ4を包囲する藤堂。

サキ「ハルト、来るわよ!!」

各方位から近づいて来る暁可翔がハルトとサキに迫って来た。

ハルト「このおっ!!」

暁可翔をジー・エッジで斬りながら破壊し、メテオール・プレートを投擲して、周りにいる暁可翔を破壊した。

朝比奈「あれがヴァルヴレイヴか。」

千葉「かなり手強いようだ。」

藤堂「奴らの手足を狙え!!」

ヴァルヴレイヴの手足に目を付けた藤堂は、自分の斬撃可翔、朝比奈、千葉の暁直参可翔から飛燕爪牙を発射して、ヴァルヴレイヴ1の両腕、ヴァルヴレイヴ4の片脚にそれぞれ巻き付いて動きを封じた。

サキ「小さい機体如きに!!」

片脚に巻き付かれた斬月の飛燕爪牙を振り払おうとするが、斬月可翔が制動刀でヴァルヴレイヴ4に斬りにかかって来た。

サキ「!!」

腰部のマルチスパイン・レッグを点火して片脚に巻き付かれている飛燕爪牙を払いながら斬月可翔を吹き飛ばし、スピンドル・ナツクルを投擲する。

藤堂「!!」

ヴァルヴレイヴ4のスピンドル・ナツクルを下にしやがんで回避し、制動刀で突いていく。

ハルト「くっ。」

両腕を暁直参可翔に封じられたハルトのヴァルヴレイヴ1。

ハルト「腕を封じられたくらいで!!」

頭部のバリアブル・バルカンで千葉の暁直参可翔に攻撃し、飛燕爪牙に巻き付かれた右腕を解放し、ボルグ・アームで朝比奈の暁直参可翔に攻撃し、飛燕爪牙で巻き付かれた左腕も解放した。

ヒルダ「オラオラオラー!!」

アンジュのヴィルキスに向かってパンチで連打して攻撃するヒルダのキルシュバオム。

アンジュ「うっ!!」

距離を離れながら遠距離による攻撃を取って、ヴィルキスはビーム弾に換装したアサルトライフルでビームを発射してヒルダのキル

シュバウムに攻撃した。

ヒルダ「やらせるかよ!!」

ヴィルキスの発射したビームを両肩のアイゼン・ガイストで防御し、アイゼン・ガイストに内蔵されているブースターと背部にあるスラスタを点火しながらヴィルキスに突撃しかかった。

キラ「させるか!!」

アンジュのヴィルキスの前にキラのエアールストライクが現れて、勢いで突撃にかかって来たヒルダのキルシュバウムに左腕に装備されたシールドを投げて命中し、動きを崩した。その隙を突いてエアールストライクが蹴りを打ち込んでヒルダのキルシュバウムを墜落させた。

ヒルダ「あああつ!!」

地面に墜落したヒルダのキルシュバウムは砂漠地帯に対応してない事で砂中に埋もれてしまった。

ロザリー、クリス「ヒルダ!!」

仲間を助けに向かおうとするロザリーとクリス。

アンジュ「砂の中に入ってなさい!!」

ロザリーのグレイブカスタム、クリスのハウザーカスタムがアンジュのヴィルキスに蹴られて墜落し、砂中に埋もれてしまった。

バルドフェルド「君達の相手は私だ!!」

キラとアンジュの前に、指揮官機のラゴウに操縦して現れたバルドフェルドとアイシャが現れた。

キラ「その声はバルドフェルドさん!!」

バルドフェルド「少年、少女よ、勝負だ!!」

ラゴウがジャンプでキラのエアーストライクに飛びかかって体当たりした。一方、アードライ、イクスアインらは、かつての仲間だったエルエルフと対峙し、2人はキルシュバオム、エルエルフは改造機のジェットゴジユラスで交戦した。

エルエルフ「アードライ、また会ったな。それにイクスアインもいたか。」

アードライ「エルエルフ、お前をここで討つ!!」

エルエルフ「俺を討つか。お前では俺を倒す事は不可能だ。」

イクスアイン「2対1なら流石にその旧式なゴジユラスで勝つ事は不可能だな。」

エルエルフ「そいつはどうかな。その新型機とやらはエネルギーの消費が激しくするそうだな。」

イクスアイン「貴様、なぜそれを!!」

エルエルフ「その新型機はまだまだ完成品ではないようだな。」

そう言いながらエルエルフが先手を打ってかかり、TRZ20mmリニアレーザーガンを発射してアードライのキルシュバオムに攻撃した。

アードライ「エルエルフ、貴様あつ!!」

先手を打って出たエルエルフに、アードライは操縦してパンチで殴りにかかっていく。

「エルエルフ「お見通しだ。」

アードライのキルシュバオムのパンチをジェットゴジユラスのクラッシュャークローでうけとめた。

アードライ「何?！」

新型機のキルシュバオムが旧式兵器を改造したジェットゴジユラスにまんまと受け止められた事に驚くアードライ。

エルエルフ「旧大戦で活躍したゴジユラスは格闘能力は新型機より上回るパワーを持っている。貴様の乗る新型機は性能面を重視してようだな。機体というのは性能が全てではない。」

旧大戦で活躍したジェットゴジユラスの持つ格闘能力を活かしながらクラッシュャークローで掴んだアードライのキルシュバオムのパンチを押し返しながらそのまま振り払って地上に降下させて、足部に装備されたハイパーキラーフットで蹴りを打ち込んで、アードライのキルシュバオムを砂中に埋もれさせた。

アードライ「エルエルフう!!」

機体が砂中に埋もれていくアードライはエルエルフに敗れて彼の名を叫んだ。

イクスアイン「これを喰らえ!!」

胴体にあるレーベン・グリッツエンをエルエルフのジェットゴジユラスに向かって発射したイクスアイン。だが、使用した事でエネルギーを激しく消耗してしまい、背部にあるエネルギーパックを外して、バツフェが運んで来たエネルギーパックに換装するが、隙を突い

てエルエルフが攻撃に出た。

エルエルフ「隙だらけだ。」

ジェットゴジュラスのハイパーキラーフットにエネルギーを集中してストライクレザースタンプでイクスアインのキルシュバオムに直撃し、地上に墜落して砂中に埋もれていった。

イクスアイン「そんなバカな、旧式の改造機如きなんか!!」

旧式のゴジュラスの改造機によって新型機のキルシュバオムが破れたで負けるはずないと思いき、ゴジュラスの高いパワーと格闘能力によって相手を甘く見た事で敗北したイクスアイン。

イザーク「落ちろ!!」

ピートリー級の真上に乗りながら攻撃するイザークとディアツカ。

ムウ「相手は砂漠に対応してないようだな。」

戦闘機型のスカイグラスパーに乗りながらストライクのランチャーストライカーに換装して駆けるムウは、デュエルアサルトシユラウドとバスターがピートリー級の真上に乗っている事で、2機が砂漠地形に対応してない事に気づき、ピートリー級に狙いを付けた。

ディアツカ「まずいぞ、向こうは艦を狙いに来たぞ!!」

イザーク「ちよこまかと!!」

ムウのランチャースカイグラスパーをビームライフルで狙いながら撃つデュエルアサルトシユラウド。



ムウ「おっと!!」

デュエルアサルトシユラウドのビームを機体の機動性を活かしながら回避した。

カガリ「うっ!!」

ムウと同じスカイグラスパーに操縦し、2号機を操縦するカガリは、ストライクのソードストライカーに換装して、対艦刀シユベルトゲベールを装備した状態でピートリー級に向かって切り込んだ。

イザーク、ディアツカ「うわあっ!!」

ピートリー級がカガリのソードスカイグラスパーのシユベルトゲベールの斬撃を受けて直撃して大破し、上に乗っていたデュエルアサルトシユラウドとバスターが転落し、砂中に埋もれていった。

ウルトラマンギンガ（ヒカル）、ウルトラマンビクトリー（シヨウ）、ウルトラマンエックス（大地）「はああああー!!」

グロツクル、ヴェルダン、レザルドの3人の星人ハンターを相手に戦うウルトラマンギンガ、ウルトラマンビクトリー、ウルトラマンエックス。

グロツクル「うりゃああああー!!」

フローズンクラッシュヤーを強いたアツパーでウルトラマンビクトリーに殴り込んだグロツクル。

ウルトラマンビクトリー（シヨウ）「冷たい拳だな。こっちは熱い拳で行く。」

グロツクルの絶対零度のフローズンクラッシュシャーに対抗して、シヨウはビクトリーランサーとEXレッドキングのスパークドールを出して、ビクトリーランサーにリードして、ウルトラマンビクトリーの右腕にEXレッドキングの右腕を身に付けて、マグマを纏った拳で、グロツクルのフローズンクラッシュシャーでぶつかり合い、マグマと氷の激しいぶつかり合いをし、衝突した。

グロツクル「マグマの拳か、俺にマグマを与えるなんて、良い度胸だ。」

ウルトラマンビクトリー（シヨウ）「あああ。」

マグマと氷の拳によるぶつかり合いで、互いに直角の戦いをするウルトラマンビクトリーとグロツクル。

ウルトラマンギンガ（ヒカル）「ギンガファイヤーボール!!」

レザルドに向けて、ギンガファイヤーボールでレザルドの周囲に隕石を放った。

レザルド「ブラスタータンペスト!!」

ウルトラマンギンガの放ったギンガファイヤーボールをレギュランブラスターによる必殺技のブラスタータンペストでレギュランブラスターをチャージして一気にビームを拡散して数発の隕石を撃ち落とした。

ウルトラマンギンガ（ヒカル）「全部撃ち落としただ?!」

レザルド「お得意のファイヤーボール、隕石を撃ち落とせば終わったと同然だ!!」

ウルトラマンギンガ（ギンガ）「だったらギンガセイバー!!」

レザルドに技を打ち破れてしまい、ウルトラマンギンガは右腕から光刃を出して、近接戦でレザルドに斬りかかった。

レザルド「近接戦などさせはしない!!」

接近戦を持ち込んでくるウルトラマンギンガに対し、レザルドがレギュランブラスターで射撃してけん制にかかるが、

ウルトラマンギンガ（ヒカル）「うおおおおおー!!」

ギンガセイバーでレギュランブラスターの光弾を次々と切り払いながら突撃して思いっきり斬撃した。

ウルトラマンエックスゴモラアーマー「はああああー!!」

ゴモラアーマーを纏いながら両腕のクローでヴェルダンのテンペラーシザースとぶつかり合い、鉤爪とハサミ爪による爪同士がぶつかり合った。

ヴェルダン「はあっ!!」

テンペラーシザースのハサミの刃による攻撃でウルトラマンエックスゴモラアーマーに斬りつけるが、ゴモラアーマーを纏ったウルトラマンエックスには全く効いておらず、ダメージが全く効いていなかった。

ヴェルダン「効いてないだ?!」

ウルトラマンエックスゴモラアーマー（大地）「このゴモラアーマーは頑丈で出来てるんだ。」

ヴェルダン「通常攻撃が効かないならこれはどうだ!!」

ゴモラアーマーを纏っているウルトラマンエックスには通常攻撃が効かず、必殺技のテンペラーシザースクローを発動して、テンペラーシザースに巨大な光状を纏いながらハサミでウルトラマンエックスゴモラアーマーを切り裂いた。

ウルトラマンエックスゴモラアーマー「うわあっ!!」

ヴェルダンの必殺技によってダメージを喰らい、身に纏っていたゴモラアーマーが消えてしまった。

バレル、ガルム、マグナ「はああああー!!」

アントラーを相手に戦い、バレルがサイクロンソーサーを遠隔操作しながらアントラーの全身にぶつけていき、ガルムがプラズマクロスガンでアントラーの角に狙撃して破壊し、マグナがプラズマステイングでアントラーに斬撃を与えて一撃で倒した。

リバイ「うっ!!」

リバイ、グロウズ、デルトルトらは恐竜戦車を相手に戦い、恐竜戦車の遠距離からの砲撃、近距離からの尻尾攻撃で、大苦戦した。

グロウズ「こいつ、強えぞ!!」

リバイ「迂闊ではないな。」

デルトルト「グオツグオ。」

グロウズ「こんなところでやられるわけにはいかねえな。」

デルトルト「グオツグオ。」

リバイ「俺達トライデント3人の力を見せてやるぞ!!」

恐竜戦車を倒すために自分達の実力を出して挑んだ。

リバイ「ファストゾアスラツシュ!!」

尻尾を振ってくる恐竜戦車にリバイがムルチナッターで必殺技を  
発動して、斬撃を放ち、尻尾を切断した。

デルトルト「グオツグオ!!」

ヘルフレイムで恐竜戦車の車輪を狙いを定めて射撃し、恐竜戦車の  
動きを封じるために火弾を発射しながら車輪を破壊していった。

グロウズ「おらよつと!!」

恐竜戦車の真上に飛びかかったグロウズがフローズンハンマーで  
頭を思いっきり叩いてガツンと効かせて、恐竜戦車を倒した。一方、  
トリポリ基地周辺ではヘリック共和国軍と地球連合軍の壮絶な戦い  
が繰り広げられていて、ヘリック共和国軍が新型機の投入により勢い  
を増して地球連合軍を圧倒しつつあった。地球連合軍は追い詰めら  
れてしまい、この戦いに勝てないとわかり、とうとう撤退を開始し始  
めた。基地の地下工場では、

トリポリ基地

地下工場

ヴォルフ「共和国軍が迫っているだ?!」

ハンナ「ここは早く引いた方がよろしいかと。」

ヴォルフ「あの2機は祖国復活のために用意された機体だ。ここで  
共和国とザフトに奪われる訳にはいかない。」

ハンナ「プロイツェン閣下の息子であるあなた様を死なせる訳には  
いかないのです。」

ヴォルフ「わかっている。」

ハンナ「あなたの同胞を既に我らPK師団のホエールキングに収納

しています。」

ヴォルフ「こちらも後で向かう。先に同胞の回収を急いでくれ。」  
ハンナ「健闘を祈ります。」

正規軍が撤退して行く中で滅んだ祖国の復活に必要な新型ゾイド2機をヘリック共和国とザフト軍の手に渡らせないためにヴォルフは1人で残り、ハンナは彼らの同胞をホエールキングに収納させていく。基地外周辺では、地球連合軍のMS、ゾイド、ナイトメアフレームの大軍団が猛威を振るいながらヘリック共和国軍の師団に攻撃し、地上ではアイアンキング、レッドホーン、ダークホーン、レブラプター、ティエレン高機動B型、リアルドホバータンクミサイルランチャーなどの地上部隊が必死でヘリック共和国軍の部隊を迎撃していった。

ガイロス帝国兵3「うおおおおー!!」

アイアンキングに操縦して共和国軍のゾイド部隊に突撃してかかり、全武装を使用して全弾発射した。

ヘリック共和国兵3「うおおおおー!!」

デイバイソン部隊の猛進による突撃で次々と地球連合軍の地上部隊の機体を撃退していき、デイバイソンの突撃を必死で止めにかかるティエレン高機動B型がカーボンブレイドで近接戦でかかるが、デイバイソンの背中から17連突撃砲を一斉発射して、発射した強力なビームによってティエレン高機動B型などの地上機を葬った。

ARUS兵1「共和国の旧式如きなんかに!!」

ヘリック共和国軍が使用する旧式のゾイドの大軍に押され、新型機のMSであっても旧式ゾイドの持つ火力、防御力、推進力によって圧

倒され、さらに新型ゾイドの投入で戦局を大きく変え、ヘリック共和国軍の新型機のストームソーダー、ライトニングサイクス、空と地上を制し、MSを圧倒していき、地球連合軍は圧倒された。

グランザー「ウルトラマンガイア!! 貴様の命ここで絶たせてやる!!」

ウルトラマンガイアV2（我夢）「お前をここで倒してやる!!」

デスレード「ウルトラマンアグル、この前の続きを着けてやる!!」

ウルトラマンアグルV2（藤宮）「お前をここで斬る!!」

前回の戦いの続きをするウルトラマンガイアV2とウルトラマンアグルV2、グランザーとデスレード。グランザーのブリューナクの槍攻撃がウルトラマンガイアV2に喰らわせた。

ウルトラマンガイアV2「デヤあつ!!」

グランザーに両手の間からリキデイターを放ってグランザーに攻撃した。

グランザー「はああああー!!」

グランザーのブリューナクの連続突きでウルトラマンガイアV2に喰らわせ、ウルトラマンガイアV2もグランザーに右手からアグルブレードを出刃して斬り込んだ。

ウルトラマンアグルV2「デュワー!!」

デスレードと交戦するウルトラマンアグルV2は、アグルセイバーを右手から出刃してデスレードのトリシューラとぶつかり合い、デスレードのトリシューラから繰り出す連続突きをアグルセイバーで受け止めていき、左手からアグルスラッシュを放って命中した。

デスレード「はああああー!!」

身体を回転しながらトリシューラでウルトラマンアグルV2の周りに与えていった。

ラーズ「ウルトラマンコスモス、俺の相手がお前とは。」

ウルトラマンコスモスルナモード（ムサシ）「バルキー星人のハンターか。」

ラーズ「俺を他のバルキー星人とは一緒にするな。俺のフェアプレイを見せてやる!!」

フェアプレイを信条に持ち、正々堂々とした戦いでウルトラマンコスモスルナモードに挑むラーズは、ミストルティンで思いつき突いていった。

ウルトラマンコスモスルナモード（ムサシ）「!!」

ラーズのミストルティンを両腕を重ねて防御したウルトラマンコスモスルナモード。ラーズに向かって右手からルナストライクを放った。

ラーズ「ふん!!」

ミストルティンでウルトラマンコスモスルナモードの放った必殺技を振り払い、ミストルティンで思いつきり突いた。

凱「ブロウクンファントム!!」

ランスロット・コンクエスターに向けて、ステルスガオーIIから射出されるファントムリングをブロウクンマグナムに重ねて発射して



攻撃した。

スザク「このっ!!」

フロートユニットに搭載されたハドロン・ブラスターを出して、スターガオガイガーに放った。

スターガオガイガー「プロテクトウォール!!」

ステルスガオーⅡから射出されるウォールリングをプロテクト・シールドに装着して強力なバリアを展開してランスロット・コンクエスターのハドロン・ブラスターを防ぎ、ドリルニーでお見舞いした。

スザク「なかなかの強さだ。」

凱「あああ、おれはお前をガイロスから引き戻す。」

スザク「悪いけど今の僕はガイロス帝国の人間として道を選んだ。」

凱「ガイロス帝国はお前の目指している理想はない!!」

スザク「そうやって君は人に何でも自分の価値観を押し付けるつもりか?」

凱「違う、俺は間違った道を止めようとしているだけだ。」

スザク「それを価値観の押し付けだと言うんだ、獅子王凱!!」

ガイロス帝国の人間としての道を選び、自分の道を止めようとする凱を他者に対する価値観の押し付けだと拒否し、MVソードで斬り込んだ。

ウルトラマンゼロ「てやああああー!!」

トリポリ基地周辺から現れたガルベロスとペドレオングロースとフログロス(B)が現れて、ヘリック共和国軍の部隊をトリポリ基地の行く手を阻み、次々と撃退していくが、ウルトラマンゼロが現れて

3匹のスペースビーストを相手に挑み、ウルトラゼロキックで同時に与え、ペドレオングロスとフログロス（B）を一瞬で倒し、ガルベロスにゼロナックルで喰らわせた。

ウルトラマンゼロ「今終わらせてやる!!」

ガルベロスにトドメを刺そうとワイドゼロショットを放とうとするウルトラマンゼロ。だが砂中からガルベロスと同じスペースビーストのらりザリアス現れて、ウルトラマンゼロの背後に奇襲した。

ウルトラマンゼロ「うわあっ!!」

背後から現れたりザリアスの奇襲でウルトラマンゼロは姿勢を崩し、りザリアスが尻尾を振って攻撃した。さらに前からいるガルベロスが3つの頭部から火を吐いてウルトラマンゼロに喰らわせた。

ウルトラマンゼロ「スペースビースト2匹と相手か。」

ウルトラマンゼロ（刹那）「すぐに終わらせる。」

ガルベロスとりザリアス、2匹をまとめて相手にかかり、ゼロスラッガーを出してガルベロスとりザリアスに斬撃した。

ウルトラマンゼロ「うおおおおー!!」

続いてゼロスラッガーを投げながらガルベロスとりザリアスの周りを斬り込んでいき、自由自在に回る2本のゼロスラッガーでガルベロスとりザリアスを2匹同時にまとめてバラバラに切り刻んだ。

ウルトラマンゼロ「よし。」

無事、2匹のスペースビーストを倒したウルトラマンゼロ。だが、

バラバラに切り刻んだりザリアスの破片が一気に集まって再生し、リザリアスグロローラーへとなった。

ウルトラマンゼロ「何?!」

バラバラ切り刻まれたリザリアスがリザリアスグロローラーとなつて、胸部から熱線をウルトラマンゼロに向けて放って攻撃し、さらに格闘攻撃でウルトラマンゼロに直接喰らわせた。

ウルトラマンゼロ「うわあ!!」

リザリアスグロローラーの胸部から熱線や格闘の連続攻撃を喰らつたウルトラマンゼロ。

ウルトラマンゼロ「この野郎!!」

直接パンチで殴りにかかっていくが、ウルトラマンゼロの動きをすぐに読みながらパンチをかわし、尻尾を振ってぶつけた。

ウルトラマンゼロ「うわあつ!!」

リザリアスグロローラーに行動を読まれて、返り討ちにあったウルトラマンゼロ。

ウルトラマンゼロ「こいつは厄介だ。」

一度倒したのに関わらず、バラバラになった破片が集まって再生してリザリアスグロローラーとなってパワーアップし、動きまで読まれて姉妹、ますます困難に陥った。その時、ウルトラマンゼロの前に謎のウルトラマンと謎の機体が現れた。

ウルトラマンジードプリミティブ「……。」

謎のウルトラマンの名はウルトラマンジードプリミティブ、謎の機体はソルシエウイサリス。

ウルトラマンゼロ「?!」

自分の前に現れたウルトラマンジードプリミティブを見てある事に宿敵のウルトラマンベリアルに似ている事に驚くウルトラマンゼロ。

ウルトラマンゼロ（刹那）「ゼロ!!」

ウルトラマンゼロ「何でもない。」

早速現れたウルトラマンジードプリミティブと謎の機体に襲いかかるリザリアスグロローラーが胸部から熱線を発射した。

ウルトラマンジードプリミティブ「!!」

素手で熱線を振り払い、そのままパンチした。続いてソルシエウイサリスが下部から8基のウイザービットを放出して、リザリアスグロローラーの周囲を囲んで攻撃した。

ウルトラマンゼロ「あつ。」

ウルトラマンジードプリミティブとソルシエウイサリスがりザリアスグロローラーを交戦していくのを目の当たりにするウルトラマンゼロ。

リザリアスグロローラー「キシヤオオオオー!!」

リザリアスグロローラーが口と胸部から熱線を発射してウルトラマンジードプリミティブとソルシェウイサリスに向けた。ソルシェウイサリスが両手を広げながらターンを決めて、二つの月を出現して周り全体に光状の球を拡散してリザリアスグロローラーにお見舞いした。

ウルトラマンジードプリミティブ「……………」

最後にウルトラマンジードプリミティブで赤黒い稲妻状の光子エネルギーを両手に集中して両手を十字に組んで必殺技のレッキングバーストを放ち、リザリアスグロローラーに直撃し、撃退した。

ウルトラマンゼロ「!!」

リザリアスグロローラーを圧倒して瞬殺したウルトラマンジードプリミティブに驚愕したウルトラマンゼロ。そしてウルトラマンジードプリミティブとソルシェウイサリスはすぐにこの場から立ち去った。

ウルトラマンゼロ「一体何者なんだ。」

美月「……………」

自分を助けて立ち去ったウルトラマンジードプリミティブとソルシェウイサリスが誰なのか気になるウルトラマンゼロ。そしてトリポリ基地の入り口によく辿り着いたバンのブレードライガーとアーバインのコマンドウルフと地上部隊。

バン「よし、ここを制圧すれば俺達の勝ちだ。」

アーバイン「ああ。」

トリポリ基地を制圧すれば勝利は目の前、制圧すれば勝利は確信するバンとアーバイン。だが、基地の下から突如現れた謎のティラノサウルス型ゾイドが現れてバン達に襲いかかった。

一同「?!」

謎のティラノサウルス型ゾイドが口からエレクトロンファングでガンズナイパーを噛み付いてそのまま噛み砕き、脚で飛びながら地上部隊に入り込んで両手の爪で次々と破壊していき、尻尾のストライクスマッシュテイルを振って、アーバインのコマンドウルフを一瞬で葬った。

アーバイン「うわああああー!!」

バン「アーバイン!!」

謎のティラノサウルス型ゾイドによって一瞬でアーバインがやられたのを目の当たりにしたバン。

バン「こいつ!!」

謎のティラノサウルス型ゾイドに向かってレーザーブレードを展開して斬りにかかるバンのブレードライガー。だが、その反応に反応した謎のティラノサウルス型ゾイドが前脚のストライクレーザークローで近づいてきたバンのブレードライガーに踏みつけようとしてきた。

バン「!!」

すぐに謎のティラノサウルス型ゾイドの攻撃を横に移動して回避したバン。

バン「何なんだこいつは?!」

謎のティラノサウルス型ゾイドの高い性能に驚愕したバン。そして口から荷電粒子砲が発射された。

バン「!!」

すぐにジャンプして発射された荷電粒子砲を回避するバン。

バン「こいつはジェノザウラー!!いや違う、こいつは別の何かだ!!」

バンは一瞬、その謎のティラノサウルス型ゾイドがレイヴンのジェノザウラーに似ていると思いき、だがその機体は別の何かだと感じた。

ウルトラマンゼロ「今来たぞ!!」

スペースビーストとの戦いを終えてやって来たウルトラマンゼロ。謎のティラノサウルス型がウルトラマンゼロに目を付けて襲いかかって来た。

ウルトラマンゼロ「!!」

すぐに回避にかかろうとするが、謎のティラノサウルス型ゾイドの反応速度が早く、ストライクスマッシュシュテイルを振ってウルトラマンゼロにぶつけた。

ウルトラマンゼロ「うっ!!」

一足謎のティラノサウルス型ゾイドに反応速度を先に越されて攻撃を受けたウルトラマンゼロ。

ウルトラマンゼロ「何だ、この機体は?!」

ウルトラマンゼロ（刹那）「ゼロの反応速度より早い!!」

ウルトラマンゼロ「何なんだ?!」

謎のティラノサウルス型ゾイドがウルトラマンゼロの反応速度より早く優れていることに驚き、このゾイドは外見は貧弱そうにみえてもとても恐るべき力を秘めていた。再び口から荷電粒子砲を発射してウルトラマンゼロに向けた。

ウルトラマンゼロ（刹那）「やられるかああああー!!」

刹那が謎のティラノサウルス型ゾイドが発射した荷電粒子砲のにすぐ反応してウルトラマンゼロを動かさなら回避した。

ウルトラマンゼロ「!!」

今の刹那の反応が自分を動かして回避した事に驚くウルトラマンゼロ。謎のティラノサウルス型ゾイドが飛びかかって口のエレクトロンファングでウルトラマンゼロに向かって噛みにかかった。

ウルトラマンゼロ（刹那）「そこかあっ!!」

飛びかかって来た謎のティラノサウルス型ゾイドにゼロスラッガーで斬り込んで、左首に傷痕を残した。

ウルトラマンゼロ、ウルトラマンゼロ（刹那）「!!」

すれ違いざまウルトラマンゼロと刹那は、むき出しのコクピットに座る敵パイロットを見た。その男の顔は、若い男で、20代前半だ。その男の顔は何故か悲しい目をしていた。上空からPK師団のホ



エールキングが現れて、謎のティラノサウルス型ゾイドはすぐに高くジャンプして、中へと消えて、ホエールキングはこの場を去った。

ウルトラマンゼロ（刹那）「……………」

謎のティラノサウルス型ゾイドのパイロットが悲しげな目していたを気にかける刹那。刹那とそのパイロットがいずれの戦いにおける局面で、再び対峙し、左右を大きく変えるのだ。一方、バルドフェルドのラゴウと死闘を繰り広げるキラのエールストライクとアンジユのヴィルキス。

バルドフェルド「この程度か?!」

砂漠の地形に適應するラゴウの快進撃がエールストライクとヴィルキスを追い詰めていき、クロウで直接打撃を与えて次に2連装ビームサーベルで斬撃した。

キラ「このっ!!」

ビームサーベルでクロウで殴りかかるラゴウの左翼部に斬撃して切断した。

アイシャ「そこ!!」

距離を少し離して背中中の2連装ビームキャノンでエールストライクとヴィルキスに射撃した。

アンジユ「ちよこまかと!!」

アサルトライフルで射撃してラゴウの足下に射撃し、けん制した。

キラ「バルドフェルドさん!!」  
バルドフェルド「ただだぞ、少年!!戦争には明確な終わりのルールなどない!!」

それでも戦いを続け、キラとアンジユと交戦するバルドフェルドは、ラゴウを真つ向から突き進んで2人に突撃しかかった。

キラ「……………」

キラは何が覚醒、それは彼の中にある種が割れて覚醒し、覚醒した状態でアーマーシユナイダーを出してラゴウの頭部に刺突した。

アイシャ「アンデイ!!」

バルドフェルド「うう……………」

アーマーシユナイダーの直撃により、恋人のアイシャと共に最期を迎えたバルドフェルド。

キラ「僕…………僕は…………殺したくなんかないのにいい!!」

北アフリカでの戦いは、トリポリ基地を制圧したヘリック共和国軍の勝利により、終止符が打たれ、地球連合軍、ザフト軍と宇宙人同盟と黒の騎士団は撤退をした。トリポリ基地を制圧した一同は地下工場へ降りて向かった。

トリポリ基地

地下工場

エルエルフ「これが新型ゾイドか。」

地下工場に残ったのは謎のライオン型ゾイドだけがあり、既に人の気配は誰もいなくなっていた。トリポリ基地から撤退した地球連合

軍は、

ホエールキング

ブリッジ

ズイグナー「よくご無事でしたか、大佐。」

ヴォルフ「この機体だけでも何とか守り抜いた。」

ウルトラマンゼロと交戦した謎のテイラノサウルス型ゾイドのパイロットはヴォルフだった。

ズイグナー「ゼネバス復活が大佐、いや殿下と共に果たす事です。」

ズイグナーが上官のヴォルフに大佐でなく殿下と呼び、彼らは失われた祖国、ゼネバスの復活を目指す事であった。

次回 15話へ続く

## 第15話 ジード

北アフリカの戦いはヘリック共和国軍の勝利で収まり、地球連合軍のトリポリ基地の地下工場にあった新型のライオン型ゾイドを回収して、日本へと向かった。

日本

東京

首都防衛基地

格納庫

イアン「こつ、こりやすげえ。」

ガイロス帝国が開発した新型のライオン型ゾイドを一目実感するイアン。

スメラギ「基地の地下工場にあつたこのゾイドはデータに全く見たこともない機体ね。」

イアン「色々調べて見た結果、こいつはオーガノイドでなく何やら別のもの使われているようだ。」

ムウ「別のもの?」

イアン「こいつは野生体をベースにして開発されたようだ。」

ガイロス帝国が開発した新型のライオン型ゾイドはブレードライガーやジェノザウラーやストームソーダーやライトニングサイクスなどに搭載されているオーガノイドとは別に、野生体をベースに開発され、寿命の低さと操縦の困難さなどを解決し、高い性能を発揮するが、問題点はその野生体の少なさと捕獲の難しさとコストの高さだ。

イアン「強い割にはコストが高いわけだ。」

バン「帝国軍がよくそんなすごいのが作れたな。」

イアン「まだまだ調べる必要性があるな。」

リバイ「見ても驚くようだ。」

グロウズ「驚いちゃうな。」

デルトルト「グオツグオ。」

???「おーい!!」

リバイ「？」

遠くからリバイの元に集まって来た3人の星人ハンターら。

ハルキ「師匠、元気でしたか?!」

イカリ「吾輩も元気イカ。」

ナクリ「いい子に留守していたわよ。」

この3人のハンターの名は、バルキー星人のハルキ、イカルス星人のイカリ、ナツクル星人のナクリ、彼らはいつも仲良し3人組で、プラズマギヤラクシーに偶然やって来てそこでリバイと出会い、彼の弟子(自称)入りとなって、日々ハンティングの訓練をし続けていた。

リバイ「お前達か。」

ハルキ「ミー達は師匠のように頑張っているっス。」

イカリ「吾輩達3人は怪獣が来ないかいつもパトロールしてるイカ。」

グレイ「私達星雲団が街の平和を守っているのよん。」

リバイ「そつ、それはご苦労……。」

ヒカル、シヨウ、大地「!!」

ヒカルとシヨウと大地がハルキとイカリとナクリを見て自分達が見覚えのある人物だと見て気付いた。

藤宮「どうしたんだ？」

ヒカル「お前達は?!」

ハルキ「Oh、ユー達は?!」

イカリ「何でここにいるイカ?!」

ナクリ「いやーん、私達を連れ戻しに来たのね。」

シヨウ「どうしてお前達がいる。」

大地「お二人は3人を知っていたんですか?」

ヒカル「色々とな。」

リバイ「お前達の知り合いか?」

シヨウ「ああ、分けが訳があつて。」

ハルキ、イカリ、ナクリらの事を知っているヒカル、シヨウ、大地らはリバイに事情を話した。

リバイ「なるほど、そういう事か。」

ハルキ「ミー達は今はもう悪い事はしてないぜ。」

イカリ「吾輩達はちゃんと足を洗っているイカ。」

ナクリ「そうよ、いまはハンターとして頑張ってるのよ。」

ヒカル「本当か。」

シヨウ「・・・。」

大地「まあまあ2人とも。」

サクラ「リバイーイ!!」

またリバイの名を呼ぶ者が現れて、白い肌とサーモンピンクの髪に青い瞳、猿の尻尾が特徴の美少女とガピヤ星人とダダ族がやって来た。

リバイ「お前はサクラ、ドラル、ユジン。」

ドラル「リバイじゃないか!!」

ユジン「久シブリダ。」

サクラ「リバイ、グロウズ、デルトルト、会いたかったよ。」

グロウズ「お前らも相変わらずだな。」

我夢「君達は?」

サクラ「わたしはサクラ。サイヤ人と夜兎族のハーフよ。」

ドラル「俺はガピヤ星人のドラル。よろしく。」

ユジン「俺ハダダ族ノユジン。」

藤宮「星人にも名前があるも珍しいな。」

グロウズ「そうか？」

デルトルト「グオツグオ。」

我夢「星人と話すのは珍しいな。」

大地「ムサシさんとガイさんは？」

シヨウ「2人はハルトと刹那と一緒に用があるようだ。」

ヴァルヴレイヴ1

コクピット

ムサシ「君がこの機体を動かしているパイロットか？」

ハルト「はい。」

ガイ「彼は彼の学校の生徒を守るためにマジウスになったんです。」

刹那「マジウスだと?!」

ガイ「彼は彼の学校の生徒を守るためにマジウスになってザフト軍と戦った。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「この機体の構造はどう言う仕組みだ?!」

ガイ「俺にもこの機体の事はわかりません。」

ハルトがヴァルヴレイヴ1に乗ってマジウスになった事にウルトラマンゼロがヴァルヴレイヴ1の構造を気にかけるが、機体の画面のディスプレイにいる少女が声を出し始めた。

ピノ「ねえ、何でこんなところで集まっているの?!」

一同「?!」

ハルト「しやつ、喋った?!」

ピノ「私の事、ずっと無視していたでしょ?」

ハルト「無視?」

ピノ「そう、特にあなた、今まで乗っておいて私の事をずっと無視して来たんだから。」

ハルト「君が喋る何て思わなかったよ。」

ピノ「もー。」

刹那「お前は？」

ピノ「私、ピノ。いつもここにいるの。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「お前、いつからこの機体にいるんだ？」

ピノ「大体かなり長いくらいかな？」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「長いって？」

ピノ「私はオーブの国で捕まっちゃって、お兄ちゃんと別れて今はこの中にいるの。」

ムサシ「オーブの国？」

ガイ「オーブ首長国か。」

ハルト「僕やショーコや流木野さんやキラ達の故郷です。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「この機体はようするにオーブ首長国ってところで作られたのか？」

ガイ「共和国との共同で開発されてこの機体が出来たのです。」

刹那「それとお前の兄は今どこにいる？」

ピノ「別れてからわからなくなってるの？」

ヴァルヴレイヴの画面に映っている美少女ピノがハルト達に喋りかけ、ヴァルヴレイヴがGATシリーズと共にヘリック共和国とオーブ首長国と共に開発され、ピノはオーブ首長国で兄と別れてしまい、ここで彼女は捕まってこの機体の中にいた。

ムサシ「時縞。」

ハルト「ムサシさん？」

ムサシ「マジウスになって何か変わった事はないか？」

ハルト「一度僕は凶暴化する発作が起きた事がありました。」

ムサシ「他の方は？」

ハルト「いえ。」

ムサシ「……。」



ハルト「どうしたんですか？」

ムサシ「ちよつといいか？」

ピノ「何？」

ムサシ「彼に起きた凶暴化についてだ。」

ピノ「うーん、それはね、この機体のルーンが足りなくなる事があるから起きるのよ。」

ムサシ「ルーンだと?!」

刹那「お前、101人評議会と関係してるのか？」

ピノ「何それ、知らないんだけど。」

刹那「惚けるな、隠しても無駄だ。」

ピノ「だから私は知らないって。」

刹那「素直に吐け。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「刹那、その子は多分知らないと思う。」

刹那「ゼロ。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「迷惑かけてすまない。」

ピノ「ふんだ。」

ムサシ「……。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「怒っているみたいだからしばらく離れよう。」

刹那がピノが101人評議会との関連があると聞き出して疑った事で、彼女は不機嫌になり、しばらく側を離れた。

#### 大統領官邸

#### 大統領室

ルイーズ「北アフリカでのご苦労様です。」

エルエルフ「北アフリカでの戦いは勝利した。」

ルイーズ「ザフトの人間であるあなたが、今回の戦いで指揮を執って勝利に導いてくれたようです。」

エルエルフ「制圧した基地の地下工場を新型機の回収に伴い、基地

内を調べ尽くしたらどうやらこのような旗が見つかったようだ。」

トリポリ基地を制圧した際、地下工場を調べ尽くしたら旗が見つかり、その旗は黒い縁の赤いシールドに蛇とナイフをあしらった意匠だ。

ルイーズ「!!」

エルエルフ「どうした?」

ルイーズ「いえ、何でもありません。」

エルエルフ「……。」

ルイーズ「(ゼネバスの生き残りの者達が既にゼネバスの復活のために動き出していたのね。)」

エルエルフ「ルイーズ大統領。」

ルイーズ「何でしょう?」

エルエルフ「実は人革連である動きを入手した。」

ルイーズはかつて旧大戦時に滅んだゼネバス帝国を復活させる動きに気付き、ゼネバス帝国の復活がコズミックイラ全体に大きな影響をもたらす事に感じた。エルエルフから人革連にある動きを入手した事を告げられた。

ヘリック国立図書館

室内

刹那「……。」

刹那はヘリック国立図書館にて、コズミックイラにおける歴史の本を席に座って読んでいた。

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「(歴史の勉強か。)」

刹那が歴史の本を読んで勉強してあるのを見て、彼はコズミックイ

ラにおける年表の出来事を詳しく見た。CE前に起きた出来事、AD末期から再構築戦争が起き、CE9年に集結し、以下の国家が誕生した。日本、東アジアを中心としたヘリック国、北アメリカ、南アメリカ、太平洋を中心としたARUS、ロシア、中国、インドを中心とした人類革新連盟、ヨーロッパの諸国を中心としたガイロス帝国、ソロモン諸島を中心としたオーブ首長国がそれぞれ誕生した。その中でヘリック国には公国制による王主導で、その王が病死し、息子である長男と次男が後継争いをし、CE19年後継争いで長男が勝利を収めてその座に着いて、公国制を廃止し、共和制をし、自ら大統領となり、ヘリック共和国となった。

刹那「・・・」。

後継争いに負けた次男は、議会を追放されて自ら国家を作り上げてゼネバス帝国を建国し、2年後のCE21年にヘリック共和国とゼネバス帝国の戦争が起こり、両国はゾイドを開発して投入し、衝突し合い、ヘリック共和国はゴジュラス、シールドライガー、ウルトラザウルスを開発し、それに対してゼネバス帝国はアイアンキング、セイバータイガーを開発して戦局を変えていくが、その5年後のCE26年に戦いはヘリック共和国が勝利をし、ゼネバス帝国は敗北をした。突如暗黒軍と呼ばれるガイロス帝国の参戦で、敗北したゼネバス帝国に攻撃し、ゼネバス帝国は滅亡し、今度はヘリック共和国とガイロス帝国の戦いが始まり、暗黒軍の未知のゾイドに苦戦するヘリック共和国はこの世界で初めて人型機動兵器のガンダムと呼ばれたMS、Oガンダムを開発し、実戦で投入し、暗黒軍の未知のゾイドを次々と葬り、さらへリック共和国の新型ゾイドと共に優勢に立ったが、ある日、突然空から接近してきた無数の隕石が降ってきて、地球全体に大きな被害が出て、ヘリック共和国とガイロス帝国はこれ以上の戦闘は不能と判断し、両国は休戦を結び、CE31年に終戦を迎えた。滅んだゼネバス帝国の人々はヘリック共和国に吸収され、またガイロス帝国に亡命する事によってそれぞれ道を歩んだ。

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「この国にそんな歴史があっただ。」

刹那「……………」

刹那はトリポリ基地で対峙した謎のテイラノサウルス型ゾイドのパイロットの事をまだ気にかけていて、いつまた会うのか悩んでいた。外で警報が鳴った。

刹那「?!」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「敵のお出ましか。いくぞ。」

刹那「ああ。」

すぐに外へ出て現場へ向かう刹那とウルトラマンゼロ。街ではエースキラの姿を纏ったエレキングらしき怪獣が暴れていた。

市街地

男性1「うわぁー!!」

エースキラの姿を纏ったエレキングらしき怪獣が左手の鉤爪で建物を破壊していった。

刹那、ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「!!」

街で暴れている怪獣を目撃する刹那とウルトラマンゼロは、怪獣からある気配を感じた。

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「間違いない、あの怪獣の気配からあいつを感じる。」

刹那「ベリアルか。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「ああ。」

その怪獣の気配からウルトラマンベリアルが存在に気付いた刹那とウルトラマンゼロ。宿敵が今、目の前にいた。

サンダーキラー（ケイ）「さあ、来い。ウルトラマンゼロ。」

エースキラーの姿を纏ったエレキングらしき怪獣はサンダーキラー。謎の人物、伏井出ケイがエースキラーとエレキングの怪獣カプセルをライザーと言うアイテムでフュージョンアップしたベリアル融合獣サンダーキラーとなつて街を破壊する。

ウルトラマンゼロ「たあああああー!!」

早速刹那がウルトラマンゼロに変身して現れて、サンダーキラーに先手を打って出た。

ウルトラマンゼロ「お前、ベリアルだな。」

サンダーキラーに変身したのがウルトラマンベリアルだと感じて直接問いかけながら攻撃するウルトラマンゼロ。

サンダーキラー（ケイ）「現れたか、ウルトラマンゼロ。」

ウルトラマンゼロ「ベリアル!!」

もし宿敵だとしたらこの手で倒さねばならないとすぐにでも倒しにかかり、ウルトラマンゼロはパンチを連打して、次にキックでサンダーキラーの胴体に打ち込んだ。

サンダーキラー（ケイ）「ふふふっ。」

不気味に笑うケイは、ウルトラマンゼロの攻撃を受けながら全然平気でした。

ウルトラマンゼロ 「お前はベリアルなのか、答えろ!!」

サンダーキラーに攻撃をしながらベリアルなのか激しく問い詰めていくウルトラマンゼロ。

サンダーキラー（ケイ） 「まあ、そう焦るな。」

サンダーキラーの体内に蓄えている電気エネルギーを放電して、ウルトラマンゼロに浴びせた。

ウルトラマンゼロ 「うわあああああー!!」

サンダーキラーの体内から放電した電気エネルギーを浴びてしまったウルトラマンゼロは、姿勢を崩してパワーダウンしてしまった。その隙を突いてサンダーキラーが左手の鉤爪でウルトラマンゼロにひっかき、さらに尻尾を振りながら攻撃した。

ウルトラマンゼロ 「うわあああああー!!」

サンダーキラーの放電した電気エネルギーを浴びて姿勢を崩した故にパワーダウンまでしてしまい、サンダーキラーの攻撃を受けるウルトラマンゼロ。

ウルトラマンゼロ（刹那） 「うっ、くうっ!!」

電気エネルギーを浴びたせいで姿勢を立て直す事が出来ないウルトラマンゼロ。

ウルトラマンゼロ（刹那） 「ゼロっ!!」

ウルトラマンゼロ 「うっ、このままじゃやられてしまう・・・!!」

ピンチに陥ったウルトラマンゼロ。その時、サンダーキラールの背後から1人のウルトラマンが現れてキックでお見舞いした。

ウルトラマンゼロ、ウルトラマンゼロ（刹那）「!!」

現れたのは、北アフリカのトリポリ基地の戦いで現れたウルトラマンジードプリミティブだった。

ウルトラマンジードプリミティブ「……」

ウルトラマンゼロ「あの時の?!」

サンダーキラール（ケイ）「余計なのが現れたか。」

ウルトラマンジードプリミティブに向けて体内から電気エネルギーを放電しようとするが、上空からソルシェウイサリスが現れて、杖型武器のソーサリロッドで、先端のクリスタルから特殊な光線を放って攻撃した。

ウルトラマンゼロ「あれは?!」

ウルトラマンゼロ（刹那）「トリポリ基地に現れたウルトラマンと機体だ。」

ウルトラマンジードプリミティブと一緒にトリポリ基地に現れたソルシェウイサリスもこの東京に現れて驚いた刹那とウルトラマンゼロ。サンダーキラールが尻尾に電気エネルギーを纏いながら振って攻撃するが、

ウルトラマンジードプリミティブ「!!」

サンダーキラールの電気エネルギーを纏った尻尾をジードクロードで払い、そのままジードクロードで斬撃した。ソルシェウイサリスが両手

にソルナイフ2本を持ちながらサンダーキラーに直接斬り込んだ。そうしたらウルトラマンジードプリミティブはフォームチェンジで、赤と黒のプリミティブから青のアクロスマツシャーに変身して、右手から光の剣スマッシュビームブレードを出刃してサンダーキラーに大きく斬撃し、撃退した。やられたサンダーキラーはケイはすぐに脱出して、この場を引いた。

ウルトラマンゼロ「なんて強さだ……。」

自分を追い詰めたサンダーキラーを一瞬で倒したウルトラマンジードアクロスマツシャーに驚いたウルトラマンゼロ。そしてウルトラマンジードアクロスマツシャーが変身を解いて人間体の姿へとなった。そしてソルシェウイサリスも地上に着陸した。

リク「……。」

ウルトラマンゼロ「俺らに用があるみたいだ。」

ウルトラマンゼロ（刹那）「そうだな。」

変身を解いて元の姿に戻った刹那は、さっそくリクと接触をして話をし始めた。

刹那「助けてくれた事を感謝する。」

リク「どういたしました。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「お前の名前は？」

リク「俺は朝倉リク。そちらの戦いをずっと見てきましたよ。」

刹那「俺達の戦いをずっと見ていた?！」

美月「私が彼と一緒に見てきたのよ。」

ソルシェウイサリスのコクピットから降りて現れた美月とその子供2人。



刹那「お前は、あの時の?!」

美月「あら、また会えたわね。」

みな、こう「また会えたよー。」

刹那は以前フロリダのアトラクションで会った美月と彼女の子供2人がソルシエウイサリスのパイロットだつと知って驚き、トリポリ基地でウルトラマンジードと一緒にガルベロスとリザリアスグロラーを倒した事とフロリダでARRUSのMS部隊を倒したのも彼女だと気付いた。そしてサンダーキラーの際にも現れて、彼を三度も救った。

刹那「これで三度か。」

美月「これであなを三回助けたようね。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「三度も助けられるとは俺も何だか恥ずかしい気分だ。」

リク「言い忘れていたけど、俺はウルトラマンジード。ベリアルの子だ。」

刹那、ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「!!」

リクはウルトラマンジードと名乗りながら自らウルトラマンベリアルの子供と告げて、刹那とウルトラマンゼロは、その衝撃を知った。

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「ベリアルの子だと……?!」

美月「彼はウルトラマンベリアルの子供を受け継ぐ者、自分の出生を知りながら運命を受け入れるわ。」

リク「俺は俺の意志で戦っている。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「まさか、ベリアルに子供がいたとは……。」

自分の出生を知って、ウルトラマンベリアルの子供としての運命を

受け入れるリク。ウルトラマンベリアルに子供がいた事に驚きを隠せなかったウルトラマンゼロ。彼女の手持ちの通信機から連絡が来た。

美月「ん、連絡が来ているわ。付いて来て。」

美月と共に同行する刹那とウルトラマンゼロ。着いたのは大統領官邸だった。そこには、キラやハルト達アークエンジェルのクルーのメンバー達が集まっていた。

大統領官邸

居間

刹那「みんな。」

ロックオン「遅かったぞ、刹那。」

ムサシ「ようやく、これでみんな集まったみたいだ。」

ショウ「さっそく説明をしていただきたい。」

ルイズ「私からあなた方に説明をします。人革連の真の支配者である大宦官を倒す事です。人革連内では、彼らの支配によって大勢の人民が貧困、弾圧に遭い、虐げられている日々を送っているのです。」

キラ「人革連は天子と言う人が支配者ではないのですか？」

ルイズ「その元首である天子を利用して自分達の傀儡政権として維持する大宦官こそが真の支配者なのです。彼らの特権によって人民が苦しんでいるのは事実です。人民のために立ち上がったのが、彼らの支配に反旗を持つ一部の軍人達が立ち上がっているのです。」

エルエルフ「ここで奴らを倒して人革連との戦いを終わらせる絶好の機会だ。クーデターが各地で起きている今、俺達が介入して反乱軍と協力して大宦官を倒せる事もありだ。」

ルイズ「この戦いを終わらせて人革連との和平を実現していきたい。あなた達には是非やっていただきたいのです。」

ロックオン「人革連を殴りにいくか。」

テイエリア「人革連にいる大宦官を倒せば、人革連との戦いに終わ

りが来るわけか。」

アレルヤ「……。」

凱「どうした？」

アレルヤ「何でもないよ。」

エルエルフ「今から出撃にかかる。それまでに準備は済ませておけ。作戦は後で説明する。」

ヘリック共和国大統領のルーズから与えられた指令、それは人革連を牛耳る大宦官を倒す事。大宦官によって圧政で苦しむ一部の軍人達が立ち上がり、クーデターが各地で起き始めておら、それを機に大宦官を倒す事で人革連との戦いに終わりが迎える。すぐに出撃にかかり、準備を済ませたりする。この戦いから新たなメンバーが入り、リクと美月がアークエンジェルの一員として加わった。

中国

西安

星刻「これより人民解放のため、天子様を救うため、我々は大宦官を討ち取りに行く。」

大宦官の圧政で苦しむ人民、大宦官の傀儡された天子を解放するために立ち上がった星刻。彼は反乱軍のリーダーとして各地でクーデターを起こし、大宦官に反旗を翻す。

セルゲイ「星刻。」

星刻「わかっている。この戦いは人民のため、天子様のため、今の支配を終わらせるための戦いである事だ。」

セルゲイ「私はこの何十年も彼らの支配を見てきてどれだけの民が苦しめられたか。」

星刻「今日こそこの支配を終わらせるために私達は大宦官を倒す。」

次回 16話へ続く

## 第16話 中国へ

人革連内では、大宦官による圧政に立ち向かう一部の軍人達が集まって反乱軍を結成し、各地でクーデターが起き、それに乗じてヘリック共和国が介入し、人革連との戦いを終わらすべく、人革連を牛耳る大宦官を倒すために出撃した。

中国

江南

アークエンジェル

ブリッジ

エルエルフ「人革連内では、大宦官による圧政で国内は貧困に陥り、奴らに酷使されている。」

ライゾウ「なんてひどえ野郎だ。」

エルエルフ「奴らは人民の財産まで取り上げて跡形もなく全て搾り尽くしている。」

カガリ「民を何だと思っているんだ。国を治めて民を守るはずが、自分達の都合のためにか?!」

エルエルフ「そうだ。奴らは自分達のためだけにあると思ひ込み、元首の天子を傀儡している。」

キラ「天子?」

エルエルフ「人革連の長。天子は天海護と同じ年代だ。」

ハルト「護君と同じ年代?!」

護「僕と同じ?!」

エルエルフ「彼女は就任して以来、ずっと大宦官に実権を握られて傀儡とされてきた。一度も外に出た事がない。」

護「こんなの可哀想だよ。」

エルエルフ「さらに大宦官は、同盟国のガイロス帝国と密約して天子をオデュッセウスと政略結婚と国土全体の割譲と引き替えに帝国の侯爵の地位に着いて保身を図っている。」

刹那「……。」

凱「剎那?」

剎那「こいつらから吐き気を催す邪悪を感じる。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「自分達の都合のためにどれだけの人間を苦しめ、保身の確保のために国を売国か。」

ガイ「俺達で必ず人革連を大宦官の支配から解放しましょう。」

剎那「あああつ。」

リク「ジツとしてられないな。」

ペガ「僕もだよ。」

一同「?!」

リクの前から床から空間の様なのが現れて、空間から宇宙人の顔が現れた。

ヒカル「わあつ、何だ?!」

リク「ペガ、驚かすなよ。」

ペガ「ごめん。」

エルエルフ「そいつは?」

リク「彼はペガ。ペガツサ星人の子供で、俺の相棒だ。」

その宇宙人の名はペガツサ星人ペガ。迷子になった彼は、偶然リクと出会い、彼の相棒となり、一緒に行動する事になった。

ムサシ「宇宙人と常に一緒に同行か。」

ライハ「私もいるわよ。」

リク「ライハさん。」

ライハ「私も同行して何か役に立てると思ってね。」

藤宮「彼女は?」

ライハ「私はライハ。ある事でリクと一緒に行動してるの。」

リク「色々と訳があつてね。」

エルエルフ「まあいい。お前達には最初にやっってもらう事がある。」

大宦官が子供である天子から実権を奪い、人民を圧政しながら苦しめていき、人民の財産を全て取り上げて跡形もなく搾り取り、保身のために天子をガイロス帝国のオデュッセウスと政略結婚させてさらに国土全体の割譲と引き替えに帝国の侯爵の地位に着く事で、彼らの身勝手なやり方に怒りを表す刹那達は、大宦官を倒すために立ち向かいに行く。一方、101人評議会に召集されたプロイツェンとシャルルは、

???

男マギウス1「プロイツェン、シャルルよ、ウルトラマンゼロやウルトラマンオーブ以外にも他のウルトラマンまでも現れたぞ。どう説明してくれるんだ？」

プロイツェン「彼らはある者に呼ばれてここへやって来たのです。」  
老マギウス1「ある者とは何だ？」

シャルル「それは私達にもまだわかりません。」

男マギウス2「とぼけるな!!すぐに説明しろ!!我々は今ウルトラマンゼロによってルーンの採取の拠点を失われたんだぞ!!おかげで我々が今まで握ってきた政治、経済、金融全体に支障が出てきたんだぞ!!ウルトラマンをこれ以上来させるわけにはいかない!!それに奴らは今人革連へ向かっている!!人革連は大事な場所だ!!ここを失ったら我々に大きな打撃を受ける!!何とかしろ!!」

プロイツェン「マギウスの方々よ、どうか落ち着いてください。既に彼らを迎え撃つ為に我が軍の師団と同盟国のARUSの者達を送りました。」

女マギウス1「プロイツェン、シャルル、それとトリポリ基地が制御されたそうだな。」

プロイツェン「えええ、ご存知しております。」

女マギウス1「2機のうちの1機が既にヘリッククの手に落ちたそうだな。プロイツェン、その2機の開発は我々の技術も含まれている。奴らは既に分析しているようだ。」

プロイツェン「.....」

老マギウス1「言いたい事はないのか？」

エンブリヲ「もうやめた前。」

男マギウス1「エンブリヲ。」

エンブリヲ「もうこれ以上の事を責めても解決はしない。」

アレハンドロ「それに今後をどうしていくかです。」

老マギウス1「ううう、よかろう。何としてでも食い止めればならん。」

マギウス101人評議会の召集を終えたプロイツェン、シャルルらは、

上空

移動中

ホエールキング

ブリッジ

プロイツェン「寄生虫如きが。」

アレハンドロ「マギウス101人評議会は偉そうな口ばかりの集団だな。」

エンブリヲ「彼らはいつもこうなのでね。」

シャルル「お前と101人評議会と後ベリアルとレイブラッド星人がこの世界全体を牛耳っているようだな。」

エンブリヲ「レイブラッドは何やら6年前のクライシス・インパクトの影響で肉体が蘇ったようだ。」

アレハンドロ「あのレイブラッドがか。」

シャルル「ベリアル共々姿を現していないそうだな。」

エンブリヲ「レイブラッド星人。かつて全宇宙を何万年間に渡って支配し、その存在はウルトラマンやあのヤプールやヒツポルト星人ですら恐れられていた。」

アレハンドロ「レイブラッド星人も101人評議会に関わっていたとはゾツとしまう。」

エンブリヲ「レイブラッド星人はウルトラマンベリアルにレイブ

ラッドの因子とギガバトルナイザーを与え、光の国を二度に渡って脅威をもたらした。」

プロイツェン「ほお。」

アレハンドロ「？」

プロイツェン「実は、ある計画のためにバトルナイザーとジードライザーと同様の開発を行なっている。」

シャルル「すでにレイブラッドと接触していたのか。」

プロイツェン「そうさ。他に例の2大魔獣の復活も急いでいる。」

アレハンドロ「後ルドルフだ。暗殺するはずが、逃げられたと聞いた。」

プロイツェン「最初から失敗も手の内だ。彼は今共和国にしていると聞いた。戦いをまだまだ保たねばならないのだよ。」

一方、人革連の首都の北京の朱禁城にて、プロイツェンの命で送り出されたシュナイゼル一同、シュバルツ達と星人ハンターら。

中国

北京

趙皓「わざわざ来てくださって光栄です、シュナイゼル殿。」

シュナイゼル「プロイツェン閣下と父上の命ではるばると参上致しました。」

夏望「国内各地に凶悪な反乱分子が暴れておるのじゃ。」

アリー「そいつを片付ける訳か。」

シュバルツ「くっ。」

程忠「天子様も凶悪な反乱分子に悩まされているようです。」

天子「・・・。」

グラハム、ジノ「・・・。」

シュナイゼル「その反乱分子は私達と一緒に戦った星刻とスミルノフ中佐が反乱軍の首謀者だと聞いた。」

天子「星刻・・・。」

童倫「天子様、あんな逆賊をまだ想っていらつしやるのですか？そ



れはいけません。なんせ彼は我々に楯突いたからですよ。」

天子「……。」

ジノ「俺達に彼を討てと言うのか?!」

趙皓「そうじゃ。奴とスミルノフは今や人革連を裏切った者だからじゃ。」

ジノ「くっ。」

スザク「彼らを討伐ですか?」

ジノ「スザク。」

スザク「彼ら以外にも共和国の面子もやって来たようです。」

趙皓「奴らが共和国と手を結ぶ前になんとしても逆賊を討ち取るのじゃ。」

スザク「イエス・マイ・ロード。」

ジノ「スザク、お前。」

シュナイゼル「ウルトラマンの対策のために。星人ハンターも用意した。」

グランザー、デスレード、ラース「……。」

キリツシャー「どうした、そんな暗そうなツラして。」

グランザー「今回の戦いは乗る気はしない。」

ラース「これ以上の虐殺はもうしたくもない。」

デスレード「外道なハンティングするなど、俺達の掟に背く事だ。」

キリツシャー「そうか。お前達がそこまで嫌なら代わりの奴を用意したぜ。来な。」

反乱軍の討伐を行う事に反感的な態度をするグランザー、デスレード、ラースらにキリツシャーが代わりの者と呼んで連れて来た。その者は、凶悪な名を轟けた最悪最凶のハンターチームのノワールオラクルのババルウ星人のステイブ、ゼットン星人のロッド、ヒツポリト星人のダニエル、かつてキングとビクトリーの敵だったチブル星人エクスセラー、バンの宿敵であるレイヴンとジークと同じオーガノイドのシャドーが現れた。

シュバルツ、グラハム、ジノ、グランザー、デスレード、ラーズ「!!」  
ステイブ「よお、久しぶりだったな、グランザーに、デスレード  
に、ラーズよ。」

グランザー「お前はノワールオラクル!!」

ロツド「なんだか面白そうなハンティングになりそうだな。」

ダニエル「どんな奴だろうと俺達が始末してやるぜ。」

エクセラ「さて、エクセレントなゲームの始まりだ!!」

レイヴン「墓場を作らないとな。」

シャドー「グオオツ。」

シュバルツ「レイヴン……。」

レイヴン「反逆者とやらを1人足らず始末するよ。」

正道を信条にするグランザー、デスレード、ラーズらにとって、卑劣と残虐を両方を持つノワールオラクルのステイブらとエクセラに嫌気した。一方、江南の町を視察して歩き回る刹那とガイとリクとライハとペガとロツクオンとアレルヤと凱と護らとチームトライデントのハンター3人ら。

江南

町

ロツクオン「何てひでえ有様だ。」

ガイ「どうやら大宦官の圧政で貧しい生活を送っているようだな。」

グロウズ「あらゆる物を全て奪われ尽くしているな。」

江南の町を訪れて、町の人々は大宦官の圧政によって貧困生活を送られており、財産を1つ足らず全て奪われしまい、人々は圧政に苦しむ日々を過ごしていた。

アレルヤ「……。」

ロツクオン「おい、どうした、アレルヤ。怖そうな顔して。」

アレルヤ「僕はここに連れてこられた過去を思い出す。」

ロックオン「？」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「どういう事だ？」

アレルヤ「今はまだ話せない。」

刹那「……。」

町を視察して歩き回る刹那達。そこで1人の少年がフラフラ立ち歩きながら貧しそうに現れた。

少年1「うつ。」

ロックオン「？」

護「どうしたの？」

少年1「うつ、うとうつ。」

その少年は、貧しそうな表情をし、何も食べておらず、空腹していた。

刹那「お腹が空いているのか？これを食べる。」

空腹をした少年に対して刹那は、おにぎりを渡してあげた。

少年1「あつ、あああつ。」

刹那「遠慮はしないで食べておくんだ。」

刹那から貰ったおにぎりを口にして食べる少年は、この数十日間ぶりの食事にあまりに涙をこぼした。

子供1「うつ、うとうつ。」

ライハ「よっぽど何も食べていなかったんだね。」

凱「大宦官によって人革連の大勢の人々が苦しめられている。」

リバイ「奴らには国を統べる資格がない。」

デルトルト「グオツグオ。」

グロウズ「この手で必ず焼き尽くしてやると。」  
アレルヤ「そうだね。」

江南の町を視察し終えた刹那達は、早速アークエンジェルへと帰投しにかかるが、そこで敵の気配に気付いた。

刹那「?!」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「早速敵のお出ましか。」

大宦官の命で出撃する人革連の部隊が現れて、刹那達に迫ってきた。

ガイ「早速行くか。」

人革連の部隊に対し、ウルトラマンへの変身をし始める刹那、ガイ、リクらは変身アイテムを取り出した。

刹那「デュワ!!」

ウルトラゼロアイを顔に装着した刹那はウルトラマンゼロに変身した。

ガイ「タロウさん、メビウスさん、熱いやつ頼みます!!」

オーブリング「フュージョンアップ。ウルトラマンオーブバーンマイト。」

オーブリングを出して前にかざし、周囲が宇宙空間のように変化して衣装も黒いスーツに変化し、2枚のカードをリングにリードしながらウルトラマンオーブバーンマイトに変身した。

リク「ユーゴー!! アイゴー!! ヒアウィーゴー!!」

ジードライザー「フュージョンライズ!!」

リク「決めるぜ、覚悟!!」

リクは変身アイテムのジードライザーを出して、2つのカプセルをナツクルにセットして叫び、ナツクルに装着した2つのカプセルをジードライザーにスキャンした。

リク「ジード!!」

ジードライザー「ウルトラマン!!ウルトラマンベリアル!!ウルトラマンジードプリミティブ!!」

2つのカプセルをスキャンしたりクはウルトラマンジードプリミティブに変身した。ウルトラマンに変身した3人は早速人革連の部隊を相手に挑んだ。

ウルトラマンオーブバーンマイト（ガイ）「紅に燃えるぜ!!」

ウルトラマンオーブバーンマイトがジャンプしながら空中キックでティエレン地上部隊にお見舞いした。右腕に炎を纏わせながら地面に叩いて爆発して、ガンルウ部隊を蹴散らした。

人革連兵（大宦官派）1「このっ!!」

200mm×25口径長滑腔砲を連射してウルトラマンオーブバーンマイトに攻撃したが、全く無傷で効いていなかった。

人革連兵（大宦官派）2「喰らえ!!」

ガンルウが両脇に装備されてるキャノン砲でウルトラマンジードプリミティブに攻撃した。

ウルトラマンジードプリミティブ（リク）「何だ痛くもないな。」

ガンルウの攻撃にウルトラマンジードプリミティブは無傷で、そのパンチでガンルウ数機を振り払った。人革連の兵器は全て旧式ばかりで、時代遅れのものばかりで、ウルトラマンに太刀打ち出来る兵装はなく、全く歯が立たずにいた。

ウルトラマンゼロ「一気に決めてやるぜ!!」

ゼロスラッガーを投げて、空中から飛行する人革連が独自仕様に改造したレドラー航空部隊を次々と切り落とした。

人革連兵（大宦官派）3「いい気になるな!!」

レドラー人革連仕様がミサイルポッドでウルトラマンゼロに攻撃したが、ウルトラマンゼロには全く効いていなかった。

ウルトラマンゼロ「今とつとと楽にしてやるぜ!!」

ゼロスラッガーを手に持ちながら、飛行するレドラー人革連仕様の左翼に斬撃して墜落させた。敵部隊を全滅させたウルトラマン3人。

ウルトラマンジードプリミティブ（リク）「余裕で勝てましたよ。」  
ウルトラマンオーブバーンマイト（ガイ）「いや、敵はまだ来る。」

敵の増援の出撃に気付いたウルトラマンオーブバーンマイト。敵の増援はARUS軍とガイロス帝国軍の部隊と星人ハンターだ。

グラハム、シュバルツ「……。」

ジノ「暗い顔してるな。」

シュバルツ「そちらも同じようじゃないか。」

ジノ「あああつ。」

グラハム「相手はウルトラマンか。ウルトラマンをこの手でやる。」

部隊を引いて現れたシュバルツのセイバータイガーSSとジノのトリスタンとグラハムのフラッグカスタムがウルトラマン3人に攻撃にかかった。セイバータイガーSSがジャンプしながら、ウルトラマンオーブバーンマイトにビームガトリングガンと地対地ミサイルと3連衝撃砲を同時発射して攻撃した。

ウルトラマンオーブバーンマイト(ガイ)「ぐうっ!!ビーム兵器か。厄介なのを使ってきたか。」

相手がビーム兵器を使って攻撃してきた事でダメージを受けたウルトラマンオーブバーンマイト。

ジノ「デカぶつ如きが!!」

両腕に装備されているメギドハーケンを合体してハドロンスピアーを放出してウルトラマンジードプリミティブに喰らわせた。

ウルトラマンジードプリミティブ(リク)「うっ!!」

トリスタンのハドロンスピアーの攻撃を受けたウルトラマンジードプリミティブは、必殺技を発動するしてトリスタンに向ける。

ウルトラマンジードプリミティブ(リク)「レッキングバースト!!」

必殺技のレッキングバーストを発動して、赤黒い稲妻状の光子エネルギーを両手に集中しながら腕を十字に組んでトリスタンに光線を放った。

ジノ「そこか!!」

ウルトラマンジードプリミティブの放った必殺技をジノがトリスタンをフォートレスモードに変形してすぐに回避しながらウルトラマンジードプリミティブに突き進んで内蔵式機銃を撃ち、さらにKM Fモードには戻ってMVソードハーケンタイプ2本を連結しながらウルトラマンジードプリミティブに直接斬り込んだ。

ウルトラマンジードプリミティブ（リク）「うわあっ!!」

サイズの小さいナイトメアフレームのトリスタンに圧倒されるウルトラマンジードプリミティブ。

グラハム「ウルトラマン、覚悟!!」

グラハムのフラッグカスタムがウルトラマンゼロに向かってそのままライデントストライカーから単射式の200mm大口径弾用1門と連射式の60mm小口径弾用2門の計3門の銃口とミサイルを一斉発射して攻撃し、さらにMS形態に変形してプラズマサーベルで斬り込んだ。

ウルトラマンゼロ「うわあっ!!」

ウルトラマンゼロ（刹那）「あのフラッグ、ただのフラッグとは違う。」

ウルトラマンゼロ「しかもフラッグを操縦しているパイロットはただもんじゃねえ。」

グラハムの高い操縦技量に感じる刹那とウルトラマンゼロは、彼の操縦するフラッグカスタムのスピード戦で自分の周囲に攻撃を喰らい、攻められた。



グランザー「地球のエースパイロットが相手でも流石のウルトラマンも圧倒されているな。」

地球連合軍のエースパイロットに圧倒されるウルトラマンを光景を見るグランザー、デスレード、ラーズら。

ウルトラマンオーブバーンマイト(ガイ)「いくら人間相手でもこんなに強い相手でも流石に人間をやることは難しい。」

相手は人間、その高い操縦技量を持ちながら圧倒されつつ、人間相手に本気を出す事が難しいウルトラマン。

ロックオン「お前らの相手は俺達だ!!」

その時、ようやく機体に操縦して現れたロックオン達が現れて、ウルトラマンらと交戦しているシユバルツらに攻撃し、彼らの相手を引き受ける。

ウルトラマンオーブバーンマイト(ガイ)「ロックオン!!」

ロックオン「エース相手なら俺達に任せろ。」

アレルヤ「ここは僕達が引き受ける。」

凱「お前達は巨大化した星人ハンターと戦うんだ。」

ウルトラマンゼロ「任せたぞ。」

エースパイロットをロックオンらに任せて、ウルトラマン3人らは星人ハンターと交戦する。

グラハム「現れたな、ガンダム!!」

ロックオン「お前の相手はきっちりしてやる!!」

グラハムのフラッグカスタムの駆使するスピードにロックオンの

デユナメスがフロントアーマー内と両膝からGNミサイルを発射して動きをけん制し、GNビームピストルで射撃した。

グラハム「ガンダム、ここで落ちてもらおうか!!」

トライデントストライカーでデユナメスに応戦するグラハム。

アレルヤ「相手はナイトメアフレーム!!」

トリスタンと交戦するアレルヤのキュリオス。トリスタンの両腕から発射したメギドハーケンをかわして、GNビームサブマシンガンで応戦した。

アレルヤ「うっ!!」

戦闘中にアレルヤに頭痛が起きた。

ハレルヤ「(このまま惨劇が起きるみたいだぞ。)」

どこからかアレルヤの中から喋りかける謎の声。

アレルヤ「ハレルヤ。」

謎の声をハレルヤに声をかけるアレルヤ。

凱「あの機体はシュバルツか?!」

シュバルツのセイバータイガーSSを相手に戦うスターガオガイガーは、動きを駆使していく相手をよく見ながら、向かってくる方向にパンチを繰り出して攻撃した。

シユバルツ「ガオガイガー、その実力見せてもらおうぞ!!」

地面を4脚で駆けながら、空中にいるスターガオガイガーに飛びかかってキラーフアングで噛み付いた。

凱「うっ、このっ!!」

機体にしがみ付いて噛み付くセイバータイガーSSを思いっきり振り払ったスターガオガイガーは、プラズマホールドを放出した。

ウルトラマンゼロ「てやああああああー!!」

デスレードに直接ウルトラゼロキックでお見舞いし、デスレードもトリシューラで直接斬撃した。

グランザー「はあっ!!」

ウルトラマンジードプリミティブ（リク）「うわあつと!!」

グランザーのブリューナクによる冷凍攻撃をかわしていくウルトラマンジードプリミティブ。

ウルトラマンジードプリミティブ（リク）「相手が氷ならこれでいい。」

グランザーの冷凍能力に対抗するため、リクは2本のカプセルを出してナツクルに装着して、ジードライザーにスキャンした。

リク「ユーゴー!!アイゴー!!ヒアウイーゴー!!」

ジードライザー「フュージョンライズ!!」

リク「燃やすぜ、勇気!!ジード!!」

ジードライザー「ウルトラセブン!!ウルトラマンレオ!!ウルトラマ

ンゾリッドバーニング!!」

2つのカプセルをスキャンしたリクはウルトラマンジードゾリッドバーニングに変身して、グランザーに挑み、必殺技のストライクブーストで右手を集中して炎をまとった爆熱光線を正拳突きでグランザーにぶち込んだ。

グランザー「ぐわあああつ!!」

ウルトラマンジードゾリッドバーニングのストライクブーストを喰らったグランザーは、胴体に炎の拳で殴られた傷跡が出来て、自身の再生能力による回復で傷跡の対処にかなりの時間がかかった。

ウルトラマンオーブバーンマイト(ガイ)、ラーズ「はあああああー!!」

ウルトラマンオーブバーンマイトとラーズ、互いに互角の戦いをし、動きを駆使していく両者、パンチとキックを繰り返していくウルトラマンオーブバーンマイト、槍術を駆使していくラーズ。

リバイ「はあああああー!!」

グロウズ「オラオラオラオラー!!」

デルトルト「グオツグオ!!」

モルガ、レブラプター、サザーランド部隊を相手にリバイ、グロウズ、デルトルトら3人による連携プレーで次々と葬り、キングムルチが尻尾でモルガ、レブラプター、サザーランドをまとめて蹴散らした。

激戦をする最中、そこである出来事が起き始めようとする。

エクセラ「いよいよ、私達の番だ。」

ステイブ「どいつから狙おうか。」  
ロッド「狙うならあの町の間共からだ。」  
ダニエル「こいつは続々するぜ。」

ウルトラマン達が戦っているのを遠くから見て、江南の町の住民に狙いを付けたノワールオラクルの3人のハンターとエクセラーとキリツシャーとMS部隊は早速動き出し始めた。

ウルトラマンゼロ（刹那）「!!」

ウルトラマンゼロ「刹那、何か嫌な予感がするぞ。」

ウルトラマンゼロ（刹那）「俺もだ。町が危ない。」

リバイ「グロウズ、デルトルト、すぐに行くぞ!!」

グロウズ「俺もデルトルトも嫌な予感が漂うぜ。」

デルトルト「グオツグオ。」

早速、胸騒ぎを感じた刹那とウルトラマンゼロ、リバイ、グロウズ、デルトルトは町が狙われる事に気付いて、すぐに向かった。

ウルトラマンオーブバーンマイト（ガイ）「ゼロさん。」

ガイ達は、まだ気付かない。この後、とてつもない悲劇が待ち受けることにまだ気付いていなかった。急いで町へ向かう刹那とウルトラマンゼロとリバイ、グロウズ、デルトルトラ。

ウルトラマンゼロ「間に合ってくれ。」

江南の町へ急いで向かう刹那達。彼らが来るのを待ち伏せすべく現れたのが、ノワールオラクルの3人とペドレオンググロス5匹だ。

ステイブ「そこは通さねえぞ。」

リバイ「!!おっ、お前ら・・・!!」

リバイはステイープらノワールオラクルの顔を見て、何故か知っているような表情で急変した。

ウルトラマンゼロ「どうした?！」

グロウズ「何があったんだ?」

デルトルト「グオツグオ?」

リバイ「何故お前達がいる、ノワールオラクル!!」

ステイープ「久しぶりじゃないか、リバイ。」

ロツド「あの時以来だな。」

ダニエル「そいつらがお前の新しい仲間か?」

リバイ「・・・。」

グロウズ「知っているのか?」

リバイ「お前らには関係ない。」

グロウズ「何でだ?!俺達は・・・。」

リバイ「いいから黙っている!!」

グロウズ「リバイ・・・。」

ステイープ「あの時みたいにしてやるぜ。」

リバイ「お前に殺された2人の仇を討たせてもらうぞ。」

ロツド「やれるのか?」

ダニエル「お前に。」

ステイープ「お前もあの2人みたいにしてやるぜ。」

リバイ「黙れええええ!!」

彼らの挑発的な発言に乗せられて感情的になって向きになったり  
バイがムルチナッターを出して斬りかかった。

ステイープ「おらよ!!」

感情的になってとらわれたリバイをステイープがランスを突いた。

リバイ「うわあああああー!!」

ステイブにランスで突かれてしまい、続いてロツドのツイングンの攻撃を受け、さらにダニエルが金棒をフルスイングしてリバイに思いつき叩き込んだ。

グロウズ「リバイ!!」

リバイ「うおおおおおー!!」

怒りで我を忘れて一人で突っかかるリバイ。

リバイ「ハンジエとサガミケスの仇!!」

かつての仲間をステイブらによって殺害され、そのかつての仲間の仇が今、目の前にいて、必死になって討ちにかかった。

リバイ「うおおおおおー!!」

感情的になったリバイは、まるでいつのよう冷静さを失い、自暴自棄になり、ただひたすら怒りにとらわれた。

ウルトラマンゼロ「そこをどけ!!」

江南の町へ急いで辿り着こうとするウルトラマンゼロは、5匹のペドレオングを相手に戦い、5匹相手に光線する。ペドレオングコース2匹の口から衝撃波が放たれ、ウルトラマンゼロに攻撃した。

ウルトラマンゼロ（刹那）「お前達と遊んでいる暇はない!!」

江南の町を何としてでも向かわなければならないとペドレオング

ロース5匹相手に早くケリを着けるために2本のゼロスラッガーを合体して、大剣のゼロツインソードとなってペドレオングロース5匹まとめて斬り込んだ倒した直後にすぐに町へ向かったが、だが、すでにキリツシャーとエクセラアの率いるMS部隊が江南の町を攻撃し、町の人々への虐殺を行った。

男性1「助けてくれ!!」

ティエレン地上型による射撃から必死で走りながら逃げる江南の町の人々。

ウルトラマンゼロ「あああつ!!」

江南の町の人々がMS部隊に次々と殺されていくのを目の当たりにする刹那とウルトラマンゼロ。

男性2「わあああああー!!」

ティエレン地上型とガンルウの対人武器の使用によって次々と射殺されている江南の町の人々。

ウルトラマンゼロ(刹那)「やめろ、やめろおっ!!」

江南の町の人々への虐殺を行うMS部隊に必死でやめるように叫ぶ刹那。その中に自分があった子供が目の前で必死で逃げていく姿を見つけた。

少年1「うわあああああー、助けて!!」

MS部隊の攻撃で逃げ回りながら泣きながら叫ぶ少年。



ウルトラマンゼロ（刹那）「あああっ!!」

ウルトラマンゼロ「やめろ、これ以上の虐殺をするな!!」

急いで、その少年を助けに向かおうとする刹那とウルトラマンゼロ。だが、MS部隊の攻撃が少年をそのまま射撃し、少年は全身を撃たれて死亡した。

ウルトラマンゼロ、ウルトラマンゼロ（刹那）「!!」

一足遅く、少年は死亡してしまい、救う事が出来なかった。

エクセラ―「何てエクセレントだ。」

キリツシャー「これでひと段落済んだな。」

ウルトラマンゼロ（刹那）「うっ、うっ、うおおおおおー!!」

江南の町の人々を虐殺したMS部隊に対し、刹那の怒りが爆発し、刹那の怒りがウルトラマンゼロの意識を奪ってそのままパンチで思いっきり殴り込んだ。

ウルトラマンゼロ「刹那、やめろ!!」

一体化している刹那が怒りを爆発によって身体の意識を乗っ取られて人革連のMS部隊を次々と破壊させられるウルトラマンゼロ。

ウルトラマンゼロ（刹那）「お前らあああああああー!!」

怒りによってとらわれた刹那が一体化しているウルトラマンゼロでパンチでティエレン地上型の胴体を思いつきり貫きながら破壊し、さらにワイドゼロショットで、ティエレン地上型とガンルウに向けて放って破壊した。急いで江南の町へたどり着いた凱達。だが、江南の

町は破壊され、人々が殺戮されている無惨な光景だった。

凱「間に合えなかったか……?!」

ウルトラマンオーブバーンマイト（ガイ）「!!」

ガイが見たのはウルトラマンゼロの腕に血の様な跡が残っているのを見て、それを相手を手加減せずに行ってしまった事に気付いた。

ウルトラマンゼロ「……………」

ウルトラマンゼロ（刹那）「俺はウルトラマンにはなれない……!!」

次回 17話へ続く

## 第17話 少年兵ゼロ

江南の町で、町の人々が虐殺された事で刹那が怒りに任せてMS部隊を惨殺した事を知った一同。

中国

江

アークエンジェル

ブリッジ

ムサシ「!!」

今回の行動を取った刹那に対して、彼はウルトラマンとしてやってはいけない事を破り、彼の顔を数発殴った。

刹那「……………」

ムサシ「おい、何故殺した!!君がやった行為は自覚はあるのか!!」

我夢「待て、ムサシ。いきなり早まるな。」

ヒカル「そうですね、ここは落ち着いて……………」

ムサシ「彼は人を殺したんだぞ!!ウルトラマンが人を殺す事は断じて許される行為ではない!!例え敵兵の命であつてもだ!!」

刹那を殴って激しく叱責するムサシに我夢とヒカルが止めようとするが、ムサシは刹那が敵兵であつても殺した事にウルトラマンとして人を殺す事自体許される行為でないと厳しく非難した。

ムサシ「君達はウルトラマンとして人を殺す事が許されないかわかっているはずだ!!」

我夢、ヒカル「……………」

ペガ「刹那が今回やってしまった事はまるでウルトラマンとは思えないよ。」

リク「ペガ。」

ライハ「私も今回、怒りに任せた彼には同調出来ないわ。」  
リク「ライハさんまで。」

ムサシ「このような行為をした者に、ウルトラマンとして相応しくない。」

刹那「……。」

ムサシ「ゼロ、彼をウルトラマンとして選んだ責任はある。」

ウルトラマンマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「……。」

ムサシ「どうした、何も言わないのか？」

藤宮「彼に何か理由があるみたいだ。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「あああつ。あいつには深い事情がある。」

ショウ「深い事情？」

藤宮「彼について詳しく聞かせてくれないか？」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「あああつ。クライシス・インパクトが起きた後の6年前だ。」

刹那の事情について説明をするウルトラマンゼロ。彼がどんな事情を抱えて来た、彼と遭遇した事をムサシ達に話す。今から6年前、ウルトラマンベリアルが起こしたクライシス・インパクトが起きた直後にその世界がコズミック世界と1つになり、ウルトラマンベリアルとの戦いで損傷したウルティメイトブレスレットでコズミックイラの世界へやって来たウルトラマンゼロ。

## 回想

6年前

宇宙

ウルトラマンゼロ「キングの爺さんに頼まれた着いたのがこのコズミックイラと言う世界か。ベリアルとレイブラッドとエンブリヲと言うやつとマギウス1001人評議会がこの世界全体を裏で操り、種族の対立を生み出していると。」

ウルトラマンキングの命によってコズミックイラへ到着したウルトラマンゼロ。このコズミックイラの世界はウルトラマンベリアルとレイブラッド星人とエンブリヲと101人評議会に支配されていて、様々な種族の対立を生み出しながら戦争を引き起こしたりしている。地球へ突入したウルトラマンゼロは着いた場所が、中東の荒れ果てた国、クルジス共和国だった。

地球

クルジス

ウルトラマンゼロ「何てひでえ光景だ。」

クルジスの荒れ果てた町の光景を見るウルトラマンゼロ。だが、ここである銃声がいくつか鳴った。

ウルトラマンゼロ「?!」

すぐにこの場を見たウルトラマンゼロは、それは戦場で戦う子供達の姿だった。MSのアンフを相手に必死で銃で撃ち、だが、アンフには全く効いておらず、機銃で撃たれて次々と死んでいった。その中でただ1人になりながら必死になって戦う1人の少年がいた。

幼い刹那「はあはあはあ。」

その少年は名は、刹那。彼はアンフの攻撃から必死で逃げ抜き、銃で撃ちながら交戦した。

幼い刹那「この世界に神なんていない!!」

それでも必死で戦い続け、銃で弾幕を張りながらアンフに攻撃した。

ウルトラマンゼロ「まずい、あの子供が殺される!!」

生身でMS相手に太刀打ち出来ず、その少年が殺されてしまう事ですぐに向かったウルトラマンゼロは、頭部のゼロスラッガーを投げてアンプ部隊の手足を次々と切断して、攻撃を阻止した。

幼い刹那「ああつ。」

窮地に陥った所、上空から現れたウルトラマンゼロに命を救われた幼い刹那。

ウルトラマンゼロ「もう大丈夫だ。」

無事に救ったが、ウルトラマンゼロのカラータイマーが赤く光り出し、時間制限が間近に迫った。

ウルトラマンゼロ「うっ、こんな時にかよ・・・!!」

カラータイマーが赤く反応しながら時間制限が迫るウルトラマンゼロ。

幼い刹那「うっ、うううっ。」

戦いで体力を激しく消耗した刹那が力尽きて倒れようとした。

ウルトラマンゼロ「まずい、この子を救わないと!!」

力尽きて倒れようとする刹那をウルトラマンゼロが彼を救うためにある手段に出て使った。それは人間とウルトラマンによる一体化で、力尽きようとした刹那を救った。

幼い刹那「?!」

力尽きて倒れようとした自分が、何故か身体の正常化していた。

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「気が付いたか？」

突如自分の手元に現れたサングラスらしきアイテム、ウルトラゼロアイが幼い刹那に声をかけた。

幼い刹那「うわあつ、何だ?!」

突如声をかけられて思わず驚いた刹那は、銃を出して自分の手元に現れたウルトラゼロアイに撃ち始めた。

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「うわあつ!!」

いきなり銃で撃たれてきたウルトラマンゼロ。

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「おい、何するんだ!! いきなり危ないだろ!!」

幼い刹那「お前、誰だ!!」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「俺は君の命を救った恩人だ。」

幼い刹那「嘘を言うな!! お前、俺に何をした!!」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「落ち着け。君は力尽きようとしていたのを俺が一体化して救ったんだ。」

幼い刹那「一体化?! 何だそれは!!」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「知らないのか? 俺は君と1つになったって事だよ。」

幼い刹那「俺を救ったのか?!」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「ああつ、君がロボットのよ

うなのに襲われたの救ったあの巨人が俺の事だ。」

あの時現れた巨人がアンフ部隊を倒して自分を救ったのだと気付いた刹那。

幼い刹那「あの時現れた巨人か?!」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「そうだ。」

幼い刹那「名前は？」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「俺の名はゼロ。ウルトラマンゼロだ。」

幼い刹那「ウルトラマンゼロ？」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「別の世界の宇宙、M78星雲の光の国からやって来た宇宙人さ。」

幼い刹那「別の世界、宇宙、宇宙人……?!」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「もしかして知らないのか？驚かせて悪かった。」

幼い刹那「それは何なのか教えろ!!」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「まあ落ち着けな。それはな……。」

自分が別の世界の宇宙のM78星雲の光の国からやって来た宇宙人である事を告げてさらに戸惑いました幼い刹那に詳しく説明しようとするが、そこで他のアンフ部隊が現れて迫って来た。

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「あれは、さっきの仲間か?!」

幼い刹那「こんな時にか?!」

増援として現れるアンフ部隊が近づいて来て、幼い刹那に迫って来た。

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「おい、俺を今すぐにお前の



顔にかざせ!!」

幼い刹那「どうやってだ?!」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「お前の手前にある俺を手  
持て。」

自分の手元にあるウルトラゼロアイを手に持った刹那は、すぐに顔  
にがさそうとするが、遠くからのアンプの機銃が射撃され、すぐに  
走ってかわす幼い刹那。

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「やべえぞ、このまま撃たれ  
て死んでしまうぞ!!」

幼い刹那「わかつている!!」

とにかくひたすら走り続けて逃げる幼い刹那。一刻もアンプ部隊  
が徐々に近づいて、刹那に迫ろうとして来た。

幼い刹那「あああつ、あああつ!!」

自分と同じ少年兵が死んだのを目の当たりにした幼い刹那は、自分  
も同じように死んでしまう恐怖を抱いた。

幼い刹那「死にたくない・・・!!」

死への恐怖を抱きながら必死で走り続ける刹那。アンプ部隊が機  
銃で射撃して地面に当たって爆発によって吹き飛ばされた幼い刹那。

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「おい、しっかりしろ!!」

爆発によって吹き飛ばされて地面に倒れた刹那はすぐに立ち上が  
たが、アンプ部隊が迫ってきた。

幼い刹那「うわあつ、わあああつ。」

とうとうアンフ部隊に迫られて窮地に陥ってしまった幼い刹那。このままで今度こそ確実に死んでしまうと感じた幼い刹那。アンフの機銃が刹那に撃とうとする。

幼い刹那「死にたくない、死にたくない、死にたくない!!」

死への恐怖と絶望に迫り来る中、幼い刹那は、死にたくないと言う必死の想いで、顔にウルトラゼロアイをかざした。

幼い刹那「!!」

ウルトラゼロアイを自分の顔にかざした刹那は、変身し、自身と一体化したウルトラマンゼロへとなった。

ウルトラマンゼロ（幼い刹那）「くっ、これは……?!」

ウルトラマンゼロ「これが俺の姿だ。」

ウルトラマンゼロ（刹那）「これが?!」

ウルトラマンへと変身した幼い刹那は、変身した姿に驚き、自分と一体化したウルトラマンゼロの姿に驚き、これが自分と一体化した者の姿だと驚きを隠せなかった。目の前に現れたアンフ部隊がウルトラマンゼロに200mm×25口径長滑腔砲で射撃した。

ウルトラマンゼロ「くっ!!」

アンフ部隊の200mm×25口径長滑腔砲の攻撃を受けたウルトラマンゼロ。

ウルトラマンゼロ（幼い刹那）「あいつら!!」

アンプ部隊の攻撃に対し、ウルトラマンゼロと一体化した幼い刹那は、変身した今、アンプ部隊を倒しに突走りかかって行って、ウルトラマンゼロに変身した幼い刹那は自分の意志で動かしながらアンプにパンチでぶち込んだ。

ウルトラマンゼロ（幼い刹那）「うわああああああー!!」

ウルトラマンゼロ「おい、何をする!!」

アンプを次々とパンチで打ち込む破壊し、まるで鬼神のように相手を徹底的に根絶やしにしていく幼い刹那。彼を止めようとするウルトラマンゼロ。だが、身体の意識が一体化した幼い刹那に主導権を奪われ、幼い彼の激情でアンプ部隊を壊滅させた。

ウルトラマンゼロ（幼い刹那）「はあ、はあ、はあ……」

ウルトラマンゼロ「お前、まさか……」

激情した刹那にウルトラマンゼロが気付いたのは、彼が戦う事だけしか知らない者であった事に気付いた。幼い刹那をちゃんとした正常さをするため、ウルトラマンゼロが彼の保護者として6年育て続けていく。

現在

江南

アークエンジェル

ブリッジ

藤宮「彼にそんな事が。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「ああ、そうだ。刹那は戦いだけ知らない少年兵として歩んできた。」

ムサシ「どう言う事だ？」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「彼はあるテロリストによつ

て少年兵に仕上げられてテロ活動させられてきた。」

シヨウ「何?!」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「一番辛い思いをしたのは刹那の方だ。今までずっとテロ活動させられてどれだけの人を殺らされて来たんだ。」

ムサシ「ゼロは彼と6年間ずっと一緒にいたのか。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「ああ。」

ムサシ「君は彼を人間社会を学ばせるためずっと育てて来たのか。ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「そうだ。刹那をちゃんとした人として生きていくために俺が1人でずっと育てて来たんだ。あんな苦しい事を味合わせないために。」

ムサシ「だが、彼は自分の感情に流されて敵兵をやった。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイ)「それは……。」

ムサシ「彼を独房に入れさせていく。今の彼をまたあのような事起こさないために独房に入れておく。」

刹那の事情を教えたウルトラマンゼロ。だが、ムサシはそんな彼を再び敵兵を殺す事があるといけないから彼を連れて独房に入らせた。

個室

リバイ「……。」

バレル「入るぞ。」

ノワールオラクルとの戦いで心を病んでるリバイ。彼の個室に入ってきたバレル。

リバイ「何の用だ?」

バレル「おまえ、何やらあのハンターチームとは何か関係があるみたいだ。」

リバイ「お前には関係ない。」

バレル「ノワールオラクル。確か極悪、卑劣、残虐非道のハンター

チームと聞いた。」

リバイ「あああつ。お前が知ってどうする?」

バレル「お前とノワールオラクルは一体どう言う関係だ?」

リバイ「……」

バレル「言いたくないのか?」

リバイ「ノワールオラクルは俺のかつての仲間2人を殺した仇だ。」

バレル「仇だと?」

リバイ「俺はグロウズとデルトルトと出会う前にナツクル星人ハンジェ、シャプレー星人サガミケスと共にハンターチームを組んでいた。俺は2人でいつも仲良く過ごす日々をしていた。ある日突然、ハンティング中に俺とハンジェとサガミケスの前に奴らが現れた、ノワールオラクル。リーダーのステイブはキングドラゴリーを呼び出してハンジェとサガミケスを捕らえて人質にし、俺達の集めたプラズマソウルを差し出すように求めた。俺は奴の要求に応じて集めたプラズマソウルを差し出した。だが、それは罠だった。奴らの狙いは2人の命を狙う事で、エンペラードラゴリーに2人は握り締められたまま俺の目の前でステイブに殺害された。」

バレル「暗い事があったのか。」

リバイ「俺は2人を殺したノワールオラクルをこの手で必ず取る事を誓った。そしてハンジェの怪獣、双子のブラックキングのソニー&ビーンを引き取り、2人の分まで生き続けて来た。」

バレル「そうか。俺もお前と同じだ。」

リバイ「同じ?」

バレル「俺の故郷バルタン星は爆発によって滅び、俺以外の者は皆死んだ。」

リバイ「お前にこんな過去があったのか。」

バレル「俺には仲間がいる。今の仲間がいるから俺は生きて来られた。お前だってハンターとして今の仲間がいるから生きて来れただろ?」

リバイ「仲間……」

バレル「今の仲間を大事にしろ。また悲劇を繰り返したくなれば。」

リバイとバレル、2人の星人ハンター。リバイはかつての仲間ハンジエとサガミケスが宿敵ノワールオラクルに殺害され、バレルは故郷のバルタン星の爆発で自分だけが生き残り、それぞれ仲間を失った者同士の悲しみを味わい、今の2人には新しい仲間が出来て、今の自分を生き続けて来て、また新しい自分であった。

次回 18話へ続く

## 設定4

ウルトラマンゼロエクシア

身長：49m?

体重：4万7000トン

武器

ゼロエクシアソード×1

ゼロロングブレイド×1

ゼロショットブレイド×1

ゼロブライトサーベル×2

ゼロブライトダガー×2

ゼロエクシアシールド×1

説明

ウルトラマンゼロの新たな姿。6年前のクライシス・インパクトでウルトラマンベリアルとの戦いでウルティメイトブレスレットが使用不能となり、刹那が過去との乗り越えて彼のその心によって生み出されてウルトラマンゼロが変化し、外見は機械的な鎧を纏った姿（ガンドムエクシアに近い姿）で、武器は剣タイプを7本所持し、右腕に大剣のゼロエクシアソード、左腕に盾のゼロエクシアシールド、両腰にゼロエクシアロングブレイド、ゼロエクシアショットブレイド、両肩に光状剣のゼロブライトサーベル2本、両脚に光状短剣のゼロブライトダガー2本装備されており、これらの武器は斬撃戦に特化した姿で、あらゆる戦いを駆使していく。通常形態の技など使用する事も可能。本作はウルトラマンゼロビヨンドの代わりにおけるフォームである。

必殺技

ゼロエクシアスマッシュ

ウルトラマンゼロエクシアの必殺技。ゼロエクシアソードを発光して光状を纏いながら敵に大きく斬撃する。

ゼロエクシアツインクロススラッシュ

ウルトラマンゼロエクシアの必殺技。ゼロロングブレイドとゼロショートブレイドを両手に持ちながら敵にX斬りをする。

ゼロエクシアスピンザンバー

ウルトラマンゼロエクシアの必殺技。ゼロロングブレイドとゼロショートブレイドを両手に持ちながら双方の剣にエネルギー状を纏って周囲にいる複数の敵に回転斬りする。

ゼロエクシア100烈パンチ

ウルトラマンゼロエクシアの必殺技。両手に青色の光状を纏って光速で繰り出す連続パンチ。使用すると同時に「オラオラオラオラー!!」と叫ぶ。

ゼロエクシアセブンスソード

ウルトラマンゼロエクシアの必殺技。7つの剣を発光して光状を纏いながら敵一体にゼロブライトダガー2本で斬撃して刺突し、次にゼロブライトサーベル2本で斬撃して刺突し、さらに続いてゼロロングブレイドとゼロショートブレイドによるX斬りをして刺突し、最後にゼロエクシアソードによる斬撃の一撃を与える。

シュバルツ専用ティエレインタオツ

全高：18.7

重量：121.3

武装

ビームガトリングガン×1

ビームサーベル×1

カーボンブレイド×1

30mm機銃

3連装リニアキャノン×1

両肩部シールドースラスタアーマー×2

機体説明

ガイロス帝国のシュバルツの新しい愛機。人革連の次期主力MSで、完成した1機をガイロス帝国に提供し、その機体を受理したシュバルツが自身に合わせた機体の改造を行い、右腕にビームガトリング



ガン、左腕に3連装リニアキャノンをそれぞれ装着し、近接用にビームサーベル、カーボンブレイドを装備し、両肩はシールドからシヨルダースラスタアーマーに変更され、機動力を強化し、推進系は大気圏内の単独飛行も可能。カラーリングは黒と赤。

レドラー人革連仕様

全長：17.0

全高：6.0

武装

ストライククロウ×4

可変レーザーブレード

頭部内装バルカン砲

3連ミサイルランチャー×2

機体説明

人革連が空中戦用に配備されたレドラー。飛行用の機体がない事でガイロス帝国から購入して自軍仕様に改良し、頭部にバルカン砲が内装され、左右の下翼部3連ミサイルランチャーが装備された。人革連本国に大量配備されている。カラーリングはダークグリーン。

アイアンコング（反乱軍仕様）

全長：11.5

全高：17.7

全幅：13.1

重量：187.0

武装

TVM地対地2連装戦術ミサイル

10連発自己誘導ロケット弾ランチャー

対ゾイド6連装ミサイルランチャー

アイアンハンマーナックル×2

複合センサーユニット

機体説明

星刻、セルゲイら率いる反乱軍が使用するアイアンコング。武装はガイロス帝国のものと同じで、カラーリングがダークグリーンで塗装され、反乱軍が密かにクーデター実行用に用意された機体で、数は少ないが、貴重な機体でもある。

リアルド（反乱軍仕様）

全高：17.7

頭頂高：15.3

重量：60.0

武装

リニアライフル×1

ソニックブレイド×1

デیفエンスロッド×1

特殊機能

変形

機体説明

星刻、セルゲイらの率いる反乱軍が使用するリアルド。武装はAR USのものと同じで、カラーリングがダークグリーンで塗装され、反乱軍が密かにクーデター実行用に用意された機体で、反乱軍における空中戦に必要な貴重な機体でもある。

チブルギヤラクトロン

身長：61m?

重量：6万1千t

武装

ギヤラクトロンシフト

ギヤラクトロンブレード

ギヤラクトロンスパーク

特殊機能

TP装甲

アルミユール・リュミエール

## 機体説明

チブル星人エクセララーが改造したギャラクトロン。何処からか手に入れたギャラクトロンをエクセララーが独自で改造し、出力を大幅に上げ、無人機から有人機にし、エクセララー自ら操縦を行い、武装は変わっていないが、全身に地球製のTP装甲を採用し、物理攻撃のダメージを半減し、さらにガイロス帝国が開発したアルミューレ・リユミエールを採用し、ウルトラマンの光線技を無効にし、ウルトラマンを圧倒する力を見せ、人革連の中国で実戦投入した。

KFD

全長：不明

全高：不明

重量：不明

武装

レーザーファンク×2

ストライクレーザーバイトシザース×2

レーザーカッター×2

AZ35mmバルカン砲×4

収納式AZ105mmリニアキャノン×2

荷電粒子砲

AZ2連装250mmロングレンジキャノン×1

ショットカノン砲×1

AZ120mmハイパーレーザーガン×2

AZ120mmハイパービームガン×2

AZ930mm2連装ショットガン

ストライククロー

特殊機能

Eシールドジェネレーター

機体説明

かつて遙か太古に作れた古代ゾイド、デスステインガー復活計画のために量産化した機体。KFDは、デスステインガーの復活のために

作られた実験量産型で、操縦は無人機設定で、大きさはバトルストーリーのデステインガーの数十倍の大きさ、またウルトラマンの怪獣並の大きさで、性能、出力はオリジナルを大幅に下がっているが、その強さは健在。人革連の中国で実戦投入された。

## 第18話 朱禁城の花嫁

人革連を牛耳り支配すり大宦官を倒す策を考えるアークエンジェル一同。

移動中

アークエンジェル

ブリッジ

エルエルフ「人革連を全体を支配する大宦官。奴らをどう倒すかだ。」

ムウ「どう倒すんだ？」

エルエルフ「俺がすぐに立てた作戦を今から言う。まずこの巨大な中国大陸各地で大宦官を悪行を人革連全土全体に知らしめる事だ。そのために誰かを中国大陸各地にあるTV局を向かって占拠し、TVで知らしめて民衆が暴動を起こし、全土全体に暴動が起きれば流石の大宦官も手も足も出せまい。」

美月「あなたらしい作戦ね。」

エルエルフ「今から中国各地にあるTV局へ向かわせる者を選抜する。礼堂ヒカルと星雲団のハンター、大空大地とトライスターのハンター、高山とライハとペガと犬塚キューマ、ボルフォッグと愛崎モアとシャドー星人ゼナと山田ライゾウ、それぞれ4組が向かう事となった。以上だ。」

エルエルフは、大宦官の悪行を人革連全土全体に知らしめるために、各地にあるTV局を占拠して流し、大宦官の悪行を知った民衆が暴動を起こす事で、その組を4組に分けて選抜し、ヒカルとハルキとイカリとナクリ、大地とサクラとドラルとユジン、我夢とライハとペガ、ボルフォッグとモアとゼナが選ばれて行く事となった。

ヒカル「俺はあの3人と一緒か。」

大地「こっちは星人ハンターの3人と一緒でいくのか。」

ハルキ「ギンガと一緒にやるとは思わなかったぜ。」

イカリ「我輩達も驚くイカ。」

ナクリ「ギンガと一緒にやるなんて驚いちゃう。」

サクラ「別行動でやるのも意外かな？」

ドラル「意外じゃないか。」

ユジン「ソウダナ。」

ペガ「リクと一緒によかったのに。」

リク「仕方ないよ。ペガがライハさんと一緒に選ばれたんだから、それに我夢さんだっているから。」

ライハ「私もすっかり頑張るわ。」

我夢「2人の事は俺に任せろ。」

リク「お願いします。」

モア「私だって一緒によかったのに。」

リク「モア姉ちゃん。」

モア「一緒に行動するのが楽しみにしてたのに。」

ゼナ「(愛崎モア。)」

モア「せつ、先輩!!」

ゼナ「(俺達は遊びにここへ来たんじゃない。人革連の大宦官を倒しに来たんだ。)」

モア「わかってますよ。」

ゼナ「(お前は任務の認識がまだまだ甘い。)」

モア「もう嫌んなっちゃうわ。」

リク「仕方ないよ。ペガやライハも別々で行動する事になったんだから。」

ライハ「私もリクとは別で行動する以上しっかりやらないと。」

ペガ「離れ離れになって別のところで頑張るよ。」

リク「ああ。」

モア「仕方ないわね。でも私と先輩の方はウルトラマンと一緒にじゃないのが……。」

エルエルフ「愛崎モア、ここでウルトラマンの正体を言うな。ウルトラマンの正体は一部の者しか知る事しか許されない。言うとは射殺

する。」

モア「はっ、はい……。」

エルエルフ「すぐに行け。」

エルエルフが与えられた任務に早速4組に分かれて向かい始めるヒカルとハルキとイカリとナクリ、大地とサクラとドルルとユジン、我夢とライハとペガ、ボルフオツグとモアとゼナら。

スメラギ「朱禁城では、もう戦いが始まっているみたいだわ。」

エルエルフ「すぐに向かう。」

朱禁城ではすでに戦闘が始まり、アークエンジェルは朱禁城へ急行する。天子を巡る争奪戦が行われ、ここ北京の朱禁城周辺で黒の騎士団、ザフト軍、宇宙人同盟とARUS、ガイロス帝国、人革連と天子と民を救うべく戦う反乱軍の戦闘が行われた。

北京

朱禁城周辺

ゼロ（ルルーシュ）「天子を奪取すれば人革連は我が物だ!!」

天子を奪取して人革連を支配下に納めるを目指すゼロ（ルルーシュ）は、全軍を指揮してARUS、ガイロス帝国、人革連と反乱軍を相手に交戦し、宇宙人同盟のプラズマルチタイランド、レイキュバス、ガンダーを投入して一気に追い込んでいく。ARUS、ガイロス帝国、人革連もそれに対抗すべくギャラクトロンとデスステインガーを投入して挑んだ。

エクセラ「さて、ミーのアレンジしたギャラクトロンを今エクセレントにお見せしましょう!!」

エクセラが自ら自分用に改造したギャラクトロン、通称チブル

ギヤラクトロンの操縦し、黒の騎士団、ザフト軍、宇宙人同盟に挑んだ。

ボーグ星人「やれ、プラズマルチタイランド、ガンダー、レイキュバス!!」

ガンダー「ハウホオ!!」

ガンダーが空中を飛びながら口から冷凍ガスをデスステインガーに吐いて浴びせたが、無傷で全く効いてなかった。

ゼロ（ルルーシュ）、ボーグ星人「?!」

ガンダーの吐いた冷凍ガスを受けても全く効いていないデスステインガーの姿に驚愕したゼロ（ルルーシュ）ら。デスステインガーは尻尾から荷電粒子砲を発射して空中にいるガンダーを撃ち抜き、地上にいるレイキュバスにストライクレーザーバイトシザースで挟みながら一瞬で怪獣を軽々と握り潰した。

シュナイゼル「このデスステインガーは、オーガノイドシステムを超えた真オーガノイドを搭載し、今までにない計り知れない力を持ち、強力な武装を採用し、格闘、射撃両方を得意とする。」

カノン「シュナイゼル様、このデスステインガーは我が帝国とARRUSと人革連が共同開発した超巨大ゾイドです。怪獣と同じサイズでありながらとてつもない戦闘力を秘めていると。」

シュナイゼル「その通りだ。このゾイドは、かつて遥か大昔にデスザウラーとギルベイダーを封じるために生み出されたと。」

カノン「デスザウラー、ギルベイダー、あの2大魔獣の事ですか。」  
シュナイゼル「そうだ。デスステインガーはこの2大魔獣と互角に渡り合う力を持っている。どちらが生き残るまで世界は滅びゆく。」

デスステインガーの性能を語るシュナイゼルは、ガイロス帝国、A



RUS、人革連が共同開発した超巨大ゾイド。サイズは通常の数十倍の大きさ、怪獣と同じ大きさで、ジエノザウラー、レブラプターと同じオーガノイドシステム、それより遥かに超えた真オーガノイドシステムを搭載し、全てにおいて計り知れない戦闘力を持つ。

ゼロ（ルルーシュ）「何だ、あのゾイドは?!」

扇「ゼロ、あのゾイドは何なんだ？」

カレン「全く観たこともないゾイドだわ。」

CC「（プロイツェン、シャルル、あの様なものまで復活させたか?!）」

ゼロ（ルルーシュ）「迂闊にあのゾイドには近付くな。我々もただでは済まされない。」

デスステインガールの圧倒的な性能を目の当たりにしたゼロ（ルルーシュ）は、カレンら黒の騎士団の団員達やザフト軍の兵達や宇宙人同盟の星人らに警戒するよう伝え、行動を取らせた。

セルゲイ「向こうはデスステインガーを投入している。今の我々では勝ち目はないぞ。」

大宦官側には、デスステインガーがいる事以上、天子を助け出す事が不可能で、とてつも勝ち目が無い星刻ら反乱軍。その時、朱禁城の攻防でアークエンジェルが現れて、窮地に陥る反乱軍に加勢し、セルゲイにエルエルフからの通信が流れた。

セルゲイ「アークエンジェル?!」

エルエルフ「お前達を助けに来た。」

香凛「助けたと?!」

エルエルフ「お前達の戦力では太刀打ちは0だ。あの新型ゾイドと怪獣兵器にお前達の総力を持ってでも勝ち目はない。」

セルゲイ「……。」

香凜「スミルノフ中佐。」

セルゲイ「わかった。お前達の力を借りよう。」

洪古「中佐……」

ソーマ「力を借りるのですか?！」

セルゲイ「今はそれしかない。あのデステインガーやギヤラクトロンがいる以上我々の力では太刀打ちは不可能だ。こうなった以上共和国とGGGと共闘するしかあるまい。」

エルエルフ「決まりだな。」

突如現れたアークエンジェルにより共闘を持ちかけられ、反乱軍の戦力では、デステインガー、ギヤラクトロンに太刀打ち出来ず、セルゲイはヘリック共和国とGGGとの共闘する事を選び、共にARUS、ガイロス帝国、人革連と黒の騎士団、ザフト軍、宇宙人同盟に挑んだ。

凱「あの機体は?」

凱は青い中国風ナイトメアフレームの神虎を見て、その機体の声から凱に喋りかけた。

星刻「久しぶりだったな、獅子王凱。」

凱「星刻。」

ナイトメアフレームの神虎に操縦しているのは星刻だ。

凱「お前がその機体に操縦してるのか?」

星刻「そうだ。かつてラクシャータが開発したナイトメアフレーム、神虎だ。このナイトメアフレームは操縦が困難が故に高い性能を中心に作り出された機体だ。お前達の特機と互角に渡り合える事も可能だ。」

凱「とにかく今は一緒に戦おう。」

星刻「ああ。」

反乱軍と一緒に共闘する事になったヘリック共和国とGGGは、朱禁城にいる天子を救うべく共に立ち上がり、大宦官とガイロス帝国とARRUS、黒の騎士団とザフト軍と宇宙人同盟を相手に挑んだ。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「一気に決めるぜ!!」

ウルトラマンオーブ オーブオリジンが先手を取って前に出ながらリアルドホバータンク部隊にオーブカリバーで背部のキャノン砲を切り込んでんだ。

ガイロス帝国兵1「ウルトラマンめ、落ちろ!!」

ガイロス帝国軍のレブラプター部隊がウルトラマンオーブ オーブオリジンに向かって襲いかかってきた。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「オリジウムソーサー!!」

左手から必殺技のオリジウムソーサーを出現して、レブラプター部隊の両脚に投げて切断した。

美月「私も行くわ。」

美月の操縦するソルシェウイサリスが飛行しながら空中にいるフラッグ、イナクト、レドラーを相手に挑み、1機で挑みかかった。

コーラサワー「何だあの機体は？ガンダムかそれともヴァルヴレイヴか？どっちにしる俺の相手に不足はねえな!!」

コーラサワールのイナクトが部隊を引き連れながらソルシェウイサリスに向かつて一斉に襲いかかっている。

美月「そこね。」

接近してくるコーラサワールの部隊に対し、美月のソルシェウイサリスはソーサリロッドから光線を放って、敵機の頭部に撃って破壊し、次々と墜落させた。

コーラサワー「野郎!!」

ソルシェウイサリスの攻撃によって唯一生き残ったコーラサワールのイナクトだけ残って、ソルシェウイサリスに向かつてソニックブレイドで刺しかかった。

美月「!!」

ソニックブレイドで突き刺しかかってきたコーラサワールのイナクトにソルナイフを2本出してイナクトの手脚を切断して墜落させた。

コーラサワー「どわあー、なぜこうなるんだー!!」

自身が返り討ちにあって倒されてしまったコーラサワー。

美月「こんなものなの!!」

相手の実力不足、無判断さに厳しく言う美月。

ウルトラマンビクトリー（ショウ）「キングジョーランチャー!!」

ウルトラマンビクトリーはビクトリーランサーでキングジョーカ

スタムのスパークドールにリードして、右腕にキングジョーカスタムのペダニウムランチャーを纏って、グランザーに射撃した。

グランザー「フリーザーランサー!!」

ウルトラマンビクトリーのペダニウムランチャーの射撃を受けつつそのままブリューナクで突いたグランザー。

ウルトラマンアグルV2「デユワー!!」

デスレードにアグルセイバーで斬撃していき、デスレードはトリシューラで連続突きでウルトラマンアグルV2に攻撃した。

デスレード「貴様もここで終わりだ。」

ウルトラマンアグルV2（藤宮）「お互いだ。」

両者共々決着付けるべく戦うウルトラマンアグルV2とデスレード。

ウルトラマンコスモスコロナモード（ムサシ）「はああああー!!」

ラーズ「せやああああー!!」

ウルトラマンコスモスはコロナモードに変身して戦い、ラーズと交戦する。ウルトラマンコスモスコロナモードは、必殺技のブレージングウェーブで両手を合掌の形に転じて発生した気を炎の圧殺波動としてラーズに放った。ラーズはミストルティンで炎の圧殺波動を振り払い、ウルトラマンコスモスコロナモードに斬撃した。

ウルトラマンジードプリミティブ（リク）「おりやああああー!!」

ウルトラマンジードプリミティブが地上にいる大宦官側のティエ

レン地上型、ガンルウ、レドラー人革連仕様を相手に戦い、ジードクローで切り込んだ。ティエレン地上型が200mm25口径長滑腔砲で反撃したが、ウルトラマンジードプリミティブには全く効いてなかった。

ウルトラマンジードプリミティブ（リック）「それっ!!」

ジードクローを前に出して突きながらティエレン地上型の頭部を破壊し、機体に搭乗した兵士はすぐに脱出した。戦局はアークエンジェルが介入して反乱軍と共闘した事により優位に立った。

凱「ブrouクンファントム!!」

ステルスガオーIIから射出されるファントムリングを右腕に装着しながら発射して竜担に直撃した。

星刻「貰った!!」

続いて星刻の神虎が天愕霸王荷電粒子重砲を発射して竜担に喰らわせて、巨大中国刀で自身の剣技技量で大きいサイズの竜担を切り刻んだ。

凱「星刻、やるな。」

星刻「お前もだ。」

凱「急いで天子の元へ行こう。」

星刻「天子様、今必ず私が助けて参ります。」

天子の元へ急いで向かう凱と星刻。

ハレルヤ「行くぞ、女!!」

ソーマ「私はソーマIIピーリスだ!!」

ハレルヤ「だったら足を引つ張んなよ!!」

アレルヤのもう1人の人格ハレルヤと超兵のソーマ、敵同士だった2人が手を組んで戦い、2人は周り来る敵機を迎撃をし、ハレルヤのキュリオスはGNビームサーベルを出して暁可翔部隊を次々と破壊していき、ソーマのティエレンタオツォが200mm25口径長滑腔砲の着いた刃でジン、バクウを次々と両断していき、銃口から散弾を発射して周囲にいる敵機全体に被弾させた。

撃龍神「ここの住民達を避難させていく!!」

北京の街全体が戦場と化し、北京の住民の安全を守るべき避難を行う撃龍神。

人革連兵（大宦官派）1「貰った!!」

住民の避難を行なっている撃龍神に向かってティエレン地上型が200mm25口径長滑腔砲で狙おうとした。

撃龍神「邪魔するな!!」

その存在に早くも気付いた撃龍神が左腕の電磁架台からヴァンレイを放ち、ティエレン地上型に電撃を喰らわせて撃退した。

バン「いつけー!!」

バンはブレードライガーABをジャンプして素早く駆け込んで背部にあるアタックブラスターを展開して機動しながら暁、ジン、バクウ、ザウードに向かってレーザーブレードで一気に真っ二つにしていき、撃退した。

フィーネ「!!」

敵を次々と撃退していく中で、フィーネに異変が起きた。

バン「フィーネ?」

フィーネ「バン、あのゾイドに気を付けて……。」

バン「あのゾイド……?」

フィーネは、この朱禁城に現れたデスステインガーに危機感を抱き、このデスステインガーと言うゾイドは、古代遙かの時代から2大魔獣デスザウラー、ギルベイダーと互角に渡り合う力、世界を滅ぼす事が可能な力を持ち、まさに危険を秘めたゾイドだ。デスステインガーは、バンのブレードライガーABに向かって突き進みながらストライクレーザーバイトシザーズで掴みかかった。

バン「!!」

ジャンプして回避し、腹部のAZ2連装ショックカノンでデスステインガーに攻撃したが、デスステインガーはEシールドを展開して攻撃を防いで尻尾の荷電粒子砲を発射してブレードライガーに向けた。

バン「!!」

すぐにアタックブースターを機動しながら回避したバン。デスステインガーの放った荷電粒子砲の威力がレイヴンのジェノザウラーを上回っている事に気づき、まだ桁外れの戦闘力も誇り、まさに危険を感じた。

ウルトラマンジードプリミティブ(リク)「このまま一気に決めてやる。」



早期にカタを着けるべくリクは2本のカプセルを出してナツクルに装着して、ジードライザーにスキャンした。

リク「ユーゴー!! アイゴー!! ヒアウィーゴー!!」

ジードライザー「フュージョンライズ!!」

リク「飛ばすぜ、光刃!! ジード!!」

ジードライザー「ウルトラマンオーブエメリウムスラッガー!! ウルトランベリアル!! ウルトランマンジードトリスラッガー!!」

2つのカプセルにスキャンしたリクはウルトラマンジードトリスラッガーに変身して東部にある3本のアイスラッガーを投げて、空中にいる地球連合軍のフラッグ、イナクト、ブラックレドラー、ザフト軍のデイン、バツフェ、グレイブ、黒の騎士団の暁可翔の下半身を切断して墜落させた。

ウルトラマンジードトリスラッガー（リク）「よし。」

空中にいる敵を片付けたウルトラマンジードトリスラッガー。

エクセラ―「はぁーい、わたしがまだ残ってる事をお忘れかあ!!」

彼の前にエクセラ―の操縦するチブルギヤラクトロンが現れて、ウルトラマンジードトリスラッガーに右腕の爪に内蔵されているビーム砲で攻撃した。

ウルトラマンジードトリスラッガー「うっ。」

チブルギヤラクトロンの攻撃を受けたウルトラマンジードトリスラッガー。

ウルトラマンジードトライスラッガー（リック）「こいつ!!」

3本のアイスラッガーを投げてチブルギヤラクトロンに当てて喰らわせるが、ダメージが1つも効いていなかった。

ウルトラマンジードトライスラッガー（リック）「何?！」

3本のアイスラッガーを受けたチブルギヤラクトロンに攻撃が全く効いていなかった事に驚くウルトラマンジードトライスラッガー。

エクセラ―「私のアレンジしたギヤラクトロンは、通常をより強くしてみたのです。地球製の技術を加えたギヤラクトロンをお見せしましょう!!」

エクセラ―のチブルギヤラクトロンが左腕のギヤラクトロンブレードで、ウルトラマンジードトライスラッガーに直接斬り込んだ。

ウルトラマンジードトライスラッガー（リック）「うわあっ!!」

チブルギヤラクトロンのギヤラクトロンブレードの斬撃を喰らったウルトラマンジードトライスラッガー。

ウルトラマンジードトライスラッガー（リック）「これはどうだ!!リフレクトスラッガー!!」

必殺技のリフレクトスラッガーで3本のアイスラッガーを放って、デスシウム光線のような光線を撃ち反射、拡散させ四方八方からチブルギヤラクトロンに命中させたが、その必殺技がチブルギヤラクトロンからバリアのようなのを発生されて無効にされた。

エクセラ―「はい、残念。あなたの攻撃は私には通じてませーん!!」

ウルトラマンジードトライ斯拉ッガー（リック）「何?!!」

エクセラ―「ガイロス帝国が開発したバリア兵器、アルミューレ・リユミエール。まだまだ開発段階だけど私がアレンジして防御力、稼働時間をさらに最大限アップ!!」

地球製の技術を取り組んで改造したチブルギヤラクトロンは、全身の装甲にトランフェイズ装甲を採用し、ガイロス帝国が現在開発段階のアルミューレ・リユミエールをエクセラ―が改良によりさらに防御力、稼働時間を最大限にアップした。

凱、星刻「うおおおー!!」

朱禁城にいる天子の元へ向かうため、道を立ちはだかる敵機を次々と突き進む凱と星刻。だが、そこで待ち伏せをしていたスザクのランスロット・コンクエスター、ジノのトリスタン、アーニヤのモルドレットと天子を手に入れようとするルルーシユの蜃気楼、カレンの紅蓮可翔式、ロロのヴェンセント可翔が現れた。

スザク「ここからは先は通さない。」

ルルーシユ「天子はいたぞ!!」

凱「スザクに、ルルーシユに、カレン、ロロまでもか。」

ジノ「俺やアーニヤもいるぞ。」

アーニヤ「抹殺。」

凱「星刻、おまえは天子の元へ行け。ここは俺一人で相手にする。」  
星刻「すまない。後は任せた。」

凱がルルーシユ達とスザク達の相手を引き受けて、星刻は天子の元へと先に向かった。6対1の対決をする凱は、6機が全てナイトメアフレームで、その中で黒の騎士団のカレン、ガイロス帝国のスザクの両者はかなりの実力者だ。凱はそんな実力のあるパイロットを相手に挑んだ。

凱「うおおおー!!」

空中を飛びながら高い機動力を推進してトリスタンとモルドレットを2機まとめて思いっきりパンチをしてお見舞いしたスターガイガー。

ジノ「調子に乗るな!!」

ジノのトリスタンがMVソードハーケンタイプ2本を連結してスターガイガーに斬り込みにかかった。

凱「ドリルニー!!」

トリスタンの連結した2本MVソードハーケンタイプをドリルニーで蹴り込んで弾き返し、パンチで思いっきりした。

アーニヤ「ガオガイガー、邪魔。」

アーニヤのモルドレットが両肩のシールドをシユタルクハドロンに合体してスターガイガーに向かって放つ。

凱「プロテクトウォール!!」

ステルスガオーⅡから射出されるフロントムリングを右腕に装着してプロテクトウォールを発生してモルドレットの放ったシユタルクハドロンを防ぎ、パンチで殴りかかるが、モルドレットからブレイズ・ルミナスが発生してスターガイガーのパンチを防御する。

凱「ならこれはどうだ、ガトリングドライブ!!」

右腕にガトリングドライバーを装着してモルドレットの発生したブレイズ・ルミナスを貫いて打ち消して、そのまま機体を地上に墜落させた。

ルルーシユ「流石だ、サイボーグ凱。勇者は伊達ではないな。」

凱「俺1人でも十分だ。この勇気がある限り!!」

ロロ「流石だね。」

カレン「ならあたしが相手をしてやる!!」

続いてカレンの紅蓮可翔式がスターガイガーに近づき、右腕の鉤爪に装備されている輻射波動機構で掴みかかる。

凱「!!」

すぐに攻撃を回避するスターガイガー。

スザク「僕を忘れては困るよ!!」

スザクのランスロット・コンクエスターが割り込んでスターガイガーにMVソードで斬撃した。

凱「くっ!!」

スザクのランスロット・コンクエスターの攻撃を受けたスターガイガー。

ルルーシユ「こいつは特別サービスだ、受け取るがいい。」

ルルーシユの操縦する蜃気楼の胸部から展開した拡散構造相転移砲で、プリズム状にした特殊な液体金属を放ちながら乱反射させて、スターガイガーとランスロット・コンクエスターに攻撃した。

凱「うわあああー!!」  
スザク「うっ!!」

蜃気楼の拡散構造相転移砲を喰らったスターガオガイガーとラン  
スロット・コンクエスター。同じ頃、朱禁城内では、天子とオデウツ  
セウスの結婚式が行われ、大宦官に望まない結婚をさせられる天子  
は、今日自分はガイロス帝国に国土と一緒に売り渡されようとする。

朱禁城

天子「……。」

オデウツセウス「……。」

趙皓「これより我が人革連の長、天子様とガイロス帝国のオデウツ  
セウス殿の結婚を始めます。」

ついに天子とオデウツセウスの結婚式が始まり、幼い彼女はこのま  
ま自分はオデウツセウスと結婚されてしまい、何も出来ないままとい  
るのか。その時、2人の結婚式の前に星刻が現れて、武器を突きつけ  
た。

星刻「そこまでだ!!」

趙皓、夏望、程忠、項勝、蔡力士、童倫、黄遷「!!」

天子「!!」

星刻「天子様、今お助けします!!」

趙皓「星刻!!」

星刻「我は問う!天の叫び、地の叫び、人の心!!何をもってこの婚  
姻を人類革新連盟の意志とするか!!」

趙皓「ほざけ、貴様如きなんかにわしらの邪魔はさせんぞ!!」

星刻「黙れ、趙皓!!すべての人民を代表し、我はこの婚姻に異議を  
唱える!!」

大宦官らによって仕組まれた婚姻に異議を唱え、自ら人革連の代表

として名乗りを上げて立つ星刻は、天子の元へと突き進むが、人革連の兵士達が槍を持って立ちはだかる。

人革連兵（大宦官派）2「不忠なり!!天子様を己がものとしようとは!!」

星刻「!!」

剣を手に持ちながら人革連の兵士達の槍を素早い剣技で全て切り払い、そのまま天子の元へと突き進んだ。

星刻「そうだな。この行動が、天子様のお心にそっているかどうかからん。6年前のことなど、覚えておられぬかもしれぬ……。それでも、私は命を救っていただいたかわりに永続調和の契りを交わしたのだ。私の心に誓って。天子様に外の世界を。」

天子「星刻ー!!」

星刻「おぼえて……。おられた。我が心に迷いなし!!」

6年前、自分の命を救った天子に外の世界を見せる約束を交わし、そして今、目の前にいる彼女をこの手で差し伸べようとする星刻。その時、2人の間にケイが現れて、天子を無理やり掴んだ。

天子「星刻ー!!」

星刻「!!」

ケイ「後一步のところでしたね。」

星刻「天子様を離せ!!」

ケイに向かって剣で斬りかかる星刻。だが、ケイは天子を盾にした。

ケイ「斬ると言うなら彼女を盾にしますよ。」

星刻「くっ。」

ケイに盾にされた天子に手も足も出せず、剣を放した星刻。

ケイ「ここから楽しいショーの始まりです。」

そう言いながらケイは朱禁城の天井から穴があき、そこからギャラクトロンが現れた。

星刻「何をする気だ?！」

ケイ「彼女に素晴らしいものを見せてあげるのです。」

ケイは掴んだ天子をギャラクトロンの内部から出現したコードで無理やり彼女を拘束して内部に閉じ込めた。

天子「星刻ー!!」

星刻「天子様ー!!」

ケイによってギャラクトロンに無理矢理内部に囚われた天子。

朱禁城周辺

バン「いつけええええー!!」

デスステインガーに向かってレーザーブレードで頭部の装甲に斬りつけたバン。その斬撃で頭部の装甲に穴が空き、デスステインガーに乗っていたパイロットは意外な人物だった。

凱「!!」

ルルーシュ「なっ?！」

護「嘘でしょ……。」

デスステインガーの頭部のコックピットに操縦した人物に驚いた凱や護、ルルーシュら。



ユーフェミア「……………」

そのデスステインガーのパイロットは、凱と護がガイロス帝国の間で唯一仲が等しかったユーフェミアだった。またルルーシユとユーフェミアは、同じ年でありながら父シャルルそれぞれ別母との間で生まれた関係でもあった。

スザク「見てしまったか。」

シュナイゼル「……………」

凱「何故なんだ、ユーフェミア!!」

そして別次元の宇宙にあるウルトラマン達の故郷であるM78星雲 光の国では、

宇宙

M78星雲

光の国

ウルトラの父「行かねばならない。」

ウルトラマンヒカリ「行くのですか?」

ウルトラの父「君もそのカプセルを渡しに行くのか?」

ウルトラマンヒカリ「あなたとゼロのカプセルを彼に渡すつもりです。」

ウルトラの父「早速行こうか。」

ウルトラの父、ウルトラマンヒカリ、そして2人と共に着いていくウルトラセブン、ウルトラマンレオ、ウルトラマンメビウス。彼らは、光の国を出てコズミックイラの世界へと向かった。

次回 19話へ続く

## 第19話 想いの力 前編

朱禁城で星刻が後一步のところまで天子を差し伸ばしたところケイが現れて天子を連れて、ギャラクトロンに無理やり内部に閉じ込めさせられた。

朱禁城周辺

ウルトラマンアグルV2（藤宮）「あれは?!」

ウルトラマンビクトリー（シヨウ）「ギャラクトロン!!城禁城の真上にいるだ?!」

凱「星刻は天子の救出に失敗したのか?!」

朱禁城にギャラクトロンがもう1体現れた事で、凱は星刻が天子の救出に失敗した事に気付いた。

天子「いやー、ここから出してよ!!」

ケイ「あなたには楽しいショーを盛り上げさせていただきたい。」

星刻「天子様を返せ!!」

ケイ「それは出来ません。彼女には楽しいショーを盛り上げさせるための役目を果たすのです。」

星刻「貴様あー!!」

天子を連れ去って無理やりギャラクトロンに閉じ込めたケイに剣で斬りかかる星刻。

ケイ「ふん!!」

下にしゃがんで星刻の間合いに飛び込んで腹にパンチをするケイ。

星刻「ぐはあっ!!」

天子「星刻!!」

ケイ「さあ、存分楽しみなさい。」

天子を閉じ込めたギャラクトロンが動き出し、目からギャラクトロンスパークを放って北京の都市を破壊した。

ウルトラマンビクトリー（ショウ）「街が!!」

ウルトラマンコスモスコロナモード（ムサシ）「何とかしないと!!」

星刻「待ってくれ、それには天子様が乗っているんだ!!」

凱「何?!」

ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「人質か……」

凱「これじゃ手が出せない。」

ギャラクトロンの内部に天子が囚われの身になっていた事を知る凱達は、手を出す事が出来ない。

ケイ「さあ、見せるがいい。素晴らしいショーの幕開けを。」

天子を人質にしたギャラクトロンが北京の都市への破壊活動を行わせるケイ。

凱「スザク、何故彼女が乗っているんだ!!」

ルルーシュ「スザク、答える!!ユフィがあのような機体に操縦している?!」

スザク「獅子王凱、君が彼女に出会ったせいでこうなったんだ。」

凱「何?!」

スザク「彼女は超兵にされ、戦うためだけの存在にされた。」

スザクはユーフェミアが超兵にされてデステインガールのパイロットにされたのは凱と出会ったせいだと言う。凱と護がユーフェミアと出会ったのは、地球連合軍がヘリック共和国の日本侵攻作戦の時に出会った。彼女との出会いは広島。

回想

日本

広島

ユーフェミア「誰かー、助けてください!!」

不良1「おい、お前。俺と付き合えよ。」

不良2「いい女じゃねえか、惚れちまった。」

ユーフェミア「誰があなた達なんかと!!」

不良3「何だお前、俺達に逆らう気か?！」

ユーフェミア「あああつ。」

凱「やめろ!!」

不良達に無理やり絡まれたユーフェミアは、彼らと付き合うのを拒否したら暴力で振るわれようとしたら、その時、凱と護が現れて、不良達に絡まれた彼女を助ける。

不良1「何だてめえは?！」

凱「彼女が嫌がつているだろ!!」

不良2「せっかくの付き合いを邪魔する気かあ!!」

凱「彼女に暴力を振るうなら俺が相手をしてやる。」

不良3「何だと、オラアー!!」

不良達が凱に一齐にパイプで殴りにかかったが、彼は素手で不良達を振り払い、一瞬で倒した。

不良1「ひいいいつ、逃げろー!!」

凱にやられて逃げ出す不良達。

ユーフェミア「助けてくださってありがとうございます。」

凱「君が絡まれているのを見て俺は助けたんだ。」

護「怖くなかった？」

ユーフェミア「本当に助かりましたわ。私の名前はユーフェミア  
リィブリタニアです。」

凱「ブリタニア・・・？君はガイロス帝国の・・・。」

ユーフェミア「ここだと私の事が知られてしまうので、出来れば人  
のいない場所です。」

凱「わかった。」

ユーフェミアがガイロス帝国の人間だと知った凱と護は、周囲から  
彼女の正体が知られないように人のいない場所へと行き、着いた場所  
は、河原だった。

ユーフェミア「ここなら誰も来ませんわ。」

護「ここなら大丈夫そうだね。」

凱「君はどうしてここに。」

ユーフェミア「私はここがどんどころか知りたかったのです。今  
あなた方と私の国は交戦中で、いつかはどの国と手と手を繋げて平和  
な世界を築きたいのです。」

凱「どの国と手と手を繋ぎ合う平和な世界か。」

ユーフェミア「私はいつか実現してみたいです。」

凱「君なら出来るよ。」

護「ユーフェミアさんの目指す世界ならきつと実現出来るよ。」

ユーフェミア「言っていただけで嬉しいです。」

彼女と等しくなった凱と護。この出会いが彼女の運命を大きく狂  
わせた。そして現在、

現在

北京

朱禁城周辺

凱「ユーフェミア、やめるんだ!!」

デスステインガーに操縦しているユーフェミアに接近して彼女を説得する凱。だが、彼の声を聞かず、そのままストライクレーザーバイトシザーズで振り払った。

凱「ぐうっ!!」

ユーフェミアに声を無視されて地面にぶつかつた凱。

バン「凱!!」

凱「何故彼女が……!!」

デスステインガーに操縦するユーフェミアが自分の声が届かなかつた事に愕然する凱。

ケイ「なかなか盛り上がりませんね。そろそろあなた達の出番ですよ。」

ケイは、破壊と殺戮をさらに増すのに、ある者達を出撃させた。

バン「!!」

撃龍神「お前は!!」

一同「!!」

ケイが出撃させた人物ら、何とバンがよく知るレイヴンと宇宙で戦つたルキアアノ、リバイの宿敵のノワールオラクル、キリツシヤー、そしてアリーも加わって現れた。

バン「レイヴン!!」

レイヴン「久しぶりだね、バン。」

撃龍神「お前は、あの時の?!」  
ルキアーノ「さて、どう盛り上げていこうか。」

バンの宿敵レイヴンがジェノザウラーで駆けて彼の前に立ち塞がり、ルキアーノのパーシヴァルが撃龍神の前に現れた。

ステイブ「俺達の出番だぜ!!」

ロッド「さて、何から仕上げていくか。」

ダニエル「血祭りの時間だあ。」

キリツシャー「どいつから殺り始めるか?」

エンペラードラゴリー「グオオオオ!!」

ノワールオラクルのステイブ、ロッド、ダニエルらとキリツシャーが巨大化し、ステイブのパートナーのエンペラードラゴリーが北京都市に総攻撃を始めた。

アリー「さあ待ちに待った戦いだあ!!」

アリーの駆けるイナクトカスタムがブレイドライフルで反乱軍の機体を次々と破壊していった。

ウルトラマンビクトリー（ショウ）「あいつらは!!」

グランザー「この時を狙って来たのか?!」

ステイブ「さあ、楽しいハンティングの始まりだ。」

巨大化したステイブらによる破壊と殺戮が北京都市で行われ、敵味方問わずその脅威をもたらした。

ステイブ「オラオラ!!」

ロッド「最高のハンティングの!!」

ダニエル「始まりだ!!」

ステイブがランスを突きながら逃げ回る市民に攻撃し、ロッドがツインガンで市民を次々と射撃し、ダニエルが金棒を振り回して市民を撲殺した。

キリツシャー「ハツハハハハ、死ぬがいい!!」

巨大化したキリツシャーがブレイクハンマーで建物を破壊し、逃げ回る市民に必殺技のキリエルフレイムハンマーで炎で纏ったブレイクハンマーを下ろして潰した。

グランザー「なんて事をするんだ!!」

デスレード「貴様ら、何故こんな非道な事が出来るんだ!!」

ラーズ「もうやめろ!!これ以上人を殺して楽しいか!!」

ステイブらノワールオラクルとキリツシャーの殺戮についてグランザー、デスレード、ラーズらが非難の声を出し、彼らに牙を剥く。

グランザー「うおおおおー、フリーザーランサー!!」

デスレード、ラーズ「はああああー!!」

北京都市を破壊するステイブらに牙剥いたグランザーがブリューナク、デスレードがトリシユウラ、ラーズがミストルティンで突き、ステイブらに攻撃した。

ステイブ「何の真似だ?!」

グランザー「今日を持って俺達へここは決別する!!」

デスレード「ただ殺戮と破壊だけしかないお前達とは組まない!!」

ラーズ「俺らの信条に反するのであれば俺達の敵だ!!」

ロッド「てめえ、俺らや地球軍を裏切る気かあ?!」



ダニエル「何ならまとめてぶち殺してやる!!」

地球連合軍を裏切ったグランザー、デスレード、ラーズらにステイブらは彼らの抹殺にかかった。

ジノ「……………」

裏切ったグランザー、デスレード、ラーズをジノは、彼らにはその信念を貫く事を第一とし、自らの信念を汚さずに守り抜く姿を見た。

ジノ「信念……………」

撃龍神「貴様ああああー!!」

ルキアーノ「さあ、かかって来なさい!!」

宇宙でシャトルに乗っていたエルの命を奪ったルキアーノに向かって撃龍神が再び怒りを表しながらシャントウロンを放つ。撃龍神の放ったシャントウロンをかわし、パーシヴァルの4連クローからルミナスコーンを発生して撃龍神に喰らわせた。

撃龍神「ぐわあっ!!」

ルキアーノ「それでは私には勝てませんよ!!」

頭部の強化スラッシュハーケンを放出して、近くにいた反乱軍のアイアンコングを突き刺して持ち上げながら撃龍神にぶつけた。

バン「レイヴン、今決着を着けてやる!!」

レイヴン「バン、望むところだ。」

バンはレイヴンのジェノザウラーと交戦し、宿敵の因縁の再戦をし、ブレードライガーABを素早く動き回りながら、ジェノザウラー

の右横に向ってストライククロウでひつかきかす。その反応にレイヴンはジェノザウラーの尻尾を振るが、バンも同じく相手の攻撃を讀んでジャンプして回避して、そのままアタックブラスターからAZハイデンシティブームキャノンを展開して攻撃した。

レイヴン「流石だ、君も腕を上げたようだね。」

バン「お前に勝つためにな!!」

レイヴン「なら、これはどうだ。シヤドおおおおー!!」

バン「こつちもだ、ジーク!!」

両者はオーガノイドを使用して、自分達の機体と合体し、本気で挑んだ。

バン、レイヴン「はああああー!!」

オーガノイドと合体した両者の機体がぶつかり合い、両腕のハイパーキラークロウでブレードライガーABに切りかかり、ブレードライガーABがアタックブラスターを機動して体当たりし、そのままレーザーブレードで斬り込んだ。

レイヴン「ちいっ!!」

レイヴンも負けてはいられず、脚部のハイパーストライククロウでブレードライガーに蹴り込んで、ハイパーキラークロウでひつかき、頭部のレーザーガンで攻撃した。

アリー「とつとと今始末してやろうじゃねえか!!」

反乱軍の機体を1人で相手に、アリーの高い操縦技量で駆けるイナクトカスタムがソニックブレードで反乱軍のリアルドを5機まとめて斬り込んで破壊し、ブレードライフルで反乱軍のアイアンコンダの

胴体を突き貫いて破壊した。

ウルトラマンコスモスコロナモード（ムサシ）「やらせない!!」

反乱軍の機体を破壊するアリーの前にウルトラマンコスモスコロナモードが現れた。

アリー「?」

ウルトラマンコスモスコロナモードを見たアリーは、自分が何処かで出会ったウルトラマンに似ている事を思い出す。

アリー「こいつは……いや、俺の知っているあいつじゃねえな。」

アリーは自分が知っているウルトラマンがウルトラマンコスモスではなく、別のウルトラマンであり、彼の言うそのあいつとは一体誰なのか。

ウルトラマンコスモスコロナモード（ムサシ）「はあっ!!」

アリーのイナクトカスタムに向かってパンチするウルトラマンコスモスコロナモード。相手のパンチをかわしていき、ブレイドライフルの銃身に取り付いているミサイルランチャーを発射してウルトラマンコスモスコロナモードの左腰に命中してダメージを与えた。

ウルトラマンコスモスコロナモード（ムサシ）「うっ。」

イナクトカスタムの発射したミサイルの攻撃を受けたウルトラマンコスモスコロナモードは、手に気を集めて発生したエネルギーを球状に固めて投げて、イナクトカスタムの左横に投げて、その風圧でイナクトカスタムは地上に落下する。

アリー「うっ!!」

背部の飛行ユニットで推進して機体を上げていきながら進んで、ブレイドライフルでウルトラマンコスモスコロナモードに射撃した。

アリー「てめえ、クルジスのガキとは違う巨人だな？」

ウルトラマンコスモスコロナモード（ムサシ）「クルジスのガキ？」

アリー「知らねえならとつとと失せな!!」

アリーの口からクルジスのガキという言葉に気にかけるムサシ。機体を空中をアクロバティックのように動いて、ウルトラマンコスモスコロナモードの周囲に攻撃した。

天子「助けて、星刻ー!!」

星刻「天子様、今お助けします!!」

上空にいるギャラクトロンの内部に囚われている天子を救うため、1人で向かう星刻。ギャラクトロンの目から光線が発射され、星刻の神虎に向けた。

星刻「!!」

ギャラクトロンの放った光線を回避し、そのまま突き進み、天子の元と向かった。

星刻「天子様ー!!」

ギャラクトロンの内部に囚われている天子にたどり着いた星刻は、彼女を助け出そうとする。その時、背後から星刻の神虎に光線で撃つた。

星刻「うわああああー!!」

天子「星刻ー!!」

キングギヤラクトロン（ケイ）「感動の再会はここまでだ。」

星刻を撃つたのは、ケイがキングジョー、ギヤラクトロンのそれぞれの怪獣カプセルでフュージョンライズしたベリアル融合獣のキングギヤラクトロンだ。

キングギヤラクトロン（ケイ）「私も参加させていただきましょう。この楽しみパーティーを!!」

次回 20話へ続く

## 第20話 想いの力 中編

ギヤラクトロンに囚われた天子を助け出しに向かった星刻。後一歩のところまで、ケイが変身したキングギヤラクトロンによって星刻が撃たれてしまった。

中国

北京

朱禁城周辺

キングギヤラクトロン（ケイ）「彼女を簡単には返させませんよ。」

星刻「邪魔をするな!!」

キングギヤラクトロン（ケイ）「簡単に返されると困るんですよ。」

星刻「貴様っ!!」

ギヤラクトロンに囚われた天子の救出を邪魔したケイのキングギヤラクトロンに天愕霸王荷電粒子重砲を発射し、命中した。

ケイ「その程度か？」

星刻「何?!」

神虎の発射した天愕霸王荷電粒子重砲には、キングギヤラクトロンに傷一つすら付かず、小型のナイトメアフレームでは、その数千倍の体格であるキングギヤラクトロンに敵うこと不可能だ。

キングギヤラクトロン（ケイ）「ナイトメアフレームではこのキングギヤラクトロンには勝てませんよ。」

天子「星刻ー!!」

キングギヤラクトロン（ケイ）「さあ、見せるがいい!!絶望を!!」

囚われた天子のギヤラクトロンが腹部からギヤラクトロンスパー

クを地上に放ち、当たった光線から魔法陣が出現して反乱軍や北京の都市全体を破壊した。

ウルトラマンコスモスコロナモード（ムサシ） 町が!!」

アリー「余所見してんじやねえぞ、おい!!」

ギャラクトロンに北京の都市が破壊されるのを目の当たりにするウルトラマンコスモスコロナモード。だが、アリーにその隙を突かれてブレイドライフルの攻撃を喰らった。

ウルトラマンコスモスコロナモード（ムサシ）「ぐわあああああー!!」

アリーのイナクトカスタムのブレイドライフルに左横の腹部を突き刺されてしまい、血を流したウルトラマンコスモスコロナモードは、姿勢を崩してしまった。

アリー「ん、どうした、突き刺されたくらいで叫んでんのか?!」

アリーの刺突攻撃でウルトラマンコスモスコロナモードは左横の腹部から血が流れてかなりの傷口が出てしまい、さらにアリーに隙を突かれて攻撃を受けてしまった。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「今、俺が助けてやる!!」

星刻が天子の救出に失敗して、代わりに自ら助けに出るウルトラマンオーブ オーブオリジン。

エクセラ「そうはさせませんよー!!」

その時、エクセララーの操縦するチブルギヤラクトロンが現れて、天子の元へ向かうウルトラマンオーブ オーブオリジンの前に立ちはだかる。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「お前と遊んでいる暇はない!!」

エクセララー「これを喰らえー!!」

チブルギヤラクトロンからギヤラクトロンスパークガイ発射してウルトラマンオーブ オーブオリジンに直撃した。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「これを使うしかない。」

チブルギヤラクトロンを倒すべく、ガイはウルトラマンベリアルとゾフィーのそれぞれのカードを出して、オーブリングにスキャンした。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「ベリアル、ゾフィーさん、光と闇の力、お借りします。」

オーブリング「フュージョンアップ、ウルトラマンオーブサンダーブレスター。」

ウルトラマンオーブサンダーブレスターに変身し、チブルギヤラクトロンに向かってラリアットして、吹き飛ばす。

エクセララー「わぁおっ!!」

ウルトラマンオーブサンダーブレスターによってラリアットされて吹き飛ばされたチブルギヤラクトロン。



エクセラ―「なあってね。ユ―の攻撃なんて全く効いてませーん!!」

ウルトラマンオーブサンダーブレスター(ガイ)「何度もぶち込んでやる!!」

ウルトラマンオーブサンダーブレスターがチブルギヤラクトロンに向かってパンチで見舞いし、さらにメリケンサックでぶち込んだが、全身に採用されたTP装甲で物理攻撃のダメージが半減され、全く効いていなかった。

エクセラ―「次はミ―の番ですうー!!」

チブルギヤラクトロンが左腕からギヤラクトロンブレードを出して、ウルトラマンオーブサンダーブレスターに斬り込んだ。

ウルトラマンオーブサンダーブレスター(ガイ)「うっ!!」

チブルギヤラクトロンがギヤラクトロンブレードの斬撃を受けたウルトラマンオーブサンダーは、次はゼットシウム光線を発射した。光線は受けたもの、チブルギヤラクトロンから発生したアルミユ―レ・リユミエールによって無効化された。

アークエンジェル

独房

刹那「……」

独房でただジツとしている刹那は、何も考えずに過ごしていた。彼の前にエルエルフが現れた。

エルエルフ「刹那ⅡFⅡセイエイ。」

刹那「お前は。」

エルエルフ「お前はこれでいいのか？現に諦めようとしている。」  
刹那「俺が諦める？」

エルエルフ「このままずっと何もしないままでもいいのか？」

刹那「……。」

エルエルフ「お前は過去から逃げるのか？」

刹那「過去……。」

エルエルフ「お前の事は全てウルトラマンゼロから話した。」

刹那「ゼロが……。」

エルエルフ「世界を変えたいのか？誰も犠牲者を出したくないのならば戦うんだな。」

独房にいる刹那を扉を開けたエルエルフ。独房から出た刹那は、エルエルフからウルトラゼロアイを渡された。

刹那「ゼロ。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイ）「行こうぜ、一緒に。」

刹那「ああ。」

ウルトラマンゼロと共に戦いに出て行く刹那は、誰も犠牲者を出さないために、再び戦場へと向かった。

個室

リバイ「……。」

バレル「行くのか。」

リバイ「奴らが再び現れた。今度こそきっちり仲間の仇を取る。」

バレル「仇を取ればそれでよかったのか？」

リバイ「?!」

バレル「今のお前は今の仲間の事を目にかけていない。」

リバイ「!!」

グロウズ「お前らしくねえんだよ。」

デルトルト「グオツグオ。」

リバイ「グロウズ、デルトルト。」

グロウズ「あんなブチ切れた姿はお前じゃねえんだよ。デルトルトはお前の事をすごく心配していた。」

リバイ「2人とも。」

グロウズ「俺とデルトルトがお前を側にいてやる。だからもう憎しみにとられるな。」

デルトルト「グオツグオ。」

リバイ「行こう。」

グロウズ「そうと決まれば一緒に行くぜ!!」

マグナ「バレルも俺と親父と一緒に行くぜ。」

ガルム「俺達ハンターの力を見せてやろうぜ。」

バレル「ああ。」

グロウズとデルトルトの励みによってリバイは立ち上がり、ラツシュハンターズと共にノワールオラクルの殺戮を止めるため立ち向かいに行く。

北京

朱禁城周辺

凱「ユーフェミア、やめるんだ!!」

デスステインガーに操縦するユーフェミアを必死で説得する凱。彼の声を聞かず、尻尾のAZ120mmハイパーレーザーガンでスターガオガイガーに攻撃した。

凱「ぐうつ!!」

スザク「君はここで消えて貰おうか。」

MVソードでスターガオガイガーに斬りかかるランスロット・コンクエスター。スターガオガイガーの前にキラのエールストライク、アンジユのヴィルキス、ハルトのヴァルヴレイヴ1、サキヴァルヴレイヴ4、美月のソルシエウイサリスが現れ、凱の窮地を救う。

凱「みんな・・・!!」

キラ「大丈夫ですか、凱さん。」

ハルト「怪我はないですか？」

アンジユ「1人で格好付けるなんてみっともないわ。」

サキ「全く手がかかるわ。」

美月「一緒に出来る？」

凱「ああ。」

駆けつけたキラ達と一緒に共闘して、スザクやルルーシユらとデスステインガーに立ち向かう凱。

ルルーシユ「援軍か。面白い、まとめて始末してくれる!!」

蜃気楼の両腕からバドロンショットでヴァルヴレイヴ1に攻撃するルルーシユ。シールドで攻撃を防ぎ、ジー・エッジで直接攻撃するハルト。

ルルーシユ「接近戦か!!」

ロロ「やらせないよ。」

義兄を救うべくロロのヴィンセント可翔が現れ、MVソードで斬りかかる。

ハルト「ナイトメアフレイム!!」

ロロ「僕が相手だよ。」

ルルーシユ「ロロ、一気に仕留めるぞ。」

すぐに倒すべく、ロロのギアスが発動され、圏内にいる者を自分と仲間以外の者に停止するが、カミツキであるハルトに効かなかつた。

ロロ「?!」

ロロは自分のギアス能力がハルトに効いていないことに驚いた。

ロロ「何故僕のギアスが効いてないんだ?!」

ハルト「何だ今の?!」

ルルーシユ「これは一体、あの機体のパイロットはギアスが効いてない事は普通の人ではないのか?!」

ロロの停止するギアスの能力がヴァルヴレイヴ1に効いていなかった事に驚いたルルーシユは、ヴァルヴレイヴ1のパイロットが普通の人間ではない事にも気付いた。

ロロ「なら全力で倒すしかない。」

ルルーシユ「そうだな。」

物理攻撃を仕掛けて挑むルルーシユとロロ。蜃気楼の胸部から展開した拡散構造相転移砲で、プリズム状にした特殊な液体金属を放ちながら乱反射し、ヴァルヴレイヴ1に喰らわせた。

ハルト「このっ!!」

ボルグ・アームで非実体弾で蜃気楼とヴァインセント可翔に射撃した。

凱「うおおおー!!」

スザク「はああああー!!」

凱とスザク、両者の1対1の対決が繰り広げられ、ハドロンプラスターでスターガオガイガーに向けて放ち、スターガオガイガーはその攻撃を回避して、ドリルニーで蹴り込んだ。

スザク「ここで消えてもらおうぞ!!」

凱「俺は負けない!!」

2本のMVソードを両手に持ちながら二刀流を強いてスターガオガイガーに斬り込み、凱はスターガオガイガーの右腕にガトリングドライバーを装着して、ランスロット・コンクエスターに喰らわせた。

キラ「相手はナイトメアフレーム!!」

キラはカレンの紅蓮可翔式を相手に戦い、紅蓮可翔式の輻射波動機構が掴みかかってくるのが迫り、ビームサーベルを出して切り払った。

カレン「あれがストライク。」

唯一ヘリック共和国軍がザフト軍に奪われなかったエールストライクを見たカレンは、この場で戦う事に実感する。

キラ「あのナイトメアフレームは紅蓮式式。飛行ユニットを装備している。」

カレン「ここで終わらせてやる!!」

輻射波動機構からビームを発射して、エールストライクに攻撃する。シールドで攻撃を防ぎ、ビームライフルで応戦するキラ。

カレン「なかなかの腕だわ。これはどうかしら？」

後背部に搭載されたゲフィオンネットを放出して、多数の球体がキラのエールストライクに囲み静止する。

キラ「!!」

キラの何が覚醒、それは彼の中にある種が割れて覚醒し、覚醒した状態で、ビームライフルでゲフィオンネットを全て撃ち落とし、ビームサーベルを出して紅蓮可翔式に斬り込む。カレンは輻射波動機構から輻射障壁を発生して防御した。

カレン「こいつ、普通のパイロットじゃない!!共和国にこんなパイロットはいない。まさかコーデイネイターか?！」

エールストライクのパイロットがゲフィオンネットを全て破壊する操縦技量で普通のパイロットでなくコーデイネイターである事に気付いた。

美月「来るわよ!!」

ユーフェミアのデスステインガーが尻尾から荷電粒子砲を放たれ、すぐに回避するアンジュ、サキ、美月。デスステインガーからAZ9 30mm 2連装ショットクガンを放ち、ウイルスに攻撃する。

アンジュ「このっ!!」

アンジュはアサルトライフルから発射した実弾でデスステインガーに射撃した。デスステインガーはEシールドジェネレーターを発生されて、防がれた。

サキ「これなら!!」

両腕から2基のスピンドル・ナツクルを合わせて投擲して、デスステインガーに喰らわせた。デスステインガーは、ストライクレーザーバイトシザーズでヴァルヴレイヴ4を振り払った。

美月「強いわ!!」

みな「ママ。」

こう「怖い。」

美月「ママも怖いわ。でも負ける訳にはいかないわ。」

デスステインガーの強さに怖がる我が子のためにも負ける訳にはいかないと思地を張る美月は、ソルシエウイサリスの下部から8基のウイザービットを発射して、デスステインガーに攻撃した。Eシールドジェネレーターでウイザービットの攻撃を防ぐが、ウイザービットのバリア貫通効果で貫かれてダメージを受けた。

ユーフェミア「きゃあ!!」

ソルシエウイサリスのウイザービットの攻撃でデスステインガーが被弾し、その影響でコックピットに操縦していたユーフェミアが一瞬叫んだ。

ユーフェミア「わ、私は一体……。」

超兵にされたユーフェミアがソルシエウイサリスの攻撃で突如意識を取り戻した。

サキ「どうしたの？」

アンジュ「パイロットの様子が変みたいだわ。」

美月「私が攻撃した瞬間に止まったみたいよ。」



美月の攻撃でデスステインガーが停止した事で、パイロットの様子も異変が出て、意識を取り戻した姿を目の当たりにした。

??? 「このまま元には戻さないよ。」

何処からかの声が元に戻ったユーフェミアを謎の声によって再び超兵に戻された。

ユーフェミア「……………」

再び超兵に戻ったユーフェミアは、デスステインガーを再び動かす、ヴィルキス、ヴァルヴレイヴ4、ソルシェウイサリスに攻撃を行なった。一方、ウルトラマンジードトリスラッガーは、ケイのキングギヤラクトロンを相手に戦った。

キングギヤラクトロン(ケイ)「ようやくお会い出来ましまよ、ウルトラマンジード。」

ウルトラマンジードトリスラッガー(リク)「何故俺を知っている。」

キングギヤラクトロン(ケイ)「あなたはベリアル様の子だと言う事はご存知ですか？」

ウルトラマンジードトリスラッガー(リク)「ああ、俺はベリアルの子だと言うの知っている。」

キングギヤラクトロン(ケイ)「あなたは自分が何のために存在しているかまだ知らない。」

ウルトラマンジードトリスラッガー(リク)「何?! どう言う事だ?!」

キングギヤラクトロン(ケイ)「あなたはベリアル様の遺伝子を元にして生み出された人工生命体、ウルトラカプセルを収集させるために私は19年前、赤ん坊だったあなたこの世界に送り込んだのです!!」

ウルトラマンジードトリスラッガー（リック）「!!」

キングギヤラクトロン（ケイ）「見せてもらいましょう、その力を。」  
ウルトラマンジードトリスラッガー（リック）「黙れえっ!!」

自分の出生をケイの口から語られ、自分がウルトラマンベリアルの遺伝子から生み出された人工生命体として、光の国が開発したウルトラカプセルを収集させるため、19年前、赤ん坊だったリックをケイによって送られた。ケイから聞かされた真実を知ったリックは激化して、キングギヤラクトロンに殴り込んだ。

キングギヤラクトロン（ケイ）「ふふふ。」

激化したリックを弄びながら企み、ウルトラマンジードトリスラッガーから投げた3本のアイスラッガーが向けてきた。キングギヤラクトロンの右腕にあるペダニウムハードランチャーから強力な光線を放ち、ウルトラマンジードトリスラッガーに命中して直撃した。

ウルトラマンジードトリスラッガー（リック）「うわあああああー!!」

キングギヤラクトロンのペダニウムハードランチャーの攻撃を受けてやられてしまったウルトラマンジードトリスラッガーは、元のリックの姿に戻ってしまい、倒れてしまった。

バン「うおおおおおー!!」

レイヴンのジェノザウラーを徐々に追い詰めていくバンのブレードライガー。レイヴンはジェノザウラーの荷電粒子砲の体勢を取って発射し、向けたのは北京市市だ。

バン「まずい!!」

すぐに発射された荷電粒子砲を防ぐべく、自ら盾となって荷電粒子砲を防いだが、その影響でブレードライガーが大破した。

バン、ファイネ「あああああー!!」

ジェノザウラーの発射した荷電粒子砲を受けてブレードライガーが大破されてしまい、戦闘不能になってしまった。朱禁城周辺で起きた戦いは激しい戦火を繰り広げた。

星刻「天子様……。」

傷付いた機体で立ち上がりとする星刻。そんな彼の前に、この人革連を牛耳る大宦官が大竜胆に乗って現れて、星刻に攻撃した。

星刻「うわあああー!!」

天子「星刻ー!!」

趙皓「邪魔な星刻よ、ここで死ぬがいい。」

大竜胆の副砲を喰らう星刻の神虎。

項勝「ははは、何て無様。」

童倫「今の天子は埋葬する。」

夏望「代わりなどいくらでも用意出来る。」

天子を亡き者にしようとする企み、今の彼女が死亡したら代わりの天子をいくらでも用意する大宦官。まさに人を何とも思わない彼らのやり方だ。囚われた天子のギャラクトロンが腹部からギャラクトロンスパークを放ち、北京都市を破壊し、都市全体が火の海と化して人々や反乱軍をその炎が飲み込んだ。

天子「もうやめて、何でこんなひどい事が出来るの!!関係のない人を何で犠牲にするの!!」

都市を破壊し、人々を虐殺する大宦官のやり方に泣きながら叫ぶ天子。彼女は、幼い頃から彼らにずっと利用され、自由な事すら縛られて、彼らの傀儡としてずっといて、彼女もその苦しみから解放されなかった。

ウルトラマンオーブサンダーブレスター(ガイ)、ウルトラマンアグルV2(藤宮)、ウルトラマンビクトリー(ショウ)、ウルトラマンコスモスコロナモード(ムサシ)、グランザー、デスレード、ラーズ「.....」

戦いの中で、敵との戦いで力尽きて倒れてしウルトラマンオーブサンダーブレスター、ウルトラマンアグルV2、ウルトラマンビクトリー、ウルトラマンコスモスコロナモード、グランザー、デスレード、ラーズら。

趙皓「ははは、わしらだけのためにある。他などどうでもよい。」

星刻「天子様.....」

天子「星刻!!」

趙皓「死ぬがいい。」

倒れた星刻に向かって大竜胆の大型主砲が発射し、彼に向けた。

天子「あっ!!」

星刻「くっ!!」

大竜胆の大型主砲の砲弾が星刻の神虎に向けられた。その時、巨大な影が星刻の神虎の前に立ち、砲弾を片手で掴みながら粉碎した。

星刻「?!」

キラ「あれは?!」

ウルトラマンゼロ「……………」

星刻を救った巨大な影はウルトラマンゼロだった。

ウルトラマンゼロ「待たせたなあ。」

次回 21話へ続く

## 第21話 想いの力 後編

ついに戦場へ再び現れた刹那とウルトラマンゼロは、自分達が今やらなければ誰がまた犠牲になる。その犠牲を出さないために2人は再び立ち上がった。

ウルトラマンコスモスコロナモード（ムサシ）「ゼロ、刹那!!」

ウルトラマンゼロ（刹那）「もう二度と誰を死なせない。だから俺はこの命を守るために俺は戦う!!」

アリー「ようやく現れたか、クルジスのガキとその巨人!!」

アリーがようやく待ったウルトラマンの事はウルトラマンゼロと刹那の事で、彼はその2人の元へ勢いで駆けながら襲いかかった。

ウルトラマンゼロ（刹那）「あれは、アリー!!アル!!サージエス!!」

自分や他の子供を誘拐して少年兵として仕上げたアリーと対峙する刹那。

ウルトラマンゼロ「アリー!!アル!!サージエス!!久しぶりだったな・・・!!」

アリー「こんなところで会えるとはなあ!!」

ウルトラマンゼロ「戦争を繰り広げ、戦火をもたらす災いの権化は俺らがこの手でお前を倒す!!」

アリー「ふん、調子に乗るな!!」

ウルトラマンゼロ（刹那）「お前は俺が駆逐する!!」

宿敵アリーとこの中国の地で対決する刹那は、ウルトラマンゼロに変身した姿で挑み、ゼロスラッガー2本を両手に持ちながらアリーのイナクトに斬り込む。

アリー「!!」

ウルトラマンゼロのゼロスラッガーの斬撃を回避し、ブレイドライフルから射撃し、ウルトラマンゼロに攻撃した。

ウルトラマンゼロ「はあああっ!!」

額のビームランプからエメリウムスラッシュを発射して、イナクトカスタムのブレイドライフルに命中して破壊した。

アリー「野郎!!」

左肘の内側からプラズマソードを出してウルトラマンゼロに斬りかかった。

ウルトラマンゼロ（刹那）「これでどうだあっ!!」

接近してかかるアリーに刹那がウルトラマンゼロの拳がイナクトカスタムに打ち込み、吹き飛ばした。

アリー「ちい、ここまでか!!」

これ以上の戦闘は不能と判断し、撤退するアリー。

ウルトラマンゼロ（刹那）「ゼロ。」

ウルトラマンゼロ「ああ、目の前にいる倒すべき相手をここでしっかり倒さないと。」

刹那とウルトラマンゼロは、今自分達の目の前にいる倒すべき相手である大宦官がここにいて、この人革連を自分達の思いのままに牛耳

り、彼を倒さない限り人革連の真の平和は訪れない。

趙皓「何だ、貴様は?!」

ウルトラマンゼロ「俺の名はゼロ。ウルトラマンゼロだ。お前達を倒しに来た者だ。」

夏望「大宦官であるわしらに楯突く気か?!」

蔡力士「余所者の分際が!!」

ウルトラマンゼロ「自分達の非、行いに自覚がねえなら俺がこの手で引導を下してやる!!」

大宦官をこの手で倒す事で、自分達2人が引導を下す刹那とウルトラマンゼロは、大宦官の支配を終わらすために堂々と大宦官に挑む。

星刻「助けてくれ……。」

ウルトラマンゼロ（刹那）「?」

星刻「あの真上の機体に天子様が……。」

ウルトラマンゼロ「後は任せろ。お前はそこでゆっくり休んでいな。」

星刻は上空にいるギャラクトロンに天子が囚われているのを伝え、後を任せる刹那とウルトラマンゼロが立ち向かった。

エクセラ―「はぁーい、ようやく待ちに待ったよ、ウルトラマンゼロ!!」

ウルトラマンゼロ「お前もいたのか、ゲス野郎。」

エクセラ―「てめえええええー、ゲス野郎とは何だああああー!!」

ウルトラマンゼロ（刹那）「お前達のような吐き気を催す邪悪は、俺らこの手で倒す!!」

ステイブ「野郎、俺達にやり合う気かあ?!」

リバイ、バレル「お前達の相手は俺達だ!!」



巨人化したノワールオラクルとキリツシャーとエンペラードラゴリーの前に現れたのは、リバイ、グロウズ、デルトルトラトライデント、バレル、ガラム、マグナラツシユハンターズだ。

ステイブ「お前らは!!」

リバイ「ノワールオラクル、お前達は俺達が倒す!!」

ロッド「そんなちっこい姿で俺達とやり合うのかよ!!」

ステイブ「お前らなんか余裕だぜ。」

バレル「お前達にハンターの資格はない。」

グロウズ「殺戮だけを楽しむお前達を俺達が許せねえ。」

デルトルト「グオオオツ。」

マグナ「俺達はお前らのような奴をぶつ倒す。」

ガラム「殺戮をするためえらをぶちのめしてやる。」

キリツシャー「お前ら、ぶち殺したる!!」

リバイ、バレル「お前達をハン……いや駆除する!!」

殺戮だけを楽しむノワールオラクルとキリツシャーに宣戦布告し、駆除するトライデントとラツシユハンターズ。

エクセラ「お楽しみはこれからです、いでよギャラクトロン、KFDよ!!」

地中から現れたデススティングアの量産型機KFDの部隊と上空から現れたギャラクトロンの部隊が朱禁城周辺と中国各地に現れた。

ウルトラマンゼロ「中国各地に出したのか?！」

エクセラ「エクセレントな素晴らしいショーの始まりです!!」

朱禁城周辺と中国各地に現れたKFD、ギャラクトロンの大軍。これでは太刀打ちができない、このまま誰救うことが出来ないのか?！その時、上空から二つの球体が現れ、地上へと着陸した。

一同「!!」

ウルトラマンゼロ「あれはまさか?!」

着陸した二つの球体から現れたのは、ウルトラの父とウルトラマンヒカリだ。

ウルトラの父「私が相手だ。」

朱禁城周辺に現れたKFDとギャラクトロンの大軍を相手に挑むウルトラの父とウルトラマンヒカリ。ウルトラの父はウルトラアレイを出して、特殊な光線を放ち、KFDとギャラクトロンの大軍を瞬で破壊した。ウルトラマンヒカリはナイトブレスからナイトビームブレードを出刃して、KFDとギャラクトロンを次々と斬り込んだ。

ウルトラの父「はあっ!!」

両手先を合わせてウルトラシャワーで火の海となった北京都市を消化し、人々を救出した。

ウルトラマンゼロ「ウルトラの父、ヒカリ。」

ウルトラマンヒカリ「久しぶりのようだ、ゼロ。君の活躍は聞いている。今ここ以外にもセブン、レオ、メビウスも戦っている。」

ウルトラマンゼロ「親父やレオ師匠やメビウスも来ているのか?」  
ウルトラの父「人々を守るために戦っている。」

中国各地に現れたKFDとギャラクトロンを倒すために現れたウルトラセブン、ウルトラマンレオ、ウルトラマンメビウスが戦っている。

上海

ウルトラセブン「デュワー!!」

上海では、ウルトラセブンがギャラクトロン10機、KFD10機を相手に戦い、アイスラッガーを投げてギャラクトロンを2機破壊し、額のビームランプからエメリウム光線を放ち、KFD3機破壊した。

香港

ウルトラマンレオ「たあああー!!」

香港では、ウルトラマンレオがギャラクトロン10機、KFD10機を相手に戦い、得意な格闘で駆使して、ギャラクトロンにレオチョップで一刀両断し、レオ手裏剣ビームで他のギャラクトロンの手を切断して破壊し、KFDの伸ばした尻尾をかわして、逆立ちしながらレオキックスライサーでKFDの尻尾を切り落とし、さらにレオキックで破壊した。

重慶

ウルトラマンメビウス「テヤアー!!」

重慶では、ウルトラマンメビウスがギャラクトロン10機、KFD10機を相手に戦い、ライトニングスマッシュャーでメビウスブレスから引き出したエネルギーを両手の手刀に込めて、ギャラクトロンやKFDを斬り込んでいき、メビウスブレスからメビュームブレードで一刀両断した。

朱禁城周辺

ウルトラマンゼロ「親父達が来てくれて以上、俺達は負けない。」  
ウルトラマンゼロ（刹那）「俺達はもう誰も犠牲者を出さない、世界を変えるため、俺達は戦い、前へ進むんだ!!」

その時、刹那の強い思いでウルトラマンゼロに変化が起きた。

ウルトラマンゼロ「これは?!」

ウルトラマンゼロ（刹那）「?!」

その光に包まれたウルトラマンゼロは、全身に機械的な鎧を身に纏い、7つの剣のような武器と盾を各所に装備し、刹那の強い思いによつてウルトラマンゼロは新しい力を手にした。

ウルトラマンゼロエクシア「これがお前の思いで生み出された新たな力。」

ウルトラマンゼロエクシア（刹那）「俺の思いがゼロを強くした。」

ウルトラマンゼロエクシア「ああ、ウルトラマンゼロエクシア、ここに推参だ!!」

新たな姿、ウルトラマンゼロエクシアへとなったその姿で刹那の強い思いが込められ、その思いは誰かを犠牲に出さない、世界を変えるためにウルトラマンゼロを強くする。

ウルトラマンヒカリ「君がウルトラマンジードか。」

リク「あなたは?」

ウルトラマンヒカリ「私の名はウルトラマンヒカリ。君の活躍は聞いている。」

リク「俺の事を。」

ウルトラマンヒカリ「そうだ。君にこれを渡しに来た、受け取るがいい。」

ウルトラマンヒカリからある物を受け取ったリク。それは、新たな2つのウルトラカプセル、ウルトラの父のウルトラカプセルとウルトラマンゼロのウルトラカプセルだ。

リク「ありがとうございます。」

ウルトラマンヒカリ「君なら使いこなせる。それとトライデントのハンターの3人。」

リバイ「俺達にか？」

グロウズ「ウルトラマンが俺達に用があるとは。」

ウルトラマンヒカリ「これを君達に渡す。」

リバイ「これは?!」

ウルトラマンヒカリ「ウルトラマンゼロの使った武器、技を元にした武器だ。これがあれば怪獣や巨大化した星人を倒す事も可能だ。ただし使える時間は3分間だけだ。」

グロウズ「面白い武器じゃねえか。」

デルトルト「グオツグオ。」

リバイ「3分間か。俺達はウルトラマンになったような感じか。この武器とやらを使いこなしてやる。」

ヒカリから渡されたのを受け取ったりバイ、グロウズ、デルトルトは、それはヒカリが開発したウルトラマンゼロが使った武器を元にして作られた武器だ、リバイはスラツガーブレード、グロウズはワイドプレッシャーを授かった。

バン「うっ、ううう。」

レイヴンのジェノザウラーの荷電粒子砲を喰らって大きな損傷を受けたバンのブレードライガー。その時、遠くから巨大なカタツムリをしたゾイド、ホバーカーゴがバンの元へ接近して来る。

バン「あれは？」

ハーマン「バン!!」

バン「ハーマン中佐!!」

ハーマン「お前の新しい愛機を受け取れ!!」

ホバーカーゴのカタパルトから射出したトリポリ基地で手に入れたライオン型ゾイドが白いアーマーを纏って現れ、バンとファイネとジークは大きな損傷をしたブレードライガーからそのライオン型ゾイドに乗り換えた。

バン「この見せてやる、新しいライガーの力を!!」

そのライオン型ゾイドの名は、ライガーゼロ。バンとファイネとジークは、ライガーゼロに乗り込んでレイヴンのジェノザウラーに挑んだ。新たな力を手にした彼らが、早速その力を使い始める。

ウルトラマンゼロエクシア（刹那）「ゼロ、これより目標を駆逐する。」

ウルトラマンゼロエクシア「ああ、行くぜ。」

目の前にいるKFDとギャラクトロンに向かって、走り出すウルトラマンゼロエクシアは、右腕に装着しているゼロエクシアソードを横に振りながらギャラクトロンを上下真つ二つし、KFDを一刀両断し、破壊した。

ウルトラマンゼロエクシア「うおおおおおー!!」

両肩からゼロブライトサーベルを2本出して両手に持ちながら、上空から来る数十機のレッドラー人革連仕様を翼のみ狙って切断して墜落させ、地上から攻撃して来るレッドホーンに対し、ゼロブライトサーベルを両腰からゼロエクシアロングブレード、ゼロエクシアショートブレードに変えて、2つの実剣の刃でレッドホーンの頭部と

背部を切断した。

バン「いつけえええー!!」

ライガーゼロを駆けるバンは、レイヴンのジェノザウラーに突撃する。

レイヴン「懲りがないな!!」

再び荷電粒子砲を発射ライガーゼロに向けだが、ライガーゼロがジャンプしてストライクレーザークローでジェノザウラーの荷電粒子砲を振り払い、そのまま突撃してストライクレーザークローで切り裂いた。

レイヴン「ぐうっ!!」

ライガーゼロのストライクレーザークローで首部に損傷を受けたジェノザウラーは、その損傷で荷電粒子砲が使えなくなった。

レイヴン「ちいつ!!」

首部に損傷を受けて使用不可になった荷電粒子砲の代わりにロングレンジパルスレーザライフルで攻撃した。ライガーゼロの素早い反応速度ですぐに回避し、下部からAZ208mm2連装ショットカノンでジェノザウラーに喰らわせた。

バン「これで終わりだ!!」

再びジャンプして跳ねながらストライクレーザークローでジェノザウラーに思いつき引つかきながら一撃で撃退した。

レイヴン「くっ。」

バンのライガーゼロに敗れてすぐにジェノザウラーから脱出したレイヴンとシャドー。

レイヴン「バン、次は必ず勝つ。そして今度は君の最期だ。」

バン「……。」

フィーネ「バン。」

次は戦いは必ず勝つとバンに告げて去ったレイヴンとシャドー。

リバイ「うおおおおおー!!」

ウルトラマンヒカリから授かった新たな武器を手にして巨大化したノワールオラクルとエンペラードラゴリーを相手に挑んだ。

ダニエル「ちつちえ分際がよ、ぶっ潰してやる!!」

巨大化したダニエルが金棒を振り回しながらグロウズに向けて下ろしにかかった。

グロウズ「見せてやるぜ、新しい武器の力を!!」

ワイドプレッシャーを手に持ちながらダニエルが下ろした金棒を受け止めた。

ダニエル「なっ、何?!」

グロウズ「巨大化して暴れるだけのためえらはハンターの素質なんてねえんだよ!!」

ダニエル「舐めてんじゃねえぞ!!ロッド!!」

ロッド「おう!!お前なんか撃ち殺してやるぜ!!」



巨大化したロッドがツインガンでグロウズに向かって撃とうとする。

デルトルト「グオツグオ!!」

その時、デルトルトがエメリウムランチャーを構えたまま、ツインガンで撃とうとするロッドにエメリウムスラッシュを発射して大きく喰らわせた。

ロッド「うわあっ!!」

デルトルト「グオツグオ!!」

グロウズ「俺達ハンターは、正々堂々と戦い抜く。俺達の熱い魂は消えないって事だ!!」

ダニエル「ぶっ殺してやる!!」

ロッド「お前らまとめて殺してやる!!」

ガラム、マグナ「俺らを忘れちゃ困るな!!」

ロッド、ダニエル「!!」

巨大化したロッドとダニエルの前にナナマスを持ったマグナとカナツキを持ったガラムが飛び込んで同時に斬り込んだ。

グロウズ「ガラム、マグナ!!」

ガラム「一気に仕上げるぞ!!」

デルトルト「グオツグオ!!」

マグナ「ああ、これで決めてやる!!」

巨大化したロッドとダニエルを倒すべく、グロウズとデルトルトとガラムとマグナが力を合わせて必殺技を発動する。

グロウズ「ワイドクラッシュャー!!」

デルトルト「グオツグオ!!」

ガラム「ムーンドロップスラッシャー!!」

マグナ「ナナマスコンセントレイション!!」

4人のハンターらの必殺技が発動して巨大化したロッドとダニエルに大きく直撃を喰らわせ、撃退した。

ロッド、ダニエル「ぐぎやあああああー!!」

巨大化したロッドとダニエルは、逆に通常の姿のグローズとデルトルトとガラムとマグナの力を合わせた戦いによって敗れてしまい、元の姿に戻ってすぐに逃走した。

リバイ「今決着を着けてやる!!」

ステイブ「望むところだ!!」

バレル「行くぞ!!」

リバイとバレルとキングムルチは、巨大化したステイブとエンペラードラゴリーを相手に戦い、交戦する。

ステイブ「死ねえっ!!」

ランスを前に出してリバイとバレルに連続突きをするステイブ。バレルは、ステイブの連続突きを見切りながらカナツキで受け止めた。

ステイブ「何?!!」

バレル「そんな攻撃見え見えだ。」

ステイブ「ちいつ、エンペラードラゴリー、こいつらを殺せ!!」

エンペラードラゴリー「グオオオオー!!」

エンペラードラゴリーが羽から毒粉をリバイとバレルに向けて撒く。

キングムルチ「ギャオオオオー!!」

キングムルチが口から酸液を吐いて、エンペラードラゴリーの撒いた毒粉を払い、体当たりした。

リバイ「キングムルチ、お前も一緒に戦うぞ!!」

キングムルチ「ギャオオオオー!!」

リバイ「行くぞ!!」

パートナーのキングムルチと共に戦いに駆けるリバイ。キングムルチはエンペラードラゴリーに尻尾を振ってぶつけていき、身体で体当たりした。エンペラードラゴリーは、パンチでキングムルチの顔を殴った。

キング「ギャオオオオー!!」

エンペラードラゴリー「グオオオオー!!」

怪獣と超獣、2匹がぶつかり合い、全てを上回る超獣エンペラードラゴリーに怪獣キングムルチが互角に渡り合い、激闘した。

リバイ「はああああああー!!」

スラッガーブレードで巨大化したステイブに斬り込むリバイ。バレルがサイクロンソーサーをシュートして巨大化したステイブに喰らわせて、そのままカナツキで斬撃した。

ステイブ「調子に乗るなあっ!!死ねえっ!!」

ランスを振り回してリバイとバレルに薙ぎ払うが、

リバイ「これでどうだ!! プラズマスパークスラッシュ!!」

スラッガーブレードを発光して必殺技を発動して、巨大化したステイブに大きく斬り込んだ。

ステイブ「ぎゃあああー!!」

リバイの新しい武器の必殺技を喰らってやれたステイブは、元の姿に戻った。

ステイブ「覚えてろ!!」

自身のバトルナイザーでエンペラードラゴリーを呼び戻し、そのまま逃走した。

リバイ「……」

バレル「まずは無事収まったな。」

リバイ「ああ。」

次は会う時は、再び決着を着けることを胸に入れ込むリバイ。

リク「……」

ウルトラマンヒカリから授かった新しいウルトラカプセル2つを手にしながら、ケイのキングギヤラクトロンに再び挑む。

リク「新しい力を見せてやる。」

キングギヤラクトロン（ケイ）「無駄なあがきを。」

リク「今ここで見せてやる!!」

ウルトラマンゼロのカプセルとウルトラの父のカプセルを手にしながらナツクルに装着して、ジードライザーにスキャンした。

リク「ユーゴー!!アイゴー!!ヒアウィーゴー!!」

ジードライザー「フュージョンライズ!!」

リク「守るぜ!!希望!!」

ジードライザー「ウルトラマンゼロ!!ウルトラの父!!フュージョンライズ!!ウルトラマンジードマグニフィセント!!」

2つのカプセルにスキャンしたリクはウルトラマンジードマグニフィセントへとなり、姿頭部にウルトラホーンとゼロスラッガーを組み合わせた角をし、頭部真上にゼロスラッガーに似たトサカをし、甲冑をした姿だ。

キングギヤラクトロン(ケイ)「所詮は変わったただけだ、何度も同じ事だ!!」

ペダニウムハードランチャーでウルトラマンジードマグニフィセントに向かって強力な光線を放った。

ウルトラマンジードマグニフィセント(リク)「アレジングジードバリア!!」

発射された光線をウルトラマンジードマグニフィセントがウルトラの父のウルトラアレイの形の光を高速回転させて、防いだ。

ウルトラマンジードマグニフィセント(リク)「はあっ!!」

手から緑色の手裏剣状の光輪のメガスライサークロスを投げて、キ

ングギャラクトロンの喰らわせた。

キングギャラクトロン（ケイ）「ぐうっ!!」

ウルトラマンジードマグニフィセントのメガスライサークロスの攻撃を受けたキングギャラクトロン。

キングギャラクトロン（ケイ）「いい気になるなよ!!」

急進してウルトラマンジードマグニフィセントに向かって殴りかかるキングギャラクトロン。ウルトラマンジードマグニフィセントも前に出て、キングギャラクトロンと格闘戦をする。

ウルトラマンジードマグニフィセント（リク）「うおおおおおー!!」

両者の繰り出す拳と拳がぶつかり合う中、ウルトラマンジードマグニフィセントは拳に緑色のエネルギーを纏って、メガボンバーパンチを連打してキングギャラクトロンにぶち込んだ。

キングギャラクトロン（ケイ）「ぐわああああー!!」

ウルトラマンジードマグニフィセントの繰り出す連打パンチを喰らったキングギャラクトロン。右腕がペダニウムハードランチャーであるため、うまく格闘戦をいけなかった点もあった。

ウルトラマンジードマグニフィセント「これで終わりだ、ビツクバスタウエイ!!」

トドメを刺すべくウルトラマンジードマグニフィセントは拳を合わせエネルギーをスパークさせた後、L時に組んで光線を放ち、キン

グギャラクトロンに喰わらせた。

キングギャラクトロン（ケイ）「うわあああああー!!」

ウルトラマンジードマグニフィセントの必殺技を受けてやられたキングギャラクトロンは、そのまま実体を消し、元のケイに戻った。

ユーフェミア「……………」

ユーフェミアの操縦するデスステインガーが尻尾の荷電粒子砲でヴイルキス、ヴアルヴレイヴ4、ソルシェウイサリスに向けた。すぐに回避した3機。

サキ「このままじゃ倒せないわ。」

美月「さらに動きが増してるみたいよ。」

アンジュ「さつきパイロットに異変があつたみたいね。」

サキ「そう言えばさつき、攻撃を受けた時にパイロットも異変が起きていたわ。」

美月「確かに何か変だったわ。あのパイロット、苦しんでいるみたいね。」

アンジュ「……………」

サキ、美月「アンジュ?」

アンジュはある行動に出て、ユーフェミアのデスステインガーの前に立ち、歌い始めた。

サキ、美月「!!」

アンジュが歌い出した事で、デスステインガーを操縦したユーフェミアに再び異変が起きた。

ユーフェミア「あつ、あああつ!!」

アンジュの歌い出した歌でユーフェミアの動きに異変が起き、ユーフェミアが苦しみ出した。

サキ、美月「?!」

また、サキと美月もアンジュの歌に反応し、サキと美月も歌い出した。アンジュ、サキ、美月の合唱により、ユーフェミアは収まりつつ、デステインガーの動きは止まった。一方、ルキアーノのパーシヴァルに追い詰められる撃龍神。

ルキアーノ「もう終わりか?!」

撃龍神「うううっ。」

ルキアーノのパーシヴァルの4連クローから発生したルミナスコーンの攻撃を喰らう撃龍神。そんな中、ピンチの撃龍神の前にウルトラマンヒカリが現れた。

撃龍神「?!」

ルキアーノ「ん?」

ウルトラマンヒカリ「私が相手だ。」

ルキアーノ「死にたいのですか? お望みどおり殺してあげましょう!!」

ウルトラマンヒカリに向かって4連クローから発生したルミナスコーンで攻撃しにかかった。

ウルトラマンヒカリ「その攻撃、お見通しだ!!」

ルキアーノの攻撃をすぐに見切りながら、ナイトブレスを使わずに素手による手刀でパーシヴァルの右腕を切断した。

ルキアーノ「なっ、馬鹿な?!」



ウルトラマンヒカリーに一瞬でパーシヴァルの右腕が破壊されたルキアーノ。

ウルトラマンヒカリー「無駄な殺生はやめるんだな。」  
ルキアーノ「ちいっ!!」

パーシヴァルの右腕を破壊された以上、戦闘は不能と判断したルキアーノは、すぐに撤退した。

撃龍神「助けてくれて、感謝する。」

ウルトラマンヒカリー「君の戦いを見せてもらったよ。君は昔の私と同じだ。」

撃龍神「どう言う事だ?」

ウルトラマンヒカリー「憎しみに囚われてはならない。」

撃龍神の戦いを見たウルトラマンヒカリーは彼に憎しみに囚われていた事で昔の自分と同じだった事を告げた。一方、ウルトラマンゼロエクシアは、大宦官の大竜胆とエクセラアのチブルギヤラクトロンを相手に戦っていた。

ウルトラマンゼロエクシア「てやああああー!!」

チブルギヤラクトロン of ギヤラクトロンブレードをゼロエクシアソードで受け止めて、脚で蹴りを強いて腹部に打ち込んだ。

エクセラア「効いてません!!」

ウルトラマンゼロエクシア「こいつはどうだ!!」

TP装甲で覆われたチブルギヤラクトロンに対し、ゼロブライトダガーを出して腹部に突き刺した。

エクセラ―「わあっ、私のチブルギヤラクトロンの傷が?!」  
ウルトラマンゼロエクシア「物理攻撃が効かないなら非物理攻撃なら効くだろ。」

エクセラ―「てめえええええええー!!よくもやりやがったなあ!!」

チブルギヤラクトロンの腹部に傷を負わせられたブチ切れたエクセラ―が右腕を分離して、ウルトラマンゼロエクシアの周りを撃ち込む。

ウルトラマンゼロエクシア「そんなもん効くかよ!!」

ゼロエクシアソードで、チブルギヤラクトロンの右腕を斬撃して破壊し、チブルギヤラクトロンの斬撃した。

エクセラ―「調子に乗るなああああああー!!」

腹部からギヤラクトロンスパークをウルトラマンゼロエクシアに向けて発射した。ゼロエクシアシールドで防ぎ、そのままチブルギヤラクトロンの攻撃をしかかる。

趙皓「死ねえ!!」

大竜胆の大型主砲と副主砲が発射してウルトラマンゼロエクシアに攻撃した。

ウルトラマンゼロエクシア（刹那）「ゼロ!!」

ウルトラマンゼロエクシア「まずはこいつらを先に倒さないとな。」

人革連を支配する大宦官を先に倒すべく、ウルトラマンゼロエクシアが手を握りしめて拳で殴りにかかった。

ウルトラマンゼロエクシア（刹那）「ゼロエクシア100烈パンチ  
!!」

ウルトラマンゼロエクシアが両腕から繰り出すゼロエクシア100烈パンチで大宦官の大竜胆に連打パンチする。

ウルトラマンゼロエクシア「オラオラオラオラー!!」

趙皓、夏望、程忠、項勝、蔡力士、童倫、黄遷「ぐぎやああああー  
!!」

ウルトラマンゼロエクシアの繰り出す100烈パンチで大竜胆は壊滅した。

ウルトラマンゼロエクシア（刹那）「真上にいる女の子も助けよう。」

ウルトラマンゼロエクシア「ああ。」

上空にいるギヤラクトロンの囚われた天子を救うべく上空を飛ぶウルトラマンゼロエクシア。目から光線を放ち、ウルトラマンゼロエクシアに攻撃するギヤラクترون。ゼロエクシアシールドでギヤラクトロンの攻撃を防ぎ、ゼロエクシアソードを前に出して、ギヤラクトロンの右腕を切断した。ウルトラマンゼロエクシアに右腕を破壊されたギヤラクترونは、左腕からギヤラクトロブレードで切りかかった。

ウルトラマンゼロエクシア「ゼロエクシアスマッシュユ!!」

ゼロエクシアソードを発光して光状を纏いながらギヤラクトロンの左腕を大きく斬り込んで破壊した。両腕を失ったギヤラクترون

にウルトラマンゼロエクシアが天子を救うべく、彼女をギャラクトロン  
の内部から引き離すために拳で腹部を殴り、腹部に穴が出来て、囚  
われた天子を掴んでそのまま彼女を引き離した。

ウルトラマンゼロエクシア「これで終わりだ!!」

天子を引き離し、ギャラクトロンにとどめを刺しべくウルトラマン  
ゼロエクシアは頭部の額のビームランプからゼロエクシアエメリウ  
ムスラツシユを発射して、ギャラクトロンを破壊した。天子を救った  
ウルトラマンゼロエクシアは、彼女を地上に置き、残る敵のエクセ  
ラーのチブルギヤラクトロンのみだ。

ウルトラマンゼロエクシア（刹那）「後はお前だけだ。」

エクセラ―「馬鹿め、お前達がこの人革連の地で悪の反逆者である  
事を・・・!!」

エルエルフ「残念な知らせが入ったな。たった今、お前達の悪行が  
人革連全土に知られ渡った。」

エルエルフが事前に行ったTVの占拠を行い、大宦官がして来た悪  
行を人革連全土に流して、国民達に知れ渡り、全土に流れた今、国民  
は一斉に立ち上がり、暴動を起こした。

ロシア

モスクワ

人革連国民一同1「うおおおー!!」

インド

ニューデリー

人革連国民一同2「大宦官は俺達を売るつもりだったのか!!」

大宦官の悪行を知った人革連国民達が立ち上がり、人革連各地で暴動が起こし始め、抑えきれない状態になった。

人革連兵（大宦官派） 1 「反逆者の分際が!!」

暴動を起こした国民に向かって銃を向けようとする兵士達。

ジャグラー「おっと、そうはさせないぞ。」

兵士達の前にジャグラーが現れて、彼は蛇心剣をだして、銃を全て斬り込んだ。

ジャグラー「死にたくなければ大人しく去りな。」

ジャグラーの強さに兵士達はすぐに引いた。

中国

北京

朱禁城周辺

エクセラー「もうミー達はおしまいだああああー!!」

ウルトラマンゼロエクシア「後はお前を倒すだけだ!!」

もはや国民達が起こした暴動で事態は収まらず、ついに自分達は逆賊となってしまうたエクセラーら。

ジノ「お前達の流してくれた事で俺は今日ここで新たな決意をする。」

また、エルエルフの流した映像でガイロス帝国のジノがある行動に

出始めた。それは、大宦官派のMS部隊に攻撃をした。

スザク「ジノ!!」

ジノ「俺は今日から帝国を抜ける!!」

カノン「貴様、裏切る気か?!」

ジノ「醜悪を漂う者と組むのなら俺はお前達と決別する!!」

スザク「そうか。君はもう今日から敵だ。」

ジノ「……………」

大宦官と組む自国に対し、決別する事を宣言したジノ。ジノの取った行為に対し、スザクらは彼を裏切り者とみなした。

エクセラ―「ウルトラマンゼロ、お前だけでも!!」

エクセラ―がウルトラマンゼロエクシアに向かって猛威を振るいながらギャラクトロンブレードで斬りかかって来た。

ウルトラマンゼロエクシア「お前もこれで終わりだ!!ゼロエクシアセブンスソード!!」

エクセラ―にとどめを刺すべくウルトラマンゼロエクシアは必殺技のゼロエクシアセブンスソードを発動して、手持ちの7つの剣を発光して光状を纏いながらチブルギャラクトロンにゼロブライトダガー2本で斬撃して刺突し、次にゼロブライトサーベル2本で斬撃して刺突し、さらに続いてゼロロングブレイドとゼロショートブレイドによるX斬りをして刺突し、最後にゼロエクシアソードによる斬撃の一撃を与えた。

エクセラ―「ぎゃあああああああー、嘘だ、ミーがこんなところで死ぬ、死ぬのはいやだあああああああー!!」

ウルトラマンゼロエクシアの必殺技のゼロエクシアセブンズソードによってチブルギヤラクトロンの爆発と共に最期を遂げたエクセラ。

ウルトラマンゼロエクシア「終わったな。」

ウルトラマンゼロエクシア（刹那）「ああ。」

ついに大宦官を倒した一同。彼らを倒した事で人革連は解放され、天子もようやく彼らから解放され自由の身となった。

天子「星刻ー!!」

星刻「天子様!!」

ついに再会する事が出来て互い抱き合う星刻と天子。

マリユー「ようやく人革連との戦いが終わったわ。」

ムウ「そうだな。」

エルエルフ「いや、まだだ。」

肝心な事を言うエルエルフ。それは倒された大宦官がまだ生きていた事だ。

趙皓「ひいひいひいひい、どうかお許してください、ウルトラマン様!!」

ウルトラマンヒカリ「……。」

ウルトラの父「お前達がこれまでして来た悪行、自分達の行いを見る!!」

ウルトラの父は大宦官らに光の国から持って来たウルトラミラーを出して、鏡で大宦官が今まで行って来た数々の悪行を写した。

夏望「うわああああー、民を苦しめて来た事は悪かった!!」

項勝「死にたくない、死にたくない、わしらを許してくれ!!」

星刻「貴様ら!!」

ウルトラマンゼロエクシア「こいつは俺らがやる」

ムサシ「ゼロ、刹那!!」

ウルトラの父、ウルトラマンヒカリ「……」

趙皓「あっ。」

ウルトラマンゼロエクシア(刹那)「お前達にはちゃんと罪を償わせ  
てもらおう!!」

ウルトラマンゼロエクシアが両拳からゼロエクシア1000烈パン  
チを大宦官にぶち込んだ。

ウルトラマンゼロエクシア「これは天子の分、これは江南で虐殺さ  
れた人達の分、これは血を流して立ち向かった反乱軍の分、そしてこ  
れはお前達に虐げられて犠牲になった人達の分だあっ!!」

趙皓、夏望、程忠、項勝、蔡力士、童倫、黄遷「ぎよええええええー  
!!」

今まで苦しめられた数々の人々の分をウルトラマンゼロエクシアが  
代わりに大宦官に殴り込み、今まで大宦官によって苦しめられ、虐げ  
られてきた痛みを大宦官にも彼らの痛みを味合させた。

ウルトラマンゼロエクシア「今度こそこれで終わったな。」

ウルトラマンゼロエクシア(刹那)「ああ、これで奴らも二度と立ち  
上がる事はもうないだろう。」

ウルトラマンゼロエクシアの打ち込んだ拳で大宦官が二度と再起  
出来ないような身体にし、大宦官がこれで人革連を握る事はなくなっ  
た。



ウルトラマンゼロエクシア「安心しろ、殺す程度までは行つてない。奴らの身体を二度と動けないようにしたただけだ。」

ムサシ「ゼロ、刹那。」

ウルトラマンゼロエクシア（刹那）「？」

ムサシ「殴った事はすまなかった。」

ウルトラマンゼロエクシア（刹那）「殴られた事は気にしてない。」

ムサシ「痛くなかったか？」

ウルトラマンゼロエクシア（刹那）「……………」

人革連にようやく平和が訪れ、大宦官の支配から解放された。そんな中、彼らの前に浮雲な出来事が起きた。

ウルトラマンベリアル「見苦しいぞ、大宦官共。」

一同「?!」

ウルトラマンジードマグニフィセント（リク）「!!」

ウルトラマンゼロエクシア「この声、まさか?!」

突如、姿を現したウルトラマンゼロの最大の宿敵ウルトラマンベリアルが姿を表し、また彼以外にもヒステリカに乗ったエンブリヲとレイブラッド星人までもが現れた。

ウルトラマンゼロエクシア「ベリアル、エンブリヲ、レイブラッド!!」

レイブラッド星人「私は蘇ったのだ!!」

ガイ「ベリアル、エンブリヲ、レイブラッド……………」

趙皓「ベリアル様、エンブリヲ様、レイブラッド様……………助けてください……………」

ウルトラマンベリアル「助けるだあ?ここを守りきれなかったお前達にはもはや用済みだ!!」

人革連が陥落した事で大宦官を用済みとしたウルトラマンベリアは、彼らに向かってデスシウム光線を放ち、倒れている大宦官に直撃した。

趙皓、夏望、程忠、項勝、蔡力士、童倫、黄遷「ぎやああああああああー!!」

主に切り捨てられて、早速無惨な最期を遂げた大宦官。

エンブリヲ「揃っているようだね。」

ウルトラマンベリアル「久しぶりだったな、ウルトラマンゼロ。そして我が息子、ジードよ。」

ウルトラマンジードマグニフィセント（リク）「……………」

ウルトラマンゼロエクシア「ベリアル、てめえ!!」

エンブリヲ「君達にはここで消えてもらうか。」

エンブリヲのヒステリカから両肩、翼からデイスコード・フェイザーを展開して、絶唱の響がウルトラマンゼロエクシアとウルトラマンジードマグニフィセントに向けた。

アンジュ、サキ、美月、キラ、ハルト、バン「危ない!!」

すぐに2人の元へ駆けつけたアンジュら。アンジュのヴィルキスが青色へと変化し、アリエルモードになって、ヒステリカの放った絶唱の響をかわすため、ヴィルキスアリエルモードはウルトラマンゼロエクシア、ウルトラマンジードマグニフィセント、エールストライク、ヴァルヴレイヴ1、ヴァルヴレイヴ4、ソルシェウイサリス、ライガーゼロと共に瞬間移動し、この地から消え去った。

次回 22話へ続く

## 第22話 もう1つの世界

ヴィルキスアリエルモードの瞬間移動で共に飛ばされたウルトラマンゼロエクシア、ウルトラマンジードマグニフィセント、エールストライク、ヴァルヴレイヴ1、ヴァルヴレイヴ4、ソルシエウイサリス、ライガーゼロ。彼らが着いたのは、見知らぬ場所に着いた。

???

アンジユ「こっ、ここは？」

カナメ「お目覚めですか？」

アンジユ「誰？」

カナメ「あなた達が突然この世界へやって飛ばされたので私達が保護しました。」

アンジユ「この世界って？」

カナメ「まずはあなたのお仲間の元へ連れて参ります。」

目が覚めたアンジユを仲間の元へ案内するカナメ。着いた場所は、大きな建物の和室だ。

和室

アンジユ「ここは？」

キラ「ようやく目が覚めたね、アンジユ。」

アンジユ「キラ、みんな!!」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイNEO）「俺達はここへ来ちまったか。」

美月「……。」

アンジユ「どうしたの一体？」

サラ「ようこそ、アウラの里。そしてもう1つの地球へ。」

アンジユ「もう1つの地球？」

サラ「お話ししましょう。この世界はかつては500年前の大戦で荒廃した世界。私達はその生き残りの末裔です。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「ここは遥か大昔に起きた大戦で荒廃した世界に来たわけだ。」

サキ「何だかすごいところに来てしまったわ。」

サラ「あなた達は私達の世界へ初めてのようですね。」

キラ「初めて？」

サラ「私の世界はドラゴンと怪獣が共に共存する世界。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「コスモスの世界と同じだな。」

サラ「そのあなた、他の世界にもご存知のようですね。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「俺はいくつかの世界を見て渡って来た。ここも怪獣と共存出来る世界があったとは。」

サラ「その前に私の名前を言い忘れましたわ。私の名前はサラマンデーネ。またの名はサラとお呼びください。」

アンジユ「うーん、サラだと物足りないからサラ子でどうかしら？」

ナーガ「サラマンデーネ様にそのような言葉・・・!!」

サラ「いえ、構いません。私はお気にしてませんわ。」

アンジユ「そう。じゃあサラ子、色々聞きたい事があるわ。」

サラ「何かしら？」

アンジユ「あなた達はどうやって生きていたの？」

サラ「私達は荒廃した世界に適応するために自らの肉体を改造した、偉大なる始祖。「私達は罪深き人類の歴史を受け入れ、贖罪と浄化のため、生きることを決めたのです。アウラと共に。」

リク「アウラ？」

サラ「アウラは、この世界の偉大なる始祖。私達はアウラのおかげで生き続けたのです。男性は大型ドラゴンとなって地表に散らばるドラグニウムを摂取、体内で安定化した結晶とし、世界の浄化のために生きる。女性はドラゴンと人間、両方の姿になり、社会生活を営み、子を産み育てる。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「俺達ウルトラマンとちよつと似ているな。」

サラ「だが、アウラはいなくなりました。アウラは、エンブリヲとレイブラッド星人とウルトラマンベリアルに連れ去られました。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「ベリアルとレイブラッドとエンブリヲがこの世界に来ていたのか?」

サラ「彼らを知っているのですか?」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「ああ、奴らはマギウス101人評議会と共に別の世界を支配し、あらゆる種族と対立、戦争を起こし、政治、経済、金融など全て裏で牛耳る。」

サラ「彼らはアウラを使ってあなた達の世界を支配しているのですか?」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「俺もそこまでは詳しくない。マギウス101人評議会の奴らは、人をさらって自分の食糧とする人のRUNEを吸い尽くしている。」

刹那「俺とゼロは地球各地にあるRUNEに関する施設を破壊して来た。」

サラ「アウラ以外にもさらった人達を使っていたのですか?」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「コズミックイラの世界は、奴らの思いのまま支配されている。奴らと一番関わりのある人物、ガイロス帝国のギウンター||プロイツェン、シャルル||ジ||ブリタニア、ARUSのアレハンドロ||コーナー、ジェフリー||アンダーソン、プラントのアマデウス||K||ドルシア、ジュリオ||飛鳥||ミスルギ、ラウ||ル||クル||ゼ、カイン||ドレ||ッセルら、先日俺達が遭遇した人革連の大臣官もだ。他にも関わっている連中にはいる。彼らはベリアルとレイブラッドとエンブリヲとマギウス101人評議会と通じてコズミックイラの世界を牛耳っている。また他世界への侵攻も目論んでいる。」

アンジュ「……。」

キラ「どうしたのアンジュ?」

アンジュ「兄が関わっていたのね。私が洗礼の儀の日に嵌めたのも

101人評議会と一緒に。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイNEO）「アンジユ。」

サラ「少しお話を變えていただきます。そのあなた達4人。」

サキ「あたし？」

ファイネ「？」

美月「私達に用があるみたいね。」

アンジユ「次は何？」

サラ「あなた達は私と同じ永遠語りを継ぐ者です。」

サキ「永遠語り？」

サラ「特に先日あなた達3人は永遠語りを歌いましたね。」

サキ「あたしとアンジユと美月と一緒に歌ったのが永遠語りだったんだ。」

アンジユ「永遠語りは代々我が家か伝わる歌。この歌はお母様から教わったの。」

サキ「永遠語りは真なる星歌。偽りから解放すべく真実の歌。あなた達の世界は偽りに支配されている。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイNEO）「ゴズミックイラの世界は、ベリアルとレイブラッドとエンブリヲと101人評議会によって与えられた偽りの日常、平穩を見て来た。何も知らずに平穩を日々過ごしている。」

サラ「彼らはエンブリヲらの手のひらで踊らされているのですね。」  
ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイNEO）「だが、唯一エンブリヲの支配の影響を受けていないところがある。それはヘリック共和国、オーブ首長国、スカンジナビア王国。特にヘリック共和国は前々からこの偽りの日々と戦っている。」

サラ「ゴズミックイラの世界にエンブリヲらに影響を受けない国家があつたんですか？実はゴズミックイラの世界に私達の協力者がいます。」

キラ「協力者？」

サラ「その人物はラクスⅡクラインとリーゼロツテⅡWⅡドルシアです。」

キラ「ラクスさんとリーゼロッテさんが?！」

サラ「2人はこのコスミックイラの世界でエンブリヲの偽りの日々から立ち向かっているのです。」

アンジユ「ラクスとリーゼロッテがなぜあなたの協力者なの?!」

サラ「2人はこの世界での出来事に早速気付き、自ら動き始めたのです。特にラクスは平和の歌姫としてありながら裏ではエンブリヲの支配に立ち向かうための準備を進めているのです。」

アンジユ「ラクスとリーゼロッテが……。」

キラ「アンジユ。」

アンジユ「私は結局何も知らないままだったのね。」

サラから聞かされた真実を聞いたキラ達は、コスミックイラの世界はウルトラマンベリアルとレイブラッドとエンブリヲと101人評議会によって偽りの平穏と日常を与えられ、誰1人も疑う事なく過ごし、自分達が奴らの手のひらに踊らされ、またエンブリヲらの偽りの日々から打倒すべく立ち上がったのはラクスとリーゼロッテだ。2人はエンブリヲらの支配から解放すべく裏で行動し、またエンブリヲらの支配の影響を受けなかった国、自分達が共に一緒に戦ってきたヘリック共和国、中立国のオーブ首長国とスカンジナビア王国。

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「ガイも確かコスミックイラへやって、エンブリヲらの支配から立ち向かうヘリック共和国とGGGの面々と一緒に協力して戦ってる。」

サラ「ヘリック共和国は最初からエンブリヲらに立ち向かって戦っていたのですか。」

美月「私は子供とリクと一緒に裏で戦っていたわ。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「美月、お前。」

美月「黙っていたけど、私もエンブリヲらの支配のから裏から行動を取っていたわ。」

リク「俺は美月さんと一緒に行動してきました。」

美月「エンブリヲらの支配はとてつもない脅威を感じたわ。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「このまま全宇宙と世界が奴らの手に渡ってしまう。」

サラ「彼らを倒すには永遠語りを継ぐ者を揃わないと倒す事が出来ないのです。現在永遠語りを継ぐ者は私やラクスやリーゼロツテを含めた7人。他の残り数人です。現在まだ他の者が見つかっていないのです。」

アンジュ「先日私達が中国でデスステインガーに乗ったパイロットに永遠語りを歌ったら異変が起きたの。」

サラ「もしかしてそのパイロットは私達と同じ永遠語りを継ぐ者では……。」

アンジュ「あのパイロットが?!」

サラ「もしかしてするとしたらあなたの方が永遠語りを歌って影響が出た人物は多分私やあなた方と同じ永遠語りを継ぐ者です。エンブリヲらはすでに永遠語りを継ぐ者を狙い始めたのです。」

永遠語りを継ぐ者が世界の真実を明かすための存在、現在永遠語りを継ぐ者は、アンジュ、サキ、美月、ラクス、リーゼロツテ、サラ、ユーフェミア。他の残りの者はまだ見つからず、ウルトラマンベリアル、レイブラッド星人、エンブリヲ、101人評議会らが永遠語りを継ぐ者に狙い始めており、既に1人であるユーフェミアは、奴らの手に落ちてしまい、超兵にされてしまった。一方、人革連が陥落した事で、101人評議会に再び召集されたプロイツェン、シャルルら。

???

男マジウス1「光の国も本格的に動いて来たではないか!!」

男マジウス2「人革連が陥落した故に反逆のヘリック共が我々を追い詰めている!!」

プロイツェン「マジウスの方々の皆様、落ち着いてください。」

老マジウス1「人革連まで失ったんだぞ、どうしてくれる!!」

女マジウス1「責任は取ってもらうぞ!!」



プロイツェン、シャルル「……」。

男マギウス2「言いたいことはないか?!」

アマデウス「マギウス101人評議会の方々の皆様、冷静になり、今後の事をどうか考え直してください。」

女マギウス2「プラントの貴様は黙れ!!事態は深刻な状況だ!!このまま時間がない!!我々も後はないんだぞ!!」

男マギウス3「次は我々を狙う可能性もあり得るんだぞ!!」

ウルトラマンベリアル「騒がしいぞ、マギウス共!!」

老マギウス1「ベリアル!!」

ウルトラマンベリアル「お前らは毎回自分達の事しか考えてないな!!」

女マギウス1「余所者の貴様ごときの言う事!!」

ウルトラマンベリアル「俺とやり合うつもりか?やり合うと言うのならお前らはまとめて始末してやるぞ。」

マギウス一同「くっ。」

ウルトラマンベリアル「おとなしくしやがったか。」

エンブリヲ「マギウスの方々はすぐにカツとするようだ。」

レイブラッド星人「本題だ、奴らはどうやら永遠語りを歌い始めたようだ。」

エンブリヲ「あの歌か。この歌は君達の国のところだったようだな、ジュリオ。」

ジュリオ「はっ、はい、エンブリヲ様。」

エンブリヲ「その歌を歌ったのは君の妹のアンジュのようだ。」

ジュリオ「あのノーマが?!」

エンブリヲ「君達マナはノーマやナチュラルを激しく嫌っているね。」

ジュリオ「あの汚らわしく忌々しいノーマなど奴隷に過ぎん!!」

レイブラッド星人「口を慎め、若造。この評議会にはナチュラルもいるぞ。」

ジュリオ「うっ。」

プロイツェン「欠落した分際が。今後はヘリックとウルトラマンの

連中を大きく目に集中する。奴らはオーブ首長国へ向かう。」

アレハンドロ「プロイツェン、シャルル、こちらにも本格的に動かねばならないな。」

プロイツェン「わかっている。永遠語りを継ぐ者。」

その頃、並行世界の地球では、コズミックイラの世界へ帰ろうとするアンジュ達にサラは、異空間ゲートを開かせた。

並行世界の地球

アウラの里

サラ「もう行かれるのですか。」

刹那「俺達はコズミックイラを牛耳る奴らを倒しに行く。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイNEO）「ああ、一刻も早くベリアル達の野望を食い止めないとならない。」

キラ「みんなだつて僕達の帰りを待っているから。」

サラ「そうですね。私達もいずれはあなた達と一緒に戦う日は来ます。」

美月「その日が来るといいわね。」

サラ「美月。ちよつといいかしら?」

美月「?」

サラ「あなたと連れ子はすでにもう普通ではなくなっている事を。」

美月、みな、こう「……。」

アンジュ「?」

美月「元の世界へ帰りましょう。」

異空間ゲートへと入るキラ達は、ゲートを通じて進み、コズミックの世界にようやく戻った。

コズミックイラ

地球

海上

キラ「ここは？」

ハルト「元の世界へ帰って来たみたいだ。」

ウルトラマンゼロ「そうだな、それとあそこで戦いがもう起きているようだ。」

コズミックイラの世界に帰還したキラ達は、海上ですでに戦闘が起きているのを目の当たりにした。凱達は、ザフト軍と黒の騎士団、さらにスローネ3機と戦っていた。

凱「うおおおー!!」

ガトリングドライバーで、スローネツヴァイ、スローネドライに向かって突撃するスターガオガイガー。

ミハイル「邪魔だ!!」

ミハイルのスローネツヴァイがGNバスターソードでスターガオガイガーのガトリングドライバーを受け止めて、腰部から8基のGNファンングを放出して、スターガオガイガーに喰らわせた。

ディアツカ「落ちろ!!」

バスターの超高インパルス長射程狙撃ライフルで、ウルトラマンガイアV2に喰らわせた。

ウルトラマンガイアV2「デヤアっ!!」

両手から光弾を発射してバスターに喰らわせた。

ウルトラマンゼロ「ザフト軍と黒の騎士団が相手か。」

キラ「それにあの3機はガンダム？」

バン「あれはスローネじゃないか?！」

ハルト「知っているの?」

バン「とにかく話は後だ、すぐに倒しに行くぞ。」

ハルト「スローネ……。凱さんの学校を破壊したガンダム。」

目の前にいるスローネを見たハルトらは凱から以前話を聞かされ、自分達の学校を破壊して生徒を虐殺した張本人である事を知った。

凱「お前らが俺達の学校を破壊した奴らだな!!」

ネーナ「何すぐムキになっていかれてんの?」

凱「忘れたとは言わせないぞ!!」

ネーナ「ウザいんだよ、アンタ!!」

凱「貴様!!」

相手の態度に切れた凱は、スローネドライに向かって思いっきりパンチをして喰らわせた。

ルルーシュ「ナナリーをどこへやった、答えろ!!」

妹のナナリーがスローネに連れさらわれた事で彼女の居場所を聞き出そうとするルルーシュは、ヨハンねスローネアインに向かって攻撃する。

ヨハン「彼女の事か?」

ルルーシュ「ああ、俺の妹だ。今どこにいる?！」

ヨハン「彼女なら帝国にいる。」

ルルーシュ「何?！」

ヨハン「今頃、帝国の人間として戻っているだろう。」  
ルルーシュ「貴様あー!!」

連れ去らわれたナナリーをガイロス帝国にいと知ったルルーシユは、激昂してヨハンのスローネアインに攻撃した。ヨハンはルルーシユの蜃気楼にGNランチャーで攻撃するが、蜃気楼の絶対守護領域により防がれた。

ウルトラマンゼロ（刹那）「俺達が相手だ!!」

ヨハン「来たか、ウルトラマンゼロか。」

ようやく駆けつけに現れたウルトラマンゼロ達らを見たヨハンは、ザフト軍と交戦中のロックオンのデユナメスに声をかけた。

ヨハン「ロックオン!! ストラトス、いやニール!! デイランデイ。」

ウルトラマンゼロ（刹那）「ニール!! デイランデイ?」

ヨハン「ロックオン、君がGGGに入ってから復讐を遂げたい者の1人は君のすぐ傍にいるぞ」

ロックオン「何だと!？」

ヨハン「クルジス共和国の反政府ゲリラ組織KPSA。その構成員の中にソラン・イブラヒムがいた。」

ウルトラマンゼロ、ウルトラマンゼロ（刹那）「!!」

ロックオン「ああん?! 誰だよ?! そいつは!」

ヨハン「ソラン!! イブラヒム・・・ウルトラマンゼロが名付けた刹那!! F!! セイエイ」

ロックオン「刹那だとお?!」

ヨハン「そうだ。彼は君の両親と妹を殺した組織の一員。君の仇と  
言うべき存在だ」

ロックオン「刹那・・・。」

ヨハンから自分の家族を殺したのが、テロ組織KPSAのソラン・イブラヒム、その人物が刹那!! F!! セイエイであると知ったロックオ

ン。スローネらはすぐさま撤退し、まだザフト軍も撤退したが黒の騎士団だけこの場に残り、刹那達へリック共和国、GGGの面々と話し合いの場に加わった。

## 孤島

ゼロ（ルルーシュ）「獅子王凱、またまた会えたな。」

凱「お前とは何度も顔を合わせてるな。それとまずはこっちだ。」

ロックオン「本当なのか、刹那。お前はKPSAに所属していたのか？」

刹那「ああ。」

ロックオン「クルジス出身か？」

刹那「ああ。」

ムサシ「（ゲリラの少年兵……）」

刹那「ロックオン、スローネが言っていた事だ。」

ロックオン「事実だよ。俺の両親と妹はKPSAの自爆テロに巻き込まれて死亡した。全ての始まりは、コーディネイター、マナへの差別が始まり、宇宙で暮らすのが嫌だから中東とアフリカと南米などに植民地を始めた。その植民地化で国の経済が傾き、国民は貧困に喘ぐ。貧しき者は神にすがり、神の代弁者の声に耳を傾ける。富や権力を求める浅ましい人間の声をな。神の土地に住む者達の聖戦、自分勝手な理屈だ。勿論一方的に植民地化したARUSやガイロス帝国や人革連もそうだ。だが、神や宗教が悪い訳じゃない。植民地だってそうだ。けどな、どうしてもその中で世界は歪む。それくらいわかってる。お前がKPSAに利用されていた事も、望まない戦いを続けていた事もな。だがその歪みに巻き込まれ、俺は家族を失った!!失ったんだよ……!!」

ムサシ「……。」

ティエリア「だから故郷を捨ててGGGに入ったのか。」

ロックオン「ああ、そうだ。矛盾してる事もわかってる。俺がしている事はテロと同じだ。暴力の連鎖を断ち切らず、戦う方を選ん

だ。だがそれはあんな悲劇を2度と起こさない為にも、この世界を根本的に変える必要があるからだ。世界の抑止力となりえる圧倒的な力があれば……。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「お前の家族が死んでしまった事は本当にすまなかった。」

ロックオン「何故お前が謝るんだ、ウルトラマンゼロ。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「刹那は、ずっと利用されてきたあるテロリストによって。」

ロックオン「？」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「そのテロリストの名は、アリーールアルルサージェスだ。」

ロックオン「アリーールアルルサージェス？」

ムサシ「刹那を戦い潰けにしたのはその人物か？」

刹那「奴はモラリアでPMCに所属していた。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「刹那。」

ティエリア「民間軍事会社に?!」

ロックオン「ゲリラの次は傭兵か。ただの戦争中毒じゃねえか！」

ムサシ「何という身勝手な人間だ。」

刹那「俺とゼロは、モラリアの戦場で会い、そして中国で再び再会した。」

ムサシ「あのイナクトと戦ったのは……。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「刹那、いや他の子はアリーールアルルサージェスによって、神を信じていた、信じ込まされていたんだ。」

ロックオン「……。」

刹那「ロックオン。」

ロックオン「事情は全て聞かせてもらった。俺が倒すべき相手だな。」

ロックオンは、刹那から自分の家族を殺害した事実を聞き、刹那を少年兵として仕上げたのがアリーールで、刹那にテロを行わせたのも彼で

あり、アリーこそが家族の仇だと知った。そして凱は黒の騎士団の面々と一人で話をしていた。凱は黒の騎士団の面々にゼロ（ルルーシユ）に彼の出生やこの世界が裏で支配されている事を言ったが、

扇「ゼロがガイロスの人間だと?!」

凱「ゼロ、いやルルーシユはガイロス帝国の人間だ。」

扇「本当なのかゼロ?お前がガイロスの人間って?!」

ゼロ（ルルーシユ）「ああ、お前達には俺の素顔を見せてやる。」  
カレン、ロロ、CC「……。」

ゼロ（ルルーシユ）は自ら仮面を外して、扇達面々にその素顔を見せた。

ルルーシユ「……。」

扇「これがゼロの姿……。」

玉城「ゼロ……。」

藤堂「おまえの素顔なのか?」

ルルーシユ「これが俺の素顔だ。」

凱「よく聞け、ゼロいやルルーシユは、お前達を……。」

玉城「てめえの言葉何て聞くかよ!!俺達はゼロいたからここまで着いてこれたんだ!!」

杉山「お前にゼロの何がわかる!!」

黒の騎士団員一同「そうだ、お前みたいなやつと言うことなんて信じるかよ!!」

凱「……。」

扇「俺達はゼロに着いて行く!!お前のようなものとは組まない!!」  
ルルーシユ「行くぞ。」

自分を信じる仲間達と共にこの場を去るルルーシユ。

次回 22話へ続く



## 第23話 さだめの楔

中立国のオーブ首長国へ向かうアークエンジェル。

移動中

アークエンジェル

ブリッジ

マリユー「オーブにもうすぐ着くわね。」

ムウ「あの国はキラ達の故郷だって。」

ハーマン「彼らにとって故郷の家族と再会を待ちに待っているようだな。」

マリユー「会えるといいわね。」

ハーマン「もうじき着く頃だ。」

ムウ「ようやくか。」

ハーマン「入港の許可はもう出た。そこにいる2人も関係している。」

カガリ、キサカ「……………」

目的地のオーブ首長国にようやく到着したアークエンジェルはオーブ首長国の港に入港する。

オーブ首長国

港

ウズミ「オーブ首長国へよく参られた。」

ハーマン「許可を出していただいたことに感謝します。アークエンジェルにあなたの国の関係者が2人います。」

ウズミ「？」

カガリ、キサカ「……………」

ウズミ「カガリ!!」

カガリ「お父様!!」

一同「?!」

ロツクオン「どうなっている?！」

ハーマン「彼女はウズミⅡナラⅡアスハの娘だ。」

一同「ええええー!!」

一緒に同行していたカガリがオーブ首長国の首長のウズミの娘だと知り、驚愕した。そして一同はオーブ首長国内を散策する事になり、またヘリオポリスにいたミリアリア達は、家族との再会を果たしりした。

市街地

キラ「カガリ、君がウズミ様の娘だった事に驚いたよ。」

カガリ「黙っていた事には悪かった。けど私は何もしてられない自分が許せなかった。」

キラ「世界が戦争しているから争いが止まらない。」

カガリ「世界の戦争が止められなかったから私は一人で行動を起しました。」

アンジュ「無茶な事をするわね。」

カガリ「それとキラ達は家族に会わないのか?」

キラ「今会うわけにはいかないから。」

アンジュ「……。」

カガリ「そっか。ところで何でお前もいるんだ?」

サトミ「……。」

ハルト「連坊小路先輩、そう言えば僕達と一緒にですね。」

サトミ「聞かないでくれないか?」

ティエリア「君は家族に会わないのか?」

サトミ「私とアキラは両親には二度と会いたくないんだ。」

ティエリア「そうか、君が会いたくないなりそれはそれで構わない。」

サトミ「……。」

ティエリア「野火マリエ、君も家族には会いにいかないのか?」

マリエ「私に家族?わからない、私に家族がいたのか?」

テイエリア「わからない？」

マリエ「私は自分が誰なのかわからないの。」

マリエは自分が誰なのかわからず、自分に家族がいたのかすらわからない。一方、刹那とウルトラマンゼロとガイとムサシと貴生川らはハルトとサキとキューマとライゾウらカミツキの面々とウルトラマンゼロ達と一緒にこの世界に同行する事になったウルトラセブンの人団体のダンとウルトラマンレオの人団体のゲンとウルトラマンメビウスの人団体のミライと共にヴァルヴレイヴを開発したオーブ首長国の研究施設に到着し、自分達がなったマギウスについてしっかりと聞こうと確かめる。

#### 研究施設

ハルト「ここがヴァルヴレイヴに関する施設。」

サキ「ヴァルヴレイヴが何なのかはつきり聞かないとね。」

キューマ「カミツキの事をしつかり聞かないとな。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「色々聞きたいことだからだ。ヴァルヴレイヴについてやピノって子の事も。」

ダン「コズミックイラの世界は何か色々あるようだな。」

ゲン「ベリアル、レイブラッド星人、エンブリヲ、マギウス101

人評議会に支配されている。」

ミライ「彼らと関与している人間が何人もいます。」

ガイ「早速来たみたいです。」

ヴァルヴレイヴを開発した人物が早速現れてやって来た。

ソウイチ「……。」

ハルト、貴生川「?!」

サキ「どうしたの？」

ハルト「父さん!!」

ソウイチ「ハルト!!ハルトじゃないか?!」

刹那「知り合いか？」

ハルト「僕の父さんです。」

ガイ「父親なのか？」

ソウイチ「もしかしてハルトのお友達かい？」

刹那「俺達は彼の仲間だ。」

ハルト「色々と訳があつて。」

ガイ「あなたに話があります。」

ソウイチ「もしかして祝福の事を聞きに来たのかい？」

ムサシ「祝福？」

ソウイチ「ハルト達4人がすでにヴァルヴレイヴのマジウスになつた事の意味だよ。」

ミライ「彼らを最初から実験体にしてた事か？」

キューマ「俺達が実験体？」

ライゾウ「どう言う意味だよ?!」

ソウイチ「君達は優れた生命体になる事選ばれたのだよ。」

ミライはソウイチの近くにあつた机の上にあつた数字やアルファベットが並んである写真を見てハルト達4人の事を実験体である事に気付いて指摘した。

ソウイチ「人類の素晴らしき発展するためじゃ。このヴァルヴレイヴは現在の人類の上に立つ新たな人類を作り出す事だ。ナチュラル、コーデイネイター、マナ、宇宙人、ウルトラマンと言つた種族が存在し、究極の生命体を作り出すためにワシはこのVVV計画を実行し、究極の生命体を作り出すために行なつた。」

ハルト、サキ、キューマ、ライゾウ「!!」

貴生川「……。」

刹那「おまえから吐き気がする。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイNEO）「刹那。」

ソウイチ「ヘリオポリスにいる人間は最初からVVV計画に選ばれた存在じゃよ。」

ライゾウ「俺達の学園生活も最初からそうだったのか?!」

キューマ「ヘリオポリスは実験台だったのか?!」

ソウイチ「君達の親が許可したんじゃない。君達を素晴らしい究極の生命体にするために。」

刹那「貴様は歪んでいる。」

ミライ「刹那。」

刹那「お前は人を人だと思ってすらいない。お前は悪魔そのものだ!!」

ソウイチ「ワシの素晴らしい研究を侮辱する気か?!」

刹那「人をモルモットとして扱おうお前は人じゃない!!」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「てめえのような奴は俺も吐き気をする気分だ!!」

ソウイチ「貴様!!」

ハルト「……。」

ソウイチ「ハルト……?」

ハルト「!!」

父ソウイチの狂気の科学を知ったハルトは、彼の顔を殴った。

ソウイチ「ぐわあっ!!」

刹那「ハルト!!」

ハルト「僕は決めたよ。僕はヴァルヴレイヴを破壊する。これ以上呪いが広がらないよう、跡形もなく。」

ソウイチ「やめろ、ハルト!! 人類の素晴らしい科学が、人類の発展が!!」

ハルト「さよなら、父さん。」

父と決別したハルト、この施設を立ち去った。一方、オーブ首長官邸では、ウズミの前にある人物が彼と対面した。

オーブ首長官邸

ウズミ「ヤマトご夫妻、ですな?」

キラの母「ウズミ様、二度とお目に掛からないという約束でしたのに。」

ウズミ「運命の悪戯か、子供等が出会ってしまったのです。致し方ありませんまい。」

キラの母「うっ、うっ。」

ウズミ「……………」

市街地

フレイ「キラ。」

街中でキラ達と遭遇したフレイ。キラはトリイが勝手に飛び回っているのを追いかけていた。

トリイ「トリイ。」

キラ「こら止めろってトリイ。」

フレイ「キラは家族に会わないの?」

キラ「……………」

フレイ「なんで会いに行かないの?」

キラ「……………」

サトミ「おい、フレイ!!」

フレイ「何、あんたもあんたの妹も何で自分の家族に会いに行かないの?」

サトミ「!!」

フレイ「あんたは家族に会いに行くのが嫌なの?」

サトミ「!!」

ティエリア「フレイ!!」

アンジュ「……………」

フレイ「何、あんた。」

アンジュ「この空気が読めないのか、バカ女!!」

空気を読まなかったフレイをアンジュが起こって彼女の顔を殴った。

キラ「アンジュ……。」

モモカ「アンジュリーゼ様。」

フレイ「痛い、この下劣なノーマの分際が!!」

アンジュ「あなたはただ自分の都合の事しか考えていない!!あなたにキラに近づく資格はない!!」

フレイ「……。」

キラ「フレイ。」

フレイ「キラ。」

キラ「君は自分の都合だけでしか考えてない。」

フレイ「何よ、何よそんなの!!」

トリイ「トリイ。」

オーブ首長官邸

キラの母「どんな事態になろうと、絶対に私達があの子に真実を話すことはありません。」

ウズミ「兄弟の事も、ですな?」

キラの父「可哀相な気もしますが、その方がキラの為です。」

キラの母「全ては最初のお約束通りに、ウズミ様にこうしてお目に見せるのも、これが本当に最後でしょう。」

ウズミ「わかりました。しかし、知らぬというのも怖ろしい気がします。現に、子供達は知らぬまま、出会ってしまった。」

キラの父「因縁めいて考えるのは止めましょう。私達が動揺すれば、子供達にも伝わります。」

ウズミ「ですか。しかし、どうして彼は今日?」

キラの母「今は……会いたくないとしか。」

同じ頃、オーブ首長国へ潜伏しているザフト軍の面子らは、アークエンジェルがいると知り、出航したらこの場を突いて襲撃を企てる。

## 市街地

ハーノイン「クルーゼ隊長とカイン隊長はよく中立国の潜入をやらせたな。」

ヒルダ「アークエンジェルがいると聞いてあたしらを向かわせた。」  
ディアツカ「久しぶりにアスランとニコルとクーフィアとサリアとエルシヤが俺達と合流か。」

クーフィア「久しぶりにアードライ達と合流だ。」

サリア「地球最初のミツシヨンが潜入なんて変わった事だわ。」

エルシヤ「何だか楽しい気分ね。」

アスラン「俺達はあくまでアークエンジェルを撃墜するためにオーブに潜入して動きを探るためだ。」

イザーク「ん、なんか来るぞ。」

空からトリイが飛んで来てアスランの手元に降りた。トリイを追ってやってきたキラとアンジュ。

キラ、アスラン「!!」

キラとアスラン、偶然この地で再会をした2人。

アンジュ「!!」

サリア、ヒルダ、エルシヤ、ロザリー、クリス「(アンジュ!!)」

またアンジュもザフト軍にいたかつての仲間達とこの場で再会をし、サリア達はアンジュが生きていた事を知る。

キラ「トリイ……。」

?アスラン「君の……?」

?キラ「うん、ありがとう……。」

?アスラン「……。」



?キラ「・・・昔、友達に・・・」  
?アスラン「!!」  
?キラ「大事な友達にもらった、大事なものなんだ・・・」  
?アスラン「・・・」  
?キラ「・・・」  
?アスラン「そう・・・」  
?キラ「うん・・・」  
?アスラン「もう行くよ・・・」  
?キラ「・・・」

キラとアスラン、2人は友達だった同士、今は戦争によってお互い敵同士、2人が分かり合える日あるのか?そして次の日、オーブを早速出航したアークエンジェルは、待ち伏せをしていたザフト軍と交戦する。敵はイージス、デュエル、バスター、ブリッツ、キルシュバオム4機、キルシュバオムヒルダカスタム、アーキバス・サリアカスタム、グレイブ・ロザリーカスタム、ハウザー・エルシャカスタム、ハウザー・クリスカスタム、デイン12機、ゾノ3機、グリーン12機、バツフェー18機、ボーグ星人、テロリスト星人、バキシマム、ファイヤーモンス、シルバーブルーメ、インペライザー6機、キングジョーブラツク6機。出撃に出たウルトラマンゼロエクシア、ウルトラマンジードマグニフィセント、ウルトラマンオーブスラツガーエース、ヴィルキス、ウルトラセブン、ウルトラマンレオ、ウルトラマンメビウス、ソードストライク、ヴァルヴレイヴ1、ヴァルヴレイヴ3、ヴァルヴレイヴ4、ヴァルヴレイヴ5、ソルシエウイサリス、ライガーゼロパンツァー、ゴジユラス ジ・オーガ、スカイグラスパー2機。

## 孤島

キラ「トール、大丈夫?」

トール「俺だってキラやハルト達ばかり任せきりにはいかないかならな。」

ムウ「あまり無茶はするなよ。おまえはストライクやヴァルヴレイ

ヴーを上空の援護だ。」

トール「了解。」

バン「アーバイン、ジ・オーガで行くのか？」

アーバイン「こいつは俺を認めた、だから俺はその期待に応じていく。」

ウルトラマンゼロ「怪獣は俺達ウルトラマンが引き受ける。」

ウルトラセブン「ゼロ、あまりを気を抜くなよ。」

ウルトラマンレオ「相手も我々を倒しに来る。」

ウルトラマンゼロ「すぐに仕留めてやるぜ。」

早速戦闘が開始し、両軍の戦いが行われた。空中から来るデイン、バツフェにヴァルヴレイヴ3のアームストロンガー・カノン、ヴァルヴレイヴ5のボルトファランクスで先制して撃ち落とす。アードライとクーファイアのキルシュバウムが接近して来た。

アードライ「そこかあつ!!」

アードライのキルシュバウムがパンチでヴァルヴレイヴ5に殴りにかかって来た。両肩のクリア・フォッシルを展開して防御した。

キューマ「このっ!!」

頭部のバリアブル・バルカルで射撃して、アードライのキルシュバウムに喰らわせた。

ライゾウ「いっぱい喰わせてやる!!」

クーファイア「久々に遊んでやるよお!!」

久々に戦いに出るクーファイアは、アードライ達と同じキルシュバウムに操縦して、チョコキチョコキからビームを連射して、ライゾウのヴァルヴレイヴ3に攻撃した。

ライゾウ「こいつ!!」

クーファイアのキルシユバオムに対し、ライゾウはアームストロンガー・カノンを強いたパンチでクーファイアのキルシユバオムに反撃して喰らわせた。

ウルトラマンオーブスラッガーエース(ガイ)「うおりやああああー!!」

バキシマムとファイヤーモンスを2体同時に相手をするウルトラマンオーブスラッガーエースは、バーチカルスラッガーを持ちながらバキシマムとファイヤーモンスに直接斬撃を喰らわせた。

バキシマム「キシヤアアアアアー!!」

両手から紅蓮火炎弾を発射し、角から一角紅蓮ミサイルを発射して、ブーメランのように回しながらウルトラマンオーブスラッガーエースに喰らわせた。

ウルトラマンオーブスラッガーエース(ガイ)「ぐっ!!」

バキシマムの同時攻撃を喰らったウルトラマンオーブスラッガーエース。ファイヤーモンスが炎を纏った剣で斬りかかって来た。

ウルトラマンオーブスラッガーエース(ガイ)「!!」

バーチカルスラッガーでファイヤーモンスの剣を防ぎ、凌ぐウルトラマンオーブスラッガーエース。身体を回転しながらファイヤーモンスの手にしてる剣を弾きかせ、そのまま大きく斬り込んで撃退した。バキシマムはウルトラマンオーブスラッガーエースに火炎弾を

連射していき、ウルトラマンオーブスラッガーエースはバーチカルスラッガーで切り払った。

ウルトラマンゼロエクシア「オラオラオラー!!」

テロリスト星人を相手に戦うウルトラマンゼロエクシアはゼロエクシアソードを出して、斬り込んだ。

テロリスト星人「ウルトラマンゼロ、貴様を息の根を止めてやる!!」  
ウルトラマンゼロエクシア「やれるものならやってみな!!」  
テロリスト星人「死ね!!」

テロリストソードでウルトラマンゼロエクシアに斬りかかろうと接近するテロリスト星人。

ウルトラマンゼロエクシア（刹那）「ゼロ、来る!!」  
ウルトラマンゼロエクシア「見え見えだ。」

テロリスト星人の動きを見て、ゼロロングブレイドとゼロショートブレイドを両手に持ちながら、必殺技のゼロエクシアツインクロスラッシュで、テロリスト星人にX斬りした。

テロリスト星人「ぐわああああー!!」

ウルトラマンゼロエクシアの必殺技により、最期を遂げたテロリスト星人。

ウルトラセブン「またお前とやり合えるとは。」  
ボーク星人「ウルトラセブン、貴様をこの手で倒す。」

過去に一度交戦したボーク星人と再び対決するウルトラセブンは、

ボーグ星人にキックをお見舞いした。ボーグ星人は頭部からヘッドビームを発射してウルトラセブンに攻撃した。

ウルトラセブン「なかなかの攻撃だ。」

ボーグ星人「私は負けんぞ!!」

ウルトラセブン「ここで終わらせてもらおうぞ。」

ボーグ星人「ウルトラセブン、覚悟!!」

ボーグ星人が身体を広げてウルトラセブンに体当たりをしにかかった。飛びかかってボーグ星人をアイスラッガーを投げて一刀両断した。

ウルトラマンジードマグニフィセント（リク）「うおおおー!!」

キングジョーブラック6機を相手に戦い、攻撃してくるペダニウムランチャーをアレイジングジードバリアで防ぎながら、そのままメガボンバーパンチでキングジョーブラックを次々と破壊していった。

ウルトラマンレオ「たああああー!!」

ウルトラマンレオは、かつて戦ったシルバーブルーメと戦い、シルバーブルーメは自分の大事な仲間の命を奪い去り、再びこの円盤生物と対峙する事になった。シルバーブルーメの来る触手を素手で払いながら、ジャンプしてキックした。

ウルトラマンメビウス「てやあっ!!」

インペライザー6機を相手に戦うウルトラマンメビウスは、先手を打って、メビウムシュートを放って一気に破壊した。

バン「いつけえっ!!」

バンのライガーゼロパンツァーとアーバインのゴジュラス ジ・オーガは、イクスアインとハーノインのキルシュバオムと交戦し、バンのライガーゼロパンツァーのハイブリッドキャノンでイクスアインのキルシュバオムに向けて砲撃した。右の平手からバリアを発動して防ぐが、ハイブリッドキャノンのとてつもない火力により、キルシュバオムの右腕ごと吹き飛ばし、破壊した。

イクスアイン「なつ、何だこのゾイドの威力は?! キルシュバオムの腕を破壊しただと?!」

新型機のキルシュバオムのバリアを打ち破り、さらに片腕ごと破壊した事に驚愕したイクスアイン。

ハーノイン「行くぜ!!」

上空からキルシュバオムを飛行形態で急行しながらアーバインのゴジュラス ジ・オーガに突撃してかかった。

アーバイン「悪いが、見え見えだ!!」

上空から襲撃して来るハーノインのキルシュバオム飛行形態をロングレッツジバスターキャノンで発射し、キルシュバオムを撃ち落とすた。

ヒルダ「裏切り者め!!」

アンジュがヘリック共和国側に戦っている事を知ったサリア達同じノーマは、彼女を裏切り者として断定し、敵とみなして攻撃をして来た。ヒルダのキルシュバオムカスタムが背部スラストを機動しながらアンジュのヴィルキスに向かって殴りにかかった。

アンジュ「そこね。」

ヒルダのキルシュバウムカスタムに対し、ヴィルキスをミカエルモードにチェンジして、ラツィーエルから巨大エネルギーブレードを出して、大きく斬り払う。

サリア「貰った!!」

サリアのアーキバス・カスタムとエルシャのハウザー・カスタムが美月のソルシエウイサリスを挟み撃ちにして、同時にかかって攻めていく。

美月「!!」

2機の挟み撃ちに対し、ソルシエウイサリスからダブルムーンジューエルで両手を広げながらターンを決めて、二つの月を出現して周り全体に光状の球を拡散した。

サキ「あんた達雑魚のなんか、すぐに終わらせてやる!!」

ロザリー「いい気になるなよ!!」

クリス「邪魔。」

サキはヴァルヴレイヴ4からスピンドル・ナツクルを投擲して、ロザリーのグレイブ・カスタムとクリスのハウザー・カスタムを2機まとめて喰らわせた。

イザーク、ディアツカ「落ちろ!!」

ヴァルヴレイヴ1に向かって、同時攻撃をするイザークとディアツカ。

ハルト「これなら!!」

ボルク・アームから非実弾を連射してデュエル、バスターに攻撃し、その直後にジー・エツジで斬り込んだ。戦いはヘリック共和国、GGが優勢に立っていた。

キラ「もう下がれ!!君達の負けだ!!」

アスラン「何を!!」

キラ「止めろアスラン!!これ以上戦いたくない!!」

アスラン「何を今更!!討てばいいだろう!お前もそう言ったはずだ!!お前も俺を討つと!言ったはずだ!!」

アスランに戦いをやめるよう求めたが、アスランは拒否を戦いを続けた。その時、ミラージユコロイドで姿を消したニコルのブリッツが現れて、キラのソードストライクに襲いかかった。

ニコル「アスラン下がって!!」

キラ「?!」

ニコルのブリッツがキラソードストライクに向かって襲いかかろうとしたが、だが、ソードストライクのシュベルトゲールがブリッツのコックピットに突き刺さった。

ニコル「ぐわああああー!!」

キラ、アスラン「あつ、あああつ!!」

ニコル「アスラン、僕のピアノを……!!」

キラのソードストライクのシュベルトゲールでコックピットを突き刺さって、最期を遂げたニコル。

アスラン「ニコルうううううー!!」



次回 24話へ続く

## 第24話 閃光の刻

海上の孤島でニコルを討ってしまった。

移動中

アークエンジェル

廊下

キラ「……。」

ムウ「さっきの戦いの事か。」

キラ「ムウさん。」

ムウ「俺達は軍人だ。人殺しじゃない。戦争をしているんだ!!」

キラ「うっ!!」

ムウ「討たなければ討たれる!!俺も。お前も!!みんな!!」

キラ「知ってます!!」

ムウ「なら迷うな!!命取りになるぞ!!」

ブリッツのパイロットを殺害してしまった事をためらうキラを厳しく言うムウ。一方、ザフトでは、ニコルの死に悲しむイザーク達は、

ボズゴドフ

廊下

イザーク「何故だ、何故あいつが死ななきゃならないんだ!!」

ディアツカ「イザーク。」

ハーノイン「ニコルが何故死ななきゃならないんだ!!畜生!!」

ヒルダ「悲しいもんだな、コーダイネイターの1人が死んだくらいで。」

ロザリー「何メソメソしてんだよ。」

イザーク「何!!」

ヒルダ「あたしらノーマを今までいたぶってきたからこうなっちまったんだろ。」

クリス「ムキになっちゃって。」

ロザリー「あはははっ。」

ハーノイン「てめえ!!」

アードライ「やめろ!!仲間同士争っている場合か!!」

イザーク、ハーノイン「うっ。」

ヒルダ「はいはい。」

アードライ「お前達ノーマだつて我々の貴重な仲間だ。」

クリス「口だけで言つてといて。私達をいつも除け者にして。」

アードライ「……。」

アスラン「ニコル……。」

ニコルの死を悲しむ中、悲しまずに喜ぶ者がいて、身内での衝突し合い、アスランは彼のロツカーを開けたら、中から手紙らしきものが出てきた。『あー、アスラン。この間は、ありがとうございました。寝てませんでした?ほんとは、もつとちゃんとしたのをやりたいんですけどね。戦わなきゃいけないな僕も、つて思ったんです。ユニウス7のニュースを見て。』

アスラン「うっ、うわあああああー、ニコル!!今まであいつを討たなかった俺の甘さが、お前を殺した!!」

イザーク、ディアツカ、アードライ、ハーノイン「……。」

アスラン「キラを討つ、今度こそ!!」

自分がキラを討たなかった事でニコルは死に、キラを今度こそ討つを決意するアスラン。別の場所では、地球連合軍の基地では、とある謎の集団が現れて、襲撃を受けていた。

キエフ

キエフ基地

ガイロス帝国兵1「うわあー!!」

謎の集団の率いるジェノザウラー、ストライクダガー、ジンクス、

ダークロプスゼロ、デイマンティス、デイロフォースの攻撃を受ける  
ガイロス帝国の部隊。アイアンコングとレットホーンとリアルドが  
迎撃を出て行すが、多数のデイマンティスとデイロフォースがアイア  
ンコングとレットホーンに集団で攻めて、圧倒し、ジェノザウラーが  
ハイパーキラークロードでアイアンコングを破壊した。空中にいるリ  
アルドをストライクダガーがビームライフルで撃墜した。

ガイロス帝国兵2「あれは我が軍の新型機のストライクダガーとジ  
ンクスとジェノザウラーが何故ここに?!」

キエフ基地司令官「一体何が起きているんだ?!」

謎の集団の中には地球連合軍の新型機のストライクダガーとジン  
クスとジェノザウラーがいた事で、戸惑いを感じるキエフ基地司令  
官。

スージー「私達の事、気付いていないみたいね。」

鉄竜騎兵団団員1「我々、鉄竜騎兵団の事をまだ知らないみたいで  
す。」

スージー「ゼネバス復活のために。」

謎の集団の名は、鉄竜騎兵団。かつて滅んだゼネバスを復活させる  
事が目的だ。彼らの襲撃はここだけでなかった。

北米大陸

カルフォニア基地

ARUS兵1「敵襲!!」

北米大陸のカルフォニア基地でも、鉄竜騎兵団の襲撃を受け、レギ  
オノイド、ペドレオングロス、ジェノザウラー、デイロフォース、  
グレイヴクアマガフラッグ、リアルド、リアルドホバータンクを基地  
と共に破壊していった。またノルウェーのナルビク軍港では、鉄竜騎

兵団のレギオノイドγ、マツカーチス、シンカー、ウオディック、ヘルディガンナー鉄竜騎兵団仕様、グレイヴクアマ、ザバットの襲撃による空、海からの攻撃によって、大きな被害が出ていた。鉄竜騎兵団の襲撃は、地球連合軍だけでなく、ザフト軍のカーペンタリア基地にも襲撃した。

カーペンタリア

カーペンタリア基地

ザフト兵1「ぐわあっ!!」

鉄竜騎兵団の襲撃を受けるザフト軍。基地守備隊を出撃させて、迎撃を開始する。鉄竜騎兵団の中で、ライガーゼロと同じアーマーを纏ったティラノサウルス型ゾイドのバーサークフューラーが背中にある2本バスタークロード、ジン2機の胴体を貫き破壊した。レギオノイドγがビームライフルでデインを撃ち落とし、倉庫や飛行場を破壊した。

ヴォルフ「ゼネバスのために。」

バーサークフューラーを操縦しているのは、トリポリ基地で刹那とウルトラマンゼロが対峙したヴォルフだった。彼は鉄竜騎兵団を率いてして地球各地に各部隊を送らせて、襲撃させた。彼らの動きが今後の戦いの左右を動かす事となった。一方、ヘリック共和国、GGGとザフト軍の激戦が繰り広げられていた。

孤島

イザーク「今日で片だ!! ストライクめ!!」

ディアッカ「ニコルとラストイとミゲルとゾーラの仇とお前とヒルダの傷とアードライの目との礼も、俺が全部纏めて取ってやるぜ!!」

ヒルダ「さっさと終わらせてやる!!」

アードライ「今日こそ終わらせる!!」

今までヘリック共和国、GGGの特機とウルトラマンにやられた借りを返す事、散っていた仲間の仇を取るなどを執念を燃やすイザーク達。ディアツカのバスターとハーノインのキルシユバオムが同時に射撃してアークエンジェルに喰らわせた。

ミリアリア「艦、被弾!!」

ナタル「ヘルダート、発射!!」

ヘルダートを発射して、バスターとハーノインのキルシユバオムに向けたが、バスターが350mmガンランチャーからAP弾を発射して、ヘルダートを撃ち落とされた。

アーバイン「おめえらの相手は俺らだ!!」

アーバインのゴジュラス ジ・オーガとムウのランチャースカイグラスパーが駆け付けに現れ、バスターとハーノインのキルシユバオムを相手に交戦する。

ディアツカ「ちよこまかと来やがって!!」

94mm高エネルギー収束火線ライフルでムウのランチャースカイグラスパーに向けて、射撃したが、ムウの反射神経で素早く回避され、アグニからビームを発射してバスターに喰らわせた。

ディアツカ「ぐわあっ!!」

ランチャースカイグラスパーの攻撃を喰らって返り討ちにあったディアツカは、相手の一撃によりハイドロが消失、駆動パルスが低下し、これ以上の戦闘は不能と判断し、機体から降りて投降した。

ハーノイン「時代遅れのゾイド如きの分際が出しゃばるんじやねえ!!」

アーバイン「そつちからしたら時代遅れと思ってるんならこつちの力を見せつけてやる。」

アーバインのゴジユラス ジ・オーガとハーノインのキルシュバオムの1対1の一騎打ちが行われ、ぶつかり合った。ハーノインは得意な接近戦でゴジユラス ジ・オーガに格闘する。だが、アーバインは相手の動きを読んで、出てきた相手の拳をクラツシャークロード掴み、そのまま払い投げた。

ハーノイン「何だ、こいつ!!」

ゴジユラス ジ・オーガに一瞬で投げ飛ばされて、計り知れない力がある事を感じたハーノイン。

アーバイン「その程度か？」

ハーノイン「いい気になるな!!」

次の行動に移って、上空を飛行しながら、平手からビームを連射して地上にいるゴジユラス ジ・オーガに攻撃した。

アーバイン「んな、程度か？」

キルシュバオムの攻撃を受けつつ、不屈を表すゴジユラス ジ・オーガ。攻撃が全然効いていなかった事で、奥の手であるレーベングリッツェンを使用して、ゴジユラス ジ・オーガに放った。アーバインの反応速度とゴジユラス ジ・オーガとのリンクにより、キルシュバオムの放ったレーベングリッツェンを回避した。

ハーノイン「何だと、嘘だろ?！」

アーバイン「機体は性能任せじゃねえ、機体と精神の一心同体だ!!」

アーバインとゴジユラス ジ・オーガの一心によるリンクで、空中にいるハーノインのキルシュバオムにロングレッズキャノンを放つて、その砲撃の一撃により、墜落し、機体を損傷して、投降するハーノイン。

イザーク「どけえっ!!」

ロックオンのデュナメスと交戦するイザークのデュエルアサルトシユラウド。右肩からシヴァを発射し、左肩からミサイルポッドを一斉発射して、デュナメスに攻撃する。デュナメスは、GNフルシールドを展開して攻撃を防御した。

ロックオン「とつとと落ちろ!!」

反撃に出たロックオンは、GNスナイパーライフルで、デュエルアサルトシユラウドに射撃した。

イザーク「貴様、ちょこまかとおっ!!」

射撃して来たデュナメスに、イザークは接近戦を持ち込んで、ビームサーベルを出して切りかかって来た。

ロックオン「近づけるかよ!!」

接近してくるデュエルアサルトシユラウドに、デュナメスがGNビームピストル2丁とGNミサイルを同時に発射して、一気に全弾命中して喰らわせた。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「オーブカリバー!!」



バキシマムを相手に戦うウルトラマンオーブ オープオリジンは、オーブカリバーから繰り出す斬撃で、バキシマムにいくつかの箇所を与えた。バキシマムの高い防御力の前に全くウルトラマンオーブ オープオリジンの攻撃は効いていなかった。

ウルトラマンジードプリミティブ（リク）、ウルトラマンゼロ「はああああー!!」

ウルトラマンジードプリミティブとウルトラマンゼロが空中から現れて、バキシマムに同時にキックで喰らわせた。

ウルトラマンオーブ オープオリジン（リク）「ゼロさん、ジード。」  
ウルトラマンジードプリミティブ「力を合わせて戦いましょう。」  
ウルトラマンゼロ「3人なら勝てる。」

強い力を持つバキシマムを3人の力を合わせて戦うウルトラマンオーブ オープオリジンとウルトラマンジードプリミティブとウルトラマンゼロ。バキシマムが両腕から火炎弾を連射し、その攻撃をウルトラマンオーブ オープオリジンがオーブカリバーでバリアを張って防ぎ、ウルトラマンジードプリミティブがジードクロードで切り裂いていき、ウルトラマンゼロがツインゼロソードでバキシマムの背後に大きく斬り込んだ。この後、彼らに大きな事が待ち受けようとしていた。

ヒルダ「アンジユ、覚悟!!」

アンジユのヴィルキスを仲間達共に包囲して、一斉にかかるヒルダは自身のキルシュバオムカスタムからパンチを強いたビームソードでヴィルキスに打ち込んでいく。ヒルダの攻撃を回避して、アサルトライフルで射撃するかもアンジユのヴィルキス。

サリア「そこ!!」

ヴィルキスの背後からサリアのアーキバス・カスタムが接近しかかって来たが、その反応にすぐに気付いたアンジユは、ラツィーエルを手に持ちながらサリアのアーキバス・カスタムの手足を切断して、墜落させた。

サリア「アンジユうううううー!!」

アンジユに敗れたサリアは、彼女の名前を叫んで地上に墜落した。

アンジユ「……。」

ロザリー「裏切り者の分際がいい気なるな!!」

クリス「お前なんか最初から存在しなきゃよかったんだよ!!」

アンジユ「……。」

ロザリー「無言か?!なら死ね!!」

ヒルダ「お前もこれでおしまいだ!!」

何も言わないアンジユに対し、ヒルダとロザリーが左右からヴィルキスの間を挟んで攻めかかって来た。

アンジユ「お前らが死ねえええええー!!」

左右から接近してかかって来たヒルダのキルシュバオム カスタムとロザリーのグレイブ・カスタムを2機まとめてラツィーエルで大きく斬り込んで、墜落させ、機体を損傷した。

ヒルダ「こんなところで……!!」

アンジユに敗れたヒルダとロザリー。機体は損傷して動けず、投降せざるを得なくなった2人。

ウルトラマンレオ「たああああー!!」

シルバークルーメと再び交えるウルトラマンレオ。シルバークルーメは、触手を伸ばしながらウルトラマンレオの身体を巻き付きながら、捕食しようとする。ウルトラマンレオは、自力で力を出して身体に巻き付いた触手を振り払いながら、レオキックでシルバークルーメに打ち込み、撃破した。

キラ「アスラン!!」

アスラン「キラ!!」

キラとアスラン、2人の対決が繰り広げ、キラを討つ事に燃やすアスランは、キラをこの手で倒そうとする。エールストライクがビームサーベル、イージスのクロウ発生したビームサーベルがぶつかり合い、衝突した。戦いの中、激戦する両軍。空が突如、暗雲化し、雷が鳴った。

一同「?!」

ウルトラマンベリアル「はーはははははっ!!」

雷鳴と共に姿を現した、最悪のウルトラマン、ウルトラマンベリアルが現れた。3人が交戦していたバキシマムをベリアルクロウからベリアルリッパを放って一撃で葬った。

ウルトラマンゼロ「お前は、ベリアル!!」

ウルトラマンオーブ オーブオリジン(ガイ)「何故ここに!!」

ウルトラマンジードプリミティブ(リク)「ベリアル。」

ウルトラマンベリアル「また会ったな、ゼロ、そして息子よ。」

ウルトラマンゼロ(刹那)「ゼロ。」

ウルトラマンゼロ「刹那、気を抜くな。ベリアルは、今までの相手

とは桁が違う。」

ウルトラマンベリアル「さあ、来るがいいゼロ。お前との久々の対決を。」

ウルトラマンゼロ「望むところだ、ベリアル!!」

ウルトラマンゼロとウルトラマンベリアル、2人の因縁の対決が再び、起きた。ウルトラマンゼロは刹那との一心でウルトラマンゼロエクシアに変身して、ウルトラマンベリアルにパンチした。ウルトラマンゼロエクシアのパンチを受けたウルトラマンベリアルは、ウルトラマンゼロエクシアに両手の爪からベリアルクロウで斬撃した。

ウルトラマンゼロエクシア「ジードには近づかせねえ!!」

ウルトラマンオーブ オーブオリジン(ガイ)「ゼロさん、ジードをベリアルの手に渡せませる訳にはいきません!!」

ウルトラマンゼロエクシア「ああ。」

ウルトラマンベリアル「まとめて相手をしてくれるわ。」

ウルトラマンゼロエクシアとウルトラマンオーブ オーブオリジンを2人まとめて相手を引き受けるウルトラマンベリアルは、ギガバトルナイザーを出して、2人に向かってベリアルデスサイズを放った。

ウルトラマンゼロエクシア、ウルトラマンオーブオリジン(ガイ)「うわぁっ!!」

ウルトラマンベリアルは放った必殺技を喰らったウルトラマンゼロエクシアとウルトラマンオーブ オーブオリジン。

ウルトラマンゼロエクシア(刹那)「はあああああー!!」

ゼロエクシアソードを出して、ウルトラマンベリアルに斬り込ん

だ。ウルトラマンベリアルはギガバトルナイザーでゼロエクシアソードを防いだ。2人の戦いにウルトラマンジードプリミティブが割り込んで来た。

ウルトラマンジードプリミティブ（リク）「俺が相手だ!!」

ウルトラマンベリアルが自分の父である事で、自分の手で決着を着けようとするウルトラマンジードプリミティブ。

ウルトラマンゼロエクシア「リク!!」

ウルトラマンゼロエクシア（刹那）「よせ!!」

ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「戦ってはダメだ!!」

ウルトラマンベリアル「会いたかったぞ、息子よ。」

ウルトラマンジードプリミティブ（リク）「俺をその名で呼ぶな!!」

ウルトラマンベリアル「その反抗心はいいぞ。」

ウルトラマンジードプリミティブ（リク）「黙れ!!」

父であるウルトラマンベリアルに反抗して対峙するウルトラマンジードプリミティブ。

ウルトラマンベリアル「今素晴らしいものを見せてやる。」

ウルトラマンベリアルはジードライザーを出して、ファイブキングとゾグ第2形態の2つの怪獣カプセルを出しながらスキャンしてキメラベロスへとなって、口から必殺技のベロスインフェルノをウルトラマンジードプリミティブに放って、葬った。

ウルトラマンベリアルキメラベロス「光の国から盗んだカプセルをもとに作らせておいたのだ。レイブラッド星人の遺伝子を受け継いだレイオニクスに力を利用してな。」

ウルトラマンジードプリミティブ「う、ああああっ。」

ウルトラマンベリアルキメラベロス「さあ息子よ。戻ってこい、俺のところへ。」

倒れたウルトラマンジードプリミティブを自身の体内へと飲み込んだウルトラマンベリアルキメラベロスは、そのまま翼を広げて空を飛び去った。

ウルトラマンゼロエクシア、ウルトラマンゼロエクシア（刹那）、ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「リク!!」  
ライハ、ペガ「リク!!」

リクが連れさらわれてしまった、彼はこのままどうなる?!また同じ頃、激闘を繰り広げるキラとアスラン。

アスラン「キラああああああー!!」

キラ「うおおおおおー!!」

激しくぶつかり合う2人。キラを援護すべく駆けつけに来たトールのスカイグラスパー。

トール「キラ!!」

キラ「トール!! 駄目だ!! 来るな!!」

アスラン「えいつ!!」

トール「!!」

アスランのイージスが投げたシールドがコックピットに直撃して、操縦していたトールは死亡した。

キラ「あつ、あああつ、あああああー!!」

トールの死で、キラはSEEDに覚醒して、アスランに勢いでか

かった。

アスラン「うっ、俺がお前を討つ!!」

アスランもキラと同じくSEEDに覚醒して、キラのエアールストライクに蹴り込み、そしてMA形態に変形して、突撃し、スキュラを放とうとするが、イージスのフェイズシフトダウンを起こて失敗し、アスランは機体から脱出して、エールストライクを自爆に巻き込ませた。一方、遠く離れた所、ここアラスカでは、地球連合軍最高司令部のアラスカ基地がザフト軍の大軍勢の襲撃を受けていた。

アラスカ

アラスカ基地

グラハム「数が多い!!」

ダリル「このままでは勝ち目はありません!!」

このザフト軍の大軍勢を前に次々とやられていくグラハムら地球連合軍のMS部隊。だが、そこである人物から通信が入って来た。

グラハム「?!」

エイフマン「エーカー達よ。」

グラハム「エイフマン教授?!」

ビリー「これは一体?!」

エイフマン「よく聞くんた、お前達今いる者達は既に切り捨てられたんだ。」

グラハム、ビリー「何だと?!」

エイフマン「総司令部の高官らは既に脱出して、この基地の地下にサイクロプスが仕掛けられている。」

ビリー「サイクロプスだと?!あのマイクロ波の・・・?!」

エイフマン「時間がない、すぐに脱出するんだ!!今いる者達を連れて逃げるんだ!!」

グラハム「エイフマン教授。」

ビリー「エーカー、脱出しよう。」

グラハム「ああ。教授も脱出を。」

エイフマン「ワシはここに残って今いる者達を脱出させる。」

ビリー「教授。」

エイフマン「お前達若者を死なせるわけにはいかん。ワシが全てをもって責任を持つ。」

ビリー「……。」

グラハム「わかりました、教授。あなたの行為を無駄にしません。」

サイクロプスの起動まで残りの時間まで今いる者達を脱出するために全機に脱出命令を出すエイフマン。その脱出する際に地下からギヤラクトロンとダークロプスゼロとレギオノイドYの無人機部隊が現れて、グラハム達地球連合軍やザフト軍に攻撃した。

エイフマン「連中はあんな物も用意していたのか?!」

ビリー「すぐに脱出だ!!」

自分達の脱出を阻むために現れた無人機部隊、ダークロプスゼロは胸のデイメンションコアからデイメンションストームを放ち、交戦中のジンとリアルドを撃退した。

グラハム「味方ごと殺したのか?!これが人のやり方か?!」

ビリー「エーカー、時間がない、今すぐ脱出だ!!」

味方ごと葬った無人機部隊に怒りを表すグラハム。とにかく時間がなく、急いで脱出し始めた。レギオノイドYがビームライフルで脱出し始めた他の地球連合軍MS部隊を次々と撃破していった。

ロイド「こんな事が……。」

セシル「酷い……。」



コーラサワー「何だよ、おい。こんなのありかよ……。」

無人機部隊による戦いを見て無差別に敵味方問わず攻撃し、まるで殺戮をしているのを感じて唾然とするロイドら。ギャラクトロンが発射した右腕がロイド達のアヴァロンに向かってビームを発射攻撃した。

一同「!!」

その時、アヴァロンの前にダリルのオーバーフラッグが自ら盾になって、アヴァロンを庇い、攻撃を受けた。

ダリル「うわああああー!!」

グラハム「ダリル!!」

ダリル「隊長達を脱出の邪魔はさせない!!」

グラハム「ダリル!!」

ダリル「隊長、俺に構わず早く脱出を!!」

グラハム「くっ!!すまないダリル!!」

部下のダリルの自己犠牲で、その辛さと無念を抱いて脱出へと進むグラハム達。そしてアラスカ基地の地下、サイクロプスがついに起動し始め、数十基並んだパラポラアンテナからマイクロ波が発生した。

グラハム「!!」

急いで圏外へ突き進んだグラハムら。

エイフマン「後は任せたぞ。」

基地と共にサイクロプスの起動によって最期を遂げたエイフマン。

ダリル「俺はA R U Sのフラッグファイターだ……!!」

愛機の名を叫びながらサイクロプスに飲み込まれて最期を遂げたダリル。何とか脱出をしたグラハムら。だが、サイクロプスによって地球連合軍、ザフト軍の双方に大きな犠牲を出し、アラスカ基地は軍サイクロプスの起動で、跡形もなく消滅した。

移動中

ホエールキング

プロイツェン「サイクロプスのおかげで戦力の大半は減った。私の息子のヴォルフに鉄竜騎兵団と共に各拠点を襲撃させてる。」

シャルル「いよいよか。」

プロイツェン「全てはゼネバス復活のためだ。」

次回 25話へ続く

## 第25話 リトルスター

ザフト軍との戦いで仲間を失い、再びへ入港したアークエンジェ  
ル。

オーブ首長国

オーブ首長官邸

ハーマン「またオーブへ入港してくれた事には感謝します。」

ウズミ「先の戦闘であなた方の仲間を失ったようだと聞いて。」

マリユール「はい。」

ウズミ「アラスカでは地球連合軍本部が崩壊した報が入った。」

ムウ「何?!」

エルエルフ「どうやら基地の地下にあるサイクロプスを使って仲間  
を犠牲にしたな。」

マリユール「酷い。」

スメラギ「何でこんな事が出来るの……。」

ムサシ「何故人は誰かを犠牲にした戦いをするんだ。」

ゼナ「(戦争は人を犠牲にして自分達だけが生き残る。)」

ハーマン「ああ。」

地球連合軍最高司令部のアラスカ基地がサイクロプスの使用に  
よって味方ごと犠牲にした報を知ったハーマン達は、戦争は人を犠牲  
にして自分達だけが生き残るやり方に不満を感じた。一方、戦いやキ  
ラやリクやトールを失い、悲しみに暮れる仲間達は、

アークエンジェル

個室

ハルト「キラとリクがいなくなって数日経ったね。」

サキ「そうね。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「くそ、俺がベリアル  
を倒せていれば。」

刹那「ベリアルが強さはとてつもなかった。」

ガイ「ああ、ベリアルがさらに強くなっていたとは。」

モア「うわあああーん、リク君はどうなっちゃうの?!」

ゲン「奴はリクを連れさらって行った。」

ライハ「リクはどうなるの?」

ペガ「リクはこれからどうなっちゃうの?」

ダン「彼は生みの親であるベリアルに飲み込まれて、この前悪に染まってしまうだろう。」

ライハ「そんな!!」

ペガ「リクはじゃあ……。」

ゲン「おそろくだ。」

ウルトラマンベリアルキメラベロスとの戦いによってリクは飲み込まれてしまい、この前行くと彼はやがて悪の戦士へと becoming う。

???「諦めるではない。」

ライハ「?!」

その時、ライハの中から謎の声が響いて来た。

ガイ「どうした?」

ライハ「私の中に誰かの声。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイNEO）ダン、ゲン「……。」

ライハに声をかけた人物が気にかけるウルトラマンゼロとダンとゲンは、その人物の声に聞き覚えがある事に心当たりがあると感じた。

食堂

ミリアリア「トール。」

サイ「トールの事か。」

ミリアリア「トールが死ぬはずなんて、きつとどこかで生きているに違いないわ。」

ナタル「悪いが、ケーニツヒ二等兵、ヤマト少尉共にMIAだ。」

ミリアリア「何で、何で、そうやって決めつけるんですか?!」

ナタル「先の戦いで2人とも死んだんだ。」

ミリアリア「そんな事あり得ません、トールは、トールは。」

ナタル「……。」

トールの死をそれでも受け入れずまだ生きていると信じるミリアリア。彼は既に戦死した事で彼女の心は傷が付き、冷静さもなくなつて来た。

ユウスケ「なあ、聞いたか?この間の戦いで捕虜になったザフトの兵士何だけど、ディアツカとハーノインとヒルダとロザリーって言う名前何だ。」

カズイ「1人は医務室、他の3人は独房入りだつて。」

サトミ「とにかく彼らはしばらく捕虜としてしばらく様子見だ。」

キューマ「ああ。」

捕虜になったザフト軍のディアツカとハーノインとヒルダとロザリーは、ディアツカは先の戦いで傷を負い、医務室へ、ハーノインとヒルダとロザリーは独房へ入られた。

独房

ハーノイン「俺ら捕まっち待ったな。」

ヒルダ「あたしもおしまいかな。」

ロザリー「このままおしまいかな?!」

ハーノイン「別に死ぬ訳じゃないみたいだ。」

ロザリー「ずっとここにいるのは耐えきれないよ。」

ハーノイン「どつちもだろ、お前らノーマはプラントから嫌われて

るって事を。」

ヒルダ、ロザリー「……………」

ハーノイン「ノーマには居場所はないって事だ。」

独房の中にいるハーノイン、ヒルダ、ロザリー。ヒルダとロザリーは、ヘリック共和国の捕虜になった事で、自分達ノーマはプラントから嫌われ、差別されながら人とは思われずの存在で、自分達には居場所すらない。先の戦いでイージスの自爆に巻き込まれて、大きな損傷をしたエールストライクを回収したオーブ軍。調べたところ、エールストライクのコックピット内は、キラはいなかった。

モルゲンゲート

格納庫

カガリ「キラは死んでしまったのか？」

エリカ「それはわからないわ。彼は今どこにいるかもわからない状態よ。」

カガリ「キラ。」

キサカ「それとザフト軍らしいパイロットが海辺で見つかったそう  
だ。」

カガリ「？」

キサカ「イージスのパイロットだそうだ。」

凱「イージスのパイロット?!」

カガリ「どうした?!」

凱「そのパイロットに会わせてくれ!!」

キサカ「えっ?」

凱「いいから会わせろ!!」

キサカ「わかった。」

凱はイージスのパイロットであるアスランがこの地にいる事と彼がキラの友達である事で、彼は急いで彼の元へ駆けつけに向かった。

医務室

アスラン「うつ、ここは？」

凱「気がついたか？」

アスラン「誰だ、お前は?!」

凱「お前、確かイージスのパイロットだったな？」

アスラン「何故それを知っている?!」

凱「お前がキラの友達だって事を。」

アスラン「・・・。」

凱「どうした？」

アスラン「おいおい、誰だよそいつ。何寝ぼけた事を・・・。」

凱「!!」

アスランの態度に凱が彼の顔を思いつきり2発殴った。

アスラン「ぐわあっ!!」

凱「お前、何自分の友達の事をすっかり忘れてたりするんだ!!」

アスラン「お前にわかるか!!キラ、あいつはニコルを殺ったんだぞ

!!俺とあいつの仲もう戻れない!!もう無理なんだ!!」

凱「何で解り合おうしない、何故お前はキラの事をわからないんだ  
!!」

アスラン「ナチュラルのお前に何がわかる!!戦争でお互い仲が引き  
裂かれ、俺とキラは敵同士になった。」

凱「俺だつてそうだ、戦争で大事な学校を破壊され、多数の人を守  
れず、信頼を失い、俺はもう二度と仲が修復出来なくなった・・・  
!!」

アスラン「俺とキラはもう二度と・・・。」

凱「お前とキラはまだ仲を修復出来るはずだ!!お前の中にまだキラ  
の事を想っていたなら!!」

カガリ「凱、後は私が話を付ける。」

凱「カガリ。」

アスラン「誰だ？」

カガリ「本当にあいつの事を今も想っているならあいつとちやんと会って仲直りしろ!!」

アスラン「よそ者のお前に何がわかる!!敵なんだ!!今のあいつはもう、なら倒すしかないじゃないか!!」

カガリ「バカやろう!!なんでそんなことになる!!なんでそんなことしなきゃならないんだよ!!」

アスラン「あいつはニコルを殺した!!ピアノが好きでまだ15で、それでもプラントを守るために戦ってたあいつを!!」

カガリ「あいつだつて守りたいものの為に戦っただけだ!!なのになんで殺されなきゃならない!!殺されたから殺して、殺したから殺されて、それでほんとに最後は平和になるのかよ!!ええ!!うっうう……!!」

オーブ首長国にある一隻の船が現れて、入国許可を出してきた。

オーブ首長官邸

ウズミ「すぐにその船をやらせろ。」

その船をやらせたウズミ。入国許可が出て早速、入国し、着地した。その船は、アラスカ基地の脱出をしたアヴァロンだった。

港

ハーマン「この船はガイロス帝国のアヴァロン!!」

マリユール「入国許可を求めてきたって事は、アラスカ基地のサイクロプスから脱出して来たのね。」

ムウ「必死で生き延びたんだな。」

アヴァロンから降りたグラハムら生き残りの者達は、負傷した兵士達を連れて手当てを求めた。

グラハム「彼らの手当てを頼む!!」

ムウ「アラスカ基地のサイクロプスか。命がけで脱出して来たんだ



な。」

スメラギ「?!」

ロツクオン「どうしたんだ？」

スメラギ「もしかしてあの人はビリー!!」

スメラギは大学時代に一緒に過ごしたビリーがいた事で、すぐに彼の元へ駆けつけた。

スメラギ「ビリー!!」

ビリー「君はクジヨウ？」

スメラギ「あなたがどうしてここに……。」

ビリー「君こそどうしてここにいるんだ？」

お互いにこの地で再会をし、2人が事情を話したりした。

スメラギ「エイフマン教授は、あなた達を逃がすために……。」

ビリー「生き残ったのは僕達だけだ。他は待機していた無人機部隊に阻まれたり、サイクロプスに巻き込まれたよ。」

グラハム「私達は国に捨てられた。もう居場所すらなくなった。」

コーラサワー「俺らどうなるんだよ。」

ロイド「今まで尽くして来たのが、捨てられたなんて。」

セシル「私達はこれからどうなるの？」

今まで地球連合軍として尽くして来た自分達が、国に捨てられてしまい、居場所をなくしてしまい、これから先は自分達はどうなってしまうのか？グラハムの前に意外な人物が現れた。

スワン「……。」

グラハム「君はスワン。」

スワン「あなたとこんな形で再会するなんて思わなかったわ。」

グラハム「まさか君と再会するなんて意外だよ。」

グラハムとスワンの2人は学生時代の恋人関係で、2人は大学卒業後、別々の道を歩んだが、グラハムがアラスカで必死で辛々脱出して、偶然学生時代の恋人だったスワンと再会をした。

#### オーブ首長官邸

ウズミ「中立の立場を採る国々へも、一層強い圧力を掛けてきている。連合軍として参戦せぬ場合は、敵対国と見なす、とまでな。無論、我がオーブも例外ではない。その背後に操っているのが、101人評議会、エンブリヲ、レイブラッド星人、ベリアル。奴らが戦争を操っている。」

キサカ「奴らはこのオーブも狙って来ています。」

ウズミ「それだけでない、奴らの狙いはリトルスターを持つ者だ。すぐに共和国、GGGの者達を呼び出してくれ!!」

地球連合軍の狙いはオーブ首長国の戦力、特にその中でリトルスターを持つ者の存在に目を付けて狙っている事で、ヘリック共和国とGGGの者達を呼んだ。

ハーマン「ウズミ殿。」

ウズミ「確か君達はリトルスターの事に詳しいそうだな。」

ハーマン「はい。」

ティエリア「リトルスターを持つ者がいるのですか?」

ウズミ「着いてきてくれ。」

ウズミは、ハーマン達へリック共和国、GGGの者達を連れて、リトルスターを保護した施設へと向かった。

#### 施設

研究員1「ウズミ様、保護したりトルスターの宿主の者達の所を彼らに案内します。」

早速、保護したりトルスターの場所をハーマン達に案内し、着いた場所の部屋で、リトルスターの宿主が数人おり、そこで様々な能力を使用していた。

藤子「はあっ!!」

富士夫「たあっ!!」

鉄郎「えいっ!!」

自身の持つ能力を使う藤子、富士夫、鉄郎。藤子は光弾を飛ばす、富士夫は光刃を飛ばす、鉄郎は爆発させる能力だ。他にもリトルスターを宿した星人の子供もいた。

テイエリア「彼らがリトルスターの宿主ですか？」

ウズミ「彼らみんな子供達だ。このリトルスターの力を奴らは戦争の道具として狙っている。」

マグナ「この中に星人の子供までもいる。」

グロウズ「悪用されねえために保護したんだな。」

バレル「この子達はしっかり保護されてるな。」

ウズミ「君は特にリトルスターの力、その力を使う者と一緒に世界を回っていたようだな。」

美月「ええ。」

ハーマン「君はリトルスターの力をリクと一緒に行動して来たのか？」

美月「ルイズ大統領に頼まれて、私は子供達とリク達と一緒にリトルスターの力を回収していたの。」

美月は、娘のみなど息子のこうとリク達と一緒にルイズ大統領の依頼でリトルスターの力を集めるために世界中を回っていた事が明らかになった。

美月「現在集めたウルトラカプセルはこのくらいよ。」

美月が世界を回って集めたウルトラカプセルは、ウルトラセブン、ウルトラマンレオ、ウルトラマンヒカリ、ウルトラマンコスモス、ウルトラマンオーブスペシウムゼペリオン、ウルトラマンオーブバーンマイト、ウルトラマンオーブハリケーンスラッガー、ウルトラマンオーブエメリウムスラッガー、ウルトラマンティガ、ウルトラマンゼロナミラクル、ウルトラマンゼロストロングコロナ、シャイニングウルトラマンゼロ、ウルトラマンダイナ、ウルトラマンガイアV2、ウルトラマンゼアス、リクが最初から持っていたウルトラマン、ウルトラマンベリアル、ウルトラマンヒカリから渡されたウルトラマンゼロ、ウルトラの父のカプセルのみだ。

美月「でもリクは今はいないわ。リクがいないとこの子達からリトルスターを引き離す事は出来ないわ。」

ゼナ「彼はベリアルの体内に取り込まれている。」

リクは現在ウルトラマンベリアルキメラベロスの体内にいて、リクがいないとリトルスターの力を引き離す事が出来ない。

アークエンジェル

格納庫

ハルト「ねえ、風龍、雷龍。」

風龍「どうした?」

ハルト「最近、護の姿がいらないんだけど。」

風龍、雷龍「!!」

ハルト「どうしたの?」

雷龍「護は超竜神の修理するためにオービットベースにいる。」

ハルト「超竜神が生きていたの?!」

風龍「超竜神は、中国の地中から埋まって化石の状態になってずっと待ち続けていたんです。」

ハルト「超竜神が化石になっていたって?!」

雷龍「超竜神は6500万年間ずっとこの地層で化石となって見つかった。今オービットベースで超竜神を復活をさせる手段を見つけてるが、なかなか簡単にはいかねえ。」

ハルト「超竜神。」

雷龍「俺と風龍は救助する事が出来ていたのかな？」

ハルト「？」

風龍「僕と雷龍はパーシヴァルとの戦いでウルトラマンヒカリに助けられて、彼の口から憎しみに囚われていると。僕と雷龍に人を救う事がしつかり出来ていないんじゃないかと。」

風龍と雷龍は、自分達2人が憎しみに囚われて戦っている事で、人を救う事が出来ていないんじゃないか悩んだ。一方、ただ1人トールの死を受け入れず悲しみに暮れるミリアリアは、ただ1人歩き彷徨い、偶然医務室に入り込んだら、ベットで治療を受けていたディアツカがいた。

#### 医務室

ミリアリア「あっ!!」

ディアツカ「何だよ、その面は？」

ミリアリア「はあ!!」

ディアツカ「俺が怖い？珍しい？大丈夫だよ。ちやーと繋がれてっから。」

ミリアリア「はあ!!」

ディアツカ「つつーか、お前まーた泣いてんの？なんでそんな奴がこんな船乗ってんだかー。そんなに怖いんだったら、兵隊なんかやってんじやねえつつーの。なあ、それともバカで役立たずなナチュラルの彼氏でも死んだかああ？」

ディアツカが挑発で死んだトールの事を侮辱された事でミリアリアは、近くにあったメスを手に持って刺しかかった。

ミリアリア「わあああああああー!!」

ディアツカにトールの事を侮辱されてブチ切れて発狂したミリアリアは、メスで切りつける。

ディアツカ「うつ、何だよ、こいつ!!」

ミリアリア「はあ、はあ、うわあああー!!」

ディアツカ「わあっ!!」

ミリアリア「あんたがトールをおおおっ!!」

メスを持って発狂したままディアツカに切りかかるミリアリア。偶然通りかかったサイとフレイが発狂したミリアリアがメスで殺しかかろうとしていた。

ミリアリア「わあああああー!!」

発狂したミリアリアはまるで相手を殺そうという勢いで我を忘れてディアツカを殺そうとする。発狂した彼女をサイが止めにかかった。

ミリアリア「離して!!」

サイ「落ち着くんだミリイ!!」

ミリアリア「トールが、トールが居ないのに!なんで……こんな奴!!こんな奴がここに居るのよ!!」

ディアツカ「……」。

暴れるミリアリアを抑えるサイ。フレイが拳銃を出してディアツカに向けた。

サイ「フレイ。」

フレイ「コーディネイターなんて……みんな死んじやえはい

のよお!!」

拳銃のトリガー引こうとするフレイ。その時、彼女の行動をミリアリアが止め、拳銃から発砲した弾丸はディアツカでなく、壁に当たった。この騒ぎが起きた事で、ディアツカをハーノインら同様に独房に入れた。そして次の日、ただ一人町を歩き回るフレイはキラのが行方が分からなくなっただけかなり経ち、彼女も落ち着けずにいた。

フレイ「キラ、どうしているの?」

キラの事を毎日考えるフレイ。そんな彼女に思わない出来事が起きた。

クルーゼ「おやおや、これは?」

偶然、歩いていたらザブド軍のクルーゼと突如遭遇したフレイ。

フレイ「なっ、何?!」

クルーゼ「君には付き合ってもらおうよ。」

そのままフレイを首を素手で叩いて気絶させたまま連れていき、自身のデインに乗って、空を飛んで立ち去った。

アークエンジェル

個室

アキラ「……………」

1人、個室でずっと引きこもるアキラは、パソコンを使って動かし  
ている毎日を送る。

シヨーコ「アキラちゃん。」

アキラ「何？」

シヨーコ「せっかくだから一緒に外へ出ていかない？」

アキラ「興味ない。」

シヨーコ「一緒に行こうよ。」

アキラを誘って、一緒に外へ出かけるシヨーコ。平和な日々を保つオーブ首長国に迫りくる魔の手が迫ろうとしていた。

移動中

クルーゼ「そろそろか。」

それは、ウルトラマンベリアルキメラベロスとアズラエルとシユナイゼルの率いる地球連合軍の水上艦隊が大接近しつつ、オーブ首長国へ迫ろうとした。

オーブ首長官邸

会議室

ウズミ「何、ベリアルと地球軍がオーブを迫ろうとしているのか?！」

この事を知ったウズミは、すぐに議員らを呼び集めて緊急会議を開いた。

ホムラ「現在の世界情勢を鑑みず、地球の一国家としての責務を放棄し、頑なに自国の安寧のみを追求し、あまつさえ、再三の協力要請にも拒否の姿勢を崩さぬオーブ連合首長国に対し、地球連合軍はその構成国を代表して、以下の要求を通告する。一、オーブ首長国現政権の即時退陣、二、国軍の武装解除、並びに解体、リトルスターを持つ者の引き渡し、アラスカから脱走した裏切り者の引き渡し、ヘリック共和国との関係の断絶、48時間以内に以上の要求が実行されない場合、地球連合はオーブ首長国を敵対国家と見なし、武力を以て対峙するものである。」



ウズミ「どういう茶番だ、それは?! もはや体裁を取り繕う余裕さえなくしたか?!」

キサカ「ウズミ様。」

ウズミ「奴らの思い通りか、ベリアル、レイブラッド星人、エンブリヲ、101人評議会め!! 自分の都合のために世界を牛耳り、戦争を引き起こすと言うのか?!」

地球連合軍の無茶苦茶な要求に、自分達の国ごと支配下に入るようというその要求に反発したウズミは、ウルトラマンベリアルやレイブラッド星人やエンブリヲや101人評議会が裏で糸をひている事にも気付いていた。

移動中

アズラエル「要求は受け入れるはずがないですね。」

シュナイゼル「ウズミなら最後まで中立を貫く立場だ。」

ウルトラマンベリアルキメラベロス「ウズミは最初から要求など受け入れるはずがない。総攻撃をかける。」

アズラエル「言われなくても最初から攻撃はかけておきますよ。ベリアル様。」

ウルトラマンベリアルキメラベロス「明日には総攻撃だ!!」

ウズミが最初から要求を拒否する事をわかっていたウルトラマンベリアルキメラベロスは、明日にはオーブ首長国への総攻撃をかける事を行う。次の日、

オーブ首長国

デアアツカ「俺らが釈放?!」

ハーノイン「どういう事だ?!」

ロザリー「さっぱりわからねえな。」

ヒルダ「理由は?」

ミリアリア「オーブに地球軍が攻めてくるから。」

ディアツカ「えっ?!」

ヒルダ「どういう事だ?!」

ミリアリア「だから今言ったでしょ?地球軍が攻撃してくるからアークエンジェルいや共和国は戦うの。それに、あんたら乗っけたいたってしようがないじゃない。だから降りて。」

ロザリー「どうしてなんだよ。」

ミリアリア「オーブが地球軍に味方しなかったからよ。」

ハーノイン「俺達の機体は?!」

ミリアリア「バスターと一緒にモルゲンゲートにあるわ。」

ディアツカ「お前も戦うのか?!」

ミリアリア「私はアークエンジェルのCIC担当よ!」

ディアツカ「えっ。」

ミリアリア「それに、オーブは私の国なんだから。」

突如と釈放されたディアツカ、ハーノイン、ヒルダ、ロザリーらは、オーブ首長国が地球連合軍に侵略される事を知り、彼らはどう心境するのか。そしてついにオーブ首長国へ接近するウルトラマンベリアルキメラベロスらの率いる地球連合軍の水上艦隊は、ウズミが要求を拒否する事が分かり、最初から総攻撃の命令を出した。そして地球連合軍の水上艦隊のタワラ級、ホエールキングから発進した新型機のストライクダガー、ジnkス、レイダー制式仕様、ジェノザウラー、レブラプター、ウォード、ガレス、アイアンコングPK、ブラックレドラー、ダークホーン、ブリガンテからダークロプスゼロ、ギャラクトロンが発進し、オーブ首長国に総攻撃を行った。地球連合軍の総攻撃に対し、アークエンジェル、オーブ国防軍も攻撃にかかり、ついに戦闘が行われた。この平和な地、オーブ首長国が戦場と化し、果たしてどうなるのか?!

次回 26話へ続く

## 第26話 キングの奇跡、舞い降りる剣

ついに始まった地球連合軍によるオーブ首長国への侵攻。地球連合軍は新型機のストライクダガーとジンクスとジェノザウラーとレイダー制式仕様とウオードとガレス、ダークロプスゼロ、ギャラクトルンなどを投入し、オーブ国防軍はM1アストレイ、アークエンジェルは特機、ウルトラマン共々参戦して激闘が開始した。

オーブ首長国

ロックオン「相手は全部新型機か!!」

地球連合軍の新型機を相手に交戦するロックオン達。ストライクダガー5機がデユナメスを包囲して、ビームライフルで一斉に発射して攻撃した。

ロックオン「ぐうっ!!」

オレンジハロ「敵機、強敵!!」

ロックオン「新型機の故に集団戦か、厄介だ!!」

集団で組んでかかってきたストライクダガー5機に、ロックオンのデユナメスがGNスナイパーライフルで連射して5機まとめ一気に撃墜した。

アレルヤ「このっ!!」

空中では、アレルヤのキュリオスとウルトラマンXがジンクスとレイダー制式仕様とダークロプスゼロの大部隊を相手に交戦する。

アレルヤ「このっ!!」

飛行形態でMA形態の数機のレイダー制式仕様と空中戦を繰り広

げるキュリオスは、GNビームサブマシンガンで攻撃した。翼を広げて素早い速度でキュリオスの攻撃を回避し、数機のレイダー制式仕様が52mm機関砲ポッドとビームライフルによる2丁でキュリオスに一斉攻撃した。

アレルヤ「うわああああー!!」

数機のレイダー制式仕様の一斉攻撃によって墜落したキュリオス。

ウルトラマンX「ぐうっ!!」

数機のジンクスによるGNビームライフルの攻撃を喰らうウルトラマンX。

ウルトラマンX「大地、このMSはかなり手強いぞ。」

ウルトラマンX(大地)「しかもロックオン達と同じガンダムに似ている!!」

ウルトラマンX「確かに似ているようだ。だが、あれはガンダムではない。」

ウルトラマンX(大地)「こいつらを早いところ片付けよう。」

ジンクスがロックオン達のガンダムと同じ太陽炉を搭載してる事に気づき、性能も同じでありながら数でかかると圧倒的に力を持つ事で、すぐにでも片付けにかかるウルトラマンXは、大地はエレキングのサイバーカードをエクステバイザーにスキャンして、エレキングアーマーをウルトラマンXに装着して、ジンクス部隊に挑んだ。

ウルトラマンXエレキングアーマー「はああああー!!」

右腕の特殊アームから電撃を放ち、ジンクス部隊に浴びせた。他のジンクスがGNロングビームライフル、レイダー制式仕様がビームライフルで、ウルトラマンXエレキングアーマーに射撃した。

ウルトラマンXエレキングアーマー（大地）「この野郎!!」

ジnkクスとレイダー制式仕様に向かって特殊アームで放電した。他のジnkクスとレイダー制式仕様が背後からウルトラマンXエレキングアーマーに襲いかかってきた。

ハレルヤ「そうはさせるかよお!!」

ハレルヤの人格になったアレルヤがキュリオスを最大加速化ながらGNビームサーベルで大きく振りながらジnkクスとレイダー制式仕様を破壊した。

ハレルヤ「お前にとって強敵だが、俺にとっちゃ大した相手じゃねえな。」

ハレルヤには余裕を持ちながら新型機を軽々と倒す技量を見せた。

バン「レイヴンのジェノザウラーがこんなにも量産されてるなんて。」

レイヴンが乗っていたジェノザウラーが量産化されている事で、一般兵がジェノザウラーを操縦してる事でも脅威を感じるバンとファイネ。バンはライガーゼロの格闘用のシユナイダーを纏いながら、数機のジェノザウラーに向かって頭部のラツシグレーザーブレード5本で、突撃しながら破壊していった。他のジェノザウラーがロングレンジパルスレーザーライフルでライガーゼロシユナイダーに射撃をした。

バン「!!」

ジェノザウラーのロングレンジパルスレーザーライフルの攻撃を回避し、胴体部側面からレーザーブレードを展開してジェノザウラーを真っ二つに切断した。

ウルトラマンコスモスコロナモード（ムサシ）「ゼロの偽物がこんなにも量産化されるとは。」

ウルトラマンビクトリー（ショウ）「しかもギャラクトロンも量産化されるとは。」

量産されたダークロプスゼロとギャラクトロンの軍団を相手に戦うウルトラマンコスモスコロナモードとウルトラマンメビウスとウルトラマンギンガとウルトラマンビクトリーとウルトラマンガイアV2とウルトラマンアグルV2。ダークロプスゼロ6機の胸部からデイメンションコアを展開して光線を一齐発射して来た。

ウルトラマンアグルV2 「デュワー!!」

ウルトラマンギンガ（ヒカル） 「ギンガスパークランサス!!」

ウルトラマンアグルV2が右手からアグルセイバーを出して光線を切り込み、ウルトラマンギンガがギンガスパークランスを振り回しながら光線をなぎ払った。

ウルトラマンビクトリー（ショウ） 「エレキングテイル!!」

ウルトラマンビクトリーが自分の右腕にエレキングテイルを装着して、尻尾に纏った電撃をダークロプスゼロに喰らわせた。

ウルトラマンメビウス 「テヤアー!!」

ウルトラマンメビウスはメビュームブレスからメビュームブレードを出して、ギャラクトロン3機まとめ切断した。

ウルトラマンガイアV2「デヤアー!!」

右手からアグルブレードを出してダークロプスゼロ3機をまとめて斬り込んで破壊した。上空からギャラクトロンが地上にいるウルトラマンコスモスコロナモードらにギャラクトロンスパークを放とうとする。

バレル「サイクロンソーサー!!」

空中からバレルがサイクロンソーサーを放ち、ギャラクトロンに命中し、ガルムがプラスマクロスガンで狙撃し、最後に空中からジャンプしたマグナがプラスマスティングの一閃がギャラクトロンを破壊した。

ウルトラマンコスモスコロナモード（ムサシ）「ラツシユハンターズ。」

ガルム「殺戮兵器が量産されていくのは気に食わないんでな。」

マグナ「こんなもんいくつかあつて俺達も吐き気がするくらいだ。」

バレル「心なき人形はただの殺す兵器はきつちり処分せねばな。」

ウルトラマンコスモスコロナモード（ムサシ）「その通りだ。殺戮兵器の存在は絶対に認めるわけにはいかない。」

破壊だけをやるダークロプスゼロとギャラクトロンを殺戮兵器を断定して、この存在を認めずその殺戮兵器を破壊するウルトラマンコスモスコロナモード達。一方リトルスターを保護してる研究所では、ライハに呼びかけた謎の声の事で話をしていた。

研究所

ゼナ「鳥羽ライハ。お前を呼びかけた謎の声だ。」

ライハ「その声は威厳のある声だったわ。」

美月「威厳のある声？もしかしてあなた、伏井出ケイを殺そうとした時もあなたに止めかけた声ももしかして？」

ライハ「一緒かもしれないわ。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイNEO）「その声はおそらく、ウルトラマンキングだ。クライシス・インパクトの崩壊から、この宇宙を守ってくれたじいさんだ。」

刹那「そのウルトラマンはどんなのだ？」

ゲン「ウルトラマンキングは伝説の存在だ。あらゆるピンチの時に彼は幾たび救ってくれた。」

ダン「お前やゼロの事をいつも見守ってくれていたな。」

ゲン「ああ。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイNEO）「そうだな。」

ライハ「そんな力のあるウルトラマンなら、リクをウルトラマンベリアルキメラベロスから分離できるかもしれない。」

ペガ「ウルトラマンキングに相談してみたら？」

ライハ「難しいかも・・・声が聞こえてもすぐに途切れるし。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイNEO）「キングのじいさんのエネルギーが濃く残っている場所がある。そこに行けば交信できるかもしれない。」

ライハ「それはどこ？」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイNEO）「クライシス・インパクトの始まりの場所。爆心地だ。」

ライ「!!」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイNEO）「思い出せたか?!」

ライハ「場所を思い出せたの。場所はこの国よ、この世界が別の世界に併合されて、本来あった場所がこの地に存在するようになったのよ。」

ガイ「場所は？」

ライハ「筒井総合病院よ。」

クライシス・インパクトの始まりの場所、爆心地であるのが、ライ



ハが生まれた筒井総合病院だ。一方、地球連合軍の侵攻を必死で攻防するアークエンジェルとオーブ国防軍。キラのエールストライクを操縦するムウはウオード、ガレス相手に戦っていた。

ムウ「このっ!!」

ビームライフルをストライクダガーに照準して攻撃をしたが、命中はしたが、うまく機体を扱えず、ムウもまだMSの実戦経験がなく、まだまだ彼も相当MSのパイロットとして腕も未熟だ。

アサギ「このっ!!」

ジンクスを相手に戦うアサギ、マユラ、ジユリらのM1アストレイは、ビームライフルで応戦して攻撃するが、ジンクスの圧倒的な性能には歯が立たず、ビームサーベルで振り払われて圧倒された。

マユラ「強い!!」

ジユリ「勝てないわ!!」

ライゾウ「俺が相手だ!!」

アサギ達の前にライゾウのヴァルヴレイヴ3が現れて、ジンクスに向かってアームストロング・カノンによるパンチで思いっきり打ち込んだ。

キューマ「喰らえ!!」

MSに不慣れのムウを救いに来たキューマのヴァルヴレイヴ5がボルト・フランクでウオードとガレスを撃ち落とした。

キューマ「フラガ少佐!!」

ムウ「わりい。」

オーブ住民の避難活動をするオーブ国防軍と共に風龍と雷龍とビッグボルフオッグとゴルディーマーグは、人々の避難活動をした。

風龍「さあ落ち着いてください。」

雷龍「落ち着いて避難を行動を。」

人々を避難地帯へ誘導する風龍と雷龍。彼らに忍び寄る魔の手が迫ろうとした。

ウルトラマンベリアルキメラベロス「アズラエル、そろそろあの前が開発した機体とお前が操った怪獣を実戦する時だな。」

アズラエル「ちょうどいい実験になるから使いましょう。」

ウルトラマンベリアルキメラベロス「俺も行く。ストリム星人、お前も行くぞ。」

ケイ「はい、ベリアル様。」

アズラエルは、自身が開発した機体と操った怪獣を実戦投入し、タワラ級のパウエルから3機のガンダムが発進、ブリガンテからギエロン星獣が発進し、ウルトラマンベリアルキメラベロスも出撃した。

シヤニ「ねえ、やるよ。」

クロト「あれ狙おうか。」

オルガ「バンバンやろうぜ!!」

タワラから発進した3機のガンダム、カラミティ、フォビドゥン、レイダーが実戦投入し、向かう先は風龍と雷龍とビッグボルフオッグのいる場所へと向かった。

雷龍「敵襲だ?!」

ビッグボルフォッグ「何?!」

敵機の襲来に気付いた風龍と雷龍とビッグボルフォッグは、避難民を守るべくすぐに迎撃にかかった。

シャニ「ほらよ。」

シャニのフォビドゥンからフレスベルグを放ち、発射したビームが真っ直ぐでなく自由に偏向して、向けられた先は避難民だ。

ゴルデイーマーグ「危ねえ!!」

近くにいたゴルデイーマーグが避難民を守るべき盾になり、庇つた。

風龍「ゴルデイーマーグ!!」

クロト「余所見してんじやねえよ、必殺!!」

空中からクロトのレイダーがミヨルニルを投げ放ち、風龍に打ち込んだ。

風龍「うわああああー!!」

クロトのレイダーが放ったミヨルニルを喰らった風龍。

雷龍「救助の邪魔をするな、デイガオ2!!」

カラミティにレイドゥーンから放電する雷龍。

オルガ「お前、邪魔すんなよ!!」

オルガのカラミテイのシュラークからビームを放ち、雷龍に喰らわせた。

雷龍「うわああああー!!」

カラミテイのシュラークから放ったビームを喰らった雷龍。一方、再び現れたウルトラマンベリアルキメラベロスと対峙する刹那とウルトラマンゼロエクシア。

ウルトラマンゼロエクシア「てやああああー!!」

ゼロエクシアブライトダガー2本による二刀流でウルトラマンベリアルキメラベロスに斬撃するウルトラマンゼロエクシア。ウルトラマンジードを取り組んだウルトラマンベリアルキメラベロスが爪でゼロエクシアブライトダガー2本を受け止めた。

またライハは自分が生まれたでもありクライシス・インパクトの始まりの場所でもある筒井総合病院に到着し、ライハは病院の中に入り、そこに光の粒子のようなのがあった。

オーブ首長国

筒井総合病院

ウルトラマンキング「よく来た・・・鳥羽ライハ。」

ライハ「あなたが、ウルトラマンキング。」

ウルトラマンキング「そう・・・君を待っていた。」

また研究所の方では、ペダニウムゼットンに変身したケイとアズラエルの操ったギエロン星獣がリトルスターの者達を捕らえるべく攻めかかって来た。それに対して、ウルトラセブン、ウルトラマンレオ、ウルトラマンオーブ、オーブオリジン、美月らが相手をする。

ウルトラセブン「デユワ!!」

ウルトラセブン、ウルトラマンレオ、ウルトラマンオーブ オープオリジンが戦っているのは、ウルトラセブンはかつて戦ったギエロン星獣と再び交えていた。

ギエロン星獣「キツシャー!!」

ギエロン星獣が空中を飛びながらウルトラセブンに体当たりをして来た。

ウルトラセブン「!!」

飛行からしてくるギエロン星獣の体当たりを回避したウルトラセブン。ウルトラセブンは、ギエロン星獣の目の色に赤くなっていたのに気付いた。

ウルトラセブン「?!」

ウルトラマンレオ「どうしたんですか、セブン?!」

ウルトラセブン「ギエロンが操られている。」

ウルトラマンレオ「何?!」

ウルトラマンオーブ オープオリジン(ガイ)「まさかググツになっているのか?!」

ウルトラセブン「知っているのか?!」

ウルトラマンオーブ オープオリジン(ガイ)「俺がまだオーブになり始めた時期にベルゼブが怪獣を操ってググツ化にして来た。」

ウルトラセブン「そんな事があったのか?!」

ウルトラマンオーブ オープオリジン(ガイ)「何故ググツ化が今になつてあるんだ?!」

ギエロン星獣がググツ化されていた事に気づき驚愕したウルトラマンオーブ オープオリジンとウルトラセブンとウルトラマンレオ。

ガイはかつて自分がウルトラマンオーブになり始めた頃、ベルゼブによって怪獣がクグツ化されていて、その時はムサシやアスカや我夢や藤宮と共に阻止したが、それが今になって何故再び怪獣を操るクグツ化が起きたのか。

アズラエル「ベリアル様もわざわざこんな美味しい物を用意してくれたとは、これなら怪獣を自由自在に配下にしていつでも僕のものだ。」

ウルトラマンベリアルが何らの方法で怪獣をググツ化出来る技術を入手していた事で、それをアズラエルに渡して、アズラエルは怪獣をクグツ化して私兵する事を目論む。また美月はソルシエウイサリスで、ケイが変身したペダニウムゼットンに相手に戦っていた。

美月「あなたも相当かなりの悪のようね。」

ペダニウムゼットン（ケイ）「この私に楯突く気か!!」

ペダニウムゼットンは美月のソルシエウイサリスに向かって、角から赤いレーザーのような光線を放った。両手からソルシエカッターを出して、光線を切り払いながらそのペダニウムゼットンに向かって斬撃した。

ペダニウムゼットン（ケイ）「女あ、調子に乗るなあっ!!」

テレポートしてそのままソルシエウイサリスに接近して殴りにかかったペダニウムゼットン。

美月「!!」

背後から現れたペダニウムゼットンの攻撃を機動力を推進しながら回避して、ソーサリロッドを集中してムーンシュートを放ち、ペダ

ニウムゼットンに攻撃した。

ハルト、サキ、アンジュ「はあああああー!!」

ハルトのヴァルヴレイヴ1、サキのヴァルヴレイヴ4、アンジュの  
ヴィルキスが同時にかかってペダニウムゼットンを攻撃した。

ペダニウムゼットン（ケイ）「邪魔するな、蚊トンボ共が!!」

3機に向かって、赤いレーザーのような光線を放ったペダニウム  
ゼットン。3機は分散しながら攻撃を回避し、ヴィルキスがアサルト  
ライフルから実弾を発射してペダニウムゼットンに喰らわせた。

リバイ「研究所には一歩も近づけさせるな!!」

デルトルト「グオツグオ。」

グロウズ「リトルスターの子供達は、俺達を守り抜いてやる!!」

リバイ、デルトルト、グロウズの3人らは、地中から現れたレギオ  
ノイド $\alpha$ を相手に戦い、リバイはムルチナッターで切り込み、デルト  
ルトはフレイムランチャーで射撃し、グロウズがフローズハンマーで  
叩き込んだ。他にも次々と地中からレギオノイド $\alpha$ が現れて来た。

リバイ「キングムルチ、ソニー、ビーン!!」

自身のバトルナイザーから相棒のキングムルチと双子のブラック  
キングのソニーとビーンを召喚し、レギオノイド $\alpha$ 部隊に迎撃をかか  
らせた。キングムルチが尻尾を振って数機のレギオノイド $\alpha$ をなぎ  
払い、ソニーとビーンが一緒になってかかって、数機のレギオノイド  
 $\alpha$ に向かって体当たりして、一気に蹴散らしていった。

一方、ウルトラマンゼロエクシアは、ウルトラマンベリアルキメラ

ペロスと交戦しながらリクの世界へ辿り着き、ウルトラマンベリアルに心を奪われかけようとするウルトラマンジードプリミティブを救うべく、ウルトラマンベリアルに操られたウルトラマンジードプリミティブと戦っていた。

リクの世界

ウルトラマンゼロエクシア（刹那）「リク

目を覚ますんだ!!」

ウルトラマンゼロエクシア「お前はそんなんじゃねえだろ!!」

ウルトラマンベリアルに操られたウルトラマンジードプリミティブを必死で説得する刹那とウルトラマンゼロエクシア。場面は変わり、筒井総合病院では、ウルトラマンキングと会話をしているライハ。

オーブ首長国

筒井総合病院

ライハ「どうして私にだけ、あなたの声が聞こえたんですか？」

ウルトラマンキング（声）「君は母親のお腹の中で、危険な状態だった。しかし、ご両親の必死な祈りが私の意識に届き、失われかけていた君の命を私は救い上げた。」

ライハ「私はお母さんとお父さんの祈りで……。」

ウルトラマンキング（声）「そう。その結果、私の声が聞こえる、特別な存在となった。リトルスターが人よりも早く形成されたのもそれが原因だ。」

ライハはまだ母親のお腹にいた頃、危険な状態であり、父親と母親の強い想いと祈りがウルトラマンキングの意識に届いて、彼女の命を救い、彼女が最初のリトルスターとなった。

リクの世界

ウルトラマンジードプリミティブ（リク）「うおおおおー!!」



ウルトラマンゼロエクシア「リク、ベリアルなんかには負けるんじゃない!!」

ウルトラマンゼロエクシア（刹那）「お前の心はそんなに弱いはずじゃない!!俺達と一緒に過ごした事を思い出せ!!」

ベリアルに心を支配されたリクを救出すべく奮闘する刹那とウルトラマンゼロエクシア。ライハはリクを救うべくリクの精神世界へと移動した。一方、オーブ首長国が戦場化し、その光景を見るディアツカとハーノインとヒルダとロザリー。

ハーノイン「何でこの国が戦場なんかに。」

ロザリー「戦争なんか。」

ヒルダ「ああ。」

ディアツカ「……。」

ハーノイン「ディアツカ。」

ディアツカは、医務室で出会ったミアリアの事を気にかけていた。彼女はこのオーブ首長国が故郷であり、今地球連合軍の侵攻を受けているのに見過ごせずにはいた。

ディアツカ「!!」

ハーノイン「ディアツカ!!」

ヒルダ「おい!!」

ディアツカが突如走り出した事で、彼の後を追うハーノインとヒルダとロザリー。

マリユー「バリアント、撃てえー!!」

地上から攻め来るストライクダガー、ダークホーン部隊にバリアントを発射して迎撃するアークエンジェル。空中からブラックレド

ラー、ウオード、ガレスが攻めて来た。

ナタル「対空砲、撃て!!」

イーゲルシュテルンを展開して、空中から来るブラックレドラー、ウオード、ガレスを撃墜していった。だが、戦っている間に市街地にジエノザウラー、レプラプター、アイアンコングPK、ダークホーンが侵入して来た。

ミリアリア「市街地に敵ゾイド部隊が侵入しました!!」

マリユール「何ですって?!」

敵ゾイド部隊が市街地に現れてしまい、このまま戦火が伸びてしまう。その時、遠くから砲撃が発射し、敵ゾイド部隊を撃破した。

ミリアリア「!!」

マリユール「あれは?!」

ナタル「バスター、キルシュバオム、グレイブ!!」

市街地に侵攻して来た敵ゾイド部隊を撃破したのは、モルゲンゲーテに回収された愛機のバスターを自ら操縦したディアツカ、彼と共に自らそれぞれの愛機に乗り込んだハーノイン、ヒルダ、ロザリーら。

ディアツカ「お前らの相手は俺らだ!!」

ミリアリアの故郷を守るため、自ら戦場に復帰したディアツカは愛機のバスターと共に駆けながら、奮闘する。

グラハム「私達を切り捨て作れた事を思い知るがいい!!」

コーラサワー「俺達の力を思い知らせてやる!!」

またグラハム、コーラサワーらは、アラスカで自分達を切り捨てた地球連合軍と決別し、敵対する事を選び、オーブ首長国の地で戦うのだ。グラハムは、上空にいるジンクスとレイダー制式仕様に向かってプラズマサーベル2本出して両手に持って二刀流で、大きく切り込んだ。ジンクスがGNビームサーベルを出して、グラハムのフラッグカスタムに斬りかかって来た。

グラハム「戦いは機体の性能でない。パイロットの腕が大事だと言う事を!!」

新型機のジンクスは性能はフラッグカスタムより上で、ガンダムと同じ力であるが、1番大事なのは、機体の性能でなく、パイロットの操縦技量である事をグラハムが直接教え込む。

ARUS兵1「旧式を使う裏切り者めが!!」

GNビームサーベルを振るジンクス。

グラハム「パイロットの腕がないようだな。」

ジンクスの攻撃を回避して、ブースターの機動を推進して空中を飛び舞うように駆使してプラズマソードで斬り込んだ。

コーラサワー「オラオラ、どこ狙ってんだよ!!」

空中では、レイダー制式仕様がビームライフルでコーラサワーのイナクトに攻撃をしたが、コーラサワーは発射したビームをすらすら回避して、次から次へと来るレイダー制式仕様のビームライフルの攻撃を回避した。

コーラサワー「模擬戦訓練して来た俺を舐めんじゃねえよ!!」

模擬戦で日々鍛えて来た彼には、パイロットとして高い技量を発揮し、プラズマライフルで射撃してレイダー制式仕様を破壊した。一方、地球連合軍の新型機のカラミティ、フォビドゥン、レイダーの猛攻を受ける風龍、雷龍、ビッグボルフォッグ、ゴルデーマーグら。

風龍、雷龍「うわあああー!!」

カラミティとレイダーの攻撃で圧倒されていく風龍、雷龍。

風龍「雷龍・・・!!」

雷龍「ああ、シンメトリカルドッキング!!」

カラミティとレイダーを倒すべく風龍と雷龍が撃龍神に合体を行うが、

ルキアーノ「そうはさせません!!」

風龍と雷龍の合体を行いをしようとしたら、ルキアーノのパーシヴァルと彼の配下のグラウサム・ヴァルキリエ小隊が現れて、各グラウサム・ヴァルキリエのヴェンセントがスラッシュハーケンで風龍と雷龍の手足を巻き付いて身動きを封じた。

風龍「ぐわあっ!!」

雷龍「お前は、ルキアーノ・ブラッドリー!!」

ルキアーノ「またまたお会いできましたよ、緑と黄色のロボット!!」

身動きを封じられてしまった風龍と雷龍。

ビッグボルフォッグ、ゴルデーマーグ「風龍、雷龍!!」

シヤニ「余所見すんなよ!!」

シヤニのフォビドウンがニーズヘツグを振り回してビッグボルフォツグとゴルデイーマーグに斬りかかって来た。

ビッグボルフォツグ「ムラマサブレード!!」

左腕のムラマサブレードでフォビドウンのニーズヘツグを受け止めたビッグボルフォツグ。

ゴルデイーマーグ「これ2人を助ける暇がねえ!!」

ゴルデイーマーグは、今自分残った人達の避難誘導しなければならないので、目の前にいる風龍と雷龍を助けることが出来ない。地球連合軍のオーブ首長国への侵攻は、宇宙のオービットベースにいる護もこの報を知った。

宇宙

オービットベース

格納庫

護「ねえ、超竜神、聞こえる!!今オーブ首長国が大変な目にあつてるんだ、だから目を開けて!!」

仲間達の危機に護は化石状態の超竜神を必死で呼びかけた。

イアン「護、化石状態から元に戻すのに今の俺達の修理では無理がある。」

護「じゃあどうしたらいいの、超竜神はこのままずっと化石のままなの?!」

イアン「何度もやって今の俺達では超竜神を救う事は出来ねえ。」

護「そんな・・・!!」

イアンが化石状態の超竜神を何度も元の姿に戻すための修理をしたが、化石状態では今の自分達の修理する事が出来ず、どんな手を尽くしても全く出来ない状態だった。超竜神はこのまま化石状態のままにいるのか？化石状態の超竜神から巨大な光が発光して、強大なエネルギーが発生した。

護、イアン「!!」

超竜神「うおおおおー!!」

化石状態だった超竜神が強大なエネルギーによって元の姿に戻って、そのままオービットベースへ出て、オーブ首長国へと飛び立った。迫り行くオノゴロ島の攻防戦、地球連合軍の投入した大量の新型機によって、徐々に追い込まれるアークエンジェル、オーブ国防軍。

ウルトラマンギンガ（ヒカル）「うつ、あああつ!!」

活動時間の時間切れ倒れていくウルトラマンギンガ、ウルトラマンビクトリー、ウルトラマンX、ウルトラマンメビウス、ウルトラマンコスモスコロナモード。それでも戦い続けるウルトラマンゼロエクシア、ウルトラセブン、ウルトラマンレオ、ウルトラマンオーブ、オーブオリジン、ウルトラマンガイアV2、ウルトラマンアグルV2ら。

ロックオン「キリがねえ!!」

次から次へと来る地球連合軍の新型機に圧倒的な物量攻めをされるロックオン達。

ミリアリア「前方に敵機多数出現します!!」

マリユール「こうなったらローエンダリンよ!!」

前方から現れた多数の敵機に、ローエングリンを使用するが、突如、アークエンジェルの真下からレギオノイドαが現れて、ドリルで狙おうとして来た。

サイ「艦長、敵機です!!」

ノイマン「このままでは艦ごと喰らいます!!」

マリユール「!!」

ミリアリア「いやああああー!!」

接近して来るレギオノイドαのドリルがアークエンジェルに突き向けて来た。回避しても間に合えない、このままどうなる。その時、上空から現れた1機が素晴らしい高速のように駆け抜けながらアークエンジェルの近くにいるレギオノイドαにビームサーベルで斬撃して破壊した。

一同「?!」

空から現れた謎のMSが自分達を救ってくれた事に驚いた。謎のMSからアークエンジェルに通信が入った。

キラ「こちらキラ・ヤマト!!援護します。」

そのMSに操縦しているのは、アスランとの戦いで行方不明になったキラだ。キラは、ラクスに渡されたザフト軍の開発したガンダム、フリーダムに操縦し、もう1機開発したジヤステイスを届けるべく傭兵集団のサーペントテイルらと一緒にこの地に降り立った。

サイ「キラ!!」

ナタル「ヤマト少尉!!」

マリユール「キラ君なの……。」

キラ「オーブ首長国が侵略を受けていると聞いてこの地に来たんです。後もう1機をここに届けるために来ました。」

もう1機は現在サーペントテイルが届けているため、ある人物のところへ向かった。

モルゲンゲータ

医務室

アスラン「オーブが。」

凱「アスラン。」

アスラン「中立国が攻撃を受けているのに黙って見過ごせるわけにはいかないんだ。」

彼の前にサーペントテイルの効が医務室に入り込んで来た。

凱「？」

アスラン「誰だ？」

効「お前がアスランⅡザラか。」

アスラン「どうして俺の名を?!」

効「ラクスⅡクラインがお前にこの機体を渡しにと。」

アスラン「ラクスが俺に?!」

効「お前は何のために戦っている。」

アスラン「?!」

効「お前の正義とは何だ。」

アスラン「俺の正義……?」

効「お前自身答えを見つけていく事だ。今お前の親友がこの地で戦っている。」

アスラン「キラが生きていたのか?!」

アスランは自分が何のために戦い、自分の正義は何か、それは自分で答えを見つける事。キラが生きていた事を知った。キラはフリーダムに操縦しながらルプスビームライフルでダークロプスゼロの頭部に射撃して、次にビームサーベルで斬り刻んで破壊した。



キラ「ストライクの4倍を持っている。」

フリーダムを操縦するキラは、この機体はストライクの4倍の性能を持っている事で圧倒的な力を示しながら駆使していき、数機のレギオノイドαに向かって、ビームサーベルで連続斬りをして一瞬で破壊した。そして戦う彼の前に1機のMSが現れた。

キラ「!!」

それは、自分の答えを見つけ出すためジャスティスに操縦をするアスランだ。

アスラン「お前はキラなのか？」

キラ「そうだよ、アスラン。」

アスラン「俺を答えを出すために戦う。」

自身の答えを見つけるため戦うアスラン。接近して来たダークロプスゼロがデイメンシヨンコアから光線を放ち、アスランのジャスティスに向けられた。すぐに光線を回避し、ビームサーベルを2本出して連結して、ダークロプスゼロに斬撃して破壊した。

アスラン「キラ、一緒に行こう。」

キラ「ああ。」

敵対した2人の親友が一緒に戦い、自由と正義の名のガンダム2機が今力を合わせて戦う時がきた。同じようにジェノザウラー部隊を相手に戦うサーペントテイルの効のブルーフレームセカンドGとイライジャの自身のジン改が出て挑んだ。

効「相手は新型機か。」

イライジャ「俺達なら余裕だ。」  
効「ああ。」

新型機のジェノザウラー部隊を相手に挑んで、ブルーフレームセカンドGはアーマーシユナイダーを出して、ジェノザウラーの首筋を狙いながら刺突して破壊し、ジェノザウラーが発射した荷電粒子砲を対ビームコーティングしたアーマーシユナイダーで切り裂いて、そのまま脚部の爪先からアーマーシユナイダーを出して蹴り込んで破壊した。

イライジャ「テイラノサウルスの大軍なんか俺の相手じゃないな。」

イライジャのジン改が重斬刀でジェノザウラーに斬撃して破壊し、重突撃機銃で乱射し、数機のジェノザウラーに命中し、撃破した。一方、リクの世界に到着したライハ、ウルトラマンベリアルに心を支配されたウルトラマンジードプリミティブを救うべく説得をする。

リクの世界

ライハ「リク、ダメ!!ベリアルに惑わされないで!!あなたはリク、朝倉リク。思い出して!!」

ウルトラマンベリアル「キングか、余計なことを!!」

ウルトラマンジードプリミティブを説得するライハに向かって光線を放つウルトラマンベリアル。ライハの前にウルトラマンキングの張ったバリアが現れて、光線を無効にした。

ライハ「忘れないで、仲間のことを。地球のことを、あなたの夢を。あなたはみんなのヒーローなんだから。」

ウルトラマンジードプリミティブ（リク）「!!」

ライハの言葉にリクは、幼い頃の自分の夢がヒーローになる事で、

ヒーローショーの握手会で憧れたヒーローに会ったり、自分がウルトラマンジードとして、今まで敵と戦ったり、仲間達と一緒に過ごしたりした事を思い出した。

ライハ「リク、そろそろ行くよ。」

ウルトラマンベリアルに支配された心を取り戻したリク。

ライハ「リク、行きなさい。運命をひっくり返すの。」

リク「わかった・・・ライハ。」

ライハ「なに？」

リク「ありがとな。」

彼女に救われたリクは礼を言い、光る穴へ入り込んで飛び出した。ウルトラマンベリアルキメラベロスの体内から抜け出した。

オーブ首長国

ウルトラマンゼロエクシア「遅いぞ。ウルトラマンジード。」

ウルトラマンジード（リク）「主役は遅れてくる。」

ウルトラマンゼロエクシア（刹那）「お前らしいな。」

ウルトラマンベリアルキメラベロス「俺の呪縛からどうやって抜け出した？」

ウルトラマンジードプリミティブ（リク）「俺には仲間がいたからだ！！」

筒井総合病院

ウルトラマンキング（声）「君の使命はまだ終わっていない。」

ライハ「リトルスターをリクに届けます。お願い、届いて。私の祈り！」

自身のリトルスターをウルトラマンジードプリミティブに届ける

ため、祈りの演武をするライハ。一方、シヨールコと2人で市街地の戦火に巻き込まれたアキラ。

市街地

シヨールコ「アキラちゃん、助けが来るのをまとうよ。」

アキラ「どうせ私は死ぬ、そういう運命だ。」

シヨールコ「そんな悲しい事言わないの。」

アキラ「私なんか生きてるないよ……。」

シヨールコ「あなたのお兄さん、聞いたら悲しむよ……。」

アキラ「お兄ちゃん何か私の事、どうせ。」

兄のサトミが自分の事を何とも思っていないと決めつけるアキラ。

サトミ「アキラー!!」

遠くから兄が自分と呼ぶ声に気付くアキラ。

アキラ「お兄ちゃん……。」

だが、その時地中からKFDが現れた。

サトミ「あつ、あああつ!!」

妹を必死で探す中で突如現れたKFDに困惑するサトミは、必死で逃げ回る。

アキラ「お兄ちゃん!!」

兄がKFDに追われているのを目の当たりにするアキラ。

シヨールコ「アキラちゃん、あなたのお兄さんが!!」

アキラ「私、どうしたらいいの、ねえ教えて!!」

シヨーコ「アキラちゃん。」

アキラ「ねえ、私はどうしたらお兄ちゃんを助けられるの!!」

シヨーコ「……」

アキラ「どうしたらいいの!!」

KFDに追われる兄サトミをどうしたら救えるのか焦るアキラは自分の力では助ける事が出来ない、シヨーコに答えを求めても彼女でも答えられず、どうにもならなかった。そんな中、地中から紫の機体が現れた。

アキラ「ああ。」

地中から現れた紫のロボットは、ヴァルヴレイヴ6だ。アキラはコックピットの中に入り込み、ヴァルヴレイヴ1と同様にディスプレイに『アナタハニンゲンヤメマスカ』と言う表示が出てそのままYESを押してハルトと同様に何かを注入されてマギウスとなり、兄サトミを救いに向かう。KFDから必死で逃げ走るサトミは、

サトミ「何でよりによって何だ!!」

妹を探しに回る中、街は火の海と化し、さらにKFDまでもが現れて、地獄を味うサトミ。空中からダークロプスゼロまでもが現れてサトミに狙いに来た。

サトミ「うわああああー!!」

後ろからKFD、上空からダークロプスゼロに挟まれて窮地に陥ったサトミ。窮地の中、杖らしきものがKFDに突いて、突如KFDに異変が起き、ダークロプスゼロに攻撃した。

サトミ「?!」

アキラ「はああああー!!」

自分を追ってきたKFDに異変が起きてダークロプスゼロに攻撃したのに驚くサトミ。それはヴァルヴレイヴ6に操縦するアキラが杖型のハミング・ロッドで、敵機への支配能力を持つ森羅万象と連動し侵食して、強制操作する。一方、ルキアーノのグラウサム・ヴァルキリエ隊に身動きを封じられた風龍と雷龍は、

風龍、雷龍「ぐわああああー!!」

ルキアーノ「さあ、これでおしまいです!!」

風龍と雷龍にとどめを刺そうとルミナスコーンで突き貫こうとするルキアーノ。その直前に、宇宙から飛び立った超竜神が現れて、ルキアーノのパーシヴァルにダブルトンファーをぶち込み、身動きを封じられた風龍、雷龍を解放した。

風龍、雷龍「!!」

超竜神が今日の前に姿を現し、ついに復活して帰ってきた事に驚く風龍と雷龍。超竜神は、炎竜と氷竜に分離し、風龍と雷龍の元へ行った。

炎竜「光速を越え、次元を超えた僕達は、時間さえも超えてしまったんだ。」

風龍「超えた?!」

炎竜「だけど、僕たちは願った。生きたいと。生きて、もう一度、みんなに会いたいと。強く、強く。」

氷竜「その願いを叶えたのは、体内に残留していた……。」

炎竜「ザ・パワーのエネルギー。」

炎竜、氷竜「そして我々は蘇った!!」

氷竜「雷龍、君は私と合体するんだ。風龍、君は炎竜と合体だ。」

雷龍「俺と氷竜で合体か?!」

氷竜「私と風竜、お前と炎竜は、基本は同じロボットだ。」

雷龍「だけど、俺たちの合体はプログラムされてないぜい!!」

炎竜「わかつてるはずだ!!シンプレートに必要なのは、プログラムじゃない!!」

風龍「しかし、危険が伴います!!」

炎竜「何もしないでいきらめるのか!!」

氷竜「忘れたわけではあるまい、G G G憲章、第5条、125項。」

雷龍「G G G隊員は、いかに困難な状況であろうとも。」

炎竜「決してあきらめてはならない!!」

風龍「僕らはまぎれもなく、G G Gの隊員です!!」

雷龍「俺達に諦めるといふか言葉、メモリーから消してやるぜえ!!」

氷竜「ならば迷う事はない!!」

何万年間ずっと仲間に出いたいと言う想いを日々待ち続けてきた炎竜と氷竜は、ザ・パワーによって復活し2人はザ・パワーを得て、氷竜と雷龍、炎竜と風龍、それぞれの新たな合体をし始めた。

炎竜、氷竜、風龍、雷龍「シンメトリカルドッキング!!」

ザ・パワーによって新たな奇跡が起きた。

幻竜神「幻竜うううううううう神いいいいいいいん!!」

強龍神「強うううううううう龍うううううううう神いいいいいいいん!!」

ザ・パワーによって合体した新たな姿、氷竜と雷龍は幻竜神、炎竜と風龍は強龍神に合体した。

幻竜神「吹けよ氷雪、轟け雷光!!サンダーブリザード!!」

強龍神「唸れ疾風、燃えろ灼熱!!バーニングハリケーン!!」

幻竜神から氷と雷のエネルギー状の龍、強龍神から炎と風のエネルギー状の龍をそれぞれ放ち、グラウサム・ヴァルキリエ隊のヴェインセント全機にぶつけた。

マリーカ「えっ!!」

リーライナ「そんな!!」

ザ・パワーの力によって合体した幻竜神、強龍神の放った必殺技によってぶち込まれたグラウサム・ヴァルキリエ隊。全機残らず破壊された。

ルキアーノ「バカな、私のヴァルキリエ隊が・・・!!」

幻竜神「後はお前だけだ!!」

強龍神「覚悟しやがれ!!」

ルキアーノ「こうなったら奥の手だ!!」

グラウサム・ヴァルキリエ隊を失ったルキアーノはKFD、ギャラクトロン、ダークロプスゼロ、レギオノイドαを呼び出して幻竜神、強龍神に襲いかからせた。

幻竜神「心なきマシンはただの殺戮兵器に過ぎない!!」

強龍神「殺戮だけをやるマシン何か全て消し去ってやるぜ!!」

幻竜神と強龍神が力を合わせて、同時に合体必殺技を発動した。

幻竜神、強龍神「マキシマムトゥロン!!」

幻竜神、強龍神が氷、炎、風、雷の4つのエネルギー状の龍を一斉にKFD、ギャラクトロン、ダークロプスゼロ、レギオノイドαそし



てパーシヴァルにぶつけて、一気に破壊した。

ルキアーノ「ぎゃあああああ、この私がこんなところ、死ぬ  
はずが・・・!!」

幻竜神と強龍神の放ったマキシマムトウロンによってKFD、ギヤ  
ラクトロン、ダークロプスゼロ、レギオノイドα、そして愛機のパー  
シヴァルと共に最期を迎えたルキアーノ。一方、ウルトラマンベリア  
ルキメラベロスと戦うウルトラマンジードプリミティブは、ライハや  
仲間達のおかげで無事、心を取り戻す事が出来て、ウルトラマンベリ  
アルキメラベロスに対し、フュージョンライズを駆使して変身し、ウ  
ルトラマンジードゾリッドバーニングに変身してストライクブース  
トでお見舞いし、次はウルトラマンジードアクロスマツシャーに変身  
して華麗な動きでウルトラマンベリアルキメラベロスに回り込んで  
ジードクロードで攻撃し、続いてウルトラマンジードトリスラツガー  
で3本のアイスラッガーを投擲し、今度はウルトラマンジードマグニ  
フィセントに変身した。

ウルトラマンベリアルキメラベロス「ウルトラの父か・・・ケン  
には恨みがある。容赦せん。」

ウルトラマンジードマグニフィセントの姿を見て、かつての友の事  
を思い出し、交戦した。

モア「りっ・・・、ウルトラマンジード、おかえり!!」

無事、ウルトラマンジードが帰ってきた姿に手を振るモアとゼナと  
リトルスターを持つ者達。そして祈りの演武をするライハからリト  
ルスターが現れて、ウルトラマンジードマグニフィセントが受け取  
り、それはウルトラマンキングのウルトラカプセルだ。

リク「俺は・・・あなたを越えてみせる!!」

ライハから授かったウルトラマンキングのウルトラカプセルを手にしたリクは、ジードライザーを手にして、ウルトラマンベリアル、ウルトラカプセルと共にセツトし、スキャンし、キングソードが現れてウルトラマンキングのウルトラカプセルに装着した。

リク「ユーゴー、アイゴー!!変えるぜ、運命!!」

ジードライザー「ウルトラマンベリアル、ウルトラマンキング!!我、王の名の下に!!」

キングソード「ウルトラマンキング!!」

リク「変えるぜ、運命!!」

キングソード「はあっ!!」

リク「はあっ、ジード!!」

キングソード「ウルトラマンジードロイヤルメガマスター!!」

ウルトラマンベリアルとウルトラマンキングの2つのウルトラカプセルをスキャンした姿、ウルトラマンジードロイヤルメガマスターへとなって、神々しく君臨した。

ウルトラマンベリアルキメラベロス「その姿は・・・バカな!!貴様、認められたというのか、キングに!!」

ウルトラマンジードロイヤルメガマスター（リク）「あなたは強い。だけど、間違っている!!」

と言いながらキングソードで斬撃するウルトラマンジードロイヤルメガマスター。

ウルトラマンジードロイヤルメガマスター（リク）「スウイングスパークル!!」

キングソードを左手に2回かざして、回転しながら刀身に集めたエネルギーを放ってウルトラマンベリアルキメラベロスに斬撃した。それに対して、ウルトラマンベリアルキメラベロスは光線を放ったか、ウルトラマンジードロイヤルメガマスターは、ウルトラ6兄弟のウルトラカプセルをキングソードに挿入して、バリア展開した。

キングソード「ウルトラ6兄弟。」

キングソードから展開したウルトラ6兄弟のカプセルからブラザーズシールドを展開し、攻撃を防いだ。そして翼を広げて空を飛ぶウルトラマンベリアルキメラベロスを追いに飛ぶウルトラマンジードロイヤルメガマスター、2人の空中戦が繰り広げられた。

ウルトラマンベリアルキメラベロス「俺をどれほど否定しようと、お前はベリアルの子。生きている限り、俺の名前からは逃れられない。」

ウルトラマンジードロイヤルメガマスター(リク)「逃げるつもりはない!!この体があるから作られたものでも、この魂は僕のものだ!!」

ウルトラマンベリアルキメラベロス「変えられるものか、運命を!」  
ウルトラマンジードロイヤルメガマスター(リク)「変えて見せる!僕運命は僕が決める!!」

キングソードで繰り出す斬撃で、ウルトラマンベリアルキメラベロスに喰らわせた。ウルトラマンベリアルキメラベロスも口からベロスインフェルノを放った。

キングソード「解放せよ!!宇宙最強の力!!」

ウルトラマンジードロイヤルメガマスター(リク)「ロイヤルエンド!!」

リクがジードライザーでスキャンしたキングソードに左手を3回かざし、ウルトラマンジードロイヤルメガマスターがキングソードを掲げながらスイッチを押して左腕をクロスして無数の金色の光の光線を放ち、ウルトラマンベリアルキメラベロスにロイヤルエンドで見舞いし、撃退した。

藤子、富士夫、鉄郎「ありがとう。」

そう言いながら、藤子らリトルスターの光が現れて、ウルトラマンジードロイヤルメガマスターの元へ飛んでいき、いくつかのウルトラカプセルが起動した。戦いは収まらず、そこでウズミが一同を集めさせた。

ハーマン「オーブを離脱?!我々に脱出せよと、そう仰るのですか、ウズミ殿?」

ウズミ「あなた方にももうお解りであろう。オーブが失われるのも、もはや時間の問題だ。」

ダン「オーブ首長国の人々を光の国へ連れて避難させるしかない。」  
ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイNEO）「親父。」

ダン「光の国なら彼らだって安心していられる。その役目は君達に任せたぞ。」

我夢「俺達に任せてください。」

ミライ「オーブ首長国の人々を助ける方法はこれしかありません。」  
藤宮「ああ。」

ウズミ「地球軍、ザフト軍の両方の背後にはウルトラマンベリアル、レイブラッド星人、エンブリヲ、101人評議会がいる。世界いや全宇宙を奴らの手に渡らせてはならない。」

コズミックイラの世界がウルトラマンベリアル、レイブラッド星人、エンブリヲ、101人評議会らによって支配されて、このままでは他の世界や全宇宙にも支配される危険を感じたウズミは、ヘリツ

ク共和国、GGGの面子を集めて、彼らの脱出の準備、またオーブ首長国の住民をウルトラ戦士のいる光の国へ連れて行く準備をさせた。

ウルトラマンメビウス「では兄さん達、僕はこれから彼らと一緒にオーブ首長国の人達を光の国へ連れて行きます。」

ウルトラセブン「任せたぞ。」

オーブ首長国の住民を安全な場所連れていくため、光の国へ向かうウルトラマンメビウス、ウルトラマンガイアV2、ウルトラマンアグルV2、ウルトラマンギンガ、ウルトラマンビクトリー、ウルトラマンXらは、空を飛んで早速飛び立った。準備をし終えたアークエンジェルは、ウルトラセブンとウルトラマンレオとウルトラマンコスモスコロナモードと共にヘリック共和国の日本へと向かった。また残ったオーブ軍のM1アストレイを収容するイズモ級のクサナギ、その発進の護衛をするウルトラマンゼロエクシア、ウルトラマンジードロイヤルメガマスター、ウルトラマンオーブ、オーブオリジン、フリーダム、ジャスティス、ヴァルヴレイヴ1、ヴァルヴレイヴ4、スターガオガイガー、ソルシェウイサリス。カガリをイズモへ連れて来たウズミは、

カガリ「お父様!!」

ウズミ「お前はいつまでグズグズしておる!!早く行かぬか!!」

カガリ「しかし……。」

首長「ベリアルと他の怪獣と敵機が来ます。」

脱出を阻むべく立ちをはだかろうとするウルトラマンベリアルキメラベロス、ペダニウムゼットン、カラミティ、フォビドゥン、レイダー、ダークロプスゼロが接近して来た。

ウルトラマンゼロエクシア「させるかよ!!」

ウルトラマンゼロエクシアらが先手を取って、ウルトラマンベリアルキメラベロスと伴随したダークロプスゼロを破壊した。

キサカ「ウズミ様!!」

ウズミ「カガリ!! 急げキサカ!! このバカ娘を頼むぞ!!」

キサカ「はっ!!」

カガリ「お父様、ううっ!!」

ウズミ「そんな顔をするな。オーブの獅子の娘が。」

カガリ「でも!!」

ウズミ「父とは別れるが、お前は一人ではない。」

別れる事を辛く悲しく寂しがるカガリに、ウズミが1枚の写真を渡した。写真はキラとカガリが赤ん坊の頃の姿、そして写真の裏にキラとカガリの名前が書かれてあった。

ウズミ「兄妹もある。」

カガリ「は? う、はあ?! あ・・・。」

ウズミ「うん。そなたの父で、幸せであったよ。」

カガリ「ああ。」

ウズミ「行け!! キサカ!! 頼んだぞ!!」

キサカにカガリを任せて間もなくクサナギが発進し始めた。オーブ首長国に残ったウズミは、モルゲンゲータ本社で他の首長と共に残った。

ウルトラマンジードロイヤルメガマスター(リク)「バルカンスパーク!!」

ウルトラマンゼロエクシア「ワイドゼロエクシアショット!!」

ウルトラマンオーブ オーブオリジン(ガイ)「オーブシユプリームカリバー!!」

空中戦を繰り広げながらウルトラマンベリアルキメラベロスとペダニウムゼットンに光線を放ったウルトラマンジードロイヤルメガマスタ―、ウルトラマンゼロエクシア、ウルトラマンオーブ　オーブオリジン。

キラ、アスラン、ハルト、サキ、凱、美月「はああああああー!!」

空中戦カラミティ、フォビドウン、レイダーに同時攻撃でぶつけたフリーダム、ジャステイス、ヴァルヴレイヴ1、ヴァルヴレイヴ4、スターガオガイガー、ソルシエウイサリス。クサナギが発進した事で、すぐに側に寄った。

ウズミ「種は飛んだ。これでよい。オーブも、全世界も、全宇宙も。奴等のいいようにはさせん!!」

クサナギが脱出したと同時にウズミは他の首長と共にモルゲンゲ―テ本社を自爆させた。

一同「あああつ!!」

カガリ「お父様!!」

モルゲンゲ―テの自爆と共に最期を遂げたウズミ。無事オーブ首長国から脱出をし、日本へ到着した。一方、地球連合軍のパナマ基地では、ヴォルフの率いる鉄竜騎兵団によって襲撃を受けていた。

パナマ基地

ARUS兵2「助けてくれ……。」

鉄竜騎兵団のバーサークフューラー、ストライクダガー、ジnkクス、ジエノザウラー、デイマンティス、マッカーチス、ディロフォース、グランチャー、ザバット、レブラプター、ダークロプスゼロ、レギオノ

イドゥによって壊滅させられたパナマ基地守備隊。

ズイグナー「ヴォルフ様、これで各基地は無力化は成功したようです。」

ヴォルフ「ああ。後は彼らと対峙するだけだ。」

次回 27話へ続く



## 第27話 再会

地球連合軍のオーブ首長国侵攻でウズミが自らの犠牲で脱出した  
アークエンジェルは、日本へ到着した。

日本

首都防衛基地

格納庫

カガリ「うつ、うとうつ。」

キラ「……………」

泣いてるカガリを優しく慰めるキラ。

アスラン「……………」

ハーノイン「まさかお前が生きていたとはな。」

ヒルダ「偶然だな。」

アスラン「ああ。」

ロザリー「あたしらは今共和国と一緒にいるんだな。」

ディアツカ「そうだな。俺らは今一緒にいるんだな。」

偶然アスランと再会したディアツカ達は、自分達は今ヘリック共和国と一緒にいる事だった。

ロックオン「ザフトのパイロットも仲間同士再会してるな。」

ティエリア「彼らは今となっては仲間だ。サーペントテイルも我々のところに加わったようだ。これから今後どう動いていくか。」

ロックオン「ああ。戦いはもうじき最終局面に向かっているようだ。」

ザフトのアスラン、ディアツカ、ハーノイン、ヒルダ、ロザリーら、サーペントテイルが仲間に加わり、今後、戦いが最終局面へと向かい、ヘリック共和国軍、地球連合軍、ザフト軍、宇宙人同盟は最後の戦い

が始まろうとした。一方、久々に日本へ戻った凱と護とみことの3人は、スローネに破壊されたアツシユフオード学園に訪れていた。

アツシユフオード学園

凱「……。」

命「アツシユフオード学園の事、まだ気にしてたんだ。」

凱「ああ。」

原種の襲撃の間にアツシユフオード学園がスローネの襲撃により、ニーナやシャーリーや大勢の生徒が死に、ミレイとリヴァルと沙慈から恨まれ、今もその苦悩に囚われている凱。3人の前にミレイとリヴァルと沙慈がやって来た。

凱「!!」

ミレイ、リヴァル、沙慈「!!」

護「ミレイさん、リヴァルさん、沙慈さん。」

ミレイ「お前がここに帰って来たとはね。」

凱「……。」

リヴァル「何でニーナを救わなかったんだ。」

沙慈「お前のせいでルイスは左手を失ったんだ。」

凱「……。」

ミレイ「ねえ何か言ってよ!!お前のせいで失ったんだろ!!」

リヴァル「おい、何か言えよ!!」

沙慈「お前のせいで全部こうなったんだろ、言えよ!!」

凱「……。」

護「やめて、凱兄ちゃんは悪くないよ!!あの時は……。」

リヴァル「お前はこいつの擁護してるのか?！」

沙慈「こいつが来なかったせいでめちやくちやだ!!」

命「凱がどれだけ必死で戦って来たのかあなた達は何もわかってな

いわ!!凱を責めないで!!」

原種の襲撃で凱が戦っている間、スローネに学園を襲撃された事で激しく責めるミレイ、リヴァル、沙慈と彼を擁護する護と命。

凱「もういいんだ。」

命「凱。」

凱「俺のせいなんだ。」

ミレイ「そうやってお前はいつも逃げているね、軟弱者!!」

リヴァル「何が勇者だ、軟弱者!!」

沙慈「お前なんかここから消え去れ!!」

凱「……。」

ミレイ、リヴァル、沙慈の3人に恨まれる凱は、結局何も言えずに立ち去っていった。

リヴァル「俺はあいつが憎い。ニーナを救わなかったあいつが憎い……。」

???「その願い、私が叶えてやろうか。」

ミレイ、リヴァル、沙慈「?!」

憎しみに囚われたミレイ、リヴァル、沙慈の前に現れたのは、何と腕原種だった。

首都防衛基地

メイnlーム

凱「……。」

命「まだ気にかけているのね。」

凱「ああ、みんな俺のせいでミレイやリヴァルや沙慈からずっと恨まれている。俺があの時弱かったせいでこうなってしまったんだ。」

護「凱兄ちゃん。」

凱「護。」

護「本当にそれでいいの？三人の事を。」

凱「……。」

護「凱兄ちゃんは、恨まれ続けられていいの？」

凱「俺は……。」

護の呼びかけでミレイ、リヴアル、沙慈に恨まれ続けられていいのかと問われ、凱は原種の襲撃でアツシユフオード学園を救えなかった事をちゃんと答え出そうとするが、その時、警報が鳴った。

命「凱、ゾンダー反応よ!!」

凱「ゾンダーか!!」

護「すぐに行こう。」

凱「ああ。」

ゾンダーの出現にすぐに仲間達と共に出現する凱。東京の市街地に現れたゾンダーロボは、E I I E Xは、ケルベロスのような姿をしていた。

ゾンダー人間1「ゾンダー!!」

口から光線を放って東京の市街地を破壊するE I I E X。

凱「ドリルニー!!」

空中からスターガオガイガー、フリーダム、ジャスティス、ゴルデーマーグ、ウルトラマンゼロが現れて、E I I E Xにスターガオガイガーが先手を取ってドリルニーで打ち込んだ。

アスラン「何だあれは？」

凱「あれはゾンダーロボだ。人の心の弱さを利用して誕生してるんだ。」

アスラン「そんな事があるのか?!」

凱「ああ。」

ウルトラマンゼロ「早速来たぞ!!」

「EII-EXが早速襲いかかり始め、それに応じて一同は迎撃を開始する。」

凱「プラズマホールド!!」

ウルトラマンゼロ「エメリウムスラッシュ!!」

遠距離から攻撃をしてEII-EXにダメージを与えたが、EII-EXはジャンプして、スターガオガイガーの元に飛び込んで来た。

凱「?!」

ゾンダー人間1「ゾンダあああああー!!」

スターガオガイガーを見て急に豹変したEII-EXが、まるで憎しみを表すような表情だ。

凱「?!」

ゾンダー人間（リヴァル）1「憎い、お前が憎い……。」

凱「!!」

EII-EXの核となったのは、何とミレイとリヴァルと沙慈だった。

凱「ミレイ、リヴァル、沙慈……!!」

ウルトラマンゼロ（刹那）「知ってるのか？」

護「3人は凱兄ちゃんの知り合いだよ、何で3人がゾンダー人間に……。」

EII-EXの核となったのが、ミレイ、リヴァル、沙慈だと知って

驚愕した凱と護は、手を出す事が出来ずにいた。

凱「ミレイ、リヴァル、沙慈。」

ゾンドリアン（ミレイ）2「お前だけは許さない・・・!!」

ゾンドリアン（沙慈）3「ルイスやみんなを守らなかったお前だけ許さない・・・!!」

凱への激しい憎しみを彼のスターガオガイガーに思いつきり爪で引つ掻きながらぶつけるEIEEX。

凱「やめてくれ、3人とも!!俺はお前達と戦いたくない!!やめてくれ!!」

自分のせいでアツシュフォード学園を救えなかった事でゾンダー人間となったミレイ、リヴァル、沙慈と戦う事が出来ない凱。あの時、自分に力があれば原種を倒してニーナやシャーリーや学園の生徒は救えていた。

ゾンダー人間（ミレイ）2「学園を守らなかった裏切り者!!」

ゾンダー人間（リヴァル）1「ニーナだってキスだってしたかった、お前が来なかったせいでニーナはもう死んだ!!もう二度と出来なくなっただよ!!」

ゾンダー人間（沙慈）3「ルイスにはめる指輪を、左手を失ったせいでもう二度とはめれなくなっただよ!!お前のせいでこうなったんだよ!!」

学園を守らなかった凱を激しく責め、リヴァルはニーナとキスを交わすのが、彼女が死んでしまつて二度と交わす事が出来なくなり、沙慈はルイスのために買った指輪を2人で一緒にはめようとしたのが、彼女が左手を失つて二度とはめる事が出来なくなり、その怒りを凱にぶつけた。

キラ、アスラン「!!」

EI-EXの表意にキラとアスランは、憎しみに囚われている事を感じて、接近する。

凱「キラ、アスラン!!」

アスラン「獅子王凱、お前も仲割れになったその3人と仲を取り戻したいはずだろ!!」

凱「!!」

キラ「あなただつて今も彼らの事を想っているはずです!!もう一度彼らと話してみてください!!」

アスラン「お前はそれでいいのか?!お前もその3人と解り合えたいだろ!!」

凱「……。」

キラ「凱さん!!」

凱「キラとアスランの仲を戻せたんなら俺だつてミレイやリヴァルや沙慈との仲を戻せる。」

キラとアスランの励ましの言葉で、2人が対立して、再び仲を取り戻せたように自分もミレイやリヴァルや沙慈との仲を修復するため、EI-EX人対話を始めた。

凱「ミレイ、リヴァル、沙慈!!」

ゾンダー人間(リヴァル)1、ゾンダー人間(ミレイ)、ゾンダー人間(沙慈)3「!!」

凱「すまなかつた!!君達の学園が破壊されて、ニーナやシャーリーやルイスや他の生徒を守れず犠牲になった事は申し訳なかつた。全部俺のせいで、救えなかつた事に本当にすまなかつた。」

原種の襲来の際にスローネが現れて学園を破壊された事で、ニーナ

やシャーリーや大勢の生徒が死に、ルイスは左手を失い、自分が助けに行けなかった事を謝る凱。

ゾンダー人間（リヴアル）1 「黙れ、今更謝ったって俺らはお前を許さない!!」

ゾンダー人間（ミレイ）2 「お前が助けに来てさえいればこんな事は起きなかった。」

凱「ああ。俺が助けに来なかったせいでシャーリー達は死んでしまった。あの時俺が弱かったせいで原種に敗れていけなかった。」

ゾンダー人間（沙慈）3 「あの時って何だよ、お前は勇者だろ!!勇者なら勝てたはずだろ!!」

凱「・・・。」

ゾンダー人間（ミレイ）2 「やはりお前は死ねえ!!」

凱が謝罪してもそれでも彼を許さず、襲いかかろうとするE I E X。

ウルトラマンゼロ「やめろおおおおおー!!」

その時、ウルトラマンゼロが介入して憎しみに囚われた3人のE I E Xにゼロスラッガーで切り刻んだ。

ウルトラマンゼロ「これ以上憎んだって何も意味ねえんだよ!!逆に憎しみを生むだけだ!!」

ウルトラマンゼロ（刹那）「お前達3人の憎しみを俺とゼロが断つ!!」

ゾンダー人間（ミレイ）2 「黙れええええええええー!!」

3人の憎しみを断とうとする刹那とウルトラマンゼロ。だが、ウルトラマンゼロに切り刻まれたE I E Xの身体が再生し、3つの頭の口から光線を放った。



一同「ぐう!!」

E I I E Xの光線を喰らった一同。

ゾルダートJ「私が相手だ!!」

暴走したE I I E Xの前に空からキンググジェイダーが現れてパンチをぶち込んだ。

凱「お前はゾルダートJ!!」

ゾルダートJ「久しぶりだな、獅子王凱。」

戒道「J、あの3人を助けて。」

ゾルダートJ「お前の知り合いを助けるのも私の役目だ。」

戒道のため、E I I E Xの核にされたミレイ、リヴアル、沙慈を救うため、ゾルダートJが立ち上がり、彼の乗るキンググジェイダーが巨大なパンチを繰り出して、E I I E Xに打ち込んだ。

ゾンダー人間（ミレイ）2「うおおおおおー!!」

E I I E Xが走って駆けながらキンググジェイダーに飛びかかってきた。

ゾルダートJ「来たか!!」

飛びかかって来たE I I E Xにキンググジェイダーが右腕にある錨型武器をチャージして必殺技を発動する。

ゾルダートJ「ジエイクオース!!」

錨型武器から火の鳥を放ち、E I I E Xに直撃して撃破した。倒し

たEⅠーEXから3つのゾンダー核が出現した。

ゾルダートJ「アルマ。」

凱「護。」

戒道「任せて。」

護「行くよ。」

浄化モードになった護と戒道は、3つのゾンダー核の浄化を行つた。

護「クーラティオー!!テネリタース セクティオー サルース コクトウーラ!!」

戒道「テンペルム!!ムンドウース インファイニ トウーム レディーレ!!」

3つのゾンダー核を浄化し、元のミレイ、リヴァル、沙慈へと戻り、3人は浄化され元に戻った事で、涙を流した。

凱「これでやっと終わったな。」

護「浄化した事であの3人も元に戻ったよ。」

戒道「喜ぶのまだ早い。」

凱、護「?!」

ミレイ達を救って喜んだら、空から一隻のブリガンテの真上から腕原種が現れた。

凱「腕原種!!」

腕原種「久しぶりだったな、サイボーグ凱、ゾルダートJよ。」

ゾルダートJ「腕原種、貴様も1001人評議会とつるんでいたのか?!」

腕原種「そうとも、我も1001人評議会と共にしておるのだ。」

ウルトラマンゼロ「次から次へと101人評議会か!!」  
腕原種「我々は既に次の舞台へと突き進んでいる。今日は挨拶しに来たのだ。」

腕原種も101人評議会とつるんでいた事で、原種もまた101人評議会の関係があり、腕原種はブリガンテと共に立ち去った。

#### 首都防衛基地

#### 格納庫

凱「原種も101人評議会とつるんでいたとは。」

刹那「奴らの野望を食い止めばならないな。」

ガイ「あんたがゾルダートJか？」

ゾルダートJ「ああ、お前達と一緒にいるのも心地がいいな。」

リク「あんた、かっこいい姿してるな。」

ゾルダートJ「ふっ、巨人に変身する戦士もなかなかだな。」

新たにゾルダートJと戒道が仲間に加わり、今後の戦いは佳境へと迫りつつあった。

エルエルフ「ようやく集まっているようだな。」

ハルト「エルエルフ、何かする事がもう決まったのか？」

エルエルフ「ああ、俺達はルルーシユの妹のナナリーを奪取する。」

凱「ナナリー。」

バン「彼女はスローネに捕まって帝国にいると。」

エルエルフ「彼女の居場所はリヤドにいる。」

凱「彼女がリヤドに？」

エルエルフ「地球軍は今全戦力を宇宙に集結させている間、今が彼女を奪取出来るチャンスだ。」

現在、地球連合軍は全戦力を宇宙に集結させており、その間に彼女を奪取出来るチャンスを掴んだという。リヤドへ向かった一同は、中

東へ飛び立ち、早速中東のムカツラーの海岸へと進んだが、海岸にはガイロス帝国の守備隊が待ち構えており、当然アークエンジェルも特機部隊を発進して迎撃にかかった。

ムカツラー

ウルトラマンゼロ「うおおおー!!」

ウルトラマンゼロが空中からゼロキックで地上にいるレッドホーン部隊の前に地面に打ち込んで爆発して、蹴散らした。

凱「喰らえっ!!」

空中ではスターガオガイガーがレドラーBCに格闘で殴り込んで撃墜した。

キラ「ターゲット確認、マルチロツク……。」

キラがフリーダムで多数の敵機を照準し、機体の翼の武装から背部のバラエーナプラズマ収束ビーム砲、両腰部のクスイファイアスレール砲を展開し、右手にルプスビームライフルと同時に発射し、照準された多数の敵機のコックピット以外の部分を破壊した。

バン「行くぜ!!」

バンは高速形態のライガーゼロイエーガーの高速によるスピードと運動性で、敵機の周り駆けながら翻弄して攪乱し、その隙を突いて効のブルーフレームセカンドGとイライジャのジン改が敵機を次々と撃退していった。ガイロス帝国守備隊を次々と撃退していき圧倒的な強さで示しながらリヤドへ突き進むアークエンジェル。

ウルトラマンゼロ（刹那）「!!」

ウルトラマンゼロ「どうした、刹那?！」

ウルトラマンゼロ（刹那）「いや、なんでもない。」

刹那は、再び奴と再会する日を予感した。その奴とは、

リヤド

ヴォルフ「いよいよか。」

その人物とは以前、刹那がトリポリ基地で対峙したヴォルフだった。ヴォルフも刹那との再会を予感し、2人の対決が再び起きようとする。リヤドへ向かうアークエンジェル。

移動中

エルエルフ「リヤドまでもうすぐだ。」

リヤドまでもうすぐ到着だ、到着すればナナリーを奪取する事で彼女を助け出される。だが、移動中に突如地面から巨大なドリルが回転して、バーサークフューラーが現れ、他にもダイヤモンド、デイルフオース、ジェノザウラー、ジンクス、ストライクダガー、ダークロプスゼロ、レギオノイドγまでもが現われて、一同を包囲した。

ヴォルフ「君達には宇宙へ行ってもらわねばならないのだが……。」

バーサークフューラーを操縦するヴォルフがそう告いだ。

ウルトラマンゼロ（刹那）「!!」

刹那は、バーサークフューラーを見て、以前出会ったティラノサウルス型ゾイドである事に気付いた。

ヴォルフ「行かぬというのなら、諸君にはここで死んでもらうこと

になる!!」

次回 28話へ続く

## 設定5

### 鉄竜騎兵团

#### 機体、怪獣

バーサークフューラー、シュトウルムフューラー、ヤクトフューラー、デイマンテイス、マツカーチス、デイロフォース、グランチャー、グレイヴクアマ、ダークスパイナー、キラードーム、ガンギヤラド、ジークドール、セイバータイガー、ジェノザウラー、ジェノブレイカー、シンカー、ウオディック、ザバット、ヘルデイガンナー、シーパンツァー、ゲーター、ストライクダガー、105ダガー、バスターダガー、ジンクス、ジンクスII、ダークロプスゼロ、ギャラクトロン、ペドレオン、バグバズン、ガルベロス

#### 母艦

ホエールキング、ドラグーンネスト、ブリガンテ

#### メンバー

ヴォルフムローア、ズイグナーIIフォイアー、アンナIIターレス、アイガーIIレオネード、アクアIIエリウス、キリーIIブラック、キャプリーIIコンラッド、コンチヨIIキャンサ、マリエスIIバレンシア、エレクトIIコミユニ、スージーIIミツチエル、サファイアIIトリップ、ズイーガーIIシヤン、ヨハンIIHIIシユタウフィン、フェアIIディーンスト

ヘルデイガンナー鉄竜騎兵团仕様

全長：24.5m?

全高：5.8m?

重量：48t

#### 武装

ストライククロー×4

ARZ20mm2連装ビーム砲×2

ロングレτζアサルトビーム砲

地对空72mmマシンガン

スマツシユアツプテイル

魚雷

特殊能力

ラミネート装甲

機体説明

ガイロス帝国のヘルデイガンナーを鉄竜騎兵团仕様にした。武装などは変わっていないが、魚雷が採用され、全身のカラーリングが赤で、全身にラミネート装甲が採用された。深海での運用可能となった。主に工作活動を中心に行なっている。

ガンギヤラド

全長

飛行形態：36.0m?

地上形態：23.0m?

全高

飛行形態：11.0

地上形態：15.0

全幅

飛行形態：20.0

地上形態：10.0

重量：155t

武装

ハイパーキラーファンク

ハイパーキラークロ×2

ストライクレーザークロ×2

ハイパー荷電粒子砲

パルスキャノン砲

3門衝撃砲

全天候3Dレーダー



特殊能力

オーガノイドシステム

RP装甲

機体説明

かつてガイロス帝国の最強ゾイドをプロイツエンが裏で復活させて鉄竜騎兵団に配属した。現代に蘇ったガンギヤラドは、オーガノイドシステムが採用され、戦闘力、防御力、スピードは高く、フリーダム、ジャステイスに匹敵する能力を持ち、地上形態からでも飛行が可能となり、また宇宙での活動も可能となった。全身にPS装甲とラミネート装甲を組み合わせたRP（ラミネートフェイズ）装甲が採用され、ビーム、実弾のダメージを半減する。バーサークフューラー、ダークスパイナーと同じ中核を並べ、ヘリック共和国の本土侵攻に投入された。

スーパーギャラクトロン

身長：61m?

体重：6千1万トン

武装

ギャラクトロンアームズシャフト×2

・大型内装ビームソード

・内蔵ビーム砲

腹部ギャラクトロンブラスター

胸部拡散式ギャラクトロンブラスター

ヘッドテイルシザース

シールド×2

特殊機能

TP装甲

陽電子リフレクター

真オーガノイド

機体説明

地球連合軍が開発したギャラクトロンの後継機。前のギャラクト

ロンを有人式に仕様し、火力が強化され、TP装甲や陽電子リフレクターやデスステインガーの真オーガノイドを採用し、ビームソードとビーム砲の2つの機能を持ったギャラクトロンアームズシャフト、頭部にヘッドテイルシザーズ等と言った強力な兵器を持ち、出力は大幅に上がり、ウルトラマンに匹敵する戦闘力を持つ。パイロットはユーフェミア。

レギオノイドγ

身長：53m?

重量：3万8千トン

武装

イーゲルシユテルン

腕部内蔵ミサイルランチャー×2

ビームライフル×1

ビームサーベル×2

シールド×1

機体説明

鉄竜騎兵団が開発したレギオノイドの最新機。ベリアル帝国軍時代に使われたαとβ、地球のMSを参考にして開発され、両腕がアタッチメントでなく普通の手を採用し、武器などを使用したりし、機体は汎用性、地球のMSと同じ、無人機と有人機の両方がある。集団戦を得意として、数でウルトラマンを圧倒する。

GNデスザウラー

全長：不明

全高：不明

重量：不明

武装

GNハイパーキラークローク×2

GN大口径荷電粒子砲

GNバイトファンク

GN加重力衝撃テイル

特殊能力

オーガノイドシステム

PR装甲

GNバリア

機体説明

プロイツェンが蘇らせた史上最悪2大ゾイドであるデスザウラーをオーガノイドシステムと疑似太陽炉の技術によって完全復活し、ジックスの擬似太陽炉の数千倍を持ちながら性能はとてつもなく高く持ち、戦闘力、防御力共に高く、大艦隊を一瞬で葬る威力を持ち、世界一個分を滅ぼす事も可能。オーガノイドシステムで回復機能を持ち、全身の装甲にRP装甲が採用され、サイズはウルトラマンと同じ大きさでありながらウルトラマンを一撃で倒す力を持つ。プロイツェン自ら操縦して、ヤキンドゥー工攻防戦で投入した。

ゾノーダギルベイダー

全長：不明

全高：不明

重量：不明

武装

ビームスマツシャー×4

プラズマ粒子砲×4

ニードルガン×10

重力砲×4

チタンクロー×4

後部切断翼×2

特殊能力

ゾンダーバリア

物理昇華

機体説明

シャルルが蘇らせた史上最悪2大ゾイドであるギルベイダーを

オービットベース襲撃で捕らえた命にあるゾヌーダまた物理昇華で彼女をギルベイダーの生体コアにして完全復活し、通常の数千倍を持ちながら性能はとてつもなく高く持ち、戦闘力、防御力共に高く、大艦隊を一瞬で葬る威力を持ち、世界一個分を滅ぼす事も可能。命の物理昇華であらゆる物質を絶縁体と化しエネルギーを発散させる。サイズはウルトラマンと同じ大きさでありながらウルトラマンを一撃で倒す力を持つ。シャルル自ら操縦して、ヤキンドゥーエ攻防戦で投入し、凱のスターガオガイガーと死闘を繰り広げた。

## 第28話 鉄竜騎兵团

ナナリーのいるリヤドへ向かう際、ヴォルフの率いる鉄竜騎兵团と遭遇する刹那達。

マリユー「あなた達の目的は何なの?!」

突如現れた鉄竜騎兵团に声をかけて目的を問うマリユー。

ヴォルフ「君達が知る必要はない。」

バン「何だと?!」

ヴォルフ「君達はここで死ぬのだからだ。」

突如、地上にいるアークエンジェルの各機が力を失い、動きが停止した。

キラ「きつ、機体が……!!」

ハルト「動かない……!!」

それは地底に潜んだ鉄竜騎兵团所属のグランチャーから放たれた妨害電波により、地上にいるアークエンジェル特機の動きを封じていた。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「身体が……!!」

ウルトラマンジードプリミティブ（リク）「動かない……!!」

グランチャーの妨害電波は特機だけでなくウルトラマンにも影響を及ぼし、身動きが封じられていた。

ウルトラマンゼロ（刹那）「貴様、何のつもりだ。」

ヴォルフ「また会えて光栄だ。」

ウルトラマンゼロ（刹那）「まさか、お前はあの時の!!」  
ヴォルフ「ここで再会は何かの運命だ。」

トリポリ基地で対峙したティラノサウルス型ゾイドのパイロットと再会した刹那とウルトラマンゼロ。

ウルトラマンゼロ「お前の目的は何だ、言え!!」

ヴォルフ「君達2人だけに教えてやろう。我ら鉄竜騎兵团、ARUSやガイロスや101人評議会のために戦わず、ゼネバスのために死す!!」

その言葉を合図に鉄竜騎兵团の全機がアークエンジェルの特機に襲いかかり攻撃した。多数のデイマンティスの集団戦による奇襲攻撃を次々と受けた。

ロックオン「うつ、動けねえ……!!」

オレンジハロ「アアア、クルシイ……!!」

グランチャーの妨害電磁でオレンジハロが狂いながら機体は停止したままデイマンティスの集団攻撃を受けるロックオン。

アスラン「うわああああー!!」

イライジャ「ぐうっ!!」

効「電磁波のせいが機体が動かない!!」

ジャステイスやブルーフレームセカンドGやイライジャのジン改までもグランチャーの妨害電波によって動きを停止されてしまい、ジエノザウラーとティロフォースの集団が奇襲攻撃した。

バン「俺の機体なら動ける!!」

グランチャーの妨害電波の難を逃れたバンのライガーゼロイエーガーが全速で駆けながら鉄竜騎兵団のゾイドに攻撃を仕掛けるが、

ヴォルフ「邪魔はさせない。」

高速で来るバンのライガーゼロイエーガーにヴォルフがバーサークフューラーの口から拡散荷電粒子砲をライガーゼロイエーガーの周囲全体に放ち、命中した。

バン「うわああああー!!」

最速を誇るライガーゼロイエーガーにバーサークフューラーの拡散荷電粒子砲を喰らいやられてしまった。

ヴォルフ「そのウルトラマンよ、我が名はヴォルフ・ムーロア。貴君の名を聞きたい。」

再び、ウルトラマンゼロの元へ接近したヴォルフは自分の名を告げ、名前を求めた。

ウルトラマンゼロ（刹那）「刹那＝F＝セイエイ。」

ウルトラマンゼロ「ウルトラマンゼロだ。」

ヴォルフから問われてそのまま名を告げた刹那とウルトラマンゼロ。

ヴォルフ「刹那とゼロか。今から君達はここで消えてもらおう。」

刹那「ヴォルフ・ムーロア、ゼネバスの末裔か?! もしそうだとしたらコズミックイラ全体に影響を及ぼす事がある!!」

2人の名を聞いたヴォルフは早速潰しにかかり、また刹那とウルト

ラマンゼロはヴォルフがムーロアと名を以前歴史の勉強をして、ゼネバスを支配した人間の末裔である事を知り、この男が日本へ帰還し、ゼネバスの復活、そしてコスミックイラ全体の支配が目的ならここで倒さなければならぬのだ。

ウルトラマンゼロ（刹那）「動け、動いてくれ、ゼロ!!」

グランチャーの妨害電波により、動くことすら出来ないウルトラマンゼロ。ヴォルフのバーサークフューラーがバスタークローで迫ろうとして来た。その時、銃声が鳴ってバーサークフューラーの装甲に命中した。

ヴォルフ「!!」

それは遠くから離れたガルムがプラズマクロスガンによる狙撃攻撃だった。

ガルム「俺達ハンターの存在を忘れるとは侮ってたもんだな。」

バレル「お前らは機体やウルトラマンに目を集中し過ぎたな。」

マグナ「さて、俺達の見せ場だ!!」

鉄竜騎兵団はアークエンジェルに星人ハンターの存在がいた事に気が付かず、ガルムがプラズマクロスガンで特機に取り付いているダイヤモンドに次々と狙撃をし、バレルが雷鳴刀から白色破壊斬で破壊光線のエネルギーを刀身に集めてムチのよう振りながらダイヤモンドやデIROフォースを斬り込んでいき、マグナがナナマスでレギオノイドやダークロプスゼロ破壊していった。だが、地底にいるグランチャーはまだ健在だ、グランチャーの妨害がある限り停止から解放する事が出来ない。その時、空から1機のギヤラクトロンが突如と現れて来た。



一同「?!」

グロウズ「驚かせちゃったな!!」

ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「グロウズなのか?!」  
デルトルト「グオツグオ。」

グロウズ「ユジンが回収したギャラクトロンを俺らが改造したんだ。」

リバル「今からいいものを見せてやる。」

トライデントらが乗るギャラクトロンはドラルが回収して、リバルが有人式に改造し、右腕のギャラクトロンカノンにグロウズとデルトルトの武器を収納しており、収納した事で、ギャラクトロンカノンからマグマ光線を地面に向けて放ち、地底にいるグランチャーの妨害電波が地面にマグマ光線の熱い変度により、妨害電波を打ち消した。妨害電波が打ち消された今、全機動きが復活し、反撃開始をする。

キラ「はああああー!!」

キラがフリーダムを飛行して機体を推進しながらビームサーベルでデイマンティスの両腕を切断し、ハルトのヴァルヴレイヴ1がメテオール・プレートを投擲して、デイマンティスを次々と撃退していった。

ロックオン「さつきはよくもやってくれたな、思う存分やらせてもらうぞ!!」

グランチャーの妨害電波から解放されたロックオンは、GNスナイパーライフルでデイマンティス、ストライクダガーを次々と狙撃して破壊した。ジャスティスとブルーフレームセカンドGとイライジャのジン改も動け出した今、シンクスやジェノザウラーやデイロフォーの集団に攻撃をした。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン(ガイ)、ウルトラマンジード  
プリミティブ(リク)「うおおおおおー!!」

ウルトラマンオーブ オーブオリジンがオーブカリバー、ウルトラ  
マンジードプリミティブがジードクロウでダークロプスゼロ、レギオ  
ノイドYを次々と破壊していった。

ウルトラマンゼロ「てやあああああー!!」

動きを取り戻したウルトラマンゼロは、バーサークフューラーに連  
続パンチし、更にゼロスラッガーで斬撃し、損傷を与えた。

ヴォルフ「ぐうっ!!」

ウルトラマンゼロの猛攻を受けるヴォルフ。刹那は、ヴォルフがゼ  
ネバスの末裔である事で、彼をここで倒さなければならぬと判断  
し、ヴォルフと言う男が日本に帰還したら世界はどうなるか?!ここで  
彼を倒さないと、更に戦火を増す事となるだろう。ヴォルフもウルト  
ラマンゼロの反撃を受けて、ウルトラマンゼロのその圧倒的な強さに  
追い詰められていた。そして次々と倒されていく鉄竜騎兵団の機体。  
そんな中、突如地中から巨大なデスステインガーが現れて、荷電粒子  
砲を放った。

ヴォルフ「デスステインガー、アンナか?!」

ズイグナー「お逃げください、殿下!!」

その巨大なデスステインガーに乗っていたのはズイグナーだった。  
ズイグナーはヴォルフを守るため、彼の恋人のアンナのデスステイン  
ガーに操縦し、本来普通の人間が乗れる機体を彼は危険の招致の故に  
自らの命と引き換えにヴォルフを助けるために出撃した。

ヴォルフ「ズイグナー?!」

ズイグナー「今の戦力では、立て直せません。お逃げください!!」

鉄竜騎兵団の本隊は既に別の場所においており、ヴォルフを助け出すため何としてでもこの場にいる敵を抹殺しようとするのだ。

ヴォルフ「お前を置いて逃げれるか!!」

ズイグナー「我らの悲願をお忘れか？」

ヴォルフ「!!」

彼らの悲願、それはゼネバス復活だった。ヴォルフはゼネバスの血を継ぐ末裔、彼の存在がゼネバス復活に繋がるためにあると言う。

ヴォルフ「すまない。」

そう言いながらバーサークフューラーを反転し、思いつきりバーニアをふかすヴォルフ。デスステインガーの尻尾から荷電粒子砲が放たれた。

マリユー「このままじゃみんなやられてしまうわ。」

ウルトラマンゼロ「ラミアス艦長、みんなを連れてナナリーのところへ行け。」

マリユー「あなた一人残すわけにはいかないわ!!」

ウルトラマンゼロ(刹那)「後俺とゼロでやる。みんなはこの場から引け。」

マリユー「わかったわ、あなたの無事を祈ります。」

巨大なデスステインガーを前に刹那とウルトラマンゼロがこの場を任せて、アークエンジェルは味方機を連れてナナリーのいるリヤドへ向かった。

ズイグナー「貴様あつ!!」

デスステインガーを操縦するズイグナーがストライクレーザーバ  
イトシザースでウルトラマンゼロに掴みかかって来た。

ウルトラマンゼロ（刹那）「!!」

刹那はウルトラマンゼロエクシアに変身してデスステインガーの  
ハサミをゼロエクシアソードで防ぎ、ゼロブライトサーベルを出し  
て、デスステインガーの右腕を切断し、ゼロエクシアソードで必殺技  
のゼロエクシアスマッシュでゼロエクシアソードを発光して光状を  
纏いながらデスステインガーの胴体を真つ二つにした。

ズイグナー「ぐわあああー!!」

ウルトラマンゼロエクシアの必殺技を受けて、デスステインガーを  
真つ二つにされてしまったズイグナー。その時、撤退したはずのヴォ  
ルフのバーサークフューラーが現れて来た。

ズイグナー「殿下、なぜ・・・!!」

逃したヴォルフが戻って来た事に驚くズイグナー。ヴォルフは、  
ズイグナーを救うため、ウルトラマンゼロに再び挑み、傷付いたバー  
サークフューラーの装甲をパージし、バーサークフューラーの野生の  
本能に賭けて挑む。

ヴォルフ「刹那!! F!! セイエイ、ウルトラマンゼロ!!」

ウルトラマンゼロ（刹那）、ウルトラマンゼロエクシア「ヴォルフ!!  
ムーロア!!」

ヴォルフのバーサークフューラーがバスタークローを回転しながら飛び、ウルトラマンゼロエクシアがゼロエクシアソードで斬りにかかり、ぶつかりあった。そして、一瞬の交差、2つの金属音が響き鳴り、ヴォルフのバーサークフューラーのバスタークローがウルトラマンゼロエクシアの肩アーマーを貫き、ウルトラマンゼロエクシアのゼロエクシアソードがバーサークフューラーの喉に食い込んだが、浅い。

ウルトラマンゼロエクシア（刹那）「お前の勝ちだ!!」

刹那が呟き、一騎討ちはヴォルフが勝った。そしてヴォルフはズイグナーを回収し、撤退した。アークエンジェルはリヤドにいるナナリーを奪取し、宇宙へと向かった。またヴォルフはズイグナーを回収し、鉄竜騎兵団の本隊と合流し、ヘリック共和国本土へ侵攻する準備を行った。宇宙では、全軍の全戦力が集結する最中、ヘリック共和国本土に鉄竜騎兵団を止めるものはいないだろう。宇宙の地球連合軍の月面基地では、

宇宙

プロトレマイオス基地

カティ「ガイロス帝国軍、カティIIマネキン大佐、ただ今参りました。」

プロトレマイオス基地司令官「君にドミニオンの艦長を任命する。」

次回 29話へ続く

## 第29話 立ちほだかる存在

地球連合軍がザフト軍、宇宙人同盟との戦いに終結すべく、全戦力を宇宙に出させて、月面のプロトレマイオス基地に集結した。またオービットベースでは、

すふ

宇宙

オービットベース

セカンドオーダールーム

大河「プロイツエンがザフト軍と宇宙人同盟と決着をするべく全戦力を月面基地に集結させたのか。」

火麻「ARUSやガイロス帝国は陸海空軍の全て兵力をぶち込んだわけか。」

麗雄「まるで賭け事をしているわけじゃな。」

大河「両軍共、ウルトラマンベリアルとレイブラッド星人とエンブリフと101人評議会に意のまま動かされている。」

麗雄「共和国は人革連と共闘してこの戦いを終わらせるべく全戦力を投入したそうじゃ。」

大河「大統領は本気でこの戦いを終わらせるつもりようだ。」

麗雄「世界が今後どう向き合うかだ。」

ゼナ「(そして奴らがどのように動くかだ。)」

戦いは最後の戦いへととなり、舞台は宇宙が戦場へと移り、全軍全戦力を終結させ、この戦いに終止符を打とうとする。

クルト「失礼します。」

そこでGGGに新しく配属された新入りのゼナと同じシャドー星人のクルトがやって来た。

ゼナ「!!」

大河「どうした?」

ゼナ「(いや、何でもない。)」

クルト「久しぶりの教え子との再会に驚いたんではありませんか。」

ゼナ「(ああ。)」

モア「その人は?」

ゼナ「(彼の名はクルト。私と同じシャドー星人、私の最後の教え子だ。)」

モア「ゼナさんと同じシャドー星人ですか?」

クルト「はい、私は彼と同じシャドー星人です。よろしくお願います。」

新人隊員として笑顔で挨拶するクルト。彼の笑顔に不敵な笑いがあつた。一方、救出されたナナリーは、凱達から今の出来事を全て聞かされた。

ロビー

ナナリー「ゼロがお兄様・・・?!」

凱「ああ、本当だ。彼は君のための戦っている。」

ナナリー「お兄様が私のために。」

凱「彼はプラントにいる。父と最後の対決に挑む。」

ナナリー「お兄様がお父様と・・・!!」

凱「ああ。」

ナナリー「お兄様を止めてください、私のために血を流すなんて。」

凱「もちろんだ。咲世子、彼女の護衛を頼む。」

咲世子「はい。」

ルルーシユの付き人だった咲世子が現れ、彼女はルルーシユが日本を離れて、今はGGGの諜報部に所属し、ナナリーの護衛に着く事になった。一方、この戦いを止めるため、アスランはプラントへ帰還しようとする。

キラ「プラントへ行くのか？」  
アスラン「俺は父と一度話をする。」  
美月「危険過ぎるわ、あなた1人でプラントに行くなんて。」  
アスラン「わかっている。現在のプラントの議長は俺の父なんだ。」  
ガイ「お前1人で行かせるわけにはいかない。」  
キラ「クレナイさん。」  
ガイ「万が一の事があれば俺がオーブに変身して助け出す。」  
アンジユ「私もプラントには用があるわ。」  
エルエルフ「俺も行かせてもらおうぞ。」  
アスラン「2人もプラントだったな。」  
アンジユ「私も故郷に話をつけにいくわ。」  
エルエルフ「プラントがどこまで話が通用するかだ。」  
アスラン「ああ。」

プラントにいる現議長の父パトリックを話しをするため、アスランはアンジユ、エルエルフ、ガイと共にシャトルに乗って向かった。

廊下

ハルト「そう言えばオーブから脱出した科学者はここにきているはずだ。」  
サキ「ええ。」

地球連合軍のオーブ首長国侵略時に科学者がオービットベースに  
来ている事で、聞きたい事を聞きに行こうとするハルト。

イオリ「ねえ、時縞君、流木野さん。」  
ハルト「イオリさん。」  
イオリ「確かその中に私のお父さんがいたはずよ。」  
ハルト「イオリさんのお父さんが科学者？」  
サキ「その科学者の中にいたなんて。」  
イオリ「よかったら一緒に行きましょう。」



ハルト「そうだね。」  
シヨール「ハルトー。」  
ハルト「シヨール?」  
シヨール「最近あまり付き合っていないから。」  
サキ「シヨールさん、何か用かしら?」  
シヨール「ハルトに用があるの。」  
ハルト「?」  
シヨール「ハルト、せっかくだから2人で付き合わない?」  
ハルト「いいよ。」  
シヨール「じゃあ2人つきりになりましょう。」

久々に幼馴染の2人つきりになったハルトとシヨール。一方、1人で何か怪しげな事を企むクルトは、

クルト「……。」

廊下を歩き回るクルトは、何か誰か探そうとしていた。

クルト「(既に作戦は実行だ。)」

ゼナ「(そこまでだな。)」

クルト「ゼナ!!」

ゼナ「(何を企んでいる、クルト。)」

クルト「流星だ、俺が地球連合軍のスパイだつて事を。」

ゼナ「(お前とはこんな形で再会するとはな。)」

クルト「シャドー星の栄光のために俺はベリアルに着いた。」

ゼナ「(お前がベリアルに着いていたとは。)」

クルト「もうじきここは陥落する。」

ゼナ「(何?!)」

クルトの口からオービットベースが陥落する事を告げられ、彼の作戦は速やかに実行され始めていた。

セカンドオーダールーム

大河「何が起きている?！」

スワン「オービットベース内に侵入者デス!!」

大河「何?！」

火麻「原因は何だ?！」

スワン「今映します!!」

すぐにオービットベース内全体の映像をすぐに映し出し、侵入者の確認をしたが、映ったのは3番格納庫にマジウス101人評議会のフアントムがいた。

刹那「あれはフアントム!!」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイNEO）「まさかオービットベース内に潜んでいたのか!!」

マジウス101人評議会のフアントムがオービットベースの3番格納庫に現れて、潜んでいた事に驚く刹那とウルトラマンゼロ。映像からフアントムがオーブ首長国の科学者のRUNEを吸い取っていた。

ハルト「これは一体?！」

急な事態にセカンドオーダールームに入室したハルト達?

刹那「フアントムがオーブ首長国の科学者のRUNEを。」

ハルト「何だって!!」

イオリ「お父さん!!」

フアントムにRUNEを吸収されているオーブ首長国の科学者の中にはイオリの父の姿もあった。

ハルト「イオリさん!!」

イオリ「お父さん、お父さん!!」

父がファントムにRUNEを吸い尽くされていく最期を目の当たりにするイオリ。同時に映像からシャルルの姿が映し出された。

一同「!!」

シャルル（映像）「全世界の諸君、ヘリック共和国とGGGは実はおぞましい人体実験を行なっている。」

大河「何だと?！」

シャルル（映像）「彼らは人体実験でこのような生物兵器を生み出している。つまりこれはバケモノだ!!」

シャルルから映し出された映像から人体実験でウルトラマンを生み出して、生物兵器として使っていると言う捏造を表した。

リク「何だよ、これ!!」

ムサシ「ウルトラマンが悪者にされている。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイン）

）「101人評議会は俺達を悪者に仕上げるつもりか!!」

マグウス101人評議会の策略で自分達が悪者にされたヘリック共和国とGGGの面々。同時に、ファントムを使って潜入していた地球連合軍の特殊部隊の兵士達が現れて、基地内を襲撃し始めた。

一同「!!」

基地内に潜入した地球連合軍の特殊部隊の兵士達が次々隊員やハルト達の一緒のヘリオポリスの生徒達を射殺していった。

廊下

生徒一同「うわああああー!!」

地球連合軍の特殊部隊の兵士達に次々と射殺されていき、クルトの作戦により、オービットベース内は混乱状態に陥り、大勢の隊員や生徒らが逃げ回っていた。

バレル「はあああっ!!」

地球連合軍の特殊部隊の兵士達を相手に戦うラツシユハンターズとトライデントと星雲団とトライスターら。

リバイ「基地内で戦いのは辛い・・・!!」

ハルキ「これじゃいつまで保つかわからないぜ!!」

ガビル「このままだと基地が陥落してしまう!!」

バレル「今は基地にいる敵兵を片付けるしかない!!」

今は基地内にいる地球連合軍の特殊部隊の兵士達が片付ける事を先決していくバレル達。

ゼナ「(オービットベースを無力化する事が目的か?!)」

クルト「ああ、それと既にお前の仲間を1人捕らえた。」

ゼナ「?」

クルト「まあいい、もうじき艦隊が来る。」

基地の外には、地球連合軍の艦隊が接近して来る事を知り、すぐに通信で連絡し、この混乱の最中、ただに出撃したウルトラマンゼロ、ウルトラマンジードプリミティブ、ウルトラマンコスモスルナモード、ウルトラセブン、ウルトラマンレオ、フリーダム、ブルーフレームセカンドG、ヴァルヴレイヴ1、ヴァルヴレイヴ3、ヴァルヴレイヴ4、ヴァルヴレイヴ5、スターガオガイガー、キングジエイダー、幻竜神、

強龍神、デユナメス、ヴァーチエ、フラッグカスタム、イナクト、エールストライク、バスター、キルシユバウム、キルシユバウムカスタム、グレイブカスタム、ソルシエウイサリス。また同時にオービットベースの脱出をはじめた一同は、基地にある四方の4隻のデイビジョン・フリート、アークエンジェル、アヴァロン、クサナギに乗り込み始めた。早速現れた地球連合軍艦隊、その中にアズラエルの乗るドミニオン、ARUS大統領のジェフリーの乗るARUS旗艦が現れた。

アズラエル「君に任せるよ。」

カティ「了解した。」

ドミニオンの艦長に任命されたカティが早速攻撃の声を出した。

カティ「こちらは地球連合軍、宇宙戦闘艦ドミニオン。」

マリユー、スメラギ、グラハム、ビリー、コーラサワー「!!」

ドミニオンから出てきたカティの声に聞き覚えがあると驚くマリユー、スメラギ、グラハム、ビリー、コーラサワー。

マリユー「まさかこの声……。」

スメラギ、ビリー「マネキン!!」

コーラサワー「大佐!!」

グラハム「マネキン大佐!!」

ドミニオンから彼女の声を聞いて、自分達が関わりのある人物である事をマリユー、スメラギ、コーラサワー、グラハム、ビリー。マリユーとスメラギとビリーはアークエンジェルでドミニオンに直接光学映像を流した。

カティ「!!」

マリユー「久しぶりのようね、マネキン。」

カティ「お前はラミアス、クジヨウ。」

スメラギ「あなたとはこんな再会になるなんて思っていないかったわ。」

カティ「そうか。投降をすれば命だけは助けてやる。」

マリユー「それは出来ないわ。」

スメラギ「地球軍、ザフト軍、いやこの世界全体がベリアル達に牛耳られている事に疑念があるの。」

カティ「ラミアス、クジヨウ。」

アズラエル「あつはつはつは。どうするものかと聞いていたが、呆れますね艦長さん。」

ジェフリー「言つて解ればこの世に争いなんて無いんだよ。解らないなら敵を討たねばならん。」

カティ「理事、大統領。」

一同「!!」

地球連合軍の艦隊にブルーコスモスの理事であるアズラエル、A R U S 大統領のジェフリーがいる事を知った一同。ドミニオンから発進したカラミティ、フォビドウン、レイダー、各艦からストライクダガー、バスターダガー、ジンクス、ジェノザウラー、アイアンコングPK、ウオード、ガレスが発進し、ブリガンテからケイが変身したストロング・ゴモラント、巨大化したキリツシャー、ダークロプスゼロ、レギオノイドβ、ギャラクトロン、クグツ化したギエロン星獣、ギエロン星獣と同様にクグツ化したサタンビートル、サメクジラ、グビラが発進し、戦闘開始となった。

ウルトラマンゼロ「てやあああああー!!」

宇宙空間を移動しながらウルトラマンゼロはパンチを繰り出して、レギオノイドβ3機を破壊し、ビームライフルで攻撃してくるストライクダガーの右腕、頭部を手刀で切断した。

オルガ「落ちろおっ!!」

カラミティの全武装で一斉射撃をして、強龍神、ヴァルヴレイヴ3に攻撃した。

ライゾウ「この野郎!!」

カラミティに対し、至近距離から攻撃を行いに向かっていくライゾウはアームストロング・カノンで殴りにかかった。随伴機のジエノザウラー3機が荷電粒子砲を発射してヴァルヴレイヴ3に命中した。

ライゾウ「ぐわあああー!!」

強龍神「山田!!」

オルガ「余所見すんなよ!!」

ライゾウの気をしていた強龍神にカラミティがスキュラを放って攻撃した。

強龍神「バーニングハリケーン!!」

バーニングハリケーンをカラミティに放って反撃した強龍神。

クロト「撃滅!!」

レイダーMA形態でスピードを駆けながら幻竜神とヴァルヴレイヴ5の周り攻撃するクロト。

キューマ「こいつっ!!」

ボルト・フアランクスでレイダーMA形態に射撃するキューマ。だが、レイダーの高い機動力であっさりかわされてしまった。

幻竜神「私が相手だ!!」

機動力とスピードで駆け回るレイダーMA形態に幻竜神が挑み、幻竜神は氷を使って、オーロライリュージュンで自身の分身を作り出した。

クロト「何?!」

幻竜神がオーロライリュージュンで生み出したいくつか氷の虚像に驚くクロト。どれが本物かわからず、翻弄された。

クロト「ええーい、まとめてやる!!」

MS形態に変形したレイダーがミョルニルを放って、幻竜神の氷の虚像をなぎ払ったが、本物の幻竜神の姿はなかった。

幻竜神「貰った!!」

背後から現れた本物の幻竜神が至近距離からフリージングガンを放って攻撃した。

ビッグボルフォッグ「はあああああー!!」

ビッグボルフォッグはシャニのフォビドウンと1対1の戦いをし、ビッグボルフォッグはスピードを駆使してシャニのフォビドウンを攻めた。

シャニ「紫のロボットめ!!喰らえ!!」

ビッグボルフォッグの動きを捉えるため、フォビドウンのフレスベ



ルグからビームを軌道をビッグボルフォッグの来る位置に放った。

ビッグボルフォッグ「!!」

フォビドウンから放ったビームをホログラフィックカモフラージュで回避して、右腕から4000マグナムを放ち、左腕でムラサメソードで斬り込んだ。

シャニ「調子に乗んなあっ!!」

ビッグボルフォッグに逆に攻められたシャニがニーズヘグで振り回しながら斬撃した。

ビッグボルフォッグ「あなたの鎌の斬れ味は危険でありますね。」

シャニ「生意気なんだよ、てめえ!!」

ぶつかり合うビッグボルフォッグとシャニ。

ウルトラセブン「ギエロンだけでなく、他の怪獣までもがか!!」

ウルトラセブンとウルトラマンレオとウルトラマンコスモスルナモードは、ギエロン星獣以外にもクグツ化したサタンビートル、サメクジラ、グビラと交戦する。グビラの鼻のドリルがウルトラセブンに向かつて突撃して来た。

ウルトラセブン「!!」

両手でグビラの鼻のドリルを掴んだウルトラセブン。

ウルトラセブン「くっ、操れているとは、戦いづらい。」

ググツ化した怪獣を相手に戦う事に苦しく感じるウルトラセブン。

ウルトラマンレオ「怪獣だって元は穏やかに過ごしていたのが、戦争の道具に使われた事は私も納得はしない。」

ウルトラマンコスモスルナモード（ムサシ）「命の樹の果実さえあれば……。」

クグツ化した怪獣に命の樹の果実があれば怪獣を元に戻す事も出来ていたが、今の状況ではその場所を取りに行く時間がなく、コスミック世界で自分が抜けると戦力もダウンしてしまう。サタンビートルとサメクジラが同時にウルトラマンレオとウルトラマンコスモスルナモードに体当たりした。

ウルトラマンジードプリミティブ（リク）「何だ、あの怪獣は?!」

ウルトラマンジードプリミティブとウルトラマンゼロは、水生生物をした怪獣ゼガンと戦う。ゼガンのコントロールするため一体化したクルトが操縦をした。

ゼガン（クルト）「お前達2人の首をベリアルに差し出してやる!!」

2人のウルトラマンの首をベリアルに差し出すためにクルトはゼガンの両腕のハサミから赤い稲妻状の光線を撃った。

ウルトラマンゼロ（刹那）、ウルトラマンジードプリミティブ（リク）  
「ぐうっ!!」

ゼガンの攻撃を喰らったウルトラマンゼロとウルトラマンジード。

アリー「貰ったあっ!!」

さらにアリーがトリニティから奪ったスローネツヴァイを自分の

物にして操縦し、刹那とウルトラマンゼロに襲いかかった。

ウルトラマンゼロ（刹那）「その声はアリー!!アル!!サージエス!!」  
ウルトラマンゼロ「お前、まさかガンダムを!!」

アリー「奪った機体は俺にはピツタリ何だよ!!」

そう言いながらGNファンングを射出してウルトラマンゼロに攻撃した。

ストロング・ゴモラント（ケイ）「死ねえ!!」

ケイのストロング・ゴモラントの鼻から必殺技のグラビトロンプレッシャーを放った重力波でウルトラマンゼロ、ウルトラマンジードプリミティブに浴びせて転落させ、さらに周囲にいたフリーダム、ヴァルヴレイヴ1、ヴァルヴレイヴ4を巻き添えさせて、重力波に浴びせられた。

キラ「きつ、機体が!!」

ハルト「じゅつ、重力で動きが・・・!!」

サキ「まるで押しつぶされているわ!!」

ストロング・ゴモラントの必殺技のグラビトロンプレッシャーの重力によって押しつぶされたウルトラマンゼロ達。

美月「はあっ!!」

美月のソルシェウイサリスがストロング・ゴモラントに向けてソリロッドを集中してムーンシユートを放った。

ストロング・ゴモラント（ケイ）「ぐうっ!!」

ウルトラマンと同じ光線の威力のムーンシユートを喰らったスト

ロング・ゴモラントは、尻尾を振ってソルシェウイサリスにぶつけにかかった。機体の分身機能で、ストロング・ゴモラントの尻尾攻撃をかわし、2本のソルナイフで尻尾に斬りつけた。

凱「殺戮マシンなんかに!!」

ギャラクトロン、ダークロプスゼロ、レギオノイドγの無人機部隊を相手に戦う凱とゾルダートJ。

凱「勇者の力を見せてやる!!」

ウルトラマンの大半が光の国へ行つてゐるため、凱は自分が必死になつて戦い、パンチを繰り出しながらダークロプスゼロを次々と破壊し、ガトリングドライバーでギャラクトロンの胴体を突き刺しながら回転して破壊した。

ゾルダートJ「貴様らなど私の敵ではない。」

レギオノイドγを軽々とパンチで一瞬でも粉碎するキングジェイダーは、ウルトラマンの2倍の大きさを持ちながら地球製のロボットにはない巨大なサイズで、圧倒的なパワーを誇り、最強のロボットと言われる。ギャラクトロンがギャラクトロンブレードで斬りにかつてくるに対し、パンチでストレートして一撃で粉碎した。

ロックオン「こんな時に!!」

ティエリア「皆が艦に乗り終えるまではしばらく辛抱しなければ!!」

ムウ「ああ!!」

効「時間稼ぎか。」

皆が艦乗り込んで脱出するまで時間稼ぎをし、デユナメスがGNス

ナイパーライフル、ヴァーチエGNバズーカ、エールストライクは  
ビームライフル、ブルーフレームセカンドGはビームライフルで、多  
数のストライクダガー、ジnkクス、ジェノザウラー、アイアンコング  
PKを次々と撃墜していった。

グラハム「マネキン大佐、あなただつてわかっているはずですよ!!今  
の地球軍を!!」

コーラサワー「大佐、おやめください!!俺はあなたとは戦えません  
!!」

カティ「甘えるな、今は敵同士である事を忘れたか!!」

グラハムとコーラサワーの説得を蹴り、ドミノオンのイーゲルシユ  
テルンで対空攻撃を行わせるカティ。戦いはますます激化し、四方の  
4隻のデイビジョン・フリート、アークエンジェル、アヴァロンへ乗  
り込む大勢の者達。

イオリ「何とか助かったわ。」

シヨーコ「後は脱出すれば……。」

アークエンジェルに乗り込んだシヨーコ、イオリと数十人の生徒  
ら。

マリユー「後は脱出ね。」

だがそこで、アークエンジェルにとある通信が入って来た。

一同「!!」

その通信で大きな事が待ちかまえようとした。一方、戦闘中のキラ  
達は、ストロング・ゴモラントと戦っていた。ストロング・ゴモラン  
トから放った重力波と高い怪力に接近戦では近づけないと判断した。

キラ「迂闊に近づけない。」

ハルト「そうだね。」

ストロング・ゴモラントには遠距離攻撃を行っていかうとするが、そこでアークエンジェルから通信が入ってきた。

イオリ「助けて、地球軍の特殊部隊がアークエンジェルに現れたの!!」

キラ「何?!」

ハルト「何だつて!!」

美月「すぐにアークエンジェルへ行きましょう!!」

サキ「みんなを救わなきゃ!!」

ウルトラマンゼロ（刹那）「ああ。」

ウルトラマンゼロ「ジード、悪いが頼んだぞ!!」

ウルトラマンジードプリミティブ（リク）「任せてください。」

ゼガンとストロング・ゴモラントはリクに任せて、キラ、ハルト、サキ、刹那、美月は地球連合軍の特殊部隊の兵士からアークエンジェルを救うために向かった。早速アークエンジェルに着いた5人は、そこには地球連合軍の特殊部隊の姿はなく、イオリ、その生徒らによって取り押さえられたアークエンジェルのクルー、シヨーコの姿だった。

ハルト「イオリさん……?!」

キラ「こっ、これは?!」

サキ「どういうこと?!」

ハルト「シヨーコ!!」

シヨーコ「ハルト!!」

イオリ「あなた達5人、特に流木野サキと神崎美月、あなた達2人

を差し出せばA R U S大統領が私達の命を保障する約束をしてくれたわ。」

刹那「何だと?!」

マリユール「ダメよ、あなた達は騙されてるのよ!!」

生徒1「お前は黙れ!!」

マリユールの腹を殴って気絶させた。

キラ「マリユールさん!!」

生徒2「お前ら大人しくしろ!!」

生徒達がキラ、ハルト、サキ、刹那、美月の腕を掴み捉え、イオリが拳銃を出して突き付けた。

イオリ「お父さんの仇。」

キラ「君達は利用されているんだ、お願いだから。」

ハルト「こんな事しても無意味だ。」

イオリ「この黙れ!!」

拳銃を構えたイオリが発砲し、その弾がキラ、ハルト、刹那に向けられようとし、美月が生徒に掴まれた両腕を力強く振りながら引き離して、3人の前に立って庇って、自身が身体を張って弾に撃たれた。

美月「!!」

イオリに身体を撃たれた美月。

一同「!!」

刹那「美月!!」

キラ、ハルト、サキ「美月さん!!」

イオリに身体を撃たれてしまった美月。だが、撃たれた彼女は何となく立ったままビクともせず、撃たれた傷跡がすぐに治った。

一同「!!」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイNEO）「美月、お前……!!」

美月「……………」

美月が撃たれて傷跡が一瞬で回復したのを目の当たりにしたキラ達は、彼女も普通の人間ではなかった事が判明し、そして自分の姿に周りに見られた。

イオリ「いやあああああー、バケモノ!!」

美月「もう私は人間じゃない、もう私とみなどころはもう普通の人間じゃないの。永久に死ねない身体なのよ……!!」

イオリ「来ないで、近寄らないで!!」

自分と娘と息子がもう普通の人間でなく、永久に死ねない身体として、バケモノと言われて心に傷付いた美月は涙を流した。5人はポッドに乗せられて、射出され、そのポッドを手に掴んだジンクス。5人を引き渡したイオリは自分達の命の保証の約束をされるが、ストライクダガーがアークエンジェルにビームライフルを突き付けた。

イオリ「約束が違う!!」

ジェフリー「約束など最初からするはずなどない。」

ジェフリーが最初から約束を守るはずがなく騙されたイオリら。ストライクダガーがビームライフルで撃とうとする。その時、キューマのヴァルヴレイヴ5とライゾウのヴァルヴレイヴ3が現れて、ポッドに乗せられたキラ達、アークエンジェルを救う為ジンクスとストライクダガーを攻撃した。



ハルト「犬塚先輩、山田君!!」

ライゾウ「俺のダチに触れんじゃねえ!!」

キューマ「ハルト達には指一步近づけさせない!!」

キューマとライゾウがキラ達を守るため、自分達2人が身を張って命がけで奮闘する。

キューマ「もうアイナみたいな事は繰り返させるわけにはいかないんだ!!」

ライゾウ「死んだノブのところにはまだ行かねえ、今俺がみんなをダチを守らなきゃならないんだ!!」

2人はそれぞれ大切な人を亡くした犠牲を繰り返させないために仲間を守るため必死になって奮闘し、敵部隊を次々と倒していった。だが、それに目を付けたケイとオルガとクロトがキューマとライゾウに襲いかかった。

ストロング・ゴモラント(ケイ)「仲間を守りたいならまずお前ら2人から殺ってやる!!」

ストロング・ゴモラントの鼻からグラビトロンプレッシャーでヴァルヴレイヴ3とヴァルヴレイヴ5を重力波で叩き込み、オルガのカラミティが全武装で一斉射撃し、クロトのレイダーがミョルニルで放ちながら喰らわせて、2機を追い込んだ。

キューマ、ライゾウ「うおおおおおー!!」

機体がボロボロになってもそれで必死になって抵抗するキューマとライゾウ。だが、カラミティとレイダーが同時攻撃でカラミティはスキュラ、レイダーはツォーンを放ってヴァルヴレイヴ3、ヴァルヴレイヴ5に喰らわせて撃破し、キューマとライゾウは戦死した。

ハルト「犬塚先輩、山田君!!」

カラミティとレイダーによってトドメを刺されてしまったキューマとライゾウの最期を目の当たりにしたハルト達。

キリツシャー「ポッドはいただくぜ。」

再びポッドの中にいるキラ達5人を回収しようとするキリツシャー。その時、くさび形の手裏剣状の光弾が放たれて、キリツシャーの右手に直撃した。

キリツシャー「!!」

ウルトラマンダイナフラッシュユタイプ(アスカ)「ヒーローの参上だ!!」

現れたのは、何とウルトラマンダイナフラッシュユタイプだ。

ウルトラマンコスモスルナモード(ムサシ)「アスカなのか……?!」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「アスカ!!」

ウルトラマンダイナフラッシュユタイプ(アスカ)「遅くなったな、俺以外にも頼もしい味方がいる。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「?」

レイ「ゼロ、久しぶりだったな。」

彼以外にも頼もしい味方とは、ペンドラゴンに乗って現れたレイとZAPの仲間達だ。

ヒュウガ「久しぶりだったな、ゼロ。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「ヒュウガ船長!!」

クマノ「俺達もいるぞ。」

オキ「5人揃ってなきやね。」

ハルナ「今はそれより敵を倒す事ね。」

レイ「ああ、ここは俺とダイナに任せろ。行け、ゴモラ!!」

ストロング・ゴモラントを相手に挑むレイはバトルナイザーを出して、ゴモラを召喚し、交戦させた。

ゴモラ「キシヤアアアアー!!」

ゴモラが鼻の角でストロング・ゴモラントに強く突いて、尻尾を振ってぶつけて喰らわせた。

ストロング・ゴモラント（ケイ）「なっ、何?!」

ストロング・ゴモラントは、相手は自身が変身したベリアル融合獣の素である普通のゴモラに一瞬で圧倒された。

レイ「ゴモラの力を見せてやる。」

レイはゴモラの力を見せつけるべくレイオニックスとして怪獣を動かしていく。

ゴモラ「キシヤアアアアー!!」

レイ「超振動波だ!!」

ゴモラがストロング・ゴモラントに近づいて角から必殺技の超振動波を放ち、喰らわせた。

ストロング・ゴモラント（ケイ）「ちい、一時引くか。」

ゴモラの超振動波でストロング・ゴモラントはやられてしまい、変身者のケイ一時撤退した。

ウルトラマンダイナフラッシュユタイプ（アスカ）「はあっ!!」

ウルトラマンダイナフラッシュユタイプは右手からフラッシュユバスターを放ち、レギオノイドβ、ダークロプスゼロ、ギャラクトロンを次々と破壊した。

キリツシャー「我が槍を受けろ!!」

ウルトラマンダイナフラッシュユタイプに向かってゲイボルグに必殺技のキリエルファイヤーランスで槍に自身の炎を纏わせて突き刺しにかかった。

ウルトラマンダイナフラッシュユタイプ（アスカ）「見え見えだ!!」

真っ向から来るキリツシャーの必殺技を見抜きながら前に出て、パンチを出して思いっきりストレートして打ち込んだ。

キリツシャー「ぐわああああー!!」

ウルトラマンダイナフラッシュユタイプのパンチ一発で一瞬でやられてしまったキリツシャーは吹き飛ばされた。

大河「今のうちに脱出だ。」

ウルトラマンダイナフラッシュユタイプとペンドラゴンの介入で、すぐに4隻のデビジョン・フリート、アークエンジェル、アヴァロン、クサナギは出航し、キラ達のポッドを回収したウルトラマンダイナフラッシュユタイプとペンドラゴンも共に脱出した。彼らが向かう先は

コロニーメンデルだ。

次回 30話へ続く

### 第30話 開く扉

地球連合軍のオービットベース襲撃で、ウルトラマンダイナとZAPのクルーらの介入で無事脱出をし、現在コロニーのメンデルにいた。

宇宙

コロニー メンデル

ドック

大河「助けてくれた事に感謝はします。」

ヒュウガ「我々は彼の要請でこの世界にやって来ました。」

大河「彼?」

アスカ「俺が彼らに頼んだ。他のウルトラマンも俺が頼んでこのコズミックイラに来たんだ。」

大河「君がか?」

アスカ「はい。それと俺が単独行動で得た情報だ。地球軍はデスザウラーとギルベイダーを復活させたようです。それに伴いレイブラッド星人やエンブリヲや101人評議会も表舞台から姿を現わす。」

大河「ついにこの戦争の終焉に姿を現しに来たのか。」

ヒュウガ「奴らを野放しにするとまた繰り返す、いや他の世界の支配し、同じようにする事も絶対阻止せねばならない。」

レイ「レイブラッドが完全復活した以上、俺が今度こそ息の根を止めてやる。」

アスカ「コズミックイラの世界の戦争を終わらせてやる。」

ウルトラマンベリアル、レイブラッド星人、エンブリヲ、101人評議会によるコズミックイラの世界の支配を終わらせるべく、この戦争に終止符を打つ事を強く決心する。一方、アークエンジェル個室では、美月が普通の人間でなかった事に、キラとハルトとサキと刹那とウルトラマンゼロとリクは、彼女にその事で話をする。

アークエンジェル

個室

キラ「美月さん、さつき銃で撃たれた時、あなたは傷跡が回復しましたよね。」

美月「……。」

ハルト「僕と流木野さんと同じカミツキ何ですか？」

美月「私はあなた達マギウスとは違うわ。」

サキ「違うって？」

刹那「どう言う事だ？」

美月「私は魔女よ。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイNEO）「魔女？」

美月「私は別の世界で元は普通の人間だったの。ソルシェウイサリスも別の世界よ。」

キラ「別の世界？」

サキ「それどう言う事?!」

美月「私はソルシェウイサリスと共に別の世界出身よ。ある事件をきっかけに私は機体と共にこの世界に飛ばされたの。私は気が付いたら何故か不老不死の魔女になっていたの。私は周りから迫害される日々ずっと身を隠して生活していた。そんな時、私はある男性と出会ってその人は私を匿い、一緒に生活を送った。やがて私はその人と恋をし、結婚してみなところが生まれて、幸せな日々を過ごしたの。でもその日々は続かなかった。ある日私の存在が周りに見つかって、私達家族は追われたの。そしてその人は私とみなとここの目の前で撃たれて死んだの。」

美月は刹那達に自分の経歴を明かし、自分とソルシェウイサリスは別世界出身である事を明かし、コスミックイラの世界に飛ばされた時に自分の身体は不老不死の魔女になり、周りから迫害され、追われる日々の逃亡生活を送った。そんな中、追われている自分にとある男性と出会い、彼女を匿い、一緒に生活を送る。やがて2人は恋をし、結

婚し、娘のみなど息子のこうが生まれて、幸せな日々を過ごしたが、ある日、自分の存在が周りに見つかってしまい、今度は家族と共に追われるの身となり、逃亡生活を送るが、夫が撃たれて自分達の目の前で死んでしまった。

リク「あなたに辛い事があつたんですか。」

美月「私はもう人間じゃないのよ。私とみなとこうはずっとバケモノ呼ばれよ。」

ハルト「そんな事ありません。あなたも僕達と同じ……。」

美月「同じ？あなた達マギウスは先の戦いで仲間が2人死んだ事を忘れてない？」

ハルト、サキ「!!」

美月「マギウスだつていずれ戦つて死ぬわ。そしてRUNEがやがれて尽きれば死ぬ事もあるわ。気安く同じと決めないで。」

ハルト、サキ「……。」

自分の事を気遣うハルトにマギウスとはいえ違い、マギウスもいずれば死ぬ事を言った。一方、オービットベース脱出する際にメンバーが1人だけいなかった事に気付く。

大河「彼女がいない?！」

麗雄「命君の姿がないぞ。」

1人だけいなかったのは命だ。彼女の姿がどこにもいなかった。

凱「命!!」

護「凱兄ちゃん、命姉ちゃんはまさかあの時連れさらわれたんだと。」

凱「くっ、あの時連れさらわれたのか?！」



地球連合軍のオービットベース襲撃時に命は連れさらわれた事に  
気付き、捕らわれた彼女は今地球連合軍のプトレマイオス基地にい  
た。

月面

プトレマイオス

格納庫

シャルル「こいつがパスダーが地球に降下した時に自身の滅亡した  
際の保険か。」

命「私をどうするつもり？」

シャルル「お前には魔獣ギルベイダーのコアになってもらおう。」

命「私がギルベイダーのコア?!」

シャルル「そうだ、お前の中にあるゾヌーダごと物質昇華があれば  
ギルベイダーは無敵となる。」

命「あの時、E1101が地球降下した際に私はじゃあ……!!」  
シャルル「お前は既に人じゃなくなっていたのだよ。お前自身最初  
から気が付いていたはずだ。」

命「……。」

シャルル「それだけでない、お前は永遠の永遠語りの1人だという  
事もだ。他既に4人は捕らえることに失敗したが、お前だけ捕らえた  
価値はある。ギルベイダー復活の生贄になってもらおう。」

捕らえた命はパスダー如くE1101が地球降下した際にゾヌー  
ダという種子を植え付けられていた事で、それに目を付けたシャルル  
が彼女の持つゾヌーダごと物質昇華でギルベイダーの復活を目論ん  
だ。一方、メンデルにある2隻の船がやって来た。

メンデル

格納庫

スワン「メンデルより2隻の船が来ます。」

大河「すぐ映したまえ。」

メンデル周辺の外の映像を映し出したその一隻の船はザフト軍のエターナルとアウローラだ。エターナルからメンデルに通信が入り、エターナル艦内の映像からアンジユとアスランとエルエルフとガイの姿が映し出された。

アスラン「大河長官。」

大河「アスラン君!!」

アスラン「驚かせて申し訳ありません。これには事情があります。」

プラントへ向かった4人から事情を話し、シャトルでプラントへ到着した4人は既に待ち伏せをしていたザフト軍の兵士達に捕まり、4人の前にパトリックとアマデウスとジュリオとカインとクルーゼが現れて、彼らの罫にかかり、4人はアプリリウス市の広場で公開処刑を行われようとし、見物に来た人々の中でマナの人々が4人の処刑を熱狂、狂氣的に支持をし、まるで人間性すらなく、人の不幸、死に様を喜ぶ、嘲笑う姿にアスラン、アンジユ、エルエルフ、ガイはマナが人間性がない事、醜悪なまでに異常な光景、もはや解り合えない事に気付いた。処刑される寸前、その時ジャグラーが現れて、瞬間移動で蛇心剣で処刑台を破壊して4人は解放され、さらに上空から時空の穴が開いて、サラの焰龍號とナーガの蒼龍號、カナメの碧龍號が現れて、アンジユ達を連れていプラントのドックへと向かい、最新鋭艦のエターナルとアウローラを占拠したラクスラクライン派と合理し、エターナルとアウローラと共にプラントを脱出し、現在メンデルに入港し、エターナルの艦長であるクリムヒルトとアウローラの艦長のジルは、ヘリツク共和国とGGGの面々と対面する。

クリムヒルト「初めましてだな、私の名はクリムヒルトだ。」

ジル「私の名はジルだ。」

マリユー「あなた達とは初対面ですね。」

クリムヒルト「そのようだな。」

ジル「カインの副官だったお前がラクスⅡクラインの側近だったとはな。」

クリムヒルト「私は影からずっとラクス嬢の側近として活動して来た。そうではないか、ジル。」

ジル「ザフトだったお前には色々世話をされて来たな。」

マギー「あんたとラクスとリーゼロッテとサラマンディーネが裏からずっと支えてきたおかげでリベリタスがうまく進めれたね。」

大河「リベリタス？」

サラ「リベリタスとは、ベリアルとレイブラッド星人、エンブリフ、101人評議会の支配から解放すべく立ち上がった計画です。」

大河「君達も我々と同じくベリアル達の支配に抗うために立ち上がったのか？」

サラ「はい。私達アウラの民はクライン派の方々と共にずっと計画を立ててきたのです。本当の自由、そしてアウラを解放するために。」

大河「彼らを倒す事は我々も同じだ。」

サラ「そうですね。あなた達と力を合わせればベリアルらの支配を終わらせる事が出来ます。」

大河「君達と共に手を合わせて戦えば、ベリアル達の支配を終わらす事が可能だ。」

サラ「共に力を合わせていきましょう。」

プラントからのウルトラマンベリアル、レイブラッド星人、エンブリフ、マギウス101人評議会の支配に立ち向かうクライン派とアウラの民のサラと共に力を合わせて手を組んだヘリック共和国とGGG。彼らが共に力を合わせ、自分達の倒すべき相手に挑む。そしてラクスはキラと親友のアンジュと再会をする。

キラ「またお会いにしたね。」

アンジュ「久しぶりね、ラクス。」

ラクス「キラ、アンジュ。」

キラ、アンジュ「？」

ラクス「父が死にました。リーゼロツテが捕らわれました。」  
キラ、アンジユ「!!」

キラとアンジユはラクスの口から彼女の父が死んだ事、リーゼロツテが捕まってしまった事を知る。そんな中、メンデルに地球連合軍、ザフト軍と宇宙人同盟と黒の騎士団が近付いてきた。

大河「何、地球軍、ザフト軍と宇宙人同盟と黒の騎士団が近付いて来ただど?!」

フェルト「地球軍は私達を追いに、ザフト軍と宇宙人同盟はクライン派を追いやって来たと思われまます!!」

大河「三巴か。」

サラ「ベリアル達の傀儡ですか。」

大河「戦うしかないな。」

メンデルに接近して来る地球連合軍、ザフト軍と宇宙人同盟と黒の騎士団にヘリック共和国とGGGとクライン派とアウラの民は、すぐに迎撃に出て、発進したのはフリーダム、ジャステイス、ブルーフレームセカンドG、イライジャ専用ジン改、ランチャーストライク、ヴァルヴレイヴ1、ヴァルヴレイヴ4、ヴィルキス、焰龍號、ソルシエウイサリス、ライガーゼロ、キュリオス、ヴァーチエ、フラッグカスタム、バスター、ハーノインのキルシュバオム、キルシュバオム カスタム、グレイブカスタム、スターガオガイガー、キングジェイダー、幻竜神、強龍神、ビツクボルフォッグ、ウルトラマンゼロ、ウルトラマンジードロイヤルメガマスター、ウルトラマンオーブ オーブオリジン、ジャグラー魔人態、ウルトラマンダイナフラッシュタイプ、ゴモラ、スペースペンドラゴン。地球連合軍からはドミニオン、アガメムノン級2隻、ネルソン級5隻、ドレイク級9隻、バージニア級3隻、ホエールキング2隻、カラミティ、フォビドゥン、カラミティ、スローネツヴァイ、ストライクダガー、ジnkクス、ジェノザウラー、アイアンコングPK、ランスロット・コンクエスター、モルドレッド、ガレス、

ウォード、ゼガン、ダークロプスゼロ、ギャラクトロン、レギオノイドβ、ZXR07、ザフト軍と宇宙人同盟と黒の騎士団からはヴェサリウス、ナスカ級2隻、ランメルスベルグ、バールキート級3隻、斑鳩、ジン、シグー、新型機のゲイツ、バッフエ、イデアール、正式量産化されたキルシュバオム、デュエルアサルトシユラウド、アードライ、イクスアイン、クーファイアのキルシュバオム、クレオパトラ、レイジア、テオドローラ、ヴィクトリア、エイレーネ、キングジョーブラック、蜃気楼、紅蓮聖天八極式、ヴィンセント可翔、暁可翔、斬月可翔、インペライザー、カブト・ザ・キラー。3つの勢力による三巴合戦が行われた。

ゴモラ「キシヤアアアアア!!」

ゴモラが真っ向から出て、カブト・ザ・キラーに体当たりした。カブト・ザ・キラーはゴモラに右手のハサミで切り裂き、左手の大きなカニバサミでパンチした。

レイ「ゴモラ、奴の攻撃に気をつける!!」

カブト・ザ・キラーの攻撃を気をつけ、カブト・ザ・キラーの来る攻撃をしっかりと目で見ていくレイ。カブト・ザ・キラーは次は頭の額からエメリウム光線を使おうとして来るのに気付いたレイは、ゴモラにすぐ頭の額を狙うよう指示を出す。

レイ「ゴモラ、頭の額を狙え!!」

レイの指示にゴモラは尻尾を振って、カブト・ザ・キラーの頭部の額に尻尾をぶつけて、攻撃を阻止した。

レイ「超振動波だ!!」

そのままゴモラは角から超振動波を放ち、カブト・ザ・キラーに喰らわせた。

幻竜神「フリージングライフル!!」

レイダーと交戦中の幻竜神はパワークレーンに内蔵されたフリージングライフルから冷凍光線を放って、レイダーのミヨルニルを凍らせた。

クロト「てめえ、凍らせやがったな!!」

自身のミヨルニルを凍らせた幻竜神に2連装52mm超高初速防盾砲からビームを連射して攻撃した。

幻竜神「くっ!!」

左腕のデンジャンホーで攻撃を防ぎ、デンジャンホーからヴァンレイを放電し、レイダーに浴びせた。

強龍神「こいつを喰らいやがれ!!」

オルガのカラミティとやり合う強龍神は、遠距離攻撃をして来るカラミティに向かって、パワーラダーで連打して、ジャオダンジイに溜めたエネルギーで叩き込んだ。

オルガ「痛てえじゃねえか、てめえ!!」

強龍神の攻撃を受けたオルガがケーファー・ツヴァイを至近距離から強龍神に砲撃し、腹部のスキュラを発射して攻撃した。

強龍神「うりゃああああー!!」

左腰のメルティングライフルでカラミティに熱線を放ち、攻撃を与えた。

シヤニ「紫のロボットおおおー!!」

ビッグボルフォッグ「たあああああー!!」

互いに三度交えるビッグボルフォッグとシヤニ。シヤニはフォビドゥンでニーズヘグを振り回しながらビッグボルフォッグに斬りつけた。

ビッグボルフォッグ「くっ。」

フォビドゥンの鎌攻撃の攻撃でボディに傷を負ったビッグボルフォッグは、フォビドゥンは全身にTP装甲である事で、物理攻撃が効かないので、どう対処していくのか。

ビッグボルフォッグ「これしかない、メルティングサイレン!!」

胴体のサイレンからメルティングサイレンを鳴らして、フォビドゥンに響かせて、TP装甲を無効化した。

シヤニ「何変な音鳴らしてんだよ?」

シヤニはビッグボルフォッグの鳴らしたメルティングサイレンが自身の機体野TP装甲を無効化された事に気付かず、ビッグボルフォッグがそのままムラサメソードで斬撃した。

シヤニ「ぐうっ!!」

ビッグボルフォッグの鳴らしたメルティングサイレンでTP装甲

を無効化されて、ムラサメソードで斬撃されたシャニのフォビドゥン。

シャニ「やりやがったなあ!!」

機体にダメージを受けた事でシャニはキレて、フレスベルグでビッグボルフォッグの左右を挟んでビームを放った。

ビッグボルフォッグ「!!」

ビッグボルフォッグは左右から来たビームを下に回って回避して、4000マグナムで射撃した。その時、ロロのヴィンセント可翔がニードルブレイザーでビッグボルフォッグに斬りつけにかかって来た。

ロロ「Gストーンロボット、君はここで消えてもらうよ。」

ビッグボルフォッグ「その声はロロ!!ランペルージ!!」

ロロ「ギアスの天敵が!!」

Gストーンを持つビッグボルフォッグら勇者ロボをギアスの天敵とするロロはここで消しにかかるうとし、ニードルブレイザーでビッグボルフォッグに斬りかかるが、ビッグボルフォッグはムラマサブレードで防御した。

バン「いつけええええー!!」

ライガーゼロのブースターを展開しながらジnkクスとジェノザウラーとストライクダガーをストライクレーザークローで次々と破壊していき、格闘戦で敵機を倒すバン。ダークロプスゼロがライガーゼロに向かってパンチで殴りかかろうとして来たが、効のブルーフレームセカンドGがアーマーシユナイダーで、ダークロプスゼロの頭部に



刺突しながらそのままビームライフルで射撃して破壊した。

効「俺にかかれば敵では無いな。」

イライジャ「ロボット怪獣を簡単に倒したな。」

効「ああ、イライジャ、ちよつと俺は会わなきゃならない人物に会いに行く。」

そう言いながら効は、1人で向かい、ある人物に会いに向かった。

ムウ「クルーゼ、カイン!!」

再び宿敵クルーゼとカインと対峙するムウ。ランチャーストライクを操縦するムウと新型機のゲイツ2機をそれぞれ操縦するクルーゼとカインが激突し、ムウは先手を打ってアグニで砲撃するが、2機は素早く回避し、クルーゼのゲイツはビームライフルで射撃し、カインのゲイツはビームクロードで斬りつけた。

ムウ「2機相手はキツイな。」

キラ「ムウさん!!」

その時、キラのフリーダム、アンジユのヴィルキス、ハルトのヴァルヴレイヴ1、サキのヴァルヴレイヴ4、美月のソルシェウイサリス、バンのライガーゼロ、凱のスターガオガイガー、ウルトラマンゼロ、ウルトラマンジードロイヤルメガマスターが現れて、ムウを助ける。同時に地球連合軍からスザクのランスロット・コンクエスター、黒の騎士団からルルシユの蜃気楼、カレンの紅蓮聖天八極式、CCの暁直参可翔までも現れて来た。

キラ「ムウさん!!」

ムウ「キラ!!」

カイン「ようやく来たか。」

ルルーシユ「あの2人何を企んでいる。」  
CC「とにかく私達も追うぞ。」

キラ達を見てクルーゼとカインは、すぐにメンデル内部へ入り込み、2人を追いに向かうキラ達とルルーシユとカレンとCC、そしてスザク。だが、このメンデル内に大きな出来事を知る事になる。一方、ウルトラマンオーブ オーブオリジンとジャグラー魔人態とウルトラマンダイナフラッシュユタイプはクルトのゼガン相手に戦っていた。

ゼガン(クルト)「別のウルトラマンか。ならあの2人同様、俺が始末してやる!!」

ウルトラマンオーブ オーブオリジンとウルトラマンダイナフラッシュユタイプもウルトラマンゼロとウルトラマンジードと同様に自身の敵とみなし、ゼガンの胸からゼガントビームを発射した。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン(ガイ)「来ます!!」

ウルトラマンダイナフラッシュユタイプ(アスカ)「ああ!!」

ジャグラー魔人態「わかってている!!」

すぐにゼガントビームを回避した3人。3人が回避したゼガントビームが味方であるMS部隊に当たり、当たった光線から異次元空間が発生して飲み込んだ。

ウルトラマンダイナフラッシュユタイプ(アスカ)「まずいぞ、あの光線を喰らったら俺達も一溜りじゃない!!」

ジャグラー魔人態「喰らったらお陀仏だ!!」

ウルトラマンオーブ オーブオリジン(ガイ)「あの光線を何とかしない!!」

ゼガンの放ったゼガントビームに当たったら異次元空間に飲み込まれてしまう。2人はバリアに当たらないようにするため、よくゼガンの放つゼガントビームを回避して行動に出る。

ゼガン（クルト）「死ねえっ!!」

クルトは再びゼガンの胸からゼガントビームを放ち、ウルトラマンオーブ オーブオリジンとウルトラマンダイナフラッシュユタイプとジャグラー魔人態に向けたが、3人は分かれて回避し、ジャグラー魔人態が飛び込んで蛇心剣でゼガンに斬撃した。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「はああああー!!」

続いてウルトラマンオーブ オーブオリジンがオーブオリジンを右手で持ったまま斬撃し、左手からオリジウムソーサーを放ち、ウルトラマンダイナフラッシュユタイプがパンチで打ち込んだ。同じ頃、ディアツカ、ハーノイン、ヒルダ、ロザリーは、かつての仲間だったイザーク、アードライ、イクスアイン、クーファイア、サリア、クリス、エルシャと対峙していた。

ディアツカ「くっ!!」

イザーク「貴様らよくもディアツカ達の機体をノコノコと!!」

イザーク達が自分達の事を死んで別のパイロットが乗っていると思い込まれ、そのまま攻撃されていた。

サリア「私のクレオパトラ、見せてあげる!!」

エルシャ「ええっ。」

クリス「行くよ。」

ヴィルキスと似た機体クレオパトラに操縦するサリアとレイジア

に操縦するエルシャとテオドーラに操縦するクリスが3機合わせてラツイーエルを出して斬りにかかった。

ヒルダ「!!」

3機から振りかかった剣をヒルダのキルシユバオムカスタムが両手の内蔵ビームソードで防いだ。

クリス「ロザリーとヒルダの仇!!」

ヒルダ「その声、クリスだな。」

クリス「?!」

サリア「どうしたの?!」

アードライ「何かあったのか?!」

クリス「今の声、もしかしてヒルダの声……!!」

イザーク、アードライ、イクスアイン、クーファイア、サリア、エルシャ「!!」

ディアツカ「ようやく気付いたか?」

イザーク「お前、ディアツカなのか?!」

ディアツカ「当たり前だ。」

イクスアイン「ハーノイン、生きていたのか?」

ハーノイン「当たり前前だ。俺が死んでいたと思っていたのか?」

イザーク達はディアツカ、ハーノイン、ヒルダ、クリスが生きていた事を知り、彼らから話を聞いたためメンデル内部へ入り込み、機体を着地した。一方、激戦を繰り広げる三軍。

マリユー「ゴッドフリート撃てえー!!」

主砲ゴッドフリート2門発射し、ドレイク級、ネルソン級を撃ち落とし、接近してくるストライクダガー、ジnkクス部隊にイーゲルシユテルン、ヘルダートを同時に一斉発射し、迎撃した。

カティ「ラミアアスめ、やるな。だが。」

マリユートの打って出す行動にカティは、彼女は次を打って来るのは、ドミニオンだと気付き、それに伴い、ドミニオンからスレッズジハンマーでアークエンジェルのごッドフリートを直撃し、さらに艦尾両舷のバリアントにも直撃し、主砲、副砲を被弾させた。

ノイマン「主砲、副砲共に被弾!!」

マリユート「マネキンは私の行動を読んでいるね。」

スメラギ「彼女は私達2人の行動を把握しているわ。」

大学時代の同期だったカティを相手に、彼女に自分達2人の行動が読まれており、主砲や副砲が破壊され、MS部隊が隙を突いてアークエンジェルに攻撃し、このままではなす術がない。その時メンデルから最新鋭のGNアームズタイプDと合体したロックオンのデユナメスが現れた。

ロックオン「このGNアームズで一気に決めるぜ!!」

GNアームズタイプDと合体した状態で、敵に挑み、まずは周辺にいる敵部隊の迎撃を行い、右アームのGNツインキャノンで遠方から来るジェノザウラー部隊にビームで撃ち込み、左アームの超大型ミサイルポッドでストライクダガー、ジnkクス部隊にミサイル一斉発射して破壊し、そのままGNツインキャノンでアガムムノ級、バージニア級、ホエールキングを撃ち落とし、撃沈した。またキュリオスとヴァーチエは自身の機体を持つトランザムシステムを発動して、機体が真っ赤に発光して、インペライザー、キングジョーブラックなどと言ったロボット怪獣を瞬殺した。

ロックオン「次はこいつだ。」

ロックオンが次に狙おうとするのはドミニオンだ。ドミニオンを撃墜すれば自分達の勝利だと確信し、GNツインキャノンで向けようとしたが、

ロックオン「くっ、うっ!!」

その時、GNアームズタイプDの背後からアリーのスローネツヴァイの攻撃を受けて大破し、すぐに合体解除したロックオン。

ロックオン「あれはスローネ……アリー!!アル!!サージエスカ?!」

ついに家族の仇であるアリーと遭遇したロックオンは、今ここで彼をこの手で倒すと言う執念を燃やして挑む。一方、メンデル内部にてクルーゼ、カインを追いに来たキラ達は、

メンデル

研究施設

キラ「ここは?」

ムウ「恐らく研究施設だろう。」

凱「お前まで来るとは、ルルーシュ、スザク、カレン、CC。」

ルルーシュ「ここがどこか気になるんでな。」

スザク「不気味だな。」

CC「……。」

カレン「敵と一緒に歩くのも悪くないわね。」

メンデルにある研究施設へ進むキラ達。そこで施設内の上からクルーゼとカインが自ら姿を現した。

クルーゼ「君まで来てくれるとは嬉しい限りだ、キラ!!ヤマト君。

さあ遠慮せず来たまえ。始まりの場所へ！キラ君、君にとってもここは生まれ故郷だろ？」

キラ「どうして僕の名前を?!」

カイン「君だけでない、刹那ⅡFⅡセイエイやソランⅡイブラヒム、ウルトラマンゼロ、朝倉リクまたの名はウルトラマンジード、君達2人もいるとは。」

刹那、リク、ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロNEO）「……。」  
クルーゼ「シャルルの息子ルルーシュⅡヴィⅡブリタニア、朽木スザク、紅月カレン、CC、獅子王凱。」

ルルーシュ「俺の事まで知っているのか?!」

カイン「バンⅡフライハウト、フィーネⅡエレシーヌリネ、ジーク、アンジュリーゼⅡ斑鳩Ⅱミスルギ、時縞ハルト、流木野サキ、神崎美月とその子供2人よ。」

バン「俺達の名前まで知っているのか?!」

クルーゼ「君もようやく来たか、叢雲劾。」

劾「……。」

ムウ「叢雲!!」

カイン「これで役者は揃った。」

研究施設に集まった彼らにクルーゼとカインは今から話し始めようとし、クルーゼはキラとムウに2枚の写真を落とした。

キラ「?!」

キラが見たその1枚の写真は、カガリがオーブ首長国から脱出する際にウズミから渡された写真で自分とカガリが赤ん坊の時の姿と同じものだった事に驚く。そしてもう1枚の写真はムウが見たのは、幼い頃の自分と父親と一緒に写った姿だった事に驚いた。

ムウ「親父?!」

一同「?!」

クルーゼ「君も知りたいだろう？人の飽くなき欲望の果て、進歩の名の下に狂気の夢を追った、愚か者達の話を。君もまた、その息子なのだからな。」

キラ「ん？」

クルーゼ「ここは禁断の聖域。神を気取った愚か者達の夢の跡。君は知っているのかな？今の御両親が、君の本当の親でないということ。」

キラ「!!」

ムウ「貴様!!」

クルーゼ「だろうな。知っていればそんな風に育つはずもない。何の影も持たぬ、そんな普通の子供に。アスランから名を聞いた時は、想いもしなかったのだがな。君が彼だとは。てつきり死んだものだと思っていたよ。あの双子、特に君はね。その生みの親であるヒビキ博士と共に、当時のブルーコスモスの最大の標的だったのだからな。」

キラ「何を。」

クルーゼ「だが君は生き延び成長し、戦火に身を投じてからも尚存在し続けている。何故かな？」

刹那「貴様!!」

カイン「君は実にいい目をしているな、ソラン。君は誰かが傷付くと怒りの目になるな。」

刹那「くっ。」

カイン「君はウルトラマンゼロは一心一体化し、まさに君と彼は2つで1つの存在だ。」

ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイNEO）「……。」

カイン「だが君達2人は取り返しのつかない事をした。それは君達2人がリヤドでヴォルフムーロアにトドメを刺さなかった事、それが彼がゼネバス復活させる事になる。」

刹那、ウルトラマンゼロ（ウルトラゼロアイNEO）「!!」

カイン「やがて彼はこのコズミックイライヤ全世界を支配する王となるだろう。君達2人が殺さなかったせいで。」



刹那「貴様あつ!!」

リク「刹那!!」

カイン「ふっ。」

カインは殴りかかって来た刹那を蹴りで打ち込みながらパンチを繰り出して彼の腹に連打し、次に顔を思いつき蹴った。

刹那「ぐわあつ!!」

リク「刹那!!」

カイン「君はまだまだ子供だ。君は朝倉リク、ベリアルの遺伝を持つ君は最高傑作だ。」

リク「何が言いたい。」

カイン「君やキラ君も同じ作られた存在である事だよ。」

リク「キラが?!」

キラ「僕が何だって言うんですか?!」

クルーゼ「君は人類の夢、最高のコーデイネイター。そんな願いの下に開発された、ヒビキ博士の人工子宮、それによつて生み出された唯一の成功体。彼の息子。数多の兄弟の犠牲の果てにね。」

キラ「うっ!!」

ムウ「キラ!!」

アンジュ「クルーゼ、カイン!!」

カイン「アンジュリーゼ、君と会うのは3度目だ。エンブリヲ様が君の事を気に入ってくれたみたいだ。」

アンジュ「エンブリヲ?!」

エンブリヲ「そう、この私がエンブリヲだよ。」

クルーゼとカインの前に立って現れたエンブリヲ、世界を支配する者の1人が目の前で姿を現した。

刹那「エンブリヲ!!」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「エンブリヲ、何故こ

ここにいる!!」

エンブリヲ「おや、私の最大の障害であるウルトラ戦士、君もいるとはね。」

ハルト「あれがエンブリヲ。」

美月「彼からとてつもない邪悪が溢れて来るわ。」

みな、こう「・・・。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「奴からはベリアルとレイブラッド星人と同じ邪気が漂う。」

刹那「奴も吐き気を催す邪悪の1人だ。」

エンブリヲからとてつもない邪気を漂い、その強いプレッシャーを感じる刹那と美月とウルトラマンゼロは、彼が目の前に現れた事にウルトラマンベリアルとレイブラッド星人と同じ邪悪であると決めた。

クルーゼ「覚えていないか、ムウ。私とカインは、戦場以前、君と出会った事があるのだよ。」

ムウ「何だと?!」

カイン「教えてやろう、私とラウは君の父親のクローンなのだよ。」

ムウ「何だと・・・?!」

クルーゼ「ふふふ。私は、己の死すら、金で買えると思いがつた愚か者、貴様の父、アルダフラガの出来損ないのクローンなのだからな。」

ムウ「お前ら2人が親父のクローンだと?!」

カイン「そうさ、私とラウは欲望にまみれた世界を生き抜き地獄を味わった。人間の醜さ、本性を。アンジュリーゼよ、君なら理解しているはずだ、マナイやホムンクルスの姿を。」

アンジュ「!!」

クルーゼ「ナチュラル、コーディネイター、マナ、宇宙人、どれも結局、自分達の都合のためにしか動いていない。私欲の為に彼らは動き、争いを呼び起こす。」

リク「それはお前達がそうさせたんだろ!!」

エンブリヲ「そうさせた? いやこれが彼らの本性だよ。君の父親のベリアルも同様だ。」

リク「くっ。」

クルーゼ「ふふふ。」

ルルーシュ「お前達が全ての元凶か。」

クルーゼ、カイン、エンブリヲ「?」

ルルーシュ「お前達に命じる。死ぬ。」

スザク「ルルーシュ……!!」

ルルーシュは、世界の元凶たるエンブリヲが側にいることを知りながら、彼は自身の目からギアスを発動して死ぬの命令を出す。エンブリヲとクルーゼとカインにギアスが効いていなかった。

ルルーシュ「どうなっている?!」

エンブリヲ「君のギアスは私達には効かない。」

クルーゼ「クローンである私とカインは、アル||ダー||フラガの身体強化であらゆるもの影響を受けない。」

カイン「君のギアスは所詮は無意味なのさ!!」

ルルーシュ「くっ!!」

凱「ならサイボーグの、俺の勇気を受けろ!!」

ギアスの通じないエンブリヲとクルーゼとカインに凱が挑み、彼らにウィルナイフで切りにかかった。

カイン「!!」

戦闘用ナイフで凱のウィルナイフを受け止めるカイン。

カイン「サイボーグの君の動きは見えないだ。」

凱「くっ。」  
効「させるか!!」

カインが凱と交戦中に効が拳銃でカイン、クルーゼらエンブリヲにそれぞれ向けて撃ち、命中したが、カインの隻眼とクルーゼの仮面が落ち、カインの片目とクルーゼの姿がムウに似ている事に驚き、撃たれたエンブリヲは平然としていた。

一同「!!」

クルーゼ「間もなく最後の扉が開く！私が開く！そしてこの世界は終わる。」

そう言いながら立ち去るクルーゼとカインとエンブリヲ。一方、ディアツカ達から聞かされた会話で世界の真実を知ったイザーク達は、

イザーク「なっ、何、そんな事が・・・!!」

ディアツカ「ザフトと地球軍は双方とも牛耳られてる。」

アードライ「やはり間違っていないかったのか、プラントがアマデウスに裏から牛耳られてきた事を。」

ハーノイン「そのアマデウスはザラ議長いやプラントを裏から操り、戦争を拡大し、アマデウスにはエンブリヲという上がいる。」

サリア「あんた、エンブリヲ様に楯突く気?！」

ヒルダ「サリア、まだ真実に気付いていないようだな。お前もそいつにいい様にされるだけだ。」

サリア「何?！」

エルシャ「もしそうなら私はヒルダちゃんと一緒に行くわ。」

サリア「エルシャ。」

イクスアイン「俺達が本当にやらなきゃならない事はプラントを革命する事だ。俺達が目指す国を。」

ハーノイン「イクス。」

真実を知った者達、真実を知りディアツカ達の元へ着くアードライ、イクスアイン、エルシャと真実を受け入れらず着かなかったサリアとクリスとクーフィア、真実を受け入れたが故郷を捨てるわけにいかず残ったイザーク。一方、ゼガンと死闘を繰り返すウルトラマンオーブ オープオリジンとウルトラマンダイナフラッシュタイプとジャグラー魔人態とゼガンのゼガントビームをかわす事で精一杯だった。

ウルトラマンダイナフラッシュタイプ(アスカ)「こいつをどうすればいいんだ。」

ウルトラマンオーブ オープオリジン(ガイ)「一か八かかけるしかない!!」

一か八かの勝負にかけるウルトラマンオーブ オープオリジンはある行動に出て、ゼガンに挑みかかった。

ゼガン(クルト)「ならお前から消してやる!!」

先に来たウルトラマンオーブ オープオリジンにゼガントビームを放ったが、ウルトラマンオーブ オープオリジンがオーブカリバーからカリバーシールドを展開してビームを防いだ。

ウルトラマンダイナフラッシュタイプ(アスカ)「そう言う事か、なら!!」

ウルトラマンオーブ オープオリジンがゼガンのビームをバリアで防いだ事で、バリアを展開してゼガンを閉じ込めて自爆させる事に思い付いたウルトラマンダイナフラッシュタイプがゼガンの後ろに現れてウルトラバリアを展開して、ゼガンを閉じ込めにかかった。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン(ガイ)、ウルトラマンダイナ  
フラッシュタイプ(アスカ)「うおおおおおおー!!」

2人のウルトラマンがバリアで押しながらゼガンに近づけて、そして2つのバリアでゼガンを閉じ込めて、自分が撃ったゼガントビームが跳ね返って喰らった。

クルト「うわああああー!!」

バリア内によってゼガントビームを受けて自爆をし始めるゼガン。  
自爆中のクルトは、ゼナに最後の会話をして来た。

ゼガン(クルト)「ゼナあつ、俺は死んでいった仲間のためにずっと一人でシャドー星再建のために1人で戦って来た!!」

ゼナ「(私もお前と同じだった。いつか再び、シャドー星のためにそう思っていた。)」

ゼガン(クルト)「仲間は死に、俺とあんだけになった!!」

ゼナ「(だから生きる!!だから生きなければならぬ!!だから生きる!だから生きなければならぬ!かつて、望んだ道ではない。正しいのかどうかもわからない。だが試してみたいのだ。戦うのではなく……共に……)」

ゼガン(クルト)「もう遅い。そんな生き方、俺にはいや俺はもうじき死ぬんだ……!!」

ゼナ「!!」

ゼガン(クルト)「カム・タタール・シャドー。カム・タタール・シャドー。」

シャドーに安らぎを唱えて、バリア内でゼガンの自爆と共に最期を迎えたクルト。

ゼナ「……。」

モア「ゼナさん。」

ライハ「彼は戦いだけしか生きれなかったのね。」

最後の教え子であるクルトを救うことが出来ず、彼の死、戦いだけしか生きれなかった彼を救えなかった事に静かな涙するゼナ。一方、ジヤステイス、キュリオス、ヴァーチエ、焰龍號、エターナルはザフト軍のヴェサリウス、ランメルスベルグ、ナスカ級を追い詰めていた。

アスラン「はあああー!!」

ゲイツ、キルシュバオム、暁可翔を次々と撃破していくアスラン達。ヴェサリウスでは、捕まったフレイをクルーゼとカインの命令で救命ポッドに乗せてニユートロンジヤマーキヤンセラーのデータを彼女に渡したまま救命ポッドを射出した。

アデス「クルーゼ隊長とカイン隊長は何故捕虜を脱出させたんだ。」

ヴェサリウスオペレーター「艦長、来ます!!」

アデス「!!」

ヴァーチエのGNバズーカかな放ったビームでヴェサリウス、ランメルスベルグ、ナスカ級ごと飲み込まれ、撃沈した。漂流した救命ポッドに乗ったフレイは

フレイ「アークエンジェル、アークエンジェル!!」

国際救難チャンネルを流して救援を求めるフレイ。またメンデルから出たキラ達は、フレイの声を聴く。

キラ「フレイ……?!」

行方不明になっていたフレイが何故ここにいたのか知るキラ。

アンジュ「キラ。」

キラ「フレイ!!」

腕原種「いたただく。」

急いでフレイを救出に向かうキラ。だが、キングジェイダーと交戦中のZX-07がフレイの救命ポッドを掴みながらそのままフリーダムを殴りこんだ。

キラ「うわああああー!!」

ZX-07にフレイを奪われ、救出に失敗したキラ。一方、家族の仇であるアリーと交戦するロックオン。

ロックオン「KPSAのサージエスだな!!」

アリー「ふっ、クルジスのガキに聞いたか!!」

ロックオン「アイルランドで自爆テロを指示したのはお前か!!何故あんな事を!!」

アリー「俺は傭兵だぜ。それになあ!!帝国が中東の植民化に中東現地民が反発するのは当たり前ーじゃねえかあ!!」

ロックオン「関係ない人間まで巻き込んで!!」

アリー「テメエーだって同類じゃねーか、共和国の戦争に加担するGGGの隊員がよお!!」

ロックオン「咎は受けるさ・・・お前を倒した後でなあ!!」

家族の仇であるアリーと激しくぶつかり合うロックオン、ロックオンのデュナメスがGNビームサーベルとアリーのスローネツヴァイのGNバスターソードが交えてぶつかり合い、衝突する2機。

ロックオン「絶対許さねえ!!テメエーは・・・戦いを生み出す権化だ!!」

サーシエス「喚いてろ!!同じ穴の貉があ!!」



ロックオン「テメーと一緒にすんじやねえ!!俺はこの世界を・・・」  
オレンジハロ「テツキセツキン、テツキセツキン!!」  
ロックオン「?!」

2機の交戦中に玉城の暁可翔が現れて来た。

玉城「ガンダムう、お前を倒してルルーシュのためのその首を取ってやる!!」

ロックオン「邪魔すんな!!」

接近して来る玉城の暁可翔にロックオンはデュナメスの腰部フロントアーマー内と両膝からGNミサイルを発射して攻撃したが、玉城の暁可翔は傷付きながらロックオンのデュナメスに向かって特攻しかかった。

玉城「うおおおおおー、俺は日本人だあああああー!!」

最後の一絞りしながら機体と共にデュナメスに特攻して爆発し、最期を迎えた玉城。

ロックオン「しまった!!」

サーシエス「右側が見えてねえじゃねーかあ!!」

玉城の特攻で左腕を失ったデュナメス。その隙を突いたアリーがスローネツヴァイからGNファンクを放出した。すぐにGNビームピストルを出して、GNファンクを全部撃ち落としたが、その隙を突かれてスローネツヴァイがGNバスターソードで大きく斬撃された。

ロックオン「うわあああああー!!」

オレンジハロ「ソンショウジンダイ、ソンショウジンダイ、ソンショウジンダイ、セントウフノウ、セントウフノウ、セントウフノウ!!」

スローネツヴァイの大きな一撃で戦闘不能になったデユナメスは、隠れながら行動に移った。

ロックオン「はあ……はあ……ハロ……デユナメスをアークエンジェルに戻せ。」

オレンジハロ「ロックオン!!ロックオン!!」

ロックオン「命令だ。」

オレンジハロ「ロックオン!!ロックオン!!」

ロックオン「心配すんな、生きて帰るさ……。」

オレンジハロ「ロックオン!!ロックオン!!ロックオン!!ロックオン!!ロックオン!!」

ロックオン「太陽炉を頼むぜ。あばよ……相棒……。くつ……。」

オレンジハロにデユナメスをアークエンジェルに戻させて、一人で単身のまま挑みながら、偶然残った大型GNキャノンの上に乗りながらコントロールをし、アリーのスローネツヴァイに照準をする。

アリー「くそっ。野郎は何処行つた?!」

ロックオン「はあ……はあ……はあ……何やってんだろうな……。俺は……。はあ……。けどな……。こいつを殺らなきゃ……。仇を取らなきゃ……。俺は前に進めねえ……。世界とも、向き合えねえ……。」

アリー「生体反応?!」

ロックオンの反応にキャッチしたアリーがそのまま襲いかかって来た。

ロックオン「だからさ……。狙い撃つぜええええー!!」

接近して来たアリーのスローネツヴァイに大型GNビームキャノンをコントロールして発射したロックオン。だが、同時にスローネツ

ヴァイのGNビームガンの攻撃を受けて、大破して吹き飛ばされた。

ロックオン「父さん、母さん、エイミー、わかってるさ……。こんな事をしても変えられないかもしれないけど……。元には戻らないって……。それでも……。これからは……。明日は……。ライルの生きる未来は……。刹那……。答えは出たのかよ？」

宇宙空間漂うロックオン、その時、ウルトラマンゼロが急いで駆けつけに現れ、彼を助け出そうとする。

ウルトラマンゼロ（刹那）「急いでくれ、ゼロ!!」

ウルトラマンゼロ「わかってる!!」

すぐに急いで向かおう全速するウルトラマンゼロ。

ロックオン「よう……。お前ら……。満足か？こんな世界で……。俺は、嫌だね……。」

その時、大破した大型GNビームキャノンの残骸が爆発して巻き込まれたロックオンは、死亡した。

ウルトラマンゼロ（刹那）「ロックオooooooooooooooooon!!」

ロックオンの最期を見た刹那。そして戦いが終わり、ロックオンの死を知った仲間達は、

アークエンジェル

廊下

ティエリア「貴様達のせいだ!!貴様達がいながらロックオンは死なずに済んだ!!」

クルーゼとカインを追ってメンデルへ行つた刹那達を激しく感情的に叱責するティエリア。彼の姿を偶然見た大河が彼の顔を思いつきり殴った。

ティエリア「ぐわあっ!!」

大河「彼の死で悲しんでるのはお前だけではないんだぞ!!」

ティエリアにロックオンの死は自分だけでなく、周りの者達全員が全員悲しんでいる事にわからせる大河。

オレンジハロ「フェルト、ゴメン。」

フェルト「ハロは何も悪くないの……!!」

ロックオンの死を泣きながらオレンジハロを抱くフェルト。

モア「ロックオンさんが死んだなんて……。」

ゼナ「……。」

バレル「仲間が死んだのか?!」

ロックオンの死を悲しむ者達。彼の存在がどれだけ大きかったか、そして彼がいたから共にやって来れたか。

エターナル

個室

キラ「ここは?」

アンジュ「目が覚めたのね。」

キラ「アンジュ。」

アンジュ「泣いていいのよ。あなたはずっと辛い思いをして来たから。」

キラ「!!」

アンジュ「だから人は泣けるのよ。」

キラ「うわああああああー!!」

アンジュの膝元で泣くキラ。キラは戦いでどれだけ苦しく、辛い思いをして来たか。彼の素性を知るアンジュ。

次回 31話へ続く

### 第31話 終末の光

地球連合軍とザフト軍、宇宙人同盟の戦いはいよいよ最終決戦へと迫っていた。地球連合軍は陸海空宇宙の地上用の全機体に宇宙用ブースターを取り付け改造し、ザフト軍と宇宙人同盟の戦いに終止符を打つべく全戦力を投じていった。それに対し、ヘリック共和国と人革連も全戦力を投じて全身全霊を込めて最後の戦いに挑んだ。GGGとメンデル付近で一緒に彼らと付いた黒の騎士団も、ヘリック共和国と人革連と共に共闘すべく加勢しにかかり、最終決戦に向けての準備を進めた。

移動中

宇宙

アークエンジェル

ブリッジ

大河「いよいよ最終決戦の始まりか。」

マリュー「地球軍、ザフト軍と宇宙人同盟はベリアル達の意のままに戦わされてるわね。」

大河「彼らは真実を知らないまま戦い、殺し合いをしている。不甲斐ない戦いを終わらせるために我々は共に手を取り合った。」

ダン「その通りだ。ベリアルとレイブラッド星人、エンブリヲ、101人評議会を倒して真の平和を築き上げる。」

ラクス「この戦いは絶対負けられるわけにはいきません。」  
ゲン「ああ、奴らを倒さぬ限り同じ事は繰り返される。」

サラ「彼らを倒してアウラを解放し、そして本当の自由を得る事です。」

大河「そのようだ。」

最後の戦いに向けていくGGGは、この戦いは負けられないと気を抜かず覚悟を決めて戦うと強い意志を持つ。早速ヘリック共和国と人革連の艦隊と合流をしたGGG。ハーマンとセルゲイが待っている。

た。

ハーマン「ようやく合流は出来たか。」

大河「ハーマン中佐、スミルノフ中佐、全戦力はこれで集結か。」  
セルゲイ「こちらもやれる事は尽くしていく。」

ハーマン「我々の艦隊にガイロスから来た者がいる。」  
一同「?!」

シュバルツ「私だ。」

グラハム「シュバルツ中佐!!」

ビリー「あなたも来られたのですか?!」

シュバルツ「祖国を無駄な争いをやめさせるために私はあなた達の元へやって来た。ルドルフ殿下も来ていると聞いた。」

ハーマン「シュバルツ中佐、あなたのお会いしたい人がいます。」

シュバルツ「?」

ルドルフ「シュバルツ。」

シュバルツ「殿下!!」

祖国の戦いを止めるべくヘリック共和国とGGGの元にやって来たシュバルツの前行方不明になったガイロス帝国の皇子であるルドルフと再会をした。

シュバルツ「今まで共和国に身を隠されていたのですか?」

ルドルフ「はい、プロイツェンとシャルルから逃げて僕は共和国に助けられたのです。」

大河「プロイツェンとシャルル、現地球連合軍を全体的にトップを牛耳っている。」

ハーマン「地球各地に出現した鉄竜騎兵团。」

シュバルツ「我ら帝国軍と同じガイロスの紋章をつけながら、同胞に牙を剥く謎の部隊がいるとの噂は聞いています」

ハーマン「GGGと我が一部の者達がその鉄竜騎兵团の指導者と思われる人物と遭遇したそうだ。」

シユバルツ「それは？」

ハーマン「ヴォルフムーロアと名乗る男。」

シユバルツ「ムーロア?!ゼネバスの亡霊か?!」

ハーマン「そして、おそらく裏で糸を引くのは……。」

シユバルツ「プロイツェンとシャルルですね。」

大河「彼らはベリアルとレイブラッド星人と101人評議会との関わりもあるかもしれない。」

ハーマン「鉄竜騎兵団がいつ現れるかまだわからない。この戦いに来るかもしれない。」

地球各地に出現した鉄竜騎兵団に関し、その指導者と名乗る人物であるヴォルフムーロアには裏で糸引くと思われるプロイツェン、シャルル、ウルトラマンベリアル、レイブラッド星人、101人評議会が関わっている事に気付く。だが、鉄竜騎兵団は最終決戦に姿を現さなかった。鉄竜騎兵団は地球のチャバハール秘密基地でヘリック共和国本土上陸に向けての準備をしていた。

地球

チャバハール

秘密基地

ヴォルフ「準備はどう進んでいる?」

ズイグナー「兵力は既に整っています。本土上陸に向けての新型機などの投入は完了しています。」

鉄竜騎兵団のヘリック共和国本土上陸に向けて配属された新型機のダークスパイナー、ガンギヤラド、キラードーム、ジークドールベル、ガンタイガー、ジェノザウラーの発展機ジェノブレイカー、ストライクダガーの発展機105ダガー、ジnkスの発展機ジnkスII、バーサークフューラーの高速形態のシュトゥルムフューラー、砲撃形態のヤクトフューラー、鉄竜騎兵団が密かに開発した帝国版のライガーゼロのライガーゼロイクス、PK師団からハンマーロック、鉄竜騎兵団



専用の母艦のドラグーンネスト、ブリガンテなど、その数は多く、宇宙にいる者達は鉄竜騎兵団の真の目的に全く気付いていなかった。

ハンナ「……。」

ヴォルフ「父の事をまだ気にしているのか？」

ハンナ「プロイツェン閣下は私達若きPK師団団員達にあなた様に着くよう最後の命令を下された。」

ヴォルフ「父とシャルルの行動を無駄にしないために俺はゼネバス復活をさせる。」

ハンナ「ヴォルフ様、ゼネバス復活は私達若きPK師団団員達も同じであります。プロイツェン閣下に拾われた恩を果たすために。」

ヴォルフ「準備を開始する。これより共和国本土へ侵攻する。」

ついにヘリック共和国本土上陸への準備を開始し、ゼネバス復活を目論む鉄竜騎兵団が動き出した。一方、宇宙ではザフト軍の宇宙要塞ヤキン・ドゥーエで地球連合軍、ザフト軍と宇宙人同盟の戦闘が行われていた。

宇宙

ヤキン・ドゥーエ付近

パトリック「ナチュラル共め、ついにここまで来たか!!」

ユウキ「議長、向こうにはNジャマーキャンセラーがあります。」

アマデウス「このままでは完全に敗北してしまいます。」

パトリック「ジェネシスの起動を急げ!!」

ユウキ「はい!!」

アマデウス、ジュリオ「……。」

ジェネシスの起動を急がせるパトリック。その裏にアマデウスとジュリオの企みもあった。ついに激突する両軍。地球連合軍からはカラミティ、フォビドゥン、レイダー、ギャラハッド、フローレンス、ZX-07、ZX-16、ZX-19、ストライクダガー、ジnkクス、

ジエノザウラー、バスターダガー、ウォード、ガレス、フラッグ、リアルド、イナクト、リアルド、アイアンコングPK、レブラプターFB、ハンマーロックFB、アイアンコングMS、レッドホーンFB、レドラー、ブラックレドラー、ブラキオスFB、ヘルディガンナーFB、ケイが変身した禍々アークベリアル、巨大化したキリツチャーとステイブとロッドとダニエル、ギャラクトロン、ダークロプスゼロ、レギオノイドβ、クグツギエロン星獣、クグツサメクジラ、クグツサタンビートル、クグツグビラ、ドミニオン、ARUS旗艦、アガメムノン級、ネルソン級、ドレイク級、バージニア級、ホエールキング、ブリガンテの大多数の機体と大艦隊。ザフト軍、宇宙人同盟はデュエルアサルトシユラウド、クーファイアのキルシュバオム、クレオパトラ、テオドローラ、エイレーネ、ビクトリア、ジン、ジンハイマニユーバ、シグー、シグーデーブアームズ、ゲイツ、ゲイツ改、バッフエ、イデアール、キルシュバオム、グレイブ、キングジョーブラック、インペライザー、ドラゴリー、改造ベムスター、ブラックエンド、エースキラ、メビウスキラ、ビクトリーキラ、カプト・ザ・キラ、バキシمام、巨大化したグロツクルとヴェルダンとレザルト、ナスカ級、ローラシア級、バールキート級などの大多数。

ザフト兵1「落ちろ!!」

ゲイツがビームクローでジnkスとストライクダガーを撃墜し、多数のキルシュバオムがレーベングリツツエンを一斉発射して、ジエノザウラー部隊を撃墜した。キングジョーブラックがペダニウムランチャーでブリガンテを破壊し、インペライザーがインペリアルソードでホエールキングを破壊した。

ARUS兵1「コーディネイターめ!!」

ジンをビームサーベルで破壊するストライクダガー。ジnkス部隊がGNビームライフルでゲイツ数機を破壊した。レギオノイドβ

がレギオノイドガンビームでインペライザーを破壊し、ナスカ級を撃ち落とした。

アズラエル「何をしてるんですか、早く核を使うんだ!!」

カテイ「理事、今使うのは……」。

アズラエル「僕の命令が聞けないのか?!」

カテイ「くっ。」

フレイ「……」。

核ミサイルの使用を求めるアズラエルの命令を受けざる得ないカテイは、早速全艦に核ミサイルの使用の命令を出し、全艦から核ミサイルを発射し、プラントに向けていった。

サリア「あいつら、あんなのを!!」

イザーク「全機撃ち落せ!!」

発射された核ミサイルを迎撃にかかるイザーク達。だが、カラミテイ、フォビドゥン、レイダーが彼らの行動を阻んできた。

オルガ「邪魔はさせねえ!!」

全武装で一斉射撃して敵機を破壊したオルガ。

シャニ「お前らの相手は俺らだよ。」

クロト「代わりに遊んであげるからさ。」

核ミサイルを迎撃にしにかかったザフト軍の機体の前にフォビドゥン、レイダーが立ち阻み、フォビドゥンがニーズヘグ、レイダーがミョルニルで次々と破壊し、核ミサイルはプラントのコロニーに迫ろうとした。その時、何処からか光線が放たれて核ミサイル全弾を全て破壊した。

アズラエル「!!」

ウルトラマンゼロ「待たせたなあ、こんな危ないもん使いやがるのは。」

核ミサイル全弾を破壊したのは、ウルトラマンゼロだった。同時にGGGとヘリック共和国と人革連が現れ、続いてウルトラマンオーブオーブオリジン、ウルトラマンジードロイヤルメガマスター、ウルトラマンダイナフラッシュタイプ、ウルトラマンコスモスエクリップスモード、ウルトラセブン、ウルトラマンレオ、ジャグラー魔人態、ゴモラ、リトラ、バレル、ガルム、マグナ、リバイ専用ギヤラクトロン、ソルシェウイサリス、ミーティアフリーダム、ミーティアジャステイス、エールストライク、エールストライクルージュ、バスター、ブルーフレームセカンドL、ジン改、キュリオス、ナドレ、ティエレンタオツ、フラッグカスタム、コーラサワーのイナクト、ヴィルキス、ジルが操縦するレイジア、アードライ、イクスアイン、ハーノインのキルシュバオム、キルシュバオムカスタム、焰龍號、蒼龍號、碧龍號、ヴァルヴレイヴ1フルインパクト、ヴァルヴレイヴ4、ヴァルヴレイヴ6、スターガオガイガー、キングジェイダー、ゴルデューマーグ、超竜神、撃龍神、ビツクボルフオツグ、マイクサウンダース13世、蜃気楼、紅蓮聖天八極式、ランスロット・アルビオン、斬月可翔、暁可翔、暁直参可翔、神虎、ライガーゼロ、シユバルツティエレンタオツ、M1アストレイ、ガンズナイパー、レイノス、ストームソーダー、ゴジュラスガナー、ゴジュラスジ・オーガ、ティエレン宇宙型、アークエンジェル、エターナル、アウローラ、アヴァロン、スペースペンドラゴン、クサナギ、イザナギ、カナヤゴ、スサノオ、アマテラス、ネオタートルシップ、ラオホウ。そして三軍、壮絶な戦いが幕を切った。

キラ、ハルト「はああああー!!」

ミーティアフリーダムがミーティアと合体状態から全武装から一

斉射撃を行い、ジン、シグー、ゲイツ、ストライクダガー、ジんクス、フラッグ、リアルド、イナクト、ヘリオンの武器と頭部と関節部のみを破壊し、ヴァルヴレイヴ1フルインパクトが右腕に装着されてるインパクト・ブースターを握り手にして、ギャラクトロン、ダークロプスゼロ、レギオノイドβを次々と殴り貫いて破壊した。ライガーゼロがイオンターボブースターを展開しながらストライクレイザークローでジェノザウラーやアイアンコングMSやレブラプターFBを破壊していった。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン（ガイ）「うおおおおー!!」

ウルトラマンオーブ オーブオリジンがオーブカリバーでインペライザー、キングジョーブラックに斬撃して破壊し、バキシمامに大きく斬り込んで一刀両断した。ジャグラ―魔人態が素早く移動しながら蛇心剣でゲイツ部隊の頭部、武器を破壊していった。ヴィルキスがラツィーエルでグレイブや次々とバッフェやイデアールやキルシユバオムを斬撃していった。

アズラエル「共和国、GGG、ウルトラマン、裏切り者の人革連か!!」

カティ「理事。」

アズラエル「邪魔者を始末しろ!!」

ヘリック共和国とGGGとウルトラマンと人革連が現れた事ですぐに攻撃命令を出すアズラエル。

大河「戦場を知らない素人が指揮を執っているのか。」  
セルゲイ「ブルーコスモスのアズラエル。自分のわがままを貫き通すつもりか。」

ヒユウガ「我々がしっかり教えつけてやらないとな。」

戦場の指揮を執るアズラエルを実戦経験がなく自分のわがままを突き通すことに皮肉り、彼に戦いを教え込ませる実戦経験を持つ大河、セルゲイ、ヒュウガ。そこでヤキン・ドゥーエから突如としてつもない大きな物が出現した。

一同「!!」

ヤキン・ドゥーエから出現したザフト軍の最終兵器ジェネシスが強力なガンマ線レーザーを発射して、地球連合軍の艦隊を焼き払った。その中にいたジェフリーとシュナイゼルが巻き込まれて死亡した。

ジェフリー、シュナイゼル「うわああああー!!」

ジェネシスのガンマ線レーザーによって呆気ない最期を迎えたジェフリーとシュナイゼル。

ハーマン「何だあれは?!」

クリムヒルト「まさかあれはジェネシスか?!」

エルエルフ「ジェネシスを出したのか?!」

ノイマン「艦長!! たった今、月面基地から発進した地球軍の艦隊と同時にプロレマイオス基地が先程発射ガンマ線レーザーで壊滅した模様です!!」

マリュー「何て事なの……。」

ウルトラセブン「あの様なもの置いておくわけにはいかん。」

ウルトラマンダイナフラッシュタイプ（アスカ）「あれが地球に喰らったら一たまりもないぜ!!」

ザフト軍の最終兵器ジェネシスの使用で地球連合軍の大艦隊や月のプロレマイオス基地が壊滅し、戦力は60%を失った。戦局はザフト軍が優位に立った。

クルーゼ「さすがですな、ザラ議長閣下。ジエネシスの威力、これほどのものとは……。」

アマデウス「後はシャルル達が来るだけだ。」

パトリック「我等勇敢なるザフト軍兵士の諸君。傲慢なるナチュラル共の暴挙を、これ以上許してはならない。プラントに向かつて放たれた核、これはもはや戦争ではない!! 虐殺だ!! このような行為を平然と行うナチュラル共を、もはや我等は決して許すことは出来ない!! 新たな未来、創世の光は我等と共にある。この光と共に今日という日を我等新たなる人類のコーディネーターとマナと宇宙人が輝かしき歴史の始まりの日とするのだ!!」

ザフト兵一同「おおおー!!」

ザフト軍の優位が立った今、その攻勢は一気に攻めかかって来た。狂気のように猛威を振るっていくザフト軍。

ウルトラマンコスモスエクリップスモード(ムサシ)「やめろ、何故無駄な戦いをするんだ!!」

ウルトラマンジードロイヤルメガマスター(リク)「何でそんなに血を流す必要があるんだ!!」

クーフイア「お前達に指図される必要何てないさ!!」

サリア「私達の勝利は目前よ!!」

クリス「あたし達が支配者となる!!」

ウルトラマンレオ「こんなくだらない事は人は大勢死んだんだぞ、何故わからないんだ!!」

無駄な争いを無意味と説得するウルトラマン達の声を聞かないザフト軍。

ラクス「兵器が争いを生むのでしょうか……。それとも人の心が……。」

ウルトラマンオーブ オーブオリジン(ガイ)「だが、その争いを止

めるのも人の心はずだ!!」

?バン「これ以上、泥沼の戦いを続けさせねえためには互いの武器を奪うしかねえ!!」

?ウルトラセブン「ザフトのジェネシス、ブルーコスモスの旗艦ドミニオン、それを潰す!!」

アスラン「俺達はジェネシスへ行く。」

エルエルフ「プラントに巢食らう者を排除しに行く。」

キラ「アスラン。」

ハルト「エルエルフ。」

イクスアイン「俺たちもいく。」

アードライ「この国いや世界の未来のために私達は立ち上がったんだ。」

ハーノイン「この手できちんとせねばならんな。」

カガリ「私も行く。」

アスラン「カガリ。」

カガリ「私がお前を守る。」

アスラン「わかった、行こう。」

ジェネシスを止めるため、アマデウスとジュリオを討つべく向かったアスラン、カガリ、エルエルフ、アードライ、ハーノイン、イクスアイン。

マリユール「ドミニオンは私達がやる。」

大河「ブルーコスモスの盟主アズラエルをこの手で。」

ウルトラセブン「軍需産業の支配者、ベリアルに魂を売り、あらゆる殺戮兵器を作り出した彼の存在を許す訳にいかない。」

アズラエルを倒すべくマリユール、大河、ウルトラセブンらは彼の乗るドミニオンに挑んだ。そしてこの戦場にいくつかの者が現れてきた。



ウルトラマンゼロ、ウルトラマンジードロイヤルメガマスター（リック）、ルルーシュ、ムウ、劾、ティエリア「!!」

自分達のそれぞれの因縁の相手が現れて来た事に気付き、今この戦場に現れた。

クルーゼ、カイン「ふふふふ。」

ウルトラマンベリアルアトロシアス「ははははははははっ!!」

エンブリヲ「私も参ろうか。」

ムウ「クルーゼ、カイン!!」

ティエリア「エンブリヲ!!」

ウルトラマンゼロ、ウルトラマンジードロイヤルメガマスター（リック）「ベリアル!!」

宿敵の出現に察知し、クルーゼはフリーダム、ジャスティスと同じNジャマーキャンセラーのプロヴィデンス、カインは何処からか入手した未完成のヴァルヴレイヴ2をマグウスの技術で改修したダインスレイヴ、ヒステリカと共に現れたエンブリヲ、ウルトラマンベリアルはエンペラ星人とダークルギエルの怪獣カプセルでウルトラマンベリアルアトロシアスとなって現れた。さらに擬似太陽炉の技術とオーガノイドシステム力で蘇ってGNデスザウラーを操縦するプロイツェン、命のゾヌーダをコアにして蘇ってゾヌーダギルベイダーを操縦するシャルル、アルヴァトーレを操縦するアレハンドロ、レイブラッド星人、フアントムに乗ったマグウス101人評議会らが現れた。

プロイツェン「我々も加えてもらおうか。」

シャルル「素晴らしい決戦場を置いていくとはもったいない。」

アレハンドロ「ははははは、全てはシナリオ通りだ。」

レイブラッド星人「全て決着を着けようではないか!!」

ルルーシュ「シャルル!!」

ルドルフ「プロイツェン!!」

レイ「レイブラッド!!」

プロイツェン「いぎ、最後の戦いに行こうではないか!!」

シャルル「我らも存分楽しませようではないか。」

レイブラッド星人「全てを着けさせようではないか。」

ついにプロイツェン、シャルル、アレハンドロ、レイブラッド星人までもヤキン・ドゥーエに現れ、最終決戦はさらなる波乱を巻き起す。

プロイツェン「見せてもらうぞ、蘇ったデスザウラーの威力を!!」

GNデスザウラーの威力を試すべく、口内からGN大口荷電粒子砲を発射して、ヘリック共和国、人革連の艦隊を焼き払った。

クリス「艦隊が!!」

ナタル「何という威力だ!!」

アヴァロンの艦長となったナタルはGNデスザウラーの放った荷電粒子砲のとてつもない威力により、ヘリック共和国と人革連の艦隊の大半が壊滅したのを目の当たりにし、驚愕した。次はゾヌーダギルベイダーが口からプラズマ粒子砲を放ち、ザフト軍の艦隊に喰らわせて、その直撃で絶縁体と化しエネルギーに分散した。

大河「分散しただと?!」

護「!!」

大河「護君?!」

護「あの機体に命姉ちゃんがいる。」

大河「何?!」

護はゾヌーダギルベイダーの中に命がいる事に反応し、彼女はゾヌーダギルベイダーの生態コアにされていた。

シャルル「どうだ、これがゾヌーダの力によって蘇ったギルベイダーの力だ。」

命の中にあるゾヌーダをギルベイダーのコアに取り込んで、史上最凶のゾイドとなったギルベイダーが今この戦場を激震した。

凱「シャルル!! ジブリタニア!!」

ゾヌーダギルベイダーで戦場を激震させたシャルルの前に凱とゴルディーマーグとルルーシユとスザクとCCとカレンが現れた。

シャルル「獅子王凱、我が息子ルルーシユよ。」

ルルーシユ「シャルル!!」

シャルル「こうしてお前達と会えるのも嬉しいぞ。」

ルルーシユ「お前に捨てられたあの日、俺は忘れていない。」

シャルル「わしはお前とナナリーを帝国の後継争いから守るために身を隠させたんだ。」

ルルーシユ「ふざけるな、貴様がベリアルとレイブラッドとエンブリフと101人評議会と組んで世界を牛耳っている事を!!」

シャルル「ルルーシユよ、お前は何か勘違いしてないか？」

ルルーシユ「何?！」

シャルル「奴らはもうじき終わる事を。」

シャルルのゾヌーダギルベイダーがビームスマツシャーを放ち、ルルーシユ達に向けた。

凱「!!」

すぐにビームスマツシャーを回避した凱達。

スザク「あの攻撃を食らうとひとたまりもない。」

CC「シャルルのギルベイダーには命が取り組まれている。彼女の持つゾヌーダで。」

凱「命!!」

バン「お前がプロイツェンだな!!」

ついにプロイツェンと対峙するバン。GNデスザウラーのハイパーキラークローの巨大な爪をかわして、ライガーゼロのストライクレーザークローで打撃した。

プロイツェン「お前、ダンIIフライハウトの息子だな。」

バン「何で父ちゃんの事を知ってるんだ!!」

プロイツェン「知りたいか? 数年前、私はあるオーガノイドを見つけるため、偶然彼と遭遇した。彼は私にオーガノイドを手にさせないためこの身を犠牲にして挑んできた。彼は惨めもんだ。」

バン「貴様っ!!」

プロイツェン「楽しもうではないか!!」

ウルトラマンゼロエクシア「てやあああああー!!」

宿敵ウルトラマンベリアルアトロシアスとレイブラッド星人と対決するウルトラマンゼロエクシアとウルトラマンジードロイヤルメガマスターとゴモラとリドラとスペースペンドラゴン。

ウルトラマンベリアルアトロシアス「まとめてかかってこい!!」

レイブラッド星人「蘇った我の力を見せてやる!!」

ウルトラマンベリアルアトロシアスがギガバトルナイザーを振りながらウルトラマンゼロエクシアとウルトラマンジードロイヤルメガマスターに喰らわせた。レイブラッド星人が右手から光線を放ち、ゴモラとリトラに攻撃した。

ウルトラマンゼロエクシア「ベリアル、ここで終わらせてやる!!」

ウルトラマンゼロエクシアがゼロエクシアソードからゼロエクシアスマッシュでウルトラマンベリアルアトロシアスに斬撃した。

ウルトラマンジードロイヤルメガマスター(リク)「スウィングルスパーク!!」

ウルトラマンジードロイヤルメガマスターはキングソード剣モードでウルトラマンベリアルアトロシアスに斬撃した。

レイ「ゴモラ、リトラ!!」

肉体が蘇ったレイブラッド星人を相手に戦うレイは、ゴモラとリトラを動かしながら同時攻撃をする。ゴモラがレイブラッド星人に角と尻尾で攻撃し、リトラが嘴から火球を放ち、攻撃した。レイブラッド星人は、念力でゴモラとリトラの動きを封じて、二匹をぶつけさせた。激戦する三軍。

撃龍神「うおおおー!!」

カラミティと死闘を繰り広げる撃龍神。カラミティの全武装による一斉射撃を喰らい、大損傷をした。

撃龍神「これを使うしかねえ!!」

奥の手として右肩に搭載された自爆装置を取り出し、カラミティに殴り込んで胴体に近づけたまま電撃で起動し、自爆装置を発動させた。

オルガ「うわあああああー!!」

撃龍神「勇気と共に!!」

自爆装置の発動により、大爆発でカラミティは爆散し、オルガは死に、撃龍神は自爆で自ら犠牲となった。

超竜神「これで決めてやる!!」

クロトのレイダーを倒すべく、超竜神はある行動に出て、機体を分離して炎竜と氷竜のまま、レイダーの間を掴んだ。

炎竜、氷竜「レベル無限!!スーパーノヴァ!!」

トウオーマーとチエストスリラーの出力を最大限に高めて、対象を熱疲労により、自らを犠牲にしてレイダーを道連れにすべく自爆した。

クロト「うわああああー!!」

炎竜、氷竜「勇気と共に!!」

炎竜と氷竜の自爆により最期を遂げたクロト。

ビッグボルフォッグ「うおおおー、超分身殺法!!」

フォビドゥンに向かってビッグボルフォッグが機体を分離し、ボルフォッグ、ガンダルー、ガンダーベルとなって、フォビドゥンに攻撃した。ニーズヘグを振りながらガンダルー、ガンダーベルに大損傷させたが、

ボルフォッグ「はああああー、シルバークロス!!」

その直後にボルフォッグがシルバークロスを強いた斬撃でフォビドゥンに胴体ごと貫き、撃破した。

シヤニ「うわああああー!!」

ポルフォッグの命をかけた戦闘によりその最期を遂げたシヤニ。

アサギ、マユラ、ジユリ「ああああああー!!」

アルヴァトーレの巨大ビーム砲の攻撃により一瞬で葬られて戦死したアサギ、マユラ、ジユリ。

ウルトラセブン、ウルトラマンレオ、ウルトラマンダイナフラッシュタイプ(アスカ)、ウルトラマンコスモスエクリプスモード(ムサシ)「はあ、はあ、はあ……」

クグツ怪獣と死闘を繰り広げた4人のウルトラマン。アズラエルとウルトラマンベリアルによつてさらに強化されたクグツはもう元に戻る事は出来ず、彼らを殺さざる得なかった。

男マギウス1「もたもたしやがって!!」

女マギウス1「何をしているんだ!!」

老マギウス1「我々を戦場に出すとはどう言うつもりだ!!」

戦場に出る羽目になったマギウス101人評議会のメンバーら。自分達は今まで裏から世界を牛耳って来ており、表の戦場へ出るのは初めてで、戦場に出た事で苛立ちや騒ぎをするが、その時、彼らの乗るファントムにウルトラマンオーブ オープオリジンが近付いて現れた。

マギウス一同「うっ、ウルトラマン!!」

ウルトラマンオーブ オープオリジン(ガイ)「これが最期だ!!」

現れたウルトラマンオーブ オーブオリジンがオーブカリバーを大きく振りながらマギウス101人評議会らが乗るファントムを斬撃して撃沈され、マギウス一同らはあつけない最期を迎えた。

ムウ「クルーゼえっ!!」

クルーゼのプロヴィデンスとカインのダーインスレイブとエンブリヲのヒステリカと交戦するムウ、効、ティエリア。プロヴィデンスの放つドラグーン11基の攻撃を受け、ダーインスレイブのメーネ・ゼルトザームから発射したビーム、ヒステリカのビームライフルも同時に喰らいつつ、ムウのエールストライクがビームサーベルでプロヴィデンスに斬撃し、効のブルーフレームセカンドLが背中 of タクティカル・アームズを大剣に変形して、カインのダーインスレイブに突撃し、ティエリアのナドレがエンブリヲのヒステリカにGNビームライフルで射撃し、ぶつかり合った。

クルーゼ「会いたかったぞ、ティエリア!!アアデ。」

ティエリア「クルーゼ!!」

カイン「君は自分の出生を知りたくないか？」

ティエリア「どういう意味だ?!」

クルーゼ、カイン「それは君は私達と同じだからさ。」

ティエリア「同じ・・・?!」

カイン「君もアルIIダIIフラガのクローンなんだ。」

ティエリア「僕がクローンだと、嘘だ、こんなの!!僕がお前達と同じはずじゃない!!」

クルーゼ「いいや君は彼の一番求めていた完全な成功体だ。君は全てにおいて完璧だ、寿命も。」

ティエリア「僕はお前の兄弟なんかじゃない!!」

カイン「現実だよ、兄弟よ!!」

クルーゼとカインの口から語られた自分の出生を知って同様する



テイエリア。自分がアルⅡダⅡフラガのクローン、そして彼が求めた1番の成功体であった。一方、アークエンジェルとドミニオンの一騎討ちでは、両者互角に渡り合いながらアークエンジェルが猛威を振るって、ドミニオンを追い詰めたが、接近して来たアークエンジェルにアズラエルが強引にローエン格林を撃つよう命令を出した。

アズラエル「今だ!!あいつを沈めろ!!ローエン格林照準!!」

?カティ「……」

?フレイ「駄目!!もうやめて!!アークエンジェル、逃げて!!」

?アズラエル「お前!!」

その時、フレイがアークエンジェルに逃げるよう通信で求めたのに対し、アズラエルはフレイに銃を突きつけた。

フレイ「ああっ!!」

?カティ「何をやっている!!」

?アズラエル「貴様こそ何のつもりだ?!」

?カティ「総員、退艦しろ!!」

?アズラエル「貴様ら!!」

?カティ「急げ、アークエンジェルに行け!!」

?フレイ「はい……!!」

アズラエルの暴挙にカティは彼を止めてフレイら乗員らを退艦命令を出し、自分と彼だけが残った。

アズラエル「くそー、お前えっ!!」

カティ「指揮官だと?!命令する立場だというのなら……」

アズラエルが銃でカティに射撃し、身体の数カ所を撃ち抜い

アズラエル「僕にこんなことをして!!どうなるか解ってるんだろう

な!!」

カティ「お前はここで死すべき人だ。私と共に!!」

アズラエル「黙れえっ!!」

カティ「ぐわあっ!!」

アズラエル「僕は勝つんだ。そうさ、いつだって……。」

ドミニオンで自分が一人でローエン格林を照準をし、アークエンジェルに向けて放った。

サイ「艦長!!」

マリユール「回避!!」

ノイマン「ダメです、間に合いません!!」

ドミニオンとの戦闘で回避が出来ず、発射されたローエン格林がアークエンジェルに迫ろうとした、その時、急速に駆けつけに来たアヴァロンがアークエンジェルを庇い、自ら犠牲となった。

一同「!!」

アークエンジェルを庇ったアヴァロンからそこには瀕死の状態に陥ったナタルと破けたノーマルスーツから右上半身が機械のリヒティと背中に破片が刺さったクリステイナだった。

マリユール「ナタル!!」

スメラギ「クリス、リヒティ!!」

クリステイナ「無事だったんですね、スメラギさん、マリユール艦長。」

大河「他の者はどうした……?!」

ナタル「私が……避難させ……まし……。」

マリユール「ナタル、しっかりして、ナタル!!」

ナタル「……。」

クリステイナ「スメラギさん、フェルトに伝えてください、もう

ちよつと・・・おしやれに気を使つてつて。」

大破したブリッジにスパークが走り、大爆発をし、ナタル、リヒティ、クリステイナは最期を迎えた。

大河「ああっ!!」

マリユー「ナタル!!」

スメラギ「クリス、リヒティ!!」

仲間達の最期を目の当たりに、涙するマリユー達。

アズラエル「お前のせいだあつ!!」

攻撃に失敗したのは自身が射殺したカティに八つ当たるアズラエル。その時、彼の前にウルトラセブンが現れた。

アズラエル「!!」

ウルトラセブン「貴様は貴様は貴様は貴様は怪獣の命いや戦争で犠牲になった人々を犠牲にしてくれたな。」

クグツ化された怪獣、アズラエルの作り出した兵器で犠牲になった人々の痛みを晴らすべくウルトラセブンが今、引導を下す。

ウルトラマン「デユワー!!」

頭部のアイスラッガーを投擲して、ドミノオンのブリッジにいるアズラエルに直撃した。

アズラエル「うわあああああー!!」

ウルトラセブンの怒りが込められたアイスラッガーで最期を遂げ

たアズラエル。

ウルトラセブン「貴様みたいなのがいるから血を吐きながら続ける  
マラソンは終わらないんだ!!」

次回 32話へ続く

### 第32話 終わらない明日へ

ヤキン・ドゥーエで繰り広げるヘリック共和国と人革連とGGG、地球連合軍、ザフト軍と宇宙人同盟、戦いの中、次々と多数の犠牲が出て、三軍共々、激闘を繰り広げていた。

宇宙

ヤキン・ドゥーエ付近

クルーゼ「やっかいな奴だよ、君は!!」

?キラ「あなたは!!」

?クルーゼ「あつてはならない存在だというのに!」

?キラ「何を!」

?クルーゼ「知れば誰もが望むだろう!!君のようになりたい!!」

?キラ「!!」

?クルーゼ「君のようでありたい!!」

?キラ「そんなこと!!」

キラ、ハルト、アンジユ、サキ、美月はクルーゼとカインとエンブリヲと交戦していた。クルーゼのプロヴィデンスから放出したドラグーン、カインのダインスレイヴのメーネ・ゼルトザームから発射ビーム、エンブリヲのヒステリカから放つデイスコード・フェイザーをかわし、キラのフリーダムが全武装フルバーストし、アンジユは永遠語りを歌いながらヴィルキスからデイスコード・フェイザーを放ち、ぶつかり合った。交戦中の最中、ドミニオンから脱出したフレイラの脱出ポッドが近くにやって来た。

クルーゼ「ゆえに許されない、君という存在を!!」

?キラ「僕は・・・それでも僕は!!力だけが僕の全てじゃない!!」

?クルーゼ「それが誰にわかる!!何がわかる!!わからぬさ!!誰にも

!!」

?キラ「!!」

フレイらの脱出ポッドを攻撃するクルーゼのプロヴィデンスから  
防御するキラ。

カイン「君達そのものは許されない。」  
エンブリヲ「会ってはならぬものを。」

フレイらの脱出ポッドを救ったキラは、ようやく彼女と再会をする  
が、エンブリヲがその隙を突いてビームライフルでフレイらの脱出  
ポッドを射撃した。

フレイ「あつ。」

ヒステリカのビームライフルの攻撃で脱出ポッドは大破し、フレイ  
ら乗員らは死亡した。

キラ「フレイ!!」

ハルト、アンジユ、サキ、美月「!!」

やっと再会した果たしたところ、彼女は今自分の目の前で死んでし  
まった。

キラ「フレイーツも!!うっ、うっ、うう……。」

?フレイ(幻影)「キラ……。」

?キラ「そんな、フレイ、そんな……!!」

?フレイ(幻影)「ありがとう、ごめんね……。」

?キラ「どうして……。」

?フレイ(幻影)「ずっと、あやまりたかった……。」

?キラ(幻影)「くっ、どうして君がフレイ!!」

?フレイ(幻影)「苦しかった、怖くて、ずっと……。知らなかつ  
たから、私、何もわかってなかったから……。」

?キラ「フレイ!!」

?フレイ(幻影)「でも、今やっと自由だわ。とても素直にあなたが見える。」

?キラ「僕は、くっ!!」

?フレイ(幻影)「だから、泣かないで……!!」

?キラ「ちくしょお、僕は……!!」

?フレイ(幻影)「あなたはもう泣かないで……。」

?キラ「君に何も……!!」

?フレイ(幻影)「守るから、本当の私の想いが、あなたを守るから……。」

?キラ「くうう、くっ!!」

幻影となったフレイがキラの元に現れ、彼を励ました。キラは彼女を守る事が出来ず涙をこぼした。一方、ヤキン・ドゥーエに入り込んだアスラン、カガリ、エルエルフ、アードライ、イクスアイン、ハーノインらは、ジェネシスを止めるためパトリックの元へ辿り着くが、プラントを牛耳るアマデウスとジュリオと対峙し、彼らと死闘を繰り広げたが、パトリックはジェネシスを地球に向けて照準したのを部下に射殺された。

ヤキン・ドゥーエ

司令部

アスラン「父上。」

カガリ「どうするつもりだ?!」

エルエルフ「ジャステイスを爆発させるしか手はないと考えてるな。」

アスラン「ああ。ジャステイスを爆発させてジェネシスを止めるしかない。」

3発目のジェネシスの止めるため、ジャステイスを内部で核爆発させる事を決めるアスラン達。一方、ZXR07、ZXR16、ZXR1

19と単機で死闘を繰り広げるキングジェイダーは、まずはZX-16、ZX-19を撃破し、残りはZX-07と交戦する。

腕原種「死ぬがいい。」

右腕から超重力波を放つZX-07。

ゾルダートJ「くっ。」

腕原種「貴様もこれまでだな。」

ゾルダートJ「どうかな。」

腕原種「？」

ゾルダートJ「Jパワー最大!!」

トモロ117「了解、Jパワー最大。」

船の錨にあるJジュエルを最大限に引き出し、ZX-07の超重力波を打ち破り、必殺技を発動する。

ゾルダートJ「ジエイクオおおおおおース!!」

Jパワーを最大限に引き出しながら威力を増したジエイクオースでZX-07を撃破し、中から核を取り出した。この後、この核と今まで集めたゾンダークリスタルに大きな事が起きようとする。

ウルトラマンゼロエクシア(刹那)、ウルトラマンジードロイヤルメガマスター(リク)「うわああああー!!」

ウルトラマンベリアルアトロシアスの圧倒的な強さにやられるウルトラマンゼロエクシアとウルトラマンジードロイヤルメガマスター。ギガバトルナイザーを振り回しながら2人のウルトラマンに大打撃をお見舞いするウルトラマンベリアルアトロシアス。



ウルトラマンベリアルアトロシアス「この程度か？」

ウルトラマンゼロエクシア「まだまだ、まだ諦めねえ!!」

ウルトラマンジードロイヤルメガマスター、(リク)「俺達は負けるわけにはいかないんだ!!」

ウルトラマンベリアルアトロシアスを倒すためそれでも立ち上がるウルトラマンゼロエクシアとウルトラマンジードロイヤルメガマスター。

ゴモラ「キシヤアアアアー!!」

レイ「ゴモラ!!」

ゴモラは角でレイブラッド星人に体当たりし、尻尾を振って当てて攻撃した。

レイブラッド星人「小癩な!!」

パンチを連打しながらゴモラにお見舞いし、光弾を一斉発射して与えた。一方、戦いを止めるべくルドルフを連れたハーマンとシユバルツとラクスらは交戦している地球連合軍とザフト軍を止めるため呼びかけた。

ルドルフ「地球連合軍、ザフト軍の兵士達よ!!今すぐにこの戦いをやめよ!!」

ラクス「この戦いをすぐにおやめなさい!!」

ガイロス帝国兵1「この声は、まさか……」

ARUS兵1「ルドルフ殿下!!」

ザフト兵1「ラクス様!!」

ルドルフの声に反応した地球連合軍の兵士達が次々と戦闘をやめ、ザフト軍の兵士達も同じくラクスの声に反応し、戦闘を止めた。だ

が、その時、PK師団の機体とギャラクトロン、ダークロプスゼロ、レギオノイドβが仲間である地球連合軍の機体に突如攻撃し、また正規軍の一般兵が乗っていたストライクダガー、ジnkクス、ジェノザウラーが突如と勝手に動き出して仲間討ちをし始め、自爆もしたりした。

シュバルツ「!!」

ハーマン「これは一体?!」

プロイツェン「諸君、我が名はムーロア。ギウンターIIプロイツェンIIムーロア。ネオゼネバス帝国初代皇帝である。時は来た。今こそゼネバスの旗の元、戦う時だ。ヘリック、ガイロス、ARUS、人類革新連盟、プラント、101人評議会を打ち倒し、長きに渡る屈辱の歴史に終止符を打て。そして、我々が祖国、日本へ還るのだ!!」

ついに本性を現したプロイツェンは、自身の私兵であるPK師団と親友のシャルルと共に反旗を起こし、かつて滅んだ蛇と短剣の旗を掲げたゼネバスの旗を出して、今ゼネバス復活を起こすのだ。各軍に対する挑発、新帝国建国の宣誓であった。シュバルツやガイロス帝国の兵士やARUSの兵士ら地球連合軍は初めて知り、黙々と従ってきた男が異国の王の血族であったことを。

バン「お前の目的はゼネバス復活だったのか!!」

プロイツェン「その通りだ!!我々ゼネバス人がどれだけ虐げられ、苦しめられたか!!」

バン「何?!」

プロイツェン「わかるまい、我々40年間の苦しみを!!」

40年間の苦しみ、地獄、苦痛を味わって来たプロイツェンは、今祖国復活を目の前にし、自分達の悲願の野望を果たそうとする。

ルルーシュ「シャルル、貴様も同じゼネバスの人間だったのか?!」

シャルル「違うな、わしはお前と同じガイロス人だ。」

ルルーシュ「じゃあなぜ加担した!!」

シャルル「復讐だ。」

凱、ルルーシュ「?!」

シャルル「わしは幼い頃からガイロスの皇位を巡る醜い骨肉の争いを見て、地獄と嘘を味わった。わしは皇帝に選ばれずこの世界いや全世界に絶望したのだ。お前達ならわかっているはずだ、101人評議会に牛耳られ、世界は思いのままにされて来たこと。」

プロイツェンの反乱に加担するシャルルは、かつて幼い頃から皇位を巡る醜い骨肉の争いを見て、地獄と嘘を味わい、皇位に選ばれず、全世界に失望し、世界を滅ぼす事を決めたシャルル。ゾノーダギルベイダーがチタンクロードで切り裂きにかかって来た。

凱「お前は俺が相手をしてやる!!」

シャルル「来い、獅子王凱!!お前の勇気とやらを見せよ!!そしてお前は愛すべき彼女を救えるか。」

ルルーシュ「俺達も加勢するぞ!!」

シャルル「ルルーシュ、お前の相手は彼女とやるがいい。」

シャルルと対峙する凱を加勢しようとするルルーシュ、スザク、カレンの前にスーパーギャラクトロンに乗ったユーフミアが現れた。

ユーフミア「・・・。」

ルルーシュ「ユファイ!!」

スザク「僕達の相手は彼女か!!」

カレン「3人でやるしかないみたい。」

ユーフミアの乗るスーパーギャラクトロンを相手に戦うルルーシュ、スザク、カレンは、KMFでロボット怪獣を相手に、大きさやパワーも桁違い、それでも挑む3人。早速スーパーギャラクトロン

両腕のギャラクトロンアームズシフトからビーム砲、腹部ギャラクトロンブラスターが放たれ、すぐに回避するルルーシュ、スザク、カレン。

スザク「ユファイ、今助けに行く!!」

スーパーギャラクトロンにいるユーフエミアを救うべくスザクのランスロット・アルビオンがエナジーウイングを展開しながらMVSwordで斬りかかるが、スーパーギャラクトロンが頭部のヘッドテイルシザースで素早い動きを駆けるランスロット・アルビオンを一瞬で突いて打ち込んだ。

スザク「ぐわあああー!!」

ルルーシュ「スザク!!」

ユーフエミア「……」。

超兵となったユーフエミアはただのマシンのように思い人だったスザクを葬り、続いて次は両腕のギャラクトロンアームズシフトからビームソードを出刃して斬撃しかかった。一方、アークエンジェル内に集めたゾンダークリスタルが潜入して来たパリアツチヨに奪われて、今融合し始めた。

パリアツチヨ「Zマスター融合……復元。」

パスター「再結合開始。」

ゾンダークリスタルと木星にあったザ・パワーを何らかの方法で得て回収したパリアツチヨと彼女の口内にいたパスターが融合し始め、そして機界31原種の全集合体Zマスターへとなった。

一同「!!」

凱「何だあれは!!」

シャルル「くつくく、ついに始まったか。」

プロイツェン「破滅へのカウントダウンを。」

クルーゼ「扉が始まる。」

カイン「全ての。」

ウルトラマンベリアルアトロシアス「どちらが死ぬか。」

レイブラッド「終わりの始まりだ。」

ゾルダートJ「気をつける!! 奴が機界31原種の全集合体Zマスタ―だ!!」

? 凱「Zマスタ―?!」

? J「原種達は31体にして一つの存在それぞれが全宇宙の機界昇華を司るZマスタ―の一部なのだ。」

ゾンダーの親玉、機界31原種の集合した姿Zマスタ―。その大きさは地球の2、3倍、そして破滅へのカウントダウンが始まろうとする。

Zマスタ―「見るがいい。我が力を。」

Zマスタ―が右腕から衝撃波が放たれ、ヘリック、ガイロス、ARUS、人類革新連盟、ザフトの軍勢を一瞬で葬った。

スワン「ヘリック、ガイロス、ARUS、人類革新連盟、ザフトの機体9割が消滅デス。」

大河「一瞬で壊滅させたとは?!」

Zマスタ―が一瞬で全軍の戦力を9割壊滅させるほどの威力を目の当たりにする大河達。

Zマスタ―「我の力、思い知るがいい。」

ウルトラマンゼロエクシア(刹那)「ゼロ、あいつを野放しにすると世界が滅ぶ。」

ウルトラマンゼロエクシア「ああ、どでかいの放っておくと世界を滅んじまう。ジード、ベリアルはお前に任せる。俺と刹那はあのだでかいのを倒しに行く。」

ウルトラマンジードロイヤルメガマスター(リク)「ベリアルは俺が決着を付けます!!」

ウルトラマンゼロエクシア「任せたぞ。」

ウルトラマンベリアルアトロシアスをウルトラマンジードロイヤルメガマスターに任せて、世界を滅ぼそうとするZマスターを倒しに向かうウルトラマンゼロエクシアと刹那。最終決戦の幕が切つて下された、凱はシャルル、バンはプロイツェン、ルルーシュ、スザク、カレンはユーフエミア、キラ、アンジユ、ハルト、サキ、美月、劾、サラはクルーゼ、カイン、エンブリヲ、アレハンドロ、ウルトラマンジードロイヤルメガマスターはウルトラマンベリアルアトロシアス、レイはレイブラッド星人、ウルトラセブン、ウルトラマンレオ、ハーマン、シユバルツはPK師団、ウルトラマンオーブ、オーブオリジン、ジャグラー魔人態は禍々アークベリアル、ウルトラマンゼロエクシアと刹那はゾルダートJと他の者達と共にZマスターとそれぞれ対決するのだ。

凱「はあああああー、ドリルニー!!」

スターガオガイガーがゾヌーダギルベイダーに向かってドリルニーで打ち込み、続いてパンチを連打して喰らわせた。

シャルル「ぬるいわ!!」

ゾヌーダギルベイダーが尻尾を振るいながらスターガオガイガーにぶち込み、さらに体当たりをしてチタンクローで切り裂いた。

バン「プロイツェン、お前は101人評議会も利用して来たのか?」

プロイツェン「そうだ。我がゼネバスを滅ぼしたのは101人評議会の暗躍でだ。私はこの40年間、ゼネバス人がコーデイネイターやノーマ以上にどれだけ差別をされ、虐げらる苦しんできたか!!」

祖国を失ったゼネバス人はどこからも差別をされ、虐げられ、苦しんできた日々をバンにぶつけるプロイツェンは自ら操縦するGNデスザウラーの尻尾のGN加重力衝撃テイルを振りながらライガーゼ口に喰らわせた。

ルルーシユ「くっ!!」

ユーフェミアのスーパーギャラクトロンの繰り出す攻撃に圧倒されるルルーシユ、スザク、カレン。スーパーギャラクトロンのギャラクトロンアームズシャフトからビームソードで3人に斬撃しかかった。

カレン「!!」

カレンは紅蓮聖天八極式のエナジーウイングを展開して超高速してスーパーギャラクトロンに飛び回って攪乱させる。紅蓮聖天八極式の動きにスーパーギャラクトロンが胸部拡散式ギャラクトロンブラスターを放った。

カレン「こんなもの!!」

輻射推進型自在可動有線式右腕部から輻射障壁を発生して防ぎ、そのまま輻射波動を発射して、スーパーギャラクトロンの胸部に損傷させた。損傷を受けたスーパーギャラクトロンがギャラクトロンアームズシフトからビーム砲を乱射して蜃気楼、ランスロット・アルビオン、紅蓮聖天八極式に攻撃した。

ルルーシユ「蜃気楼の絶対守護領域を見せてやる!!」

蜃気楼の絶対守護領域が発動してスーパーギャラクトロンの攻撃を防いだ。クルーゼのプロヴィデンス、カインのダーインスレイヴ、エンブリヲのヒステリカに圧倒されるフリーダム、ヴァルヴレイヴ1フルインパクト、ヴィルキス、ヴァルヴレイヴ4、ソルシェウイサリス、ブルーフレームセカンドL、焰龍號。

クルーゼ「正義と信じ、わからぬと逃げ知らず!!退かず!!その果ての終局だ!!もはや止める術などない!!そして人は滅ぶ、人は!!滅ぶべくしてな!!」

キラ「それはあなたの理屈だ!!」

ハルト「人はどんな困難だって乗り切れるんだ!!」

アンジュ「人は生まれながら決まったなんかじゃない!!」

カイン「では何故人は争い、いがみ合う、憎み合う。」

サキ「そつ、それは・・・!!」

エンブリヲ「何も知らないままのようだな。」

美月「・・・。」

効「クルーゼ、カイン、エンブリヲ、それは貴様のエゴだ!!」

カイン「君は何故運命に抗う。」

効「俺には俺の信念がある。俺は俺のやり方がある。」

クルーゼ「ほざくがいい!!」

運命に抗う効に対し、クルーゼがプロヴィデンスからドラグオーンを放って攻撃し、ブルーフレームセカンドLがアーマーシユナイダーで切り払った。

エンブリヲ「運命、アンジュ、サキ、美月、君達3人は私の物にならないか?」

アンジュ「断る!!」

サキ「誰があんたの物になるのよ!!」



美月「あなたみたいな男とは付き合いたくないわ!!」  
エンブリヲ「ならば力づくで我が物してくれる。」

アンジュ、サキ、美月の3人を我が物にしようとするエンブリヲ。それに対して抗う3人は彼に一斉攻撃をする。

ウルトラマンジードロイヤルメガマスター(リク)「うおおおおお!!」

ロイヤルソードから繰り出す斬撃でウルトラマンベリアルアトロシアスに喰らわせるウルトラマンジードロイヤルメガマスター。

ウルトラマンベリアルアトロシアス「はあああああー!!」

両手のベリアルクローに闇のオーラを纏ったアトロシアスヘルクローをウルトラマンジードロイヤルメガマスターに切り裂いた。

レイブラッド星人「レイモン、こうしてお前とまた会えるとは嬉しいぞ。」

レイモン「お前を今度こそ倒す。」

レイブラッド星人「私を倒すなど無駄なあがきだ。」

ゴモラにパンチを繰り出し、光弾を放ってお見舞いするレイブラッド星人。ゴモラが力強く踏ん張りながら身体で体当たりし、角でレイブラッド星人の身体に至近距離から超振動波を放った。

ウルトラマンオーブ オーブオリジン(ガイ)「オーブスプリュームカリバー!!」

ケイの禍々アークベリアルを相手に戦うウルトラマンオーブオーブオリジンとジャグラ魔人態。オーブカリバーから放った

オーブスプリュームカリバーにビクともせず、さらにジャグラー魔人態の剣技に屈せず、口から光線を放ち、2人を圧倒した。

禍々アークベリアル（ケイ）「ジ・エンドと行こうか!!」

猛威を振るう禍々アークベリアルは、2人を追い詰めていく。

ウルトラセブン「デューワー!!」

ウルトラマンレオ「たああああー!!」

ギヤラクトロン、ダークロプスゼロ、レギオノイドβを相手に次々と破壊するウルトラセブんとウルトラマンレオ。

シュバルツ「このっ!!」

シュバルツのティエレンタオツとハーマンのストームソーダーが蜂起するPK師団の機体を相手に戦い、ビームガトリングガンでアイアンコングPK、ストライクダガー、ジnkクス、ジェノザウラーなど撃ち貫き、破壊した。ハーマンのストームソーダーがレーザーブレードでジnkクス、ストライクダガー、ハンマーロックFB、レブラプターFBを次々と破壊していった。

ウルトラマンゼロエクシア「ぐう!!」

惑星サイズの2倍を持つZマスターを相手に戦うウルトラマンゼロエクシアとキングジェイダーと仲間達。だがZマスターの圧倒的な強さに翻弄され、やられてしまい、なす術もなかった。

ウルトラマンゼロエクシア「まだまだだ!!」

仲間が力尽きていく中、ウルトラマンゼロエクシアがただ1人だけ

Zマスターに挑み戦った。

Zマスター「無駄なあがきを。お前達は既に滅びゆく事に何故気がつかない。」

ウルトラマンゼロエクシア「俺達はまだ死ぬ訳にはいかねえんでな。」

ウルトラマンゼロエクシア(刹那)「お前を倒すまで俺達は戦い続ける。」

Zマスター「ならば死ね。」

Zマスターは自分を倒すまで戦いをやめないウルトラマンゼロエクシアと刹那にレーザーを放った。そのレーザーを回避して、ゼロエクシアソードで斬撃したが、Zマスターの惑星サイズの2倍を持つ大きさを前に傷一つ付いていなかった。激化する最終決戦、その時、アークエンジェルから1機のシャトルが発進した。

シャルル「む?」

シャトルに乗っているのは麗雄だ。

? 凱「と、父さん!」

? 麗雄「諦めるな、凱!! 勇気ある者の誓いを思い出せ!!」

? シャルル「悪あがきを!!」

発進してきた麗雄のシャトルを攻撃し、撃墜したシャルル。

凱「父さん!!」

ゾノーダギルベイダーの攻撃でシャトルが撃墜され、麗雄は死亡し、父の最期を目の当たりにした凱。

雷牙「麗雄!!」

?護「博士えっ!!」

凱「うあ、ああ!!うわああああああつ!!」

大河「な、何ということだ・・・!!」

?護「そんな、嘘でしょ嘘でしょ、獅子王博士ええっ!!」

?マリユー「あ、あああ!」

シャルル「無駄なあがきだったな。」

凱「貴様あああああつ!!」

シャルル「獅子王凱!!お前もあの世に送ってやろう!!」

凱「!!」

父を殺ったシャルルに対し怒りを爆発した凱、シャルルのゾヌーダギルベイダーがビームスマッシュシャーで凱のスターガオガイガーに放ち、絶縁体と化しエネルギーに分散した。

護「凱兄ちゃん!!」

ゾヌーダギルベイダーの攻撃により絶縁体と化しエネルギーに分散した凱。ゾヌーダギルベイダーの攻撃で死んだ麗雄は、

????

麗雄「・・・・・・・・ワシは死んだようだな・・・・・・・・。」

絆「・・・・・・・・。」

死んだ麗雄の前に現れたのは宇宙で遭難して亡くなった妻の絆だった。

絆「はい。木星で遭難した私は不思議な力を使って心だけの生命体になったのです。」

?麗雄「ザ・パワーの力か・・・・・・・・。」

?絆「何度か地球に交信しようと試みましたが、101人評議会の妨害で出来なかったのです・・・・・・・・。」

麗雄「絆……。」

? 絆「あなた……。」

? 麗雄「会いたかった、絆。」

凱「このまま俺は死ぬのか……?」

??? 「獅子王凱……。」

凱「!!」

??? 「凱、私の声が聞こえるか?」

凱「あなたは?」

カイン(ガオガイガー)「我が名はカイン。」

凱「あなたが護の……?」

? カイン(ガオガイガー)「今、こうして話している私はギャレオンの中に保存されているコピーに過ぎない、肉体を失い、ギャレオンの一部となった私には我が子を育てることは出来なかった……。」

? 凱「それで天海さん達に護を……。」

? カイン(ガオガイガー)「私の人格コピーはE1-01との最初の戦いで傷つき、機能を失った。ザ・パワーの力でようやく話すことが出来る。」

? 凱「ザ・パワー……。」

? カイン(ガオガイガー)「宇宙には多くの未知なるエネルギーが存在する。ザ・パワーもその一つと言えよう。そして、ザ・パワーの力を得た者はその能力を増幅出来るのだ。」

? 凱「……。」

? カイン(ガオガイガー)「凱、君には感謝している。本来なら、私がギャレオンとフュージョンするはずだった……。」

? 凱「いえ……感謝するのは俺の方です。大切な人を守る力の全ては、あなたがあたえてくれたのだから……。」

? カイン(ガオガイガー)「ありがとう、凱。私の寿命もこれまでのようだ……。」

? 護、CC「……。」

? 凱「護、CC。」

? 護「……。」

?カイン(ガオガイガー)「ラテリオ、お前は心も身体も立派に成長した。今こそ最後の封印を解くときでしょう。CC、君にも本当に大変な思いをしたな。」

CC「ええ。ラテリオには本当に何もしてあげられなかった。」

カイン(ガオガイガー)「いいんだ、あの子はあの子でたくましく成長したんだ。」

CC「ラテリオ。」

護「……………」

?カイン(ガオガイガー)「この力を正しきことに使う時が来た。凱、全てを君に託す。」

?凱「カイン……………」

?護「……………」

?カイン(ガオガイガー)「ラテリオ、私はいつもそなたの側にいる……………」

?護「僕…わかったよ。Gストーンの本当の使い方が…………そして緑の星でいつも僕を見守っていたあの優しい目、ギャレオンと同じ優しい目、それは……………」

?カイン(ガオガイガー)「……………」

ゾノーダギルベイダーの攻撃で絶縁体と化しエネルギーに分散した凱の前に現れた緑の星の指導者カイン(ガオガイガー)、その導きやってきた護とCC、家族3人の対面、そして護の持つ能力が今ここに解放された。

宇宙

ヤキン・ドゥーエ付近

シャルル「ふつ、愚かな勇者いや獅子王凱よ。最後まで哀れだったな。」

凱をこの手で倒したと確信するシャルル。その時、絶縁体と化しエネルギーに分散したスターガオガイガーが突如姿を現した。

凱「そうはいくかああっ!!」

シャルル「何だと?!」

ウルトラマンゼロエクシア（刹那）「凱っ!!」

? 凱「待たせたな、みんな!!」

? シャルル「生きていたのか?!」

? 凱「俺は倒れん!! 勇気ある誓いある限り!!」

? 麗雄（幻影）「凱・・・ザ・パワーの力を借りるのだ・・・。」

? 絆（幻影）「お行きなさい、凱。」

? 凱「父さん、母さん!!」

? 麗雄（幻影）「超竜神を復活させたエネルギーを思い出せ・・・。」

? 絆（幻影）「でも、気をつけて。ザ・パワーにおぼれてはいけませんよ。」

凱「父さん、母さん、カイン!! あなた達の子供の戦いを最後まで見守っていて下さい・・・!!」

? シャルル「この力は・・・?!」

? 凱「うおおおおおおお!!」

木星にあるザ・パワーの力を使い、スターガオガイガーのエネルギーが上昇し、シャルルのゾヌーダギルベイダーに向かってドリルニーで思いつきり打ち込んだ。

シャルル「何だと・・・?!」

凱「シャルル、プロイツェン、ベリアル、レイブラッド星人、エンブリヲ、Zマスター、お前達の好きにはさせない!!」

スワン「ガオガイガー!!」

マリユー「復活したのね」

スメラギ「どうやら、ザ・パワーを味方につけたようね。」

? 大河「何?!」

凱「みんな、戦いはこれからだ!! 一気に決着を着けるぞ!!」

ザ・パワーの力で蘇ったスターガオガイガーがザ・パワーを広げて味方全員にもザ・パワーの力を付けてエネルギーが上昇した。戦いで散った炎竜、氷竜、風龍、雷竜、ガンドローベル、ガンイーグルも蘇り、幻竜神、強龍神、ビッグボルフォッグへと変わった。

ウルトラマンゼロエクシア「俺達の力が上がっていく。」

ウルトラマンゼロエクシア（刹那）「ああ、ゼロ。」

ハルト「これがザ・パワーの力なのか?!」

乙マスター「無駄なあがきを。」

ウルトラマンゼロエクシア「乙マスター、てめえをここでぶっ倒してやる!!」

凱「俺達に託された思い、ザ・パワーと共にお前達へぶつけてやる!!」

ザ・パワーの力によりエネルギーが上昇し、シャルル、プロイツェン、ウルトラベリアルアトロシアス、レイブラッド星人、クルーゼ、カイン、エンブリヲ、乙マスターらに最後の対決に挑んだ。

EXゴモラ「キシヤアアアアー!!」

ザ・パワーの力でゴモラがEXゴモラとなって、超振動波でレイブラッド星人にお見舞いした。

レイブラッド星人「バカな、これほどの力が!!」

ウルトラマンベリアルアトロシアス「いい気になるな!!」

ウルトラマンジードロイヤルメガマスター（リク）「今度こそ終わらせてやる!!」

ザ・パワーの力を着けたウルトラマンジードロイヤルメガマスター



がウルトラマンベリアルアトロシアスに大きく斬撃し、見事急所を当てた。

ウルトラマンベリアルアトロシアス「バカな、これほどの力が!!」  
レイブラッド星人「まだ終わらんぞ!!」

レイブラッド星人がウルトラマンジードロイヤルメガマスターとEXゴモラにレイオニクスプリズンで石化させようとするが、ザ・パワーの力を入れて着けた2人の前には効かず、EXゴモラがティルスピアでレイブラッド星人に喰らわせ、ウルトラマンジードロイヤルメガマスターがロイヤルエンドでレイブラッド星人とウルトラマンベリアルアトロシアスに直撃し、見事撃退した。

バン「行くぞ、プロイツェン!!」

プロイツェン「今終わらせてやる!!」

ザ・パワーの力を着けたライガーゼロがGNデスザウラーを圧倒し、格闘による爪攻撃でGNデスザウラーの装甲を引き裂いた。

クルーゼ「まだ諦めないのか、もはや滅び行くことを。」

キラ「それでも諦めない。僕達に守りたい明日があるんだ!!」

カイン「人は唾み合い、滅ぼし合うだけだと言う事を。」

ハルト「人は誰でも乗り越えられるんだ!!」

プロヴィデンス、ダインスレイヴとの激闘を繰り広げるフリーダム、ヴァルヴレイヴ1フルインパクト。フリーダムが2本のビームサーベルを連結してプロヴィデンスの胴体に突き刺し、クルーゼを倒した。ヴァルヴレイヴ1フルインパクトがインパクト・ブースターを握りながらダインスレイヴを殴り貫き、カインを倒した。

エンブリヲ「君達はいい、実にいい!!」

アンジュ「エンブリヲ、お前を終わらす!!」

サキ「あんた達に支配された世界を終わらせるわ!!」

美月「この戦いを終わらせて明るい未来のために!!」

サラ「今日であなた達を終わらせます!!」

ヴィルキス、ヴァルヴレイヴ4、ソルシエウイサリス、焰龍號、4人は永遠の語り人を歌い、真の能力を解放したヴィルキスが覚醒し、ヴァルヴレイヴ4が断罪のミラージュ、ソルシエウイサリスがムーンフルバースト、焰龍號が収斂時空砲、ヴィルキスがデイスコード・フェイザーで、ヒステリカに喰らわせ、最後にヴィルキスがラツイーエルで纏った巨大なビームソードで斬撃し、エンブリヲを倒した。

アレハンドロ「おのれ、貴様如きに。」

アルヴァトールでブルーフレームセカンドLを追い詰めるものの、効の高い操縦技量により圧倒されて自分が追い詰められていた。ロボロになったアルヴァトールからアルヴァアロンを出現して、ブルーフレームセカンドLに再び挑むが、

効「詰めが甘い!!」

早速この場から出現したアルヴァアロンをアーマーシユナイダーでコックピットごと刺突し、アレハンドロを討ち取った。

ルルーシユ「ユファイ、今助けてやる!!」

ザ・パワーの力を着けた蜃気楼、ランスロット・アルビオン、紅蓮聖天八極式がスーパーギヤラクトロンに挑み、ランスロット・アルビオンと紅蓮聖天八極式がザ・パワーでさらに増した超高速でスーパーギヤラクトロンの周り回りながら攪乱させていき、ランスロット・アルビオンがMVソードでスーパーギヤラクトロンの右腕と胸部拡散

式ギヤラクシーブラスターを破壊し、続いて紅蓮聖天八極式が輻射波動で左腕を破壊し、蜃気楼がフォートレスモードに変形してスーパーギヤラクトロンの胴体に突撃し、内部に早速入り込んだルルーシユはユーフェミアの救出を早速し始めた。

ルルーシユ「ユファイ!!」

スーパーギヤラクトロンの内部でコードに巻きつかれているユーフェミアを発見したルルーシユは、拳銃でコードを撃ち抜き、彼女を救出した。

ユーフェミア「あつ、あれは私は?」

ルルーシユ「君を助けに来た。さあ出よう。」

元に戻ったユーフェミアはルルーシユに連れられて蜃気楼に乗り、スーパーギヤラクترونから脱出した。

凱「うおおおおおー、ブロウクンファントム!!」

ザ・パワーで着いたスターガオガイガーがブロウクンファントムでゾノーダギルベイダーに喰らわせ、さらにガトリングドライバーで突撃して喰らわせた。

シャルル「舐めるあ!!」

スターガオガイガーの攻撃に対し、シャルルのゾノーダギルベイダーがビームスマツシャーでスターガオガイガーに向けて放地、喰らわせた。

シャルル「貴様如きにわしに勝てると思っていたか!!」

凱「シャルル、お前を倒し、命を解放する。」

シャルル「ふぎげ、わしを倒すなど不可能だと言うことを。」  
凱「なら、これでケリを着けてやる!!」

ゾヌーダギルベイダーのコアになった命を救うべく凱は全力を持って出しながら挑み、そしてこの手をかけて挑んだ。

凱「これを使うしかない、ヘルアンドヘブン!!ム・ギル・ガン・ゴー・グフオ、はああっ!!」

右腕のブロウクンアームと左腕のプロテクトアームを発光させて、呪文を唱えながらENトルネードでゾヌーダギルベイダーの動きを止めて、スターガオガイガーが突撃した。

凱「うおおおおおー!!」

突撃したスターガオガイガーが両掌を突き刺してゾヌーダギルベイダーのコアを取り出し、機体内に送り込んだ融合エネルギーを開放、内部から爆破させた。

ウルトラセブン「デューワー!!」

次々とPK師団の機体を撃墜するウルトラセブン、ウルトラマンレオ、ハーマン、シユバルツら。だが、PK師団は最後まで勇敢に戦い、ある者はウルトラ戦士に機体ごと特攻し、またある者は破壊された機体から這い出し、小銃で敵に突撃した。投降者は1人もおらず、全員散った。

ハーマン「PK師団は捨て石か!!」

PK師団は最初から捨石だった事に気づき、戦場にはいない鉄竜騎兵団は地球にいる事を知ったハーマンとシユバルツ。

ウルトラマンゼロエクシア「これで終わりだ!!」

ザ・パワーで着けたウルトラマンゼロエクシアが仲間達と共にZマスターの体内に入り込んだ本体の心臓原種にゼロエクシアセブンスソードで7つの剣で喰らわせながら、最後にゼロエクシアソードの一撃が心臓原種にとどめを刺した。だが、その影響で心臓原種を倒した事でZマスターが大きな大爆発を起こし、全軍に大きな犠牲を出した。

プロイツェン「鉄竜騎兵団は地球か……。」

ライガーゼロとの戦いで損傷したGNデスザウラーのコックピットで炎に包まれるプロイツェン。自分は今既に死が来ている事、そして息子のヴォルフの率いる鉄竜騎兵団がヘリック共和国本土へ向かっている事を知り、彼が祖国復活を果たす事。父が果たせなかったコズミックイラ統一を息子が今果たそうとする。

次回 33話へ続く

### 第33話 侵略

チャバハール秘密基地から出航した鉄竜騎兵团。向かう先はヘリック共和国本土、数十隻のドラグーンネストとブリガンテがそれぞれ各4分して、バンダ・アチエ、チツタゴン、マノクリア、鹿児島へ上陸をし始める。

移動中

東シナ海

ドラグーンネスト

鉄竜騎兵团員1「諜報員から宇宙で大爆発を確認しました。」

部下の報告を受け取ったヴォルフは、そのまま黙ってゆつくりマイクを取り、鉄竜騎兵团全員に出撃命令を出す。

ヴォルフ「全軍出撃、これより旧ゼネバス領の同士たちと連携しつつ、共和国残存部隊を撃滅せよ。最終目的地は、共和国首都……東京だ!!」

ついにバンダ・アチエ、チツタゴン、マカツサル、鹿児島に鉄竜騎兵团が各地に上陸をし、ドラグーンネスト、ブリガンテから次々と機体が発進し、バーサークフューラー、ストライクダガー、ジnkクス、ジエノザウラー、ダークロプスゼロ、ギャラクトロン……。最新鋭のダークスパイナー、シュトゥルムフューラー、ヤクトフューラー、ガンギヤラド、キラードーム、ライガーゼロイクス、ジークドールベル、ジエノブレイカー、105ダガー、ジnkクスIIが混じっている。

バンダ・アチエ

海岸

ヘリック共和国兵1「うわあああー!!」

バンダ・アチエに上陸した鉄竜騎兵団のデイマンティスの集団がゴルドスに襲いかかり、多数で大型機を攻撃し、破壊した。ストライクダガーの集団がビームサーベルでゴジュラスを一斉に斬撃し、さらに海上から現れたシンカー部隊がリニアガンタンク部隊を空爆した。

ヘリック共和国兵2「やられてたまるか!!」

空中からレイノス部隊が地上にいるデイマンティス、ストライクダガーの集団に空爆を行うが、空からジンクスとグレイヴクアマが現れて、レイノス部隊に近接戦で持ち込み、ジンクスがGNビームサーベル、グレイヴクアマが羽のソードウィングで切り裂いた。

チッタゴン

要塞外辺

鉄竜騎兵団団員1「祖国復活のために!!」

ゼネバス復活を夢見て来た若きゼネバス人らごと鉄竜騎兵団、今ここで果たす時が訪れ、ヘリック共和国本土に上陸をし、各地で展開をした。チッタゴンに上陸をし、ネーピードローに進軍する鉄竜騎兵団からはヤクトフューラー、ランチャー105ダガー、バスターダガー、ジンクスIIキャノンがヘリック共和国の要塞を一斉砲撃し、要塞にダメージを与え、その直後にジェノザウラー、レブラプター、デイロフォース部隊が突撃して要塞を陥落させた。

ジャワ海

ヘリック共和国兵3「こんな事があり得るか!!」

ジャワ海では、鉄竜騎兵団との海戦を繰り広げるヘリック共和国軍の艦隊。海中からはウオディックがソニックブラスターでハンマーヘッド、ヘリック共和国の水上艦に放ち、そうしたらマツカーチスの集団が一斉に襲撃し、最後にデーパーフォビドウンがトライデントで

破壊した。

マカツサル

鉄竜騎兵団団員2 「ゼネバスのために!!」

ゼネバス復活を目指す鉄竜騎兵団の団員らは次々とヘリック共和国軍の部隊を追い詰めていき、各地を侵攻していった。マカツサルでは、最新鋭のダークスパイナーが背ビレのジャミングウエーブを発生させて、ヘリック共和国軍のゾイドに浴びせて、突如ヘリック共和国軍のゾイドのコントロールが効かなくなり、操られて味方同士攻撃し始めた。その隙を突いてジェノブレイカーとジังก์スIIソードとソード105ダガーが、ダークスパイナーのジャミングウエーブでコントロールを失った共和国軍のゾイドを強襲していった。

ヘリック共和国兵4 「何だよ、おい……。」

鉄竜騎兵団の圧倒的な強さを前に全く歯が立たず次々とやられていくヘリック共和国軍本土守備隊。ブルネイダルサラームでは、

ブルネイダルサラーム

ヘリック共和国兵5 「あつ、あああ……。」

既にレギオノイドγとダークロプスゼロとギャラクトロンとザバットによる無人機部隊によつてブルネイダルサラームは制圧され、大半の守備隊がロボット怪獣によつてあつという間に壊滅されてしまい、為すすべもなかった。鹿児島では激しい戦闘が繰り広げられていた。ヘリック共和国軍の最新鋭のスナイプマスター、ガンブラスターを中心としたゾイドが進軍する鉄竜騎兵団の機体を相手に戦っていた。

鹿児島



ヴォルフ「……。」

高速形態のシュトウルムフューラーを操縦するヴォルフは一斉射撃してくるガンブラスターの攻撃をアクティブシールドで防御し、シールド内からエクスブレイカーを出して、ガンブラスターを切り裂き、拡散荷電粒子砲でスナイプマスター部隊を蹴散らした。さらにシュトウルムブースターで加速しながら、ゴジュラス部隊に突撃してエクスブレイカーで切り裂いていった。

アクア「行くぞ、お前ら!!」

ドラグーンネストから発進したガンギヤラドとグレイヴクアマとエール105ダガーとジンクスIIの空中部隊が陸地にいるヘリック共和国軍の部隊を空襲した。ミラージュコロイドで姿を隠して行動するメガレオンが対空攻撃でグレイヴクアマとエール105ダガーを撃ち落として、大活躍を見せたが、敵の数が多く、優勢には至らず戦局は変わらず、さらにガンギヤラドにその反応を確認されて地上に降下して破壊された。鹿児島から一気に大阪へ侵攻する鉄竜騎兵团。

大阪

ヘリック共和国部隊長1「奴らを首都に行かせるな!!」

大阪へ進軍する鉄竜騎兵团を止めるためスナイプマスター部隊が尻尾のロングレンジスナイパーライフルで一斉狙撃するが、前衛に立つキラードームの頑丈な装甲を前に全く効かず、キラードームのジャイアントグラブからガトリング砲で撃ち抜かれ、やられてしまった。大阪も制圧され、徐々に追い詰められていくヘリック共和国防衛隊。そして鉄竜騎兵团は東へと進み、東京へ進行する。たった4日でヘリック共和国本土各地を制圧した鉄竜騎兵团。すでにヘリック共和国の戦力はなく、彼らに残されたのは降伏か死のどちらかだった。首

都東京へ進行し始めた鉄竜騎兵団は、次々と東京守備隊を蹴散らしていった。とある基地では、大統領ルイーズを脱出するためにある新型SSゾイドのセイバリオンに乗せようとした。

東京

首都防衛基地

格納庫

パリス「大統領、脱出の手筈が整えました。」

大統領に声をかける1人の兵士、セイバリオンのパイロットを務める事になったパリスだ。

ルイーズ「こんな大変な状況で申し訳ないわ。」

パリス「いえ。」

ルイーズ「ロブにこれを渡してもらいたい。」

ルイーズは息子のハーマンに渡すため、パリスに金属ケースを手渡した。そしてルイーズを乗せたセイバリオンを操縦するパリスが発信し、セイバリオンを脱出させるために残った守備隊が最後の力を振り絞って鉄竜騎兵団に挑んだ。現れた守備隊にダークスパイナーとシュトウルムフューラーとガンギヤラドが攻撃し、1機足らず撃破した。

パリス「!!」

仲間が次々とやられていく姿を見るパリスは、自分と大統領を守るために犠牲になったと彼らのために振り向くわけにはいかないこのまま突き進んだ。東京から脱出したパリスのセイバリオンは、早速で福島へと進んだ。セイバリオンにルイーズが乗っていることを知った鉄竜騎兵団は、ライガーゼロイクスを中心とした追撃部隊を向かわせ、福島に移動中のセイバリオンを追跡した。

福島

移動中

パリス「くっ!!」

ミラージュコロイドで身を隠して姿を現したライガーゼロイクスとジークドールとセイバータイガーとガンタイガーが迫りつつ、窮地に陥ろうとした。そんな状況でもパリスは冷静になり、セイバリオンにあるハイフリークエンシブレードを左右頬部に1本、頭頂部に1本をそれぞれ展開し、右前脚のレーザークローで来るライガーゼロイクスをかわし、3本のブレードがライガーゼロイクスの右脚を破壊、そして胴体を真つ二つにし、破壊した。そして後脚のスモークチャージャーを展開し、追撃部隊を振り切り、そのまま走りながら脱出に成功した稚内まで到着したパリスはその異変に気づき、セイバリオンの腹部に付けられた隠し部屋のハッチが開いていた。損傷の跡はなく、激闘の中、アクシデントで開いたのか内部から開けられたのか判然とせず、その中にルイーズの姿がそこにいなかった。出撃前にルイーズから託された金属ケースを開けてみたら、中には3枚のディスク。

稚内

パリス「あつ。」

セイバリオンのコクピットで3枚のディスクを入れて再生し、1枚はゾイドとガンダムの設計図らしきものだったが、暗号化されているらしく詳しくは読めない。次の1枚は、ハーマン個人に宛てたと思われるメッセージ。「政治を嫌って私の元を離れた貴方には無用な心配でしょうが」という前置きの後、最後まで一軍人としてネオゼネバスと戦ってほしいと告げていた。パリスは知る由もないが、そこには歴史の悲劇を終わらせたいとの思いがあった。己の血脈を知らない息子には、指導者の道を歩んでほしくなかったのだ。最後の1枚は、すべての地球の人々に宛てたメッセージだった。「この敗北が終わりでは

はありません。これが、新たな戦いの始まりなのです」と。

パリス「大統領。」

優しく、力強い言葉で語られるルイーズの地球の人々のメッセージはそれが遺言のようで悲しくて、パリスは流れ落ちる涙を止めることができなかった。そして東京を制圧した鉄竜騎兵团、ヴォルフはネオゼネバス帝国を建国し、ヘリック共和国本土を征服した後に地球各地も完全制服をし、地球各地の国家、組織、機関、企業、団体など全て解体し、ネオゼネバス帝国による全統一が行われ、さらに宇宙のプラントまでもネオゼネバス帝国に支配され、プラントも解体され、実質ネオゼネバス帝国の一国制となり、コズミックの世界はネオゼネバス帝国の支配下となった。ネオゼネバス帝国の支配下に対し、生き残った者達は他世界へ移り、戦力を立て直す、またコズミックイラの世界に残って抵抗戦を行ったりした。彼らの戦いはまだ終わらない。

次回 34話へ続く

## 設定6

ウルトラマンリボーンズ

身長：56m

重量：5万9000t

武器

リボーンズアームズ×2

リボーンズフィンビット×10

説明

コズミックイラの黒幕であるリボーンズリアルマークの真の姿。この小説におけるリボーンズ自身は最初からウルトラマンであり、彼はウルトラマンキングと同等の超能力やウルトラマンノアと同等の力を持ち、絶対的に最強の力と実力を持つ。外見は鎧的な物を姿をし、両腕にリボーンズアームズが装備され、銃口からビームソードや光弾発射機能を持ち、さらに背中、両脚に合計10本のリボーンズフィンビットがある。全身は白で、カラーラインは赤、黄。活動時間は無制限である。正義であるウルトラマンキングとウルトラマンノアに対し、ウルトラマンリボーンズは最初から生まれた時から悪で、いろんな世界で暗躍して戦争を起こしたり、牛耳つたりし、コズミックイラの世界を裏から操りながら101人評議会やウルトラマンベリアルやレイブラッド星人などを動かした。

必殺技

リボーンズスパークブレード

ウルトラマンリボーンズの必殺技。リボーンズアームズのビームソードに強力なエネルギー柱状を纏いながら大きな斬撃をする。

リボーンズバスターシユート

ウルトラマンリボーンズの必殺技。リボーンズアームズから強力な光線を放つ。その威力は惑星を一瞬で破壊することが可能。

リボーンズグラビティブラスト

ウルトラマンリボーンズの必殺技。両手から重力波光線を放ち、当たった相手を持ち上げながら重力による大爆発を与える。

リボーンズデスストリング

ウルトラマンリボーンズの必殺技。フィンビット10基を自在に操りながら複数の敵をオールレンジ攻撃する。

リボーンズデストロイシユート

ウルトラマンリボーンズの必殺技。両腕を十字に組んで、漆黒と赤のリング状の交差した光線を放つ。

ウルトラマンゼネバス

身長：53m

体重：4万5000t

武器

エクススラツガー×1

グングニルランス×1

ゼネバスシールド×1

ゼネバスウイング×2

説明

ネオゼネバス帝国が開発した人工ウルトラマン。ウルトラマンゼネバスの開発は数年前、プロイツェンがウルトラマンベリアルの遺伝子を手に入れて、これは息子ヴォルフがゴズミックイラの王になるために開発がされ、完成したのが、CE74年の大戦の最終決戦で、宿敵刹那とウルトラマンゼロとの再戦で実戦した。その実力は通常のウルトラマンの数千倍の力を持ち、パンチ力やキック力はとてつもない威力を持ち、右腕に装備されているランス型のグングニルランスはあらゆるもの一撃で貫き、左腕のゼネバスシールドはあらゆる攻撃を防ぎ、頭部のエクススラツガーは、投擲して敵を斬撃し、背中のゼネバスウイングは、空中を飛んで展開して斬撃する。カラーは全身が赤。活動時間は無制限。変身アイテムはゼネバスブレスチェンジヤー。

必殺技

ゼネバスオーバーシユート

ウルトラマンゼネバスの必殺技。腕を十字に交差して真っ赤な光

線を放つ。その威力はウルティメイトゼロ以上の必殺技を誇る。

ゼネバスライトニングエッジ

ウルトラマンゼネバスの必殺技。全エネルギーを展開してゼネバスウィングを広げたまま空中による光速のようなスピードで敵全体に突撃してグングニルランスによるオールレンジ攻撃する。

ウルトラマンダブルゼロ

身長：51m

体重：47000t

武器

ダブルゼロスラッガーII×2

ダブルゼロブライトサーベル×2

ダブルゼロソード×2

ダブルゼロカッター×2

説明

ウルトラマンゼロの新たな形態。刹那とウルトラマンゼロがヴオルフのウルトラマンゼネバスに追い詰めれる中、刹那とウルトラマンゼロエクシアが共鳴して進化し、ウルトラマンダブルゼロへと変わった。姿はダブルオーガンダムに近い姿だが、頭部にゼロスラッガーIIが2本あり、左右の腰にダブルゼロソードがそれぞれあり、後腰部にダブルゼロブライトサーベル2本あり、両脚にダブルゼロカッターが2本あり、ウルトラマンゼロエクシアの数千倍の能力で、ウルトラマンゼネバスと互角に渡り合う事が可能。

必殺技

ダブルゼロスマッシュ

ウルトラマンダブルゼロの必殺技。腕を光状を纏って強く打ち下ろす。

ダブルゼロツインナックル

ウルトラマンダブルゼロの必殺技。両腕を光状を纏いながら左右から強くパンチで相手を殴る。

ダブルゼロタイフーンスラッシュ

ウルトラマンダブルゼロの必殺技。ダブルゼロソード2本から竜巻を起こして、敵を飲み込ませて、切り刻む。

ダブルゼロクロススラッシュ

ウルトラマンダブルゼロの必殺技。光状を纏ったダブルゼロソード2本を両手に構えながら敵に。十文字斬りする。

ダブルゼロスピニングバー

ウルトラマンダブルゼロの必殺技。ダブルゼロカッター2本を持つまま上げて、ジャンプしながら身体を回転して全身に光状を纏いながら相手に突撃する。

ダブルゼロエメリウムスラッシュ

ウルトラマンダブルゼロの必殺技。額のランプから光線を放つ。

ダブルゼロワイドショット

ウルトラマンダブルゼロの必殺技。腕を十字に交差して、緑色の光線を放つ。その威力はウルトラマンゼネバスのゼネバスオーバーシュートと同等の威力を持つ。

ウルトラマンダブルゼロライザー

身長：53 m

体重：49500 t

武器

ダブルゼロスラッガーII×2

ダブルゼロブライトサーベル×2

ダブルゼロソード×2

ダブルゼロウルティメイトソード×1

説明

ウルトラマンダブルゼロがさらなる進化形態。ウルトラマンリボーンズと激闘の中で、ウルティメイトイージスの光が刹那とウルトラマンゼロをさらなる共鳴をし、ウルティメイトイージスも進化をし、鎧の形状も変わり、合体した姿は、左右の肩にバインダー状、胴体にV文字が着いた鎧、両脚にも鎧があり、ダブルオーライザーに近い姿をしている。能力はウルトラマンダブルゼロをさらなる上回る



力を持ちながら、ウルトラマンリボーンズと互角に渡り合う力を持つ。その力は計り知れなく、刹那やウルトラマンゼロですら驚く。全ての鎧が合体してダブルゼロウルティメイトソードとなる。

ダブルゼロウルティメイトソード

ウルトラマンダブルゼロライザーの最強の必殺技。全身に纏ったウルティメイトイージスの鎧を合体して大剣となり、ウルトラマンダブルゼロが両手で構えながら、大剣に巨大な光状を纏いながら敵を一刀両断する。その威力は凄まじい威力で、下手にすると世界を滅ぼしてしまうと言う威力でもある。

ネオゼネバス帝国

陸軍

第1〜100陸軍機械化師団

強襲戦闘隊

バーサークテュラン、シュトウルムテュラン、ジエノザウラー、ジェノブレイカーJET、ダークホーン、ハンマーロック、デイロフオー、レブラプター、シエルカーン、デモンズヘッド、エールダガーL、エールウインダム、エールストライクE、ブレイズザクウオーリア、ブレイズザクフアントム、グファイグナイトッド、アヘッド、ジnkクスⅢ、レギオノイドγ

砲撃隊

ランチャーダガーL、ランチャーウインダム、ランチャーストライクE、ガナーザクウオーリア、ガナーザクフアントム、ガナーバクウハウンド、ゲルズゲール、ジエノザウラー、ヤクトテュラン、ダークホーン、シザーストーム、レーザーストーム、ダークロプスゼロ、ギヤラクトロン

偵察隊

デイメトロドン、ジエノザウラー、デイマンティス、デイロフオー、ゲーター、ハンマーロック、ディアントラー、デモンズヘッド、シエルカーン、ザクウオーリア、ジnkクスⅢ、ダークロプスゼロ、レギオノイドγ

艦船

ハンニバル級、コンプトン級、レセップス級、ピートリー級、ブリガンテ

第1〜100特殊工作師団

高速隊

ライガーゼロイクス、セイバータイガー、ヘルキャット、ガンタイガー、ジークドールベル、バクウ、バクウハウンド

奇襲攻撃隊

ジェノザウラー、ジェノブレイカーJET、レブラプター、デイマンテイス、グランチャー、ソードダガーL、ソードウィンダム、ザムザザー、ソードストライクE、スラッシュザクウオーリア、スラッシュザクフアントム、グファイグナイテッド、バクウハウンド、ジンクスIII、アヘッド、レギオノイドγ

特務隊

ダークスパイナードーム、キラードーム、グランチャー、ジェノザウラー、デステインガー、ダークロプスゼロ、ギヤラクトロン、ロードゲイル、デアントラー、フライシザース、シエルカーン、デモンズヘッド、デイプロガンズ、ストライクE、105ダガー、ジンクスIII、ジオグーン、ザクウオーリア

艦船

ハンニバル級、コンプトン級、レセップス級、ピートリー級、ブリガンテ

第1〜100補給師団

グスタフ、モルガ、ジェノザウラー、ダガーL、ザクウオーリア

海軍

第1〜65水中艦隊

ドラグーンネスト、ボズゴロフ級、ブリガンテ、シンカー、ウオディック、ヘルディガンナーネオゼネバス仕様、マツカーチス、キラードーム、デイプロガンズ、ステイルアーマー、マリンステインガー、フォビドゥンヴォーテクス、アッシュ、ジオグーン、ゾノ、ダークロプスゼロ

## 第1〜65海洋艦隊

スペングラ級、ベーリング級、ブリガンテ、ジェットウインダム、ジェットダガーL、ザムザザー、アヘッド、ジンクスⅢ、グフイグナイテッド、ガンギヤラド、グレイヴクアマ、ステイルアーマー、ディプロガンズ、ヘルデイガンナーネオゼネバス仕様、マツカーチス、レギオノイドγ

## 第1〜90輸送艦隊

ドラグーンネスト、シンカー、ウオディック、マツカーチス、キラードーム、ディプロガンズ、ヘルデイガンナーネオゼネバス仕様、フォビドウンヴォーテクス、アッシュ、ジオグリーン

## 第1〜100沿岸守備隊

マツカーチス、シンカー、シーパンツアー、ウオディック、フォビドウンヴォーテクス、ディプロガンズ、シュトルヒ、アッシュ、ダガーL、ジオグリーン、ダークロプスゼロ

## 空軍

### 第1〜90航空戦闘隊

ホエールキング、ギアナ級、ブリガンテ、ジェットスローターダガー、エールスローターダガー、ジェットダガーL、エールダガーL、ジェットウインダム、エールウインダム、ジェットストライクE、エールストライクE、ユークリッド、ジンクスⅢ、アヘッド、バビ、グフイグナイテッド、ガンギヤラド、グレイヴクアマ、シュトルヒ、ロードゲイル、ザバット、フライシザース、レギオノイドγ、ギャラクトロン

### 第1〜150宇宙艦隊

アガムムノン級、ネルソン級、ドレイク級、ナスカ級、ローラシアン、バイカル級、ブリガンテ、バーサークテュラン、シュトウルムテュラン、ヤクトテュラン、シュトウルムスパイナー、ガンギヤラド、ジェノザウラー、ジェノブレイカーJETA、フライシザース、シエルカーン、ディプロガンズ、デモンズヘッド、ザバット、ロードゲイル、ザ

バット、ダガーL、スローターダガー、ウインダム、ザムザザー、ザクウォーリア、ザクファントム、グファイグナイテッド、ユークリッド、ジnkクスⅢ、アヘッド、ダークロプスゼロ、ギャラクトロン、レギオノイドγ

#### 憲兵隊

スローターダガー、ダガークウエル、ジnkクスⅢ、ザクウォーリア、アイアンコングPK、ジェノザウラー、ダークホーン、ヘルディガンナーネオゼネバス仕様、ジークドール、ハンマーロック、レギオノイドγ、ダークロプスゼロ

#### オリジナル機体

ダガークウエル

全長：18.02

重量：55.64t

#### 武装

イーゲルシュテルン

ビームサーベル×1

ダガーライフル×1

ビームカービン×1

ハンドクロー×2

対ビームシールド×1

#### 特殊能力

ラミネート装甲

#### 機体説明

ネオゼネバス帝国のMS。前大戦時に使われたストライクダガーを全機回収して改装をし、憲兵隊に全配備した。性能は若干し上がり、主に制圧と護衛を中心とする。全身にラミネート装甲を採用、機体の全身は黒、ジnkクスの使用していたハンドクローを採用し、実弾のみのダガーライフルを装備している。

## 最終話 選ばれた未来

コズミックイラ71年、ヴォルフの率いる鉄竜騎兵団が地球圏を完全制圧し、ネオゼネバス帝国を建国する。生き残ったヘリック共和国、ガイロス帝国、ARUS、人革連、プラント、オーブ首長国の残存部隊は一致団結して地球各地でゲリラ戦による抵抗を続け、また他の者は平行宇宙に移動して亡命し、戦力を立て直したりする。ネオゼネバス帝国は平行宇宙に逃げ込んだ他の者達を追うべく平行宇宙への侵略を開始する。平行宇宙への侵攻を開始したネオゼネバス帝国は、いくつかの宇宙を支配下に置き、全ての平行宇宙をゼネバス人による統制を行い始める。それに対して、平行宇宙の人々はネオゼネバス帝国による支配下に立ち向かうべく、団結する。レプリジン地球に亡命したGGGは、そこでコズミックイラを裏から操る真の黒幕を知るが、真の黒幕の配下のソール11遊星主のバルパレーパのパレッツス粒子で普通の人間等を怠け者状態に陥る中、エボリューターになった凱がジェネシックガオガイガーを目覚めさせ、この危機を打破した。一方、地球では、地球に残った者達が団結してルイーズが残したデータで作り上げたゾイドとガンダム、ゴジユラスギガ、ケルデウム、アリオス、セラヴィーを完成し、反撃に出た。ヘリック共和国、GGG、ARUS、ガイロス帝国、人革連、プラント、オーブ首長国、そして平行宇宙の人々が団結してネオゼネバス帝国に反抗する。そして3年後のコズミックイラ74年では、戦いは最終決戦に向かっていった。

宇宙

ラクス「遂にこの日ですか。」

ヘリック共和国、GGG、ARUS、ガイロス帝国、人革連、プラント、平行宇宙の人々が団結して集まった反勢力をラクスが率いて、ネオゼネバス帝国の軍勢に立ち向かい、反勢力からはストライクフリーダム、インフィニットジャスティス、アカツキシラヌイ、ケルデウムGNHW/R、アリオス、セラヴィー、GNアーチャー、ブルーフ

レームセカンドリバイ、ヴァルヴレイヴ1フルインパクト、ヴァルヴ  
レイヴ4、ヴァルヴレイヴ6、ソルシエウイサリス、ヴィルキス最終  
決戦仕様、クレオパトラ、テオドーラ、レイジア、焰龍號、碧龍號、蒼  
龍號、ジエネシツクガオガイガー、キングジェイダー、ゴルデーター  
グ、超竜神、撃龍神、天竜神、ビックボルフォッグ、マイクサウンダー  
ス13世、蜃気楼、紅蓮聖天八極式、ランスロット・アルビオン、ヴィ  
ンセント可翔、斬月可翔、暁可翔、暁直參可翔、神虎、トリスタンデ  
バイダー、ライガーゼロファルコン、凱龍輝、デイスペウロ、エヴォ  
フライヤー、ガイリユウキRV、ゴジュラスギガ、シユバルツティエ  
レンタオツ、量産型ティエレンタオツ、ムラサメ、M1アストレ  
イ、レオゲーター、デイメトロプテラ、マトリックストラゴン、ウル  
トラマンジードウルティメイトファイナル、ウルトラマンオーブ  
オーブトリニティ、ジャグラー魔人態、ウルトラマンギンガビクト  
リー、ウルトラマンエックスベータスパークアーマー、ウルトラマン  
コスモスエクリプスモード、ウルトラマンダイナフラッシュユタイプ、  
ウルトラマンガイアV2、ウルトラマンアグルV2、ウルトラセブン、  
ウルトラマンレオ、ミラーナイト、グレンファイヤー、ジャンボット、  
ジャンナイン、バレル、ガラム、マグナ、リバイ、デルトルト、グロ  
ウズ、デスレード、ラース、グランザー、アークエンジェル、エター  
ナル、アウローラ、プロレマイオスII、ネオタートルシッポ。ネオゼ  
ネバス帝国からはデステイニー、レジエンド、フォースインパルス、ス  
トライクノワール、ヴェルデバスター、ストライクE I W S P、アル  
ケー、ガデツサ、ガラツゾ、シユトウルムテュラン、バーサークテュ  
ラン、ヤクトテュラン、シユトウルムスパイナー、ガンギヤラド、ジエ  
ノザウラー、ジエノブレイカーJ E T、フライシザース、シエルカー  
ン、デイプロガンズ、デモンズヘッド、キメラドラゴン、ステイルア  
マー、シザーストーム、レーザーストーム、セイスモドラゴン、ザバッ  
ト、ロードゲイル、ザバット、エールダガーL、エールスローターダ  
ガー、ソードダガーL、ランチャーダガーL、エールウインダム、ザ  
ムザザー、ザクウォーリア、ガナーザクウォーリア、スラッシュザク  
ウォーリア、ブレイズザクウォーリア、ブレイズザクファントム、グ

フイグナイテッド、ユークリッド、ジンクスⅢ、アヘッド、ダークロプスゼロ、ギャラクトロン、ギャラクトロンMK2、ギルバリス、巨大化したキリツシャーとステイブとロッドとダニエル、パルパレーパンプラジュナー、ヴァータ、プラヌス、ペチュルオン、ポルタン、ペルクリオ、ピア・ゲテム・ピーク、レギオノイドγ、ミネルバ、アガムノン級、ネルソン級、ドレイク級、ナスカ級、ローラシア級、バイカル級、ホエールキング、ブリガンテ。両軍の最後の戦いが始まった。

ウルトラマンギンガビクトリー（ヒカル&ショウ）「ギンガビクトリーブレイカー!!」

先手を取って出たウルトラマンギンガビクトリーが超高速でダークロプス部隊に突撃して体当たりし、シエパードンセイバーでまとめて斬撃した。

ウルトラマンエックスベータスパークアーマー「ベータスパークアロー!!」

ウルトラマンエックスベータスパークアーマーが手にベータスパークから多数の光状の矢を一斉に発射して、ギャラクトロン部隊に降り注ぎ、ベータスパークソードで斬撃した。シュトルムテュランが推進しながらムラサメを次々と破壊していくが、レオゲーターの体当たりで姿勢を崩してしまい、スマッシュクロウで破壊された。ブルーフレームセカンドリバイがタクティカルアームズⅡを分解して、両腕にソードアームを装備しながら実体刃とビーム刃による2つの刃でアヘッド、ジンクスⅢを次々と破壊していった。ヴァルヴレイヴ1フルインパクトとヴァルヴレイヴ4が一緒に合わせていきながらキメラブロックスゾイド部隊に突撃しながら次々と破壊していき、4機のキメラブロックスゾイドが合体したキメラドラゴンをヴァルヴレイヴ1フルインパクトがジー・エッジで斬撃し、破壊した。

ライル「こいつで決めてやる!!」

ロックオンの双子の弟のライルがケルデイルGNHW/Rで家族の仇であるアリーのアルケーと交戦する。アルケーから放出したGNファンングをGNビットとライフルビットで防ぎながらGNビームピストルⅡ2丁で撃ち落とす。

アリー「舐めた真似を!!」

GNファンングを全て破壊されたアルケーが接近戦で持ちかけながらケルデイルGNHW/Rに襲いかかった。

ミラーナイト「させません!!」

ミラーナイトが鏡を作り出して、ケルデイルGNHW/Rに接近して来たアルケーを攪乱させて、鏡でケルデイルGNHW/Rの姿をいくつかに分身したと思わせ、本物がどこにいるかわからなくなり、アルケーは本物を見つけ出すため、GNバスターソードで切り込んでいったが、本物の姿がなかなか見つからずにいた。

ライル「狙い撃つぜえ!!」

アリー「!!」

18時の方向の遠方から本物のケルデイルGNHW/RがGNスナイパーライフルⅡでアルケーに狙撃し、遠方から狙撃によりアルケーは撃破され、アリーは最後を迎えた。

ハレルヤ「いくぜえ、超兵の本当の實力、見せてやるぜ!!」

ハレルヤのアリオスGNHWとマリーのGNアーチャーが合体し



た姿アーチャーアリオスGNHWが高い機動力を推進しながら機首のGNビームシールドをハサミで次々と敵機を切り裂いていき、リヴァイのガデツサとヒリングのガラツゾに突撃する。

ヒリング「ちよこまかと!!」

両手のGNビームクローで突撃してくるアーチャーアリオスGNHWに斬撃しかかるヒリングのガラツゾ。だが、アーチャーアリオスGNHWの高い機動力によって接近されて、機首のGNビームシールドでハサミのように切り裂かれて、ヒリングは振り返ちに遭い、敗死した。

リヴァイヴ「落ちろ!!」

リヴァイヴのガデツサ、セイスモサウルスとキメラドラゴンが合体したセイスモドラゴンが遠方から来るヘリツク共和国の部隊に向けて、遠距離攻撃を仕掛け、ガデツサのGNメガランチャー、セイスモドラゴンのゼネバス砲が放たれた。その時、前衛に現れた凱龍輝部隊が現れて、ガデツサのGNメガランチャー、セイスモドラゴンのゼネバス砲を吸収し、集光パネルで吸収してエネルギーに変え、口から集光荷電粒子砲を放ち、セイスモドラゴンに直撃し、撃破した。

リヴァイヴ「調子に乗るな!!」

ビーム攻撃を吸収した凱龍輝部隊を近接戦で持ち込んで突きかか  
るリヴァイヴ。

レイヴン「失せろ。」

レイヴンのガイリユウキRVが接近してきたリヴァイヴのガデツサを両手のキラークローで切り裂き、一撃で破壊した。そして1機で

行動するレイヴンのガイリユウキRVは、セイスモドラゴン部隊を相手に挑む。ゼネバス砲を発射していくセイスモドラゴン部隊。だが、ガイリユウキRVの高い機動力とレイヴンの高い操縦技術で全てかわされてしまい、ガイリユウキRVのキラークローでセイスモドラゴン部隊は一瞬で壊滅された。

ウルトラマンオーブ オーブトリニティ(ガイ)「トリニティウム光輪!!」

ウルトラマンオーブ オーブトリニティがオーブスラッシュヤーからトリニティウム光輪を放ち、ギヤラクترون数機、レジオノイドγ数機、ダークロプスゼロ数機をまとめて破壊し、ジャグラー魔人態が蛇心剣を構えたままギヤラクترونMK2の真上に向かって蛇心剣抜刀斬で一刀両断にして破壊した。

シン「見つけたぞ、アスラン!!ザラ!!」

宿敵アスランのインフィニットジャスティスを見つけたシンはデステイニーでルナマリアのフォースインパルスと共に同時に攻めかかってきた。

アスラン「シン。」

シン「俺はネオゼネバス、ヴォルフ様の作り上げる世界の邪魔をさせない!!」

アスラン「ヴォルフは何者かに利用されているんだ、お前達も利用されているんだ。」

シン「何とぼけた事を。」

ルナマリア「ヴォルフ様の邪魔者は消してあげるわ!!」

シン「行くぞ、ルナ!!」

インフィニットジャスティスにシンのデステイニーはアロンダイ

ト、ルナマリアのフォースインパルスはビームサーベルで斬撃する。インフィニットジャスティスはビームサーベルを両手に2本持ちながら二刀流でまず最初にフォースインパルスの手脚を斬撃し、ルナマリアの機体の動きを止め、続いてシンのデステイニーのアロンダイトを破壊した。

シン「こうなったら!!」

アロンダイトを破壊されたデステイニーはヴオワチユールリユミエールを起動してインフィニットジャスティスの周りを駆けながら掌底部のパルマファイオキーナで掴みかかった。

アスラン「!!」

シンのデステイニーの動きを見切ったアスランは膝のグリフォンビームブレードによる蹴りでデステイニーにお見舞いして、ビームサーベルで腕を破壊した。

ムウ「くっ!!」

ゴジユラスギガで戦うムウは、レイのレジエントを相手に戦っていた。レイのレジエントはかつての宿敵クルーゼのプロヴィデンスの後継機で全身から10基のドラグーンを放出してムウのゴジユラスギガにオールレンジ攻撃をした。

レイ(SEEDED)「ムウ!!ラ!!フラガ、お前をここで討つ。ラウが果たせなかった決着を俺が果たす。」

クルーゼが果たせなかったムウとの決着を果たすべく執念を燃やすレイは、ムウを徹底的に追い込んでいった。

ムウ「こいつ!!」

レジェンドのパイロットのレイを亡きクルーゼと同じ感じたムウは、レジェンドの攻撃に対し、ゴジュラスギガの尻尾を振りながらドラグーン10基を破壊し、そのままレジェンドに体当たりした。

レイ（SEED）「はあああああー!!」

ビームサーベルを出してゴジュラスギガに斬りかかった。

ムウ「お前はお前だ!!」

レイに自分はクルーゼでなく自分自身だと言ったムウはゴジュラスギガのハイパープレスマニピュレーターでレジェンドを殴った。戦局は反勢力が圧倒しつつあった。超竜神と撃龍神と天竜神が3機同時に連携して、ピーヴァータ、プラヌス、ペチュルオンを撃破。ビツグボルフォッグとヴィンセント可翔が連携して、ポルタンを撃墜し、さらにマイクサウンダース13世がディスクFを挿入して、ソリタリーウエーブを照射した後、ゴルディオハンマーを持ったガオファイガーの形をしたグラヴィティシヨックウエーブを発射してペルクリオを撃破した。キングジェイダーがピア・ゲテム・ピークにジェイフェニックスを放ち、撃破した。

凱「こいつで終わりだ!!ゴルディオクラッシュャー!!」

ジェネシックガオガイガーはパルパレーパ・プラジュナーを倒すべく、デイビジョンフリートのタケハヤ、ツクヨミ、ヒルメが合体して、ゴルデーマーグが連結し、ジェネシックガオガイガーが装着して、パルパレーパ・プラジュナーに向かって思いっきり大打撃し、パルパレーパ・プラジュナーを完全破壊した。アークエンジェルはミネルバと一騎打ちで死闘を繰り広げながらミネルバに勝利をした。バレル、

ガラム、マグナ、リバイ、デルトルト、グロウズ、デスレード、ラー  
ス、グランザーが巨大化したキリツシャーとステイブとロッドとダ  
ニエルを撃破、さらに前衛に立っていたギルバリス数機も破壊した。  
反勢力を倒すべく皇帝ヴォルフが変身したウルトラマンゼネバスが  
現れ、ウルトラマンとなったヴォルフは、背中のゼネバスウイングを  
展開して高速で駆けつけにかかった。その時、真上から真空波よう  
のがウルトラマンゼネバスに命中した。

ウルトラマンゼロエクシア「待たせたな!!」

ウルトラマンゼロエクシア(刹那)「ヴォルフ、今度こそ決着を着け  
るぞ!!」

ウルトラマンゼネバス(ヴォルフ)「刹那!! F!! セイエイ、ウルトラ  
マンゼロ。今日こそ決着を着けるぞ。」

ウルトラマンゼネバスに攻撃したのは刹那とウルトラマンゼロエ  
クシア。3年前、刹那はあの時ヴォルフを見逃したせいで、コスミツ  
クイラの世界は支配され、自分に責任があると感じた刹那とウルトラ  
マンゼロは、今日ここでヴォルフと最後の決着をする事になった。ウ  
ルトラマンゼロエクシアがゼロエクシアソードを強いながらゼロエ  
クシアスマツシュでウルトラマンゼネバスに斬撃したが、ウルトラマ  
ンゼネバスが左腕のゼネバスシールドで攻撃を防ぎ、全く効いていな  
かった。

ウルトラマンゼロエクシア「効いていないだと?!!」

ウルトラマンゼネバス(ヴォルフ)「このウルトラマンゼネバスの力  
を見せてやる!!」

ネオゼネバス帝国が生み出した巨人ウルトラマンゼネバスの力を  
見せるべくヴォルフがウルトラマンゼロエクシアにグングニルラン  
スで突き、頭部のゼネバススラッガーを投擲して喰らわせ、続いて必  
殺技のゼネバスオーバーシュートでウルトラマンゼロエクシアに放

ち、圧倒し、元のウルトラマンゼロへと戻した。

ウルトラマンゼロ「なんだ、このウルトラマンの力は!!」  
ウルトラマンゼロ（刹那）「こんなに強い奴は初めてだ。」

ウルトラマンゼネバスの圧倒な力を感じた刹那とウルトラマンゼロ。今まで戦って来た敵の中でヴォルフが変身したウルトラマンゼネバスは桁違いの力を持ち、人工生命体でありながらあのウルトラマンベリアルの遺伝子で生み出され、その強さはあのウルトラマンベリアルを上回る強さで、まさに悪夢と言うべきだ。追い詰められる刹那とウルトラマンゼロは成す術はないか。

ウルトラマンゼロ（刹那）「俺はもう誰一人犠牲を出したくない!!」  
ウルトラマンゼロ「この戦いを終わらせるために俺達はここまでやって来たんだ!!」

そのと、2人の思いが共鳴し、ウルトラマンゼロの全身が変化し、新たな姿ウルトラマンダブルゼロへと変わった。

ウルトラマンゼネバス（ヴォルフ）「何?!」

突如、ウルトラマンゼロが変化した事でヴォルフは、自分が優勢に立ったのが、目の前にいる宿敵が突然未知の姿となったのに驚いた。

ウルトラマンダブルゼロ「これが俺と刹那が共鳴した新たな姿か。」  
ウルトラマンダブルゼロ（刹那）「俺とゼロの共鳴した事で新しい力を手に入れた。」

ウルトラマンダブルゼロ「ああ、刹那、今度こそ行くぞ。」  
ウルトラマンダブルゼロ（刹那）「ああ、ウルトラマンダブルゼロ、出る!!」

2人の共鳴によって誕生したウルトラマンダブルゼロへとなり、ウルトラマンゼネバスに再び挑んだ。ウルトラマンダブルゼロは動きを素早く駆けて、必殺技のダブルゼロスマッシュで腕を光状を纏ってウルトラマンゼネバスに強く打ち込んだ。

ウルトラマンゼネバス（ヴォルフ）「ぐうっ!!」

ウルトラマンダブルゼロの出した必殺パンチを受けたウルトラゼネバス。その威力はウルトラマンゼロエクシアの数千倍の力を持ち、ウルトラマンゼネバスと互角に渡り合う事も可能だ。

ウルトラマンゼネバス（ヴォルフ）「互角か、なら貴様をここで消し去ってくれる!!」

激突する2人のウルトラマンは互角の力でぶつかり合い、両者の因縁の対決に終止符を打とうとした。ウルトラマンゼネバスがグングニールランスで連続突きでウルトラマンダブルゼロに攻撃し、ウルトラマンダブルゼロはダブルゼロソード2本構えながら必殺技のダブルゼロクロススラッシュでウルトラマンゼネバスに斬撃した。

ウルトラマンダブルゼロ（刹那）「これが俺とゼロの共鳴した力なのか・・・?!」

ウルトラマンダブルゼロ「ああ、この共鳴した力なら勝てる。」

ウルトラマンダブルゼロ（刹那）「行くぞ、ゼロ。」

ウルトラマンダブルゼロ「俺達に限界はねえ。」

2人の共鳴したウルトラマンダブルゼロでウルトラマンゼネバスを追い詰めていく。

ウルトラマンゼネバス（ヴォルフ）「ならこれで終わらせてやる。ゼネバスライトニングエッジ!!」

決着をつけるべくウルトラマンゼネバスは必殺技のゼネバスライトニングエッジで全エネルギーを展開して背中のゼネバスウイングを広げながら光速でウルトラマンダブルゼロに突撃してグングニルランスによるオールレンジ攻撃をした。

ウルトラマンダブルゼロ「ダブルゼロタイフーンスラッシュ!!」

ダブルゼロソード2本から竜巻を起こして、ウルトラマンゼネバスを飲み込ませて切り刻んだ。

ウルトラマンゼネバス（ヴォルフ）「うわああああー!!」

ウルトラマンダブルゼロの必殺技によって圧倒されたウルトラマンゼネバス。戦いはウルトラマンダブルゼロが優位に立った。

ウルトラマンダブルゼロ「・・・。」

は、  
やられたウルトラマンゼネバスに対してウルトラマンダブルゼロ

ウルトラマンゼネバス（ヴォルフ）「さあやるがいい、敗者の私を殺すがいい。」

ウルトラマンダブルゼロ（刹那）「お前を殺す必要はない。」

ウルトラマンゼネバス（ヴォルフ）「!!」

ウルトラマンダブルゼロ（刹那）「お前だって苦しんできたはずだ。」

ヴォルフ達ゼネバス人の苦しみを理解しつつ、彼にとどめを刺さず手を取り合おうとし、彼と分かり合おうとし、戦いを終わらせる事を望む刹那。だが、その時、遠くから光線のようなのが放たれ、2人を攻撃した。



ウルトラマンダブルゼロ「!!」

ウルトラマンゼネバス（ヴォルフ）「まさかあいつか?!」

ウルトラマンダブルゼロ（刹那）「その声はリボonzか?!」

ウルトラマンリボonz「その通りだよ、刹那ⅡFⅡセイエイ。」

2人の前に現れた、コズミックイラの真の黒幕であるリボonzの真の姿ウルトラマンリボonzが現れた。

ウルトラマンダブルゼロ「お前もウルトラマンだったのか?!」

ウルトラマンリボonz「そうだよ、僕はウルトラマンキングとウルトラマンノアと同じ存在だよ。」

ウルトラマンダブルゼロ「キングの爺さんとノアと一緒にだと?!」

ウルトラマンリボonz「キングの超能力とノアの能力を持っている。ひとつ違うのは僕が正義ではない事だよ。」

ウルトラマンダブルゼロ「お前はじゃあ最初から悪だということか?!」

ウルトラマンリボonz「そうだよ。だからここで消えてもらおう。」

自分はウルトラマンキングとウルトラマンノアと同じ存在でありながら最初から悪のウルトラマンでもある事を明かすウルトラマンリボonzは両手からリボonzグラブティブラストを放ち、ウルトラマンダブルゼロに喰らわせた。

ウルトラマンダブルゼロ「うっ!!」

ウルトラマンダブルゼロ（刹那）「ゼロ、あいつこそこのコズミックイラを支配して来た真の黒幕、全ての元凶……。」

ウルトラマンダブルゼロ「あいつを倒せば本当の平和が訪れるはず

だ!!」

ウルトラマンダブルゼロ（刹那）「これが最後の戦いだ!!」

コズミックイラの世界を支配し出来た真の黒幕、全て元凶であるウルトラマンリボーンズを倒せば真の平和が戻ると確信したウルトラマンダブルゼロは、最後の戦いに挑んだ。ウルトラマンダブルゼロはダブルゼロソード二刀流でウルトラマンリボーンズに斬撃するが、ウルトラマンリボーンズは両腕に装着しているリボーンズアームズからビームソード出刃して、ぶつかり合った。

ウルトラマンリボーンズ「僕の力を味わうがいい。リボーンズフィンビット。」

全身からリボーンズフィンビットを放出して、ウルトラマンダブルゼロに一斉攻撃し、リボーンズアームズから必殺技のリボーンズスパークブレードでビームソードに強力なエネルギー柱状を纏いながら大きな斬撃した。

ウルトラマンダブルゼロ、ウルトラマンダブルゼロ（刹那）「うわあああああー!!」

ウルトラマンリボーンズの繰り出す連続攻撃を喰らうウルトラマンダブルゼロ。

ウルトラマンダブルゼロ「こいつはどうだ、ダブルゼロエメリウムスラッシュ!!」

ウルトラマンダブルゼロは額のランプからダブルゼロエメリウムスラッシュを発射してウルトラマンリボーンズに攻撃したが、効いていなかった。

ウルトラマンダブルゼロ（刹那）「効いていないだ?!」  
ウルトラマンリボーンズ「君達2人では僕を倒す事は無理だよ。ウルトラマンの力を見せてあげるよ。」

自身の力を見せるべく、ウルトラマンリボーンズはリボーンズアームズから必殺技のリボーンズバスターシユートを反勢力に向けて放ち、しかも交戦中の味方であるネオゼネバスの艦隊ごと葬った。

一同「!!」

マリユー「ネオゼネバスの艦隊が……。」

ハーマン「味方ごと葬るとは……。」

敵味方共々葬り去ったウルトラマンリボーンズのその冷酷無比の姿に驚愕した一同。

ウルトラマンリボーンズ「人は所詮愚かな生き物だ。」

ウルトラマンダブルゼロ「リボーンズ、てめえ!!」

ウルトラマンリボーンズ「事実じゃないか。人はどの世界においても所詮は身勝手で傲慢で自分達が中心だ。」

ウルトラマンダブルゼロ（刹那）「リボーンズ、貴様あつ!!」

ウルトラマンリボーンズ「君はまだそんなちっぽけな存在をいつまでも守るつもりかい？」

ウルトラマンダブルゼロ「人を守る、誰かを守る、てめえのような者をぶっ倒して守る事だ!!」

ウルトラマンリボーンズ「君は理想と現実を区別してないようだな。」

ウルトラマンダブルゼロにリボーンズフィンビット10基から必殺技のリボーンズデスストリングで突撃して、彼の周囲にオールレンジ攻撃をした。

ウルトラマンダブルゼロ（刹那）「俺達は諦めない、全宇宙に平和が来るまでは、俺達はまだ諦めないんだ!!」

その時、ウルティメイトブレスレットからウルティメイトイージスの光がウルトラマンゼロと刹那ぬさらなる共鳴を起こし、ウルトラマンダブルゼロに鎧を纏わせ、その共鳴によりウルティメイトイージスが進化を遂げ、鎧の形状も変わり、合体した姿は、左右の肩にバインダー状、胴体にV文字が着いた鎧、両脚にも鎧があり、ウルトラマンダブルゼロライザーへと変わった。

ウルトラマンリボーンズ「何?!」

ウルトラマンダブルゼロライザーへと変わった2人のさらなる共鳴した姿に驚愕したウルトラマンリボーンズは、

ウルトラマンダブルゼロライザー（刹那）「ゼロ、これが俺と2人のさらなる共鳴した姿。」

ウルトラマンダブルゼロライザー「ウルティメイトイージスが俺と刹那をさらに共鳴した姿。ウルティメイトイージスがお前と一緒に戦ってきたのを認めてくれたんだなど。」

ウルトラマンダブルゼロライザー（刹那）「ゼロ、俺達2人がウルトラマンだ。」

ウルトラマンダブルゼロライザー「刹那、行くぞ、リボーンズをぶつ倒して本当の平和を。」

2人さらなる共鳴とウルティメイトイージスの光へなったウルトラマンダブルゼロライザーがウルトラマンリボーンズに挑み、今度こそ最後の対決となった。

ウルトラマンリボーンズ「無駄なあがきを。」

ウルトラマンリボーンズはリボーンズフィンビットをウルトラマ  
ンダブルゼロライザーに向けてオールレンジ攻撃を一斉した。

ウルトラマンダブルゼロライザー「んなの効くかよ!!」

全身に纏ったウルティメイトイージスの鎧によりウルトラマンリ  
ボーンズのリボーンズフィンビットの攻撃は効かず、そのままウルト  
ラマンリボーンズに向かってダブルゼロツインナックルで見舞い  
した。

ウルトラマンリボーンズ「!!」

ウルトラマンダブルゼロライザーの必殺技を受けたウルトラマン  
リボーンズは、今まで相手の攻撃は効かなかったのが、その攻撃によ  
りダメージが効かされてしまい、飛ばされた。

ウルトラマンリボーンズ「僕が効いただど?!」

ウルトラマンダブルゼロライザー(刹那)「ゼロとさらに共鳴した力  
でお前と同等に渡り合える。」

ウルトラマンリボーンズ「共鳴だと笑わせるね。たかが虫けらごと  
きの君がウルトラマンと共鳴して進化した、たわけた事を。」

ウルトラマンダブルゼロライザー(刹那)「人とウルトラマンの無限  
の可能性を知らないお前はただその可能性を否定しているだけだ。」

ウルトラマンリボーンズ「ウルトラマンであるこの僕を侮っては困  
るよ!!」

ウルトラマンダブルゼロライザー「見せてやる、人間とウルトラマ  
ンの可能性を!!」

人間とウルトラマンの可能性を見せるべくウルトラマンダブルゼ  
ロライザーがウルトラマンリボーンズに全身全霊を込めて燃やし、ぶ  
つかつていく。

ウルトラマンリボーンズ「死ぬ。」

リボーンズフィンビットでウルトラマンダブルゼロライザーにオールレンジ攻撃したが、ウルトラマンダブルゼロはダブルゼロブライトサーベル二刀流でリボーンズフィンビットを全て切り払い、さらにダブルゼロカッターで必殺技のダブルゼロスピンザンバーでジャンプしながら身体を回転して全身に光状を纏いながらウルトラマンリボーンズに突撃した。

ウルトラマンリボーンズ「うっ!!」

ウルトラマンダブルゼロライザーに圧倒され押されつつあるウルトラマンリボーンズ。

ウルトラマンダブルゼロライザー「お前の終わりだ、リボーンズ!!」  
ウルトラマンリボーンズ「僕を侮るな!!」

両者は全身発光し光速の駆け巡りながら互角の戦いを繰り広げ、両者ぶつかり合った。

ウルトラマンダブルゼロ、ウルトラマンダブルゼロ(刹那)「はああああああー!!」

ウルトラマンリボーンズ「うおおおおおー!!」

2人のウルトラマンの光速による激突、ウルトラマンダブルゼロライザーはダブルゼロソード2本、ウルトラマンリボーンズはリボーンズアームズで斬撃同士のぶつかり合いをし、次にウルトラマンリボーンズはリボーンズアームズからリボーンズバスターシユートを放ち、ウルトラマンダブルゼロライザーはダブルゼロエメリウム光線を放ち、激突し、ウルトラマンリボーンズは腕を十字で組んで必殺技のり

ボーンズデストロイシユートを放ち、またウルトラマンダブルゼロライザーも腕を交差して必殺技のダブルゼロワイドシヨーツトを放ち、ぶつかり合った。どんどんウルトラマンダブルゼロライザーの光線を推していくウルトラマンリボーンズ。だが、ウルトラマンダブルゼロライザーが全力を出し切って光線を増していきながらウルトラマンリボーンズの光線を押し返しながら光線ごとウルトラマンリボーンズを撃退した。

ウルトラマンリボーンズ「バカな、この僕が圧倒されただど?! あり得ない・・・!!」

ウルトラマンダブルゼロライザー「リボーンズ、お前の野望もここまでだ。」

ウルトラマンダブルゼロライザー(刹那)「裏から世界を操り、あらゆる種族との対立、戦争を引き起こしてきたお前をこの手で倒す!!」

コスミックイラの世界、いろんな世界を裏から操って世界を引き起こして、平和を破壊してきたウルトラマンリボーンズを倒すべくウルトラマンダブルゼロライザーは全身に纏ったウルティメイトイージスの鎧を大剣へと変形し、ウルトラマンダブルゼロが両手に構えながら大剣に巨大な光状を纏いながらウルトラマンリボーンズを一刀両断した。

ウルトラマンリボーンズ「この僕を倒せても争いは消えない・・・!!」

ウルトラマンリボーンズの口から例え自分を倒しても争いは消えない事を告げられた。メサイアを攻撃するキラのストライクフリーダム、グラハムのアカツキシラヌイのドラグーンで同時攻撃を与えた。ウルトラマンジードウルティメイトファイナルがギガファイナルライザーでギルバリス部隊を蹴散らした。そしてキラは1人でメサイアへ突入し、ネオゼネバス帝国の宰相テュランダルと対峙する。

デュランダル「君がこんなところまで来るとは、正直思っていなかったよ。」

キラ「うっ。」

デュランダル「なるほど。だが本当にいいのかな？それで。やめたまえ！やつとここまで来たのに。そんなことをしたら世界はまた元の混迷の闇へと逆戻りだ。私の言っていることは本当だよ？」

キラ「そうなのかもしれません。でも僕達はそうならない道を選ぶことも出来るんだ。それが許される世界なら!!」

デュランダル「ふん。だが誰も選ばない。人は忘れ、そして繰り返す。もう二度とこんなことはしないと、こんな世界にはしないと、一体誰が言えるんだね？」

キラ「うっ。」

デュランダル「誰にも言えやしないさ。無論君にも、皆にも。やはり何も分かりはしないのだからな。」

キラ「でも僕達はそれを知っている!!分かっていけることも、変わっていけることも!!だから明日が欲しいんだ!!どんなに苦しくても、変わらない世界は嫌なんだ!!」

デュランダル「傲慢だね。さすがは最高のコーディネイターだ。」

キラ「傲慢なのは貴方だ!!僕はただの一人の人間だ!!どこもみんなと変わらない!!でもだから貴方を討たなきゃならないんだ!!それを知っているから!!」

デュランダル「だが君が言う世界と私が示す世界、皆が望むのはどちらだろうね？今ここで再び混迷する世界を君はどうする？」

キラ「覚悟はある。僕は戦う。」

明日のために戦う事を覚悟を決めて戦うキラ。その時、突如デュランダルが何者かに撃たれた。

デュランダル「!!」



彼を撃つたのはレイだった。また彼の元へやって来たタリアも彼がレイに撃たれたのを光景した。

レイ「うううっ!!」

キラ「あつ。」

デュランダル「やあ、タリア。撃つたのは君か？」

タリア「いえ、レイよ。」

デュランダル「ああ。」

レイ「ギル、ごめんな……さい……でも彼の明日……。」

デュランダル「そうか。」

レイ「ううう。」

キラ「グラデイス艦長。」

タリア「貴方達は行きなさい。この人の魂は私が連れていく。ラミアス艦長に伝えて。子供がいるの。男の子よ。いつか会ってやってねって。」

キラ「わかりました。」

死にかけるデュランダルの側にいるタリアはキラにマリユーに自分の子に合うように伝え、キラはメサイアを脱出した。

タリア「レイ、貴方もいらつしやい。」

レイ「ううう。」

デュランダル「すまないねえ、タリア。でも……嬉しいよ。」

タリア「しょうのない人ね。でもほんと仕方がないわ。これが運命だったということじゃないの？貴方と私の。」

デュランダル「やめてくれ。」

タリア「貴方も、よく頑張ったわ。だからもういい、もういいのよ。」

レイ「あつ。」

メサイアの爆発と共に最期を共にしたデュランダル、タリア、レイ。

そして戦いは反勢力軍が勝利をし、ネオゼネバス帝国は敗北した。

アンジユ「美月、サキ、サラ、命、ラクス、リーゼロッテ、フィーネ、ユファイ。」

美月「永遠語りを歌いましょう。」

サキ「この歌で世界に真実を届けるわ。」

ラクス「偽りに囚われた人々を解放しましょう。」

アンジユ、美月、サキ、サラ、命、ラクス、リーゼロッテ、フィーネ、ユファイらが偽りの日々に関われた人々を解放するために歌い始めた。その歌の響き声でウルトラマンベリアル、エンブリヲ、レイブラッド星人、101人評議会、リボンズらの支配に気付く人々は立ち上がり、その支配から抗い、そして偽りの日々からの解放し、真実を知った人々が、その世界を新しく築き上げることとなった。戦いが終わり、新たな変革が訪れた。

地球

ロンドン

連邦評議会

ルルーシユ「俺が国の指導者か。」

かつて自分を捨てた国の首相になったルルーシユは、ガイロスを帝国の体制を解体し、貴族制の廃止、連邦制への移行を行い、ガイロスは帝国から連邦へととなり、ルルーシユが築く新しい国体となった。連邦制によって一般人が政治に参加し、徐々に変革を動かしていった。ARUSは軍事、資本制から民主制へ移行し、ブルークコスモスと軍産複合体と財界を一掃し、新たな体制を取り、民の生活を安定させた。人革連では、官僚制の廃止で、国民を中心とした新政権が樹立し、国内全体は豊富政策など打ち出した。戦いに敗れたネオゼネバス帝国は、帝国は解体されたが、国は残り、ネオゼネバス国となり、ヘリツク共和国と同じ体制となり、今まで侵略して来た国々や世界などへの

謝罪を行なった。オーブ首長国もまた国民制への移行をし、他国とのやり取りをしながら平和への活動を行う。アウラの里ではアウラを救出し、今までウルトラマンベリアル、レイブラッド星人、エンブリヲ、101人評議会、リボーンズの支配の影響を受けた世界の再生をすべく取り組んだ。

宇宙

プラント

議長室

ラクス「……………」

プラントへ帰還したラクスは、プラント最高評議会の議長に就任し、彼女は世界の平和を築き上げるためプラントの再建や各国との和平などを行ったり、また旧大戦時に生き残った戦犯の処理など行つた。今光の国が旧大戦時に関わった全ての戦争犯罪者を逮捕し、光の国で裁判を行なった。

宇宙

光の国

裁判所

ウルトラの父「これより旧大戦時の以下の戦争犯罪者の裁判を行う!!」

ユニウス戦役でウルトラマンベリアル、レイブラッド星人、エンブリヲ、101人評議会の息がかかったARUS、ガイロス帝国、人革連、プラントの者達の法廷を開くウルトラ一族。政治家、財界、金融家、学者などの大勢が関与していた事で、戦争や経済などを裏で動かして来た事で、彼らのして来た罪は計り知れなく、ウルトラ一族は彼らを法で裁く事にし、結果下された判決は全員死刑だ。

シルヴィア「……。」

その中で、プラントで関わりのあるアンジュの妹のシルヴィアは、ノーマに対する差別、虐殺をして来た事で、彼女はマナと呼ばれたホムンクルス全員と共に死刑をされようとした。

シルヴィア「嫌だ、死にたくない、助けて!!」

自分が死刑にされる事で、泣きながら叫ぶシルヴィアは、光の国の者達に取り押さえられながら死刑台に向かわされた。

シルヴィア「お姉様、助けて!!私が悪かったです!!あの時、お姉様に仕打ちをした事は悪かったです!!お願いだから助けて!!」

姉のアンジュに助けを求めるシルヴィア。だが、彼女の姿はいなかった。シルヴィアはアンジュがプラントに一時帰還した際に兄ジュリオと共謀してに彼女に罠をはめて死に追い詰めていた。その行動で彼女は姉に見捨てられ、そして死刑をされようとする。

シルヴィア「嫌だあつ!!死にたくない、死にたくない、助けてよ!!」

彼女の首に縄をかけられて、自分の立っている床が開き、そのまま宙ぶらりになりながら彼女は縄で首を締め付けられて窒息死した。

ガイ「……。」

ジャグラ「マナイやホムンクルスは人間と言うものを感じちゃいないな。」

ガイ「ああ。」

ホムンクルスが次々と処刑されていくのをこの場で見届けるガイとジャグラ。そして戦いが終えた刹那達は、ウルトラマンゼロと共に

に宇宙の平和を守るため、彼と共に行動する道を選び、ウルティメイ  
トフォースゼロの一員となり、また彼以外にもキラやアンジュやハル  
トやサキや美月、彼女の子のみなどこう、バン、フィーネ、ジーク、ラ  
イル、アレルヤ、マリィ、スメラギ、ラッシュハンターズらが加わっ  
た。

## 地球

刹那「俺達はこれよりアナザースペースへ向かう。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「アナザースペースで  
第2ベリアルやレイブラッドやエンブリヲや101人評議会のような  
奴らを野放しにしない事やそれら加担して共謀する軍産複合体や  
資本なども戦争や国を操り、民を犠牲にする奴らを倒していく。」

美月「生き残ったロゴスの残党が別次元の宇宙で暗躍してまた同じ  
ことをしているわ。」

刹那「行こう。俺達の戦いを。」

ウルトラマンゼロ(ウルトラゼロアイNEO)「ああ。」

宇宙の平和を守るため彼らの戦いは続く。プロレマイオスⅡがコ  
ズミックイラの世界へ飛び立ち、アナザースペースへと旅立った。

終わり